辻前遺跡

2003年3月

長野県飯田市教育委員会

辻前遺跡

つじまえいせき

2003年3月

長野県飯田市教育委員会

柱穴出土銅鋺

序

飯田市川路地区は飯田市の南部にあり、伊那盆地の最南端に位置しています。諏訪湖に源を発し伊那谷を南下してきた天竜川は、名勝天竜峡の峡谷によって急激に川幅を狭められます。そのため、天竜川はたびたび氾濫を起こし、川路地区はその度に大きな被害を受けてきました。川路地区の歴史は、まさに天竜川との闘いの歴史ともいえます。今でも「三六災」と言い伝えられる昭和36年の被害は特に大きく、当時の川路地区の中心街がほとんど水没し、住民は高台への移住を余儀なくされました。天竜川の治水対策は、幾たびも洪水に見舞われ田畑や財産を失ったり、あるいは生命の危機に見舞われたりした当地域住民にとっては大きな課題でした。今次発掘調査の原因となりました治水対策事業は、被害の大きかった昭和36年の災害で水没した低地に盛土をして、再び洪水の被害を受けることがないよう工事を行ったのです。

一方、川路地区の低地には前方後円墳の正清寺古墳をはじめ、多くの埋蔵文化財の分布が知られています。これら多くの文化財は、先人たちのたゆみない歩みを私たちに伝える様々な証であり、私たちの大切な共有財産です。私たちはこれら文化財をできる限りそのままの姿で後世に伝える責務を負っています。そのため、生活者の安全と文化財保護の狭間で、盛土区域における埋蔵文化財をどのように扱うべきか大きな問題となりました。関係する機関と協議を重ね、県教育委員会・文化庁からの指導を受けて、諸遺跡の発掘調査を実施いたしました。

本報告書に掲載されました辻前遺跡では、調査の結果、今から1,500年前から1,100年前にかけてのムラのあとが見つかり、これまで市内の遺跡ではあまり見つかっていなかった、農耕や祭祀などに関わる木製の遺物がたくさん出土しています。すなわち、これまでよりも鮮明に当時の生活の様子が明らかにされたということができます。そのムラの跡は工事によって地下深くに埋め立てられてしまったわけですが、本書が活用されてはじめて調査結果が市民共有の財産になるといえます。

最後になりましたが、平成９年度より始まりました治水対策事業に先立つ川路地区の埋蔵文化財調査も５年を経過いたしました。その間、文化財保護の本旨をご理解いただき、多大なご協力を賜りました中部電力株式会社・関係機関ならびに地元住民の皆様に深く感謝申し上げます。

平成15年３月

飯田市教育委員会

教育長　冨　田　恭　啓

例　言

1．本書は天竜川治水対策事業（川路地区）に先立って実施された、長野県飯田市川路３区所在の辻前遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．調査は飯田市治水対策部の委託を受け、飯田市教育委員会が直営実施した。

3．本遺跡の呼称について、『川路村誌』（川路村誌編纂委員会　1988）において辻前遺跡として周知されていたが、平成３年度の市教育委員会による詳細分布調査の結果から、留々女遺跡と一連とする判断がなされ、『飯田の遺跡』（飯田市教委　1998a）において留々女遺跡とされてきた。しかし、今次調査結果等から、別遺跡とすることが妥当として、辻前遺跡の名称を復することとした。

4．調査は、平成10・11年度に現地作業、同12～14年度に整理作業及び報告書作成作業を行った。

5．本書の記載順は遺構別を優先した。

6．本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により馬場保之が行った。

7．本書の執筆と編集は馬場が行った。

8．本書に関連した出土遺物および図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館・飯田市上郷考古博物館に保管している。

本文目次

序
例言
目次
第Ⅰ章　経過……1
　第1節　調査に至るまでの経過……1
　第2節　調査の経過……2
第3節　調査組織……2
第Ⅱ章　遺跡の環境……5
　第1節　自然環境……5
　第2節　歴史環境……5
第Ⅲ章　調査の方法……10
　第1節　発掘調査の方法……10
　第2節　整理作業の方法……16
第Ⅳ章　調査結果……29
　第1節　微地形……29
　第2節　基本層序……29
第3節　遺構と遺物……32
　(1)竪穴住居址……32
　(2)竪穴……52
　(3)掘立柱建物址・柱材遺存柱穴……71
　(4)柱列・杭列……90
　(5)土坑・土壙墓……96
　(6)溝址・溝状址および畦畔……101
　(7)集石・石組遺構……103
　(8)井戸……115
　(9)その他……115
　(10)遺構外出土遺物……115
第Ⅴ章　木製品について……134
第Ⅵ章　自然科学的分析調査……139
　第1節　古環境と土地利用について……139
　第2節　放射性炭素年代測定……163
　第3節　昆虫遺体について……164
第Ⅶ章　統括……167
　引用参考文献……174
　報告書抄録……373

挿図目次

挿図1　調査遺跡および周辺遺跡位置図…6
挿図2　調査地点位置図……9
挿図3　基準メッシュ図区画方法1……11
挿図4　基準メッシュ図区画方法2・3…12
挿図5　基準メッシュ図区画方法4・5…13
挿図6　基準メッシュ図区画調査位置……14
挿図7～10　古代土器の器種分類(1)～(4)
……18～21
挿図11　調査区微地形図……28
挿図12　基本層序……30
挿図13　遺構全体図……31
挿図14　SB01・SB07、SB02……33
挿図15　SB04……34
挿図16　SB05……36
挿図17　SB06、SB28……38
挿図18　SB29……39
挿図19　SB32……41
挿図20　SB34、SB44……43

挿図21　ＳＢ03、ＳＢ18……44
挿図22　ＳＢ23、ＳＢ26……46
挿図23　ＳＢ24……48
挿図24　ＳＢ25……49
挿図25　ＳＢ17……51
挿図26　ＳＢ10(1)　全体……53
挿図27　ＳＢ10(2)　上層木製品等出土状況
……55・56
挿図28　ＳＢ10(3)　建築部材等出土状況
……57・58
挿図29　ＳＢ10(4)　農具等主な木製品
出土状況……59・60
挿図30　ＳＢ10(5)　杭検出状況……61・62
挿図31　ＳＢ09、ＳＢ12、ＳＢ16、ＳＢ19
……63
挿図32　ＳＢ20～ＳＢ22、ＳＢ27……65
挿図33　ＳＢ30、ＳＢ31、ＳＢ33、
ＳＢ36、ＳＢ37……67
挿図34　ＳＢ38～ＳＢ40、ＳＢ42、
ＳＢ43、ＳＢ45……70
挿図35　ＳＴ01、ＳＴ02……72
挿図36　ＳＴ03、ＳＴ04……74
挿図37　ＳＴ05～ＳＴ07……75
挿図38　ＳＴ08～ＳＴ11……77
挿図39　ＳＴ12、ＳＴ13……78
挿図40　ＳＴ14、ＳＴ15……80
挿図41　ＳＴ16、ＳＴ17……81
挿図42　ＳＴ18、ＳＴ19……83
挿図43　ＳＴ20、ＳＴ21……84
挿図44　ＳＴ22、ＳＴ23……85
挿図45　ＳＴ24、ＳＴ25……87
挿図46　ＳＴ26、ＳＴ27……88
挿図47　ＳＴ28、ＳＴ29……89
挿図48～51　柱材遺存柱穴図(1)～(4)…91～94
挿図52　ＳＡ01・ＳＡ04～ＳＡ06、ＳＡ09
……95
挿図53　ＳＡ07……96
挿図54　ＳＫ01～ＳＫ08……97
挿図55　ＳＫ09～ＳＫ17……98
挿図56　ＳＫ18～ＳＫ24……99
挿図57　ＳＫ25～ＳＫ28、貯蔵穴……100
挿図58　ＳＩ01・ＳＩ02……103
挿図59　ＳＩ03～ＳＩ07……104
挿図60　ＳＤ01・ＳＤ02、ＳＤ08～
ＳＤ12Ａ・Ｂ……105
挿図61　ＳＤ13～ＳＤ16、
ＳＤ18～ＳＤ20……106
挿図62　ＳＸ04、ＳＸ05、ＳＸ07……107
挿図63　ＳＤ12～ＳＤ14・ＳＸ04・
ＳＸ07関連図……108
挿図64　ＳＤ21～ＳＤ24、
ＳＤ26～ＳＤ29、ＳＤ32……109
挿図65　ＳＤ30、ＳＤ31、ＳＤ34……110
挿図66　ＳＤ33、ＳＤ35～ＳＤ41……111
挿図67　ＳＤ42～ＳＤ45、ＳＤ47～
ＳＤ56、ＳＤ62……112
挿図68　ＳＤ57～ＳＤ61、ＳＤ64、
ＳＤ65・ＳＡ03……113
挿図69　ＳＤ03～ＳＤ05・ＳＸ01・ＳＸ02、
ＳＤ06・ＳＤ07・ＳＸ03……114
挿図70　ＳＸ06……116
挿図71～86　周辺柱穴平面図(1)～(16)
……117～132
挿図87　遺構外遺物集中遺物等量線図……133
挿図88　基本層序Ｄ・Ｅの模式柱状図
および分析層位……139
挿図89　主要珪藻化石群集の層位分布……143
挿図90　主要花粉化石群集の層位分布……145
挿図91　植物珪酸体群集の層位分布と
組織片の産状……145
挿図92　須恵器内部付着物のＩＲスペクトル
……159

図版目次

第１図　ＳＢ01、ＳＢ02、ＳＢ04出土土器…239
第２図　ＳＢ04～ＳＢ06、ＳＢ28出土土器…240
第３図　ＳＢ32、ＳＢ34、ＳＢ44、ＳＢ18出土土器……241
第４図　ＳＢ18、ＳＢ23、ＳＢ24出土土器…242
第５図　ＳＢ24、ＳＢ25出土土器……243
第６図　ＳＢ25、ＳＢ17、ＳＢ10出土土器…244
第７図　ＳＢ10出土土器……245
第８図　ＳＢ10、ＳＢ19出土土器……246
第９図　ＳＢ30、ＳＢ33・38、ＳＢ45、ＳＢ43、ＳＴ15、ＳＴ28、ＳＫ08、ＳＫ11、ＳＫ14出土土器……247
第10図　ＳＫ21、ＳＤ10、ＳＤ12、ＳＤ13、ＳＤ15、ＳＸ04、ＳＸ06出土土器…248
第11図　ＳＤ18、ＳＤ30、ＳＤ50、ＳＤ57、ＳＫ25、遺構外出土土器(1)……249
第12～17図　遺構外出土土器(2)～(7)……250～255
第18図　遺構外出土土器(8)、古瓦(1)……256
第19図　古瓦(2)、土製品(1)……257
第20図　ＳＢ02、ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ32、ＳＢ23、ＳＢ24出土石器……258
第21図　ＳＢ24～ＳＢ26、ＳＢ17、ＳＢ10出土石器……259
第22図　ＳＢ10出土石器……260
第23図　ＳＢ10、ＳＢ19～ＳＢ21、ＳＢ30、ＳＢ33、ＳＢ38、ＳＢ40出土石器…261
第24図　ＳＢ42、ＳＤ02、ＳＤ12～ＳＤ14、ＳＤ16出土石器……262
第25図　ＳＸ04、ＳＸ06、ＳＤ18、ＳＤ20、ＳＤ27出土石器……263
第26図　ＳＤ57、ＳＫ14、ＳＫ17、遺構外出土石器(1)……264
第27～34図　遺構外出土石器(2)～(9)……265～272
第35図　土製品(2)、ガラス製品、石製品、遺構外出土石器(10)……273
第36～72図　ＳＢ10出土木製品(1)～(37)……274～310
第73図　ＳＢ21、ＳＫ09、ＳＫ12、ＳＫ18、出土木製品……311
第74図　ＳＫ27、ＳＤ11、ＳＤ12出土木製品……312
第75図　ＳＤ12出土木製品……313
第76図　ＳＤ13出土木製品(1)……314
第77図　ＳＤ13出土木製品(2)……315
第78図　ＳＤ13出土木製品(3)……316
第79図　ＳＤ13出土木製品(4)……317
第80図　ＳＤ13、ＳＸ04、ＳＸ06出土木製品……318
第81図　ＳＤ14出土木製品……319
第82図　ＳＤ15、ＳＤ16出土木製品……320
第83図　ＳＤ18出土木製品……312
第84図　ＳＤ19、ＳＤ20、ＳＤ24出土木製品……322
第85図　ＳＤ30、ＳＤ33、ＳＤ50、ＳＩ01出土木製品……323
第86図　ＳＩ01出土木製品……324
第87図　周辺柱穴および遺構外出土木製品、銅鋺……325

写真図版目次

巻頭写真　柱穴出土銅鋺

図版１　南西側遺構分布状況　中央部遺構の分布状況……328

図版２　北東側遺構分布状況　ＳＢ01……329

図版３　ＳＢ02　ＳＢ04　同カマド……330

図版４　ＳＢ05　同カマド　ＳＢ06……331

図版５　ＳＢ28　ＳＢ32　ＳＢ03……332

図版６　ＳＢ18　ＳＢ23　ＳＢ24……333

図版７　ＳＢ25　ＳＢ26　ＳＢ17……334

図版８　ＳＢ10　同建築部材等出土状況　同断面……335

図版９　ＳＢ10ナスビ形又鍬出土状況　同ヒョウタン杓子出土状況　同曲物出土状況……336

図版10　ＳＢ16　ＳＢ20　ＳＢ21……337

図版11　ＳＢ33　ＳＴ01　柱材遺存柱穴群……338

図版12　柱材遺存状況（ＢＵ18Ｐ1・ＢＶ17Ｐ1・ＢＶ18Ｐ1）……339

図版13　ＳＡ01・ＳＸ01　ＳＡ07　ＳＫ01……340

図版14　ＳＫ12　ＳＫ18材検出状況　同掘り方……341

図版15　ＳＫ21　ＳＫ22　ＳＫ23……342

図版16　ＳＤ12　ＳＤ13　ＳＤ14～16……343

図版17　ＳＸ04　ＳＸ07　ＳＤ22・23……344

図版18　ＳＤ03・04　ＳＤ31材検出状況　ＳＤ40……345

図版19　ＳＩ04　ＳＫ25　ＳＫ27……346

図版20　ＳＸ02・ＳＤ05　ＳＸ03・ＳＫ01　ＳＸ05……347

図版21　重機作業風景　発掘作業風景……348

図版22　発掘作業風景　調査指導風景　現地見学会風景……349

図版23　ＳＢ01　ＳＢ04……350

図版24　ＳＢ34　ＳＢ18……351

図版25　ＳＢ25　ＳＢ10……352

図版26　ＳＢ10　同須恵器内部付着物　遺構外土師器坏……353

図版27　遺構外土師器小型甕　把手付鉢　須恵器坏・蓋……354

図版28　遺構外須恵器高坏・脚付壷　壷・瑯　提瓶……355

図版29　曲柄ナスビ形又鍬　直柄横鍬未成品　直柄泥除　直柄泥除未成品　多又鍬　農具柄……356

図版30　桙　工具柄　網枠……357

図版31　網枠　槽……358

図版32　鳥形　きぬがさ状木製品　舟形祭祀具　武器形祭祀具（槍形）……359

図版33　武器形祭祀具（弓形）　木鏃・琴柱等　斎串・留針等……360

図版34　木製短甲？　杓子等　樺皮建築部材……361

図版35　建築部材　同（垂木）　屋根材…362

図版36　竪杵　田下駄未成品　梯子……363

図版37　部材　下駄　槽……364

図版38　珪藻化石……365

図版39　花粉化石……366

図版40　植物珪酸体……367

図版41～44　木材(2)～(4)……368～371

図版45・46　種実遺体(1)・(2)……372・373

表目次

第１～３表　土器分類表(1)～(3)……22～24
第４表　珪藻分析結果(1)・(2)……141・142
第５表　花粉分析結果……144
第６表　植物珪酸体分析結果……145
第７表　樹種同定結果……147
第８表　種実遺体同定結果(1)～(6)……150～155
第９表　微細遺物同定結果……157
第10表　放射性炭素年代測定結果……164
第11表　検出分類群の一覧……165
第12表　昆虫遺体同定結果……165
第13～33表　土層注記表(1)～(21)……177～197
第34～55表　遺構属性表(1)～(22)……198～219
第56～59表　石器等属性表(1)～(4)……220～223
第60～73表　木製品属性表(1)～(14)……224～237

第Ⅰ章　経　過

第１節　調査に至るまでの経過

飯田市川路地区は伊那盆地の最南端に位置し（挿図１）、下流には天竜川狭窄部天竜峡のある地域である。このため当地域の天竜川氾濫原・低位段丘は、対岸の飯田市龍江地区と共に、昭和36年の水害（通称『三六災』）をはじめ過去幾度となく洪水に見舞われており、その対策が大きな課題となっていた。

そこで当該地では、『三六災』の被害状況を勘案して「天竜川治水対策事業」を行うこととなった。この事業は前述した『三六災』時に浸水した高さまで盛土をするものであるが、事業対象地には多くの埋蔵文化財包蔵地が存在する。そのため、その保護について長野県教育委員会文化課・飯田市治水対策部・飯田市教育委員会の三者によって昭和61年10月16日に最初の保護協議を行い、以後数回に亘る協議を経て、平成４年度に龍江地区において事業地内の遺跡の状況を把握するために試掘調査を行った。

そして平成５年３月９日に行われた保護協議及び同年５月６日の文化庁の指導を受けて、平成５年５月19日付５教文第７－21号による県教育委員会からの回答で、同事業に係わる埋蔵文化財の保護について下記の保護措置が提示された。

・原則として試掘調査により把握された遺跡確認面及び遺物包含層から2mを越える盛土の範囲は発掘調査を行い、記録保存を計る。

・２m以下の盛土の範囲についてはトレンチによる確認調査を実施し、遺跡の状況を把握し地下遺構の保存を講ずると共に、その判断された内容を記録保存し、後世に伝える。

これらの回答に基づき、まず天竜川左岸の龍江地区から発掘調査及び試掘調査が行われることになった。平成５年12月15日から平成６年４月21日まで龍江城遺跡、平成６年１月21日から同年２月26日まで龍江阿高遺跡、平成６年２月９日から平成７年７月19日まで田中下遺跡、平成６年10月25日から平成７年９月11日まで細新遺跡と、龍江地区内の発掘調査が実施された。

平成７年度から竜丘・川路地区の調査に着手した。７年度から８年度に亘って金山下水田址・久保田遺跡・留々女遺跡・殿村遺跡・富岡水田址の各遺跡について試掘調査を実施し、遺跡の状況把握を行った。その後、平成９年６月９日～11月30日に井戸下遺跡（富岡水田址）、９年12月11日～12年２月28日に久保田遺跡・正清寺古墳・餤魔王塚古墳の、９年10月１日～10年10月26日に月の木遺跡・月の木古墳群の本発掘調査を実施した。

留々女遺跡では、平成10年６月15～30日に実施した試掘調査の結果、調査対象範囲が把握された。当初、治水対策部と協議する過程で『飯田の遺跡』に基づき相沢川と留々女沢川の間すべてを留々女遺跡として取り扱ってきたが、試掘調査や微地形を検討した結果、相沢川右岸側とＪＲ川路駅西側とは間に湿地帯を挟んでおり、別遺跡と判断された。そこで、上流の相沢川右岸側を辻前遺跡、下流のＪＲ川路駅西側を留々女遺跡として調査することとなり、諸協議・協定締結等については従前通り一括して留々女遺跡という名称で行うこととした。治水対策事業本体の工程との調整を経て、本発掘調査に着手した。

第２節　調査の経過

平成10年度の本調査は、調査対象地のうち、南側部分と相沢川右岸縁について行った。11月５日、重機を入れて表土剥ぎを行い、続いて11月16日より作業員による作業を開始した。遺構検出作業に続いて、確認された遺構から順次掘り下げを行った。写真撮影・実測に引き続き、カマド等の断ち割り・精査を行った。調査中に久保田遺跡の調査を先行する必要が生じたため、平成11年２月12日現地での作業を一旦中断した。

平成11年度は、４月20日、調査を再開した。まず、中央部分に重機を入れて表土剥ぎを行い、続いて５月10日より作業員を入れて遺構検出作業に取りかかった。木製品が多量に出土したＳＢ10を中心に、確認された遺構から順次掘り下げた。写真撮影・実測に引き続き、８月６日より北側部分の重機表土剥ぎにかかった。９月１日より作業員による作業を再開し、順次遺構検出作業・掘り下げ・精査し、個々の遺構について写真撮影・実測・カマドの断ち割り等を行なった。現地での作業は12月10日終了した。

なお、基準点設置、遺構測量調査の一部、景観写真撮影を株式会社ジャステックに委託実施した。また、平成11年６月１日には、木製品の取り扱いや位置づけ・建築部材等について財団法人長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センター調査研究員 臼居直之・贄田　明・伊藤友久各氏の調査指導を受けた。さらに、６月26日には、現地見学会を開催し、地区の文化財に対する学習と理解の場を提供した。

その後、飯田市考古資料館において、現地で記録された図面・写真類の基礎的な整理作業を行った。

平成12～14年度は、出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業、遺物の実測・拓本とり、遺構図等の作成・トレース作業、写真類の整理、版組み等整理作業を行い、報告書作成作業にあたった。

なお、平成12年４月26～28日に奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部専門職員　牛嶋　茂氏に出土木製品の撮影についての指導を受けた。平成12年８月７日には寺岡義治氏に肉眼による木製品の樹種同定をしていただいた。また、平成12年度に自然科学的分析調査を株式会社パリノ・サーヴェイに、平成11～14年度に遺物写真撮影を西大寺フォトに、平成12年度に木製品の保存処理を財団法人長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センターに委託実施した。

第３節　調査組織

(1)調査団

調査主体者　　飯田市教育委員会　教育長　小林恭之助（平成３年12月～平成11年12月）
　　冨田恭啓　（平成11年12月～）

調査担当者　　馬場保之・下平博行・坂井勇雄

調　査　員　　佐々木嘉和・吉川　豊・山下誠一・渋谷恵美子・吉川金利・伊藤尚志・福澤好晃
羽生俊郎
西山克己（財団法人長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センターより派遣、平成10年度）
藤原直人（同上、平成11・12年度）

作　業　員　　新井幸子・伊藤孝人・井上恵資・牛山きみゑ・熊崎三代吉・小林定雄・坂下やすゑ
佐々木一平・斯波幸枝・清水三郎・下田芙美子・代田和登・杉山春樹・高橋セキ子
竹村和子・竹村定満・竹本常子・田中　薫・塚原次郎・中野満里子・中野充夫
中村地香子・西野武司・西野やすみ・服部光男・林　員子・久田きぬゑ・久田　誠
松下成司・松下博子・三浦照夫
新井ゆり子・池田幸子・伊東裕子・金井照子・唐沢古千代・木下早苗・木下玲子
小池千津子・小平まなみ・小林千枝・斎藤徳子・佐々木真奈美・佐藤知代子
関島真由美・高木純子・橘　千賀子・筒井千恵子・中沢温子・中田　恵・中平けい子
林　勢紀子・林　ひとみ・原　昭子・樋本宣子・平栗陽子・福沢育子・牧内喜久子
牧内八代・松下博子・松本恭子・三浦厚子・宮内真理子・森藤美知子・森山律子
吉川悦子・吉川紀美子

(2)指導

奈良国立文化財研究所　長野県教育委員会
財団法人長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センター
牛嶋　茂（奈良国立文化財研究所）、臼居直之・贄田 明・伊藤友久・宮島義和（以上財団法人長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センター）、上原真人（京都大学）、山田昌久（東京都立大学）、鈴木 元（大垣市教育委員会）、小野木 学（財団法人 岐阜県文化財保護センター）

(3)事務局

飯田市教育委員会
関口和雄　（教育次長、～平成12年３月）
久保田裕久（同上、平成12年４月～）

１）平成10年度…博物館課埋蔵文化財係・庶務係
小畑伊之助（博物館課長）、小林正春（博物館課埋蔵文化財係長）、吉川　豊・山下誠一・馬場保之・吉川金利・福澤好晃・伊藤尚志・下平博行（以上博物館課埋蔵文化財係）、麦島博晴・牧内　功（以上庶務係）

２）平成11年度…博物館課埋蔵文化財係・庶務係
小畑伊之助（博物館課長）、小林正春（博物館課埋蔵文化財係長）、馬場保之・渋谷恵美子・吉川金利・福澤好晃・伊藤尚志・下平博行・坂井勇雄（以上博物館課埋蔵文化財係）、麦島博晴・牧内　功（以上庶務係）

３）平成12年度…博物館課埋蔵文化財係・庶務係
米山照実（博物館課長）、小林正春（博物館課埋蔵文化財係長）、馬場保之・渋谷恵美子・吉川金利・福澤好晃・伊藤尚志・下平博行・坂井勇雄（以上博物館課埋蔵文化財係）、今村　進・松山登代子（以上

庶務係）

4）平成13年度…生涯学習課文化財保護係、学校教育課総務係

中島　修（生涯学習課長）、小林正春（生涯学習課文化財保護係長）、馬場保之・渋谷恵美子・吉川金利・伊藤尚志・下平博行・坂井勇雄・羽生俊郎（以上生涯学習課文化財保護係）、鈴木邦幸（学校教育課長）、高田　清（学校教育課総務係長）、宮田和久・福沢恵子（以上学校教育課総務係）

5）平成14年度…生涯学習課文化財保護係、学校教育課総務係

中島　修（生涯学習課長）、小林正春　（生涯学習課文化財保護係長）、馬場保之・渋谷恵美子・吉川金利・伊藤尚志・坂井勇雄・羽生俊郎（以上生涯学習課文化財保護係）、伊藤昌治（学校教育課長）、高田清（学校教育課総務係長）、宮田和久（学校教育課総務係）

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節 自然環境

飯田市川路地区は飯田市街地から南東へ約４㎞、天竜川の右岸に位置する。西と南は標高450～550mの低い丘陵に囲まれ、天竜峡の渓谷に阻まれて形成された天竜川の氾濫堆積による平坦面が大半を占める。かつては県道上川路大畑線から天竜川にかけて緩やかに傾斜をしており、広大な桑園地帯をなしていたといわれるが、現在は昭和36年の水害をはじめ幾たびか水害を受け、その旧情を留めていない。

伊那谷の基本的な地形は、天竜川の流れに沿ったほぼ南北方向への断層段丘地形を特徴としている。伊那盆地ができはじめたのは250万年位前からで、天竜川が流れ始めたのもこの頃からといわれる。この頃から60万年前までに南アルプスが隆起をはじめ、竜東側に巨大扇状地ができ、60万年前頃から中央アルプスが隆起をはじめ、伊那谷全体が巨大扇状地で埋め尽くされた。そして、10万年前頃から断層運動が活発となり、中央アルプスの上昇とともに盆地全体も上昇し、断層がたくさんできた。また、山地の上昇と気候の温暖化により、天竜川やその支流により段丘および扇状地の開析が進行した。伊那谷の生い立ちを知る上で、最も参考になるのが松尾から竜丘地区を貫く「念通寺断層」である。

川路地区は天竜川の浸食及び活断層に起因して上・中・下３段の段丘に大別される。下段は天竜川氾濫原から僅かに高まった部分、中段は現在国道151号が通過している標高400m前後の狭い段丘面である。丘陵地ともいえる上段は中段より30m前後の比高差をもっている。地質学的には、上段は中位ないし高位段丘、中段は低位段丘Ⅰ、下段は低位段丘Ⅱに概ね対比される。さらに、その段丘は北から相沢川・留々女川・南沢川・ねぎや沢川・観音沢川・大畑沢川・初沢川といった天竜川支流の小河川により細かく分断されている。

各小河川は低位段丘に出たところで、それまでの下刻作用から堆積作用に転じ自然堤防を形成しており、小河川右岸の自然堤防下流側には内湾状に低湿地が形成されている。

本遺跡は相沢川右岸の自然堤防上に立地する。

第２節　歴史環境

前節で区分した各段丘面の遺跡は、下段が北から久保田・辻前・留々女・殿村・富岡・梶垣外・井戸下の各遺跡、中段が北から花御所・今洞・御射山原・坊垣外・道上・初ノ免・月の木・大畑の各遺跡、上段が北から琴原・藤治ヶ峯・上平・弥宜屋平・川路大明神原・中原の各遺跡となっている。これまで発掘調査が実施された遺跡は少ないため、治水対策事業にかかる諸遺跡・古墳の発掘調査や、財団法人文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが三遠南信自動車道建設に先立ち発掘調査を実施している川路大明神原遺跡の途中成果を中心に本地区の考古学的成果を概括したい。

飯田市内では、西部山本地区の石子原遺跡・竹佐中原本地区で中期旧石器時代以前に遡ると考えられる石器群が調査されているが、川路地区では、周辺地区と同様、縄文時代より古く遡る遺跡はこれまでに確認されていない。しかし、火山灰が確認される低位段丘Ⅰや中位段丘上では、他地区の上溝遺跡・

1．辻前遺跡　2．久保田遺跡・正清寺遺跡・峡魔王塚遺跡　3．留々女遺跡
4．殿村遺跡・大荒神の塚古墳・殿村１号古墳　5．井戸下遺跡　6．月の木遺跡・月の木古墳
7．花御所遺跡・花御所１号古墳　8．今洞遺跡　9．下辻古墳　10．川路城山城跡　11．川路大明神原遺跡
12．細新遺跡　13．開善寺境内遺跡・開善寺　14．上の坊遺跡　15．安宅遺跡　16．駄科北平遺跡
17．久井遺跡

挿図１　調査遺跡および周辺遺跡位置図

八幡原遺跡・猿小場遺跡（松尾地区）や下の原遺跡（伊賀良地区）等で旧石器時代の遺物が出土しており、地区内にもこの時代の遺跡がある可能性は高い。

縄文時代には殿村遺跡で有舌尖頭器が出土している。隣接地域の上川路地籍で開善寺境内遺跡で断片的ながらも草創期～早期の遺物出土があるし、上の坊遺跡でも尖頭器の先端部分が出土している。低位段丘上まで活動の舞台が広がったことが推察される。さらに前期になると、川路地区の今洞遺跡・月の木遺跡・川路大明神原遺跡で住居址等が調査されており、氾濫原から20m程の高所で集落が営まれるようになる。今洞遺跡・月の木遺跡と同じ段丘面に相当する上の坊遺跡でも土坑群が調査されており、該期集落の立地傾向が指摘できる。ただし、集落の全体像を把握するまでには至っていない。なお、本遺跡では前期後葉の遺物が出土しており、引き続き低地へも進出していたと考えられる。縄文時代中期では中位および低位段丘Ⅰ上が中心になる。川路大明神原遺跡では、中期初頭から後葉にかけての30軒を越す集落が現在調査中であり拠点的な集落が形成されていたと考えられる。初ノ免遺跡・藤塚原遺跡でも縄文時代中期の遺物が表面採集されている。後・晩期には遺跡数も少なく断片的な資料のみとなる。今洞遺跡からは浮線網状文の施された氷Ⅰ式土器が出土している他、本遺跡でも後期前～中葉にかけて断片的に遺物が出土している。全国的に縄文時代後・晩期は低地に進出し、河川を積極的に利用していることから、低位段丘Ⅱ付近に同時期の遺跡が存在する可能性が高い。

弥生時代中期前半には井戸下遺跡で3棟の竪穴住居址が調査されており、疎らな分布状況を示すことから、なお未調査部分に集落の中心が存在すると推定されている。また、殿村遺跡では中期の住居址1棟が調査されている。飯田下伊那地方では、該期の集落は天竜川沿岸の低地部で見つかっており、氾濫原周辺部の微高地に集落が営まれた、稲作農耕受容期の地域的特徴を示している。弥生時代後期には東原遺跡で竪穴住居址1棟が調査されたとされるが、他に集落址の調査例はない。しかし、調査中の川路大明神原遺跡では遺物出土が伝えられているし、上川路地籍開善寺境内遺跡や龍江地区細新遺跡で集落が調査されており、安定した集落の姿が想定される。墓域の調査としては久保田遺跡で後期と考えられる方形周溝墓が3ないし4基調査されている。

古墳時代には地区内に多くの古墳が築造される。正清寺古墳（久保田1号古墳）をはじめ、48基の古墳が確認されている。古墳は花御所地籍・正清寺古墳周辺・月の木地籍に集中しており、古墳群を形成している。その立地は正清寺古墳周辺の古墳を除き、低位段丘面上に位置している。古墳の多くは破壊され、地区内に多くの出土品が伝えられている。川路最大の古墳である正清寺古墳は、全長約60m（墳丘部分）の前方後円墳で、後円部に横穴式石室があり、五鈴鏡・玉類・馬具・武具類が出土したと伝えられている。平成10・11年度の治水対策事業に伴う発掘調査では、二重周溝を有し、周溝部分が一度造り直されていることが判明している。周溝内からは多数の埴輪・須恵器・土師器類が出土し、5世紀末～6世紀と推定されている。餤魔王塚古墳は6世紀中頃から後半にかけて築造された二重周溝を持つと考えられる円墳で、周溝内法径26m、同外法径45mを測る。また、花御所1号古墳からは金銅装の馬具類・玉類等の豊富な出土品が知られている。また下辻古墳は全長8.8mの横穴式石室を有し、馬具類・玉類等の出土品があるし、最低位段丘面にあった殿村1号古墳からは四獣鏡・素文鏡が出土している。

一方、古墳時代の集落についてみると、前期は詳かではない。中期以降になると、本遺跡の他、井戸下遺跡・留々女遺跡・久保田遺跡で大規模な集落が確認されている。このうち井戸下遺跡では古墳時代中期を中心とする30軒の住居址が確認されており、天竜川東側に位置する細新遺跡と集落の消長が同様

の傾向を示していることが指摘されている。今後、他遺跡の報告が行われる中で、天竜川両岸における古墳時代の様相が判明すると期待される。

古代東山道の経路については異論があるが、推定伊那郡衙とされてきた座光寺地区の恒川遺跡で、奈良時代の正倉と考えられる建物址が確認されている。また、松尾地区の久井遺跡でも大規模な掘り方を持つ2棟の掘立柱建物址が調査されており、古代官衙址に関連した何らかの建物の存在が予想されている。安宅遺跡では官衙ないし寺院の可能性をもつ大型の掘立柱建物址・柱列址があり、かつ灰釉陶器碗の転用硯が出土している。また、駄科北平遺跡では、平成元年度に実施した詳細分布調査に際して、平安時代の円面硯が表採されている。本遺跡でも掘立柱建物址の配置や古瓦や銅鋺の出土から、寺院址の存在が推定される。こうした官衙的遺跡・遺物の存在は、川路・竜丘・松尾・座光寺を東山道が通過していたことを強く示唆するといえ、三穂地区から阿智駅への道筋が考えられる。

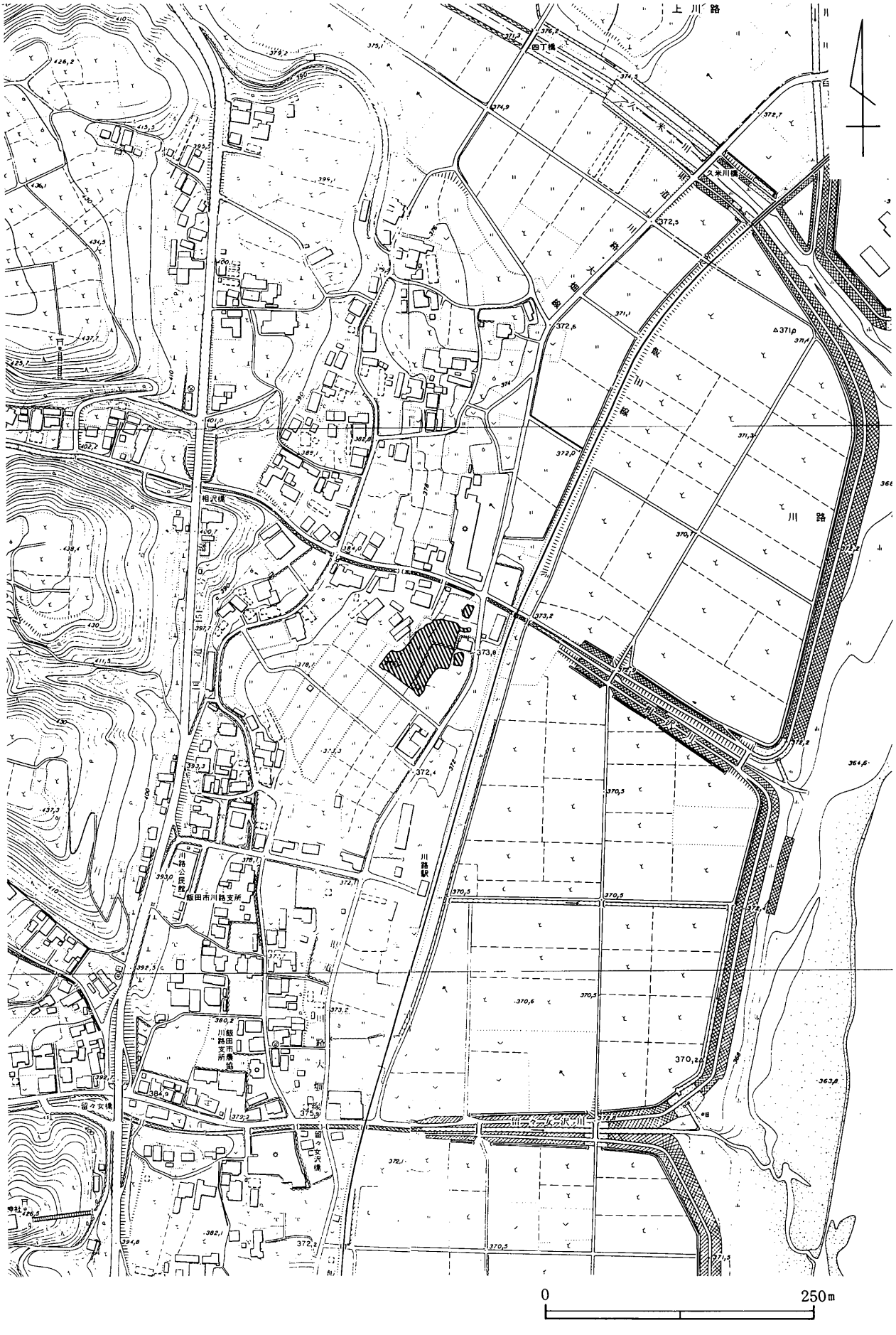
奈良・平安時代の川路地区は断片的な資料のみだったが、久保田遺跡で奈良末～平安時代の竪穴住居址2棟、留々女遺跡でも11棟の平安時代住居址が調査されている。また、井戸下遺跡では奈良～平安時代と推定される水田址・溝址が確認され、低位段丘面一帯に集落と水田が営まれていたと推定される。

川路地区が文献上に現れるのは、貞和2（1346）年の三浦和田文書中の7月19日室町幕府下知状案である。これは、鎌倉時代に伊賀良庄地頭であった江馬（間）氏の氏人江馬尼浄元が庄内の中村・河路両郷を開禅寺（開善寺）寺領として寄進し、それを新給人が了承した旨の記載がある。また、織田氏の信濃攻略により開善寺より持ち出された梵鐘（現高遠町桂泉院に現存）には文和4（1355）年の銘があり、その文中に伊賀良庄上河路郷の記載がある。こうした史料から河路は鎌倉時代には伊賀良庄に含まれ、貞和2～文和4年の間には上河路郷・下河路郷に分かれたと考えられる。また、康永3（1344）年小笠原貞宗譲状の中に伊賀良庄が記載されており、室町時代には小笠原氏が川路地区を領有していたことがわかる。その後、武田氏の伊那侵攻後、天正7（1579）年の上諏訪造営帳に伊賀良庄内の役銭納入状況が記されており、その中にも上河路郷・下河路郷等の記載がみられる。

下河路郷の詳細は不明であるが、井戸下遺跡からは14世紀代から15世紀代にかけての堤防に護られた屋敷跡が確認されており、留々女遺跡でも同時期と考えられる掘立柱建物址群が検出されている。また、久保田遺跡でも正清寺古墳南側周溝付近で該期の遺構・遺物が断片的ながらも把握されている。こうした成果から下河路郷の集落の実態がある程度判明すると思われる。

地区内西側山中の城山にはかつて尾根を利用した山城が確認されている。伝承等も無く、詳細は不明な点が多いが、戦国期の山城と推定されている。また、月の木遺跡では、慶安2（1649）年の検地帳には「じょうばた」・「おもてきど」・「うらきど」・「ほり」等の小字名が残されていたことから「幾島館跡」と伝えられてきた。月の木遺跡発掘調査の結果では、城郭等の痕跡は確認できず、一方で瀬戸産の灰釉四耳壷や火葬墓が存在することから、墓域としての姿が把握されている。

近世には、やはり月の木遺跡で土葬墓群が調査されている。3箇所に集中することから一族の墓地群と考えられ、17世紀前半以降近代まで引き続いて墓域が継続したことが判明している。また、上川路地籍開善寺境内遺跡では18世紀以前の土葬墓が調査されており、墓壙の形態比較より平棺から座棺への転換期の様相が明らかにされている。また、殿村遺跡では、銅・鉄の小鍛冶跡が調査されている。



挿図２　調査地点位置図

第Ⅲ章　調査の方法

第１節　発掘調査の方法

１）調査区の設定（挿図３～５）

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図（以下、基準メッシュ図と略す。）に基づいて、株式会社ジャステックに委託実施した。

基準メッシュ図の区画については、１：5,000大縮尺地形図（国土基本図）の区画に準ずる（社団法人日本測量協会　1969　『国土基本図図式　同適用規定』参照)。

投影は、昭和43年建設省告示第3,059号に示す平面直角座標系による「横メルカトール図法」とする。

まず、基準メッシュ図の１図葉は、座標系（飯田市は第Ⅷ座標系に属するので、座標系番号は省略する。）のＹ軸及びＸ軸を基準として、南北300㎞東西160㎞を含む地域を、30㎞×40㎞の長方形に分割して区画を定め、たとえばＬＣのようにアルファベット大文字の組合せによって区画名を表示する。（挿図３)。

次に、30㎞×40㎞の長方形区画を100等分して、３㎞×４㎞の１：5,000図葉に相当する区画に分割する。１：5,000図はアラビア数字で区画番号を定め、座標系の区画を横線に結んだ後に続けて、たとえばＬＣ－83のように表示する（挿図４上)。

さらに、１：5,000図葉を25等分して0.6㎞×0.8㎞の長方形小区画に分割する。区画番号は挿図４下のごとく定め、たとえばＬＣ－83　19のように表示する。

続いて、0.6㎞×0.8㎞の長方形小区画を48分して100m×100mの正方形区画に分割する。区画番号は挿図５上のごとく定め、たとえばＬＣ－83　19－16のように表示する。今次調査では、ＭＣ－04　８－４、同８－５、同８－12、８－13に該当する。

最後に、100m×100mの正方形区画を2,500等分して２ｍ×２ｍの正方形小区画（グリッド）に分割する。区画の名称は、正方形区画の南から北に向かってＡＡ～ＡＹ・ＢＡ～ＢＹ、西から東に向かって00～49とし、たとえばＡＩ15のように表示する（挿図５下)。

以上に則って設定した今次の基準メッシュ図区画調査位置は、挿図６のとおりである。

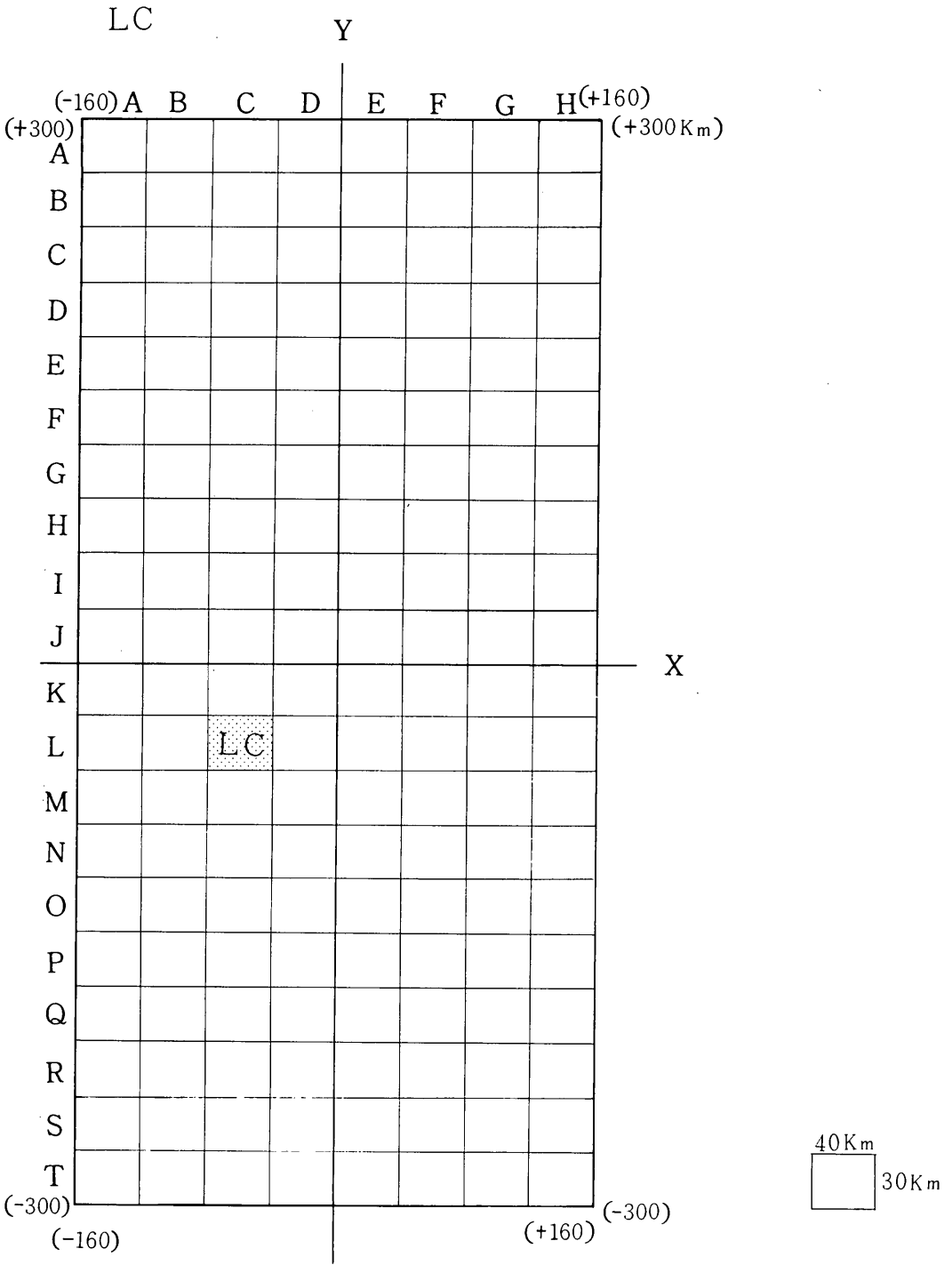
なお、今次調査ではＳＢ10について小区画を１ｍ×１ｍに細分し、極小区画の北西側をａ区、北東側をｂ区、南西側をｃ区、南東側をｄ区とし、例えばＢＳ05ａ区と表記した。

２）遺跡略号、遺構記号と遺構番号

発掘作業・整理作業にあたり、遺跡略号としてＴＪＭを一貫して用いた。

遺構については主として、遺構検出作業時に平面形に基づいて遺構記号および遺構番号を付した。このため、ＳＢ08・ＳＢ13～ＳＢ15・ＳＢ35・ＳＢ41・ＳＤ17は作業を進める中で欠番となっている。また、グリッドの柱穴はグリッド毎の連続番号とし、グリッド名の後にＰ１・Ｐ２…を付した。掘立柱建物址の柱穴については遺構名を変更したが、出土遺物の注記変更は行っていない。

本報告書では以下の遺構略号を使用している。



挿図３　基準メッシュ図区画方法１

LC-83

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	10									19
2	20									29
3	30									39
4	40									49
5	50									59
6	60									69
7	70									79
8	80			83						89
9	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

4Km

3Km

基準メッシュ図区画方法２

LC-83　19

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

0.8Km

0.6Km

基準メッシュ図区画方法３

挿図４　基準メッシュ図区画方法２・３

LC-83　19-16

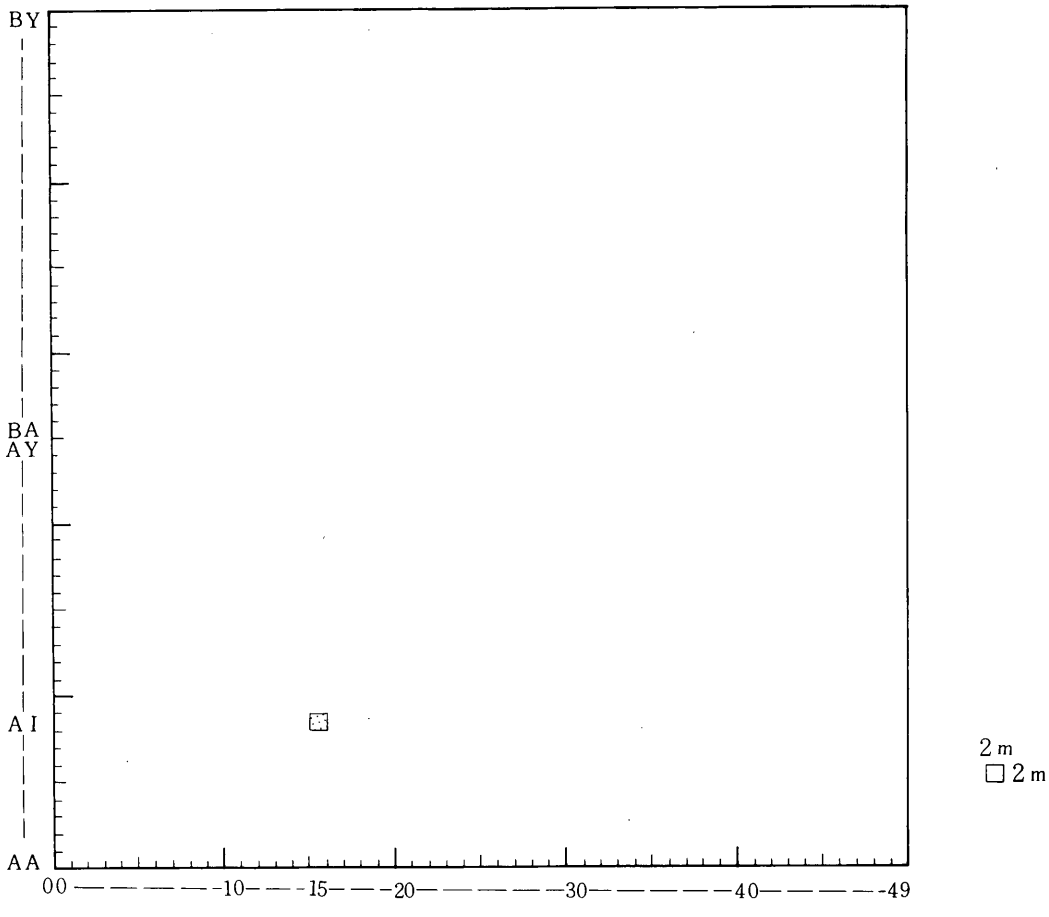
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48

100m

100m

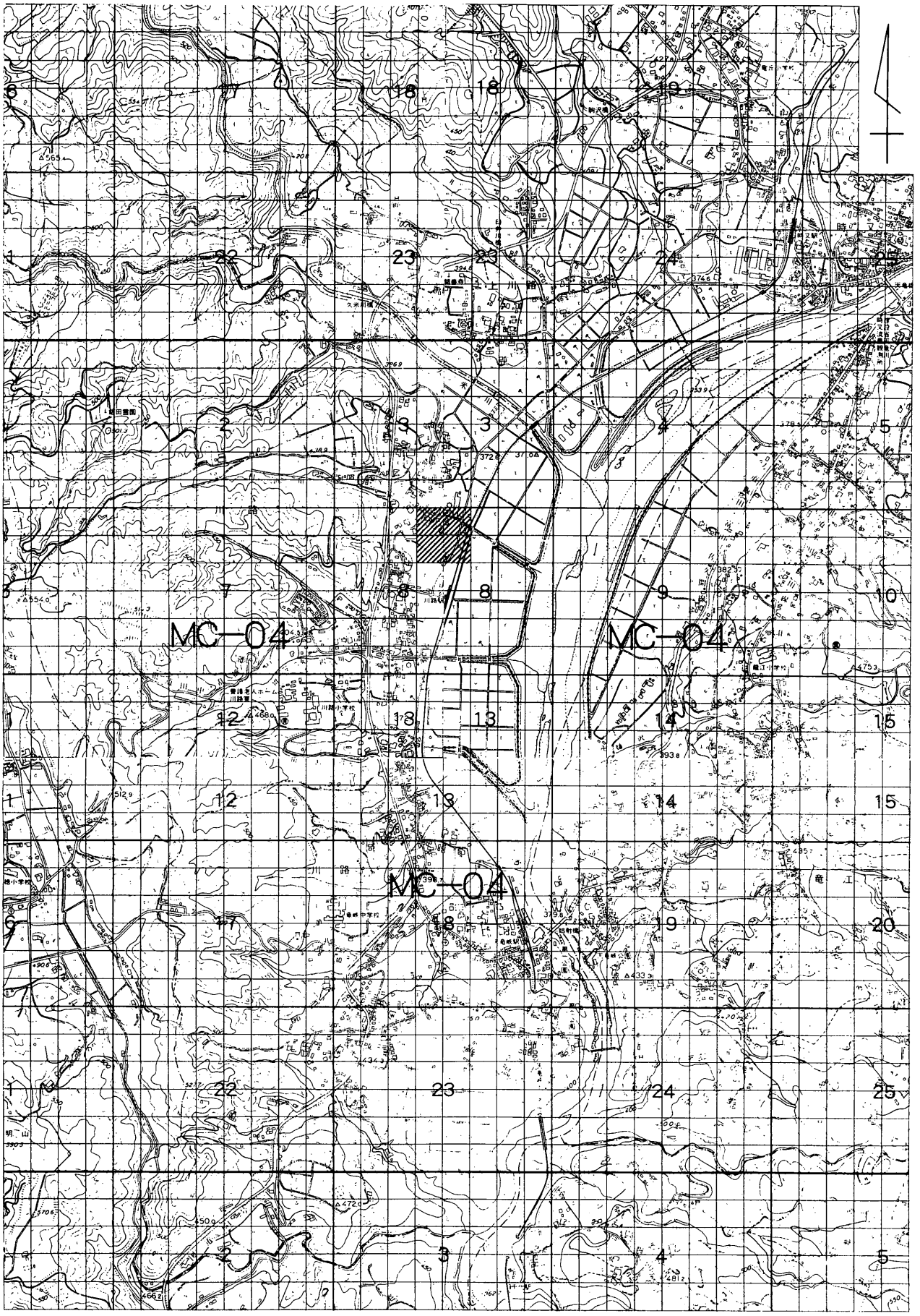
基準メッシュ図区画方法４

LC-83　19-16　AI15



基準メッシュ図区画方法５

挿図５　基準メッシュ図区画方法４・５



挿図６　基準メッシュ図区画調査位置

ＳＡ　－　柱列・杭列

ＳＢ　－　竪穴住居址・竪穴（一辺概ね２ｍを超える遺構）等

ＳＤ　－　溝址・溝状址（溝ないし溝状を呈する落ち込み）、畦畔

ＳＩ　－　集石・石組遺構（礫が密集した状況で検出されたもの）

ＳＫ　－　土坑・土壙墓・井戸（遺構検出時にＳＢ・ＳＤ・ＳＩ等以外の遺構と判断されたもので、概ね60cmを超えるもの）

ＳＴ　－　掘立柱建物址

ＳＸ　－　その他の遺構（水田址を含む）

3）遺構の調査方法

検出された遺構は縮尺１／50で見取り図を作成し、遺構記号・遺構番号、新旧関係等を記入した。その後、以下個別の方法で調査を行った。

①ＳＢ

一方向ないし十文字にベルトを残して掘り下げを行ったが、遺存状態が悪く、土層の注記のみで取り外しを行ったものが多い。遺物については床面付近やカマド周辺の遺存状態の良い遺物は残し、出土位置を記録した。続いて床面を精査・柱穴を検出し、完掘後写真撮影・測量を行った。その後、カマドの断ち割り・精査を行い、床面をはずして掘り方まで掘り下げ、未検出の柱穴の確認等に努めた。なお、ＳＢ08はＳＢ03の掘り方であり、また、ＳＢ35・ＳＢ41は検討した結果欠番とした。ＳＢ13～ＳＢ15は当初埋土の違いからＳＢ10と別に扱ったが、最終的に同一遺構と判断し、欠番とした。このため、ＳＢ13～ＳＢ15を冠した取り上げ遺物がある。

②ＳＴ

平面検出時に組み合うものの把握に努めたが、同規模・類似埋土の柱穴が密集しており、全体形を把握できるものはほとんどなかった。このためグリッドごとの柱穴として把握し、調査区全体を完掘時にその把握を行った。調査区外に大部分が延びると考えられるものも積極的にＳＴとして扱った。なお、万全を期し、整理作業時にも規模・埋土等の検討から建物址等の抽出を行った。

③ＳＫ

半截して断面観察を行い、必要に応じて断面図を作成し、他は極力注記にとどめた。内部に礫が密集するものが含まれており、ＳＩと同じ形態・性格等を有する遺構を峻別していない可能性がある。

④ＳＩ

１／10平面図作成後、半截もしくは十文字に断ち割り、断面図を作成して、完掘した。

⑤ＳＤ

長辺に直交する方向のベルトを残して掘り下げを行い、他の遺構と同様、注記もしくは断面図作成を行った。水田畦畔が土圧により沈み込んだものも平面検出時にはほぼ峻別は困難で、ＳＤを付している。

⑥ＳＸ

１／10平面図作成後、極力半截して断面観察を行い、注記もしくは断面図を作成し、完掘した。

⑦グリッドの柱穴

極力半截して断面観察を行い、注記もしくは断面図作成を行った後完掘した。

4）遺構埋土の注記

遺構埋土・土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づき、マンセル表示で示した。土性区分は調査員が指腹の触感をもって判断し、土壌調査用チャートに則って表記し、粘性・しまりについても同様に触感に拠った。今次調査結果では、掘立柱建物址と把握されたもの以外に、グリッド柱穴としたものの中に掘立柱建物址柱穴と考えられるものも少なくない。このため、本報告書においては遺構埋土・土層の注記表を付した。

5）測量方法

遺構の測量は上記基準メッシュ図区画に基づいて設定されたグリッドを基準に、遣り方測量により10m×6m毎に1／20平面図を作成した。住居址および1／10詳細図を要するものについては、別途平面図を作成した。なお、調査区の微地形については、現地で記録したレベルを用いてマイクロソフト社製Excel97グラフウィザードにより等高線図を作成し、細部の修正を行った。

6）写真撮影

遺構・付属施設の近接写真・遺物の出土状況・作業状況等の写真撮影は調査員が行い、ニコンF3（35mm）を用いてモノクロ・カラーリバーサルならびにカラーで撮影した。景観写真撮影は株式会社ジャステックに委託実施した。ペンタックス6×4.5搭載のラジコンヘリによる撮影で、モノクロ・カラーリバーサルで撮影した。

第2節　整理作業の方法

1）遺構

①遺構分布図、遺構図

遺構分布図は時代判別の困難なものがあり、一括して作成した。なお、SDの一部については重複が著しいため、遺構記号・遺構番号を略した。SIは範囲を破線で表現した。

また、個別の遺構図は本文と併せて挿図とし、その断面注記については土層注記表に一括して付した。

②遺構の記述等

竪穴住居址については主に時代順に掲載し、個別に検出位置・規模・床面積・形態・主軸・重複・調査所見・壁・床面・柱穴・炉址ないしカマド・付属施設・出土遺物・時期等について記述を行った。規模は主軸ないし長軸方向の壁上部差し渡しと、直交方向の壁上部差し渡し、それに壁の一番高い部分から床までの高さを計測した。全長が計測できない場合で、プランが推定されるものについては括弧付で表記した。床面積は壁下端をプラニメーターで計測した。古墳時代中・後期の住居址ではカマドについての情報が乏しいものが多いため、カマドを含めて面積を計測している。規模と同様、プランが推定されるものについては括弧付で表記した。形態については、調査者の主観に基づいて記述した。主軸の項はカマドの中軸線（炉址の場合には炉址を通る住居址の中軸線）を主軸、住居の中心からカマド・炉址に向かう方向を主軸方向として、座標北に対して何°東西に偏するかで表示した。カマド・炉址がない

（あるいは不明な）住居址は長軸をもって主軸に代え、一部しかプランが検出されていない場合には、四辺のうち一辺の方向を参考までに表示した。柱穴の深さは床面からの深さを計測した。竪穴についてもほぼ同様である。

掘立柱建物址の項目も基本的に竪穴住居址と同様であるが、形態・主軸方向・規模・柱間間隔・床面積が異なる。建物址は長辺を桁行、短辺を梁行とし、形態の項では、梁行×桁行を柱間数で4間×3間のように表すとともに、総柱・側柱の別も表記する。主軸方向は桁方向が座標北に対して何°東西に偏するかで表示した。規模は長辺の数値×短辺の数値という形式で表示する。柱間間隔は、柱穴の中心または掘り方の心心間の距離を測り、桁1.8＋1.7＋1.8m×梁2.1＋2.3mのように表記した。なお、桁・梁が明確でなく便宜的に桁方向を決めたものについては（桁）1.8＋1.7＋1.8m×（梁）2.1＋2.3＋_mのように、また間の柱穴が欠けており推定距離を計測した場合には1.8＋(1.7)＋(1.8)＋1.7のように、さらに、対辺の柱間間隔が異なる場合には1.8＋1.7＋1.8／1.8＋1.6＋1.9mと表記した。床面積は長辺の数値に短辺の数値を乗じて計算した。なお、個々の柱穴のデータについては遺構属性表に掲載した。

それ以外の遺構については特記事項のみを記載し、それ以外は土層注記表・遺構属性表に一括した。なお、ＳＫ・グリッドの柱穴等で2段に掘りくぼんでいる場合には深い方の値を括弧に入れて付した。また、周辺柱穴平面図の中に記した数字は、検出面を基準としたそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。

2）遺物の分類・記述

①遺物の出土量

遺物の出土量は整理箱（39.5×24.3×14.4　）換算で1箱以上－多、3／4程度－やや多、1／2程度－少、1／4以下－僅少と表記する。また、遺構外出土遺物の等量線図については、重量を計測しマイクロソフト社製Ｅxcel97グラフウィザードにより等量線図（単位；kg）を作成し、細部の修正を行った。

②土器の分類

出土遺物の記述については、煩雑さをさけるため、古墳時代から平安時代にかけての遺物を下記のとおり分類した。なお、分類にあたっては長野県埋蔵文化財センター刊行の『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－』(1990)、同じく『更埴条里遺跡・屋代遺跡群　古代1編』(1999）および山下誠一他（1999）の分類を基礎として行い、記述も大部分をこれらに拠った。なお、遺物分類作業と分類基準作成作業を並行しながら行ったため、若干分類の精粗がある。

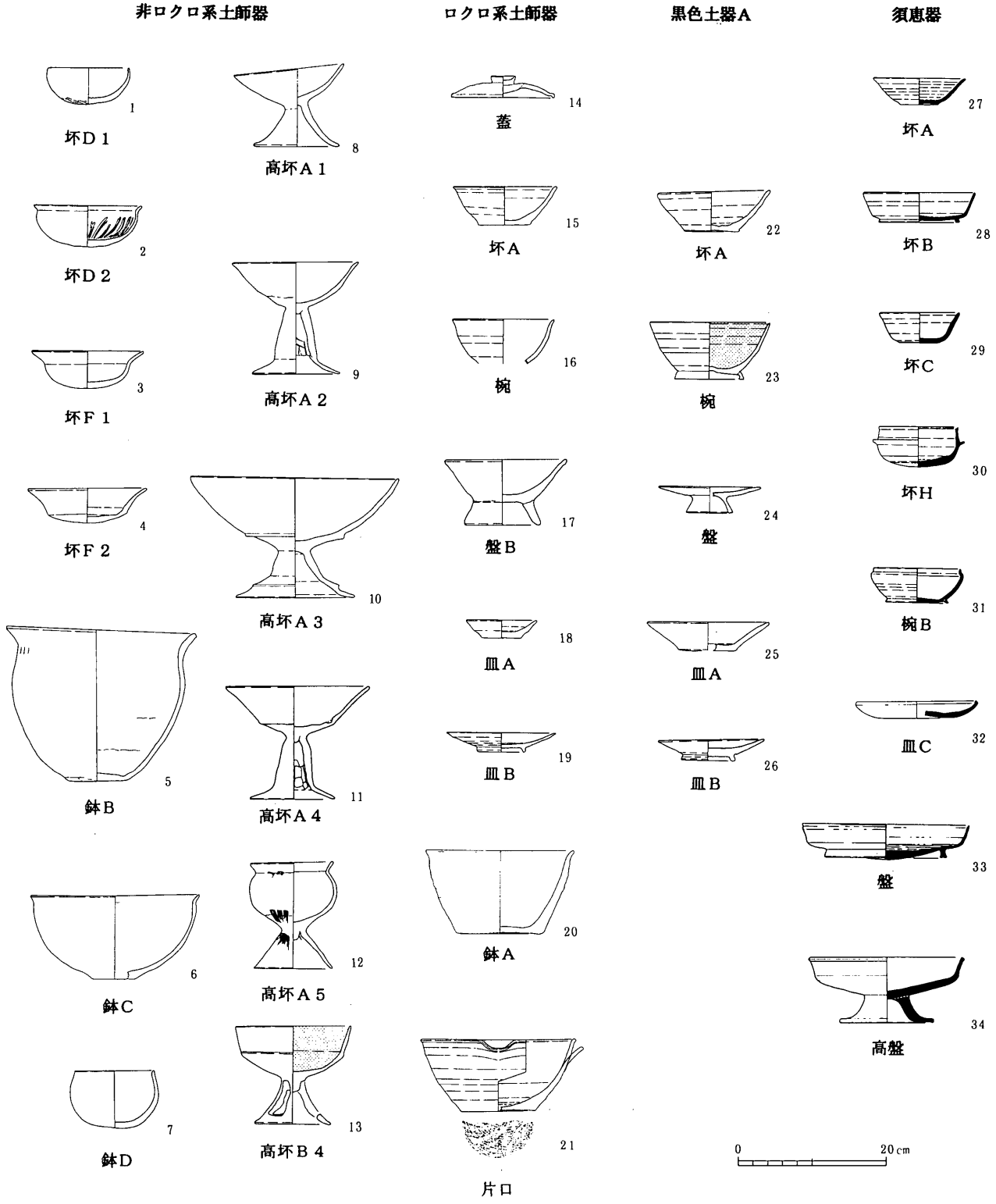
ａ．種類

土師器は、酸化焔焼成の軟質赤焼土器で、非ロクロ調整とロクロ調整があり、後者は内面のみが黒色処理される黒色土器Ａと内外面に黒色処理が施される黒色土器Ｂに区分される。須恵器は還元焔焼成による硬質灰色土器で、中に灰白色を呈し軟質の焼き上がりを示す軟質須恵器がある。また、灰釉陶器は灰釉を施す硬質の陶器である。

ｂ．器種分類

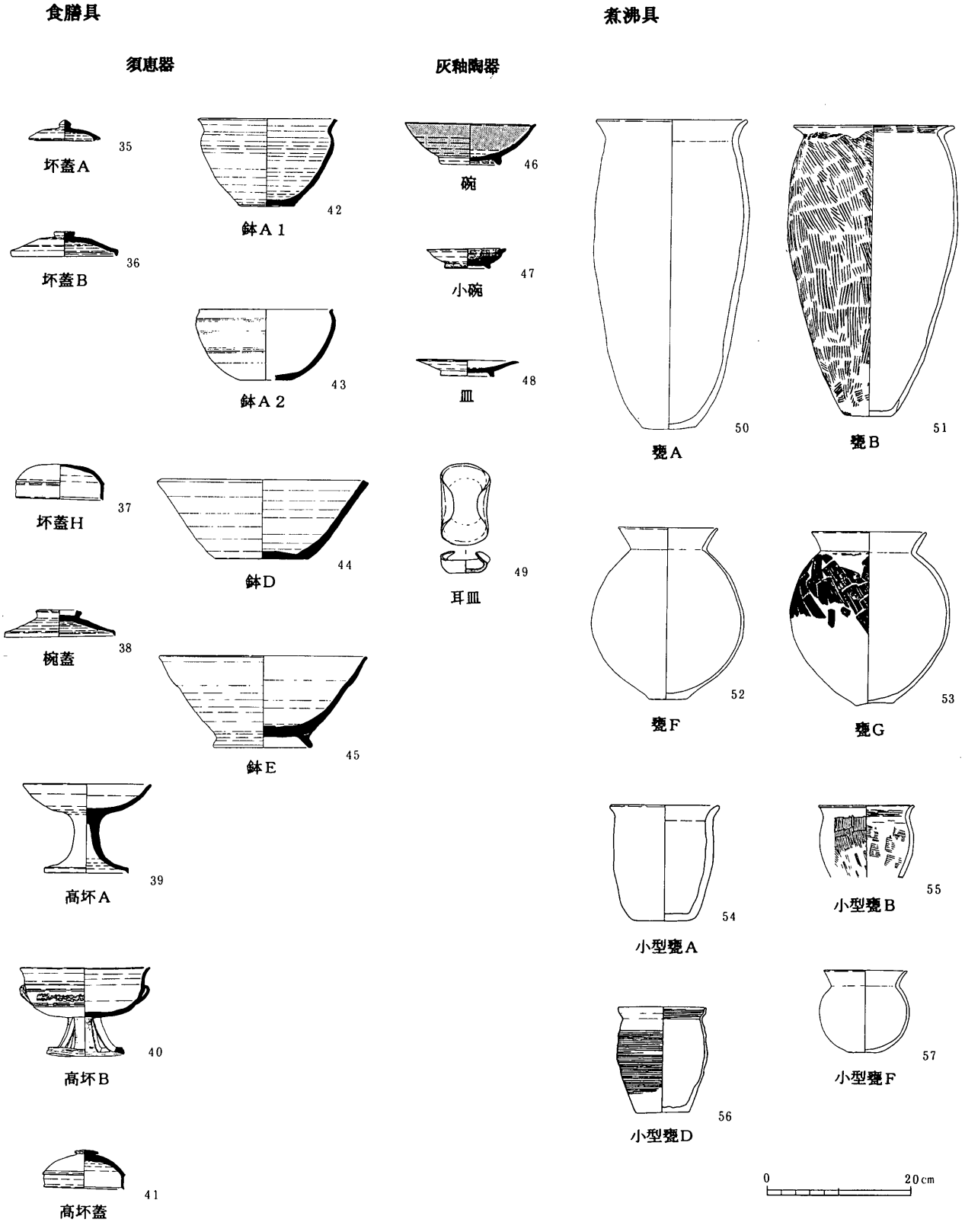
形態と製作技法により挿図7～10・表1～3のとおり分類を行った。なお、小破片のため断定できな

食膳具



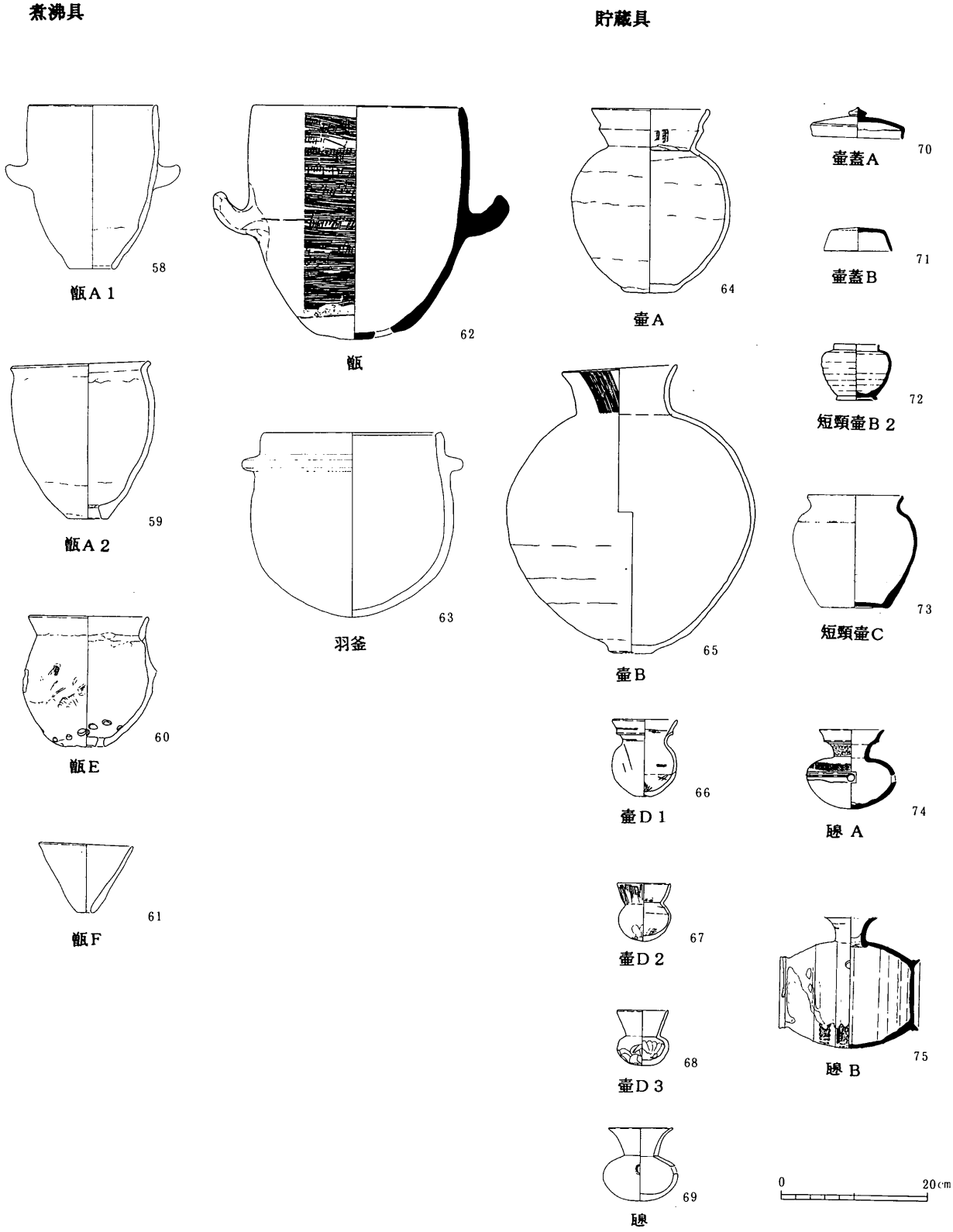
1．細新遺跡ＳＢ02　2．前の原遺跡 26 住　3．恒川遺跡群倉垣外 223 住　4．恒川遺跡群新屋敷遺跡 144 住　5．前の原遺跡 29 住　6．恒川遺跡群田中・倉垣外 138 住　7．前の原 28 住　8．田圃遺跡ＳＭ07　9．細新遺跡ＳＢ60　10．前の原遺跡 28 住　11．細新遺跡ＳＢ33　12．細新遺跡ＳＢ60　13．細新遺跡ＳＢ02　14．日向田遺跡４住　15．恒川遺跡群田中・倉垣外 107 住　16．細新遺跡ＳＢ74　17．田圃遺跡ＳＢ75　18．恒川遺跡群新屋敷遺跡遺構外　19．恒川遺跡群田中．倉垣外ＡＣ61 遺構不明住居址　20．恒川遺跡群田中・倉垣外 107 住　21．恒川遺跡群倉垣外遺構外

挿図７　古代土器の器種分類 (1)



22. 新井原・石行遺跡ＳＢ21　23. 細新遺跡ＳＢ30　24. 恒川遺跡群田中・倉垣外 139 住　25. 恒川遺跡群倉垣外遺構外　26. 恒川遺跡群田中・倉垣外 139 住　27. 前の原遺跡集石 1　28. 恒川遺跡群新屋敷遺跡溝址 37　29. 田圃遺跡ＳＢ59　30. 恒川遺跡群倉垣外 260 住　31. 安宅遺跡溝址８　32. 恒川遺跡群田中・倉垣外 107 住　33. 宮洞３号窯　34. 安宅遺跡溝址８　35. 恒川遺跡群新屋敷遺跡溝址 37　36. 前の原遺跡集石 1　37. 恒川遺跡群田中・倉垣外遺構外　38. 日向田遺跡ＳＢ02　39. 田圃遺跡ＳＢ74　40. 物見塚古墳　41. 細新遺跡ＳＢ02　42. 高野遺跡溝状址　43. 安宅遺跡遺構外

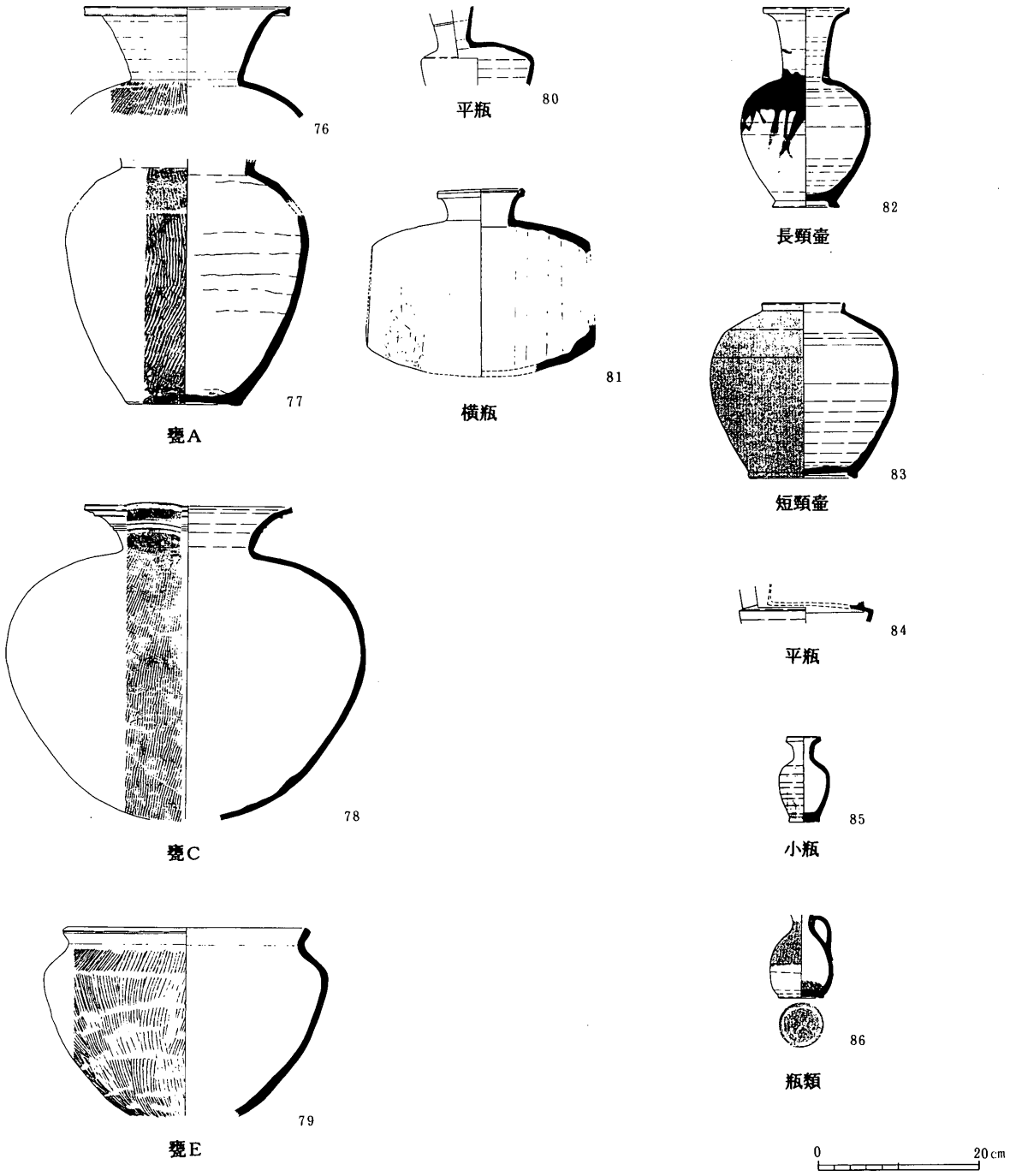
挿図８　古代土器の器種分類 (2)



44. 恒川遺跡群倉垣外遺構外　45. 柳添遺跡溝址4　46. 恒川遺跡群倉垣外216住　47. 田圃遺跡ＳＢ79　48. 安宅遺跡遺構外　49. 清水遺跡34住　50. 恒川遺跡群新屋敷遺跡123住　51. 恒川遺跡群田中・倉垣外143住　52. 清水遺跡59住　53. 清水遺跡59住　54. 田圃遺跡ＳＢ59　55. 清水遺跡44・45住　56. 阿智村杉ノ木平遺跡1住　57. 清水遺跡69住　58. 恒川遺跡群新屋敷遺跡144住　59. 前の原遺跡29住　60. 細新遺跡ＳＢ40　61. 恒川遺跡群倉垣外遺構外　62. 細新遺跡ＳＢ18　63. 恒川遺跡群新屋敷遺跡遺構外　64. 細新遺跡ＳＢ96　65. 細新遺跡ＳＢ41　66. 細新遺跡ＳＢ64

挿図９　古代土器の器種分類(3)

貯蔵具



67. 細新遺跡ＳＢ60　68. 細新遺跡ＳＢ77　69. 細新遺跡ＳＢ04　70. 恒川遺跡群田中・倉垣外110住　71. 恒川遺跡群新屋敷遺跡遺構外　72. 宮洞３号窯　73. 恒川遺跡群田中・倉垣外123住　74. 田圃遺跡ＳＭ06　75. 物見塚古墳　76. 恒川遺跡群田中・倉垣外141住　77. 田圃遺跡ＳＢ75　78. 宮垣外遺跡ＳＭ19　79. 恒川遺跡群田中・倉垣外小竪穴９　80. 高屋遺跡遺構外　81. 恒川遺跡群田中・倉垣外土坑38　82. 安宅遺跡竪穴４　83. 新井原・石行遺跡ＳＫ62　84. 新井原・石行遺跡ＳＫ62　85. 日向田遺跡小柱穴　86. 新井原・石行遺跡ＳＫ54

挿図10　古代土器の器種分類(4)

食膳具

	器種名	器種説明
土師器	坏　A	ロクロ調整の底部回転糸切りの坏で、体部が直線的に開く。
	坏　D	非ロクロ調整の丸底の坏。体部外面から底部にかけて手持ちヘラ削り。口縁部にはヨコナデを施す。内面あるいは内外面に横方向のヘラ磨きを施し、黒色処理されるものがある。1類と2類に分類する。 1類は口縁端部を丸く納める。 2類は口縁端部が内斜もしくは若干外反する。
	坏　E	非ロクロ調整の浅い盤状の坏で、成形の手法は坏Dに共通するが、口径は坏Dに比べて大きい。
	坏　F	非ロクロ調整の坏で体部下半に稜をもち、主に上半が外反する。体部内面をヨコヘラ磨き、外面は稜より下を手持ちヘラケズリ後ヘラ磨き、上をヨコヘラ磨きするのが一般的である。4類に分類する。 1類は体部下半の稜がやや不明確で、上半の立ちが小さいもの。 2類は稜が明瞭となり上半と下半の区別が不明確なもの。 3類は下半が痕跡的となって膨らみを帯びるもので、立ちの高い上半はほぼ直線上に開く。 4類は底部が平底状を呈する。
	坏　G	須恵器模倣の坏。2類に分けられる。 1類は須恵器坏の模倣形態で、胴部と底部の外面境に稜を有する。 2類は須恵器高坏身の模倣形態。口縁部は外方に開き、底部は緩やかに湾曲するものの半球形にならない。
	坏蓋　A	ロクロ調整で、坏Aとセットとなる。
	椀	ロクロ調整の有台の椀。セットとなる蓋がある。
	皿　A	ロクロ調整の扁平な土器で、体部が直線的に開く。
	皿　B	皿Aに高台が付されるもの。
	盤　B	足高高台を有する身の浅い椀型の器。
	高坏　A	非ロクロ調整で碗形の坏部に脚台を付したもの。 1類は屈折脚高坏のうち、坏部は外に開き、胴部と底部の境に稜を持つもの。中空で、若干胴部の張る屈折脚を持つ。 2類は屈折脚高坏のうち、円錐形状の長脚を持つもの。 3類は坏部外面に2カ所の段を持つ。脚は中空の屈折脚で、裾部に1カ所の段を有する。 4類は高坏2類に類似するものの、胴下部に明確な段があり、円錐形の長脚を持つ。 5類は坏部が坏D2類に類似するものの、高坏に用いられるものは法量が大きく、胴下部に稜があり円錐形の長脚を持つ。 6類は口縁外部を若干外反させ、胴部は緩やかに湾曲し、稜線を持たない。高坏専用の坏部として製作され、口径が大きい。円錐形の長脚を持つ。 7類は口径が25cm前後と他の器種に比べて非常に大きい。坏部が直線的に延び、底部との境が明瞭である。柱状長脚もしくは円錐形の長脚を持ち、精製品も存在する。 8類は円錐形の長脚で、裾部に稜を持つ。 9類は坏部に坏D2類を用い、円錐形の短脚を持つ。
	高坏　B	須恵器の模倣形態。4類に細分する。 1類は湾曲した胴部を持ち、中央に稜が付く。 2類は坏部が直線的に延び、胴下部に明瞭な稜が付く。円錐形の短脚を持つ。 3類は坏部が直線的に延び、胴下部に明瞭な稜が付く。柱状の長脚を持つ。 4類は坏部の胴下部に明瞭な稜を持つ。円錐形の長脚を持ち、胴中央に三角透かしが入る。2・3類より大きい。
	鉢　A	ロクロ成形の大型のもの。
	鉢　B	非ロクロ成形。小さめの底部から体部は直線的に開き、頸部で緩く締まって口縁部で外反する大型のもの。形態は須恵器鉢Aと類似する。
	鉢　C	非ロクロ成形の大型のもの。形態は多様である。
	鉢　D	非ロクロ成形。口径に比して器高が高い深めの器で、小型のもの。形態は多様である。
	片口	鉢Aの口縁部の1カ所に注ぎ口が付されたもの。
黒色	坏　A	切り離しは回転糸切りで多くは未調整であるが、糸切りの後底面・底部端面をヘラ削り調整するものもある。

第1表　土器分類表(1)

土器A	椀	内湾気味に立ち上がる体部に、高台を付したものである。土師器の椀同様、体部が直線的にのびるものと、腰が強く張るものがある。小型の小椀もある。
	皿 A	ロクロ調整の扁平な土器で、体部が直線的に開く。
	皿 B	皿Aに高台が付されるもの。
須恵器	坏 A	直線的に開く体部をもつ無高台の坏。底部はヘラ切り未調整、ヘラ切り＋ヘラ削り、静止糸切り、回転糸切りなどの調整がある。坏蓋Aとセットをなすものもある。
	坏 B	
	坏 C	箱形の体部に高台を付した形態で、坏蓋Bとセットをなす。
	坏 H	坏Bの高台がはずれた形態で、底部切り離し後底部全面あるいは周縁をヘラ削りする。
		丸底で蓋受け部分を持ち、受け部から口縁部にかけて立ち上がりを持つ。古墳時代からの伝統的器種である。
	坏蓋 A	坏Aに対応する蓋で、内面に返りが付き、天井部に扁平な宝珠形のつまみを付ける。
	坏蓋 B	坏Bに対応する蓋で、口縁端部を折り曲げる。天井部に扁平なつまみを付ける。
	坏蓋 H	坏Hに対応する蓋で椀形の坏を伏せた形態に近い。
	坏蓋 I	つまみの付かないもの。
	椀 B	金属鋺を模倣したと考えられるもので高台を付す。体部の腰が強く張り、丸味をもって立ち上がり口縁部で外反する。環状のつまみを付す椀蓋と対応する。
	皿 A	扁平で直線的に開く体部を持つ無台の皿。皿Bの高台をはずした形態をもつ。
	皿 B	扁平で直線的に開く体部を持つ有台の皿。灰釉陶器・黒色土器の皿Bに類似する。
	皿 C	浅い体部で、口縁部が短く折り返されたように立ち上がる。
	盤	浅い体部で、口縁部が短く折り返されたように立ち上がる。低い高台が付く。
	高盤	浅い体部で、口縁部が短く折り返されたように立ち上がる。高坏より低く太い脚部が付される。
	高坏 A	浅めの坏部に高い脚台を付けた器。
	器台	一般的な呼称に従う。
	鉢 A	小さめの底部から体部は直線的に開き、頸部で緩く締まって口縁部で外反する鉢形の器。大小の法量がありロクロナデ調整される。2類に細分される。 1類は口縁部の立ち上がりの大きいもの。 2類は立ち上がりが小さいもの。
	鉢 B	丸底または尖り底から体部を開き、口縁部で内湾する鉢。鉄鉢を模倣したと考えられる。
	鉢 D	小さめの底部から体部が直線的に開くもの。
	鉢 E	鉢Dに高台が付されるもの。
灰釉陶器	椀 A	体部がわずかに丸味をもち直線的に開く形態で、梯形あるいは三日月様の高台を付すもの。底部が扁平で体部下半が強く張り出し、体部の立ち上がりが強い形態を取るものがある。
	小椀	小型の椀。
	皿	いわゆる丸皿。
	段皿	一般的な呼称に従う。
	稜皿	一般的な呼称に従う。
	耳皿	有台と無台のものがある。一般的な呼称に従う。

煮沸具

土師器	甕 A	輪積み成形の後、内外面をナデ調整する長胴甕。
	甕 B	器面を刷毛目で調整する長胴甕。
	甕 D	ロクロ調整を行う長胴甕。
	甕 F	球形ないし楕円形の胴部をもつ背の低い甕。器面をヘラ磨きするものが多いが、ナデ調整で仕上げるものもある。 1類は球形胴。 2類は楕円形からラグビーボールに近い形態のもの。
	甕 G	甕Fに共通する球形胴の甕であるが、器面をハケ調整している。
	甕 H	輪積み成形の後、外面をケズリ調整する長胴甕。器壁は厚く、ケズリの方向も縦方向が主体である。
	甕 I	胴部上半があまり膨らまず、頸部が直立する。
	小型甕 A	胎土・調整が甕Aに共通する、器面ナデ調整の小型甕。

第2表　土器分類表(2)

土師器	小型甕　B	胎土・調整が甕Bに共通する、器面ハケ調整の小型甕。
	小型甕　D	ロクロ調整の小型甕で体部にカキ目またはロクロ目を明瞭に残す。底部に糸切り痕を残す。
	小型甕　F	胎土・調整が甕Fに共通する、器面ナデないしミガキ調整の小型甕。
	小型甕　H	輪積み成形の後、外面をケズリ調整する小型甕。
	甑　A	大型甑で体部がバケツ形を呈するもの。 1類は牛角状の把手を有するもの。 2類は把手をもたないもの。
	甑　E	大型甑で体部下半が半球状を呈し、牛角状の把手を有するもの。
	甑　F	中・小型の甑。通常は把手を持たず、単孔のものと多孔のものがある。
	羽釜　A	体部上寄りに鍔状の凸帯を付したもので、厚手。内外面をナデ調整する。平底・丸底の両者がある。体部の調整に叩き技法を用いたものもある。
須恵器	甑　B	厚手大型の甑で、外面叩きが施される。牛角状の把手が付される。

貯蔵具

土師器	壷　A	有段口縁を有する壷。
	壷　B	単純口縁を有する壷。
	壷　C	体部上半に最大径を持ち、肩部の張る逆卵形の壷。
	壷　D	小型の壷。1～3類に区分する。 1類は小型で球胴の精製壷で、古墳時代前期から続く器種をまとめる。口縁部に稜または段を有する形態と口縁部が単純に延びる形態がある。 2類は口縁部が長く直線的に広がり、外面に稜線を有する。体部は小型の球胴形。口径＞体部最大径が特徴である。 3類は中期的な小型丸底壷をまとめる。口縁部は直線的に広がり、体部は小型の球胴形であるが、若干扁平である。
	瑞	須恵器瑞の模倣形態。口縁部は直線的に外反し、体部は球胴で、やや扁平な印象がある。体部最大径に比較して口径が小さい。丁寧に模倣した形態も存在する。
須恵器	長頸壷　B	体部は肩の部分で屈曲し口縁部がラッパ状に開くもの。頸部の接合部分にリング状の凸帯を貼付する。
	短頸壷　B	小型の頸部の立ち上がりが小さい壷。 1類は高台が付かないもの。 2類は高台が付くもの。
	短頸壷　C	頸部の立ち上がりが小さい壷。
	短頸壷　D	頸部の立ち上がりがほとんどないもの。
	壷蓋　A	天井部に宝珠形のつまみを付ける。
	壷蓋　B	天井部につまみが付かないもの。
	甕　A	卵形の体部に外反する口頸部を付するもの。
	甕　C	卵形の体部に強く外反する口頸部を付するもの。
	甕　D	平底の甕で肩部に凸帯を回し、耳状の突起を付するもの。笹沢浩によって「凸帯付四耳壷」と称されたもの。
	甕　E	肩の張った広口の甕で、肩部やや下に把手を付するものもある。
	瑞　A	体部に注口を有する壷で、体部は肩の部分で屈曲し、口縁部がラッパ状に開くもの。
	瑞　B	体部に注口を有する壷で、体部が樽形を呈するもの。
	平瓶	扁平な体部で口縁部を天井の一方の端に付す。
	提瓶	扁平で円形の体部の側面に、短い口頸部と一対の把手を付すもの。一般的な呼称に従う。
	横瓶	横に長い俵形の体部の横腹に短い口頸部を付すもの。一般的呼称に従う。
灰釉陶器	長頸壷	一般的な呼称に従う。
	短頸壷	一般的な呼称に従う。
	平瓶	一般的呼称に従う。
	小瓶	一般的呼称に従う。 肩部に把手を持った小瓶。

第3表　土器分類表(3)

い器種は〔坏〕のように〔〕付で、器種不明のものは不明と表記した。

c．使用の場における大別

食器・煮沸具・貯蔵具に大別する。食器は主に飲食に供するもので、非加熱の調理器具を含める。坏・椀・蓋・皿・盤・高坏・鉢等がある。煮沸具は煮炊きに用いられる加熱容器で、甕・甑・鍋等である。貯蔵具はものを貯蔵する容器で、壷・甕・瓶類である。

d．個体数算定

遺構出土遺物の遺存状況は必ずしも良好でないことから、遺構毎の器種別個体数算定は行っていない。なお、付表に掲載された各遺構の出土遺物については、縄文土器を縄、弥生土器を弥、非ロクロ系土師器を土、黒色土器Aを黒A、黒色土器Bを黒B、須恵器を須、灰釉陶器を灰、陶器を陶、磁器を磁、木製品を木、内面黒色処理を内黒と略記した。

③木製品の分類

木製品類は仮分類して実測・保存処理作業を優先して行い、作業進捗の都合で図版組についてはその仮分類の段階で行っている。仮分類は記述のための分類とは異同があり、このため記述と図版組の間にズレが生じていることを予め断っておきたい。

本書の分類は、奈良国立文化財研究所刊行の『木器集成図録　近畿古代篇』(1985) ならびに『木器集成図録　近畿原始篇』(1993)、三重県埋蔵文化財センター刊行の『六大A遺跡発掘調査報告(木製品編)』(2000) を参考に行った。

3）遺物実測

①土器

口縁部の残存している個体を中心に、サイズの小さい個体については口縁部の1／4以上、大きい個体は1／6以上の残存を目安に実測した。なお、搬入品等特殊な遺物については極力小破片でも図化を試みた。また、縄文・弥生時代の破片資料は可能な限り拓本・断面を掲載した。なお、内面黒色処理された土師器は内面部分に網掛けを、須恵器は断面塗りつぶしを、灰釉陶器は断面網掛けをそれぞれ行っている。

②石器

おおむね1／2以上残存して器種の判るものについて図化を行った。石器実測図の表現は『美女遺跡』(飯田市教委　1998b) に準拠した。なお、節理面は斜線で示した。

③土製品・石製品

可能な限り図化を行った。

④金属製品

鉄製品については細片化し銹落としが困難なため、保存処理中で実測に至っていない。また、銭貨については、銹ついてしまって銭文等の詳細は不明なため、記述するにとどめた。

⑤木製品

穴等のない板材・柱材・残材や切断したのみの枝等を除き極力実測を試みた。なお、保存処理は実測図No.を基に行ったため、対照のために木製品属性表に実測図No.を付した。

4）遺物写真

同一遺構を基本単位として集合写真の撮影を心がけた。西大寺フォトに委託実施し、ジナーＳ４×５を使用し、モノクロとカラーリバーサルで撮影した。

5）自然科学的分析調査

古墳時代前後の古環境に関する情報を得るために珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体・樹種同定・種実遺体同定・昆虫遺体同定を、当時の生活状況に関する情報を得る目的で微細遺物分析を、遺物の素材等について検討するために灰像分析・赤外線分光分析を、遺構や立木等の年代観に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を実施した。分析方法等の詳細については第Ⅵ章に譲る。木製品の樹種同定の第７表中の遺物番号は実測図番号に対応する。また木製品属性表には、同定実施の遺物は○印を付し、他は寺岡義治氏による肉眼鑑定結果を括弧付きで掲載した。

6）出土遺物の保存処理

保存処理を実施した遺物は、木製品属性表に○印を付した。

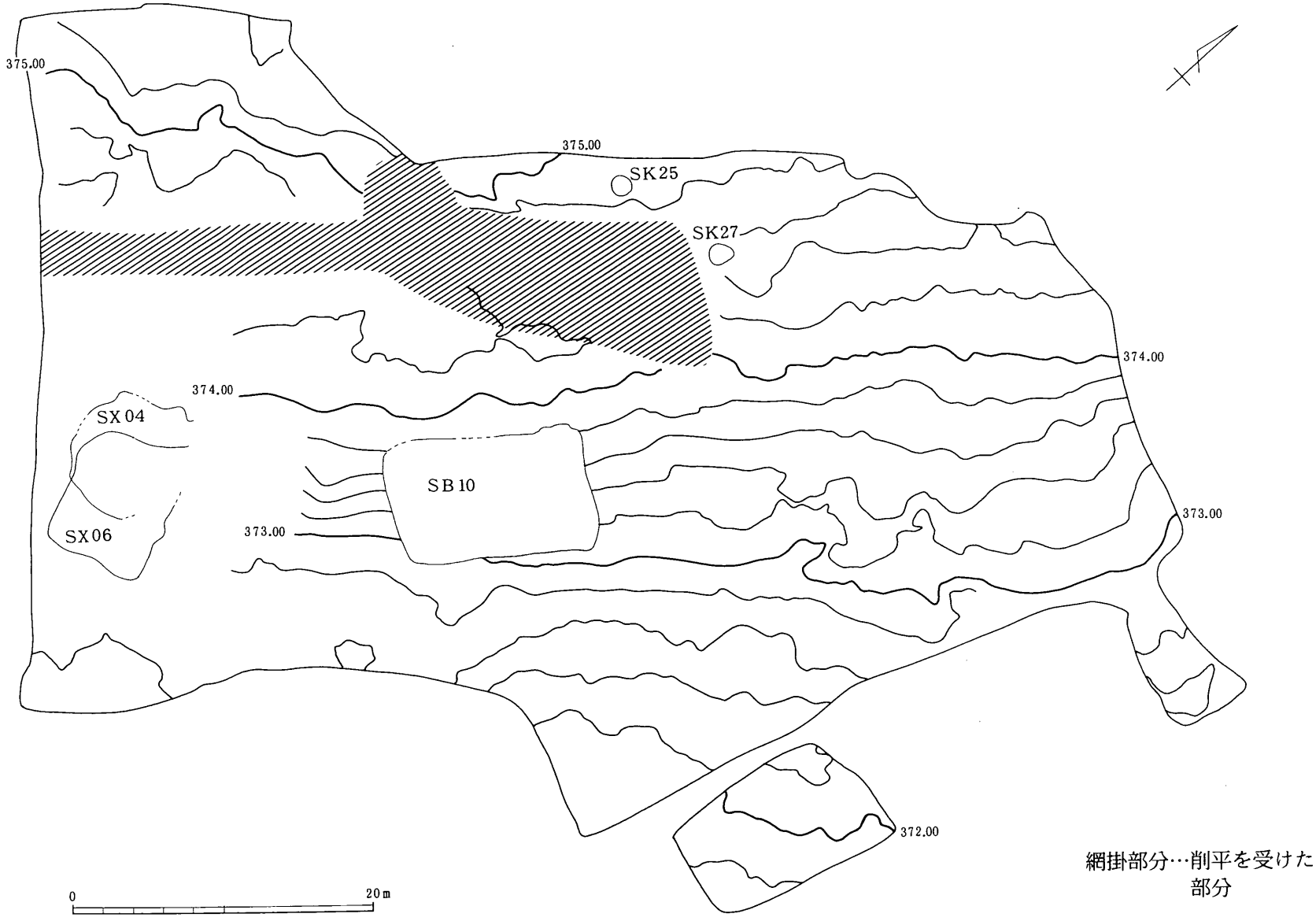
①凍結真空乾燥処理法

ａ．処理前記録…写真撮影・赤外線観察・保存処理カード（情報確認）　→　ｂ．洗浄…加温水道水と筆で付着土砂の除去　→　ｃ．脱色処理（ＥＤＴＡ処理）エチレンジアミン４酢酸３ナトリウム0.5～3.0％水溶液　→　ｄ．脱硫処理…水道水かイオン交換水に浸漬（弱酸性～中性）　→　ｅ．処理前重量測定…１／10ｇ計測（電子重量計）　→　ｆ．木製品養生…シルクスクリーン・不織布・ポリプロピレンマット　→　ｇ．ＰＥＧ20％水溶液調製…濃度範囲±３％以内／液温45～50℃に加温　→　ｈ．ＰＥＧ前段％水溶液漬込…常圧下濃度差置換含浸　→　ｉ．ＰＥＧ濃度定期測定…１／100ｇ計測（電子重量計）　→　ｊ．ＰＥＧ・水分置換率測定…重量変化をグラフ化して求める　→　ｋ．ＰＥＧ40％水溶液調製…濃度範囲±３％以内／液温50～55℃に加温　→　ｌ．ＰＥＧ前段％水溶液漬込…常圧下濃度差置換含浸　→　ｍ．ＰＥＧ濃度定期測定…１／100ｇ計測（電子重量計）　ｎ．ＰＥＧ・水分置換率測定…重量変化をグラフ化して求める　→　ｏ．木製品表面付着ＰＥＧ拭取…白色ウェス（綿布）で吸い取る　→　ｐ．予備凍結…－30℃　→　ｑ．減圧乾燥…－50℃・6.7Ｐａ・３日以上　→　ｒ．接着・接合…エポキシ樹脂系２剤調製型接着剤（2種類）、シアノアクリレート樹脂系瞬間接着剤（２種類）　→　ｓ．補強・補填・充填…竹芯／木芯／繊維強化プラスチック、マイクロバルーン増量剤＋エポキシ樹脂系２剤調製型接着剤　→　ｔ．同上個所の表面整形…精密加工用グラインダー　→　ｕ．同上個所の古色仕上げ…アクリル絵の具　→　ｖ．処理後記録…写真撮影・保存処理カード（保存処理工程中の所見）

②ＰＥＧ処理法

ａ～ｎ．①の処理と同一　→ｏ．ＰＥＧ60％水溶液調製…濃度範囲±３％以内／液温60℃±３％に加温　→　ｐ．ＰＥＧ前段％水溶液漬込…常圧下濃度差置換含浸　→　ｑ．ＰＥＧ濃度定期測定…１／100ｇ計測（電子重量計）　→　ｒ．ＰＥＧ・水分置換率測定…重量変化をグラフ化して求める　→　ｓ．ＰＥＧ80％水溶液調製…濃度範囲±３％以内／液温63℃±３％に加温　→　ｔ．ＰＥＧ前段％水溶液漬込…常圧下濃度差置換含浸　→　ｕ．ＰＥＧ濃度定期測定…１／100ｇ計測（電子重量計）　→

ｖ．ＰＥＧ・水分置換率測定…重量変化をグラフ化して求める　→ｗ．液化ＰＥＧ100％調製…濃度範囲±３％以内／液温63℃±３％に加温　→　ｘ．ＰＥＧ前段％水溶液漬込…常圧下濃度差置換含浸　→　ｙ．ＰＥＧ濃度定期測定…１／100ｇ計測（電子重量計）　→　ｚ．ＰＥＧ・水分置換率測定…重量変化をグラフ化して求める　→　ａ'．木製品表面付着ＰＥＧ拭取…白色ウェス（綿布）で吸い取る　→　ｂ'．常圧乾燥（除湿乾燥）…15日以上　→　ｃ'．表面処理…加温エタノールで表面洗浄後、送風乾燥　→　ｄ'．常圧乾燥（除湿乾燥）…３日以上　→　ｅ'．処理後重量測定…１／10ｇ計測（電子重量計）　→　ｆ'．接着・接合…エポキシ樹脂系２剤調製型接着剤（２種類）、シアノアクリレート樹脂系瞬間接着剤（２種類）　→　ｇ'．補強・補填・充填…竹芯／木芯／繊維強化プラスチック、マイクロバルーン増量剤＋エポキシ樹脂系２剤調製型接着剤　→　ｈ'．同上個所の表面整形…精密加工用グラインダー　→　ｉ'．同上個所の古色仕上げ…アクリル絵の具　→　ｊ'．処理後記録…写真撮影・保存処理カード（保存処理工程中の所見）



挿図11　調査区微地形図

第Ⅳ章　調査結果

第１節 微地形（挿図11）

前述したとおり、今次調査地点は相沢川右岸の自然堤防上から内湾状の低湿地に移行する部分に位置する。相沢川寄りの部分については調査が及ばなかったが、調査部分では南東側に向かい緩やかに傾斜している。

調査区中央付近に位置するＳＢ10から南東側は湿地帯に移行しており、水田址・溝址等が間層を挟んで幾重にも重複した状況がある。おそらく古墳時代以降継続して生産基盤として利用した結果と考えられる。さらに南端から南東端にかけての部分で古墳時代以前のドングリ類の立ち木跡が見つかっている。年代的なズレはあるが、この付近で遺構分布が稀薄となるので、ほぼ集落の南東界にあたると考えられる。

調査地点の南西側、留々女遺跡との間の部分は、深さ約３ｍまで試掘調査の結果、１ｍ近いグライ化した砂層と10㎝程度の黒色土が互層となっている。地形的に連続する調査区南端部の遺構検出状況と併せて考えると、古墳時代以降は幾たびも洪水に遭いながらも水田経営を行なった部分と考えられる。

第２節　基本層序（挿図12・13）

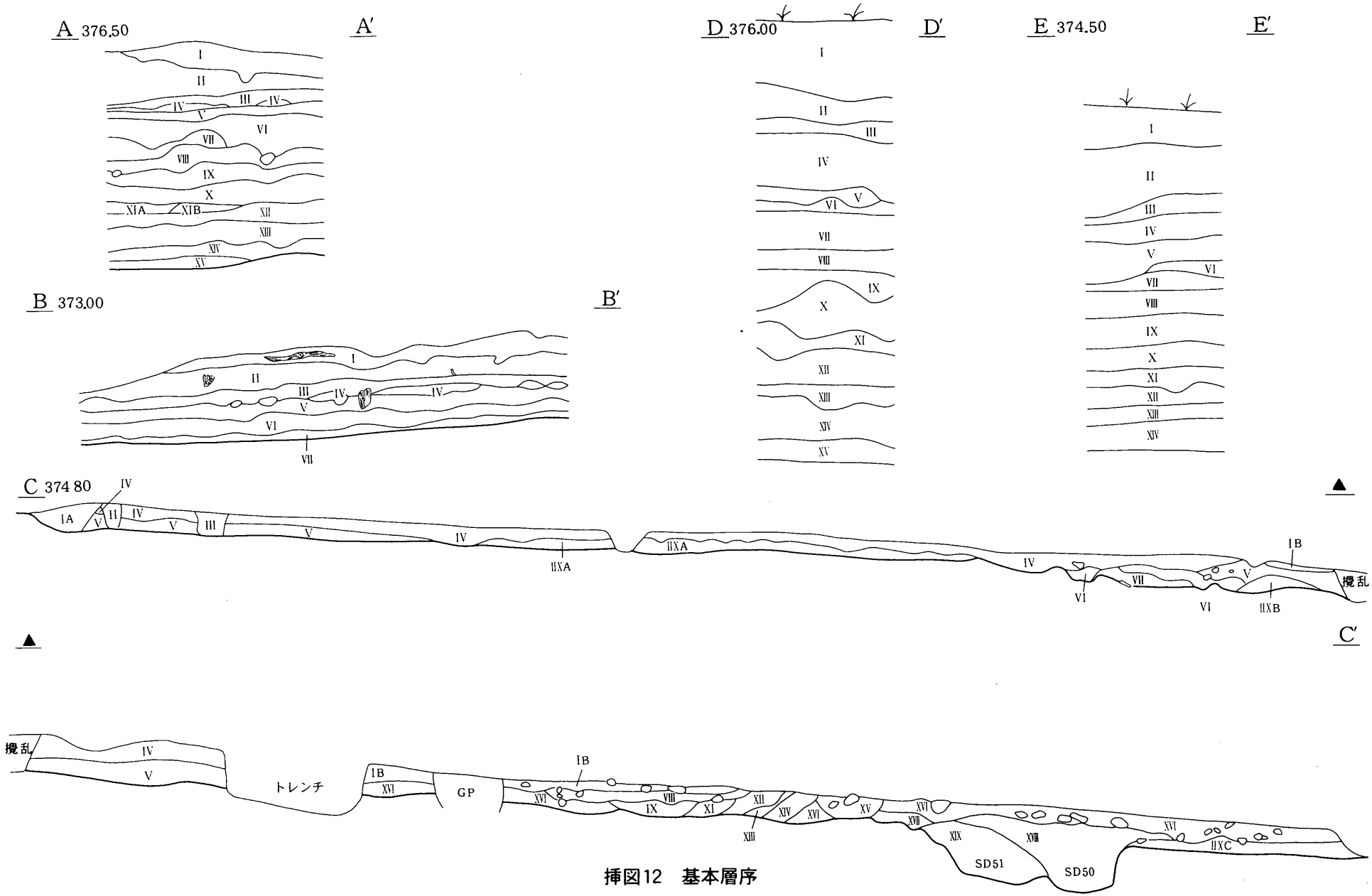
基本層序として５ヶ所の断面観察を行った。

断面Ｄでは Ⅲ～Ⅵ層は洪水起源の層で、Ⅲ層は平成10年度に調査した水田址の覆土と似るが、ＤのⅡ～Ⅶ層のレベルは水田址より低く、両者は時代を異にすると考えられる。ⅩⅢ・Ⅸ・Ⅷ・Ⅶ層上面は不連続と考えられる。ＥのⅡ～Ⅶ層も同様に洪水起源の層である。Ⅷ層上面は不連続と考えられる。

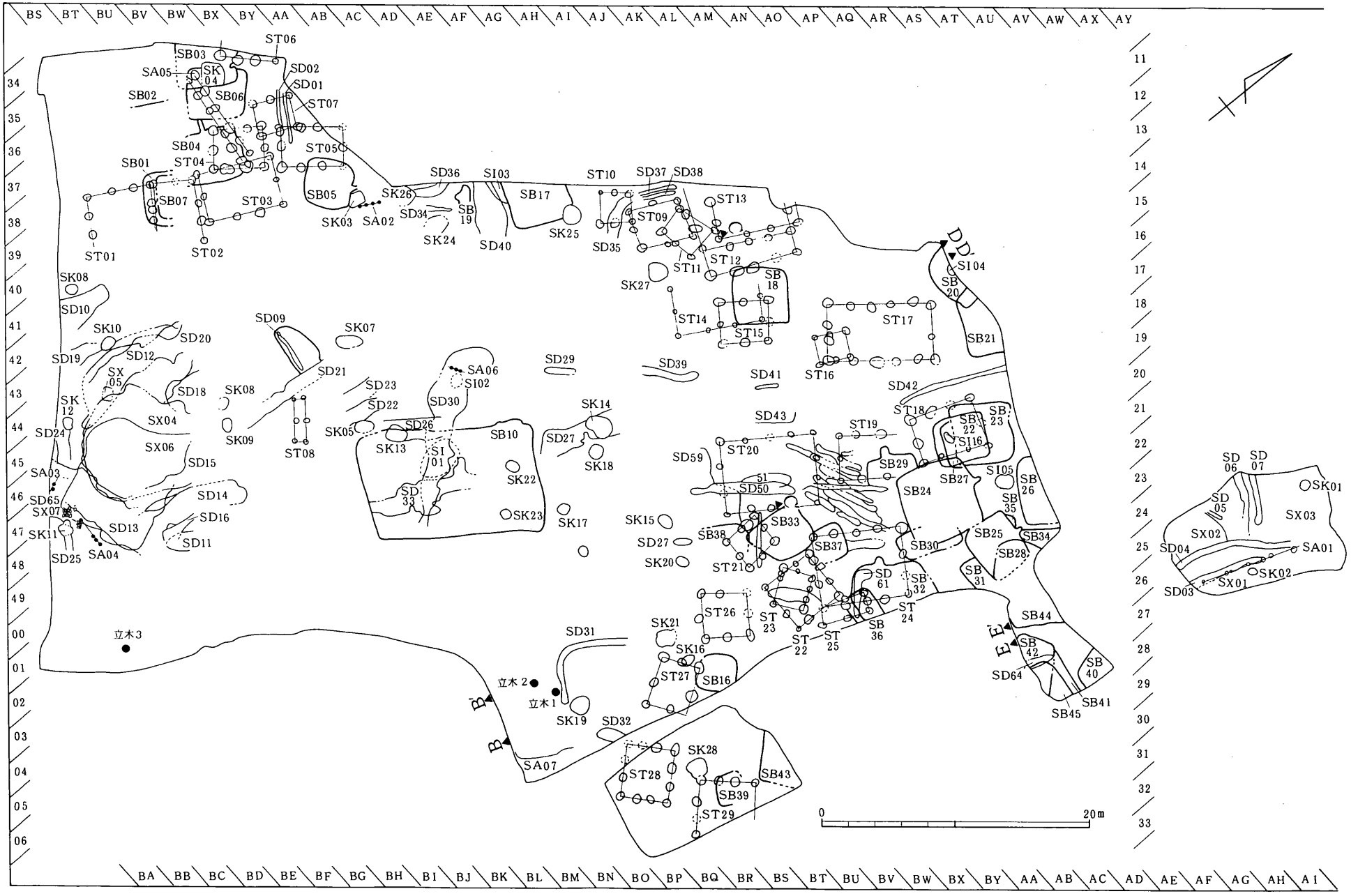
調査区西側の遺構検出面は断面ＡのⅩⅢ層上面である。遺構検出面の下層には黒色土層（断面ＡのⅩⅤ層に対応)、さらに青灰色土の堆積が確認された。下層黒色土中からは石匙が出土したのをはじめ、柱穴埋土中からの縄文時代の遺物出土がある。ⅩⅢ層上面からは主に古墳時代以降の遺構と弥生時代以降の遺物が調査されている状況から見て、下層黒色土以下に縄文時代の遺物が含まれると考えられる。試掘調査時にはこの点を考慮し、青灰色土上面まで掘り下げ遺構確認を行った。また、ＳＢ04周辺の部分では調査後再度重機を入れて下層の遺構・遺物の確認を行った。さらにＳＢ10とＳＤ13の間に掘り込まれた暗渠排水を掘り上げて断面の確認を行ったが、いずれの際にも遺構は確認されていない。こうした縄文時代と弥生時代以降の検出面の間に洪水起源と考えられる層が確認された遺跡は近年増加しており、中には羽場曙遺跡・方角東遺跡・中村中平遺跡等中位段丘の遺跡例もある。

ＳＴ16・ＳＴ17・ＳＴ20より東側では、遺構検出面が砂礫を多く含んだ層になり、遺構埋土にも礫が含まれる。これは相沢川の自然堤防にかかるためと考えられる。

なお、断面Ａ・Ｃ・ＤおよびＥで自然科学的分析用のサンプル採取をしたが、このうち、Ｄ・Ｅで分析を行っている。


A 376.50
A′
B 373.00
B′
C 374 80
C′
D 376.00
D′
E 374.50
E′
攪乱
トレンチ
GP
SD51
SD50

挿図12　基本層序


BS BT BU BV BW BX BY AA AB AC AD AE AF AG AH AI AJ AK AL AM AN AO AP AQ AR AS AT AU AV AW AX AY
BA BB BC BD BE BF BG BH BI BJ BK BL BM BN BO BP BQ BR BS BT BU BV BW BX BY AA AB AC AD AE AF AG AH AI
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 00 01 02 03 04 05 06
11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33
SB03 SK 04 SA05 SB02 SB06 SD02 SD01 ST06 ST07 SB04 ST04 SB01 SB07 ST01 ST02 ST03 ST05 SB05 SK03 SA02 SK26 SD34 SB 19 SK24 SD36 SI03 SD40 SB17 SK25 ST10 SD37 SD38 ST13 ST09 SD35 ST11 ST12 SK27 SB 18 ST14 ST15 ST17 ST16 SI04 SB 20 SB21 DD' SK08 SD10 SK10 SD20 SD19 SD12 SX 05 SD18 SK 12 SX04 SD24 SX06 SD15 SA03 SD65 SX07 SK11 SD25 SA04 SD13 SD14 SD16 SD11 SD09 SK07 SD21 SK08 SK09 ST08 SD23 SD22 SK05 SA06 SI02 SD30 SD26 SK13 SI 01 SD 33 SB10 SK22 SK23 SD29 SD27 SK14 SK18 SK17 SD39 SD41 SD42 SD43 ST18 SB 22 SB 23 SI16 ST19 ST20 SD59 SD50 51 SB29 SB24 SB27 SI05 SB 26 SB 35 SB25 SB34 SB28 SB30 SB33 SB37 SB38 SK15 SD27 SK20 ST21 SD 61 SB 32 SB 31 ST 24 SB 36 ST 25 ST 22 ST 23 ST26 SK21 SK16 ST27 SB16 SD31 SK19 SD32 SK28 ST28 SB39 ST29 SB43 SA07 B B' 立木1 立木2 立木3 SB44 E E' SB 42 SD64 SB 40 SB41 SB45 SD 06 SD 07 SD 05 SK01 SX03 SX02 SD04 SA01 SK02 SX01 SD03
0 20m

挿図13　遺構全体図

第３節　遺構と遺物

(1) 竪穴住居址

1) 古墳時代中期

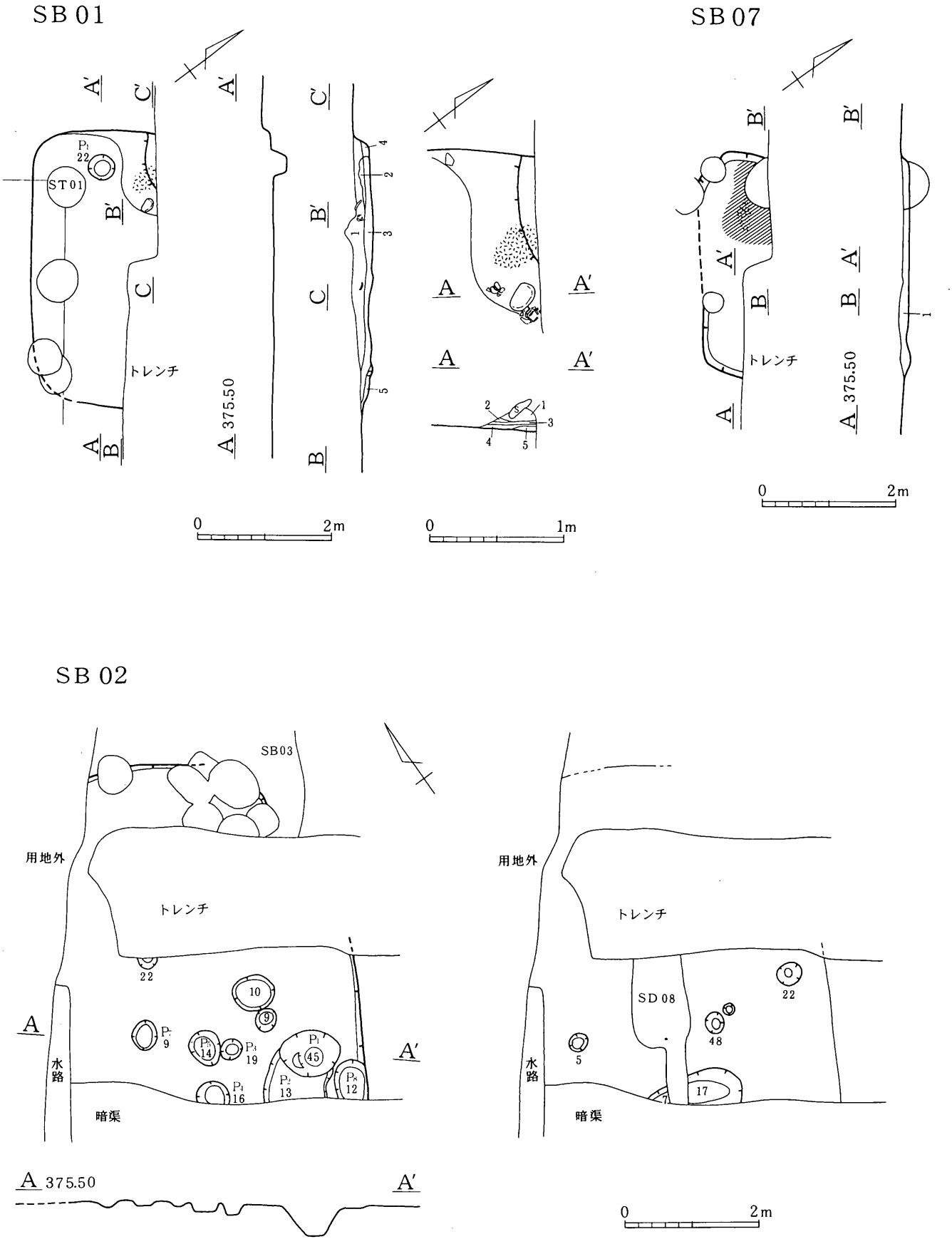
①ＳＢ01・ＳＢ07（挿図14、第１図１～７）

ＳＢ01［検出位置］ＢＲ41付近　［規模］4.1×－m、深さ21cm　［床面積］－　㎡　［形態］隅丸方形を呈すると考えられる　［主軸］N53°Ｗ　［重複］ＳＢ07を切り、ＳＴ01に切られる　［調査所見］試掘調査時にトレンチにより北東半約１／２を破壊し、全体は把握できず。北東壁はトレンチの向こう側までは延びていない。ＳＢ01の下位からＳＢ07を検出したが、北西壁は一致し、かつカマドの位置を同じくするため、建て替えの可能性も考慮し、一括して扱った　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］削平によりほとんど遺存しておらず　［床］断面で貼床が把握された。中央付近が硬く締まる　［周溝］なし　［柱穴］Ｐ１のみ　［カマド］トレンチにより壊され、右袖のみ残存。煙道・支脚・天井石も不明である。北西壁中央に構築され、袖石１対の石芯粘土カマドと考えられる。袖石の遺存状態から住居廃棄時の破却は行われていないと考えられる［付属施設]なし　［増改築］上述のとおり　［床下検出遺構］ＳＢ07　［出土遺物]出土量は少ない。床面より３～５cm浮いた状態で出土。カマド前面・南東壁側中央付近から土師器高坏、右袖袖石脇から土師器壷、Ｐ１南東脇で土師器甕が出土。非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・坏Ｄ・高坏Ａ３・高坏Ａ（内黒）・甕Ｆ・小型甕Ｆ１・小型甕Ｆ・壷Ｂ・壷Ｄ、須恵器－坏蓋Ｂ・鉢Ｅ・甕・提瓶。Ｐ１から非ロクロ系土師器－甕　［時期］須恵器坏蓋Ｂはあるが、古墳時代中期と考えられる。

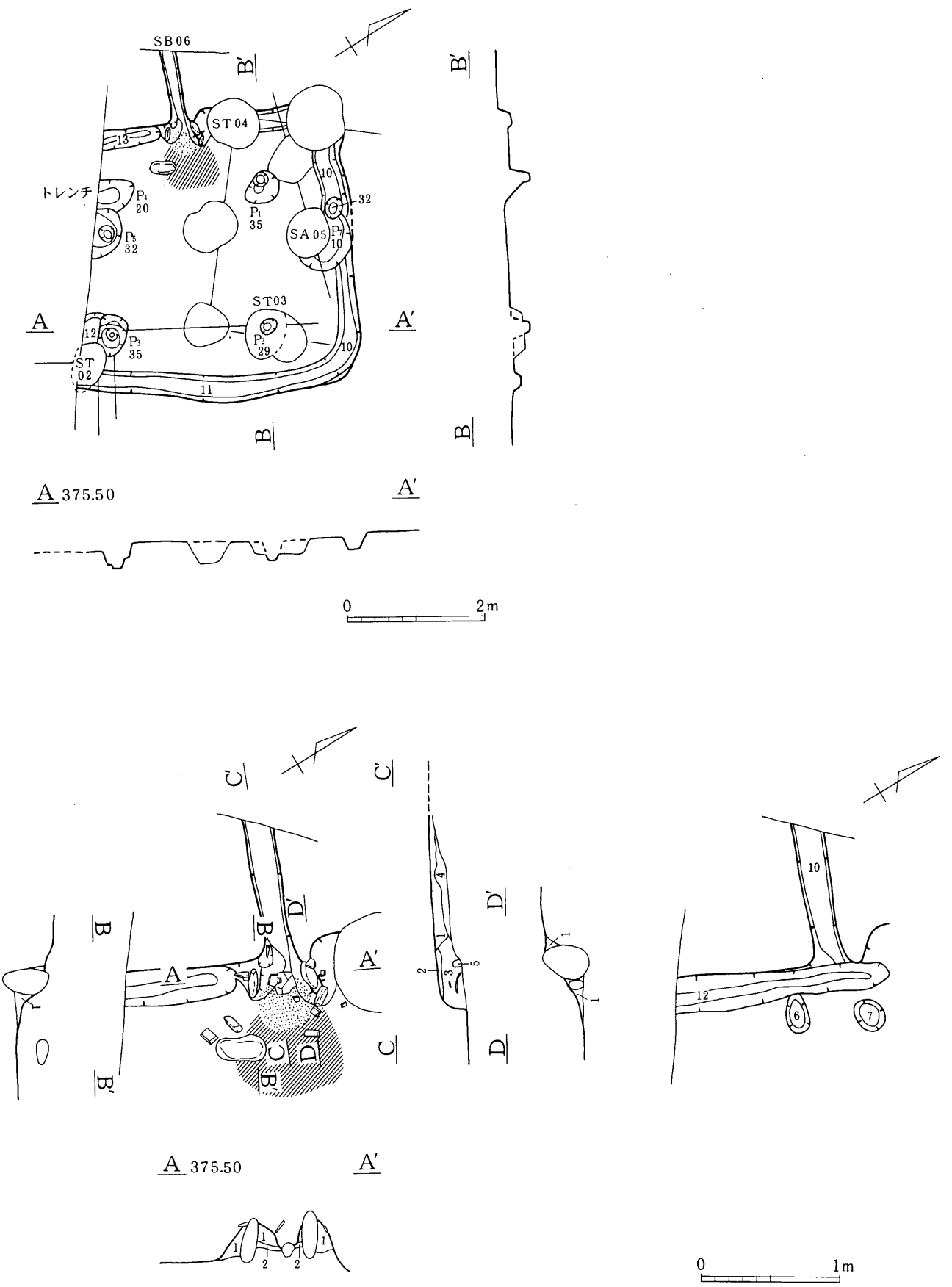
ＳＢ07［検出位置］ＢＲ41付近　［規模］3.3×－m、深さ10cm　［床面積］－　㎡　［形態］隅丸方形を呈する　［主軸］N57°Ｗ　［重複］ＳＢ01・ＳＴ01に切られる　［調査所見］試掘トレンチでＳＢ01の断面を観察中に把握した　［埋土］単層である［壁］ごく一部分が把握されたが、遺存状態は悪く、立ち上がりの状態は不明である　［床］硬く明確である　［周溝］なし　［柱穴］把握できず［カマド］ＳＢ01カマド下部で焼土・炭がまとまって検出され、カマドの痕跡と判断した。ＢＲ41Ｐ１に壊される［付属施設]不明　［増改築］同上　［床下検出遺構］なし［出土遺物]遺物量は僅少である。中央床面付近から土師器甕が出土。破片が多い。遺棄されたと考えられる。非ロクロ系土師器－坏Ｄ2・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ（内黒）・甕Ａ・甕Ｆ・小型甕・壷Ａ・壷Ｄ　［時期］古墳時代中期

②ＳＢ02（挿図14、第１図８・９、第20図１）

［検出位置］ＢＵ37付近　［規模］－×－m、深さ３cm　［床面積］－　㎡　［形態］方形を呈するかと考えられる　［主軸］N32°Ｅ　［重複］ＳＢ03に切られ、ＳＤ08と重複する　［調査所見］試掘トレンチで北東側の一部を破壊し、一部は調査区外にかかる。南西側は暗渠排水により壊される。ＳＢ03との新旧関係は暗渠排水に壊され把握できなかったが、遺物の時期から決定した　［埋土］単層である。検出面から浅いため、埋没過程は不明である［壁］上部はほとんど削平され遺存せず　［床］部分的に硬く、Ｐ１～Ｐ７の間で貼床が検出された。Ｐ１付近に礫があり、また中央付近に床面焼土がみられた［周溝］なし　［柱穴］南東側を中心に確認された。しかし、貼床をもはずしたが、明確な主柱穴は把握できず　［カマド］把握できず。出土遺物からカマドを持つと考えられるので、調査区外の北西壁に



挿図14　ＳＢ01・ＳＢ07、ＳＢ02


SB06
ST04
ST03
SA05
ST02
トレンチ
P1 35
P2 29
P3 35
P4 20
P5 32
P7 10
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
A 375.50
0
2m
1m

挿図15　ＳＢ04

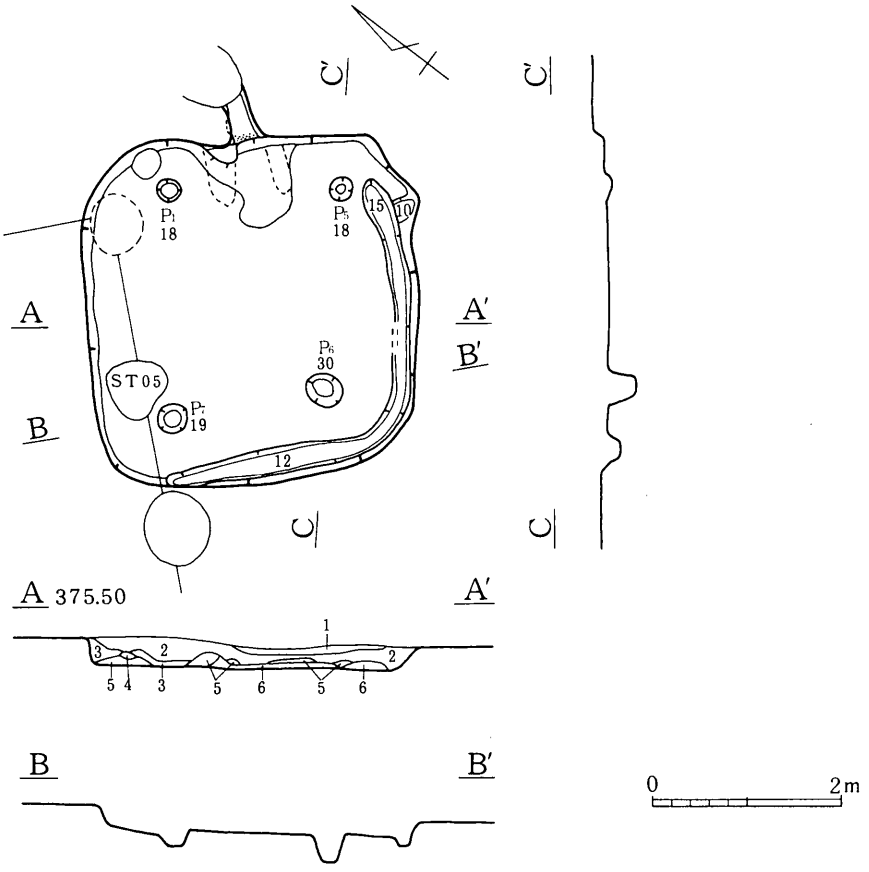
構築された可能性が指摘される ［付属施設］なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］挿図14右下は貼床下で検出された柱穴 ［出土遺物］僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・〔坏〕・〔甕〕、Ｐ１から非ロクロ系土師器－〔小型甕〕、Ｐ２から非ロクロ系土師器－小型甕Ｆ，Ｐ３から非ロクロ系土師器－〔高坏〕・甕、Ｐ４から非ロクロ系土師器－甕、Ｐ５から非ロクロ系土師器－〔甕〕と須恵器－不明、Ｐ６から非ロクロ系土師器－〔甕Ａ〕が出土。この他、混入遺物として弥生－後期壷・甕あり ［時期］古墳時代中期と考えられる。

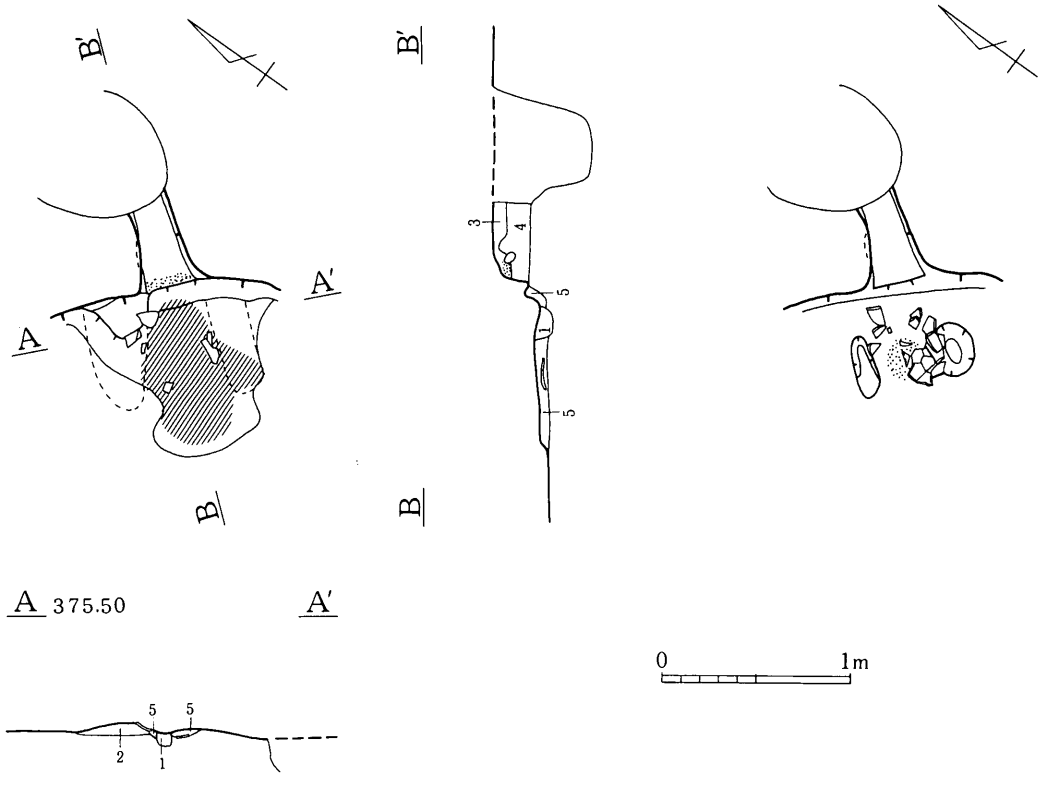
③ＳＢ04（挿図15、第１図10～第２図６・第20図２）

［検出位置］ＢＵ41付近 ［規模］4.0×－m、深さ22cm ［床面積］－ ㎡ ［形態］不整隅丸方形を呈する ［主軸］N65° W ［重複］ＳＢ06に切られ、ＳＴ02～ＳＴ04・ＳＡ05と重複する ［調査所見］平面検出時に形態と埋土の違いから２軒の重複と考えられたが、床面にレベル差はないことから、１軒と判断した。南西壁は試掘トレンチで破壊し、把握できず。煙道がＳＢ06に切られることから、ＳＢ06との新旧関係を把握した。ＳＴ02～ＳＴ04・ＳＡ05柱穴は床面で把握されたため、新旧関係は不明である。ＳＴ04Ｐ９上部に炭が確認されたが、床面より浮いていること、分布範囲はほぼＳＴ04Ｐ９に重なること、またＳＴ04Ｐ10から炭が出土していることから、炭は本址に伴わないと考えられる ［埋土］単層である ［壁］南東辺は検出面がほぼ床面で、北西辺でも遺存状態は不良で、立ち上がりの状態は不明である ［床］掘り方は砂礫層に達しているが、貼床は確認できず、硬い。南側が低くなっており、平坦でない ［周溝］全周すると考えられる。幅25～35cm、深さ10cm程度を測る。カマド下にも検出されたことから、カマド構築前に巡らされたと考えられる ［柱穴］Ｐ１～Ｐ４の４本主柱である。Ｐ２はＳＴ03Ｐ２と重複して痕跡的に確認した ［カマド］調査時に１対の袖石が遺存していたが、カマド下からさらに１対の袖石据え方が確認されたことから、袖石２対の石芯粘土カマドと考えられる。支脚・火床の前面に炭が広く分布し、右袖脇に天井石が転落する ［付属施設］なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］なし ［出土遺物］出土量は多い。中央床直上およびカマド両脇から遺物出土。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・〔鉢〕・甕Ａ・甕Ｆ・甕Ｆ２・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・壷、Ｐ１から非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・高坏Ａ・鉢Ｄ・小型甕・甑、Ｐ３から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・甕・小型甕、Ｐ４から非ロクロ系土師器－甕Ａ・小型甕、Ｐ５から非ロクロ系土師器－甕、Ｐ７から非ロクロ系土師器－坏・甕・甑Ｆが出土 ［時期］古墳時代中期と考えられる。

④ＳＢ05（挿図16、第２図７～10、第20図３～５、第35図８）

［検出位置］ＢＷ45付近 ［規模］3.6×3.5m、深さ34cm ［床面積］10.6㎡ ［形態］不整隅丸方形を呈する ［主軸］N51° E ［重複］ＳＴ05・ＳＫ03と重複する ［調査所見］東隅付近は小柱穴と重複するためか、プランが歪む。ＳＴ05Ｐ３は床面で検出しており、新旧関係は不明である ［埋土］自然埋没と考えられる ［壁］明確で、ほぼ垂直に立ち上がる ［床］不明確であり、掘り方が砂礫層に達することから貼床されたものと考えられる ［周溝］傾斜の下側にあたる南東壁・南西壁下で検出された。幅20～30cm、深さ5～15cmを測る ［柱穴］Ｐ１・Ｐ５～Ｐ７の４本主柱である ［カマド］北東壁中央に設けられる。支脚が抜き取られ、また、両袖も壊されており、カマドそのものの遺存状態は


A
A'
B
B'
C
C'
ST05
P1
18
P5
18
P6
30
P7
19
15
10
12
A 375.50
1
2
3
4
5
6
0
2m


A
A'
B
B'
A 375.50
1
2
3
4
5
0
1m

挿図16　ＳＢ05

悪い。故意に破却されたと考えられる。煙道はＢＸ45Ｐ２に壊されているものの、良好に遺存しており、基部および煙道上部が著しく焼ける。床面に袖石の据え方が残っており、袖石１対の石芯粘土カマドと考えられる。袖石間に火床があり、その上部広範に炭が分布する。また廃絶時に焚き口付近に土師器甕が投棄されている ［付属施設］なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］なし ［出土遺物］僅少である。埋土下層からの出土が主体。Ｐ１西脇から臼玉出土（第35図8）。非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・甕Ａ・甕Ｆ１・甕Ｆ２・小型甕・台付甕・甑Ｆ・壷Ｄ、須恵器－甕、Ｐ１から非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・甕、Ｐ２から非ロクロ系土師器－〔坏〕、Ｐ３から非ロクロ系土師器－〔甕〕、Ｐ４から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・〔甕〕が出土。他に縄文－中期深鉢が混入出土 ［時期］古墳時代中期。

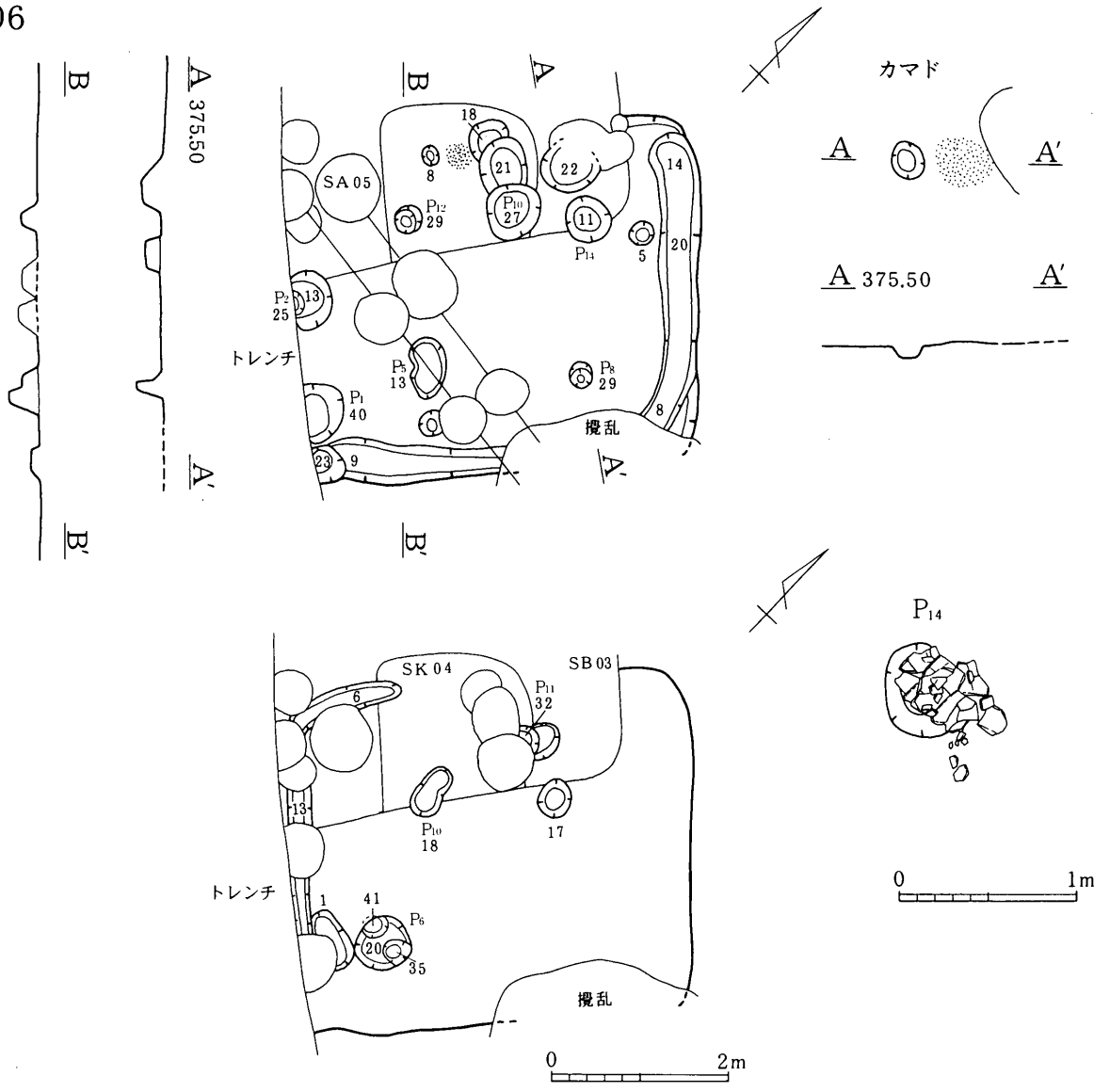
⑤ＳＢ06（挿図17、第２図11～13）

［検出位置］ＢＶ39付近 ［規模］3.8×4.5m、深さ21cm ［床面積］（16.5）㎡ ［形態］長方形を呈する ［主軸］N46° W ［重複］ＳＢ04を切り、ＳＢ03に切られる。またＳＡ05・ＳＫ04と重複する ［調査所見］諸遺構の重複が著しく、本址に伴うかどうか判断のつかなかった柱穴が含まれている。ＳＢ03との新旧関係については、ＳＢ03貼床と考えられる土の下からＳＫ04が検出され、かつＳＫ04底面と本址床面が連続的で別遺構の可能性は低いと判断されたことから、ＳＢ03に切られると判断した。ＳＢ03の遺物時期とも調和的である。当初Ｐ１・Ｐ２は本址に伴うと考えられたが、貼床下部から周溝が確認された状況から本址とは別遺構の可能性が高い。なお、柱穴ナンバーに前後・混乱がある ［埋土］単層であり、埋没過程は不明 ［壁］北隅ではほぼ垂直に立ち上がる ［床］硬い貼床が検出された ［周溝］北西壁北側２／３を除きほぼ全周する。南西壁下の周溝は貼床下で検出された。東隅は壁より内側に巡らされている。幅15～20cm、深さ８～20cmを測る ［柱穴］Ｐ６のうち深さ35cmの小穴およびＰ８・Ｐ12・Ｐ13の４本主柱 ［カマド］北西壁中央やや西寄りに火床跡とおぼしき焼土が検出され、さらにその西側に袖石据え方らしい小穴も確認されたことから、この位置に石芯粘土カマドが構築されていたと考えられる ［付属施設］なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］挿図17下は貼床下で検出された柱穴 ［出土遺物］出土量は少ない。Ｐ14上部から土師器甕出土。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２・坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ４・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｄ・〔鉢〕・甕Ａ・甕Ｆ１・甕Ｆ２・小型甕、須恵器－〔高坏蓋〕・〔鉢〕・甕・〔提瓶〕、Ｐ１から非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・小型甕、Ｐ２から非ロクロ系土師器－高坏・甕、Ｐ５から非ロクロ系土師器－甕Ｂ・壷、Ｐ６から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・甕Ａ・甕、Ｐ８から非ロクロ系土師器－高坏と須恵器－甕、Ｐ10から非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・坏Ｄ（内黒）・坏・高坏・甕、Ｐ11から非ロクロ系土師器－〔坏〕・甕、Ｐ12から非ロクロ系土師器－〔坏〕・高坏Ａ・小型甕が出土。他に弥生－後期壷が混入出土 ［時期］古墳時代中期。

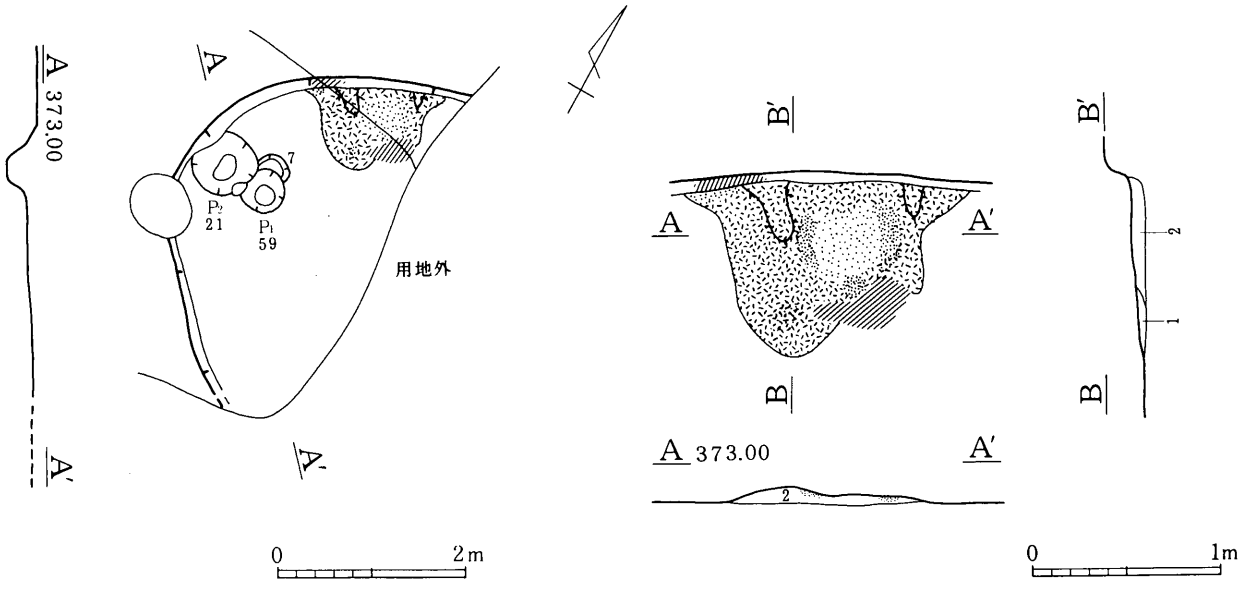
⑥ＳＢ28（挿図17、第２図14）

［検出位置］ＡＩ22付近 ［規模］－×－m、深さ12cm ［床面積］－ ㎡ ［形態］不整隅丸方形を呈すると考えられる ［主軸］N27.5° W ［重複］ＳＢ25に切られ、ＳＢ34と重複する ［調査所見］大部分が調査区外にかかる。カマド火床を小柱穴に切られる。ＳＢ34と同様、ＳＢ44は位置関係から本

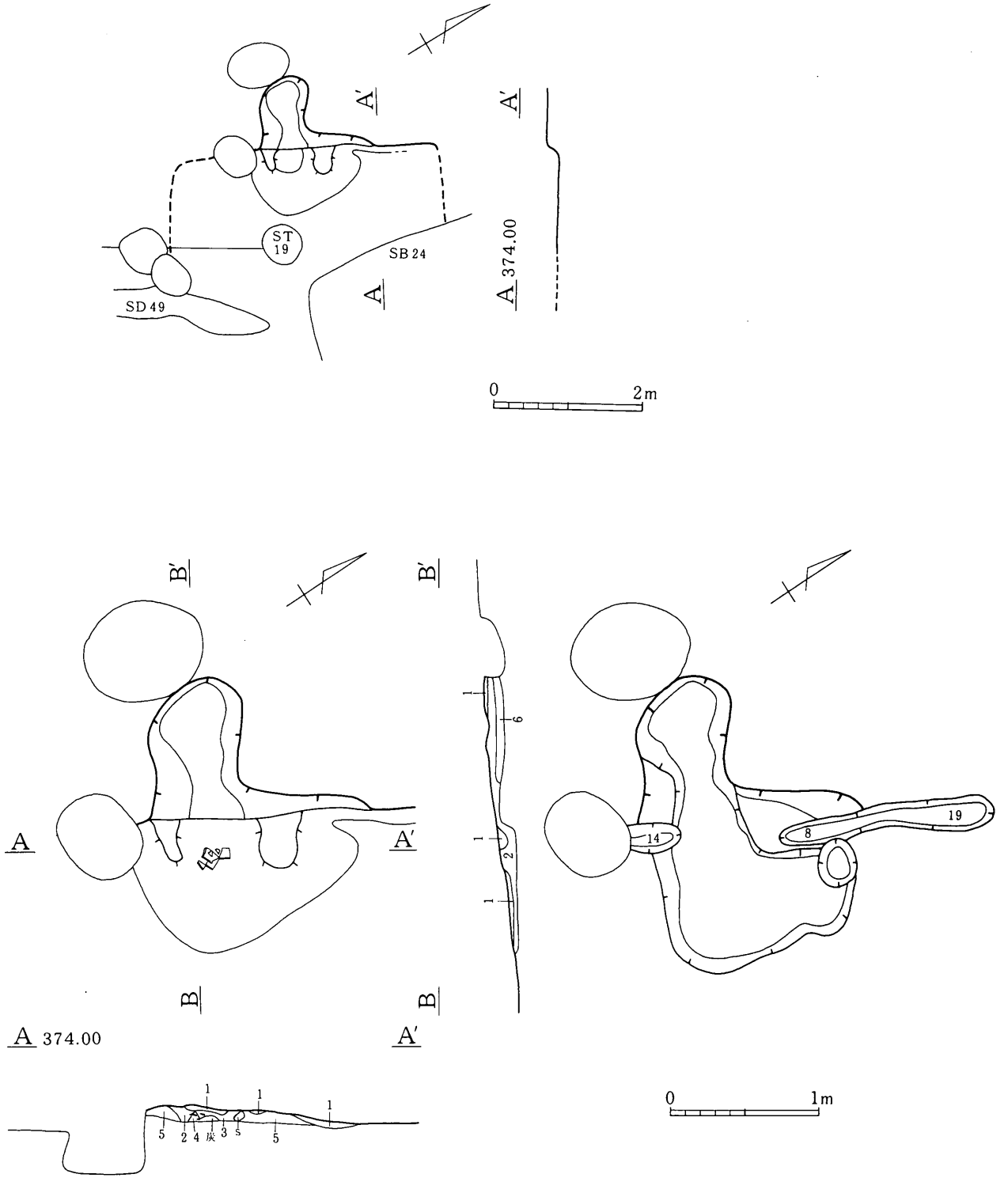
SB 06



SB 28



挿図17　ＳＢ06・ＳＢ28



挿図18　ＳＢ29

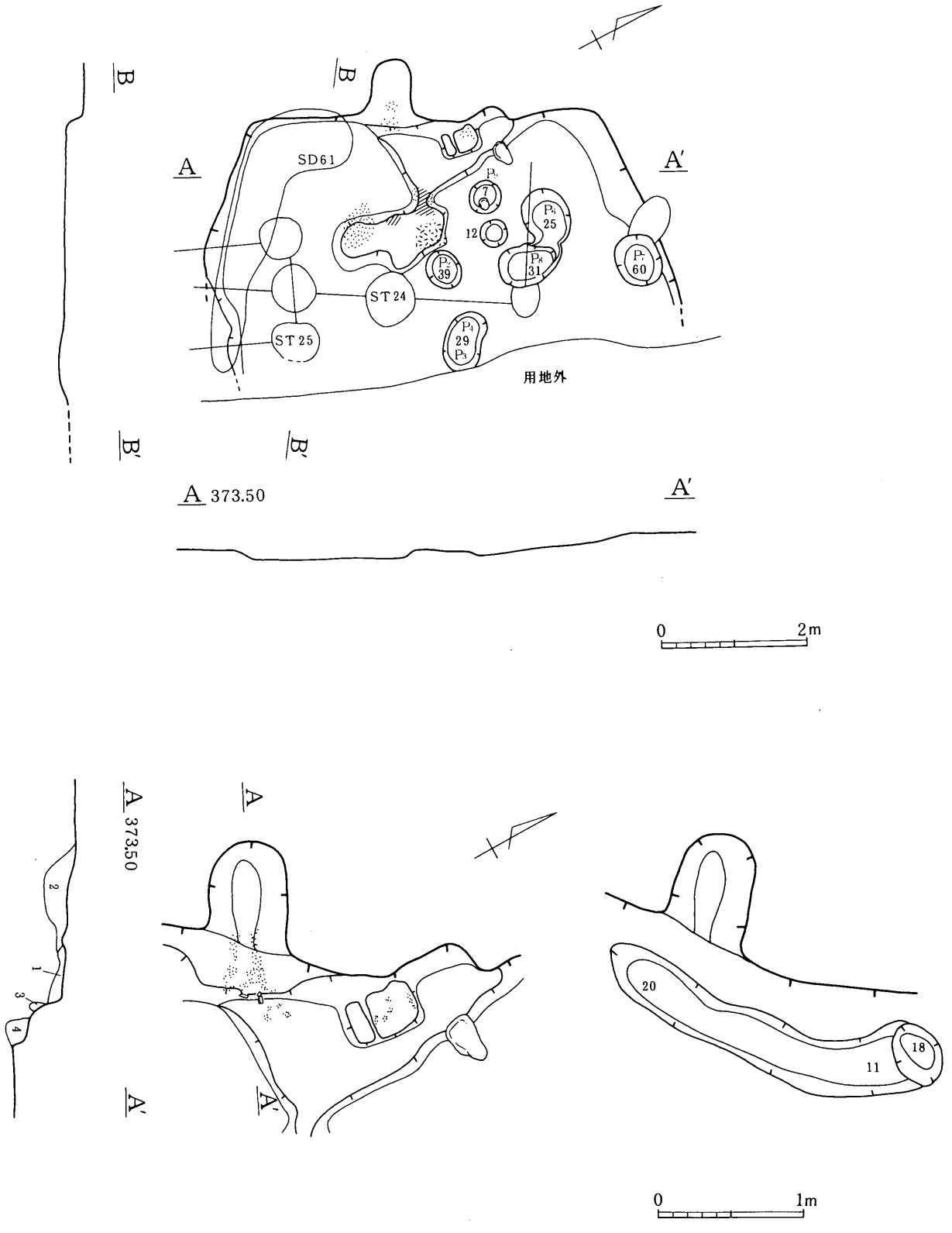
址の南東辺となり得るが、本址のプランに歪みがあること、床面に５～13cmのレベル差があることから、別遺構と判断した　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］不明瞭で、やや緩やかに立ち上がる　［床］軟弱で不明確である。掘り方が砂礫層に達する状況から、貼床があると考えられるが把握できず　［周溝］不明　［柱穴］主柱穴Ｐ１を確認したにとどまる　［カマド］北西壁に構築されている。両袖の粘土が遺存、袖石やその据え方は確認できなかったものの、他の住居址例から石芯粘土カマドと考えられる。粘土の遺存状態は右袖が良好である。右袖脇から土師器甕片が出土　［付属施設］なし　［増改築］なし　［床下検出遺構］なし　［出土遺物］破片が主体で、全体的に少ない。遺棄されたと考えられる。遺物量は少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ３・高坏Ａ・鉢Ｄ・鉢Ｄ（内黒）・鉢（内黒）・甕Ｂ・甕Ｆ１・甕Ｆ・小型甕Ｆ・小型甕・壷Ａ、須恵器－坏Ｈ・高坏蓋・〔皿〕、Ｐ１から非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・壷、Ｐ２から非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・高坏・甕・小型甕　［時期］古墳時代中期。

⑦ＳＢ29（挿図18）

［検出位置］ＡＧ17付近　［規模］－×(3.6)m、深さ15cm　［床面積］－　㎡　［形態］方形を呈すると考えられる　［主軸］N60°Ｗ　［重複］ＳＢ24・ＳＤ49に切られ、ＳＴ19と重複する　［調査所見］ＳＢ24との新旧関係は平面検出時の把握、また、ＳＤ49との新旧関係はＳＤ44～ＳＤ62の一群が水田址に付属する小規模な水路と考えられ古墳時代以降に位置づくことから推定した　［埋土］単層である　［壁］削平されており、ほとんど遺存せず　［床］カマド前面に部分的に硬い箇所あり　［周溝］カマド付近でごく部分的に把握された。幅10～20cm、深さ８～19cmを測る　［柱穴］明確に本址に伴う柱穴は把握できず　［カマド］北西壁中央付近に構築されたと考えられる。袖構築材の粘土と煙道の一部が遺存するが、遺存状態は不良である。袖下部に周溝あり。周溝を巡らせた後にカマドを構築　［付属施設］不明　［増改築］なし　［床下検出遺構］なし　［出土遺物］全般に少なく、かつ破片が主体である。出土量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ１・甕Ｆ２・小型甕・〔甑〕、須恵器－甕・壷蓋　［時期］古墳時代中期。

⑧ＳＢ32（挿図19、第３図１～６・第20図６・７）

［検出位置］ＡＤ20付近　［規模］－×6.0m、深さ22cm　［床面積］－　㎡　［形態］不整方形を呈すると考えられる　［主軸］N65°Ｗ　［重複］ＳＢ36を切り、ＳＴ24・ＳＴ25・ＳＤ61と重複する　［調査所見］調査区外に約１／２かかる。南西辺・北東辺とも中央付近で大きく膨らむ。特に北東辺の張り出しは著しく、別遺構との重複も考えられる。ＳＤ61は当初周溝の可能性も考えたが、本址よりも外側に張り出すこと、カマド下部で検出した周溝と断面形態や規模を異にしていることから、別遺構と判断した　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］北隅から北東辺にかけてはだらだらとしており、明確ではない　［床］貼床されており、カマド前面中央部分が硬く締まる　［周溝］カマド下部から幅20cm・深さ10cm程度の周溝が見つかっており、カマド構築前に周溝を巡らせてと考えられる。傾斜の上方側でしかもカマド下部に掘り込まれていることからみて、全周ないしかなりの部分に周溝があったと考えられる　［柱穴］主柱穴は１基（Ｐ６）確認したが他は不明　［カマド］壁際の焼土・炭の分布からカマド位置を推定したが、袖の粘土や火床等は把握できず、遺存状態は不良である。北西壁中央やや西


B
B
A
A′
SD61
P9
7
P6
25
12
P2
39
P8
31
P7
60
ST24
ST25
P4
29
P3
用地外
B′
B′
A 373.50
A′
0
2m
A 373.50
A
A′
A′
2
1
3
4
20
18
11
0
1m

挿図19　ＳＢ32

側に寄って張り出しがある。他住居址のカマドより全長は短いが、基部が焼けていることから煙道と考えられる。前面に焼土・炭が分布 [付属施設]なし [増改築] なし [床下検出遺構] なし [出土遺物]全般に多く、破片が主体である。カマド前面のＰ７から土師器坏完形品が出土した。遺物量は多い。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ２・高坏Ａ２（内黒）・高坏Ａ・鉢Ｄ（内黒）・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ１・甕Ｆ２・小型甕Ａ・小型甕Ｂ・小型甕Ｆ・小型甕・〔甑Ａ〕・甑Ｆ・甑・壷Ｄ・壷、須恵器－坏蓋Ｈ・高坏蓋・甕Ａ・甕Ｄ・甕、Ｐ２から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ、Ｐ３から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・高坏Ａ・甕Ａ・甕Ｆ・小型甕Ａ、Ｐ４から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・甕Ｉ・小型甕、Ｐ６から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・高坏・鉢Ｄ・甕Ｆ・小型甕Ａと須恵器－高坏・甕、Ｐ７から非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ（内黒）・坏・高坏Ａ３・高坏Ａ・高坏・甕Ａ・甕Ｂ・甕・小型甕Ａ・小型甕・甑、Ｐ８から非ロクロ系土師器－坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・高坏Ａ（内黒）・甕Ｂ・小型甕・壷Ｂ、Ｐ９から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・甕Ｆ・小型甕が出土。この他、縄文－中期土器、弥生－後期甕が混入出土 [時期] 古墳時代中期。

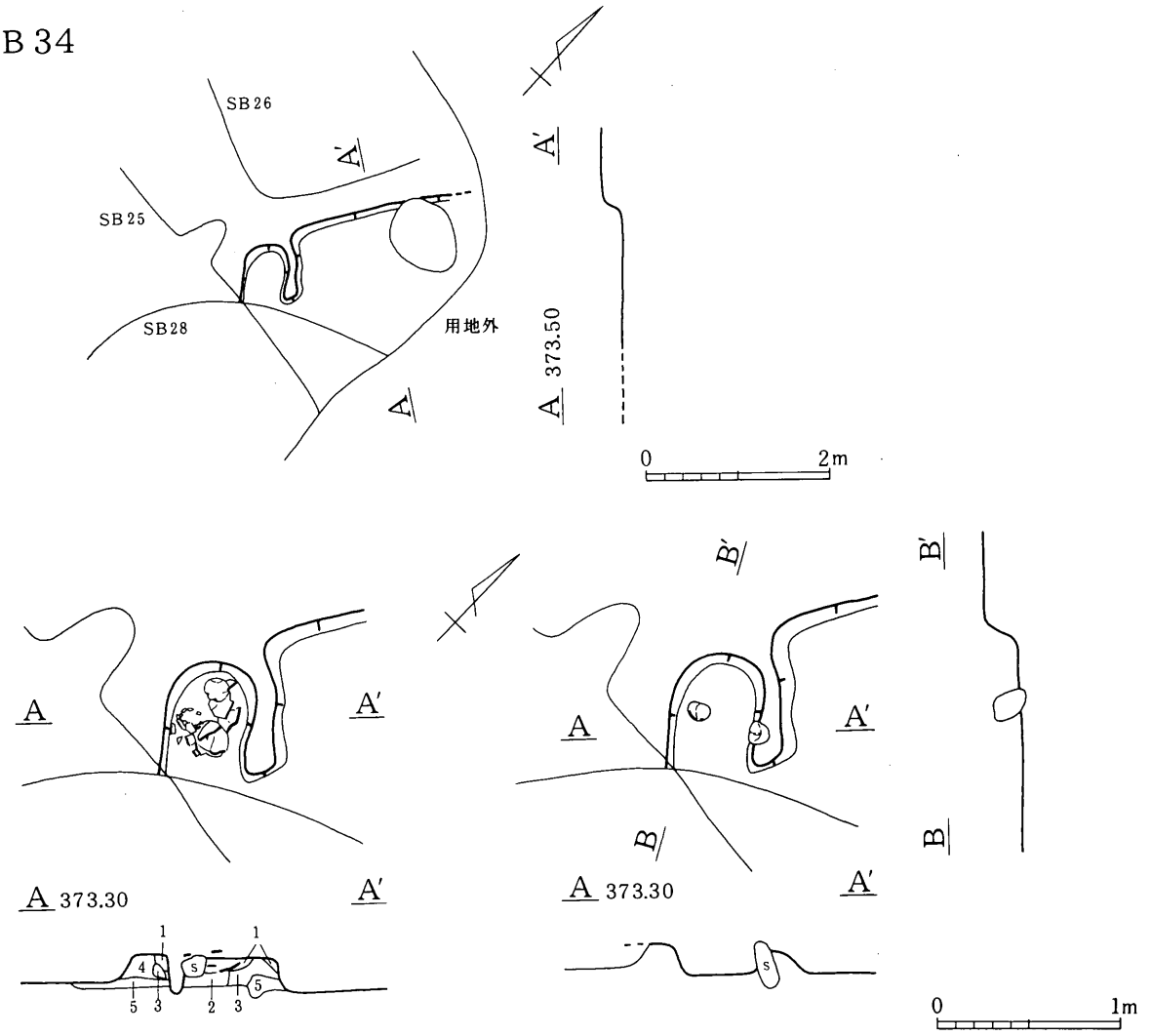
⑨ＳＢ34（挿図20、第３図７～11）

[検出位置] ＡＪ22付近 [規模] －×－ｍ、深さ18㎝ [床面積] － ㎡ [形態] 不明 [主軸] 北西辺の方向Ｎ38° Ｅ [重複] ＳＢ25に切られ、ＳＢ28・ＳＢ44と重複する [調査所見] 本址の北および東側は湧水対策のため排水路を設定。このため遺構のプランを十分に把握できなかった。ＳＢ44が位置関係や出土遺物から本址の南東辺となるか検討したが、床面で10～20㎝のレベル差を持つことから、別遺構と判断した。ＳＢ25との新旧関係はカマドの遺存状況から判断 [埋土] 単層で、自然埋没と考えられる [壁] やや緩やかに立ち上がる [床] 湧水のため十分把握できず。掘り方が砂礫層に達していることから、貼床された可能性を指摘できる [周溝] 不明 [柱穴] 不明 [カマド] 北西辺に構築されるが位置の詳細は不明である。両袖の遺存状態は比較的良く、袖石は検出できなかったことから粘土カマドである。支脚を備える。支脚の上に逆位の土師器甕が被り、また、燃焼部にも甕が壊れて遺棄されていた [付属施設]不明 [増改築] 不明 [床下検出遺構] 不明 [出土遺物]遺物量は少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ２・甕Ｆ１・甕Ｆ・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・甑 [時期] 古墳時代中期。

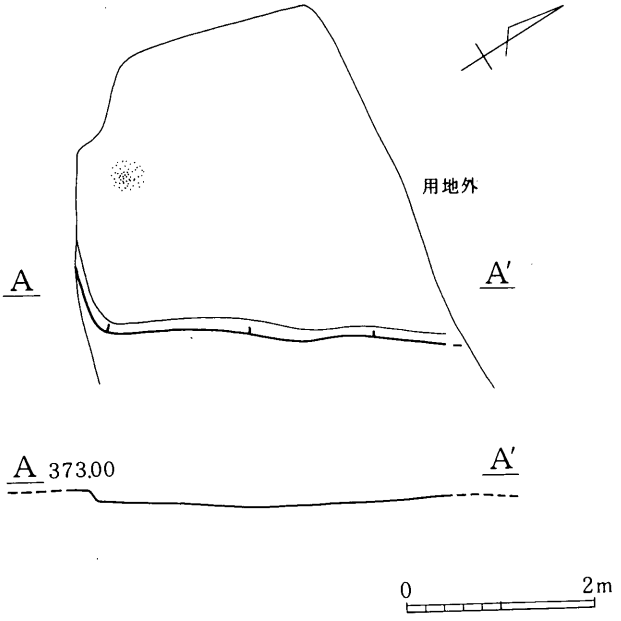
⑩ＳＢ44（挿図20、第３図12・13）

[検出位置] ＡＨ24付近 [規模] －×－ｍ、深さ22㎝ [床面積] － ㎡ [形態] 不整方形を呈すると考えられる [主軸] 南東辺の方向Ｎ33° Ｅ [重複] ＳＢ28・ＳＢ34と重複する [調査所見] ＳＢ28・ＳＢ34との関係については前述のとおりである。小柱穴ＡＨ24Ｐ１・同Ｐ２・ＡＨ25Ｐ１・同Ｐ２に切られる [埋土] 自然埋没と考えられる [壁] 検出面から浅く立ち上がりの状態は不明 [床] ＡＨ24Ｐ１・Ｐ２等を先行して掘り上げたが、貼床は確認できず [周溝] なし [柱穴] 不明 [カマド] 不明。南西辺寄り床面で焼土が確認されている。しかし、本遺跡では南西辺および南東辺にカマドが構築される確実な例はなし [付属施設]なし [増改築] なし [床下検出遺構] なし [出土遺物]遺物量はやや少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ２・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ２・高坏Ａ・鉢Ｄ・甕Ｂ・甕Ｆ・甕Ｇ・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・甑・壷、須恵器－〔壷〕。他に混入遺物として

SB 34

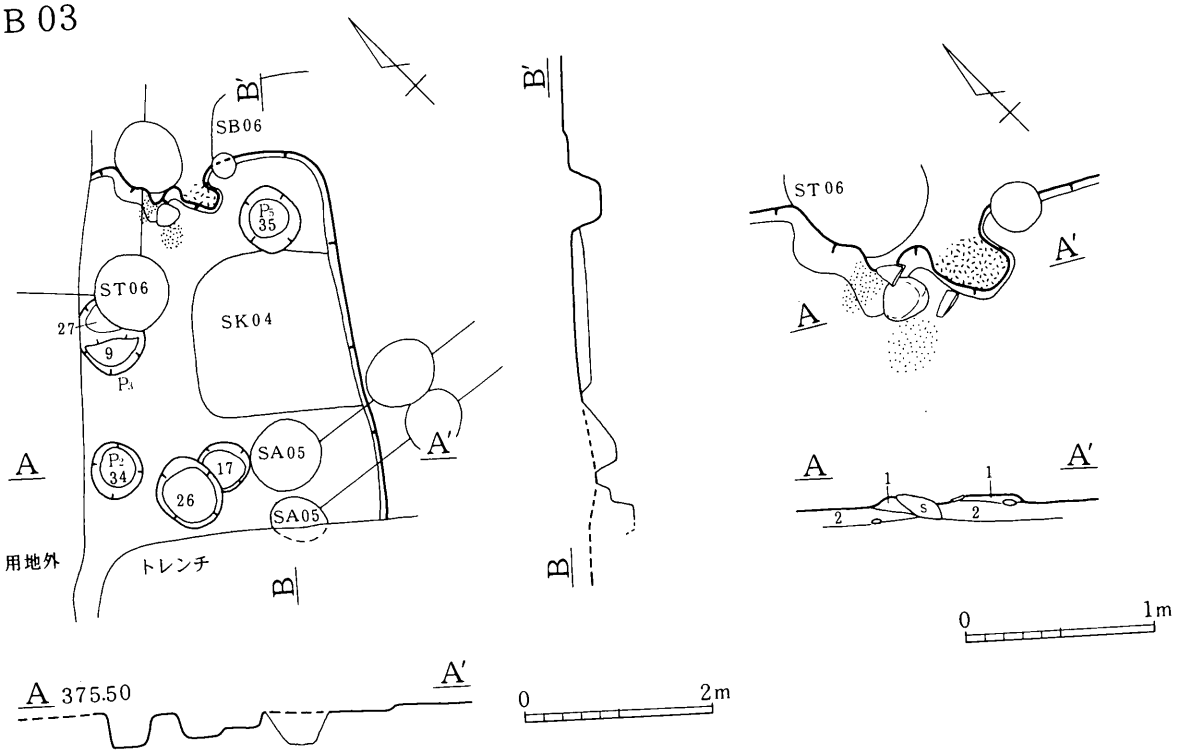


SB 44

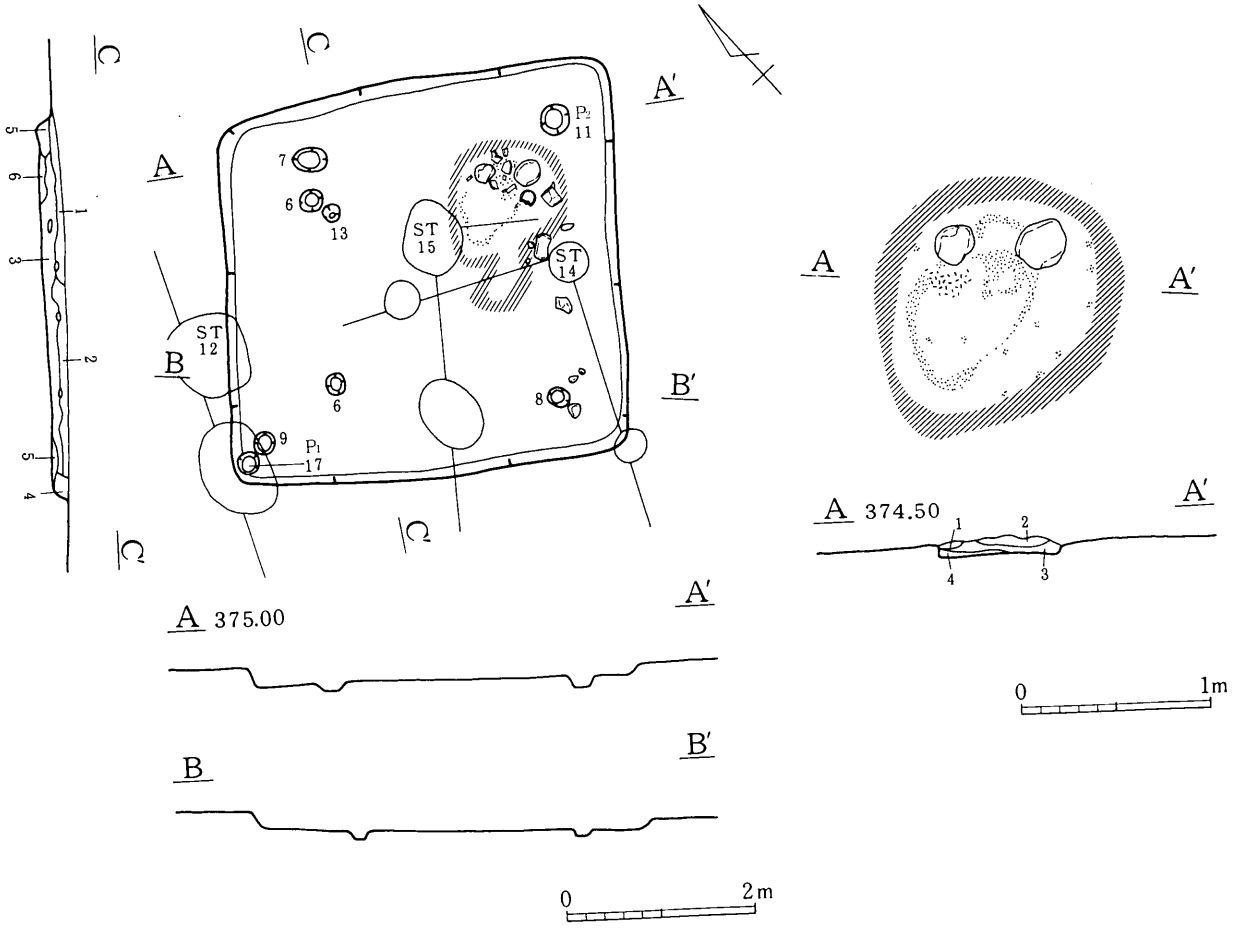


挿図20　ＳＢ34・ＳＢ44

SB 03



SB 18



挿図21　ＳＢ03・ＳＢ18

縄－中期中葉、弥－後期壷がある　［時期］古墳時代中期。

2) 古墳時代後期～終末

①ＳＢ03（挿図21）

［検出位置］ＢW39付近　［規模］－×－m、深さ５cm　［床面積］－　㎡　［形態］不整方形を呈すると考えられる　［主軸］N38°Ｅ　［重複］ＳＢ02・ＳＢ06を切り、ＳＴ06に切られる。また、ＳＡ05・ＳＫ04と重複する　［調査所見］北西側１／３は調査区外にかかり、また南西側は試掘トレンチにより壊される。床面に焼土があるが、焼失住居というには広く分布しておらず　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］上部はほとんど削平されており、遺存せず　［床］貼床されており、硬い部分は確認できず　［周溝］なし　［柱穴］主柱穴Ｐ２・Ｐ５を検出。南側の主柱穴はＳＡ05Ｐ１と重複すると考えられる　［カマド］北東辺に構築されるが、詳細位置は不明である。削平を受け、かつＳＴ06Ｐ２に壊され、遺存状態は悪い。左袖に袖構築材の粘土が遺存する。袖石およびその据え方は確認できず、粘土カマドと考えられる。ＳＴ06Ｐ２・Ｐ３の間に検出された溝状の部分（挿図21）は煙道の可能性が考えられる　[付属施設]なし　［増改築］なし　［床下検出遺構］なし　[出土遺物]全般的に少なく、出土量は僅少である。カマド右袖脇から丸瓦（第18図１）が出土。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・甕Ｆ２・甕Ｆ・小型甕Ｆ、須恵器－坏蓋Ｂ、陶器－甕、Ｐ２から非ロクロ系土師器－〔甕〕、Ｐ３から非ロクロ系土師器－〔坏〕・甕　［時期］古墳時代後期から一部奈良時代にかかると考えられる。

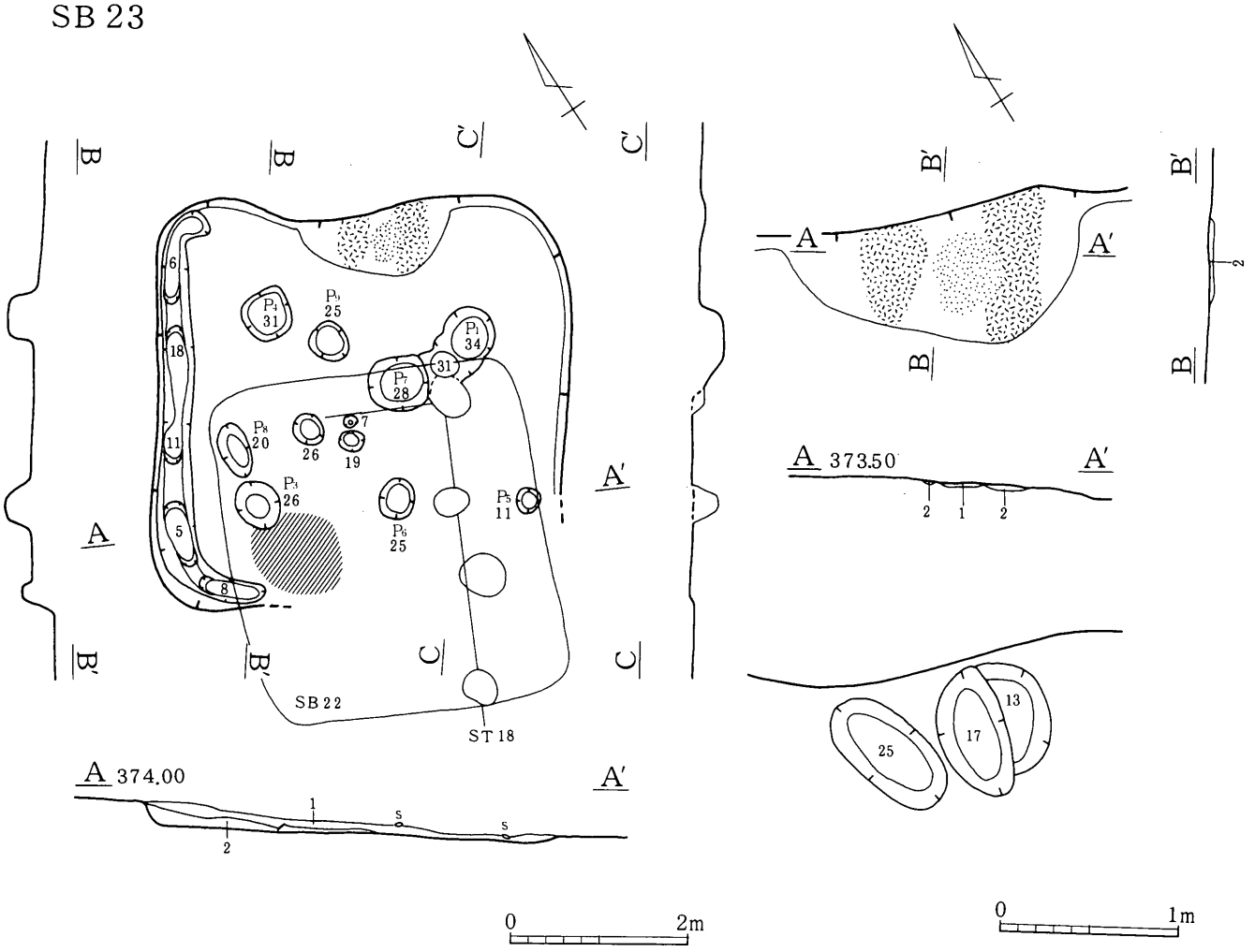
②ＳＢ18（挿図21、第３図14～第４図６）

［検出位置］ＡH08付近　［規模］4.2×4.2m、深さ22cm　［床面積］15.4㎡　［形態］不整方形を呈する　［主軸］N53°Ｗ　［重複］ＳＴ15に切られ、ＳＴ12・ＳＴ14と重複する　［調査所見］ＳＴ15との新旧関係は平面検出で把握された。ＳＴ14の柱穴は本址の調査後に全体を掘り下げ、再検出して把握。本址の床面および掘り方精査時には確認できなかったことから、本址よりも古い可能性もある　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］緩やかに立ち上がる　［床］硬い部分はない。北東隅に礫が集中する　［周溝］なし　［柱穴］径20～30cmの円ないし楕円形の柱穴が検出されているが、深さは10cm以下の浅いものが多く、主柱穴とは考えられない　［カマド］中央やや北東側、壁より離れて多量の炭・焼土が検出された。２個の円礫間に焼土が発達しており、この部分に土師器高坏等が集中する。礫のうち、北西側礫の南側には粘土が遺存していた。検出位置からカマドとは考え難いが、炉址とする手がかりはない　[付属施設]なし　［増改築］なし　［床下検出遺構］なし　[出土遺物]遺物量は多い。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２・坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ１・高坏Ａ１・鉢Ｃ・鉢Ｄ・鉢Ｄ（内黒）・甕Ｆ１・甕Ｆ・甕Ｉ・台付甕・小型甕Ａ・小型甕・甑Ａ１・壷Ａ・〔壷Ｂ〕・〔壷〕、ロクロ土師器－坏Ｇ・皿Ｂ、須恵器－高坏蓋・蓋・甕Ａ・甕・瑕Ａ・提瓶、Ｐ１から非ロクロ系土師器－甕が出土。他に、弥生－後期壷・甕が混入出土　［時期］古墳時代後期。

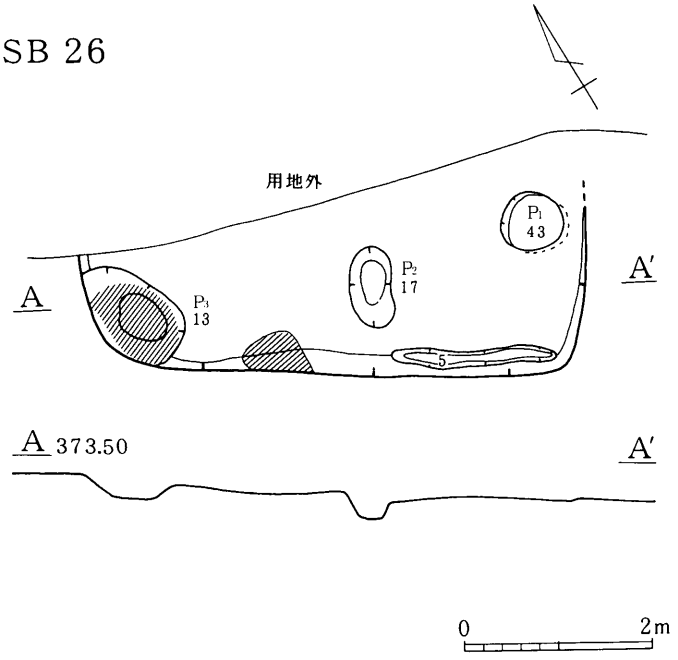
③ＳＢ23（挿図22、第４図７～９、第20図８）

［検出位置］ＡＫ18付近　［規模］4.7×4.6m、深さ28cm　［床面積］（18.6）㎡　［形態］不整隅丸方形を呈する　［主軸］N36°Ｅ　［重複］ＳＢ27を切り、ＳＢ22に切られる。またＳＴ18と重複する

SB 23



SB 26



挿図22　ＳＢ23・ＳＢ26

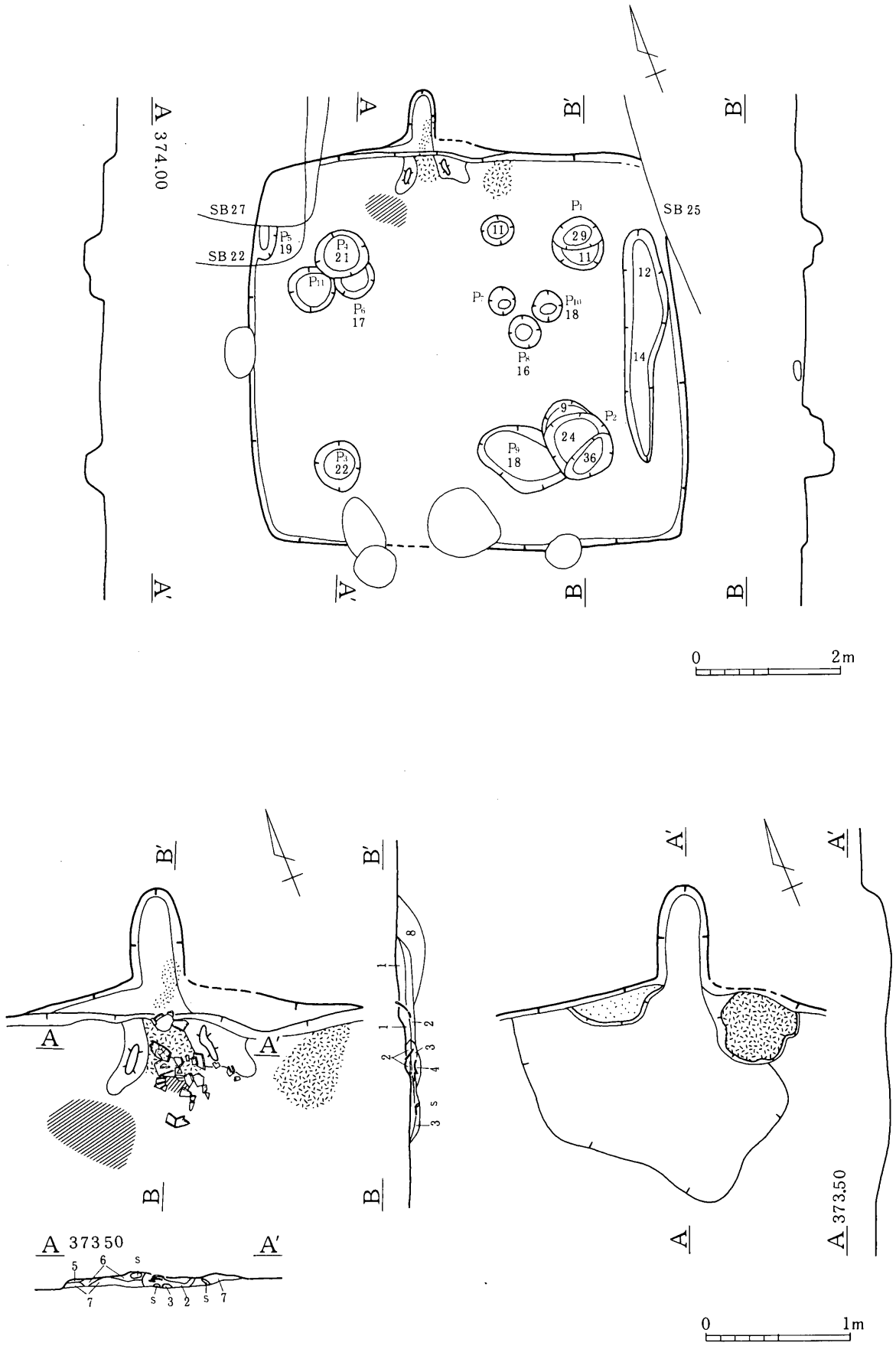
［調査所見］掘り方は砂礫層に達する　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］ほぼ垂直に立ち上がる［床］硬い部分は確認できず。断面観察の結果、貼床されていない。南西辺やや西寄りに炭が集中［周溝］北西辺から西隅にかけて壁下に周溝が巡らされる。幅25～30cm、深さ５～18cmを測る　［柱穴］主柱穴Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の３本を検出。Ｐ２はＳＴ18Ｐ２とほぼ重複すると考えられるが、確認できず［カマド］北東辺中央に構築されており、遺存状態は悪い。火床および両袖構築材の粘土が残る。粘土の下部から検出されたＡＫ19Ｐ１他の小柱穴は袖石の抜き取り痕であり、石芯粘土カマドと考えられる。湧水の排水路掘削のため煙道は確認できず［付属施設］なし　［増改築］なし　［床下検出遺構］なし［出土遺物］全般から出土しており、破片が主体である。遺物量は少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ・小型甕Ａ・小型甕Ｂ・小型甕Ｆ・小型甕・甑Ａ・〔甑〕・壷Ｄ・壷、須恵器－坏Ｂ・坏蓋Ａ・鉢Ｄ・甕、Ｐ８から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏・鉢・甕・小型甕Ａが出土。他に、混入遺物として縄文－中期土器［時期］古墳時代後期から一部奈良時代にかかると考えられる。

④ＳＢ24（挿図23、第４図10～第５図７、第20図９、第21図１、第35図９・36）

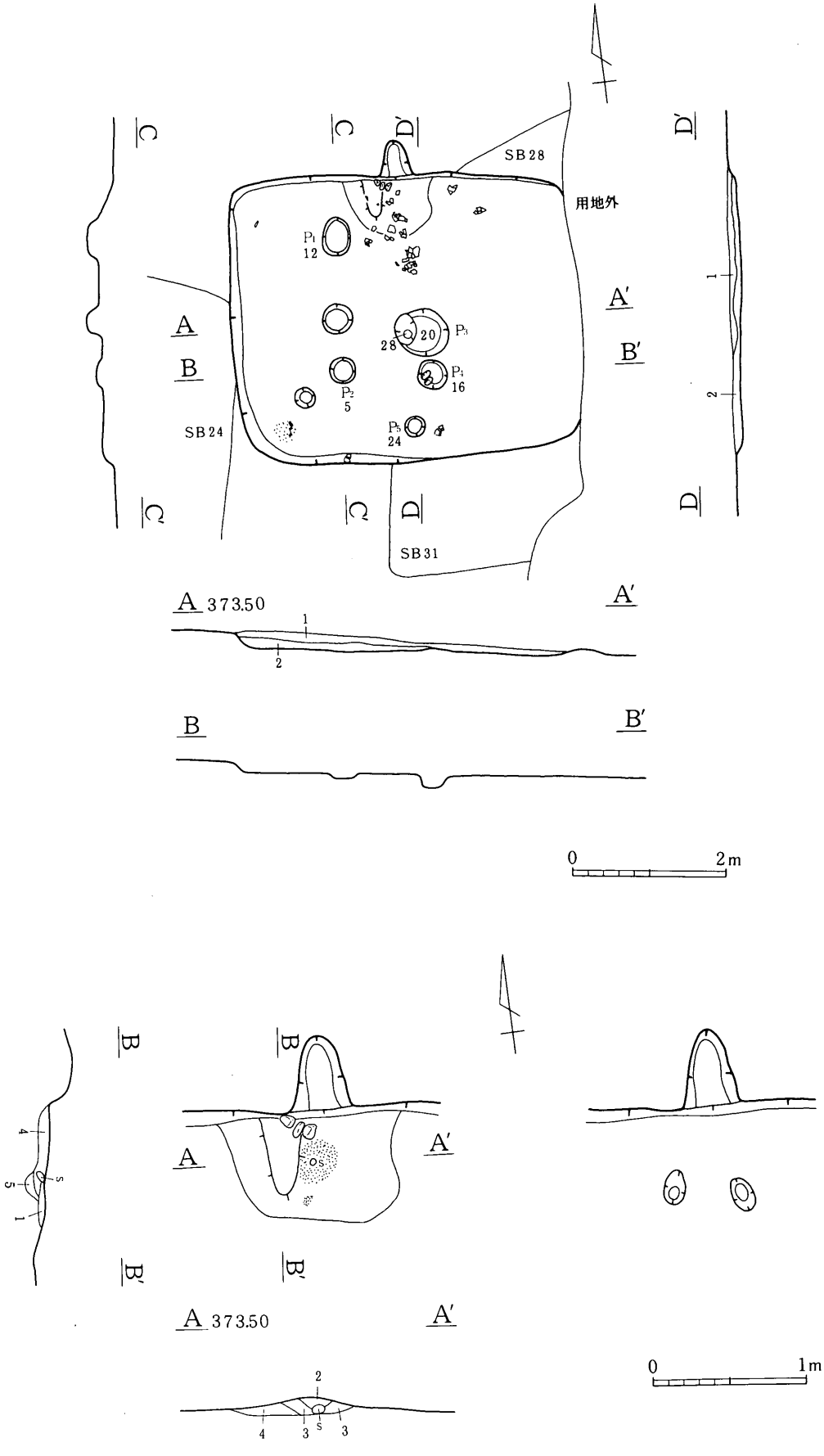
［検出位置］ＡＨ19付近　［規模］5.4×6.0m、深さ13cm　［床面積］（28.9）㎡　［形態］不整方形を呈する　［主軸］Ｎ18°Ｅ　［重複］ＳＢ25・ＳＢ27・ＳＢ29・ＳＢ30を切り、ＳＢ22と重複する［調査所見］ＳＢ25・ＳＢ29・ＳＢ30との新旧関係は平面での確認、ＳＢ27とのそれは住居址の年代観による　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］検出面から床面まで浅く立ち上がりの状態は不明である　［床］硬い部分は確認されず　［周溝］東壁下、壁よりやや離れて部分的に掘り込まれている。幅40～55cm、深さ12cm程度を測る　［柱穴］Ｐ１～Ｐ４の４本主柱　［カマド］北壁中央やや西寄りに構築されている。火床に土師器甕片を敷き並べている。両袖と粘土は位置がずれているが、火床に被った粘土はカマド壁体が落ちたものと考えられる。また左袖脇に多量の粘土があったが、何らかの目的で貯えられていたものか。右袖前面に炭が分布。煙道の基部付近がよく焼けている［付属施設］なし　［増改築］なし　［床下検出遺構］なし［出土遺物］カマド前面およびＰ２南側で遺物出土。また、Ｐ４南側で紡錘車出土。遺物量はやや多い。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｆ１・甕Ｆ２・甕Ｆ・甕Ｇ・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・〔甑Ａ〕・〔壷Ｂ〕・壷、ロクロ系土師器－〔坏蓋〕、須恵器－甕・〔長頸壷〕・短頸壷Ｃ・〔提瓶〕、紡錘車、Ｐ２から須恵器―坏蓋Ｈ、Ｐ７から須恵器―坏蓋Ｈが出土。他に混入遺物として弥生－後期壷出土　［時期］新旧関係から古墳時代後期以降と考えられる。

⑤ＳＢ25（挿図24、第５図８～第６図２、第21図２、第35図10）

［検出位置］ＡＨ21付近　［規模］3.7×(4.5)m、深さ20cm　［床面積］（14.8）㎡　［形態］不整長方形を呈すると考えられる　［主軸］Ｎ３°Ｅ　［重複］ＳＢ28を切り、ＳＢ24に切られる。また、遺物の時期からＳＢ31を切るものと考えられる　［調査所見］掘り方は砂礫層に達する　［埋土］自然埋没と考えられる［壁］検出面から浅く立ち上がりの状態は不明である　［床］硬い部分なし。断面観察の結果、貼床は確認されず。　［周溝］なし　［柱穴］総体的に浅いものが多く、把握できず　［カマド］北壁中央に構築された。火床・支脚・右袖・煙道が遺存する。袖石は遺存していなかったが、下部を精



挿図23　ＳＢ24



挿図24　ＳＢ25

査したところ袖石の据え方が確認され、石芯粘土カマドであったと考えられる ［付属施設]なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］なし ［出土遺物]カマド焚き口付近に土師器甕・高坏が集中しており、投棄と考えられる。Ｐ１・Ｐ６間から臼玉出土。遺物量はやや多い。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・〔坏Ｆ４（内黒)〕・高坏Ａ２・高坏Ａ３・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｃ（内黒）・鉢Ｄ・鉢Ｄ（内黒）・甕Ｆ１・甕Ｆ２・小型甕Ｄ・小型甕Ｆ・小型甕・〔甑〕・壷Ｄ・壷、須恵器－坏蓋Ｂ・甕・〔短頸壷〕が出土 ［時期］古墳時代後期から一部奈良時代にかかると考えられる。

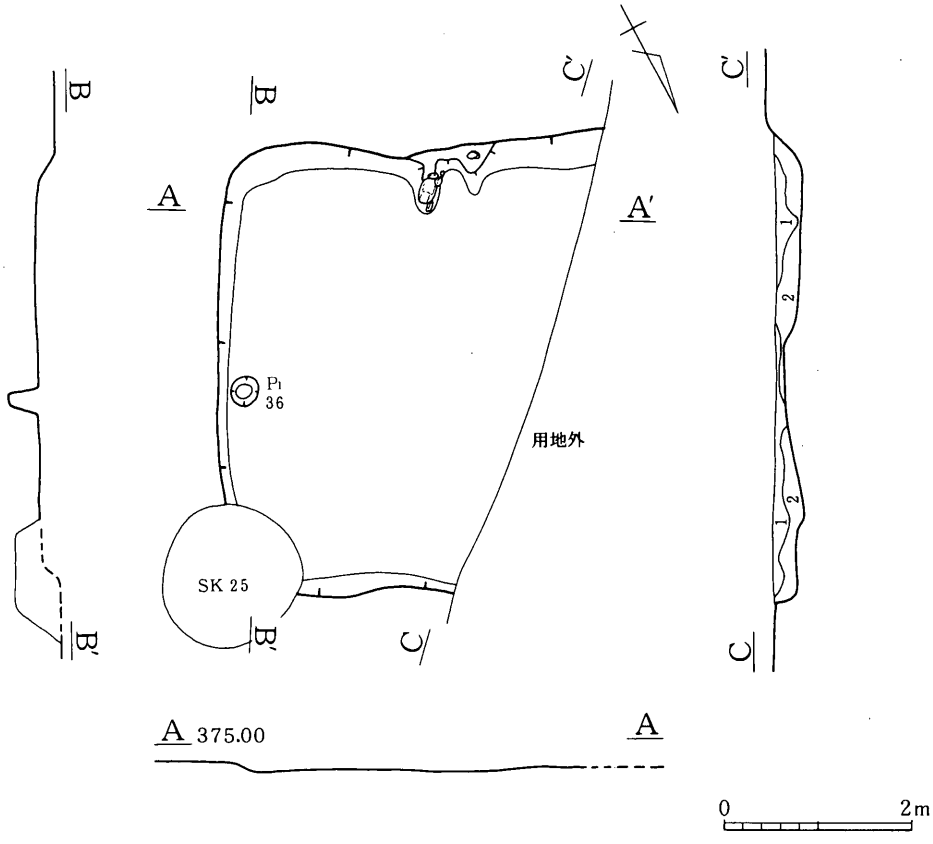
⑥ＳＢ26（挿図22、第21図４）

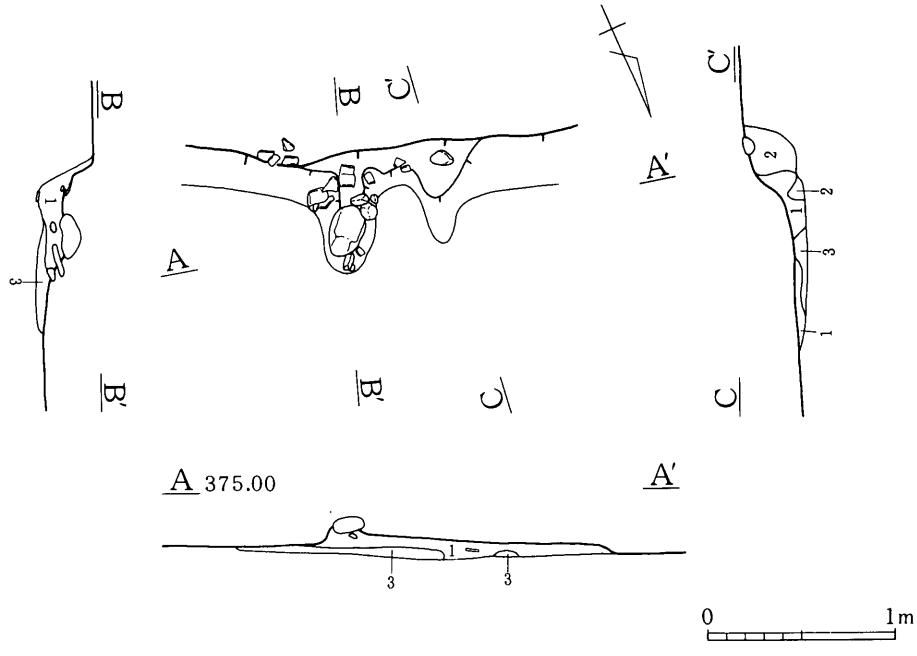
［検出位置］ＡＫ21付近 ［規模］－×5.4m、深さ10cm ［床面積］－ ㎡ ［形態］不整方形を呈すると考えられる ［主軸］南西辺の方向Ｎ60° Ｗ ［重複］なし ［調査所見］１／２以上が調査区外にかかる。掘り方は砂礫層に達する ［埋土］単層である。埋没過程は不明 ［壁］削平を受け遺存せず ［床］軟弱である ［周溝］南西辺南側に部分的に周溝を把握した。幅10cm、深さ５cmと痕跡的である ［柱穴］あるいはＰ１が主柱穴であろうか ［カマド］調査区外にあると考えられ、具体的位置は不明である。Ｐ３上部に炭が被るが、これが灰掻き穴とすれば北西辺にカマドがあったと言いうる ［付属施設]なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］なし ［出土遺物]遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ１（内黒）・高坏Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ１・小型甕、Ｐ１から非ロクロ系土師器－高坏・小型甕が出土 ［時期］古墳時代後期。

3) 奈良～平安時代

⑦ＳＢ17（挿図25、第６図３～５・第21図５～７）

［検出位置］ＡＤ00付近 ［規模］－×4.7m、深さ34cm ［床面積］－ ㎡ ［形態］不整方形を呈すると考えられる ［主軸］Ｎ158° Ｗ ［重複］ＳＫ25に切られる ［調査所見］西側約１／４が調査区外にかかる。ＳＫ25との新旧関係は平面検出による ［埋土］自然埋没と考えられる ［壁］緩やかに立ち上がる ［床］軟弱である。掘り方は砂礫層に達しており、凹凸が著しいため貼床されたと考えられるが、断面でも確認できず。掘り方まで掘削後埋め戻して床面とした可能性もある ［周溝］なし ［柱穴］主柱穴と考えられるものは把握できず ［カマド］南壁中央付近にカマド袖状に地山を掘り残した部分あり。炭が出土したものの焼土等は見つかっておらず、カマドらしくない。礫は立位ではなく、カマド袖石とすれば原位置から動いているものと考えられる。礫と壁の間付近から土師器甑が出土。カマドが別にあるとすれば、調査区外の西壁か ［付属施設]なし ［増改築］なし ［床下検出遺構］なし ［出土遺物]遺物量は多い。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・鉢Ｄ・鉢（内黒）・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ１・甕Ｆ２・甕Ｆ・甕Ｇ・小型甕Ｂ・小型甕Ｆ・小型甕・甑Ａ１・〔壷〕、須恵器－坏Ａ・坏Ｂ・坏蓋Ｂ・〔皿Ｃ〕・〔高坏蓋〕・〔椀Ｂ〕・甕Ｅ・瑕Ａ、灰釉陶器－長頸壷が出土。非ロクロ系土師器高坏Ａに坏部を坏に転用したものがあり ［時期］奈良～平安時代と考えられる。





挿図25　ＳＢ17

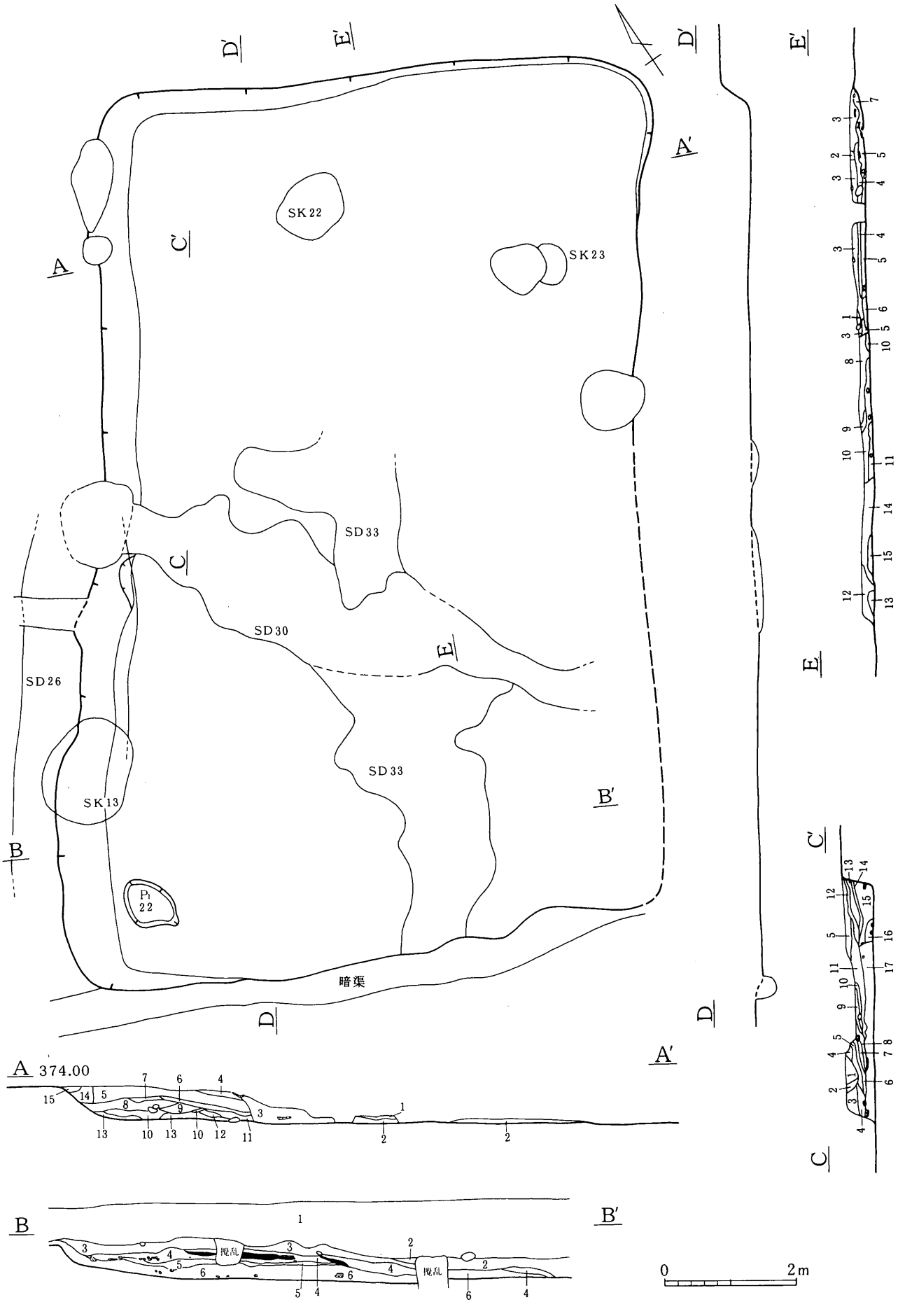
(2)竪穴

①ＳＢ09（挿図31）

［検出位置］ＢＸ46付近　［規模］－×－m、深さ26cm　［形態］方ないし長方形？　［主軸］N26°E　［重複］なし　［調査所見］大部分が調査区外にかかり、また排水路設定により一部を破壊した。壁の一部と周溝状の鉤の手に屈折する溝、それに僅かではあるが炭が確認された。竪穴住居址の可能性もある　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］急に立ち上がる　［底面］硬い部分等は把握できず［柱穴］不明　［付属施設］不明　［出土遺物］遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・小型甕、須恵器－甕・〔長頸壷〕、周溝状から非ロクロ系土師器－甕Ｆ・〔甑〕が出土　［時期］詳細時期不明である。

②ＳＢ10（挿図26～30、第６図６～第８図３・第35図５・６・11～19・38、第36～72図）

［検出位置］ＢＴ07付近　［規模］13.8×8.4m、深さ50　［形態］不整長方形を呈する　［主軸］北西辺の方向N35°E　［重複］ＳＫ22・ＳＫ23に切られ、ＳＤ30・ＳＤ33・ＳＫ13と重複する　［調査所見］本址は平成10・11年度にまたがって調査をしたこと、10年度調査分で住居址の構造材かと考えられる材が出土したこと、南東側が平面検出時に明確に把握されなかったこと、さらに埋土の平面分布に違いがあったこと等から、当初４棟の竪穴住居址の重複する可能性を考えてＳＢ10・ＳＢ13～ＳＢ15に分けながら調査したが、最終的にＳＢ13～ＳＢ15を含め１遺構と判明した。このため、本址取り上げ遺物にはＳＢ13～ＳＢ15No.付の遺物が含まれる。南東側は開田に際して削平および畦畔が作られており、確認できなかった。南西壁は暗渠排水により大部分が破壊されており、本址内部にも暗渠排水が設けられていた。ＳＫ22との新旧関係は断面Ｃ－Ｃ'で把握した。ＳＤ30とは断面Ｄ－Ｄ'の観察から同時存在で、一体的に機能していたと考えられる。ＳＤ30の北西端部は明確でなく、湧水点にあたるのではないかと考えられる。ＳＤ33と重複して杭列があったが、丸頭釘が打ち込まれており、近代のものである。ＳＤ33は溝址でなく畦畔が土圧で沈み込んだものと考えられる　［埋土］埋土上層は砂と黒色土の薄層の互層で多量に砂が供給されているのに対し、下層は漆黒の粘質土で間層として灰色細砂層が入り、漆黒土と互層となる。上層の砂は粒径に差がないことから、堆積原因は洪水に起因するものでなく、ＳＤ30から不定期に供給されたものと考えられる　［壁］北西壁で良好に遺存しており、緩やかな立ち上がりを示す　［底面］ほぼ平坦であるが、硬い部分は検出できず。また、貼床はされていない　［柱穴］Ｐ１を除き検出できず、上屋があった可能性は低いと考えられる　［付属施設］カマド等はなし。南西側を中心に杭が不規則に打ち込まれている　［出土遺物］遺物量は非常に多く、殊に木質遺物が非常に多い。構造材は中層までほとんどなし。上層に屋根を葺いたと考えられる木皮等が多い。若干炭化した材もある。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２・坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ１（内黒）・坏Ｆ２（内黒）・坏Ｆ？・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・高坏Ｂ・鉢Ｂ・鉢Ｄ・鉢Ｄ（内黒）・甕Ｆ１・甕Ｆ２・甕Ｇ・台付甕・小型甕Ａ・小型甕Ｂ・小型甕Ｆ・小型甕・甑Ａ１・甑Ｆ・〔壷Ｂ〕・壷Ｄ・壷・瑞・ミニチュア土器、ロクロ系土師器－坏Ｇ１、須恵器－坏Ｈ・坏蓋Ｈ・坏蓋・高坏・蓋・甕Ａ・甕・長頸壷Ｂ・長頸壷・〔壷蓋〕・瑞Ａ・〔提瓶〕、灰釉陶器－碗Ａ、農具－曲柄ナスビ形又鍬・直柄横鍬・横鍬泥除・直柄装着多又鋤・一木鋤、工具－袋状鉄斧の柄、漁具－網枠、織具－桙、容器－槽・曲物、ヒョウタン杓子、武器－木製短甲？、楽器－琴柱、祭祀具－鳥形・船形祭祀具・



挿図26　ＳＢ10(1)全体

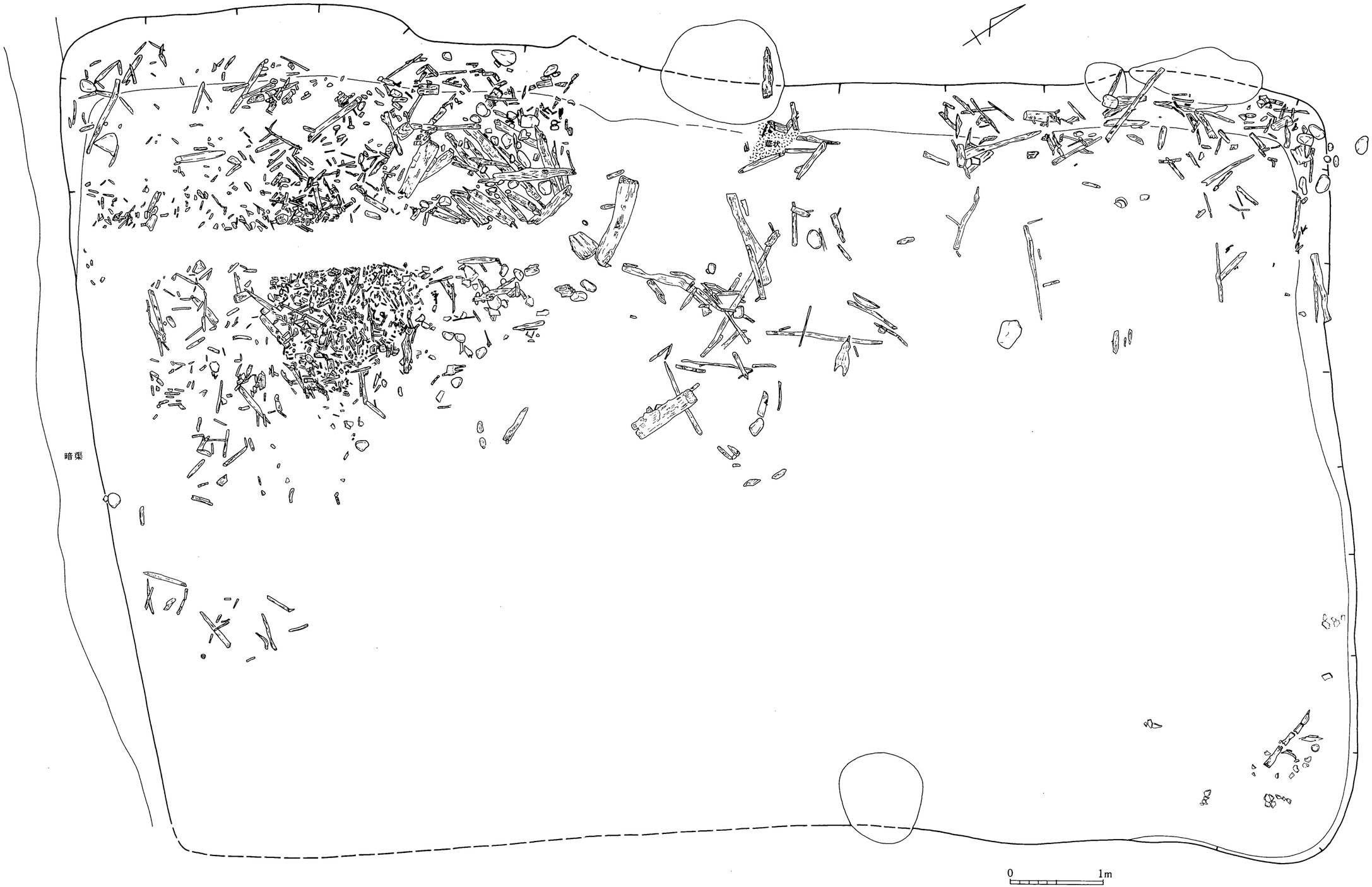
きぬがさ状木製品・木鏃・槍形・弓形・斎串、縦材・横架材・垂木等の建築部材、屋根材、鞴羽口、臼玉・土製小玉が出土。混入遺物として縄文－後期中葉・時期不明（撚糸文）、弥生－後期甕、陶器－不明（鉄釉／産地不明）、磁器－不明（瀬戸）がある。この他、ヒョウタン、種子類（栗・ヒシの実・クルミ・モモ等）、甲虫類の翅等が出土している。ヒシの種実は下層に多く含まれる　［時期］主に上層に平安時代、下層に古墳時代中期以降の遺物が多くあり、古墳時代中期に造られ、平安時代に廃絶したと考えられる　［本址の性格］形態から住居址・建物址・工房址等の可能性が考えられたが、柱穴やカマド等の施設、それに工具類等は検出されなかった。一方、埋土中からヒシの実が多量に出土した。自然科学的な分析調査では種実遺体が多く、いずれも草本類で水深が深く富栄養な沼沢に生育する種類が多いという結果が得られている。こうしたことから、本址は小規模な溜め池であったと考えられる。木製農具の未成品や構造材を杭に転用したものが含まれていること、一画に杭が打ち込まれておりこの付近に木製品が集中することから、未成品や転用品の貯蔵的な機能をも併せ持つものであったと考えられる。一方で鋤柄の破損品等も含まれており、流れ込みあるいは廃棄されたものがある。埋土の状況からみると、本址の水域・堆積環境は大まかに前・後半に分けて考えることができる。前半は、多く出土するヒシが沼沢地に自生することから、湛水状態であったことが考えられる。この意味で木製品の西隅への集中は浮遊していた結果とも考えられる。後半は、砂を伴って水が多く流れ込む時期と、止水に近い状態の時期が繰り返されたと考えられる。湧水点付近に立地することから、当初は主に湧水を利用していた可能性があるが、ほぼ中央に位置するＳＤ30とは埋土の状況から同時期と考えられることから、ある時期からはＳＤ30から導水していたと考えられる。上述のとおり埋土の上・下層で不連続が認められるが、その要因の１つとして中途で埋積した土砂を取り除いたことが考えられる。しかし、下層の上面は平坦となっており、その可能性は低い。徐々に土砂が埋積している状況から、古墳時代中期から平安時代まで継続使用されたと考えられる。

③ＳＢ12（挿図31）

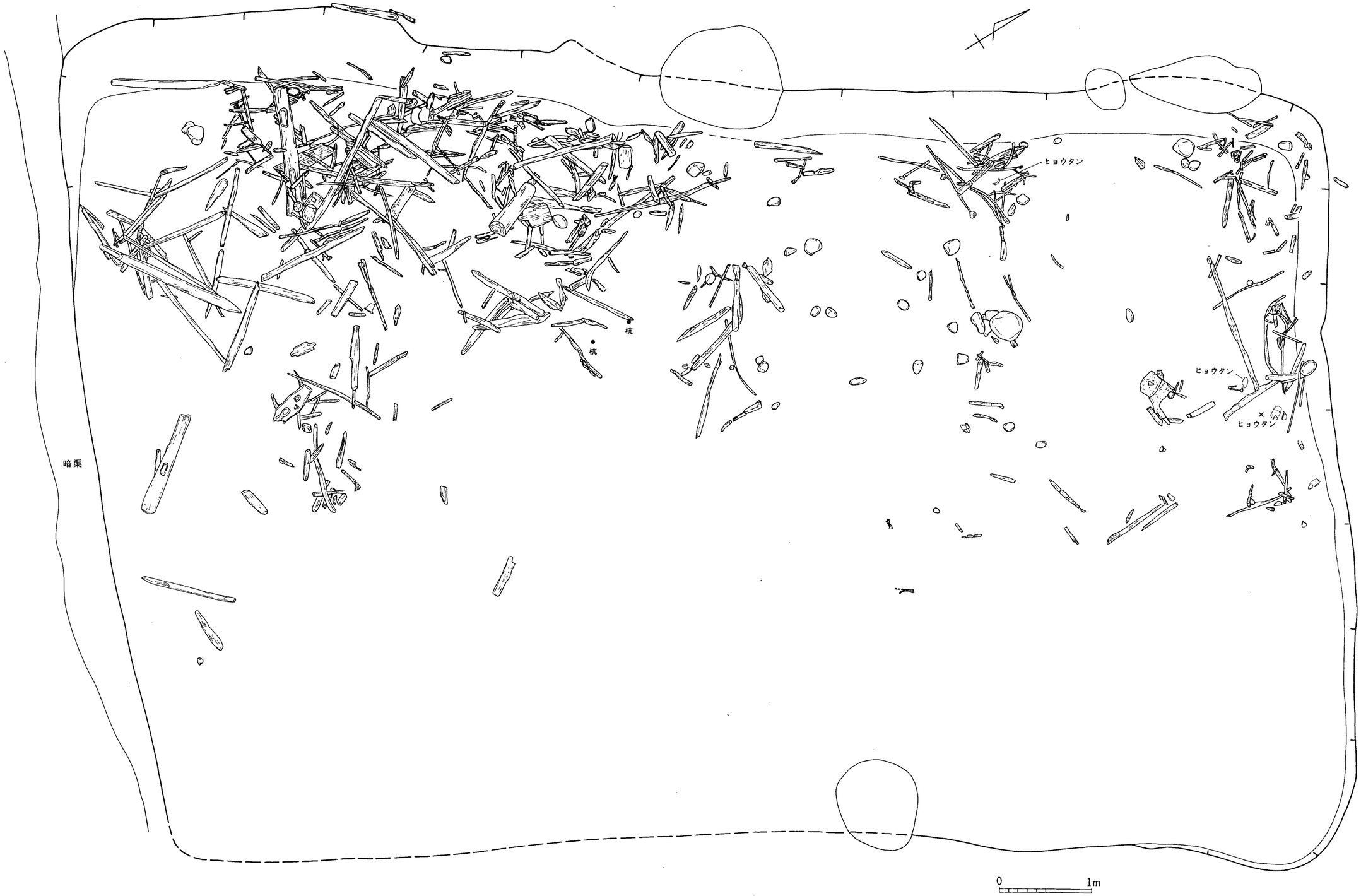
［検出位置］ＢＲ48　［規模］－×2.3m、深さ９㎝　［形態］不整形　［主軸］N85°Ｗ　［重複］ＳＤ09と重複する　［調査所見］南壁際に沿ってＳＤ09が掘り込まれるが、新旧関係は不明である　［壁］検出面から底面まで浅く立ち上がりの状態は悪いが、緩やかであると考えられる　［底面］硬い部分等なし　［柱穴］なし　［付属施設］なし　［出土遺物］なし　［時期］時期不明。

④ＳＢ16（挿図31）

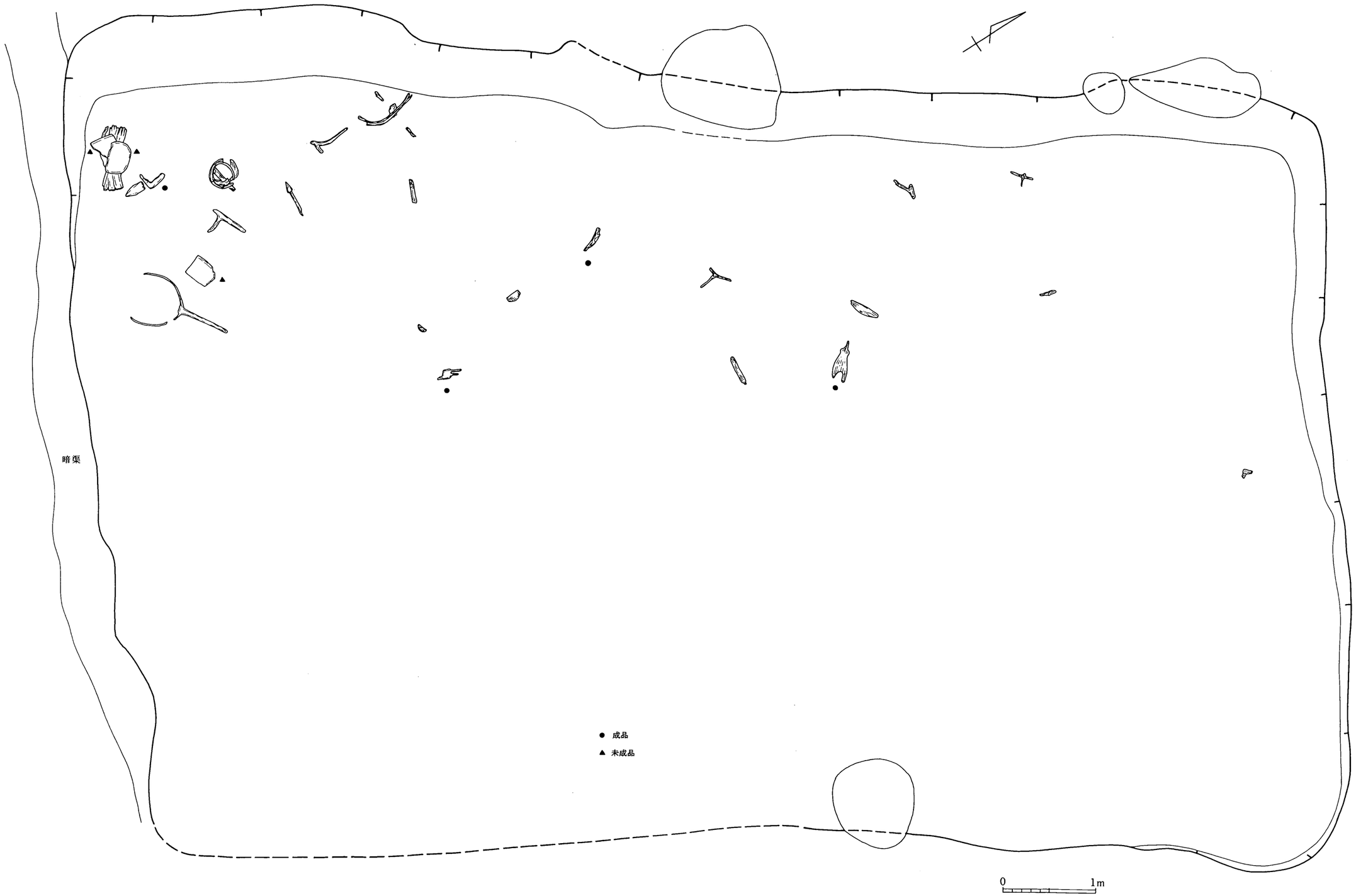
［検出位置］ＢＶ18　［規模］3.0×2.9m、深さ28㎝　［底面積］(7.3)　㎡　［形態］隅丸方形　［主軸］南西壁の方向　N37.5°Ｗ　［重複］ＳＴ27Ｐ１・ＢＶ19Ｐ１に切られる　［調査所見］当初柱穴の集中と考えられたが、調査中に本址の広がりが把握された　［埋土］自然埋没と考えられる［壁］削平によりごく一部分が遺存。ほぼ垂直に立ち上がる　［底面］堅固であり、不明瞭であるが貼床されている［柱穴］１基把握された　［付属施設］なし　［床下検出遺構］なし　［出土遺物］全般から出土し、破片が主体である。遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・坏Ｄ・高坏Ａ・甕Ａ・甕Ｆ１・小型甕・壷Ａ・壷Ｂ・壷Ｄ・壷、須恵器－坏蓋Ｈ？・椀Ｂ・碗Ａ、Ｐ１から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・甕が出土。他に混入遺物として陶器－擂鉢（口縁外帯形／鉄釉／瀬戸美濃系）が出土　［時期］



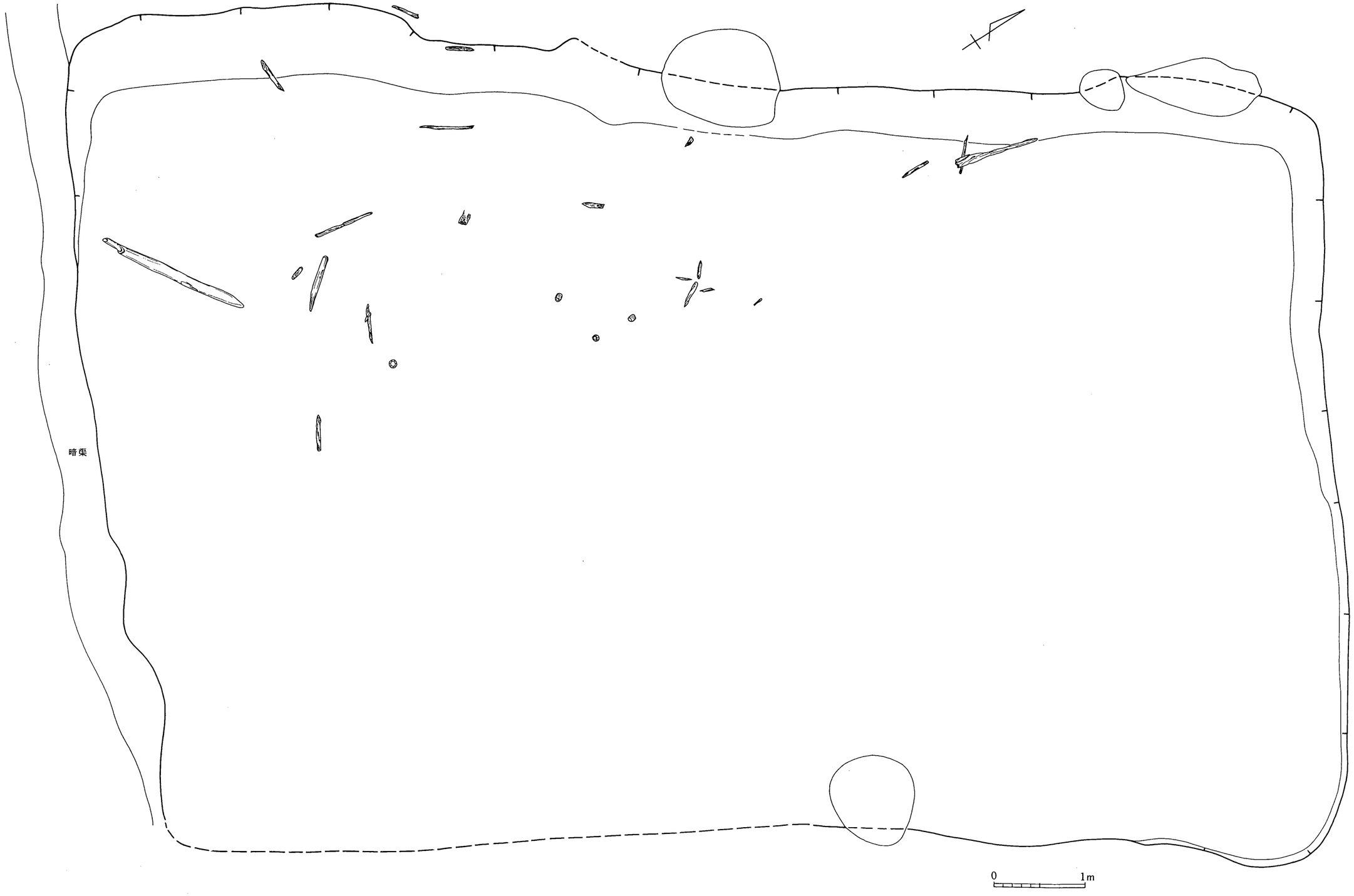
挿図27　ＳＢ10(2)上層木製品等出土状況



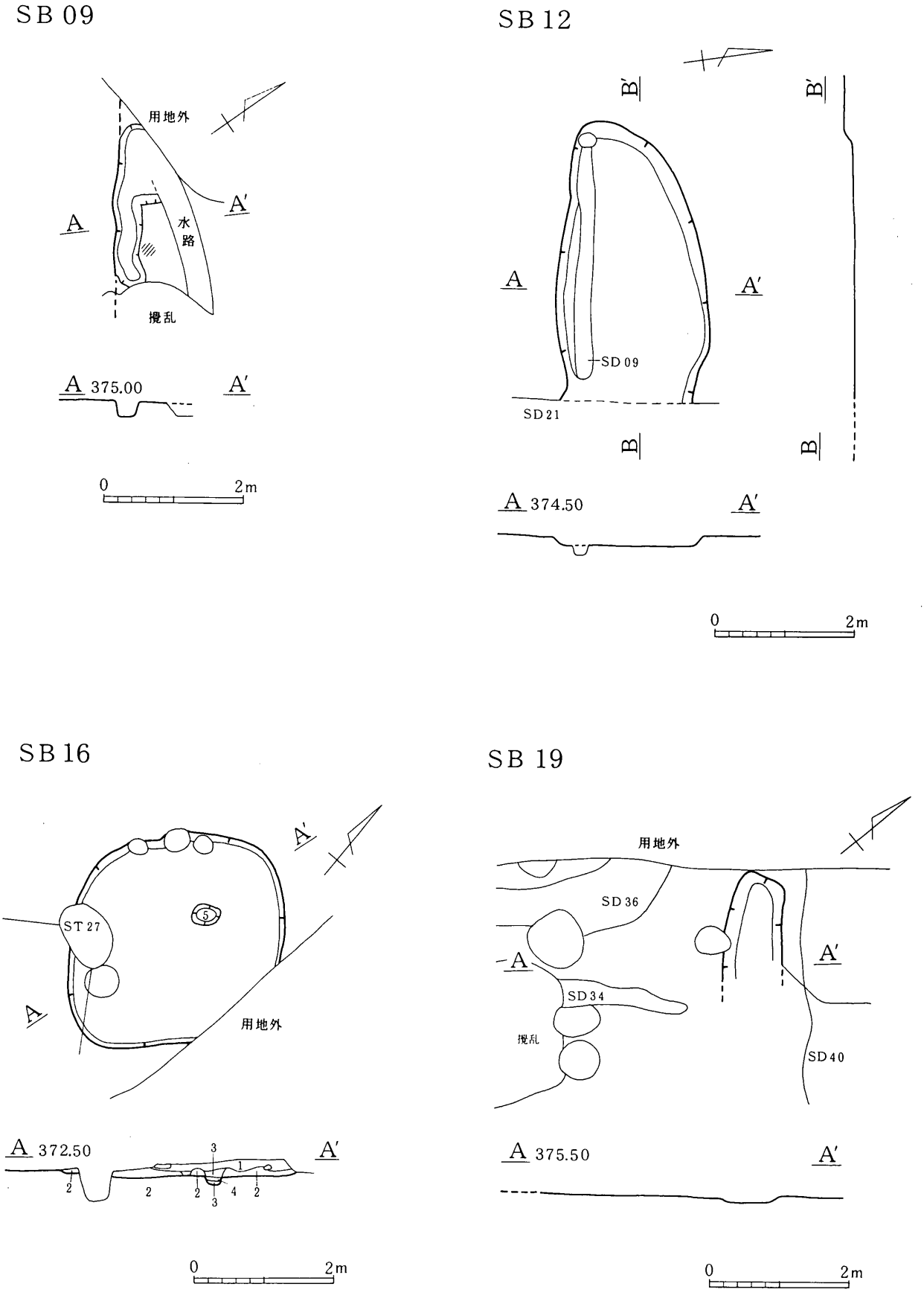
挿図28　ＳＢ10(3)建築部材等出土状況



挿図29　ＳＢ10(4)農具等主な木製品出土状況



挿図30　ＳＢ10(5)杭検出状況



挿図31　ＳＢ09、ＳＢ12、ＳＢ16、ＳＢ19

古墳時代中期。

⑤ＳＢ19（挿図31、第８図４・第23図２）

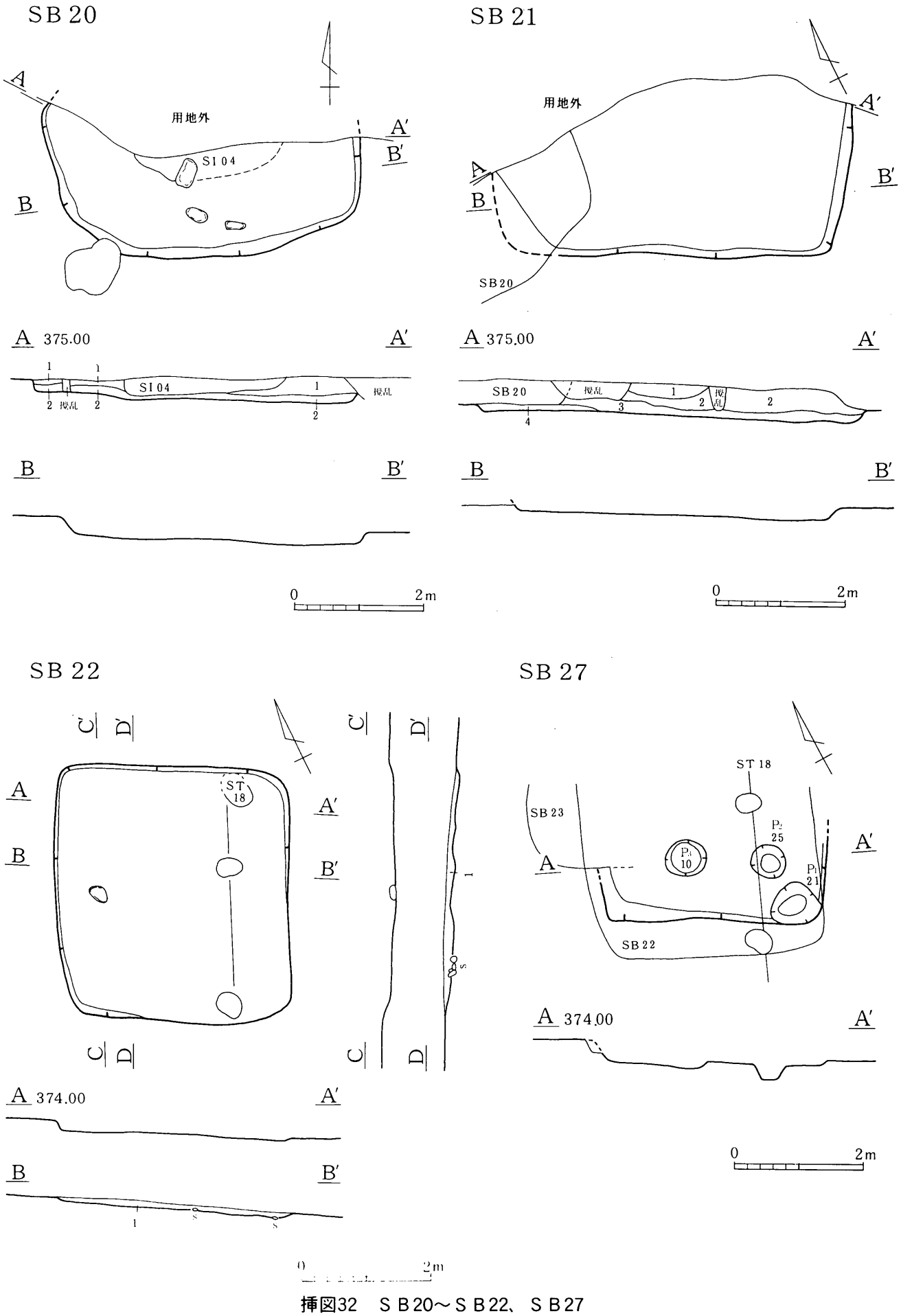
［検出位置］ＡＢ48　［規模］－×－ｍ、深さ８㎝　［形態］不明　［主軸］Ｎ50°Ｗ　［重複］［調査所見］周溝状の部分のうち、ごく一部を把握した。平面ではプランは把握できず、完掘時の形態と、遺物の出土状況から、上部を削平された住居址の可能性もあると判断し、ＳＢとした　［壁］立ち上がりの状態は不明　［底面］付近で硬い部分等は確認できず　［柱穴］不明　［付属施設］不明　［出土遺物］遺物量はやや少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｄ・〔鉢（内黒）〕・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ２・甕Ｆ・小型甕、ロクロ系土師器－坏Ａ、須恵器－坏Ａ・坏蓋Ｂ・〔盤〕・鉢Ａ・甕・〔長頸壷〕・短頸壷Ｂ・〔瑞Ａ〕　［時期］奈良～平安時代と考えられる。

⑥ＳＢ20（挿図32、第23図３）

［検出位置］ＡＮ13　［規模］4.7×－ｍ、深さ40㎝　［形態］隅丸方形を呈すると考えられる　［主軸］南壁方向　Ｎ88°Ｅ　［重複］ＳＩ04に切られ、ＳＢ21を切る　［調査所見］調査区外に多くかかる。西辺が歪むこと、諸施設の状況が不明であることから、とりあえず竪穴とした。床面の状態や断面観察の結果、新旧関係が把握された　［埋土］自然埋没　［壁］やや緩やかに立ち上がる　［底面］砂礫層中に達しており、貼床されていたと考えられるが、平面・断面とも貼床は観察できず、掘り方を埋め戻したと考えられる　［柱穴］不明　［付属施設］不明　［出土遺物］上・中層に多い。検出面で鉄製鍬ないし鋤先が出土した。遺物量はやや少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ２（内黒）・坏Ｄ・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ２・甕Ｆ・台付甕・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・〔甑Ａ〕・甑Ｆ・甑・壷Ａ・壷Ｄ、須恵器－蓋・甕・壷の他、混入遺物として縄文－中期後葉土器が出土　［時期］古墳時代中期。

⑦ＳＢ21（挿図32、第23図４・第73図１）

［検出位置］ＡＭ15　［規模］5.5×－ｍ、深さ18㎝　［形態］不整形であるが、方形を呈すると考えられる　［主軸］南西壁の方向　Ｎ65°Ｗ　［重複］ＳＢ20に切られる　［調査所見］約１／２が調査区外にかかる。北西辺は大きく西側に開いているが、ＳＢ20下部で痕跡的に把握できた程度であり、コーナー部分が十分に把握できていないと考えられる。ＳＢ20と同様、諸施設の状況が不明であることから、とりあえず竪穴とした　［埋土］自然埋没と考えられる　［壁］南西・南東壁は明確であり、緩やかな立ち上がりを示す　［底面］掘り方はＳＢ20と同様砂礫層に達するが、やはり平面・断面とも貼床は観察できず、掘り方を埋め戻したと考えられる　［柱穴］不明　［付属施設］不明　［出土遺物］全体から出土しているが、破片が主で、出土層は全般にわたる。遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ１（内黒）・高坏Ａ３・高坏Ａ・鉢Ｄ・甕Ｆ２・甕Ｆ・台付甕・小型甕・壷Ｄ、須恵器－坏蓋Ｂ・甕、灰釉陶器―碗Ａの他、混入遺物として縄文土器と弥生－後期壷が出土　［時期］重複関係から古墳時代中期と考えられる。



挿図32　ＳＢ20～ＳＢ22、ＳＢ27

⑧ＳＢ22（挿図32）

［検出位置］ＡＪ17　［規模］3.8×3.5m、深さ18cm　［底面積］12.8㎡　［形態］方形　［主軸］西壁の方向　N26°Ｅ　［重複］ＳＢ23・ＳＢ27を切り、ＳＴ18と重複する　［調査所見］ＳＢ23との新旧関係は先行トレンチにより確認。またＳＢ27は本址の床面で検出　［埋土］単層であるが、自然埋没と考えられる［壁］削平によりほとんどない　［底面］南東側に低く傾斜している。床面の状況は不明である　［柱穴］不明　［付属施設]周溝・カマド等なし　［出土遺物］古墳時代後期～平安時代の遺物が出土している。全体から少量出土しているが、破片が主で、出土層は全般にわたる。非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ１・高坏Ａ・鉢Ｄ・〔鉢（内黒)〕・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ１・甕Ｆ・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・〔甑Ａ〕・壷Ｄ、須恵器－坏Ｂ・蓋・甕Ｄ・甕、灰釉陶器－小碗の他、混入遺物として弥生－後期壷が出土　［時期］新旧関係から平安時代の遺構と考えられる。

⑨ＳＢ27（挿図32）

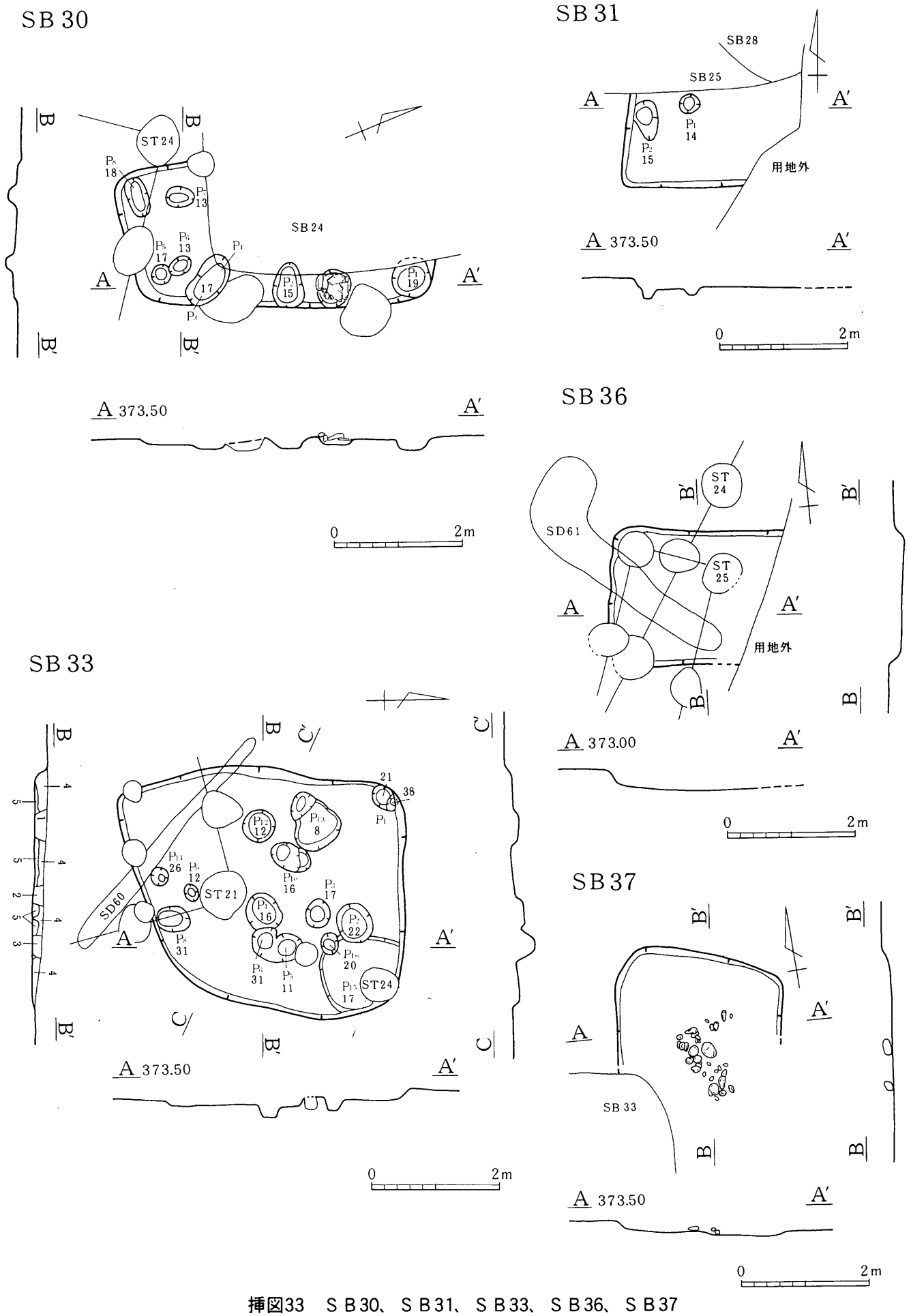
［検出位置］ＡＪ18　［規模］－×3.4m、深さ34cm　［形態］隅丸方形　［主軸］南西壁の方向　N60°Ｗ　［重複］ＳＢ22・ＳＢ23・ＳＩ06に切られ、ＳＴ18と重複する　［調査所見］ＳＢ23との重複ＳＩ06との新旧関係は、Ｐ3の上に礫が被る　［埋土］埋土は単層で自然埋没と考えられる　［壁］明確であり、緩やかに立ち上がる　［底面］平坦でない　［柱穴］不明　［付属施設]周溝・カマド等なし［出土遺物]遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ1・坏Ｄ・高坏Ａ・甕・小型甕・壷Ｄが出土［時期］古墳時代中期と考えられる。

⑩ＳＢ30（挿図33、第９図１・第23図５）

［検出位置］ＡＧ20　［規模］－×－m、深さ９cm　［形態］不明　［長軸］東壁の方向　N21°Ｅ［重複］ＳＢ24に切られ、ＳＴ24と重複する　［調査所見］礫・焼土はなし　［埋土］自然埋没と考えられ、埋土に炭が混じる　［壁］削平によりほとんど遺存せず　［底面］床面は不明確　［柱穴］深さ10～20cm程度の小柱穴が壁際を中心に検出されたが、規則性等は把握できず　［付属施設]なし　［出土遺物]遺物量は僅少で、破片が主体である。東壁際から土師器甕が出土した。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ・高坏Ａ・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｆ・小型甕Ｄ・小型甕、須恵器－高坏、Ｐ３から須恵器－高坏が出土。この他、混入遺物として弥生－後期後葉甕が出土　［時期］古墳時代中期と考えられる。

⑪ＳＢ31（挿図33）

［検出位置］ＡＧ22　［規模］－×－m、深さ16cm　［形態］方ないし長方形を呈すると考えられる［主軸］南壁の方向　N88°Ｗ　［重複］ＳＢ25に切られると考えられる　［調査所見］調査された部分が限られることからとりあえず竪穴とした。本址との重複部分からＳＢ25のプランは不鮮明となり、新旧関係は把握できなかったが、出土遺物からＳＢ25より古いと判断した　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］削平により遺存せず　［付属施設］本遺跡ではカマドをもつ住居址は西ないし北カマドであることから、仮に住居址であるとすれば、ＳＢ25に壊されている可能性がある　［出土遺物]遺物量は僅少で、破片が主体である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・甕、Ｐ１から非ロクロ系土師器－甕・壷Ｄ、Ｐ２から非ロクロ系土師器－甕・小型甕Ａが出土　［時期］古墳時代中期。



挿図33　ＳＢ30、ＳＢ31、ＳＢ33、ＳＢ36、ＳＢ37

⑫ＳＢ33（挿図33、第９図２・第23図６）

［検出位置］ＡＣ16　［規模］4.5×3.7m、深さ23cm　［形態］不整形　［長軸］N10°Ｅ　［重複］ＳＴ21・ＳＴ24・ＳＤ60と重複する　［調査所見］傾斜の下側部分のプランが乱れているが、これは削平を受けた結果と考えられる。カマド・主柱穴等の諸施設が把握できなかったことから、竪穴とした　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］削平を受け遺存状態は良好でないが緩やかに立ち上がると考えられる　［底面］中央に部分的に硬い床面が検出され、貼床されている　［柱穴］深さ８～31cm程度の小柱穴が多数掘り込まれる　［付属施設］なし　［出土遺物］出土量はやや多く、全般から破片出土が多い。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・〔坏Ｆ４（内黒）〕・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｆ・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・壷Ａ・壷Ｂ・壷、須恵器－坏Ａ・坏Ｈ・甕・長頸壷、灰釉陶器－碗Ａ、Ｐ１から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・甕、Ｐ２から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ４（内黒）・高坏Ａ（内黒）・甕Ｆ・小型甕Ｆ、Ｐ３から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ（内黒）・甕Ａ、Ｐ４から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・甕Ａ・小型甕と須恵器－〔碗Ａ〕、Ｐ５から非ロクロ系土師器－高坏Ａ・甕、Ｐ６から非ロクロ系土師器－坏Ｄ２・高坏Ａ・甕・小型甕、Ｐ８から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・坏Ｆ１（内黒）・甕・小型甕、Ｐ９から非ロクロ系土師器－高坏・〔鉢〕・甕Ｆ、Ｐ12から非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・甕Ａ・甕Ｆ・小型甕Ｆ、Ｐ13から非ロクロ系土師器－坏Ｄ・高坏Ａ・鉢Ｄ、Ｐ14から非ロクロ系土師器－小型甕、Ｐ15から非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・甕Ｆ・小型甕、Ｐ16から非ロクロ系土師器－高坏Ａ・甕が出土。他に混入遺物として、縄文土器、弥生－後期壷が出土　［時期］古墳時代後期～平安時代のいずれかと考えられるが、詳細は不明である　［備考］第９図２はＳＢ38と接合。

⑬ＳＢ36（挿図33、第９図３・４）

［検出位置］ＡＤ20　［規模］－×2.0m、深さ30cm　［形態］長方形を呈すると考えられる　［長軸］N85°Ｗ　［重複］ＳＢ32に切られ、ＳＴ24・ＳＴ25・ＳＤ61と重複する　［調査所見］調査区外にかかる。平面検出でＳＢ32との新旧関係を把握し、またＳＢ32床面で北壁が把握された。規模が住居址より小さいことから竪穴とした　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］ほぼ垂直に立ち上がる　［底面］ほぼ平坦で、硬い部分等は把握できず　［柱穴］なし　［付属施設］不明　［出土遺物］遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ（内黒）・〔坏Ｆ４（内黒）〕・高坏Ａ・甕Ｂ・甕Ｆ・〔台付甕〕・小型甕Ａ・〔甑〕・〔壷Ｄ〕、須恵器－〔坏蓋Ｂ〕が出土　［時期］重複関係から、古墳時代中期かと考えられる。

ＳＢ37（挿図33）

［検出位置］ＡＤ17　［規模］－×2.7m、深さ12cm　［形態］不整方ないし長方形を呈すると考えられる　［主軸］西壁の方向　Ｎ９°Ｅ　［重複］ＳＢ33と重複する　［調査所見］ＳＢ33の検出状況と同様、南東側は削平を受け把握できず。このためＳＢ33との新旧関係も把握できず。中央部底面直上に径10～30cmの礫が集中する　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］検出面から浅く、立ち上がりの状態は不明である　［底面］中央部がやや低い　［柱穴］主柱穴なし　［付属施設］なし　［出土

遺物]遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１・坏Ｄ２・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・甕Ａ・〔台付甕〕・小型甕Ｆ・小型甕が出土　［時期］古墳時代中期。

⑮ＳＢ38（挿図34、第９図２・５・６）

［検出位置］ＡＡ15　［規模］－×－ｍ、深さ17㎝　［形態］不明　［主軸］北西壁の方向　Ｎ35.5°Ｅ　［重複］ＳＩ07に切られ、ＳＢ33・ＳＴ21・ＳＤ59と重複する　［調査所見］南側は畦畔石積みに切られており、把握できず。遺物出土が比較的多く、竪穴住居址の可能性が高いと考えられるが、カマド等の諸施設が確認されなかったことから、竪穴とした　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる［壁］緩やかに立ち上がる　［底面］ほぼ平坦であり、硬い部分等は確認できず　［柱穴］検出できず［付属施設]不明　［出土遺物]遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・〔高坏Ａ３〕・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・甕Ａ・小型甕Ａ・小型甕、須恵器－蓋・甕・〔短頸壷〕が出土。他に縄文－土製耳飾、陶器－中碗（天目形／鉄釉／瀬戸美濃系）・不明（灰釉／瀬戸美濃系）が混入出土した　［時期］出土遺物から古墳時代中期と考えられる　［備考]第９図２はＳＢ33と接合。

⑯ＳＢ39（挿図34）

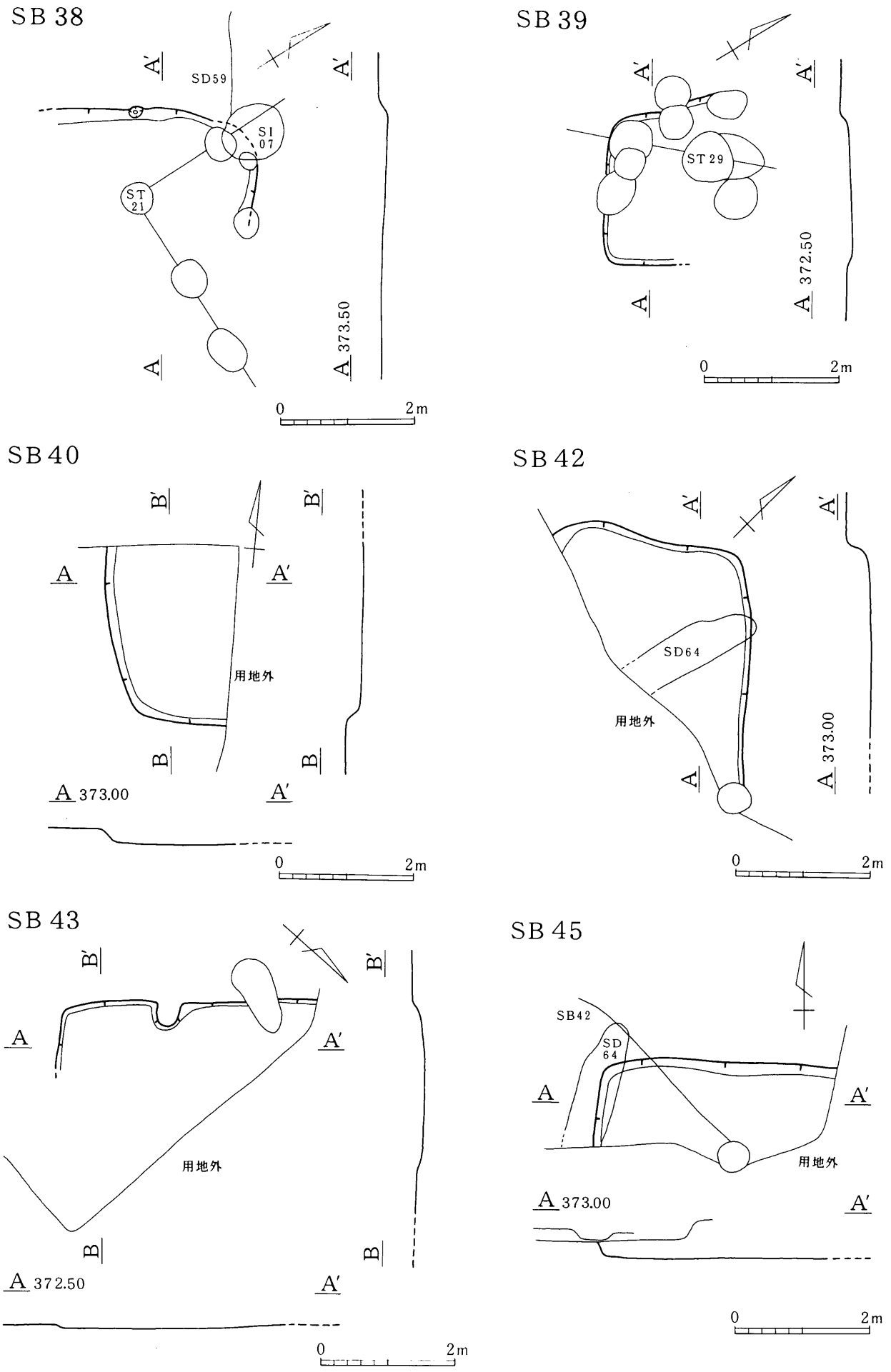
［検出位置］ＢＴ22　［規模］－×2.2ｍ、深さ12㎝　［形態］不整長方形を呈すると考えられる［主軸］南西壁の方向　Ｎ59°Ｗ　［重複］ＳＴ29と重複　［調査所見］検出面から浅く北東辺は把握できず。掘立柱建物址や小柱穴と重複するため、不明な点が多い。規模等から竪穴とした　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］やや緩やかに立ち上がる　［底面］ほぼ平坦で僅かに東側が低い。硬い部分等はなし　［柱穴］なし　［付属施設]なし　［出土遺物]遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・甕Ｆ・小型甕が出土　［時期］古墳時代と考えられる。

⑰ＳＢ40（挿図34、第23図８・９）

［検出位置］ＡＨ27　［規模］－×－ｍ、深さ23㎝　［形態］不明　［主軸］Ｎ11°Ｗ　［調査所見］大部分が調査区外にかかる。出水が著しく、掘り下げ等は困難をきわめた。底面は砂層に達する　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］やや緩やかに立ち上がる　［底面］平坦である。地山の土質の故に硬い床等は把握できず　［柱穴］柱穴なし　［付属施設]不明　［出土遺物]遺物量は少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｃ（内黒）・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｆ・台付甕・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・小型甕・甑・壷、ロクロ系土師器－坏Ｇ、須恵器－坏Ａ・〔皿〕・甕、灰釉陶器－碗Ａ・短頸壷が出土　［時期］詳細時期不明であるが、出土遺物から平安時代かと考えられる。

⑱ＳＢ42（挿図34、第24図１）

［検出位置］ＡＧ26　［規模］－×－ｍ、深さ30㎝　［形態］不明　［主軸］Ｎ43°Ｗ　［重複］ＳＢ45を切り、ＳＤ64に切られる　［調査所見］調査区外に約１／２かかる。ＳＢ40と同様、出水が著しく、検出・掘り下げ等は困難をきわめた。ＳＤ64との重複のため、ＳＤ64の両側は当初別遺構と考えたが、埋土が共通することや底面が連続することから一連の遺構と判断した　［埋土］単層であり自然埋没と



挿図34　ＳＢ38～ＳＢ40、ＳＢ42、ＳＢ43、ＳＢ45

考えられる　［壁］垂直に立ち上がる　［底面］東側に向かって深くなる。硬い部分はなし　［柱穴］なし　［付属施設］不明　［出土遺物］遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ１（内黒）・坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｄ・甕Ｆ・小型甕・甑、黒色土器Ａ－坏Ａ、須恵器－長頸壷が出土。須恵器長頸壷はＳＢ45に同一個体あり、ＳＢ45からの混入である　［時期］詳細時期不明であるが、平安時代かと考えられる。

⑲ＳＢ43（挿図34、第９図８）

［検出位置］ＢＶ22　［規模］－×－ｍ、深さ19㎝　［形態］不明　［主軸］Ｎ52°Ｅ　［調査所見］調査区外に約１／２かかると考えられる。南東辺は排水用の溝を切ったため把握できず　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる［壁］やや緩やかに立ち上がる　［底面］ほぼ平坦である。出水が著しく床面の状況は不明である　［柱穴］なし　［付属施設］南西辺南寄りに僅かな張り出しが確認されたが、焼土等はなく、カマドとは考えられず　［出土遺物］遺物量は僅少である。非ロクロ系土師器－坏Ｄ（内黒）・高坏Ａ・甕・小型甕が出土　［時期］詳細時期不明であるが、古墳時代の遺構と考えられる。

⑳ＳＢ45（挿図34、第９図７）

［検出位置］ＡＧ27　［規模］－×－ｍ、深さ27㎝　［形態］方ないし長方形を呈するものと考えられる　［主軸］北壁の方向　Ｎ87°Ｗ　［重複］ＳＢ42・ＳＤ64に切られる　［調査所見］大半が調査区外にかかる。諸施設の状況が不明であることから、竪穴とした。新旧関係の根拠は、ＳＢ42・ＳＤ64底面でプランが把握されたことから　［埋土］単層であり、自然埋没と考えられる　［壁］垂直に立ち上がる　［底面］平坦である。地山の土質の故に硬い床等は把握できず　［柱穴］なし　［付属施設］不明　［出土遺物］遺物量は少ない。非ロクロ系土師器－坏Ｄ・高坏Ａ・高坏Ａ（内黒）・鉢Ｄ・甕Ａ・甕Ｆ・台付甕・小型甕Ａ・小型甕Ｆ・甑・ミニチュア土器、須恵器－坏Ｂ・坏蓋・〔段皿〕・盤・長頸壷・壷蓋、丸瓦が出土　［時期］詳細時期不明であるが、奈良時代かと考えられる。

(3)掘立柱建物址・柱材遺存柱穴

掘立柱建物址はごく一部を除いて平面検出時には把握できず、調査の最終段階で組み合う柱穴を抽出した。このため、調査所見や埋土に関する所見が欠落しているものが多い。

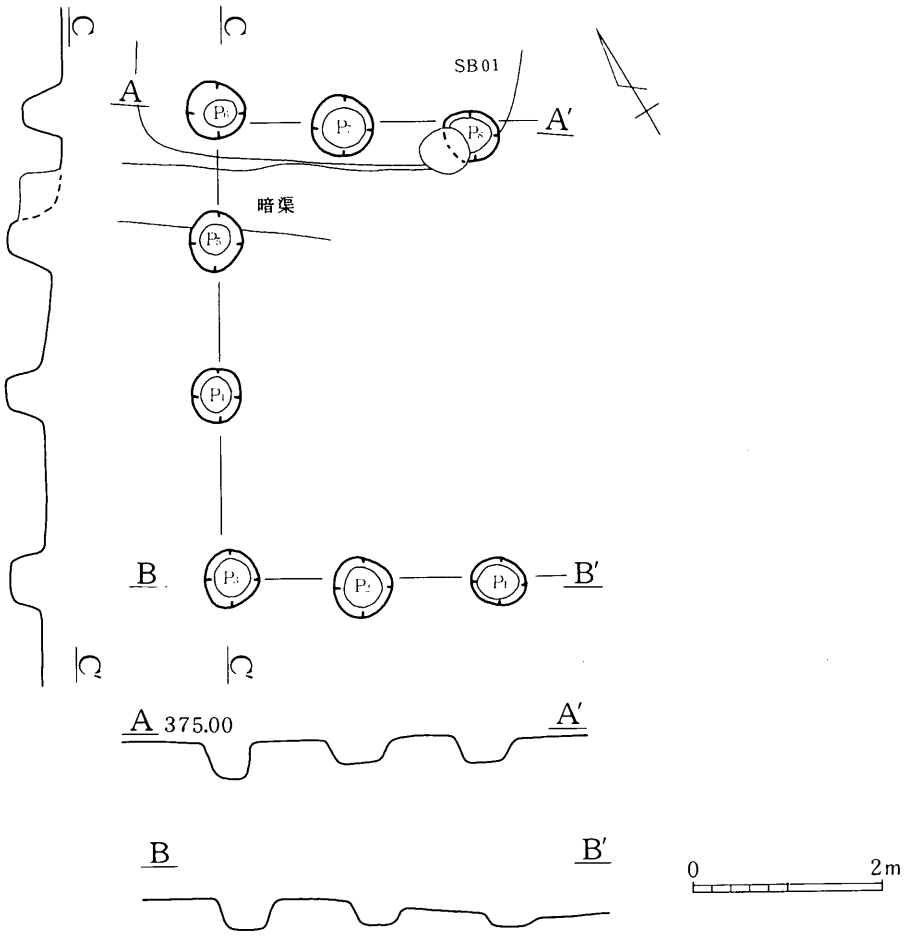
①ＳＴ01（挿図35）

［検出位置］ＢＱ40付近　［形態］３間×３間以上の側柱建物址　［主軸方向］（Ｎ29°Ｅ）　［規模］4.7ｍ×－ｍ［柱間間隔］（桁）1.2＋1.6＋1.9ｍ×（梁）1.4／1.3ｍ［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＢ01を切り、ＳＴ02と重複する　［柱穴］径50～60㎝、深さ10～50㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ６～８の底部レベルはやや浅い　［増改築］なし　［時期］古墳時代中期以降に比定されるが、詳細時期不明である。

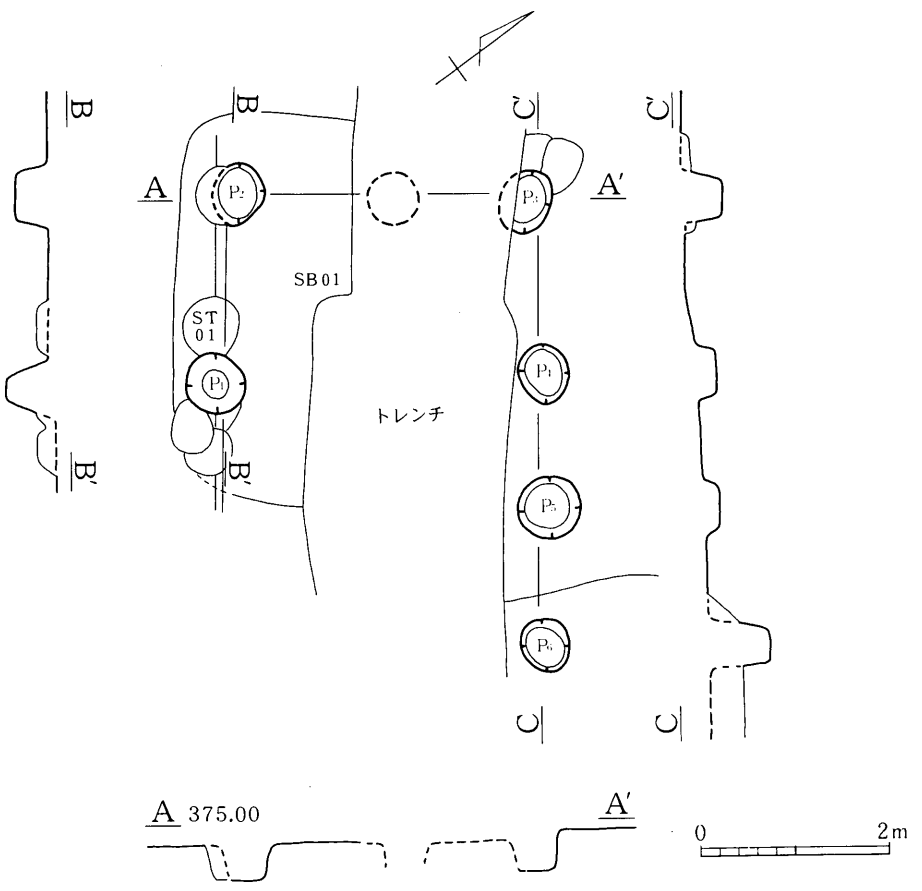
②ＳＴ02（挿図35）

［検出位置］ＢＲ42付近　［形態］４間以上×２間の側柱建物址　［主軸方向］Ｎ56°Ｗ　［規模］－

ST 01



ST 02



挿図35　ＳＴ01、ＳＴ02

m×3.2m　［柱間間隔］桁2.0＋1.4＋1.4＋…m×梁1.6m［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＢ01・ＳＢ04・ＳＴ01・ＳＴ03と重複する。ＳＴ03との新旧関係はＰ３がＳＴ03Ｐ１を切り、Ｐ５がＳＴ03Ｐ９に切られるという平面検出時の所見が得られており、断定できない　［調査所見］試掘トレンチで一部壊す　［柱穴］径55～65㎝、深さ20～65㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ６の底部レベルが深い［増改築］なし　［出土遺物］５世紀前半代の遺物が出土　［時期］古墳時代中期以降の建物址と考えられる。

③ＳＴ03（挿図36）

［検出位置］ＢＴ43付近　［形態］３間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N27°Ｅ　［規模］5.6m×3.7m［柱間間隔］桁1.8＋1.8＋2.0m×梁1.8＋1.9m　［床面積］20.7㎡　［重複関係］ＳＴ04を切り、ＳＢ04・ＳＡ05と重複する　［柱穴］径50～80㎝、深さ15～50㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ８で柱痕と考えられる小穴を確認　［増改築］なし　［出土遺物］５世紀後半から６世紀初頭の遺物が出土　［時期］古墳時代中期以降の建物址と考えられる。

④ＳＴ04（挿図36）

［検出位置］ＢＵ42付近　［形態］３間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N35°Ｗ　［規模］3.9m×2.9m　［柱間間隔］桁1.3m×梁1.45m　［床面積］11.3㎡　［重複関係］ＳＴ03に切られ、ＳＢ04・ＳＡ05と重複する。ＳＡ05との新旧関係はＰ２がＳＡ05Ｐ９を切り、Ｐ７がＳＡ05Ｐ７に切られるという相反する結果が得られており、不明である　［調査所見］柱穴が不整形なものが少なからずあり、柱が抜き取られた可能性あり　［柱穴］径60～110㎝、深さ30～55㎝の平面不整円形・不整形を呈する。Ｐ４がやや浅いものの、底部レベルはほぼ揃う　［増改築］なし　［時期］形態から古墳時代の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

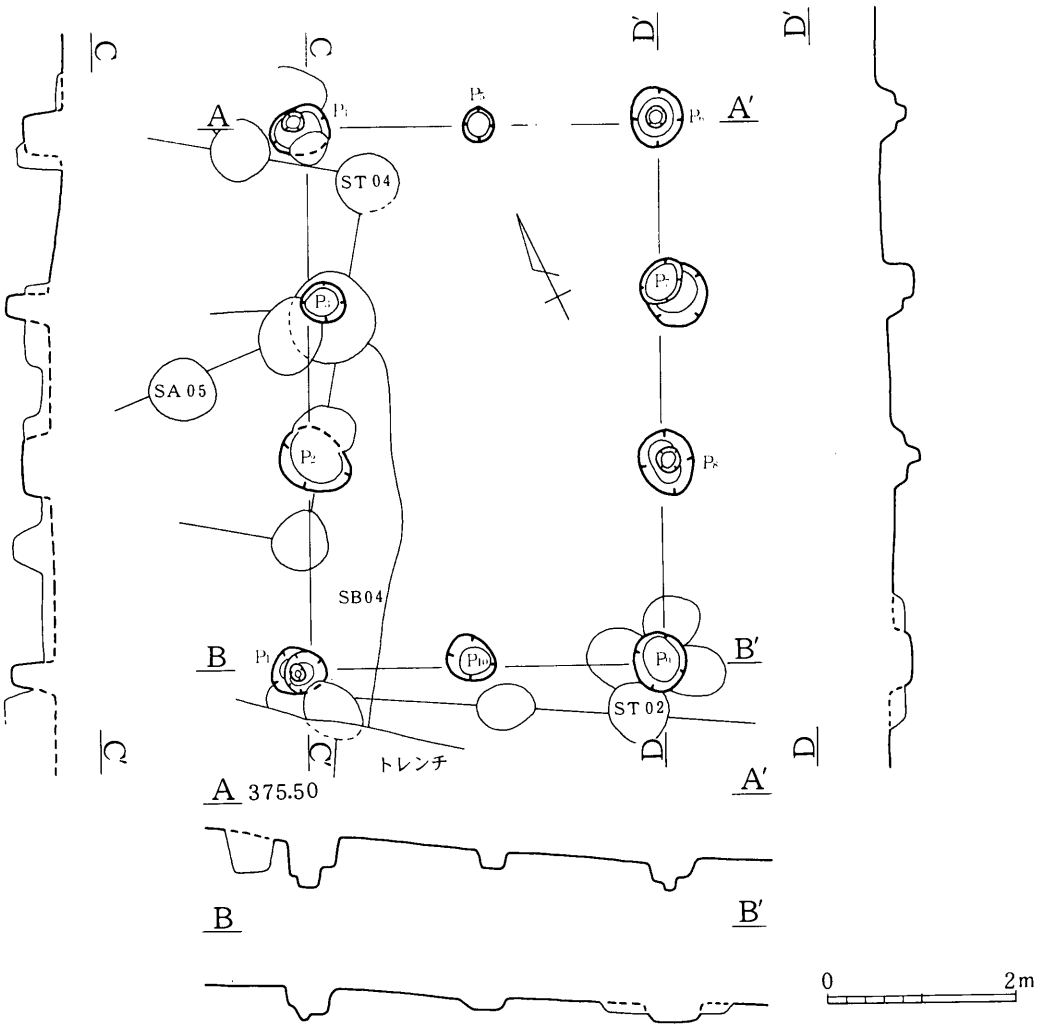
⑤ＳＴ05（挿図37）

［検出位置］ＢＷ43付近　［形態］３間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N39°Ｅ　［規模］4.7m×3.0m［柱間間隔］桁1.8＋1.4＋1.5m×梁1.5／1.6＋1.4m［床面積］14.1㎡　［重複関係］ＳＢ05・ＳＴ07・ＳＤ02と重複する　［調査所見］一部調査区外にかかる　［柱穴］径70～75㎝、深さ20～60㎝の平面不整円形を基調とする。Ｐ５・Ｐ６・Ｐ９に柱痕と考えられる小穴あり　［増改築］なし　［時期］形態から古墳時代の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

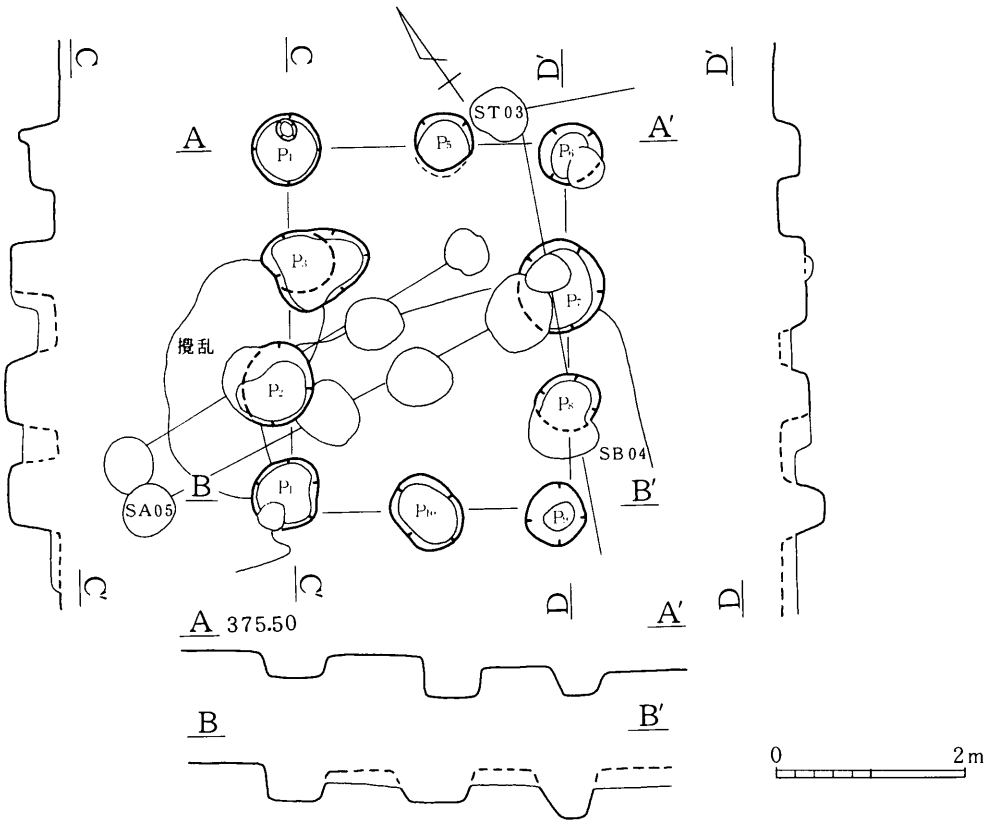
⑥ＳＴ06（挿図37）

［検出位置］ＢＸ39付近　［形態］３間×１間以上の側柱建物址　［主軸方向］（N47°Ｅ）　［規模］4.2m×－m　［柱間間隔］(桁)1.4m×(梁)－m　［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＢ03を切る　［調査所見］大部分が調査区外に延びる　［柱穴］径45～85㎝、深さ15～45㎝の平面不整円形を呈し、深さ・大きさにばらつきがある　［増改築］なし　［時期］重複関係から古墳時代終末以降である。

ST 03

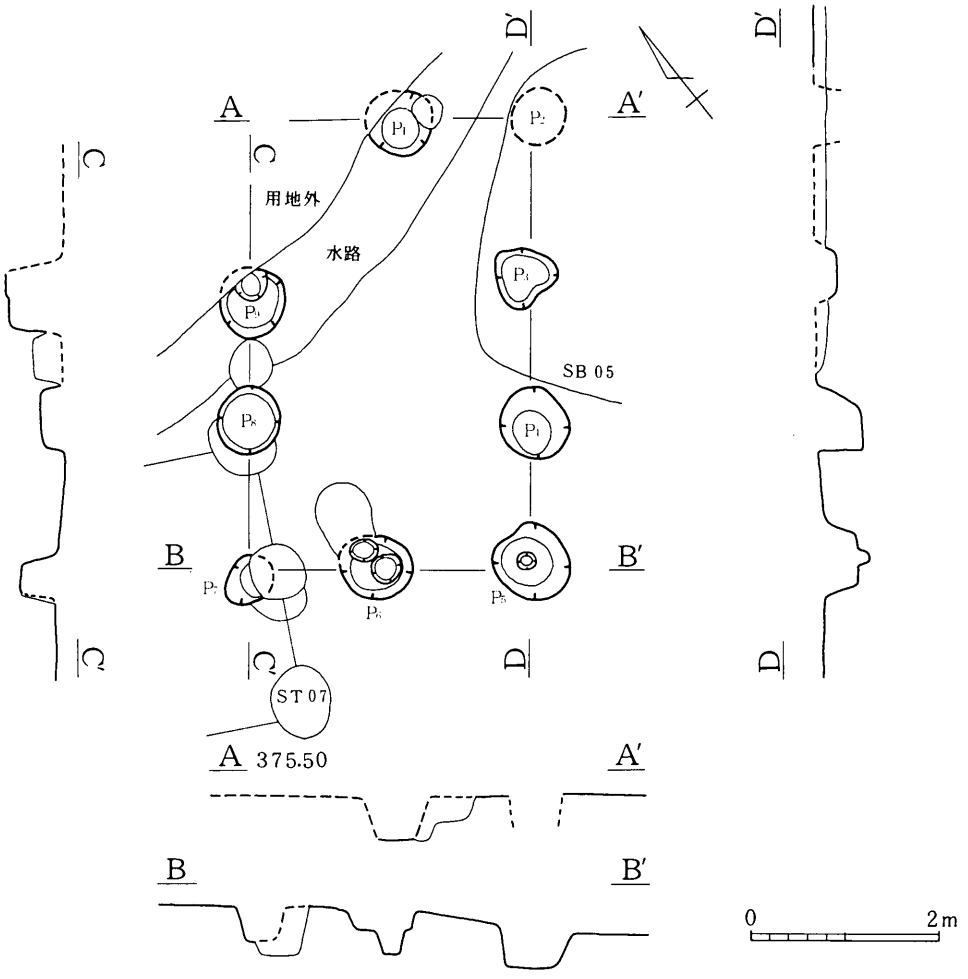


ST 04

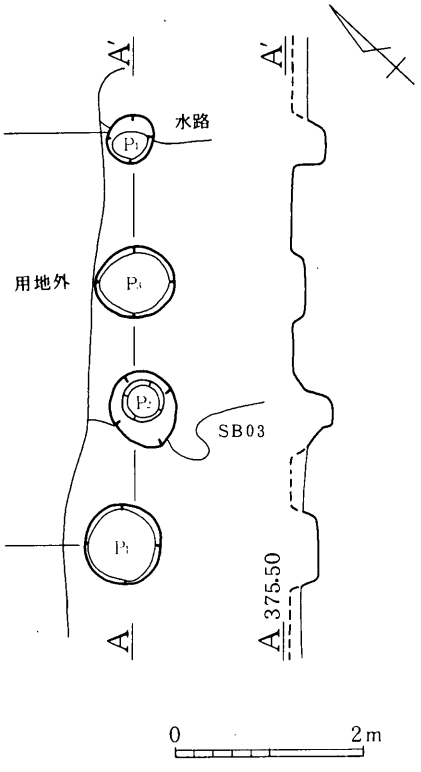


挿図36　ＳＴ03、ＳＴ04

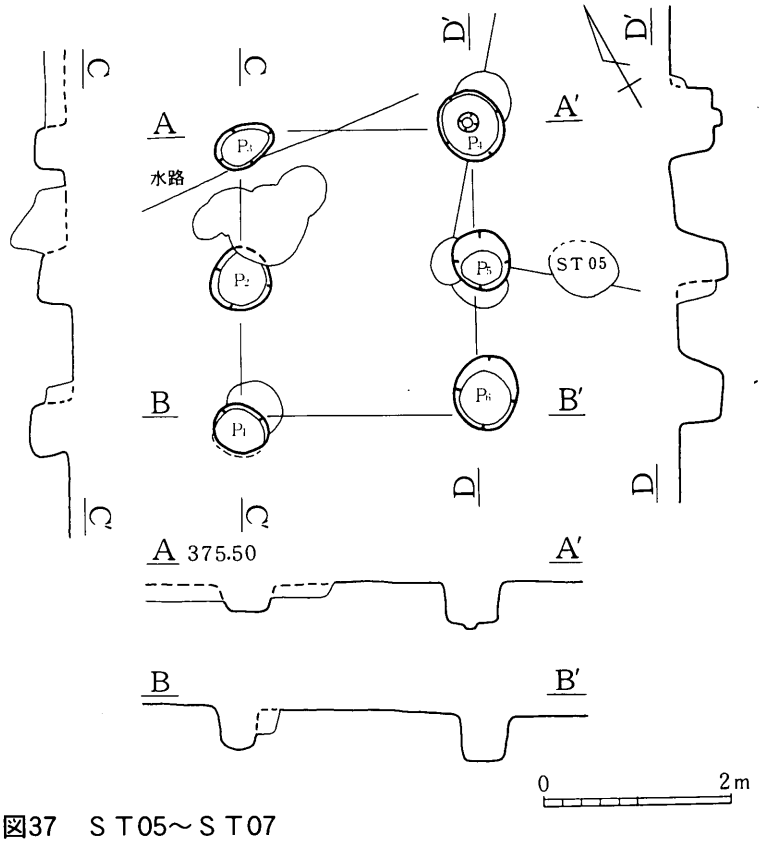
ST 05



ST 06



ST 07



挿図37　ＳＴ05～ＳＴ07

⑦ＳＴ07（挿図37）

［検出位置］ＢＷ41付近　［形態］２間×１間の建物址　［主軸方向］N30°Ｅ　［規模］3.0m×2.5m　［柱間間隔］桁1.5m×梁2.5m　［床面積］7.5㎡　［重複関係］ＳＴ05・ＳＤ01・ＳＤ02と重複する　［柱穴］径60～70㎝、深さ30～55㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。西辺の柱穴は径が小振り。Ｐ４に柱痕と考えられる小穴あり　［増改築］なし　［時期］詳細時期不明である。

⑧ＳＴ08（挿図38）

［検出位置］ＢＰ01付近　［形態］２間×１間の建物址　［主軸方向］N51°Ｗ　［規模］3.2m×0.8m　［柱間間隔］桁1.6m×梁0.8m　［床面積］1.3㎡　［重複関係］ＳＤ21と重複する　［調査所見］梁間が狭く、南西側ないし北東側に延びる可能性が高いが、柱穴は確認できず　［柱穴］径25～40㎝、深さ10～30㎝の平面不整円形を呈する。柱穴の径が小さい。Ｐ３・Ｐ４側が深い。Ｐ２・Ｐ４に柱痕と考えられる小穴あり　［増改築］なし　［出土遺物］なし　［時期］柱穴の規模から中世以降かと考えられる。

ＳＴ09（挿図38）

［検出位置］ＡＧ04付近　［形態］２間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N23°Ｅ　［規模］4.0(3.8)m×3.0m　［柱間間隔］桁2.0(1.9)m×梁1.6＋1.4m［床面積］11.7㎡　［重複関係］ＳＴ10～ＳＴ12と重複する　［柱穴］径50～70㎝、深さ20～40㎝で平面不整形を呈する　［増改築］なし　［時期］規模・形態等から古墳時代の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

ＳＴ10（挿図38）

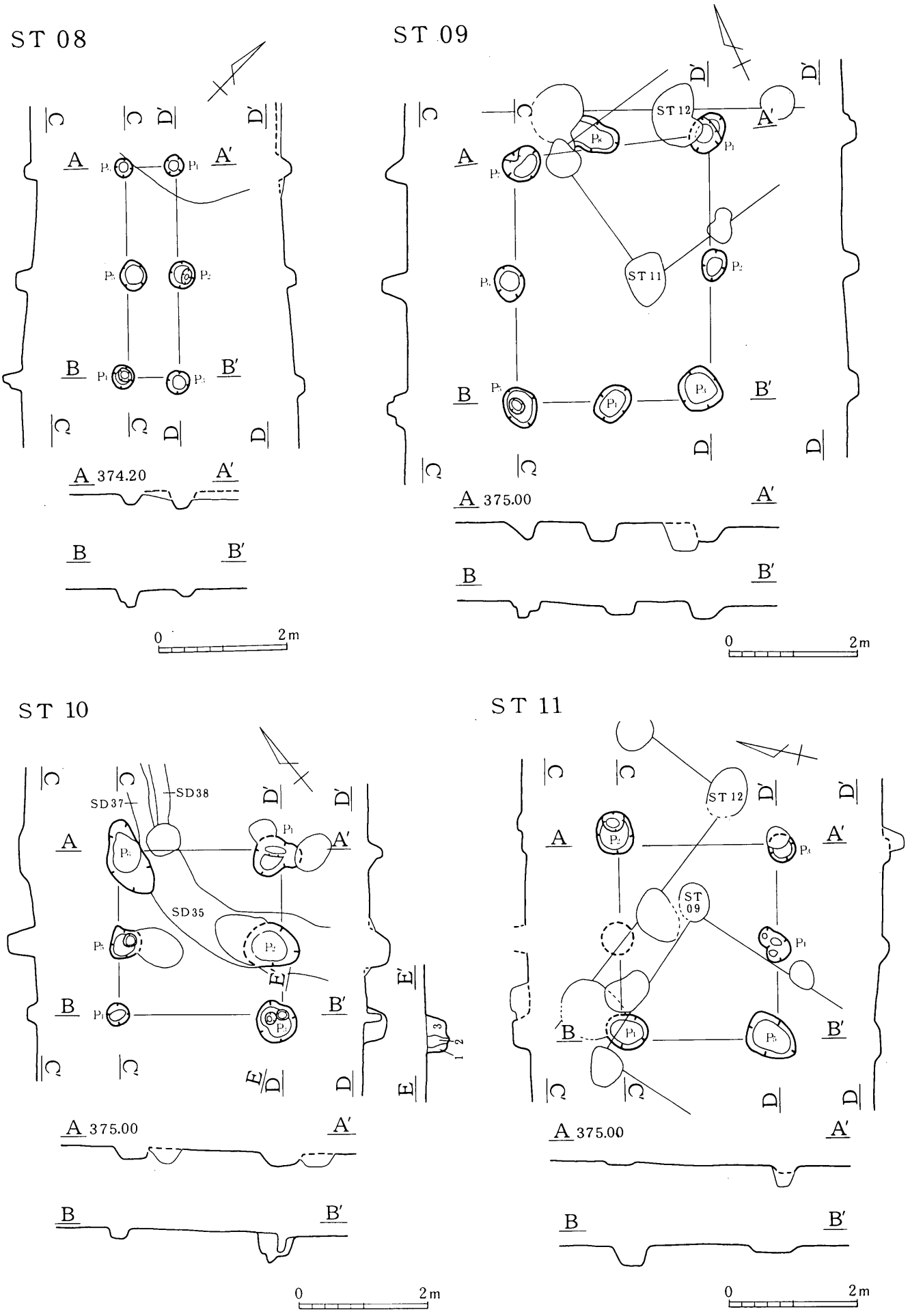
［検出位置］ＡＦ03付近　［形態］２間×１間の建物址　［主軸方向］N38°Ｅ　［規模］2.6m×2.5m　［柱間間隔］桁1.4＋1.2m×梁2.5m　［床面積］6.5㎡　［重複関係］ＳＤ35を切り、ＳＴ09・ＳＤ37・ＳＤ38と重複する　［調査所見］柱穴の形態や大きさにばらつきがあり、建物址とするには若干疑問あり　［柱穴］径35～80㎝、深さ15～50㎝の平面不整円形・不整形を呈する。Ｐ１・Ｐ６は平面形が乱れており、あるいは柱が抜き取られたか　［増改築］なし　［時期］６世紀～７世紀前半代の遺物が出土しており、古墳時代後期の建物址かと考えられる。

⑪ＳＴ11（挿図38）

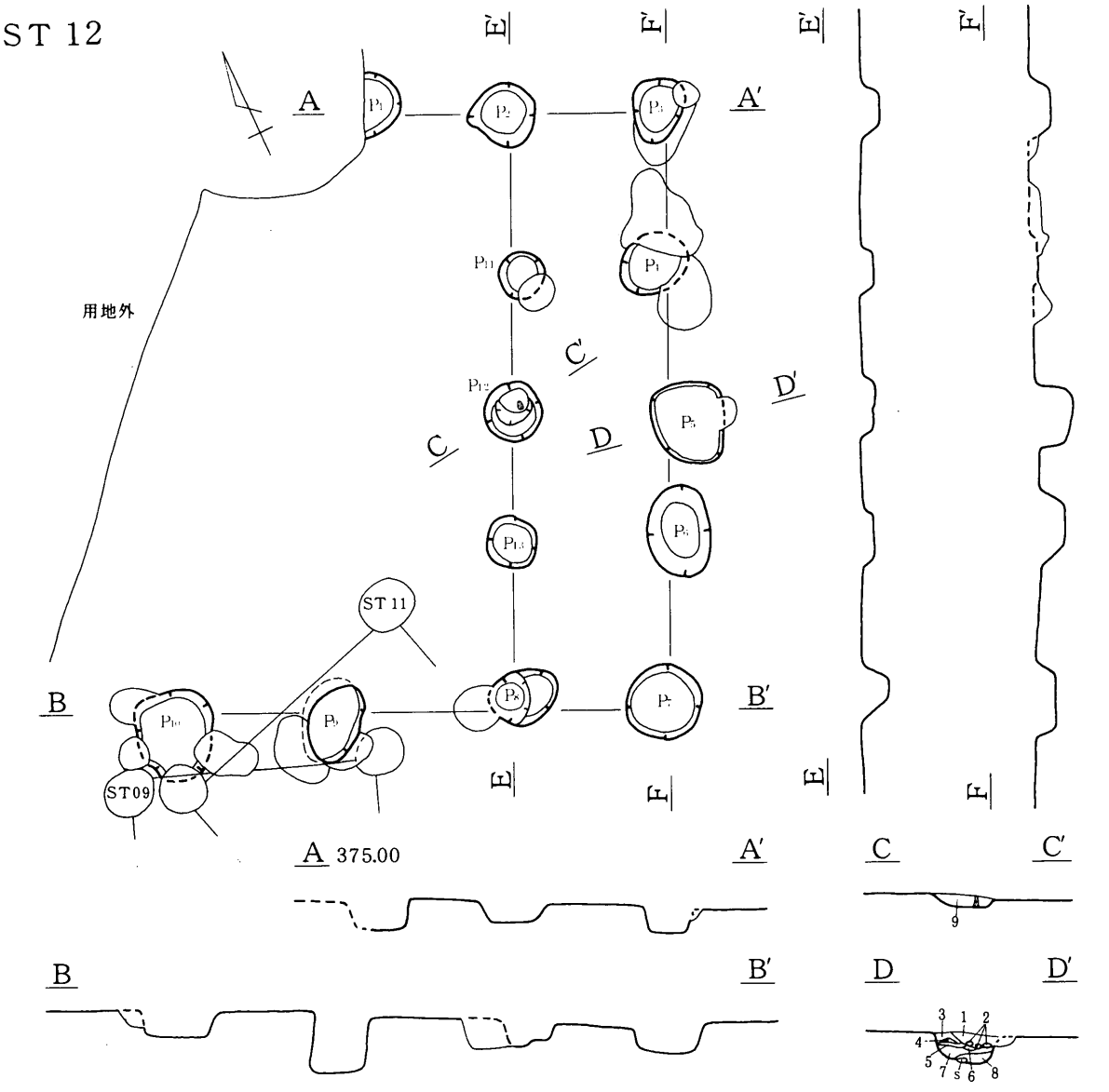
［検出位置］ＡＧ05付近　［形態］２間×１間の建物址　［主軸方向］N78°Ｅ　［規模］3.0m×2.5m　［柱間間隔］桁1.5m×梁2.5m　［床面積］6.5㎡　［重複関係］ＳＴ09・ＳＴ12と重複する　［調査所見］検出面から浅く、Ｐ４はだらだらとした掘り込みである　［柱穴］径40～80㎝、深さ10～30㎝の平面不整円形・不整形を呈する　［増改築］なし　［時期］７世紀前半代の遺物が出土しており、古墳時代後期の建物址と考えられる。

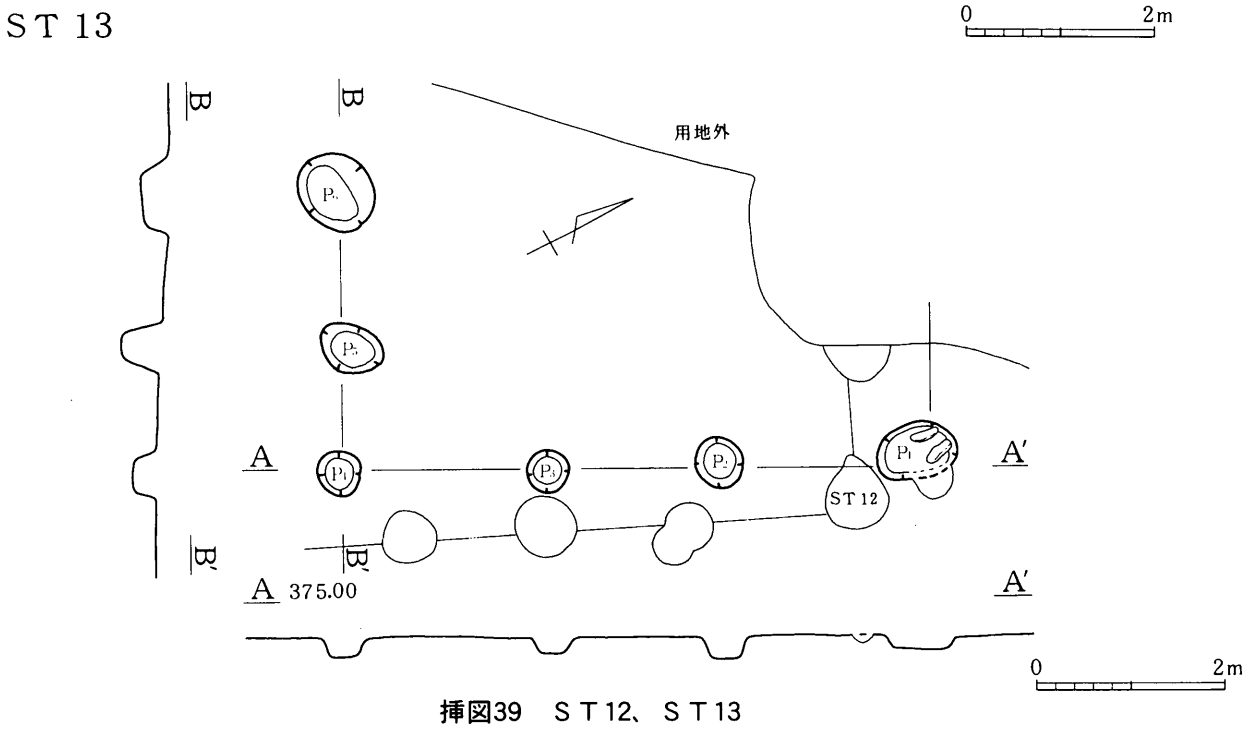
⑫ＳＴ12（挿図39）

［検出位置］ＡＩ07付近　［形態］４間×３間の廂付側柱建物址　［主軸方向］N26°Ｅ　［規模］6.7



挿図38　ＳＴ08～ＳＴ11





挿図39　ＳＴ12、ＳＴ13

m×－m　［柱間間隔］桁1.8＋1.6＋1.5＋1.8m×梁2.1＋2.0＋…／1.7＋…m　［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＢ18を切り、ＳＴ09・ＳＴ11・ＳＴ13と重複する　［調査所見］調査区外にかかる　［柱穴］径55～105㎝、深さ10～70㎝の平面不整円形・不整形を呈する。Ｐ12に柱材遺存。Ｐ９を除き全体的に浅い　［増改築］なし　［時期］５世紀後半～６世紀前半の遺物が出土している。ＳＢ18との新旧関係から古墳時代後期以降に位置づく。

⑬ＳＴ13（挿図39）

［検出位置］ＡＩ06付近　［形態］３間×３間以上の側柱建物址　［主軸方向］（N29°Ｅ）　［規模］6.7m×－m　［柱間間隔］(桁)2.1＋1.9＋2.2m×(梁)1.2＋1.6＋…m　［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＴ11・ＳＴ12と重複する　［調査所見］調査区外にかかる　［柱穴］径40～85㎝、深さ15～50㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する　［増改築］なし　［時期］規模・形態等から古墳時代の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

⑭ＳＴ14（挿図40）

［検出位置］ＡＦ08付近　［形態］３間×３間以上の側柱建物址　［主軸方向］（N30°Ｅ）　［規模］6.2m×－m　［柱間間隔］(桁)2.1＋2.0＋2.3m×(梁)1.8＋1.8＋…m　［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＢ18を切り、ＳＴ15と重複する　［調査所見］柱穴は浅いが、規模や深さがほぼ揃う　［柱穴］径30～45㎝、深さ15～25㎝の不整円形を呈する　［増改築］なし　［時期］時期の判る遺物はないが、ＳＢ18との新旧関係から古墳時代後期以降に位置づく。

⑮ＳＴ15（挿図40、第９図９）

［検出位置］ＡＧ09付近　［形態］２間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N37°Ｅ　［規模］3.5m×3.2m　［柱間間隔］桁1.75m×梁1.6m　［床面積］11.2㎡　［重複関係］ＳＢ18を切り、ＳＴ14と重複する　［調査所見］Ｐ５～Ｐ７は中段に屈曲ないし段があり、あるいは柱の抜き取りが行われた可能性あり　［柱穴］径50～80㎝、深さ15～60㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ４のみ浅く、径小さい。Ｐ７は柱痕と考えられる小穴が内部にあり　［増改築］なし　［時期］５世紀後半～６世紀初頭の遺物が出土しているが、重複関係から古墳時代後期以降の建物址と考えられる。

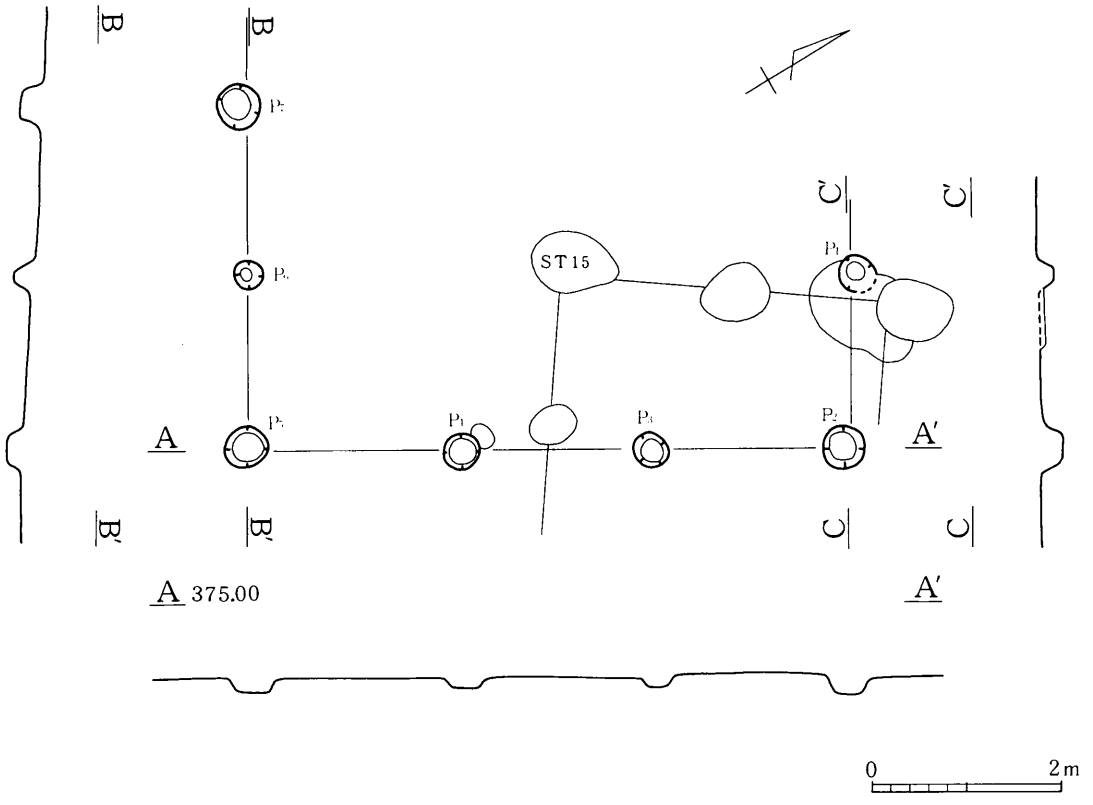
⑯ＳＴ16（挿図41）

［検出位置］ＡＩ12付近　［形態］２間×１間の建物址　［主軸方向］N29°Ｅ　［規模］2.4m×2.0m　［柱間間隔］桁1.2m×梁2.0m　［床面積］4.8㎡　［重複関係］ＳＴ17と重複する　［柱穴］径40～60㎝、深さ20～45㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する　［増改築］なし　［時期］詳細時期不明である。

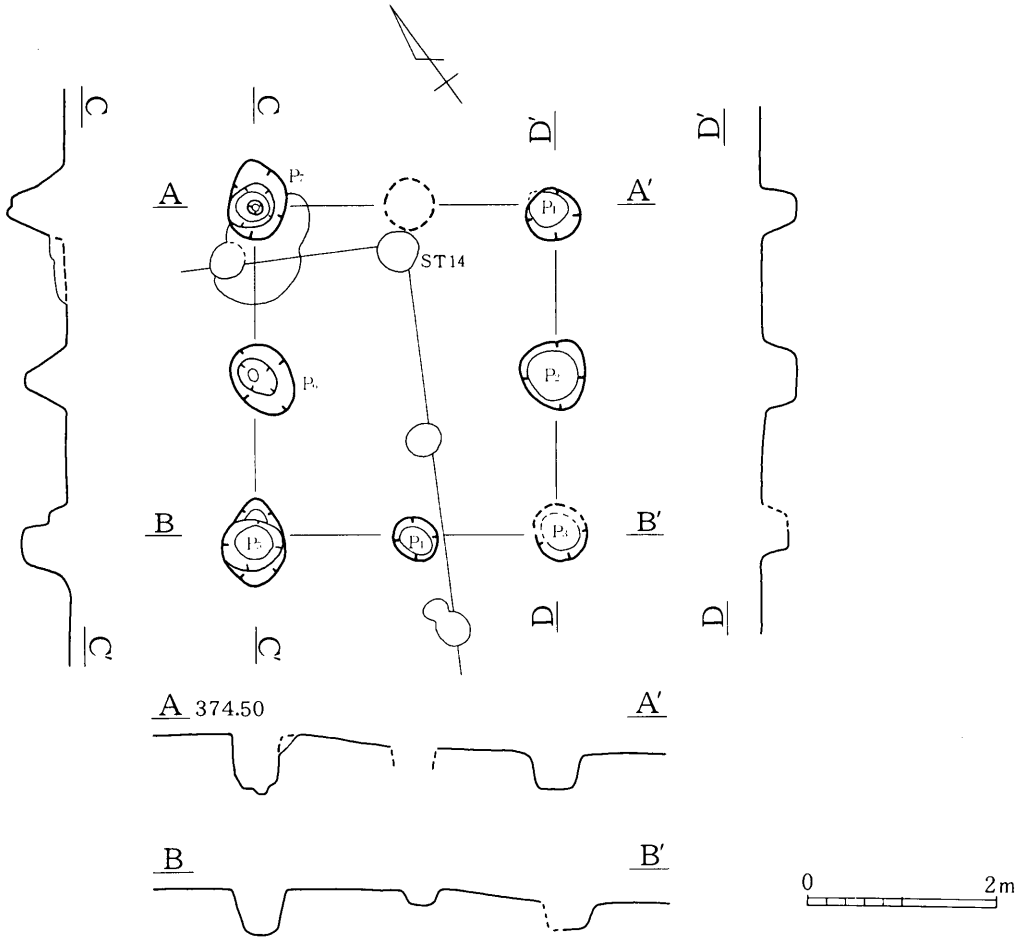
⑰ＳＴ17（挿図41）

［検出位置］ＡＫ13付近　［形態］５間×３間の側柱建物址　［主軸方向］N40°Ｅ　［規模］7.8m×4.3m　［柱間間隔］桁1.4＋1.7＋1.4＋1.5＋1.8／1.2＋1.5＋1.6＋1.6＋2.0m×梁1.5＋1.3＋1.5／2.6＋1.7m　［床面積］33.6㎡　［重複関係］ＳＴ16と重複する　［調査所見］北東辺の柱数が合わない　［柱

ST 14

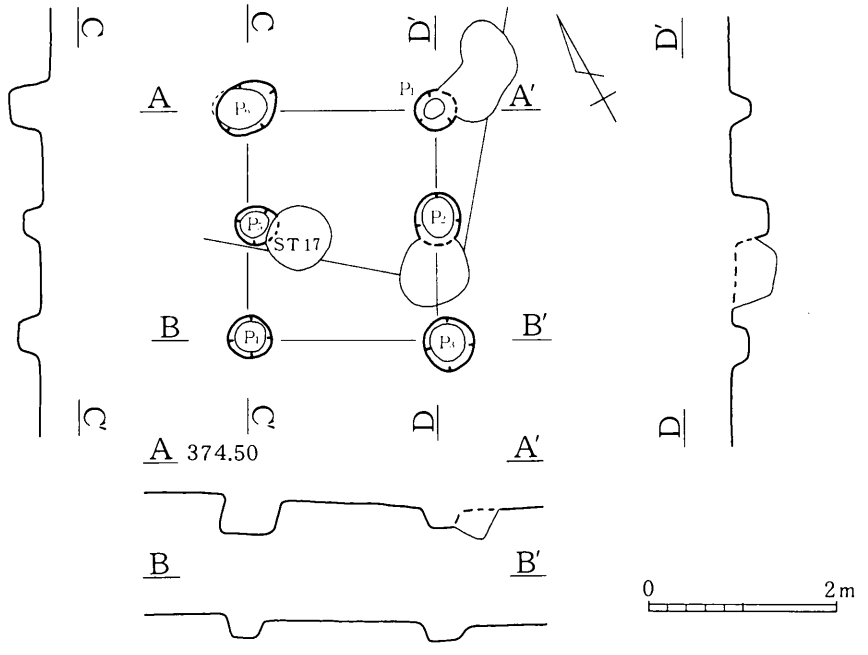


ST 15

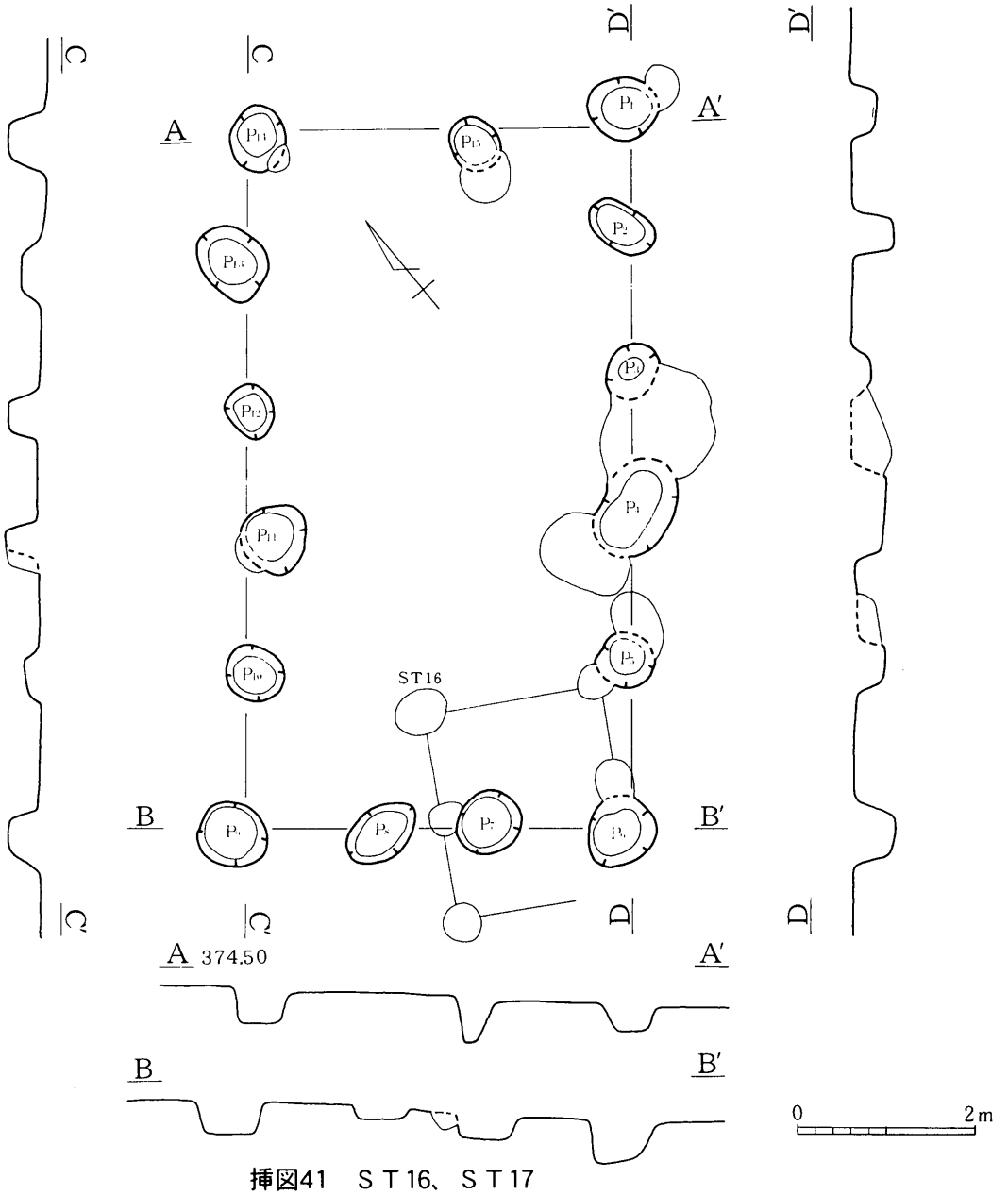


挿図40　ＳＴ14、ＳＴ15

ST 16



ST 17



挿図41　ＳＴ16、ＳＴ17

穴］径50～80㎝、深さ18～50㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する　［増改築］なし　［時期］出土遺物に6世紀前半から9世紀初頭の時間幅があり、8世紀以降の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

⑱ＳＴ18（挿図42）

［検出位置］ＡＪ17付近　［形態］3間×2間の側柱建物址　［主軸方向］N23°Ｅ　［規模］4.8m×3.6m　［柱間間隔］桁1.2＋2.0＋1.6m×梁2.0＋1.6m　［床面積］17.3㎡　［重複関係］ＳＢ22・ＳＢ23・ＳＢ24・ＳＢ27・ＳＩ06と重複する　［調査所見］東辺の柱穴が小さめ　［柱穴］径40～105㎝、深さ20～45㎝の平面不整形を呈する　［増改築］なし　［時期］ＳＴ17と同様、出土遺物に6世紀前半から8世紀の時間幅があり、8世紀以降の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

⑲ＳＴ19（挿図42）

［検出位置］ＡＧ15付近　［形態］3間以上×2間の側柱建物址　［主軸方向］N35°Ｅ　［規模］－m×3.4m　［柱間間隔］桁1.6＋1.7＋…m×梁1.7m　［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＤ45・ＳＤ47・ＳＤ48・ＳＤ56に切られ、ＳＤ44と重複する　［柱穴］径40～60㎝、深さ20～50㎝の平面不整円形を呈する　［増改築］なし　［時期］規模・形態から古墳時代の建物址と考えられるが、詳細時期不明である。

⑳ＳＴ20（挿図43）

［検出位置］ＡＥ15付近　［形態］4間×3間の側柱建物址　［主軸方向］N33.5°Ｅ　［規模］7.1m×5.4m　［柱間間隔］桁1.7＋(1.9)＋(1.6)＋1.9／2.2＋1.4＋1.6＋1.9m×梁2.0＋1.5＋1.9／1.8m　［床面積］38.3㎡　［重複関係］ＳＤ45・ＳＤ52に切られ、ＳＤ46・ＳＤ50・ＳＤ51・ＳＤ55・ＳＤ59と重複する　［調査所見］北西辺に対し、南東辺の底部レベルがやや低くなる　［柱穴］径35～60㎝、深さ15～45㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ3に木片、Ｐ4に柱材遺存　［増改築］なし　［時期］詳細時期不明であるが、5世紀後半～6世紀初頭と考えられる遺物があり、この時期の建物址の可能性がある。

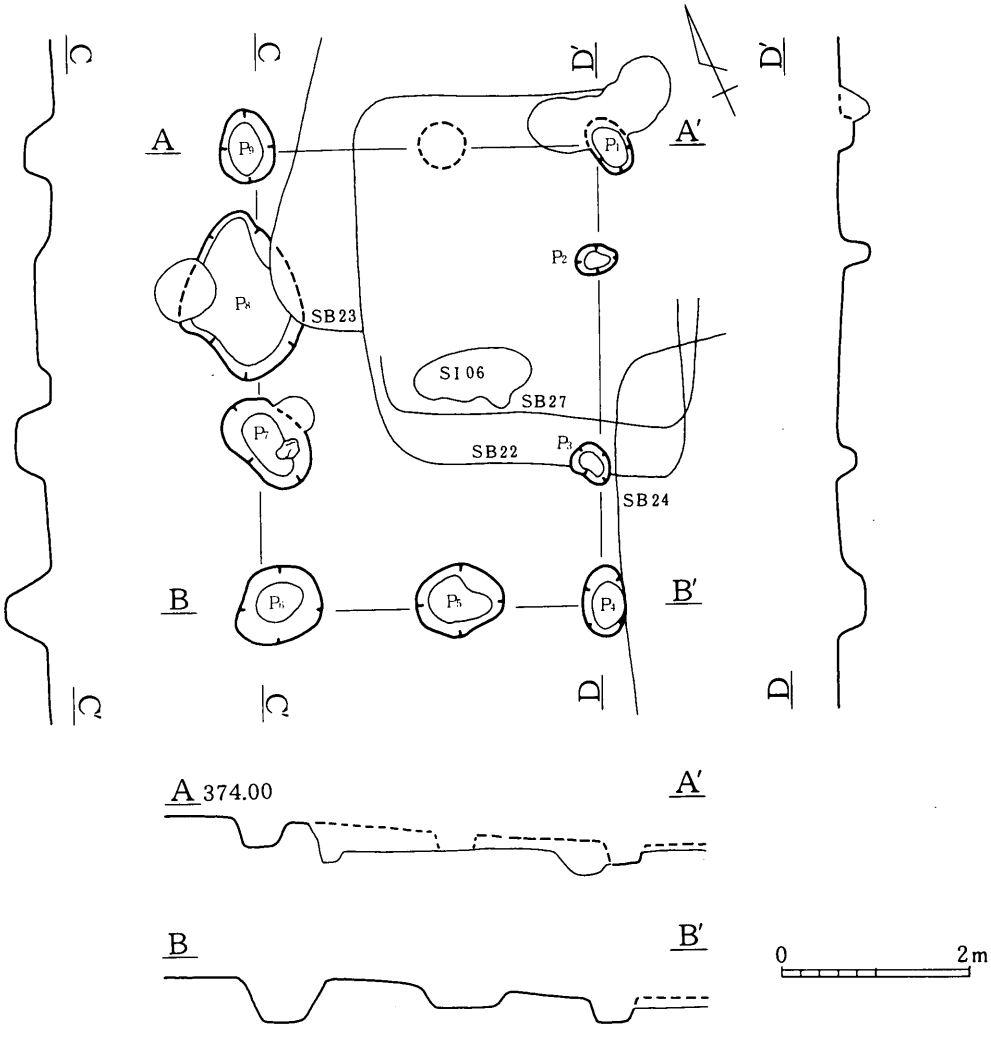
㉑ＳＴ21（挿図43）

［検出位置］ＡＢ16付近　［形態］2間×2間の側柱建物址　［主軸方向］N5.5°Ｗ　［規模］2.8m×2.6m　［柱間間隔］桁1.2＋1.6／1.6＋1.2m×梁1.3m　［床面積］7.3㎡　［重複関係］ＳＢ33・ＳＤ60・ＳＤ66と重複する　［調査所見］ほぼ柱穴の底部レベルが揃う　［柱穴］径50～75㎝、深さ5～35㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ4に柱痕と考えられる小穴あり　［増改築］なし　［時期］出土遺物に4世紀から7世紀前半の時間幅があるが、主体は5世紀後半～6世紀初頭であり、この時期の建物址の可能性が高い。

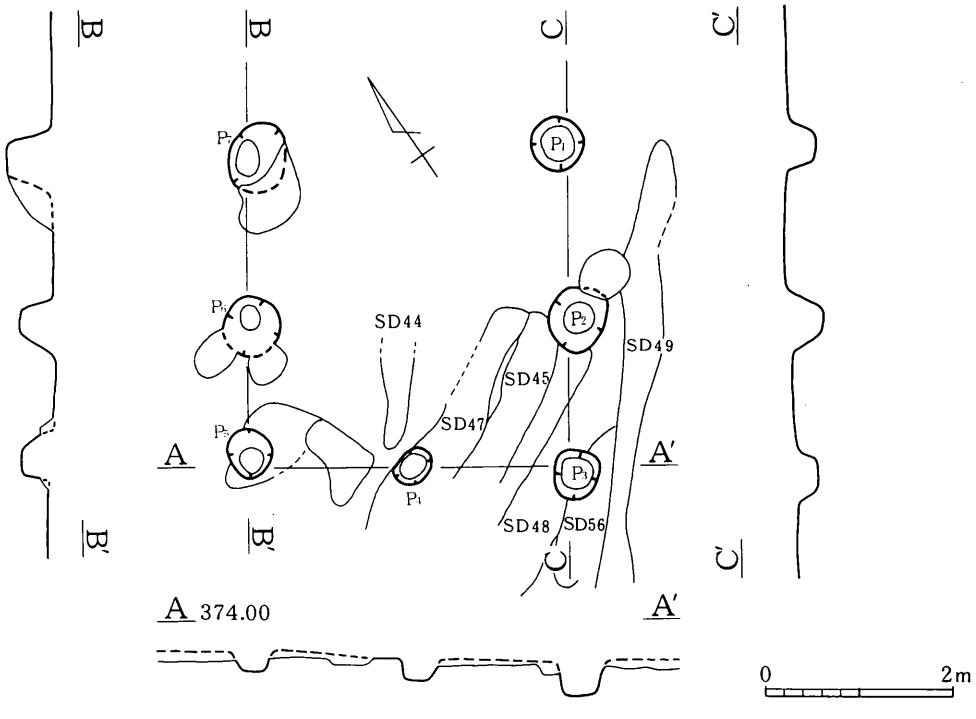
㉒ＳＴ22（挿図44）

［検出位置］ＡＢ18付近　［形態］3間×3間の側柱建物址　［主軸方向］N15°Ｅ　［規模］4.2m×

ST 18

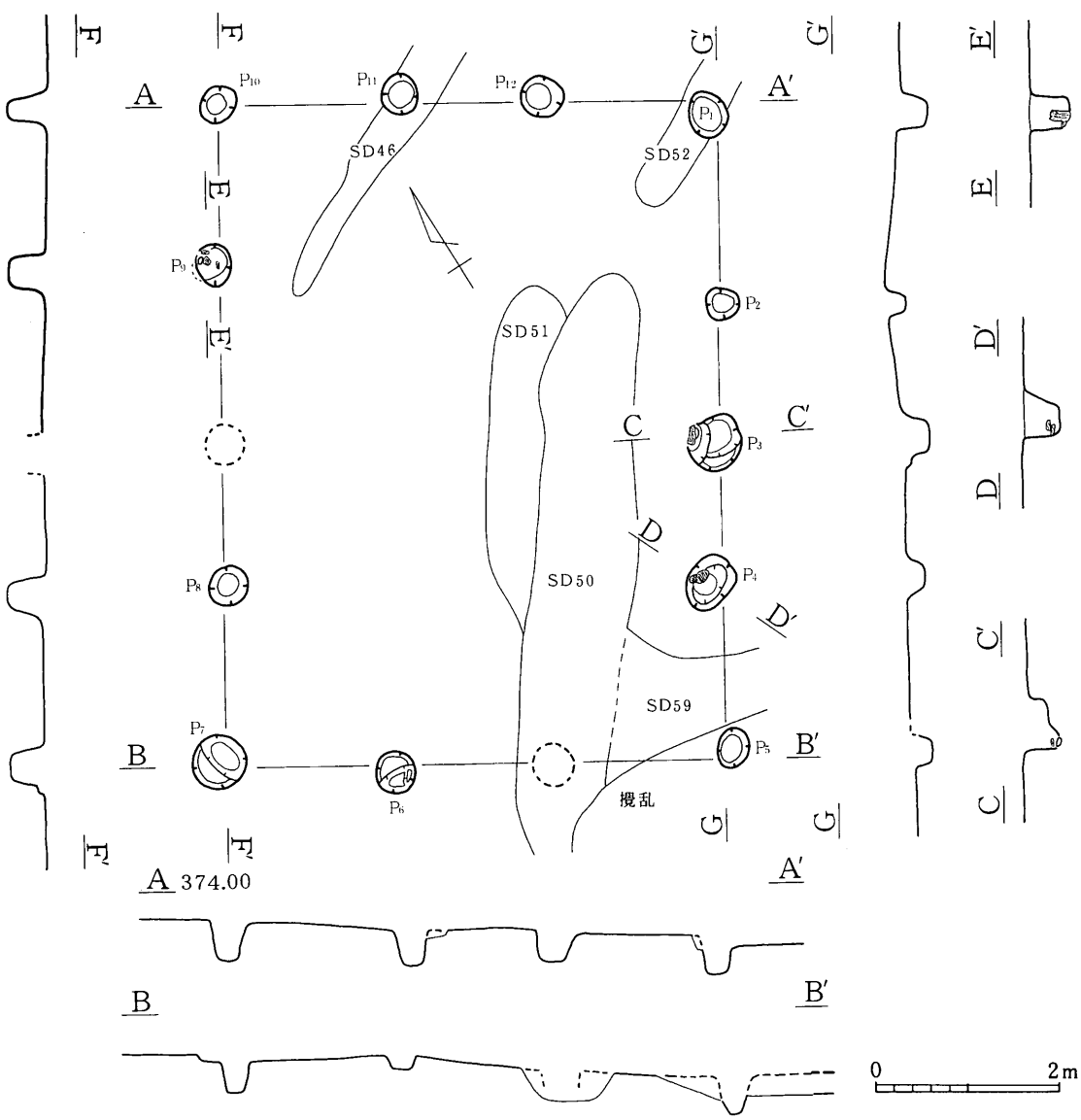


ST 19

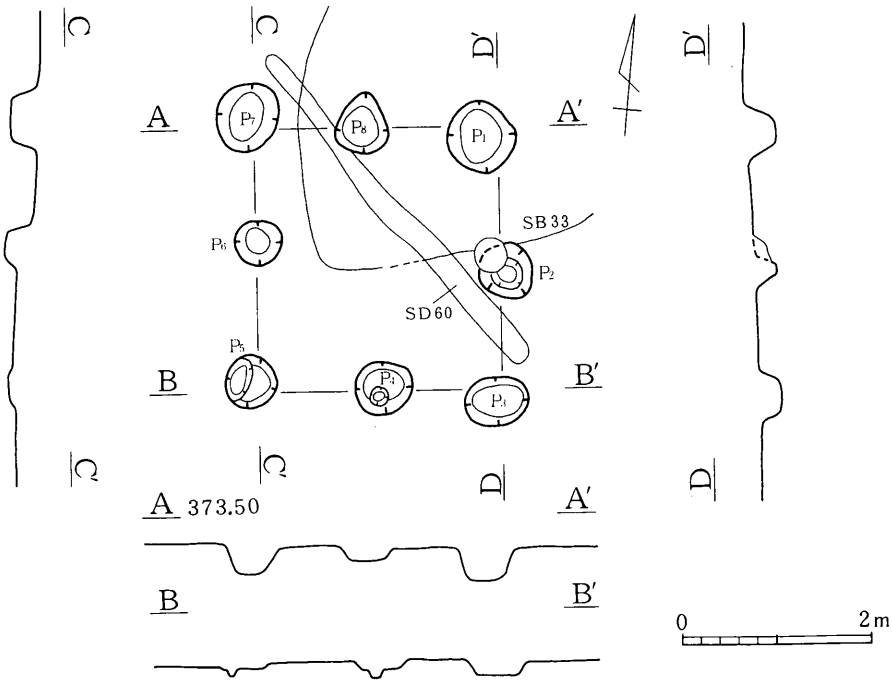


挿図42　ＳＴ18、ＳＴ19

ST 20

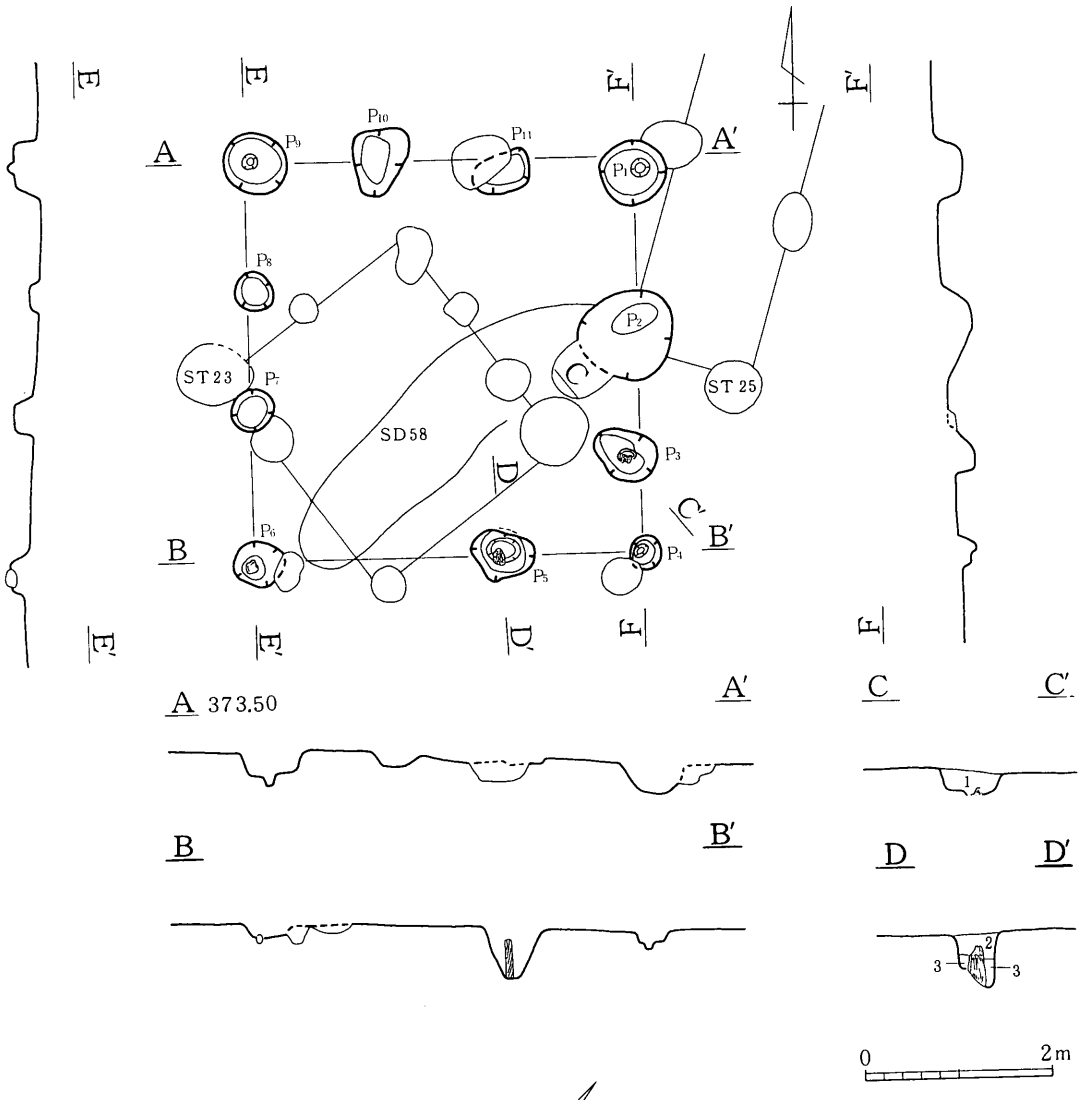


ST 21

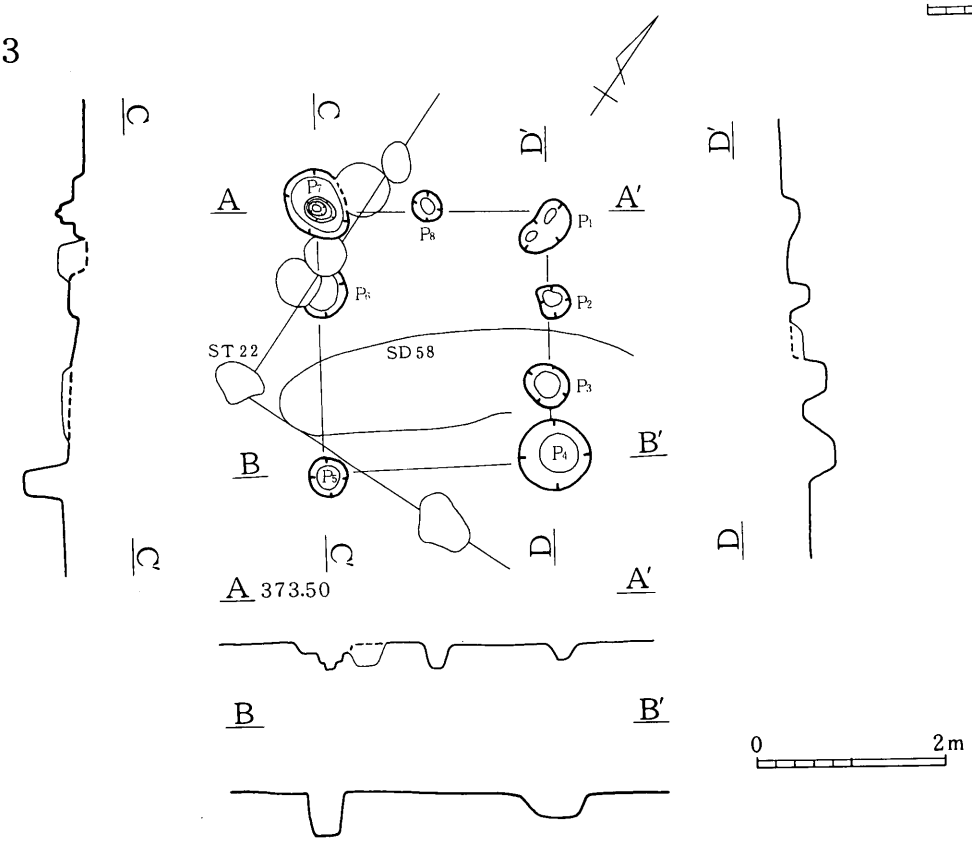


挿図43　ＳＴ20、ＳＴ21

ST 22



ST 23



挿図44　ＳＴ22、ＳＴ23

4.1m　［柱間間隔］桁1.4＋1.2＋1.6／1.7＋1.5＋1.0m×梁1.4＋1.4＋1.3／1.5＋(1.3)＋(1.3)m　［床面積］17.2㎡　［重複関係］ＳＴ23・ＳＴ25を切り、ＳＴ24に切られる。また、ＳＤ58と重複する　［調査所見］Ｐ５のみ極端に深い　［柱穴］径35～105㎝、深さ10～55㎝を測る。平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ９に柱痕と考えられる小穴が、Ｐ３・Ｐ５に柱材が遺存する　［増改築］なし　［時期］６世紀前半から中頃の遺物が出土しており、古墳時代後期の建物址である。

㉓ＳＴ23（挿図44）

［検出位置］ＡＢ17付近　［形態］３間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N35°W　［規模］2.7m×2.4m［柱間間隔］桁0.9m×梁1.1＋1.3m　［床面積］6.5㎡　［重複関係］ＳＴ22に切られ、ＳＤ58と重複する　［調査所見］柱間が狭く、柱の径・深さ揃わず、建物址でない可能性あり　［柱穴］径30～75㎝、深さ20～50㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ７に柱痕と考えられる小穴がある　［増改築］なし　［時期］詳細時期不明である。

㉔ＳＴ24（挿図45）

［検出位置］ＡＦ19付近　［形態］４間×３間の側柱建物址　［主軸方向］N34°E　［規模］6.7m×5.3m［柱間間隔］桁1.6＋1.7＋1.7＋1.7／1.7＋1.3＋1.8＋1.9m×梁1.9＋(1.7)＋(1.7)／1.9＋1.8＋1.6m［床面積］35.5㎡　［重複関係］ＳＴ22を切り、ＳＤ62に切られる。また、ＳＢ32・ＳＢ33・ＳＢ36・ＳＢ37・ＳＴ25・ＳＤ54・ＳＤ55・ＳＤ61と重複する　［柱穴］径50～105㎝、深さ25～55㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ８に柱材の一部が遺存し、Ｐ４・Ｐ９に柱痕と考えられる小穴がある　［増改築］なし　［時期］出土遺物から６世紀後半～７世紀初頭の建物址と考えられる。

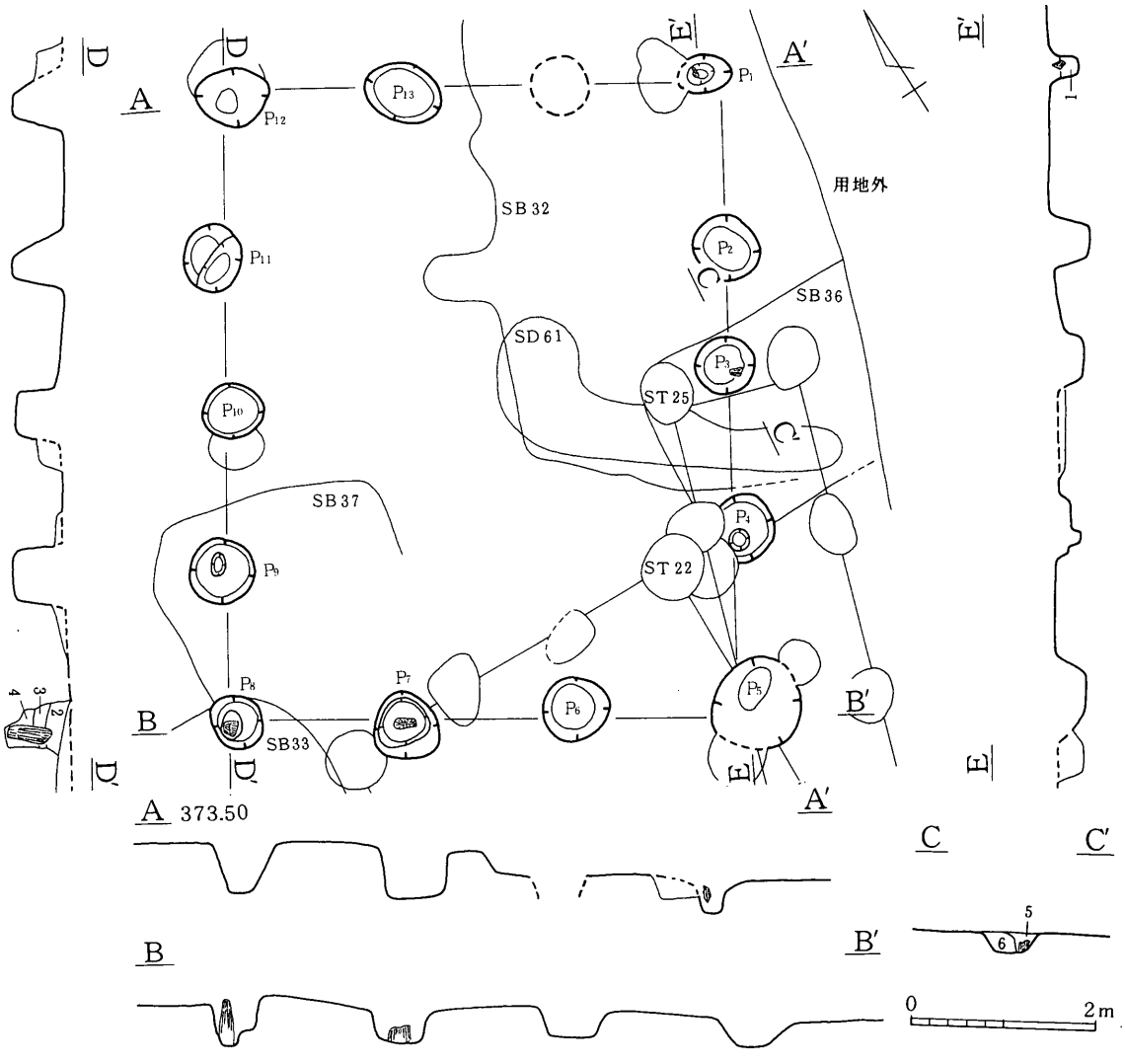
㉕ＳＴ25（挿図45）

［検出位置］ＡＣ20付近　［形態］２間×１間の建物址　［主軸方向］N21°E　［規模］3.6m×1.4m［柱間間隔］桁1.6＋2.0m×梁1.4m　［床面積］5.0㎡　［重複関係］ＳＢ32・ＳＢ36・ＳＴ22・ＳＴ24・ＳＤ61と重複する　［柱穴］径65～95㎝、深さ20～30㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ４のみ大形であるが、底部レベルはほぼ揃う。Ｐ１に礎板、Ｐ２・Ｐ６に柱材の一部が遺存し、Ｐ３に柱痕と考えられる小穴がある　［増改築］なし　［時期］出土遺物から５世紀後半の建物址と考えられる。

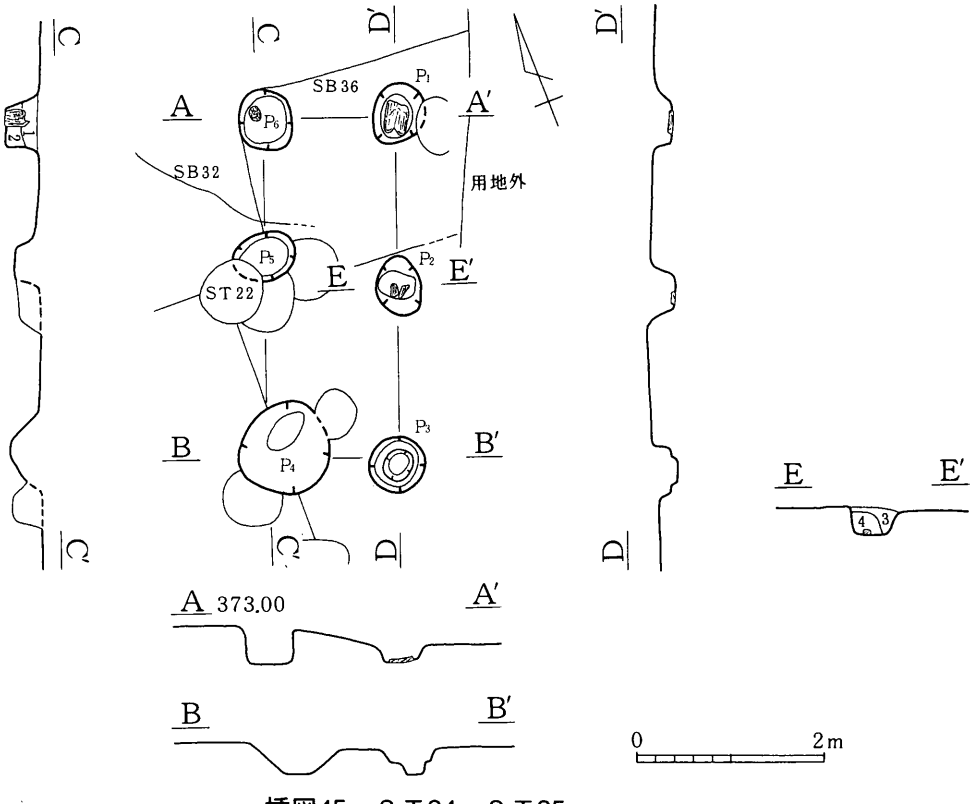
㉖ＳＴ26（挿図46）

［検出位置］ＢＹ17付近　［形態］２間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N38.5°E　［規模］3.7m×3.4m　［柱間間隔］桁1.8＋1.9／2.1＋1.6m×梁1.6＋1.8m　［床面積］12.6㎡　［重複関係］なし　［柱穴］径30～95㎝、深さ10～35㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ７はやや小さいが、他はほぼ揃う。Ｐ２・Ｐ４～Ｐ６に柱材の一部が遺存、Ｐ３に柱痕と考えられる小穴がある　［増改築］なし　［時期］出土遺物から５世紀終末の建物址と考えられる。

ST 24

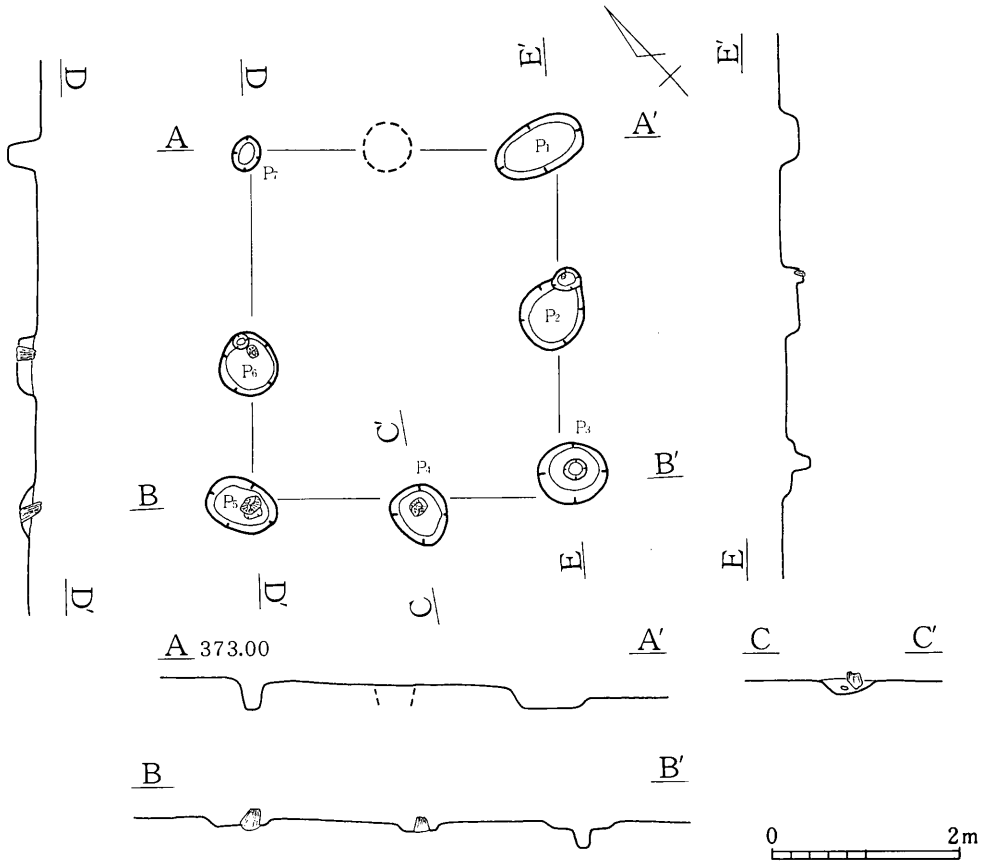


ST 25

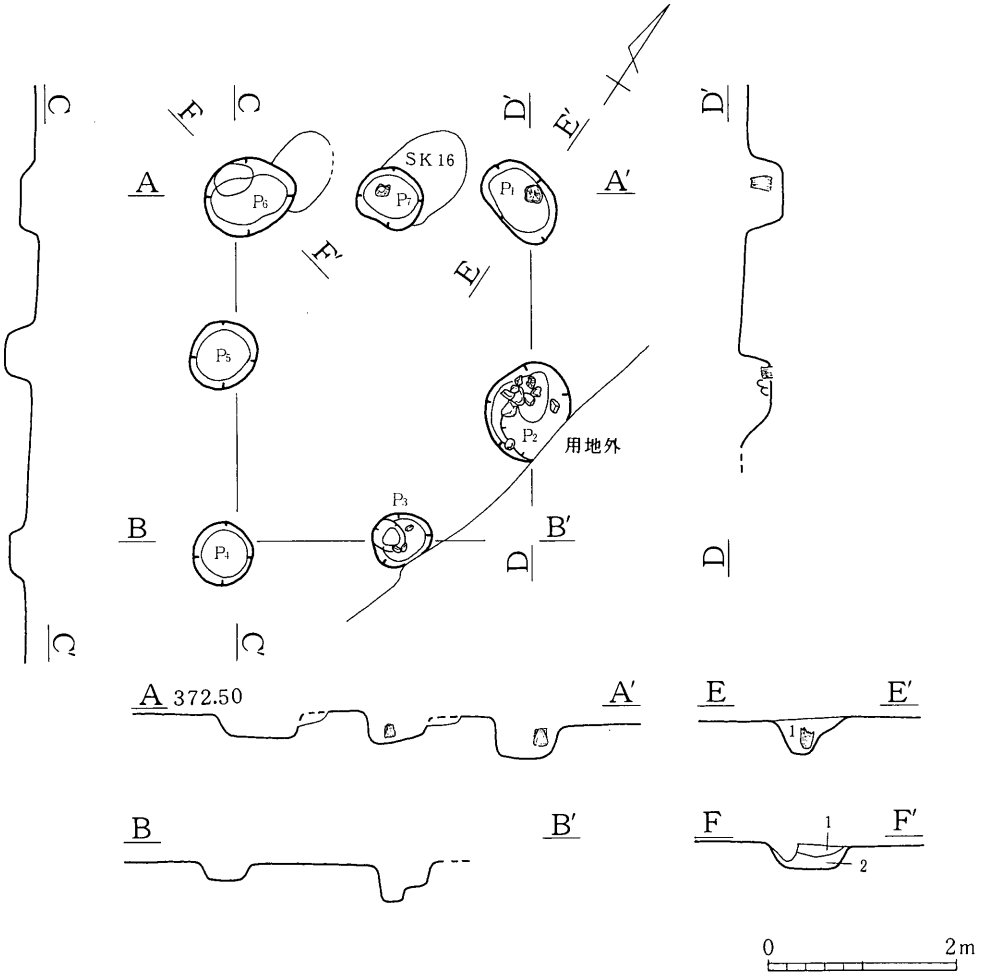


挿図45　ＳＴ24、ＳＴ25

ST 26

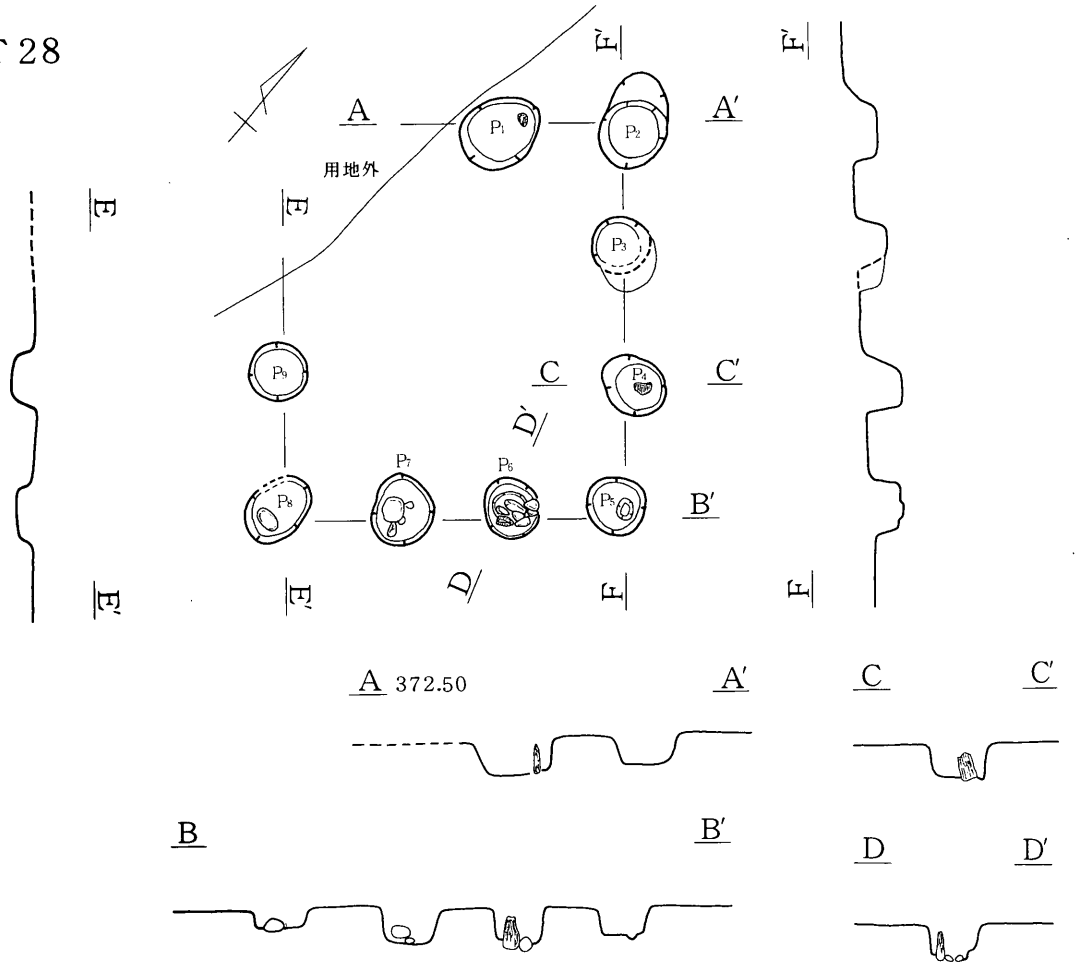


ST 27

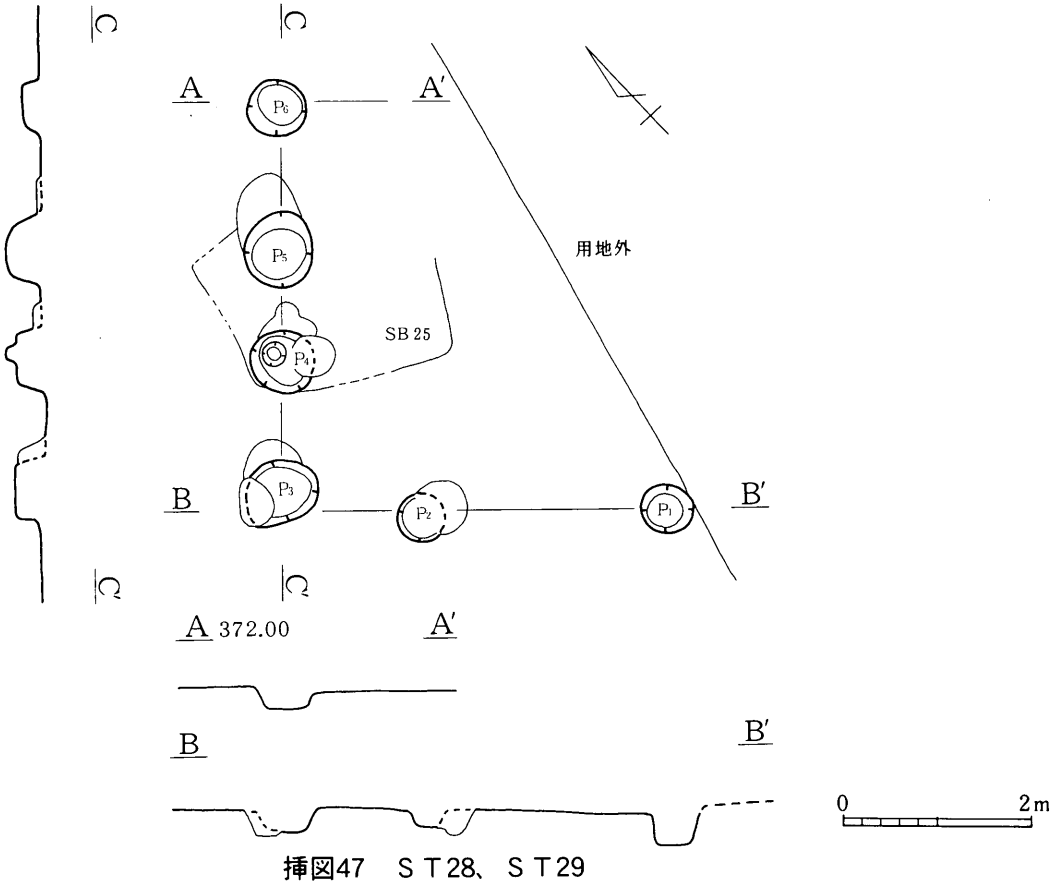


挿図46　ＳＴ26、ＳＴ27

ST 28



ST 29



挿図47　ＳＴ28、ＳＴ29

㉗ＳＴ27（挿図46）

［検出位置］ＢＵ17付近　［形態］２間×２間の側柱建物址　［主軸方向］N35.5°Ｗ　［規模］3.7m×3.2m　［柱間間隔］桁1.8＋1.9／2.0＋(1.7)m×梁1.6m　［床面積］11.8㎡　［重複関係］ＳＫ16を切る　［調査所見］東墨は調査区外にかかる　［柱穴］径60～95㎝、深さ15～45㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ７に柱材の一部が遺存、Ｐ２・Ｐ３に根固めと考えられる礫が入る　［増改築］なし　［時期］時期不明である。

㉘ＳＴ28（挿図47、第９図10）

［検出位置］ＢＳ20付近　［形態］３間×３間の側柱建物址　［主軸方向］N42°Ｗ　［規模］4.2m×3.6m　［柱間間隔］桁1.4m×梁1.2m　［床面積］15.1㎡　［重複関係］なし　［調査所見］西側が調査区外にかかる　［柱穴］径60～85㎝、深さ15～40㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ６に柱材の一部が遺存、Ｐ４に柱痕と考えられる小穴がある。Ｐ６・Ｐ７に根固めと考えられる礫が入る　［増改築］なし　［時期］出土遺物から５世紀後半と考えられる。

㉙ＳＴ29（挿図47）

［検出位置］ＢＳ22付近　［形態］３間×２間以上の側柱建物址　［主軸方向］N43.5°Ｅ　［規模］4.3m×－m　［柱間間隔］桁1.6＋1.1＋1.6m×梁1.6＋2.4＋…m　［床面積］－㎡　［重複関係］ＳＢ39・ＳＫ28と重複する　［調査所見］Ｐ２～Ｐ５は小柱穴との重複があり、あるいは柱材が抜き取られた可能性が考えられる　［柱穴］径50～75㎝、深さ25～40㎝の平面不整円ないし楕円形を呈する。Ｐ４に柱痕と考えられる小穴がある　［増改築］なしと考えられる　［時期］詳細時期不明である。

㉚その他（挿図48～51）

ＢＲ～ＡＦ・15～21列付近で柱材の一部が柱穴内部に遺存するものが多数見つかり、中には径20㎝を超えるものもあった。樹種は同定したＢＸ16Ｐ２・ＢＸ17Ｐ２ではいずれもスギであった。建物址を把握するまでに至らなかったが、掘立柱建物を構成すると考えられる。

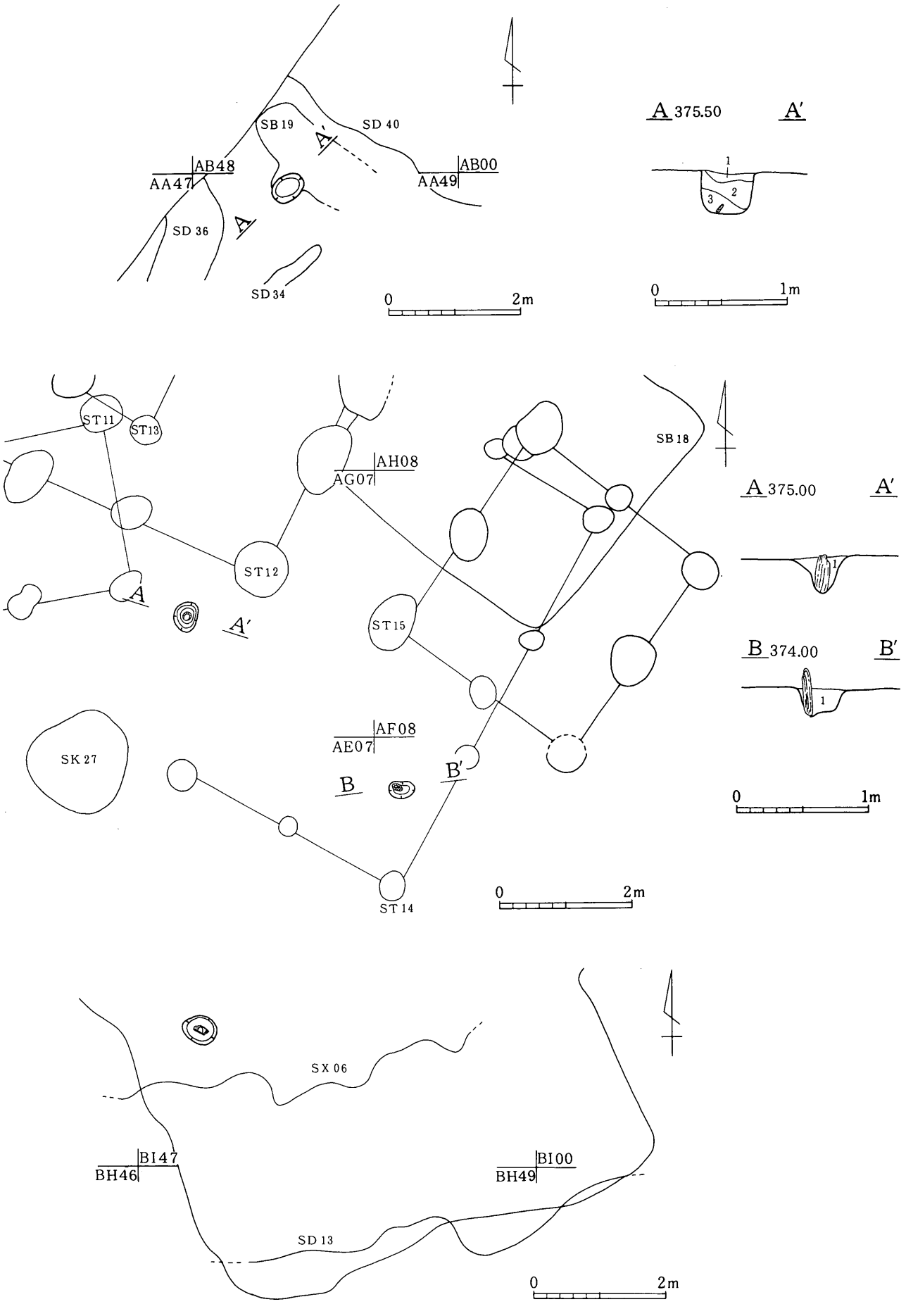
以下、特記されるものについて記述する。

(4)柱列・杭列

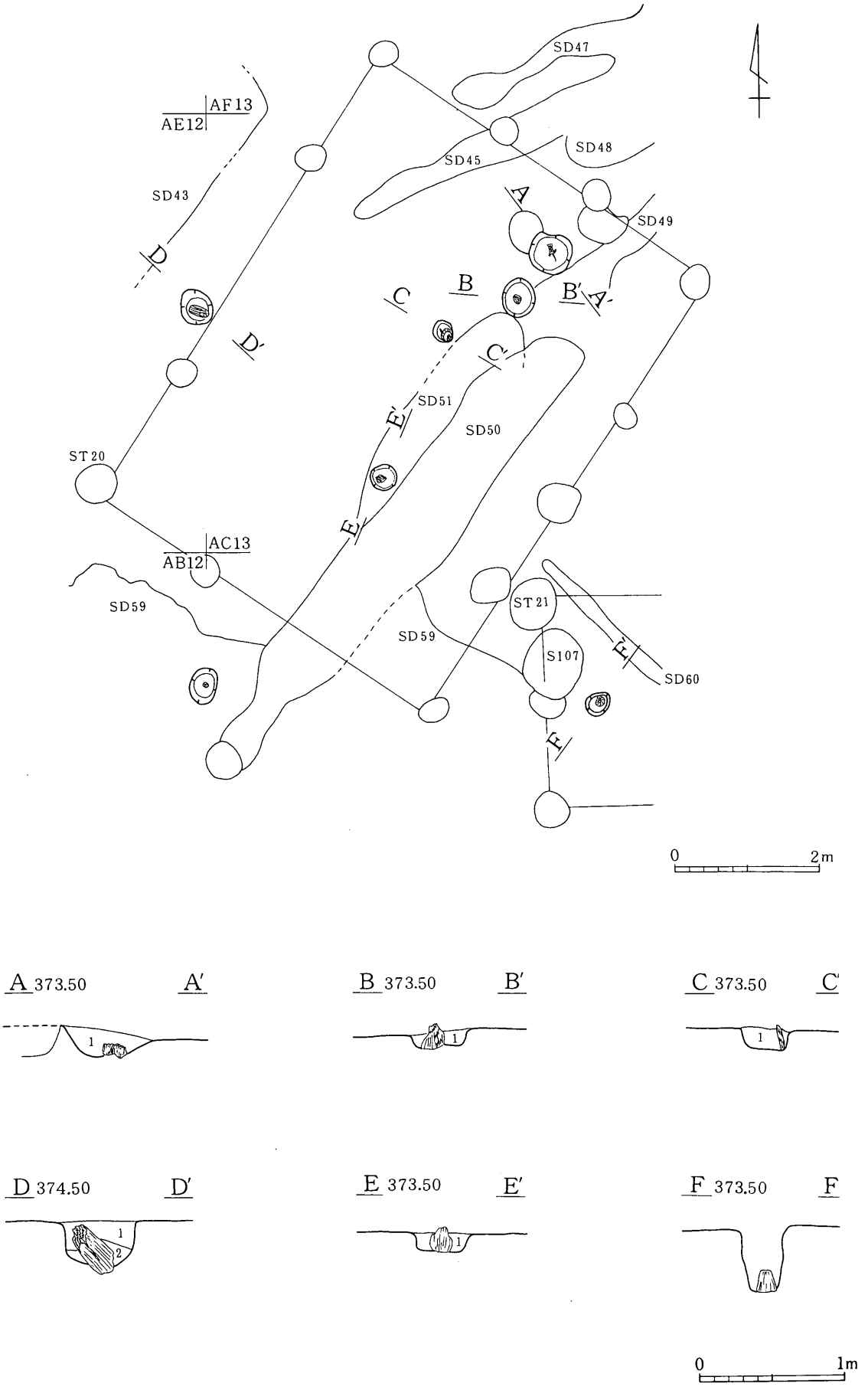
①柱列

ＳＡ01は不規則な間隔に柱穴が並ぶことから、一本柱列と把握したが、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７とＰ３・Ｐ４・Ｐ５に分けて考えるとそれぞれ一定の間隔をとる。とすると、２棟の掘立柱建物址が重複している可能性がある。なお、Ｐ２・Ｐ７に柱痕が遺存していた。ＳＤ03掘り下げ後に確認されたことから、ＳＤ03やＳＸ01よりも古いと考えられる。

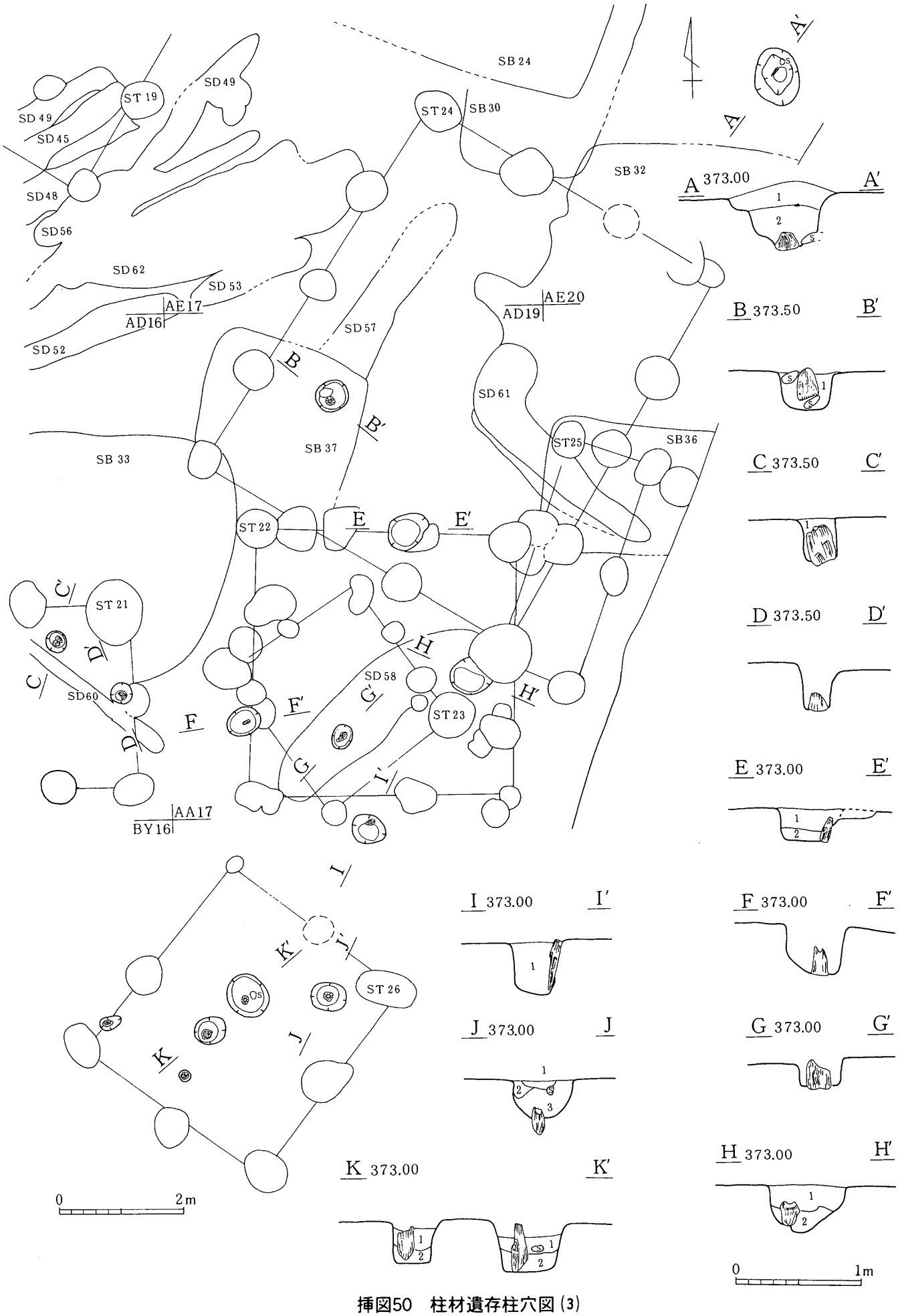
ＳＡ05はほぼ方向が揃い、柱間間隔もＰ９－Ｐ10以外はほぼ一定する。建物址とするには桁方向の柱間が狭いことから、周辺に組み合う柱穴を追求したが把握できず、柱列とした。柱穴の平面形や大きさは比較的揃うが、深さはまちまちである。



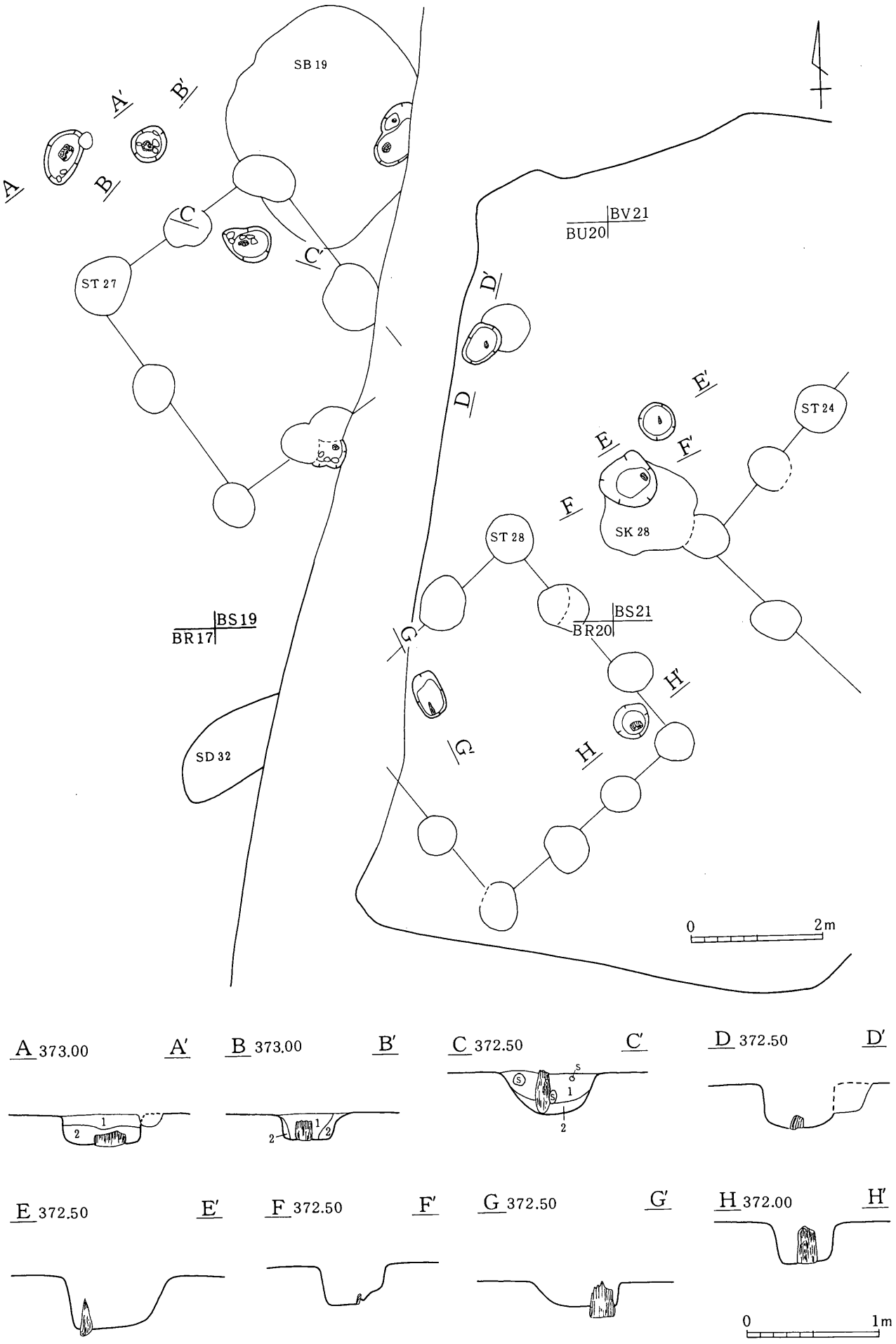
挿図48　柱材遺存柱穴図 (1)



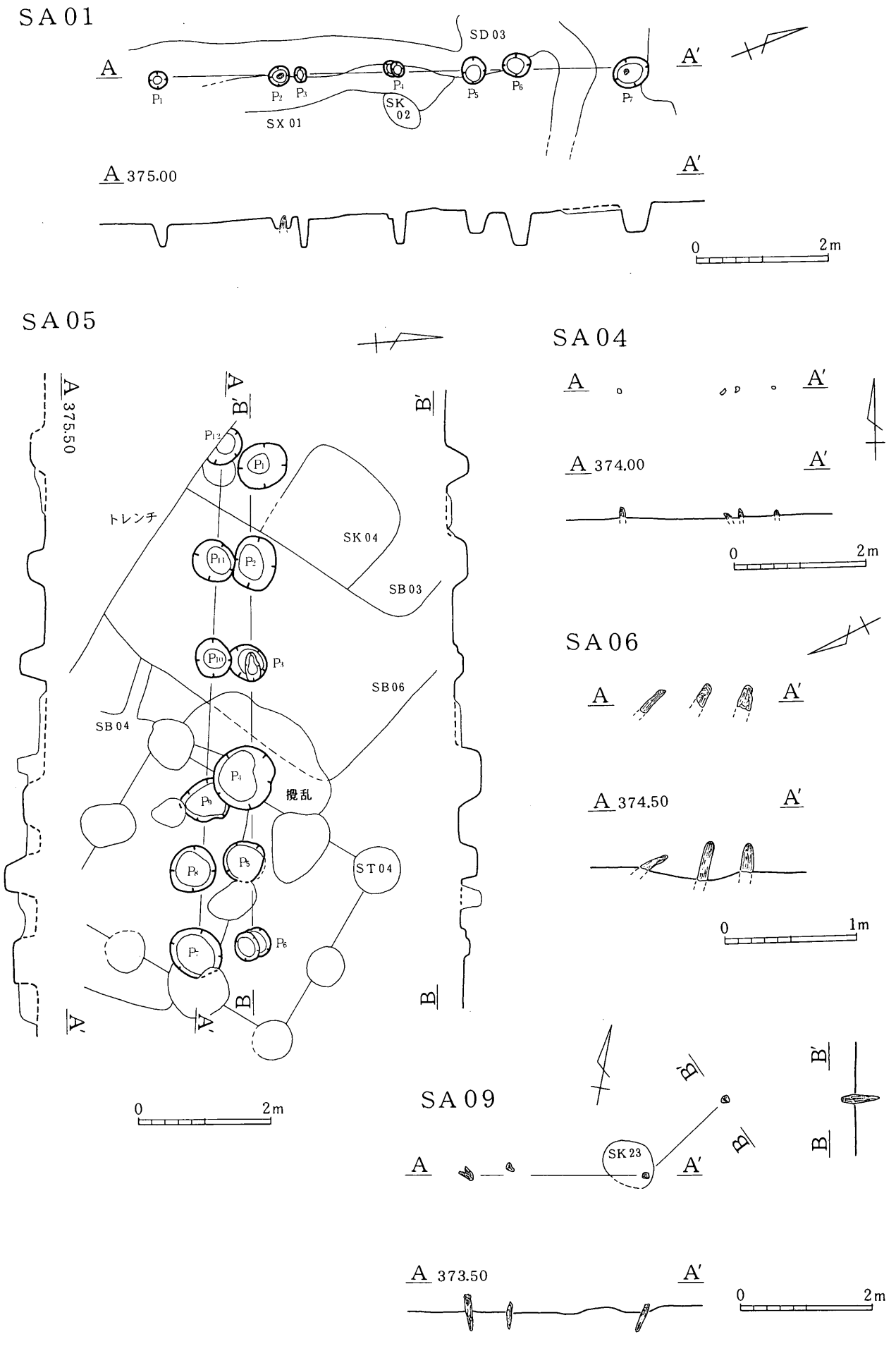
挿図49　柱材遺存柱穴図 (2)



挿図50　柱材遺存柱穴図 (3)

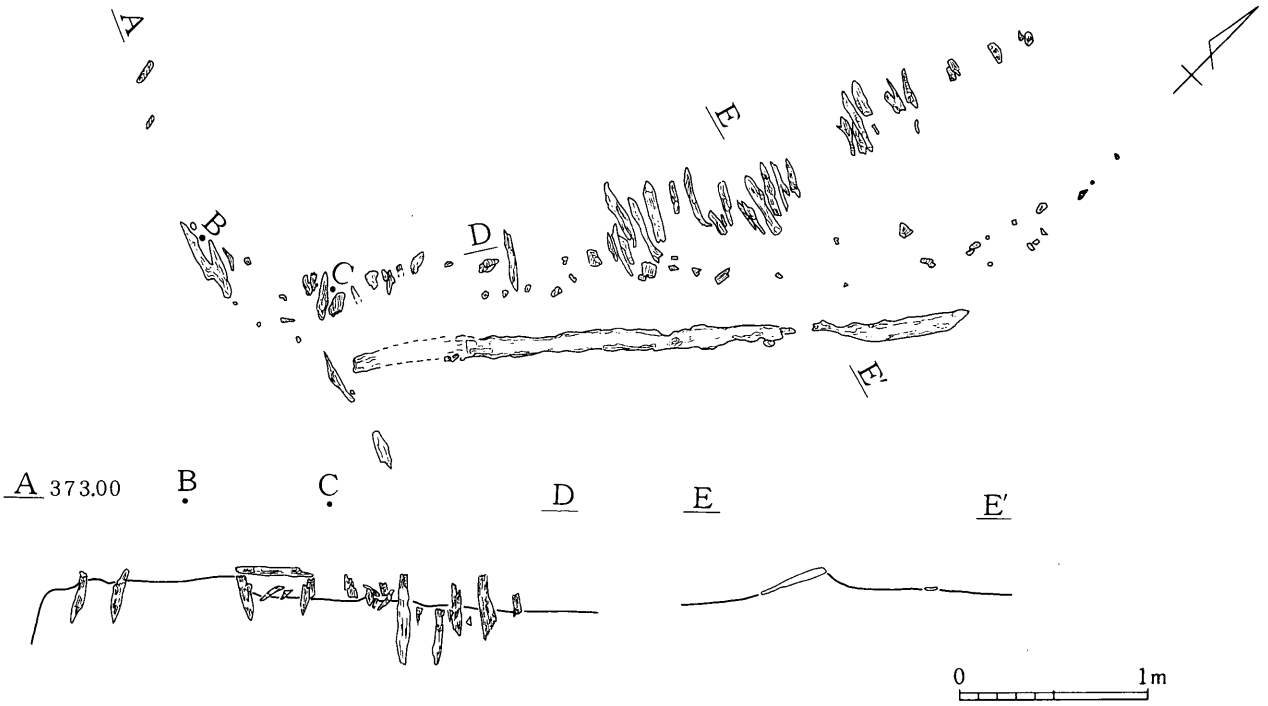


挿図51　柱材遺存柱穴図 (4)



挿図52　ＳＡ01・ＳＡ04～ＳＡ06、ＳＡ09

SA 07



挿図53　ＳＡ07

②杭列

ＳＡ07は調査区際付近で検出された。５～15cm程度の間隔をおき、天竜川側に傾けて打ち込まれている。その傾きは水平に対し23°程度であり、畦畔を支える施設と考えられる。具体的には杭より東側が畦畔、西側は水田であったと考えられる。この杭列の東側にはやや方向を異にしてほぼ垂直に打ち込まれた杭列があり、さらに東側にはこれと平行して広葉樹の樹皮が検出された。材は既に腐食していた。斜位の杭列との関係は明確でないが、土留め用材の可能性もある。

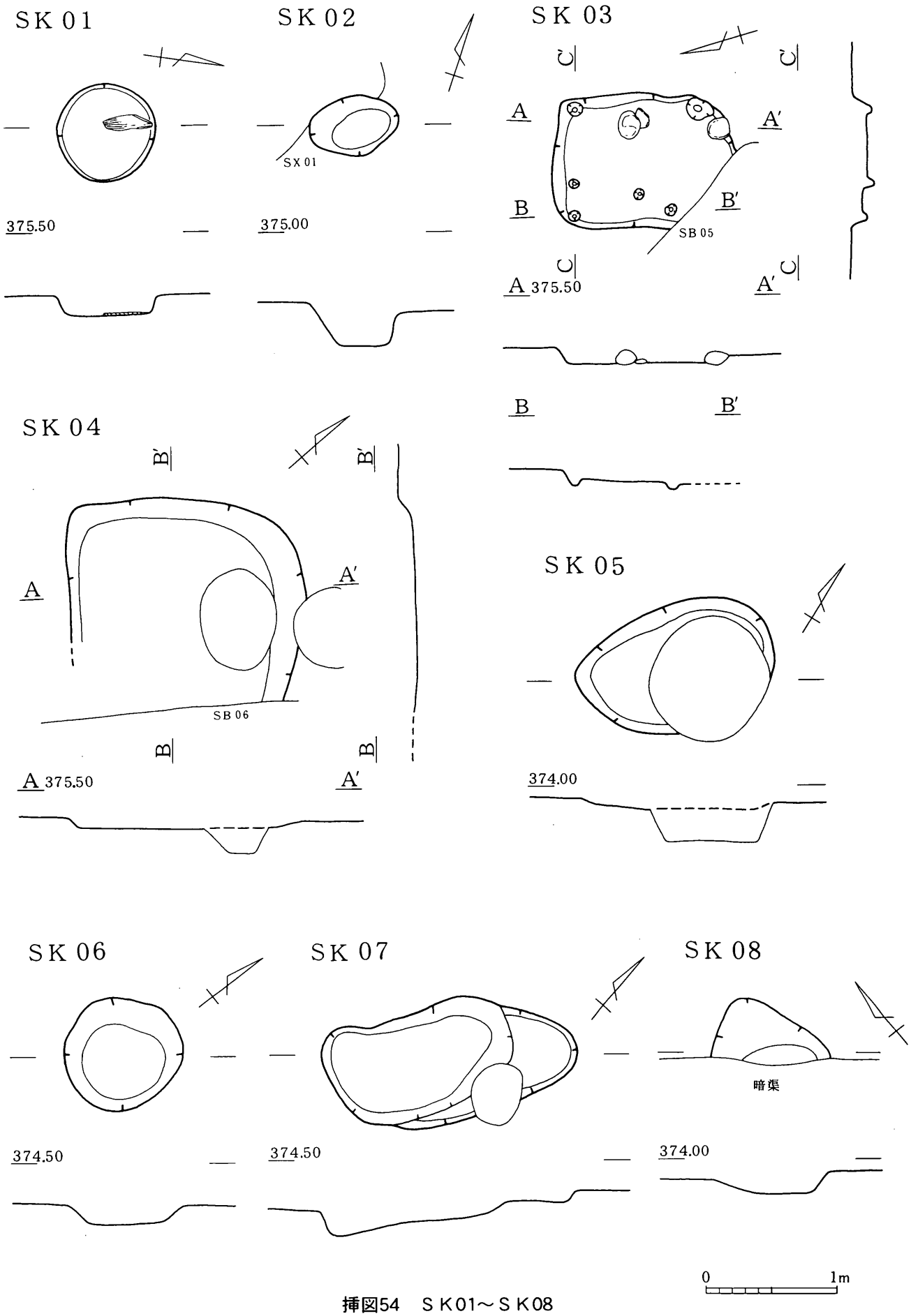
(5)土坑・土壙墓

①土壙墓

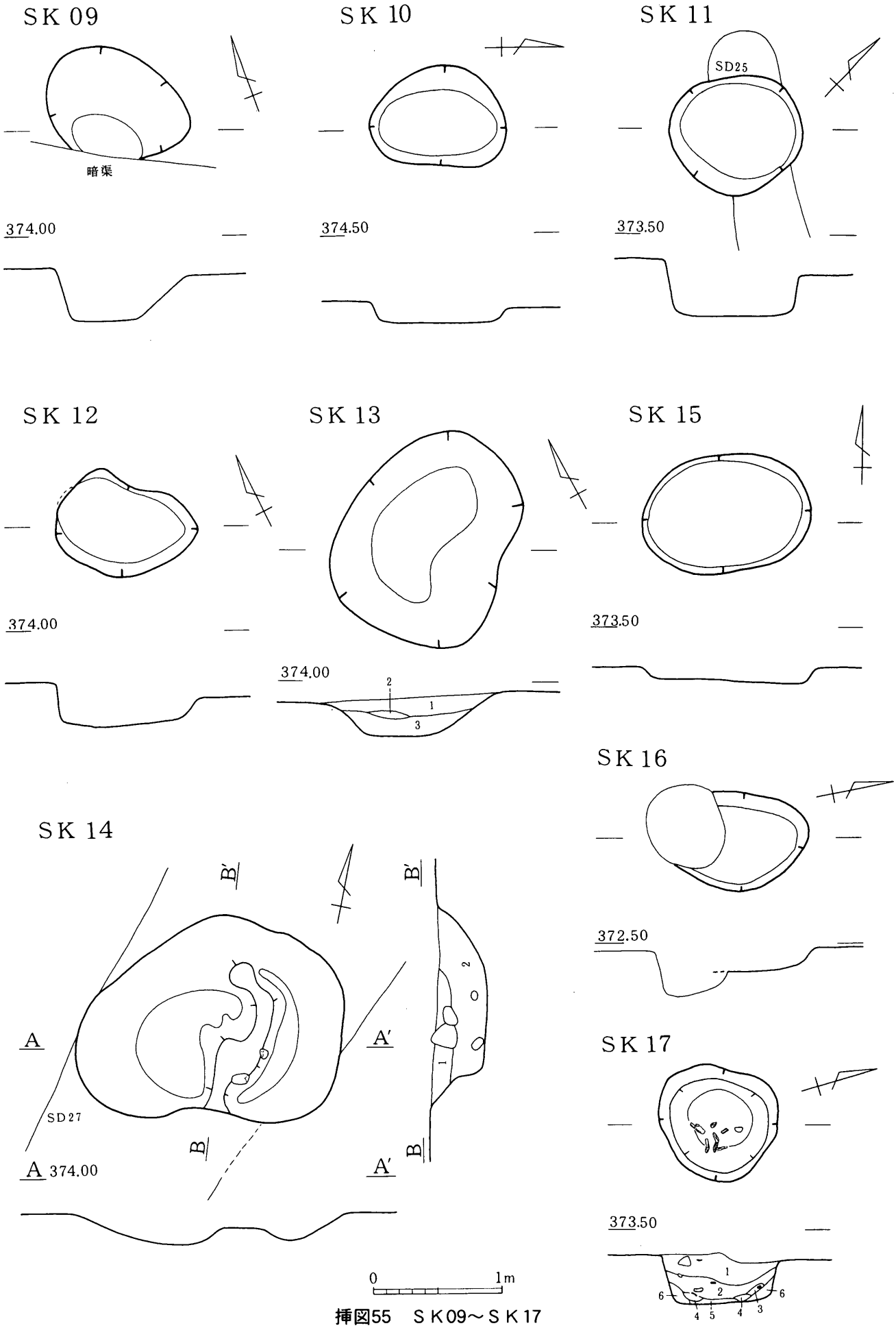
ＳＫ01は円形を呈し、ＳＸ03上部を覆う洪水砂の上面で検出された。人骨は遺存していなかったが、桶の底板が残存していることから、早桶を棺材に利用した土葬墓と考えられる。銅銭が出土しているが、銭文は不明である。枚数は14枚以上で、６枚を超える。他に瀬戸美濃系の陶器中碗片が出土しており、近世に位置づく。また、ＳＫ11付近からは銅製の煙管が出土しており、ＳＫ11も土葬墓である可能性がある。

②貯蔵穴

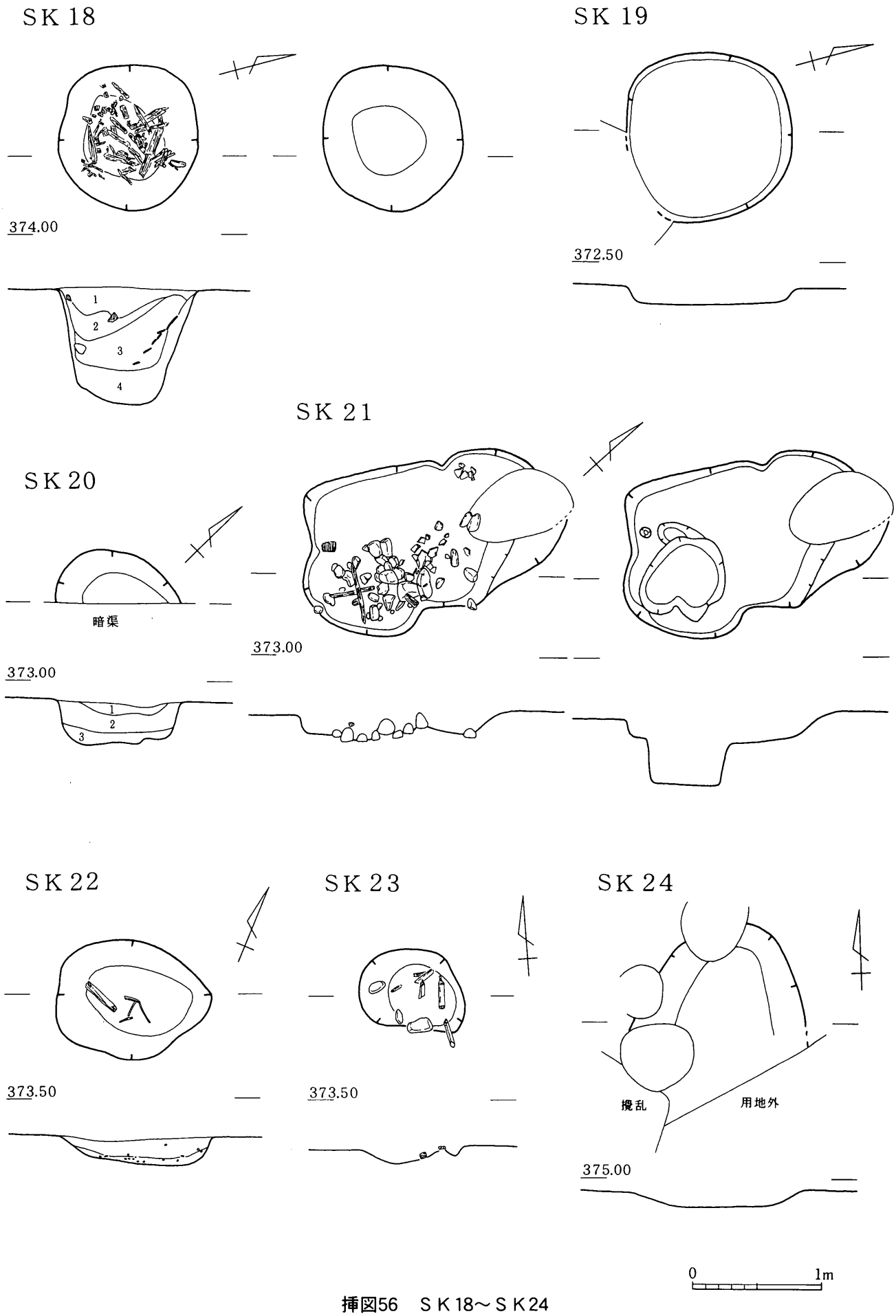
ＳＫ12は平面検出時にＳＤ24を切ることが把握された。不整楕円形を呈する。クリの種実の他、木製品が出土している。ＳＤ24からは須恵器坏Ｂが出土していて奈良時代以降に位置づくことから、ＳＫ12も奈良時代以降に比定される。ＳＫ17は不整円形を呈し、ほぼ垂直に掘り込まれている。中央部分の５層上部を中心にクリの種実が出土し、これより上部から木製品等が出土している。ＳＫ20は暗渠排水に壊されており、約１／２が調査された。下部からクリの種実が出土しており、覆土の状況から自然埋没と考えられる。ＳＫ22は不整形を呈し、壁は全体的に緩やかに立ち上がる。底部にクリ堅皮が集積する



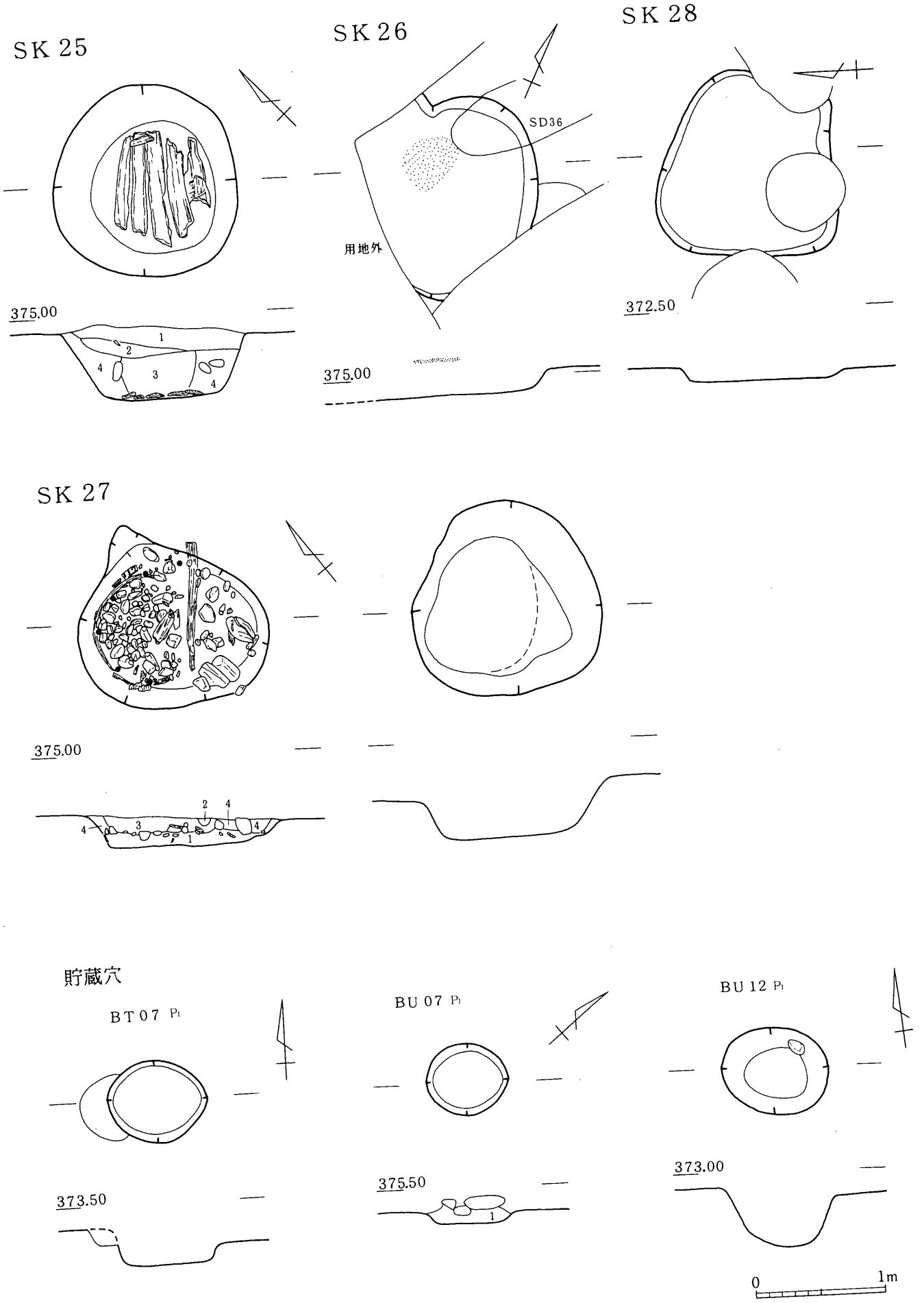
挿図54　ＳＫ01～ＳＫ08



挿図55　ＳＫ09～ＳＫ17



挿図56　ＳＫ18～ＳＫ24



挿図57　ＳＫ25～ＳＫ28　貯蔵穴

が、１層にも僅かではあるが含まれる。上部から板材等が出土している。ＳＫ23も底部にクリ堅皮の集積が見られ、クリ堅皮よりやや上位から板材等が出土している。ＳＫ22・ＳＫ23は調査時の所見ではいずれもＳＢ10を切る。ただし、ＳＫ12出土のクリは年代測定の結果、1,650±70BPという測定結果が得られており、ほぼＳＢ10の始期にあたる。他にクリの堅皮が出土したものとしてＢＲ08Ｐ１・ＢＴ07Ｐ１・ＢＵ07Ｐ１・ＢＵ12Ｐ１・ＢＶ08Ｐ１・ＢＶ11Ｐ１・ＢＷ12Ｐ１がある。いずれも不整円ないし楕円形を呈し、ＢＴ07Ｐ１・ＢＵ07Ｐ１は底面が平坦、ＢＵ12Ｐ１は丸底状を呈する。ＢＵ07Ｐ１は底面から約10cm浮いて上部に10～30cmの平板な礫が据えられており、重石がされたと考えられる。

③廃棄土坑

ＳＫ18は、径約１ｍの円形を呈し、深さ90cmを測る。平面・断面の形態は貯蔵穴と類似する。底部に繊維状物質、その上に細かな残材（削り屑）、さらに棒・板材があり、その上に一気に土が埋め戻されていた。埋め戻された状況や内容物から廃棄されたものと判断した。繊維状物質についてはイネ科以外の草本類と考えられるという分析結果が得られたが、詳細は不明である。

(6)溝址・溝状址および畦畔

調査時には溝址・溝状址として把握したが、最終的に畦畔が土圧により沈み込んだと判断されたものもある。なお、ＳＤ17は欠番とした。

①溝址・溝状址

ＳＤ01・ＳＤ02は掘立柱建物址の柱穴を切る。いずれも埋土は砂礫である。幅約20cmで底部レベルもほぼ揃い、かつ平行していることからほぼ同時に機能したと考えられる。具体的には畦畔の両側に巡らされた水路と考えられる。ＳＤ03・ＳＤ04は水田址ＳＸ03より下の砂礫層よりもさらに下位で確認された。両者は平行しており、間の部分は大畦畔と考えられる。同様にＳＤ06・ＳＤ07の間も畦畔と考えられる。ＳＤ03～ＳＤ07は埋土砂利であり、水路である。

ＳＤ25は砂が多く含まれ、水路である。材の遺存状況からＳＫ11に切られると考えられる。ＳＤ25の始点は把握できなかったものの、ＳＸ07と同一方向に延びることから、ＳＸ07から導水された水が流れたと考えられる。ＳＤ27は底面に凹凸があり、水が流れた痕跡がある。自然流路である。

ＳＤ30は埋土砂であるが、北西側の始点が明確でない。砂がさらに北西に向かって潜り込んでいる状況が看取されたことから、削平を受けて上流部が遺存していないというより、把握された北西端部付近で伏流が自噴した可能性が考えられる。ＳＢ10重複部分ではＳＢ10と埋土に差がなく、新旧関係は把握できない。ＳＢ10と同時期のもので、ＳＢ10に流れ込んでいたものと考えられる。

ＳＤ31はＢＲ14付近でほぼ直角に向きを変えることから、方形周溝墓の可能性も考慮したが、対辺は確認できなかった。埋土シルト質埴土であるが、溝址と考えられる。壁の立ち上がりが緩やかな点は、畦畔の沈み込みである可能性も示唆するが、ＢＲ14・ＢＲ15付近に木質遺物が集中していて、しかも遺物のはみ出しがない点は溝址であることを裏づけると考えられる。検出面から底面まで浅いが、幅や深さはほぼ一定している。出土遺物から古墳時代中期以降に比定される。

ＳＤ33はＳＢ10底面で検出されたが、ほぼこの位置で暗渠排水と重複する。埋土シルト質埴土で近代と考えられる杭列と位置が重なることから、畦畔の沈み込みの可能性も考えられた。しかし、蛇行して

いることから自然流路と考えられ、ＳＢ10断面からみてＳＢ10よりも古いと考えられる。ＳＤ27とは埋土を異にするが、検出位置からＳＤ27との関連が想定される。

ＳＤ37・ＳＤ38は、形態から住居址の周溝の可能性も考慮したが、最終的にＳＤ35と連続する溝址と判断した。ＳＤ42は北端部分に炭が大量に出土し、種子や稲藁のようなものが混じる。この部分で礫が集中している。小礫の上に大礫が被る状況は近代の暗渠排水を思わせるが、検出深度は調査前の田面より１ｍ以上深く、暗渠とは考え難い。

ＳＤ44～ＳＤ49・ＳＤ52～ＳＤ56・ＳＤ62はＳＤ49を除き、方向を揃え、幅・深さにも顕著な差はない。検出面から底面まで浅いが、側壁はやや急な立ち上がりを示しており、畦畔の沈み込みとは異なる。埋土はシルト質埴土ないし軽埴土で、止水に近い状態の水路と考えられる。これらのＳＤ群は傾斜に沿って走っていることから水田に関連した小規模な水路と考えられ、近接ないし重複していることから、相互の時間的間隙は小さいものと考えられる。

ＳＤ50・ＳＤ51はほぼ同位置に掘り込まれ、同形の断面形をとることから、同じ機能を有すると考えられる。下層付近に砂土が堆積していることから、水路と考えられる。

②畦畔と関連施設

ＳＤ10は傾斜に対して直行方向に延びている。埋土に砂は含まれず、また底部に水が流れた痕跡はないことから、大畦畔が沈み込んだものと考えられる。ＳＤ11は最下層の４層に砂が多く含まれることから、水路として機能していたと考えられる。４層と３層の層界付近に木質遺物が集中する。試掘時の所見ではＳＤ16に切られる。

ＳＤ13・ＳＸ04・ＳＸ06の新旧関係については、平面でＳＤ13がＳＸ04より古く、ＳＸ06はさらに古いと把握した。ＳＤ13は当初水路と考えたが、天竜川の上流側に向かって低くなること、埋土中に砂がみられないこと、側壁があまり明確でなくかつだらだらとしていること、内部から出土した板材等が多く溝址と方向を異にしていることから、大畦畔の沈み込みと判断した。また、ＳＸ04およびＳＸ06南端部はＳＤ13北縁とほぼ同位置であることから、大畦畔であるＳＤ13と一体的に機能していたと考えられる。ＳＸ06は、２箇所に柱痕があり、竪穴状にも見えるが、底面が傾斜している。溜め池ではないかと考えられる。埋土のうち、黄灰砂下部にはほとんど遺物がない。黄灰砂はＳＸ06のみの分布であり、他の遺構の埋土中にもみられない。洪水起源の砂と考えられる。量的に少ないもののＳＸ06からも木製品が出土し、また形態は異なるが、ＳＢ10とほぼ同規模と考えられることから、ＳＸ06も同様の施設であった可能性がある。ＳＸ07は導水施設でＳＤ13・ＳＸ04に伴うと考えられる。ＳＤ13は灰釉陶器椀(第10図14)・丸瓦（第19図３）が出土することから、９世紀以降に位置づけられる。

ＳＤ14～ＳＤ16は傾斜に沿うもので、試掘トレンチで北端部付近を壊している。また、南端部は暗渠排水により壊されており、ＳＤ13との関係は把握できなかった。検出面より浅いため断面形状ははっきりしないが、底面は平坦で側壁はだらだらと立ち上がる。埋土に砂は含まれていない。また、ＳＤ15を中心に板材等が含まれているが、各遺構の長軸方向に対して斜位に、かつ溝中央部が最深となっていた。こうした特徴は大畦畔と判断されたＳＤ13と同様であり、ＳＤ14～ＳＤ16も大畦畔であると考えられる。殊にＳＤ15についてはＳＸ04・ＳＸ06との位置関係から、ＳＤ13と一体的に機能していた可能性が指摘できる。ＳＤ14～ＳＤ16各々の新旧関係は把握できなかったが、埋土等が似通うことからほぼ同時期と

考えられる。やはり埋土がＳＢ10と同じ色合いを呈することから、７世紀前後の可能性がある。

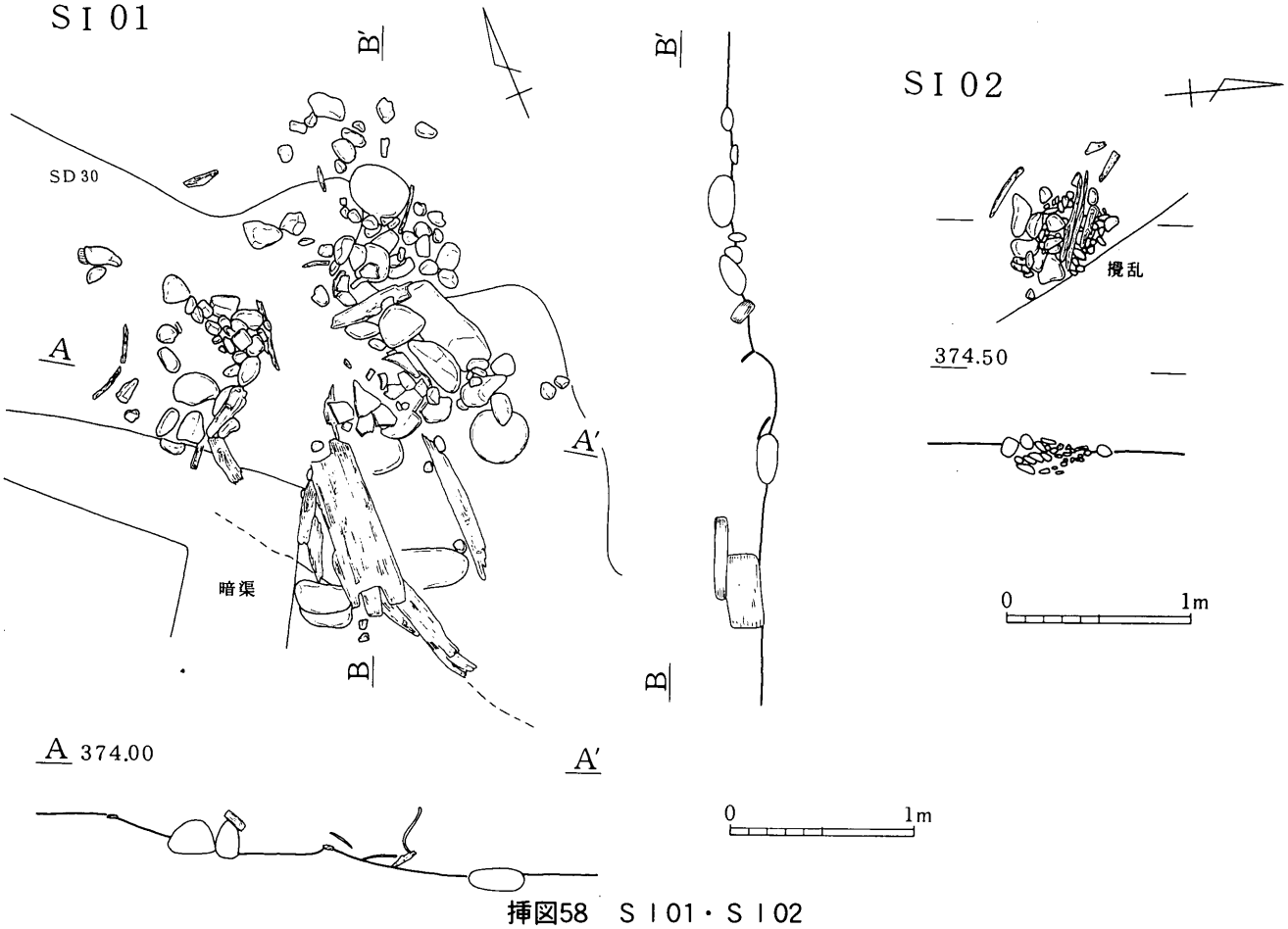
ＳＸ04・ＳＸ06の北西側ではＳＤ12Ａ・ＢおよびＳＤ18～ＳＤ20が重複して検出された。ＳＤ12Ａの南端部付近は暗渠排水に壊されてＳＸ06等との新旧関係は把握できなかった。ＳＤ12Ａ・ＳＤ12ＢはＳＤ12Ｂが下位にあるが、ほぼ同時期と考えられる。ＳＤ12ＡはＳＤ19左側縁・ＳＤ20右側縁を切る。また、ＳＤ19はＳＤ18と埋土の状況から同時期と考えられる。さらに、ＳＤ20は埋土に砂が多く、自然流路と考えられ、ＳＤ19を切る。以上の新旧関係を整理すると、古い方からＳＤ18・ＳＤ19→ＳＤ20→ＳＤ12Ａ・ＳＤ12Ｂ→ＳＸ04と変遷したと考えられる。しかし、ＳＤ12Ａ・ＳＤ19にまたがる板材が存在し、かつこの材が打ち込まれたのではないことから、ＳＤ12Ａ・ＢおよびＳＤ18～ＳＤ20は近接した時期のものと推定される。また、ＳＤ18・ＳＤ19は埋土の色合いからＳＢ10と同じ頃と推定され、ＳＤ14～ＳＤ16ともほぼ同時期の可能性がある。これらのＳＤ群とＳＤ13との重複はなく、新旧関係は不明である。ただ、ＳＤ12Ａ下部に木質遺物を多く含む漆黒土があることから、ＳＤ12ＡはＳＤ13より新しいと考えたが、出土遺物でみるかぎり新旧は逆転しており、そう年代差はないものと考えられる。

ＳＤ21～ＳＤ23はＳＤ14～ＳＤ16と同方向に延びており、埋土の状況や断面形態が類似することから、大畦畔であると考えられる。

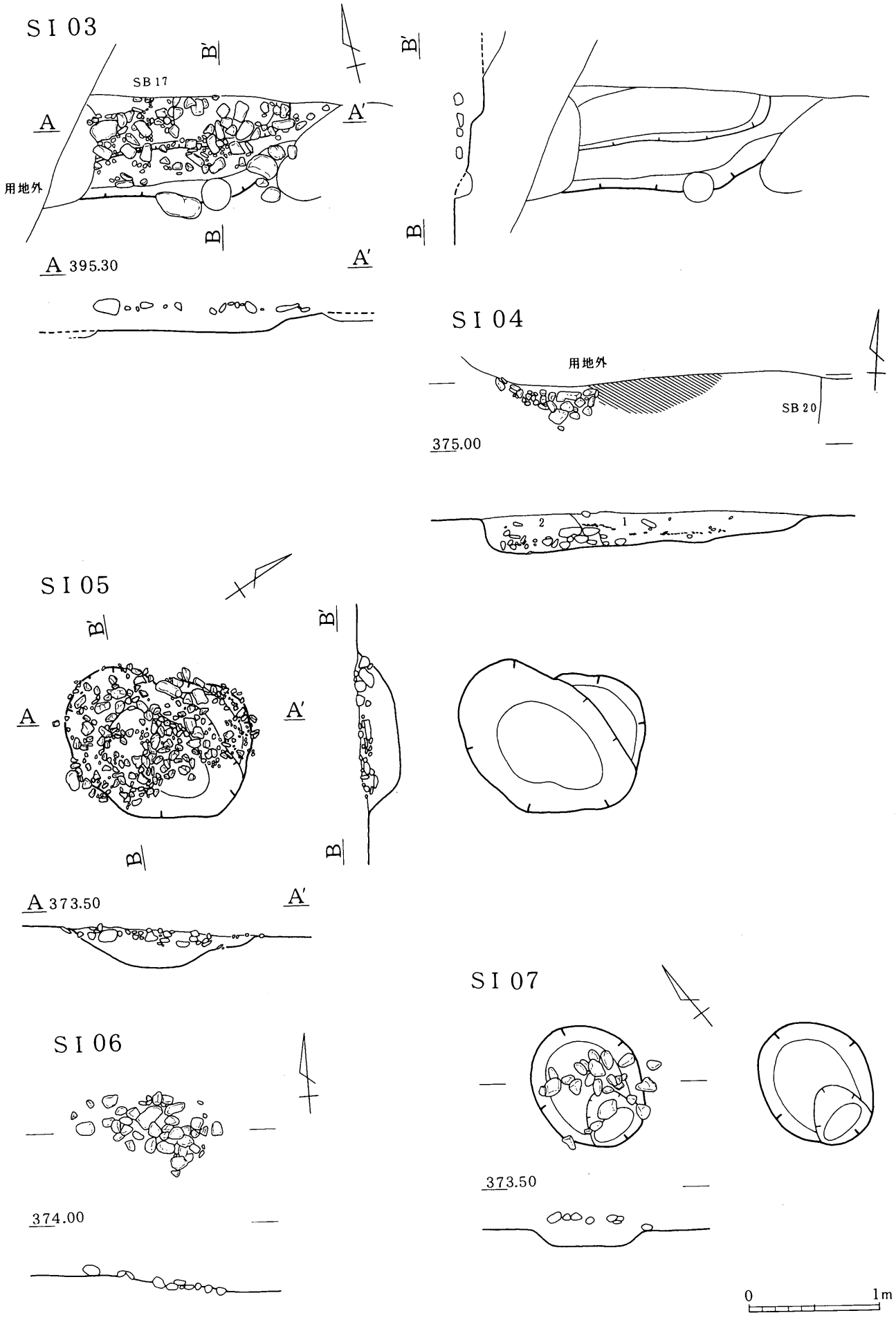
ＳＤ65は断面の形状や埋土の状況から畦畔の沈み込みと考えられる。ＳＤ13との重複部分は不明確であり、レベル差がないことから、同時期の別方向に伸びる畦畔の可能性が高い。

(7)集石・石組遺構

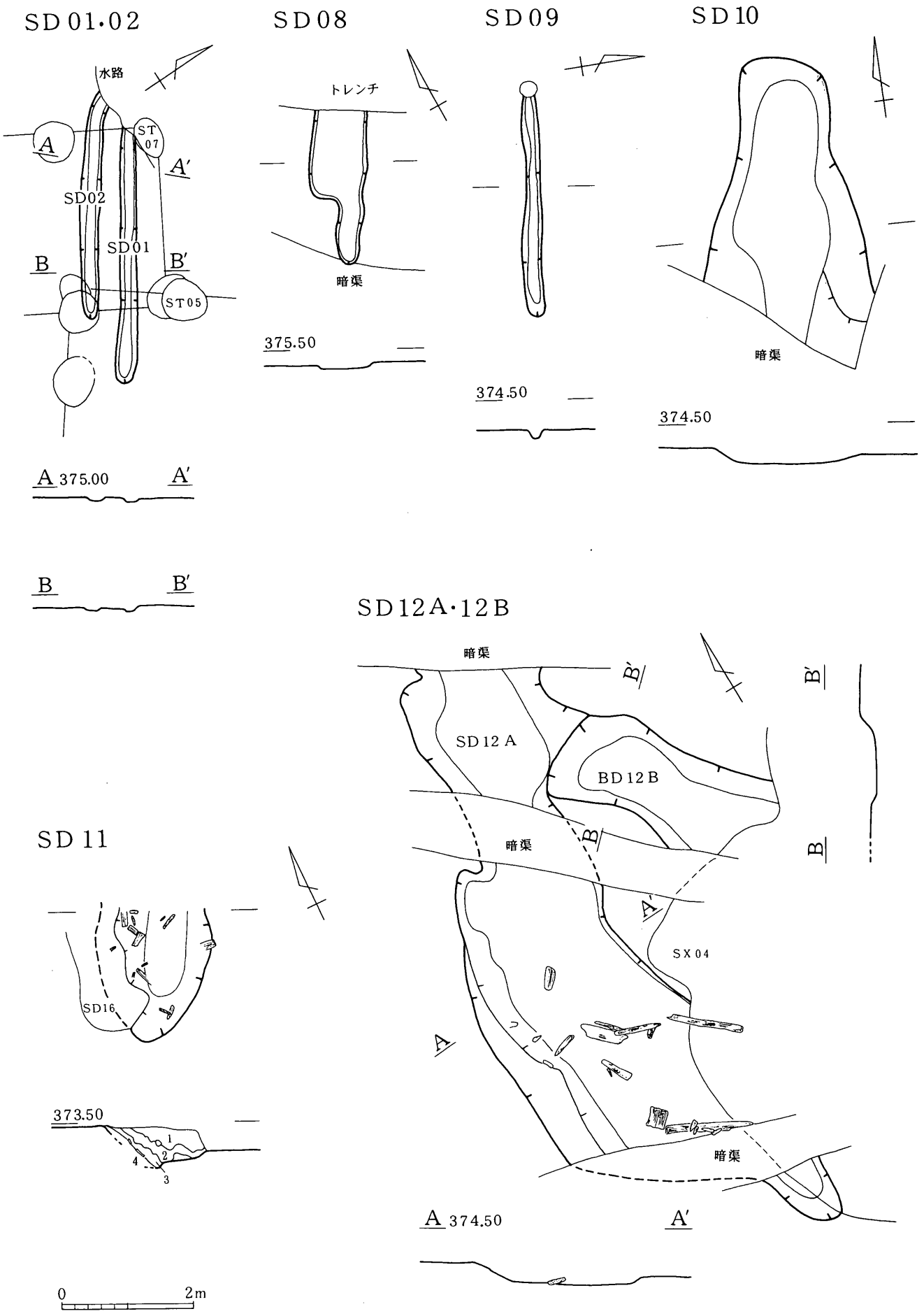
ＳＩ01は径10～40cm大の礫が密集すること、礫間に須恵器甕破片が集中していること、杭を打ち込ま



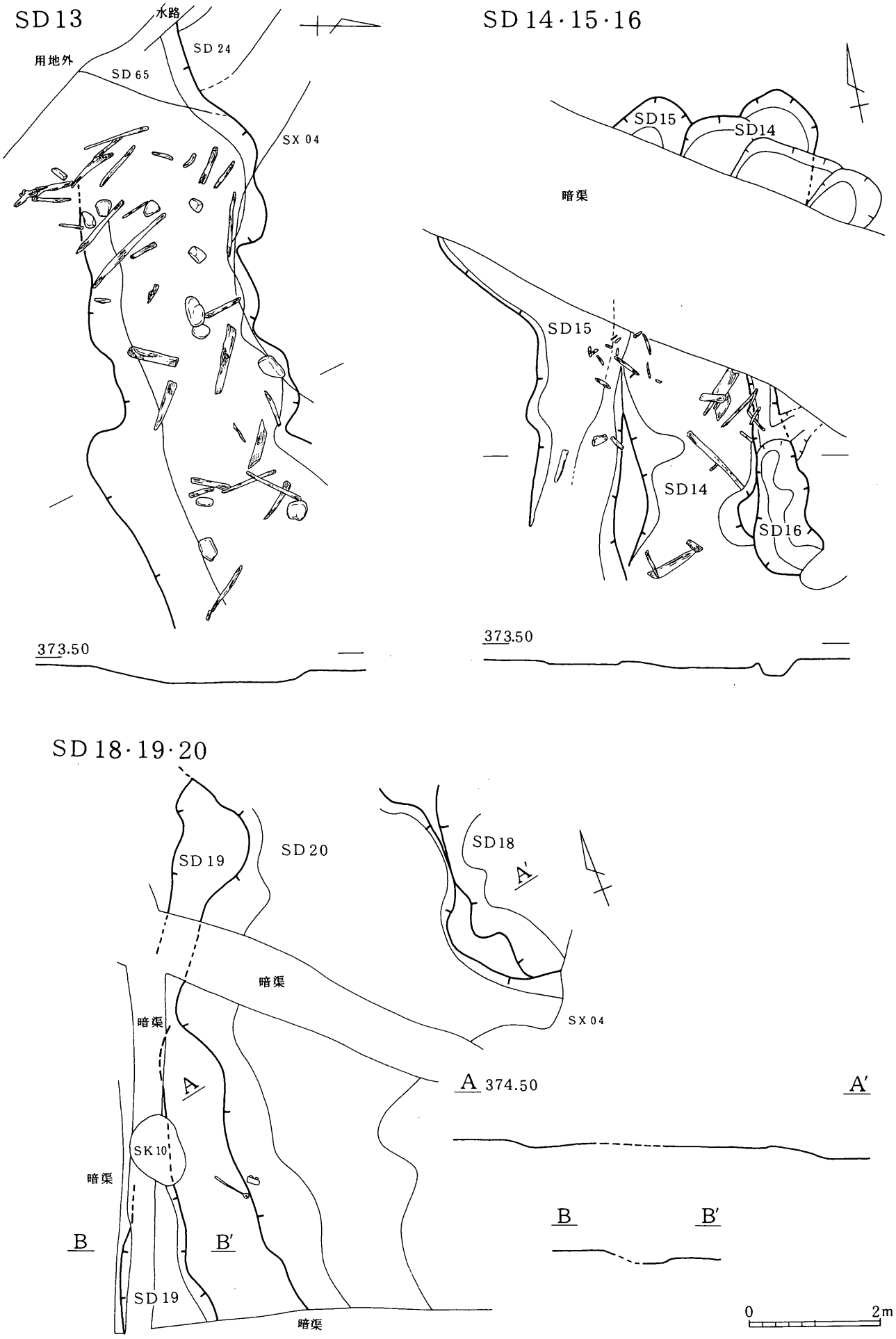
挿図58　ＳＩ01・ＳＩ02



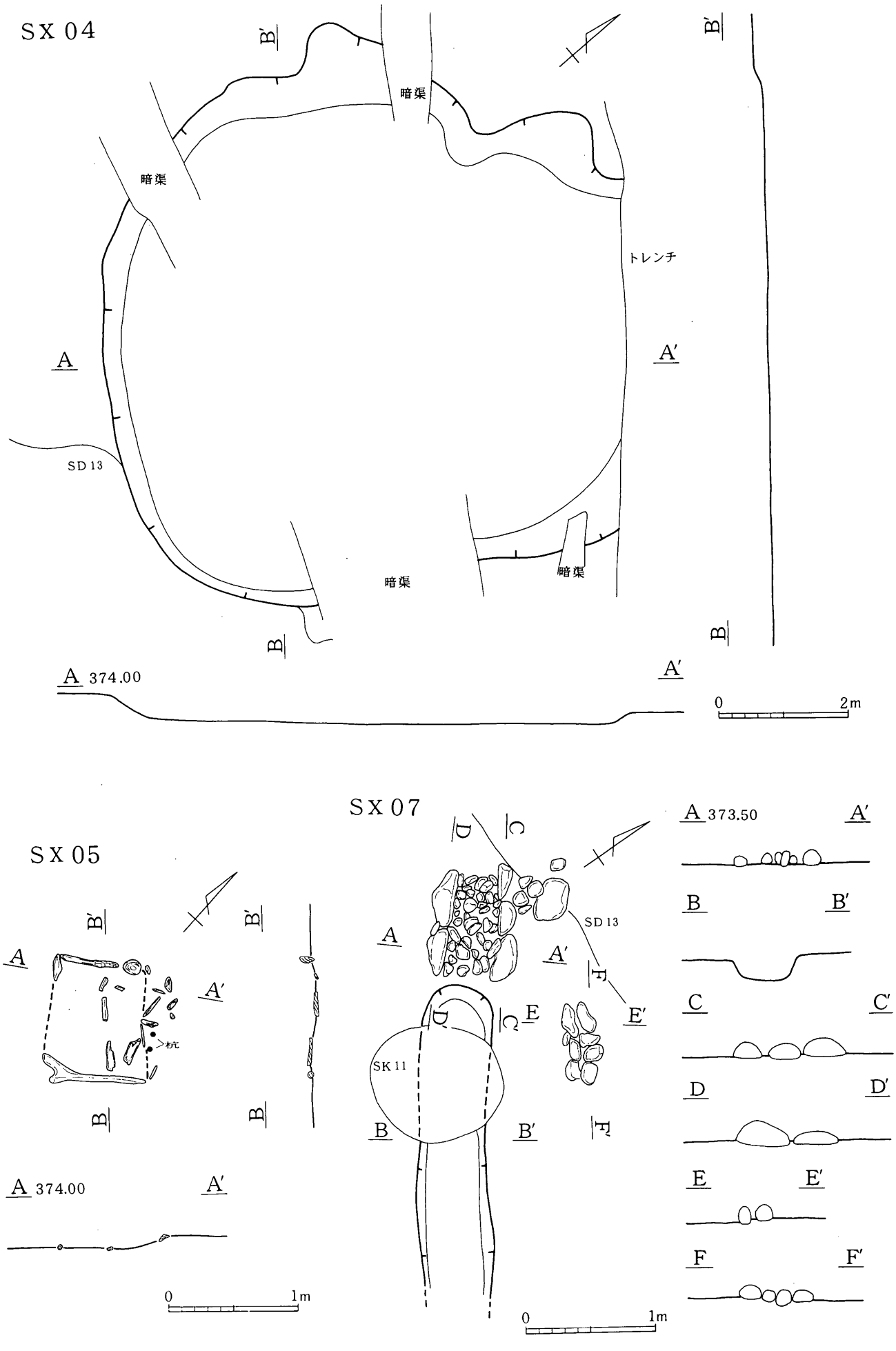
挿図59　S I 03～S I 07



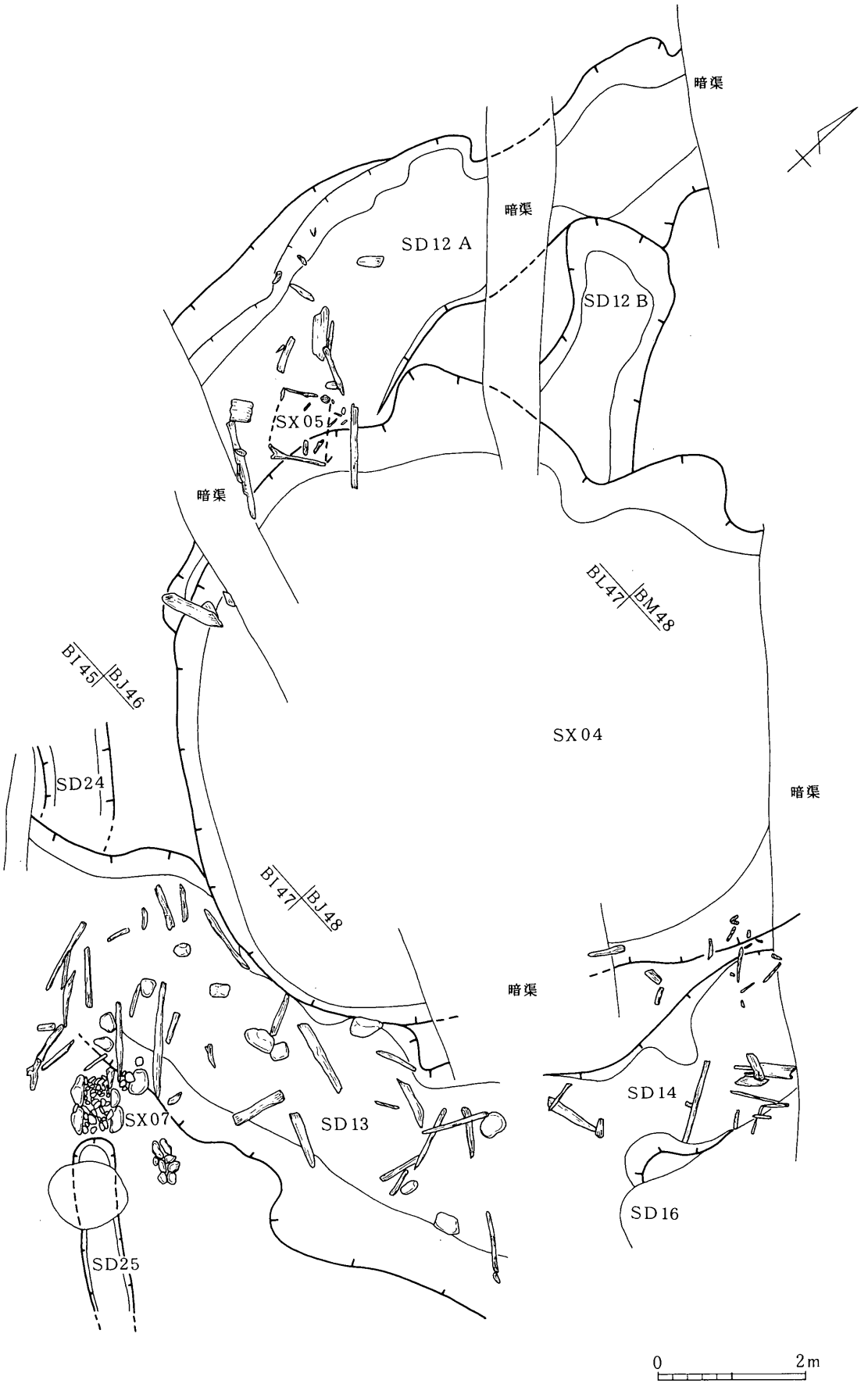
挿図60　ＳＤ01・ＳＤ02、ＳＤ08～ＳＤ12Ａ・Ｂ



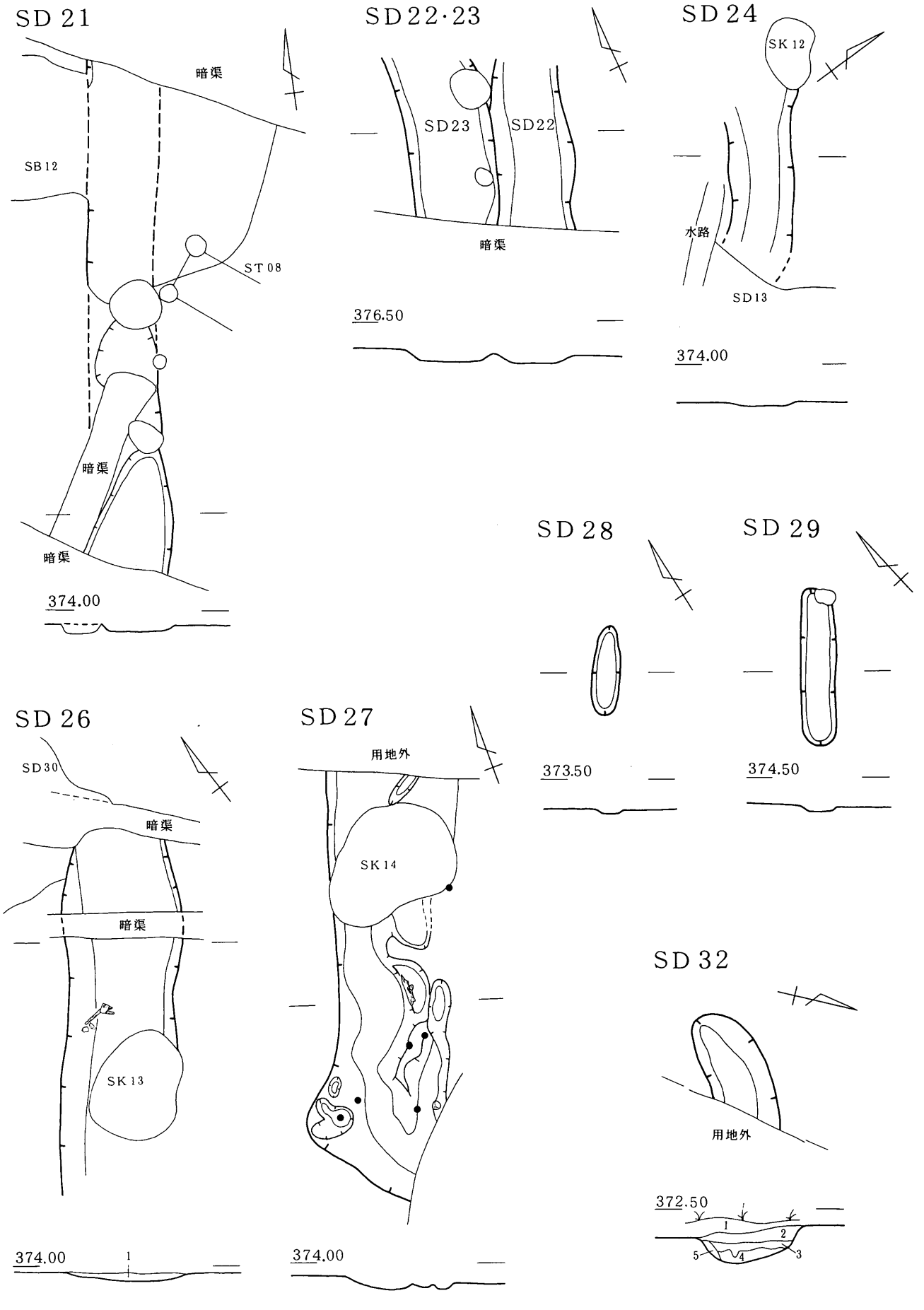
挿図61　ＳＤ13～ＳＤ16、ＳＤ18～ＳＤ20



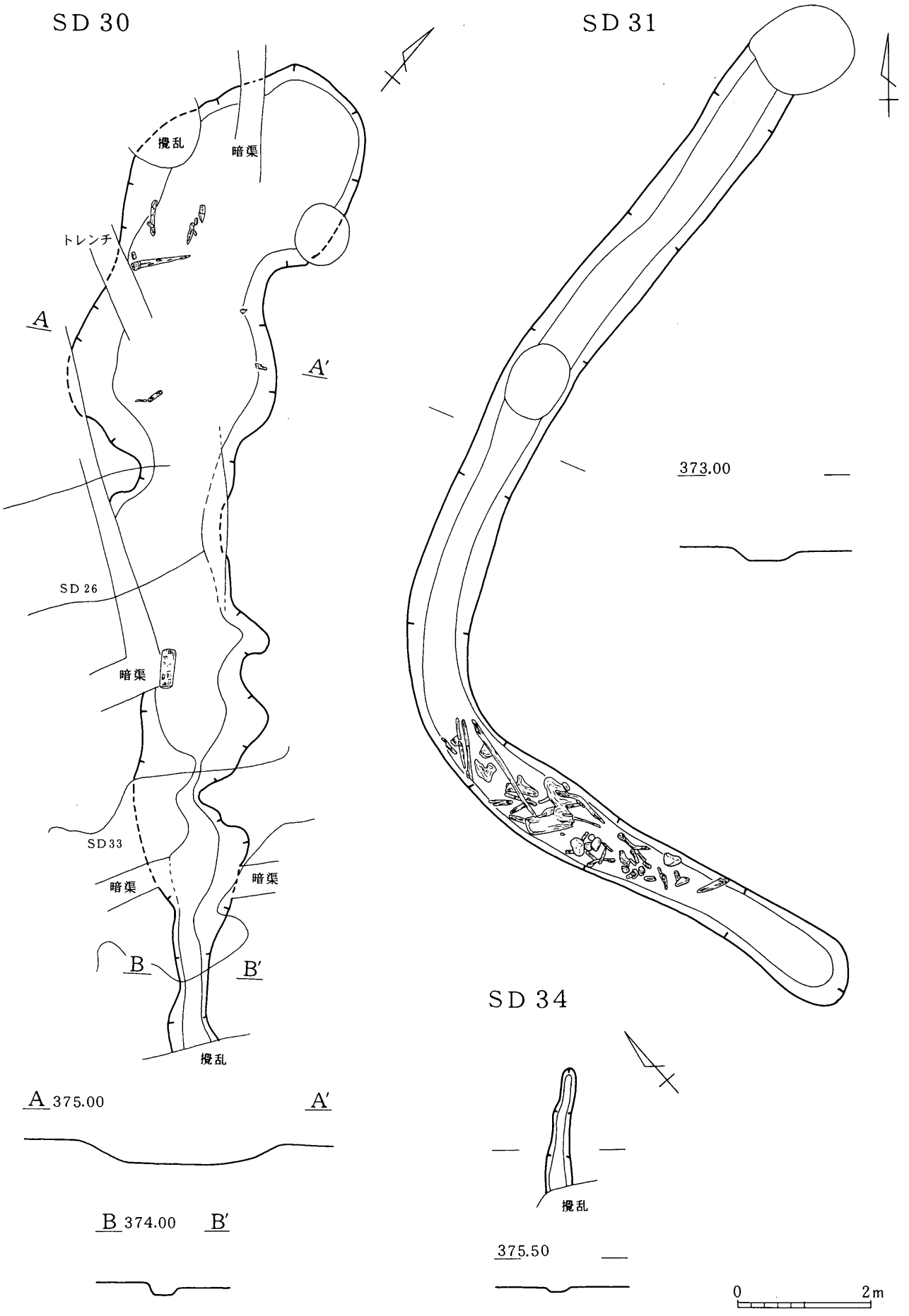
挿図62　ＳＸ04、ＳＸ05、ＳＸ07



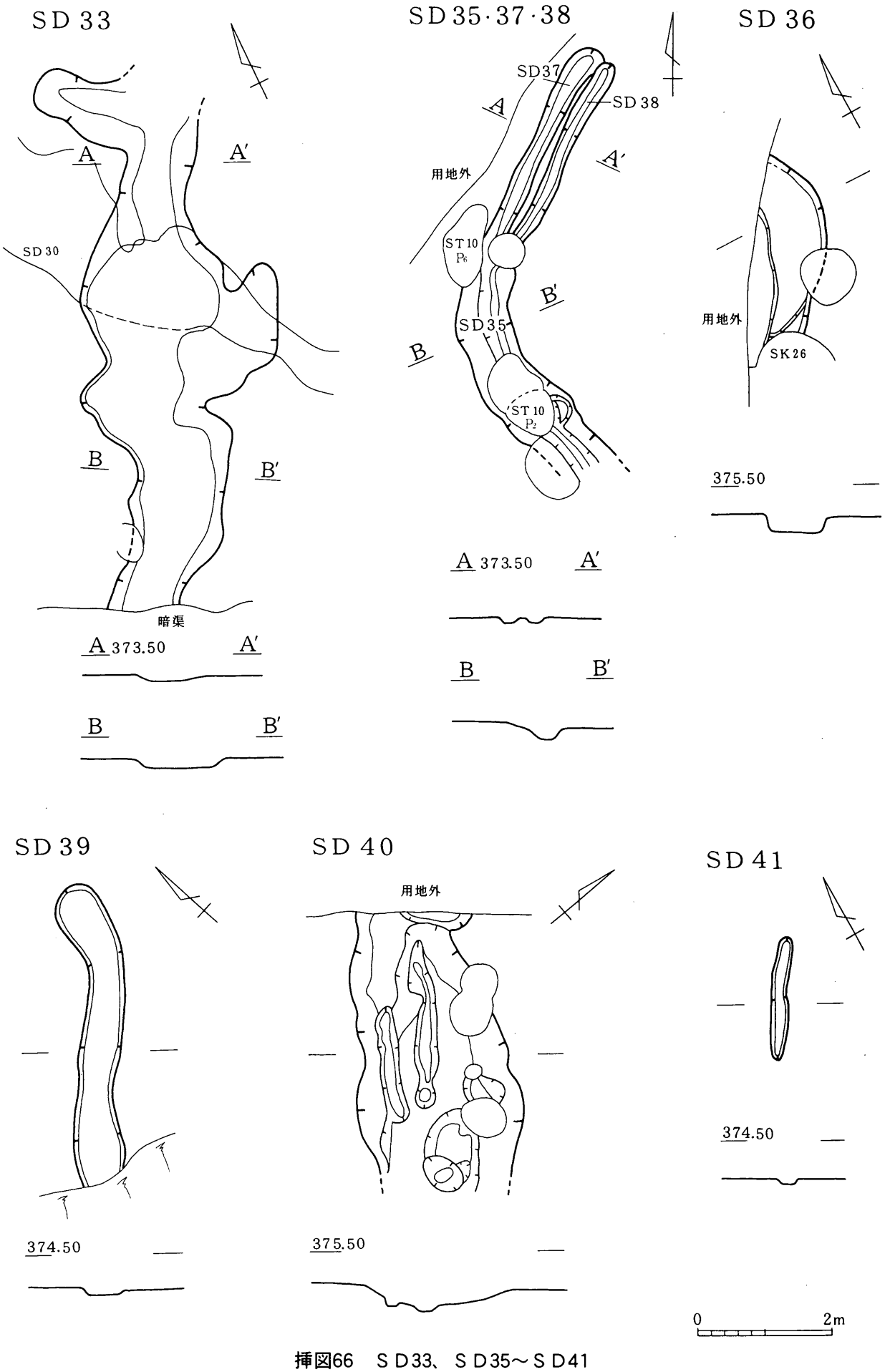
挿図63　ＳＤ12～ＳＤ14、ＳＸ04、ＳＸ04、ＳＸ07　関連図



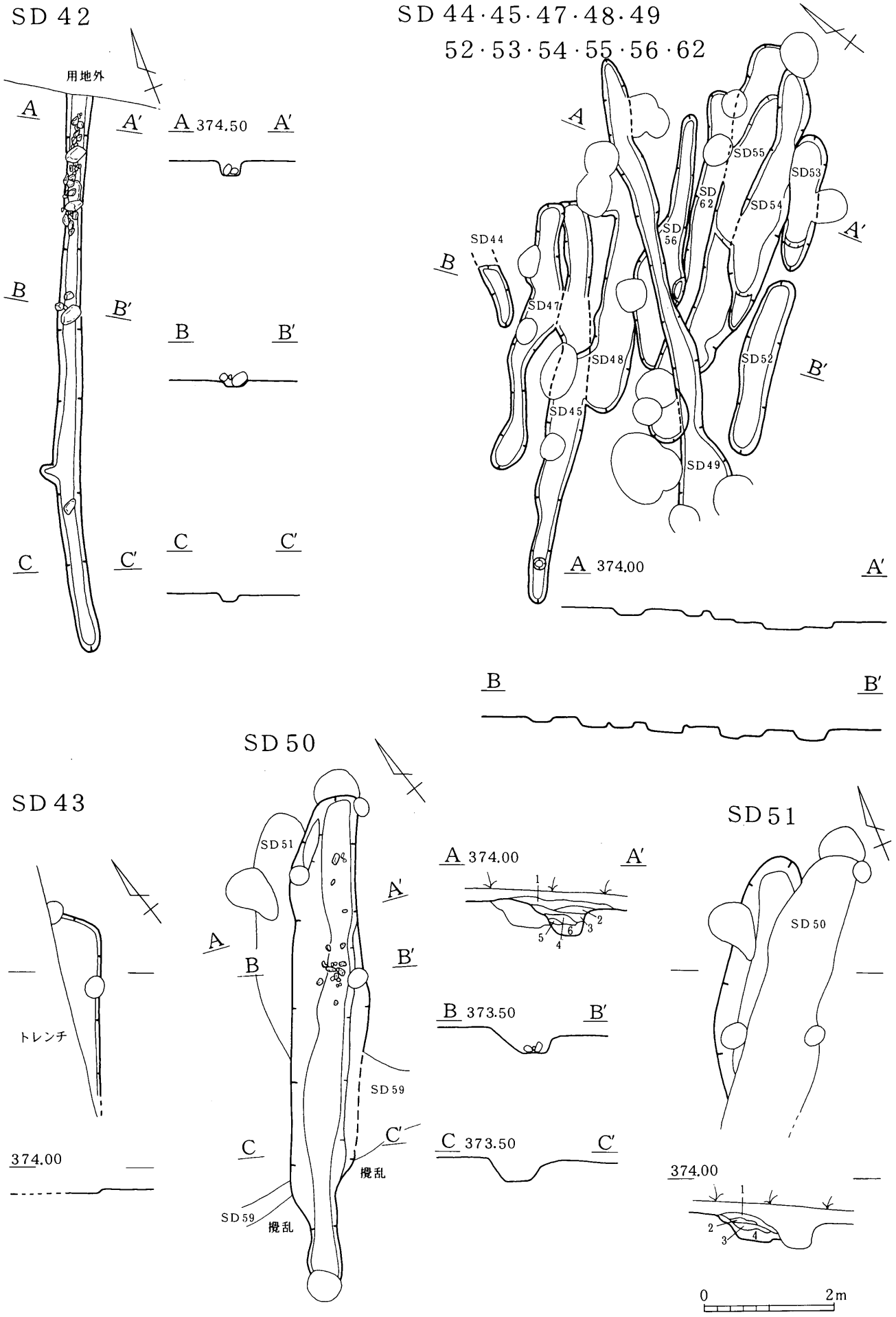
挿図64　ＳＤ21～ＳＤ24、ＳＤ26～ＳＤ29、ＳＤ32



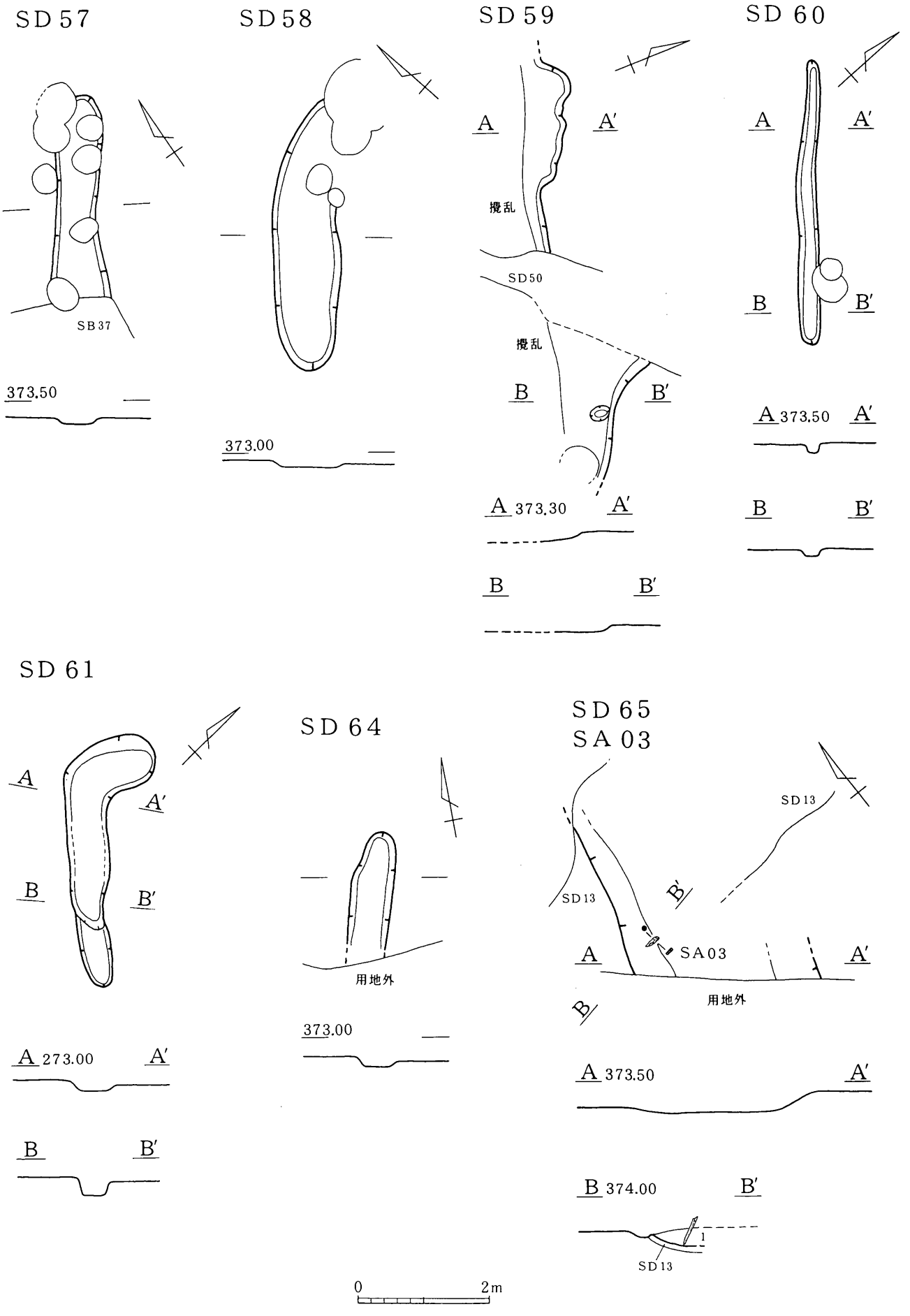
挿図65　ＳＤ30、ＳＤ31、ＳＤ34



挿図66　ＳＤ33、ＳＤ35～ＳＤ41

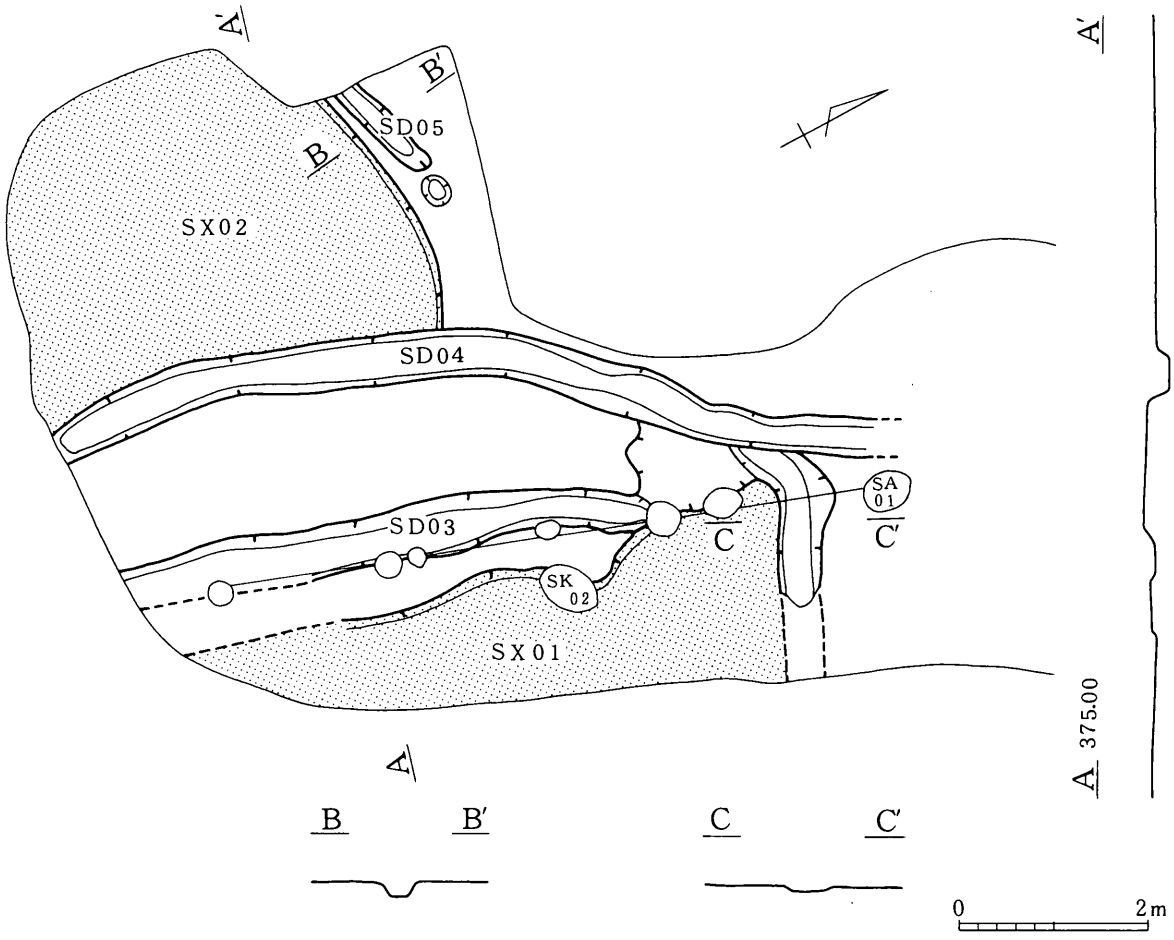


挿図67　ＳＤ42～ＳＤ45、ＳＤ47～ＳＤ56、ＳＤ62

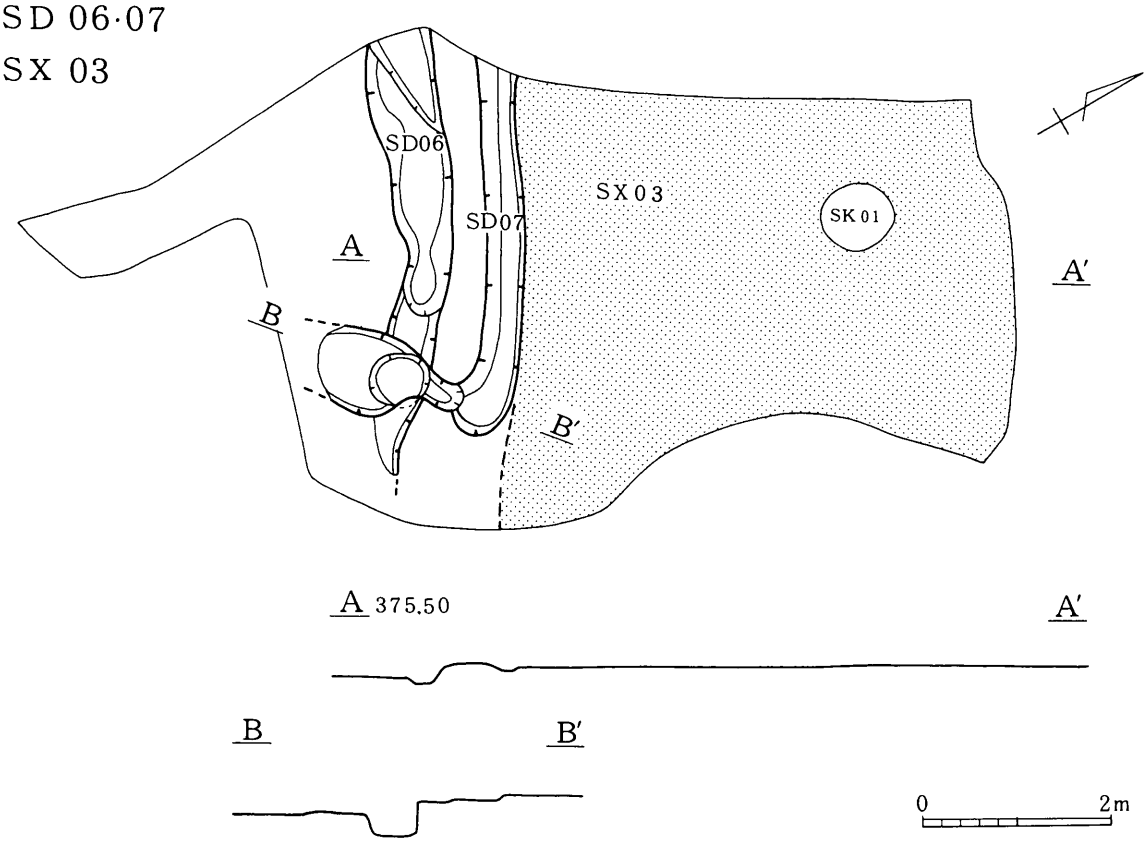


挿図68　ＳＤ57～ＳＤ61、ＳＤ64、ＳＤ65、ＳＡ03

SD 03·04·05
SX 01·02



SD 06·07
SX 03



挿図69　ＳＤ03～ＳＤ05、ＳＸ01・ＳＸ02、ＳＤ06・ＳＤ07、ＳＸ03

れた建築部材があったことから、１遺構と把握した。しかし、建築部材に打ち込まれた杭が近代の杭列の一部であることが判明し、また建築部材はＳＢ10の建築部材の分布域（挿図28）の中であり、ＳＢ10に含まれるものと考えられる。ＳＤ30とほぼ重複していることから、ＳＤ30に設けられた何らかの施設であると考えられるが、性格等不明である。ＳＩ02はＳＤ30調査中に上部に杭、下部に径10～30cm大の礫が集積しているのが検出された。礫は断面観察ではレンズ状の堆積ともいうべき状況であり、溝址内に掘り込まれた坑に丁寧に充填されたと考えられる。ＳＩ04はＳＢ20を切って検出され、掘り込みを伴う。礫は東半に大形の平板なものが平らに積まれるのに対して、西半は小振りな礫が乱雑に集積している。また礫上部から東側にかけて炭が多量に分布している。調査区外に延び、かつ出土遺物は重複遺構からの混入と考えられることから、時期・性格等詳細は不明である。ＳＩ05は地山に含まれる礫との峻別に難儀したが、小礫の集中し下部で検出された掘り方と重なる部分を遺構として捉えた。礫の集中は上部のみであり、掘り方はだらだらとくぼむ。

(8)井戸

ＳＫ25は底面に長さ70～90cm、幅15～20cm程度の板材が敷き並べられる。側壁は緩やかに立ち上がるが、３・４層の層界は急な立ち上がりを示している。ＳＫ27は曲物を木杭・板で固定し側壁を持たせており、底面に礫が充填されていた。形態から井戸址と考えたが、両者とも湧水よりも高い部分に構築されている。

(9)その他（水田址・周辺柱穴）

水田址ＳＸ03は近世の土葬墓ＳＫ01に切られ、近世以前に位置づくと考えられる。上部に洪水に起因する細かい砂が被る。ＳＤ07に沿った部分は僅かに高く、小畦畔の痕跡と考えられる。耕土中より陶器擂鉢片が出土した。水田址ＳＸ01・ＳＸ02は砂礫層を挟んで、ＳＸ03より下位で検出された。前述のＳＤ03・ＳＤ04と一体施設と考えられ、ＳＸ01とＳＤ03、ＳＸ02とＳＤ04の間にはそれぞれ小畦畔があった可能性が高い。ＳＸ02はＳＸ01・ＳＸ03と異なり、ブロック状の土が認められる埋め戻したような耕土である。

ＳＸ05は長方形に枝や板材が組まれたもので、北西辺は板が立った状態であり、北東辺中央付近外側に２本の杭が打ち込まれていた。内外で埋土の違いは看取されず、遺物等もないことから、性格等は不明である。

銅鋺（巻頭写真・第87図７）はＳＢ06の床面付近で出土したが、精査の結果、住居址よりも新しい柱穴内からの出土と判明した。下部に炭が薄く分布しており、柱穴内部に炭を充填した後埋納されたと考えられる。口径16.8cm、残存高 6.0cm、厚さは口縁部で2.95mm、胴部で0.55mmと非常に薄く、極めて精巧な作りである。口唇部が肥厚する、平ないし丸底を呈すると考えられる無台鋺である

(10)遺構外出土遺物

①縄文時代

遺構検出面より下層の黒色土中から縄文時代前期と考えられる石匙(第33図１)が出土しているが、若干摩滅している。相沢川左岸中位段丘には前期の著名な今洞遺跡があり該期にはこうした遺跡立地が周辺でもみられることから、中位段丘上の遺跡からの流れ込みによるものと考えられる。前期後葉、中期

初頭・中葉・後葉、後期前葉・中葉の遺物（第11図10～22）の出土があるが、散漫に出土しており、また摩滅しているものも多い。

土製耳飾（第35図１～４）は後・晩期に比定されるものである。

②弥生時代（第11図23～40）

縄文時代と同様断片的な資料であるが、他時期の遺構に混入して弥生後期前半・後半の遺物出土がある。後期後半の壷・甕片が多い。

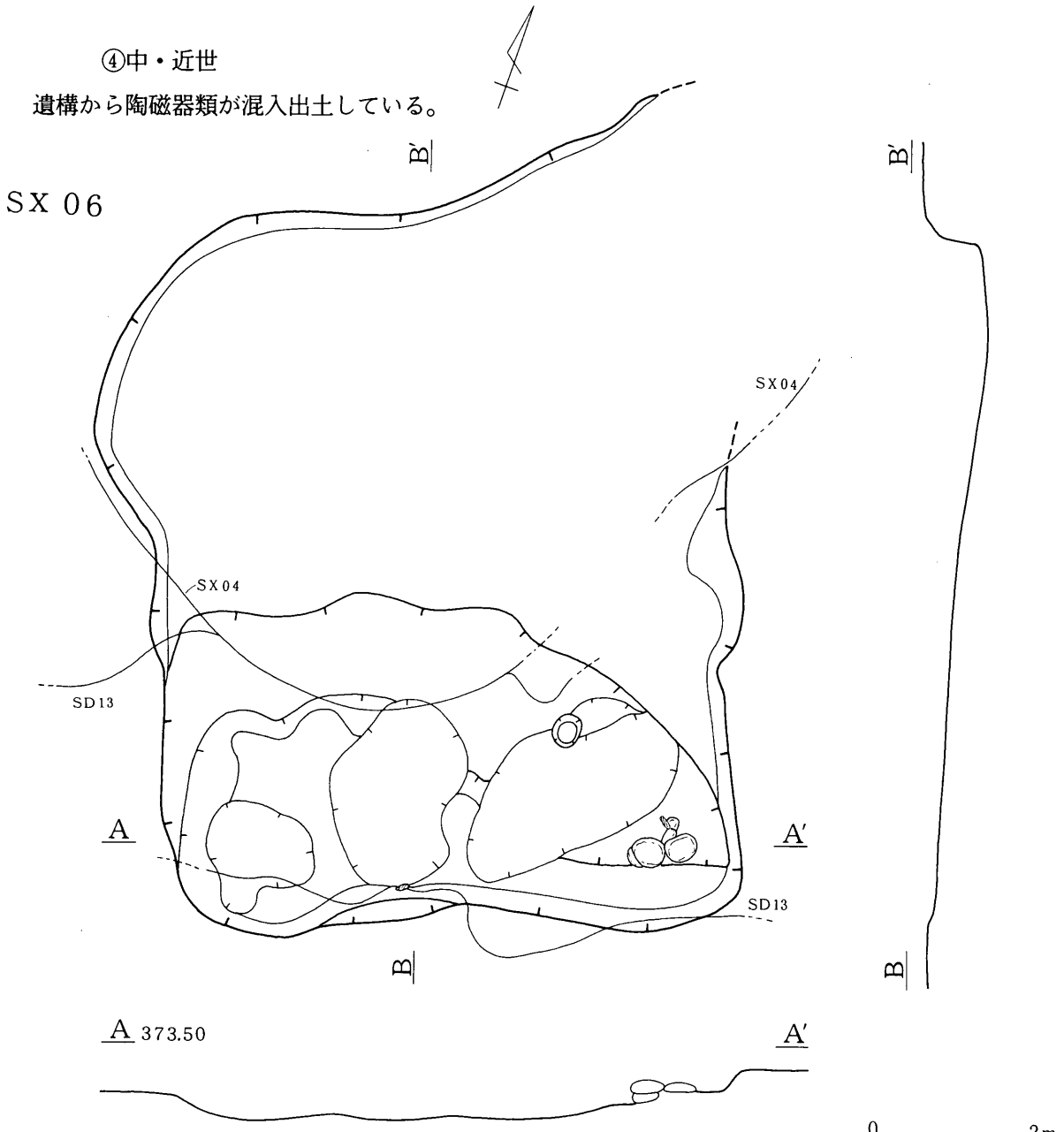
③古墳時代

遺構として把握できなかったものの、ＳＢ18北側付近には遺物集中があり（挿図91）、須恵器提瓶のほぼ完形品（第17図16・第17図１）や土師器高坏等が出土している。

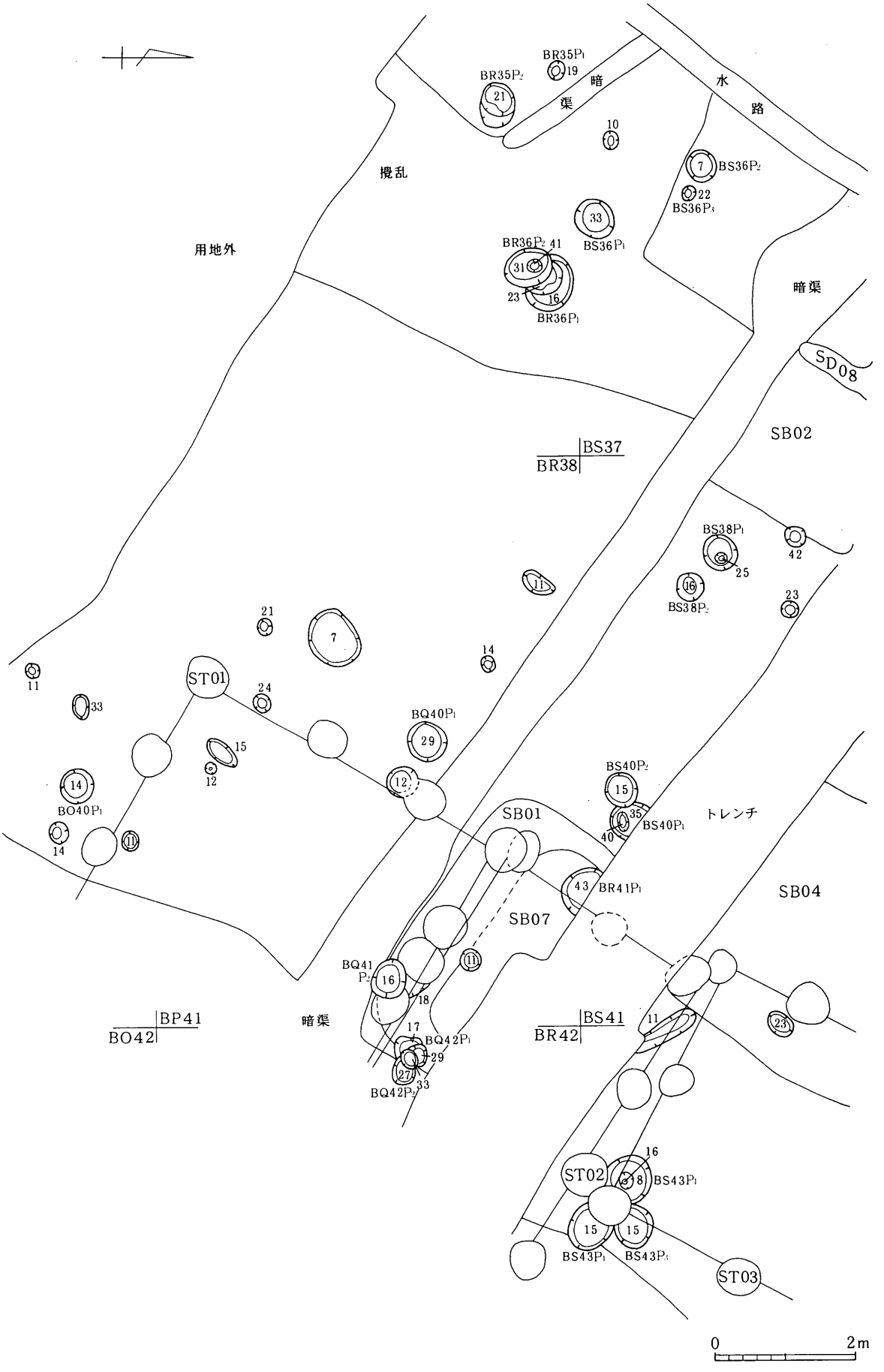
古墳時代から奈良時代にかけての遺物として、ＳＢ03カマド脇や溝址内から布目瓦（丸瓦）が出土している。

④中・近世

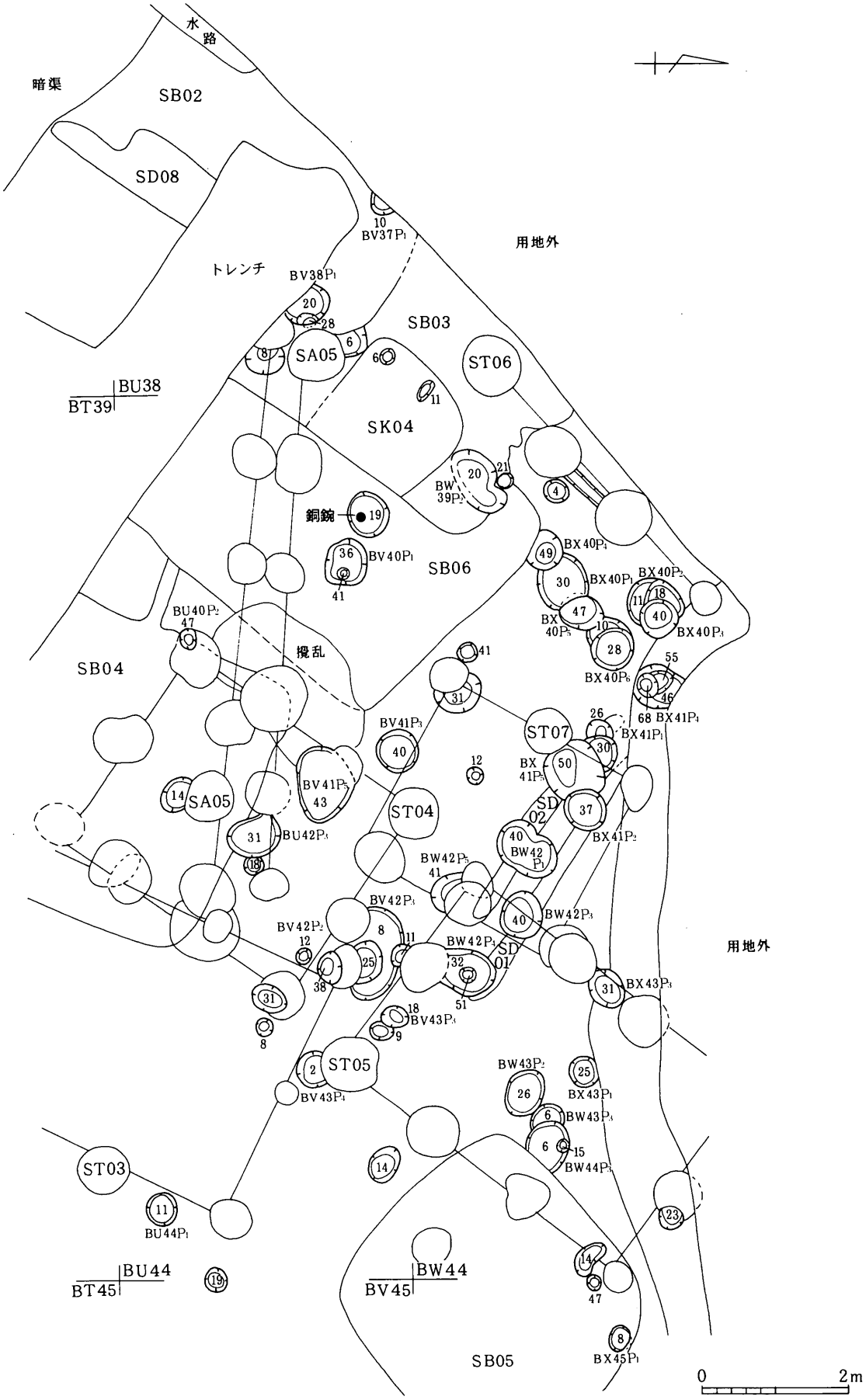
遺構から陶磁器類が混入出土している。



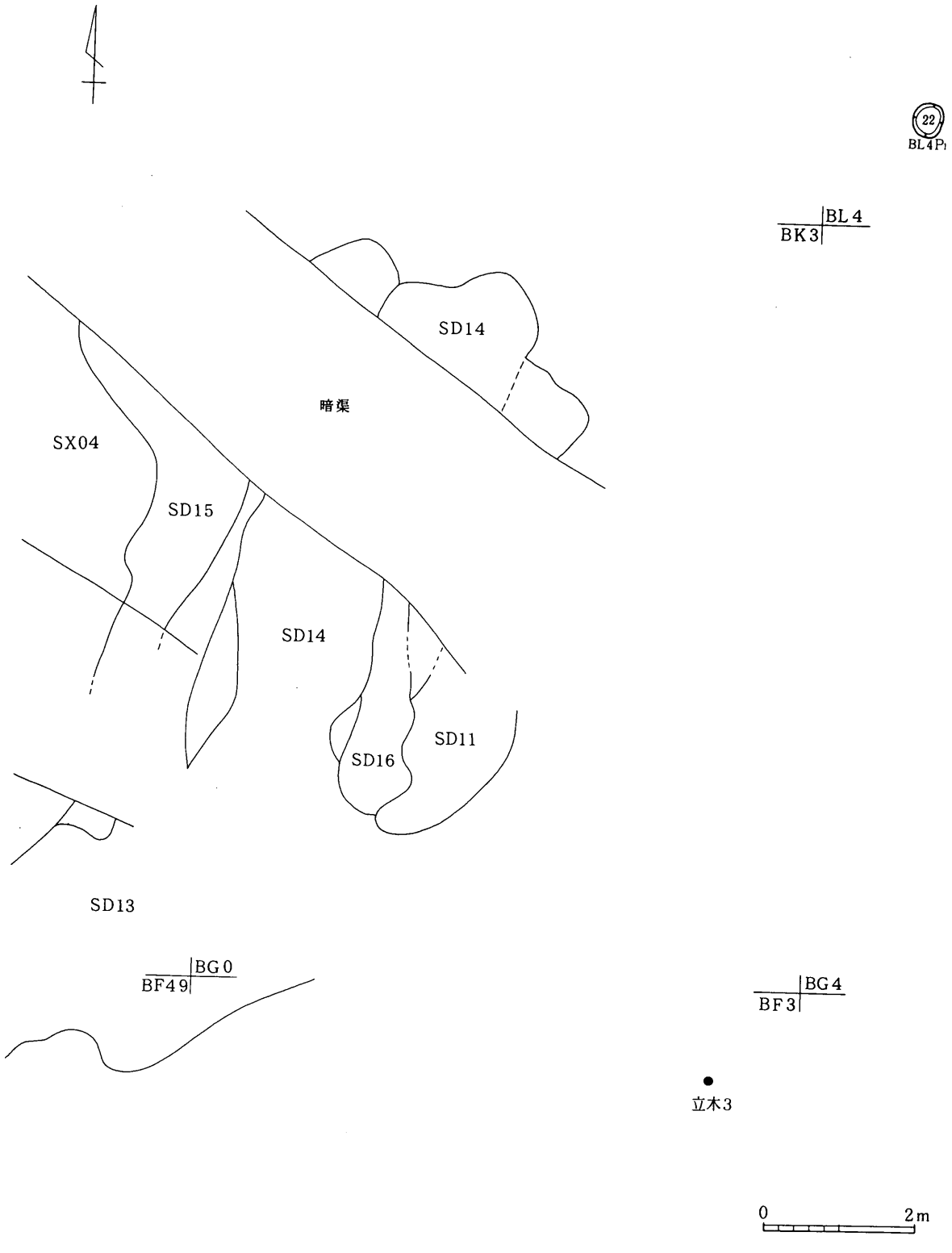
挿図70　ＳＸ06



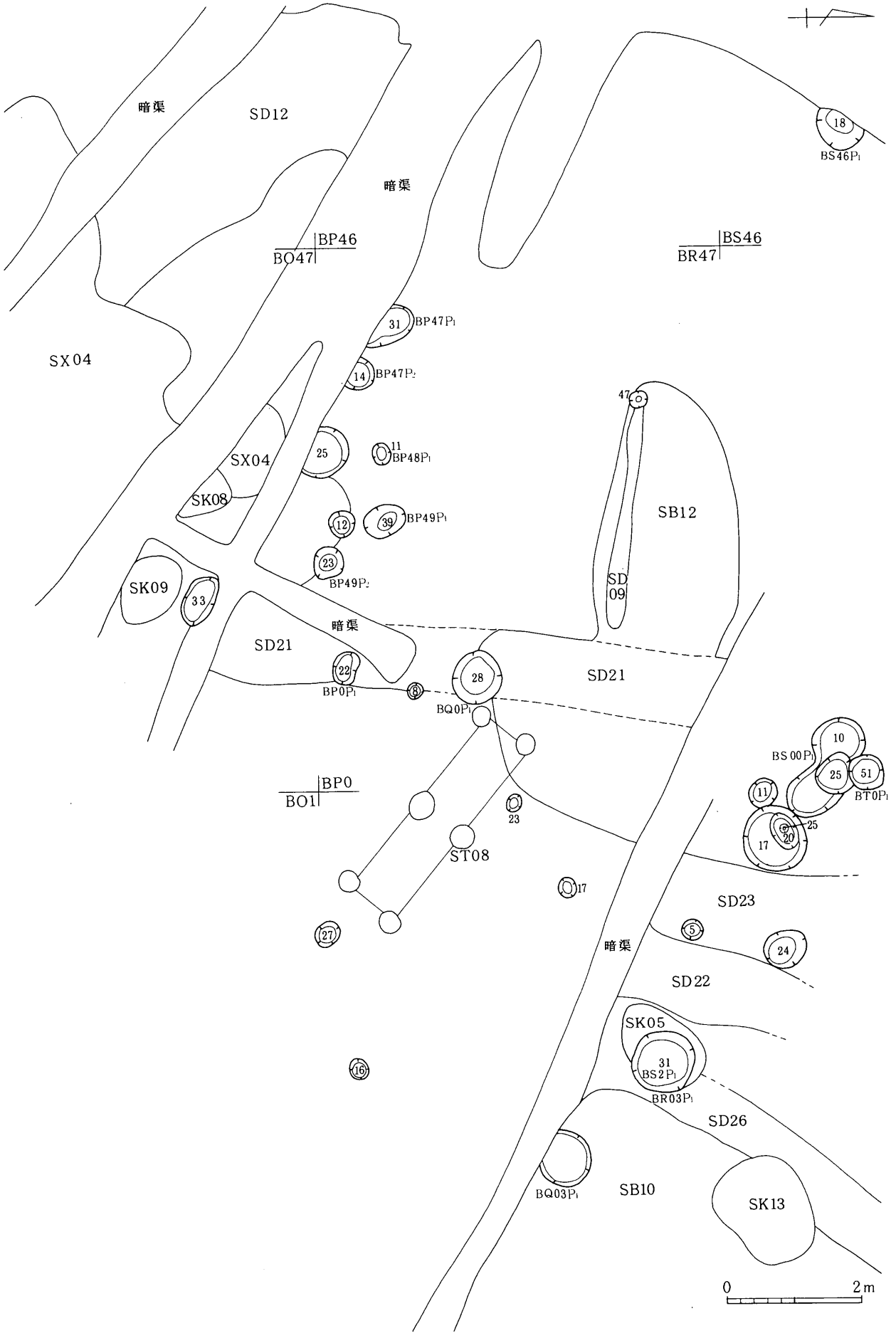
挿図71　周辺柱穴平面図(1)



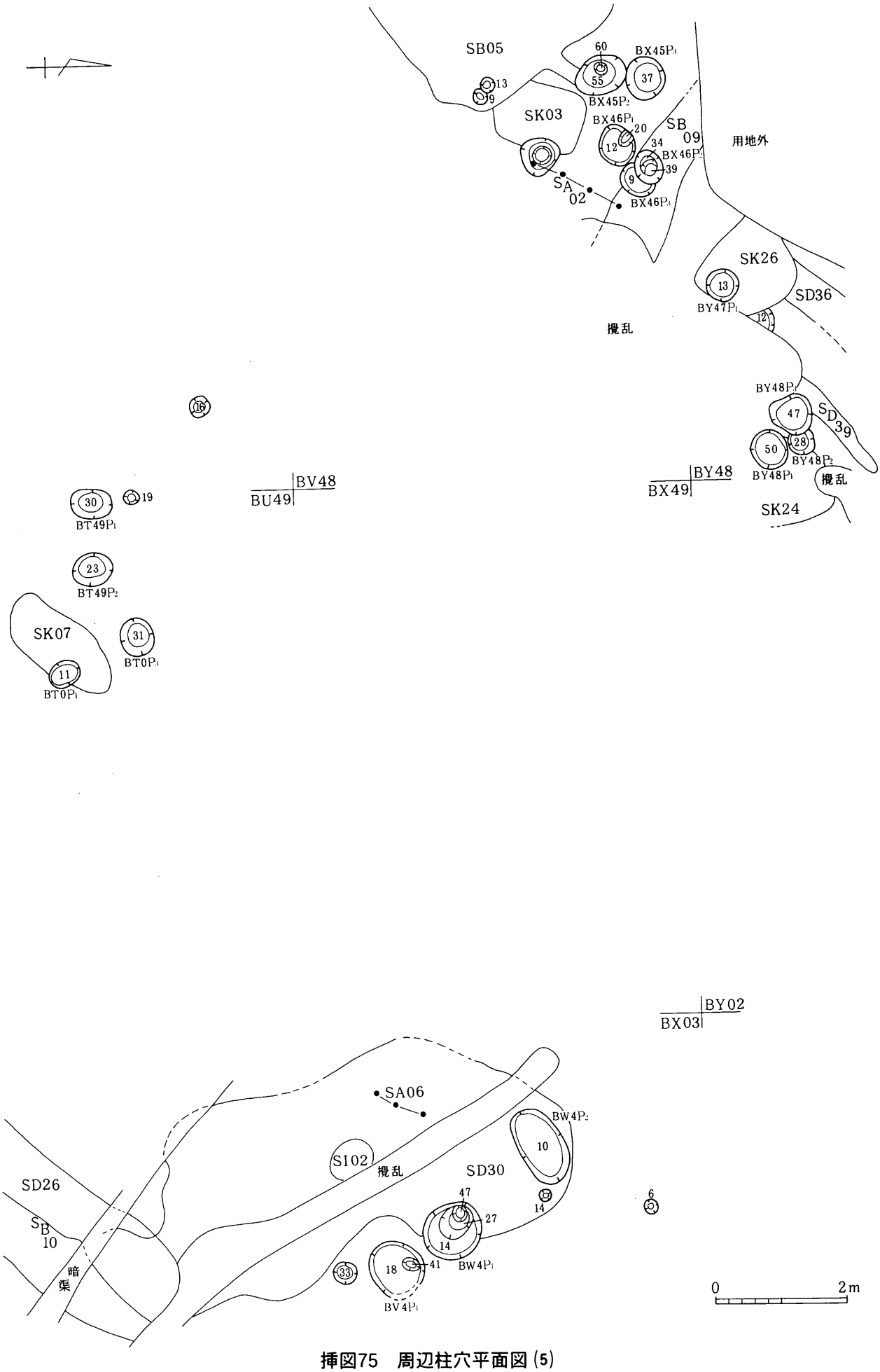
挿図72　周辺柱穴平面図 (2)



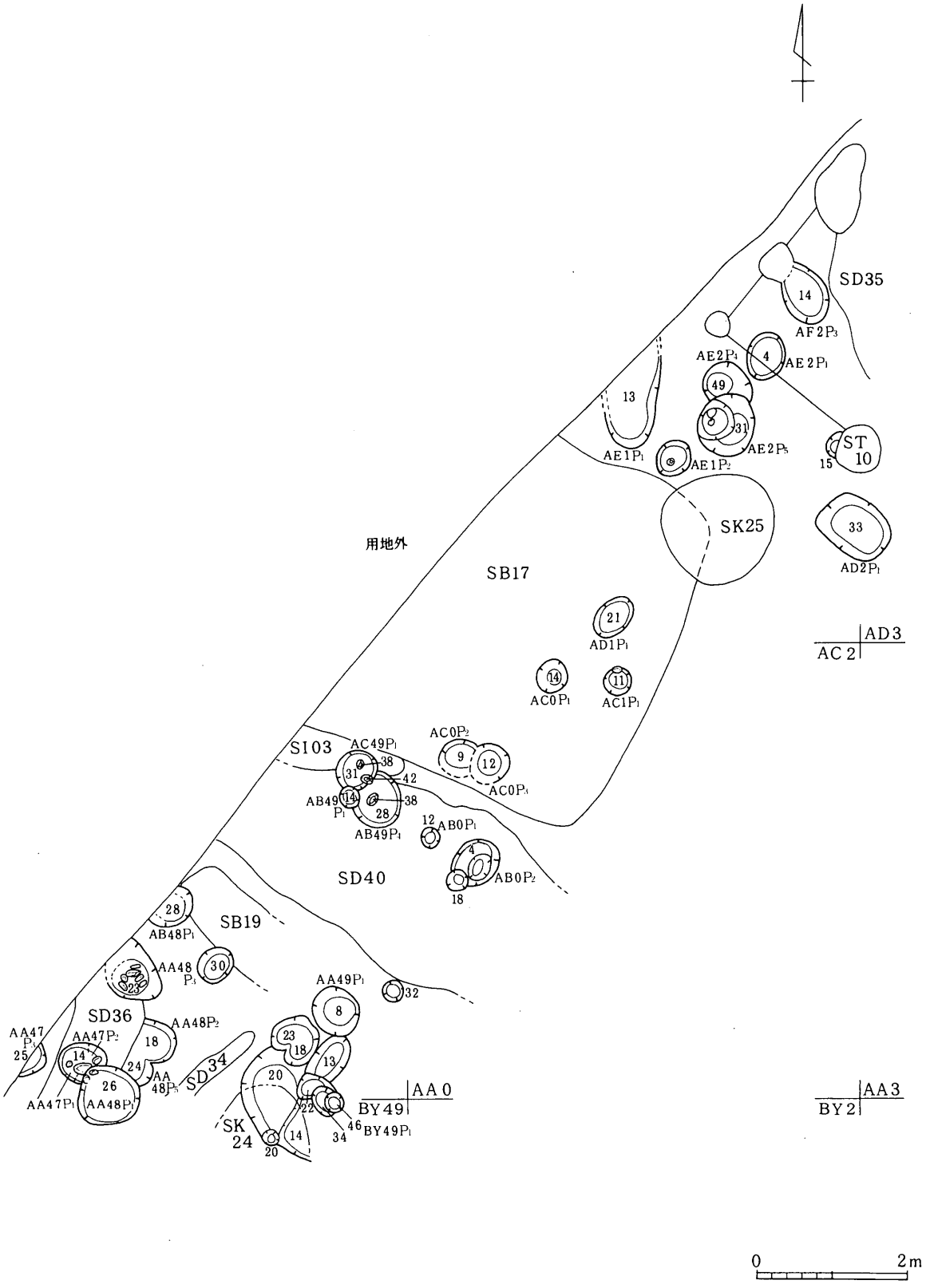
挿図73　周辺柱穴平面図(3)



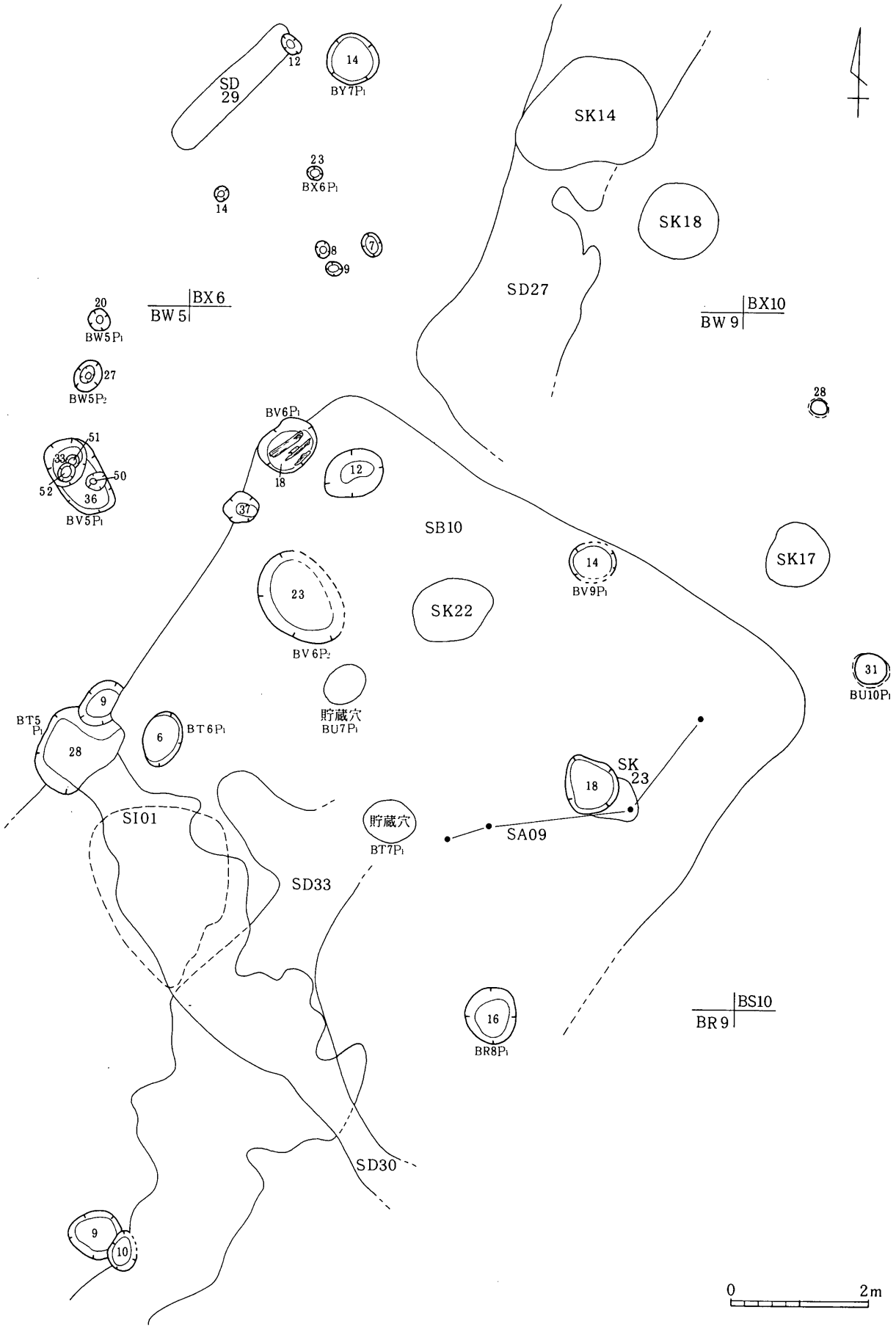
挿図74　周辺柱穴平面図(4)



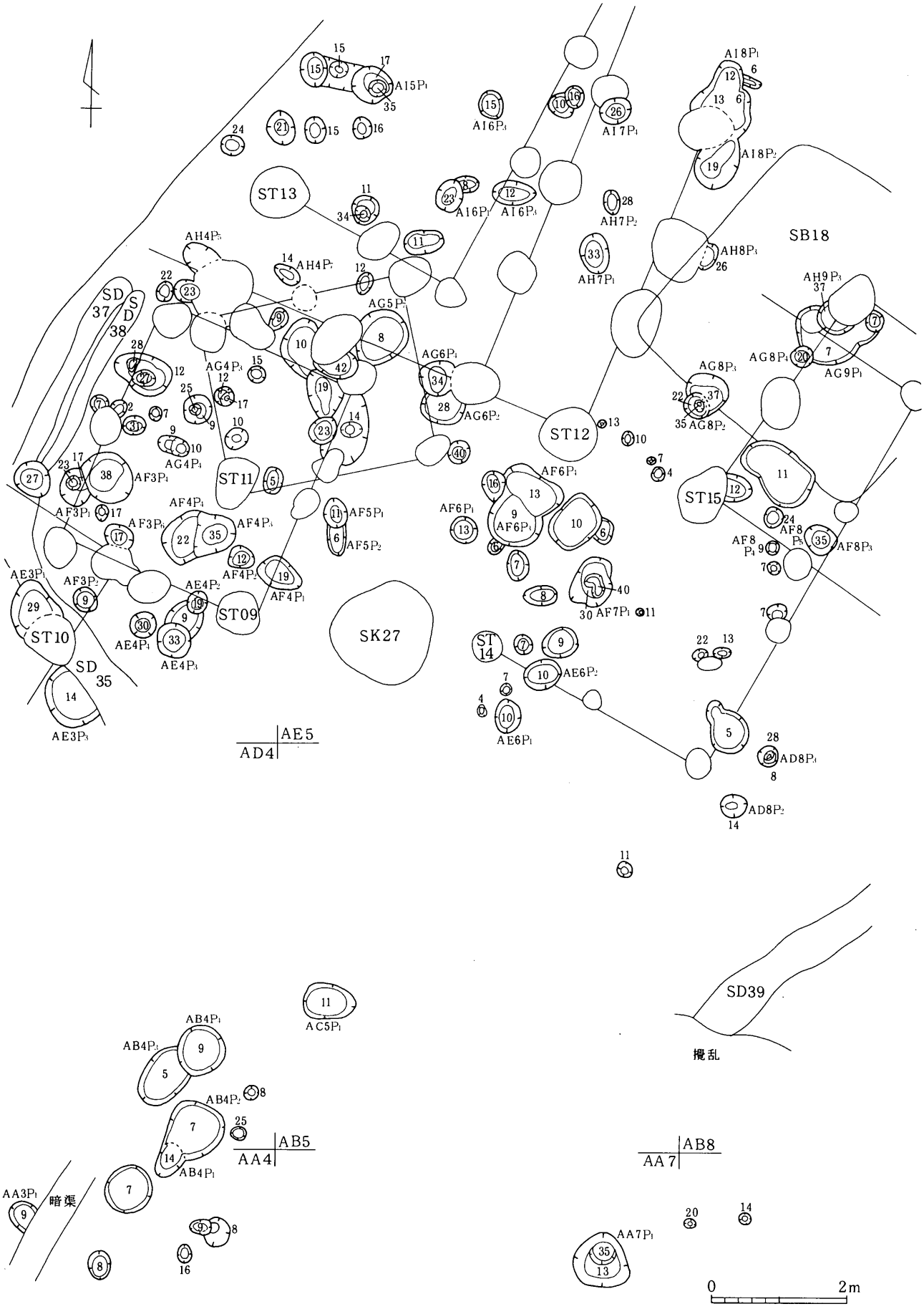
挿図75　周辺柱穴平面図 (5)



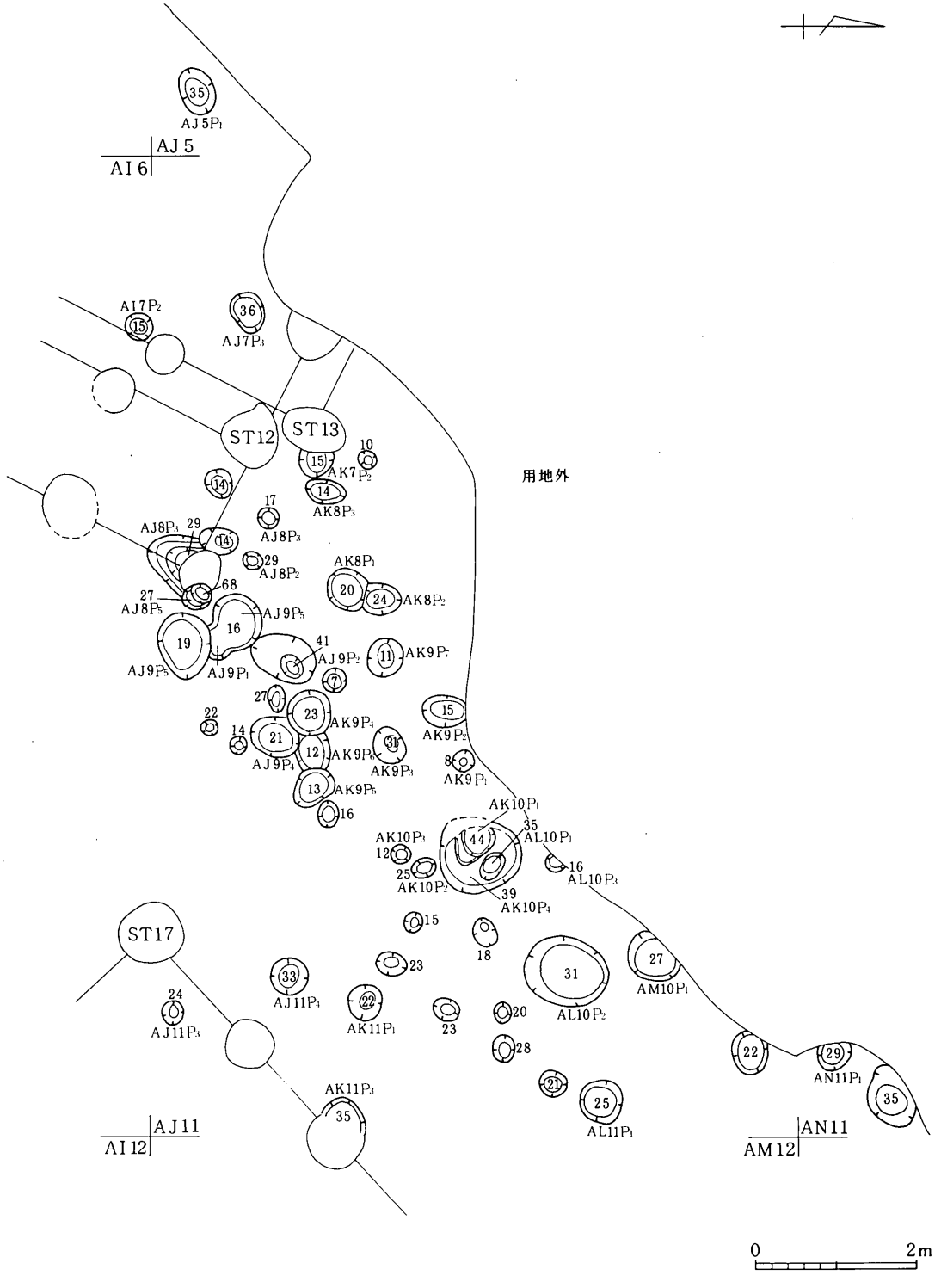
挿図76　周辺柱穴平面図 (6)



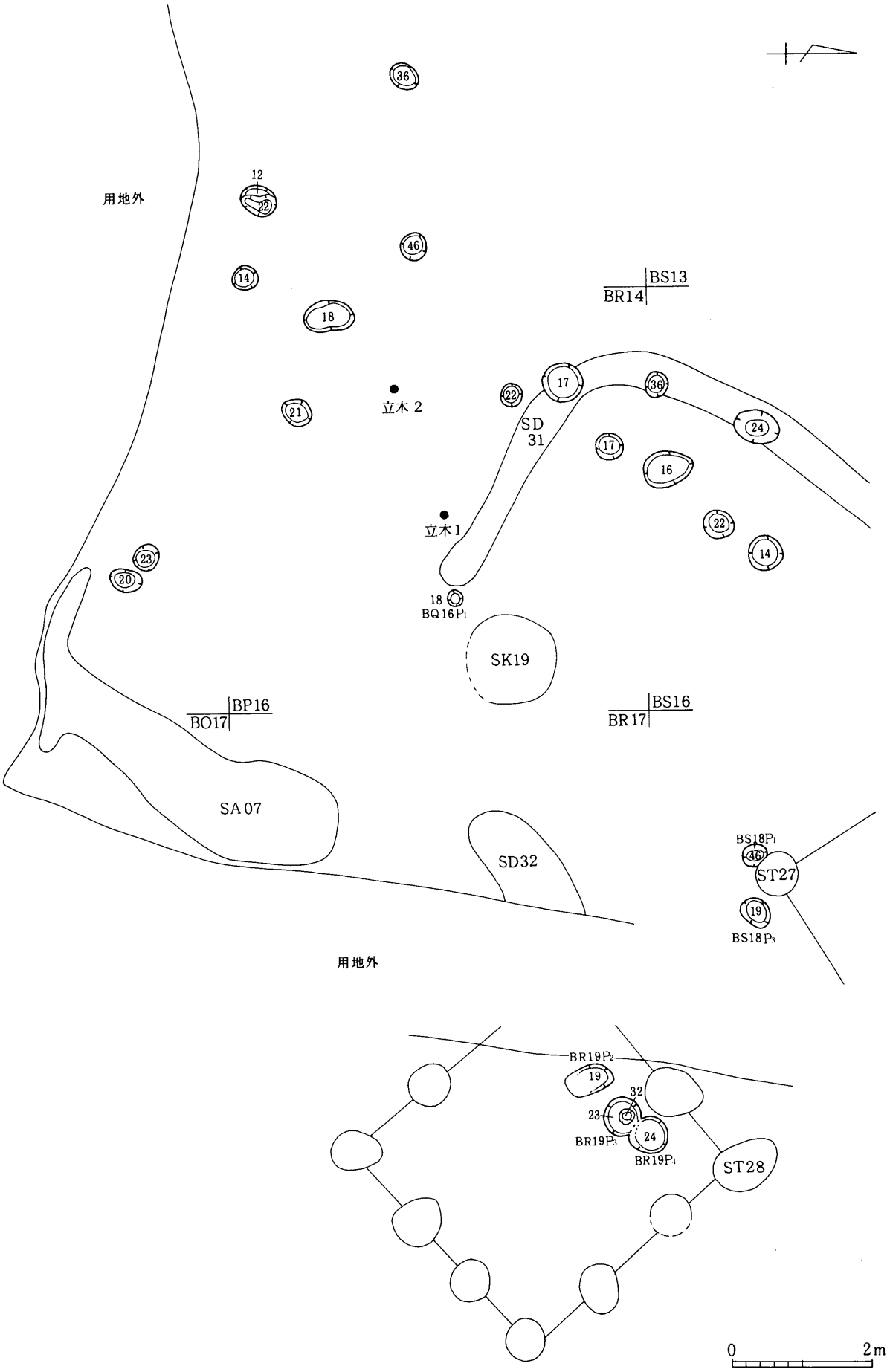
挿図77　周辺柱穴平面図(7)



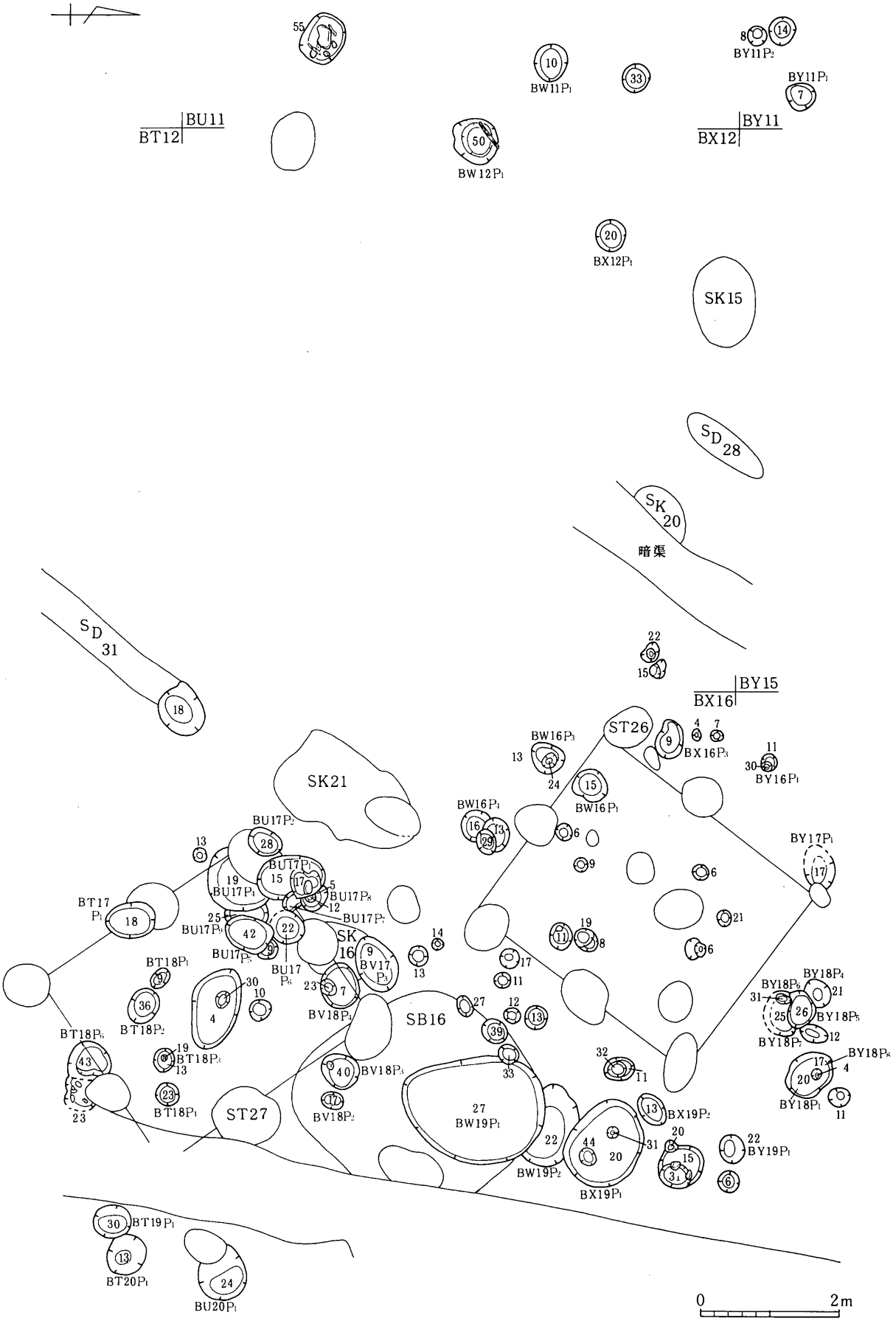
挿図78　周辺柱穴平面図 (8)



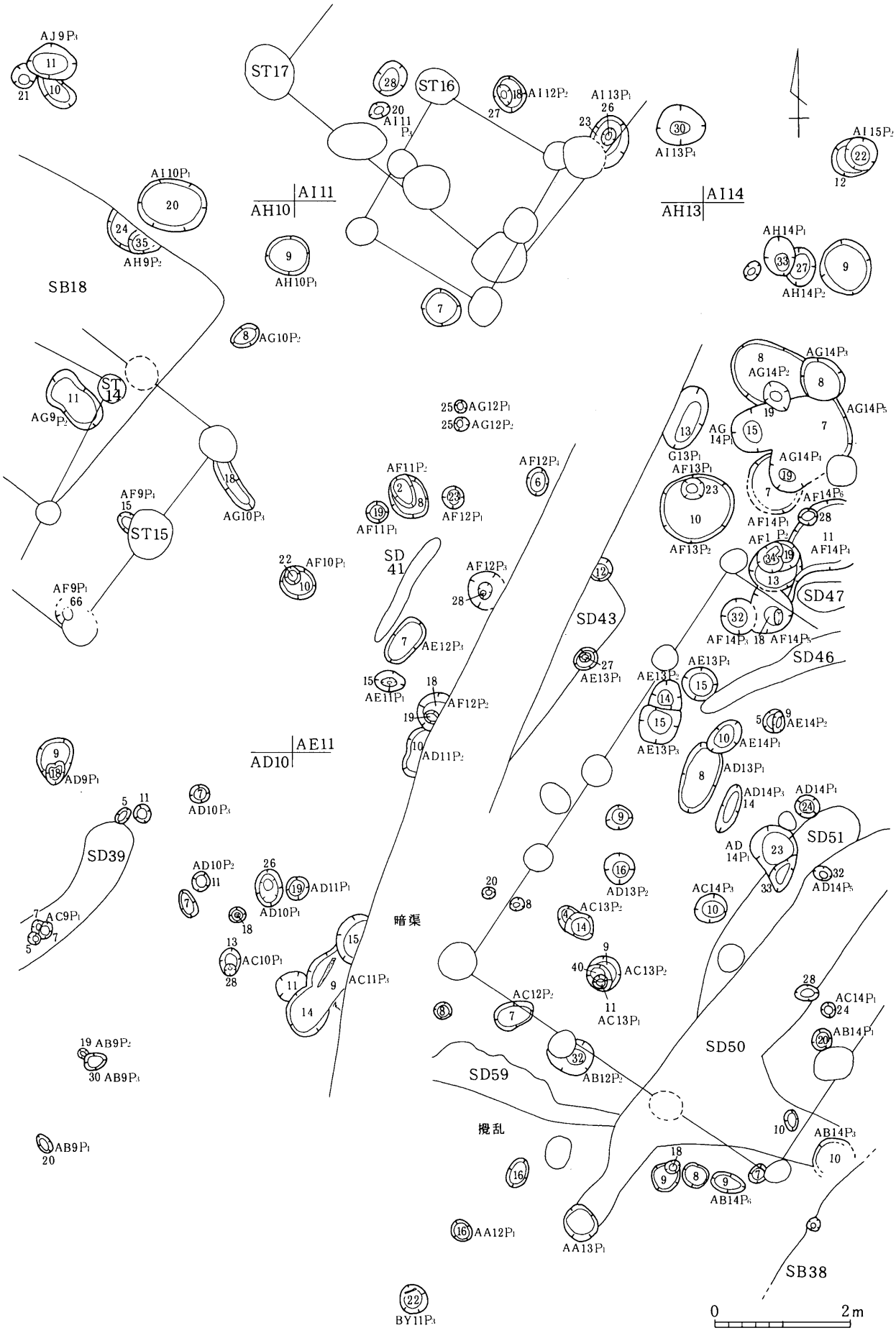
挿図79　周辺柱穴平面図 (9)



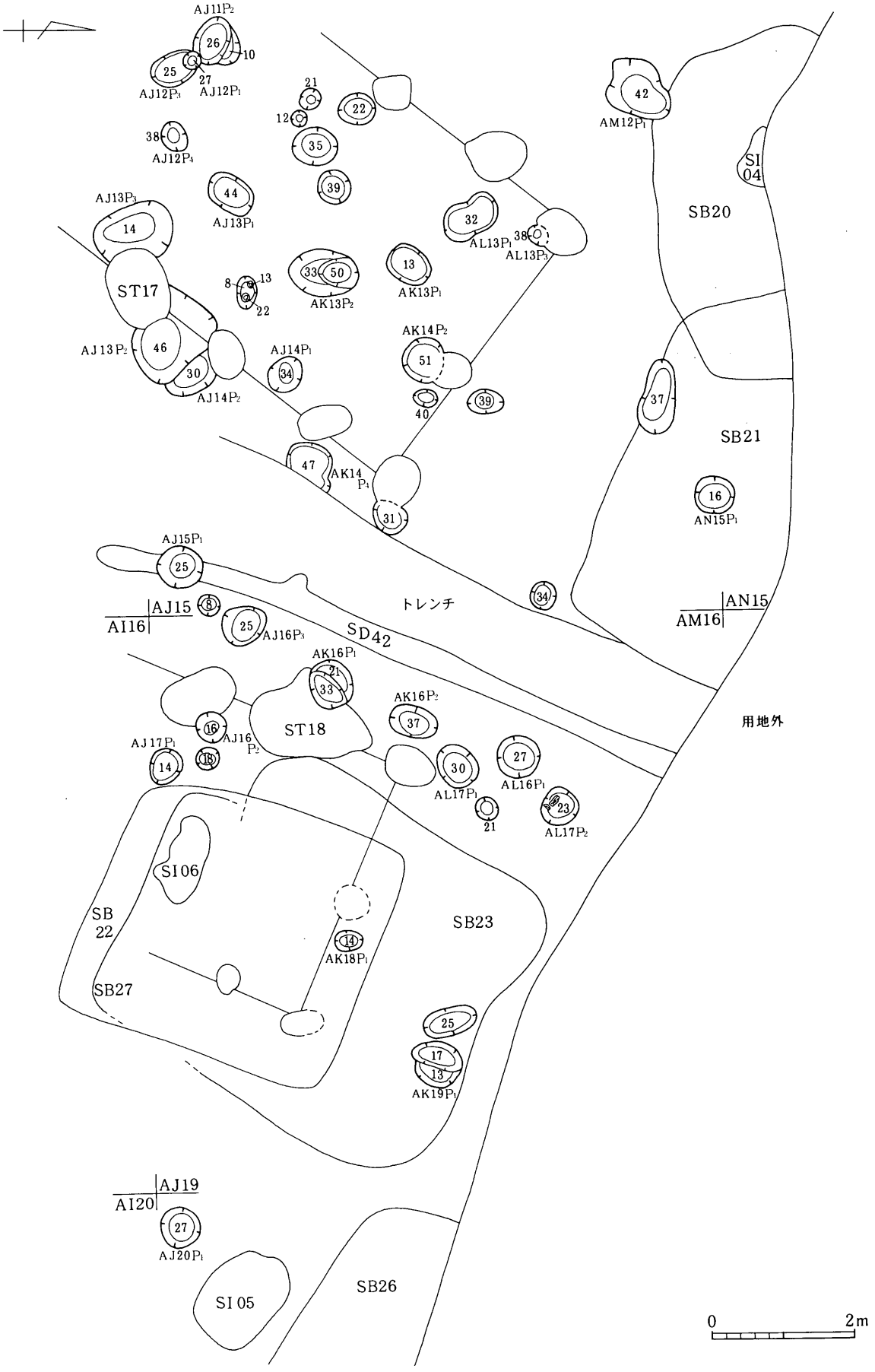
挿図80　周辺柱穴平面図 (10)



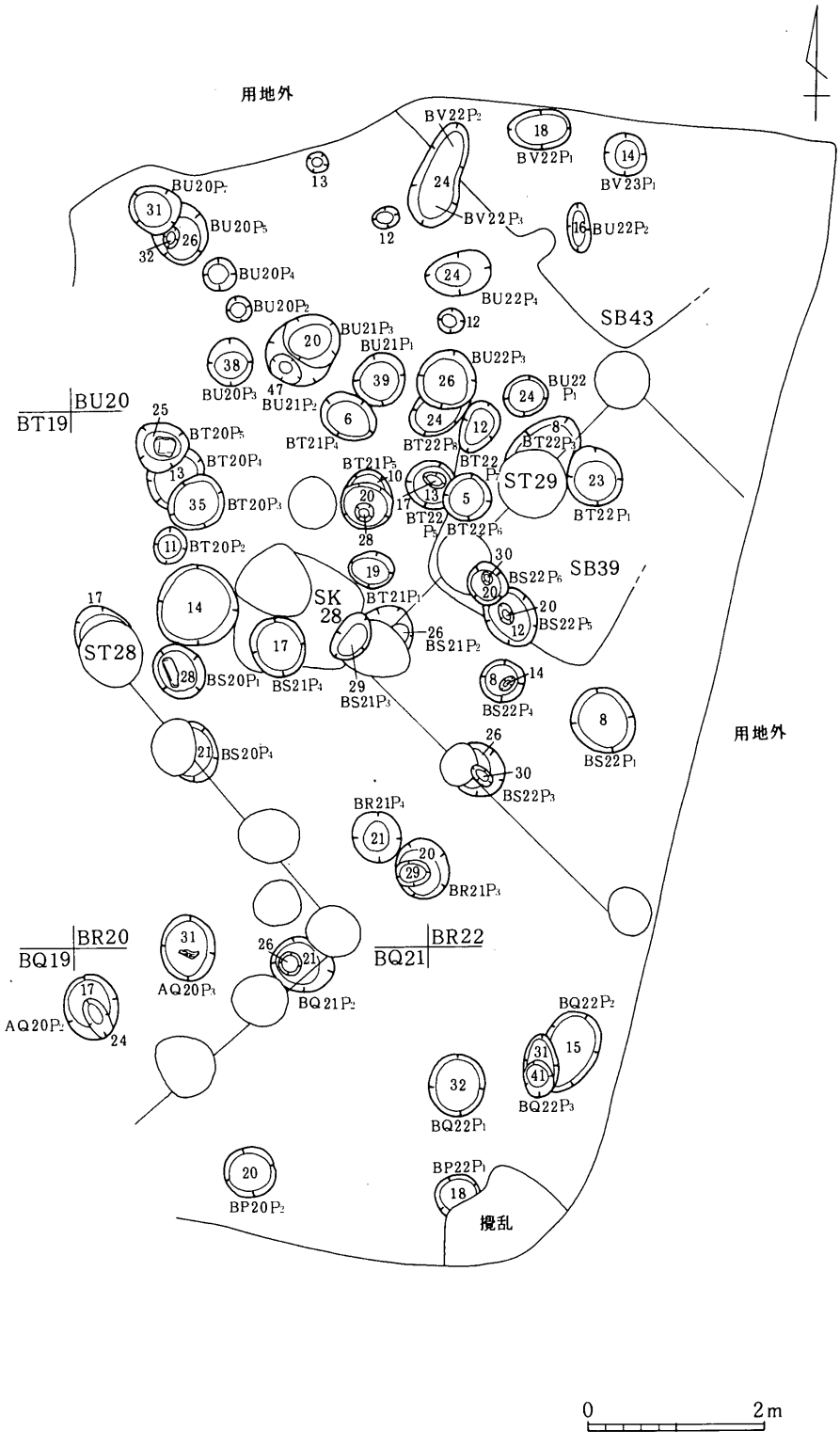
挿図81　周辺柱穴平面図 (11)



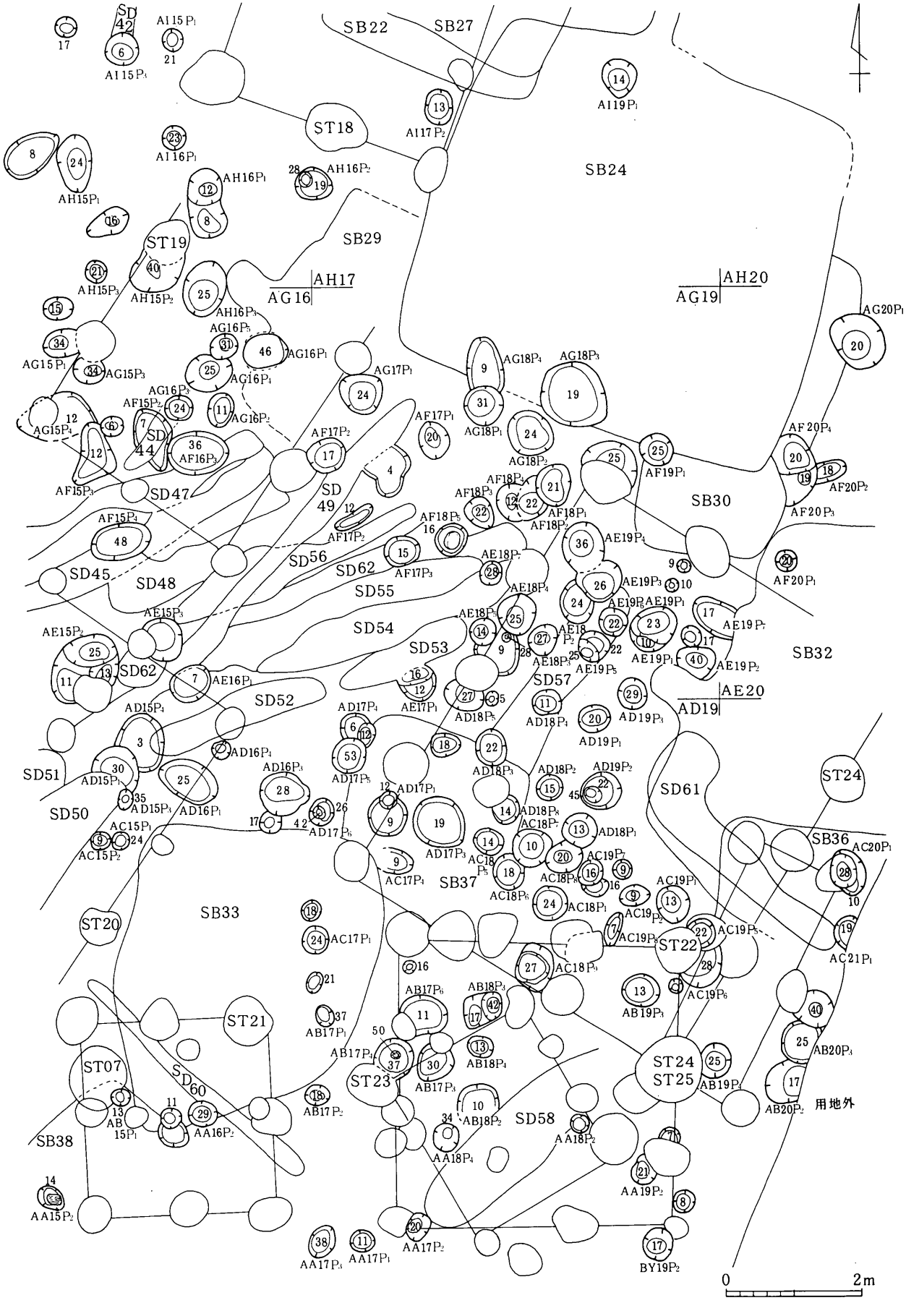
挿図82　周辺柱穴平面図 (12)



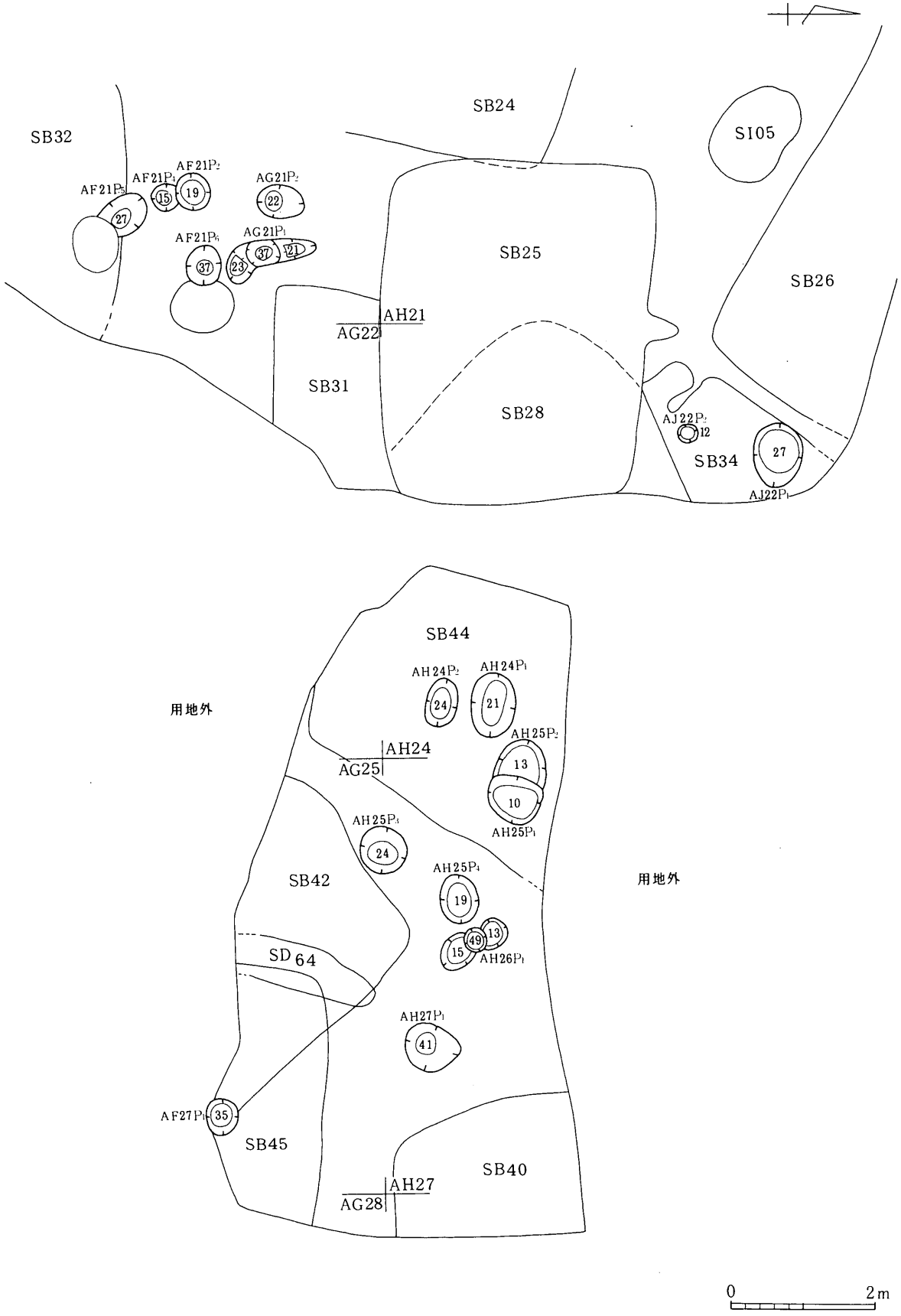
挿図83　周辺柱穴平面図 (13)



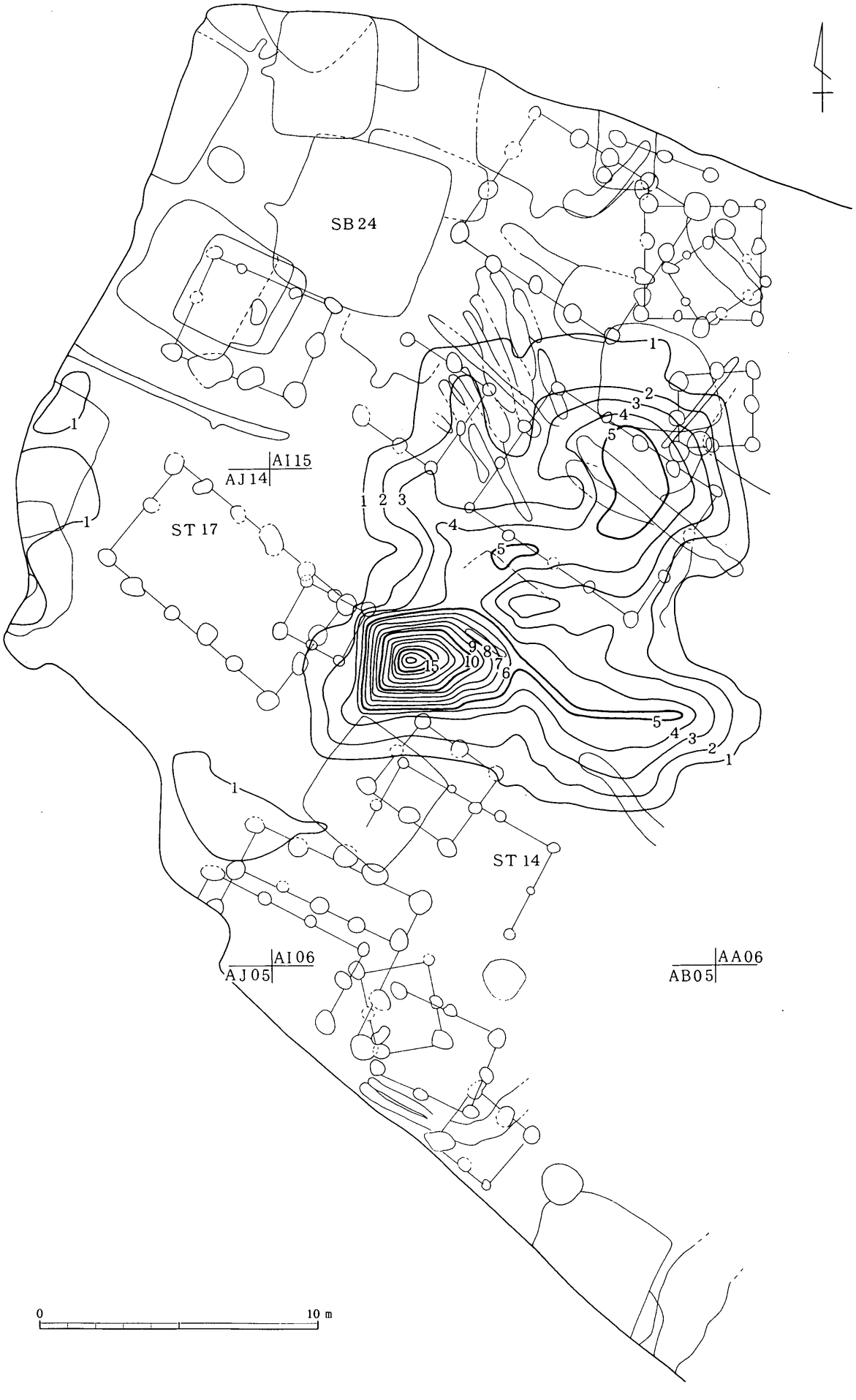
挿図84　周辺柱穴平面図 (14)



挿図85　周辺柱穴平面図 (15)



挿図86　周辺柱穴平面図 (16)



挿図87　遺構外遺物集中　遺物等量線図

第Ⅴ章　木製品について

ＳＢ10を中心に出土した木製品類は今次調査の主要な成果の一つといえ、個別の遺構での記述は適さないと考え、１章を設けることとする。

①農具

製品および未成品があり、ＳＢ10を中心に出土している。ナスビ形曲柄又鍬（第36図１～３）のうち１・２は鉄刃装着、３は装着部が残存していないことから鉄刃かどうか不明である。３はやや小型である。いずれも、樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。『木器集成図録　近畿原始篇』の「曲柄又鍬ＤⅡ式」に相当する。

直柄横鍬（第36図４・５）は部分で、泥除との固定用に頭部両端に穿たれた方孔付近の破片である。肩の部分のみの遺存であるが、おそらくで直柄横鍬未成品にある頭部の段はないと考えられる。横鍬未成品（第36図６・第37図１）は頭部に段が作り出されるもので、『木器集成図録　近畿原始篇』の横鍬Ⅱ式ｂｃ１類にあたる。第36図６は柄孔周囲の隆起が「柄孔周囲で明瞭な段をなすＡ型隆起」、第37図１は「身の周囲から柄孔に向けて徐々に厚みを増すＢ型隆起」（同前）であり、後者の樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。

横鍬泥除（第37図２）は上端と１側縁が遺存するのみであるが、おそらく上下端が直線状で側縁が下膨れ状に広がると考えられる。『木器集成図録　近畿原始篇』の「泥除Ⅱ式」に相当する。横鍬との固定用に頭部両端に穿たれた方孔の１つが遺存する。樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。横鍬泥除未成品（第37図３・４、第76図１）の樹種はいずれもコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。

直柄横鍬未成品の段は「製品化する過程でその部分が削り取られた可能性も否定できず、最終的には製品でないと決定できない」（三重県埋蔵文化財センター　2000）とされる。一方、六大Ａ遺跡では頭部を三角突帯状に前に向かって作り出された「泥除Ａ類」がある。本遺跡では突帯状の作り出しを持つ泥除が確認されていないが、段を有する直柄横鍬と突帯状の作り出しを持たない泥除、段を持たない直柄横鍬と突帯状の作り出しを持つ泥除という組み合わせがあるのではないかと考えられる。三角突帯状が泥除の前に向かって作り出されるのに対して、横鍬の段が後方に張り出していることはこの考えを補強するといえよう。

直柄装着多又鋤は３ないし４本歯の又鋤である。樹種同定は行わなかったが、肉眼鑑定の結果では、他の農具類と同種であり、コナラ属コナラ亜属クヌギ節かと考えられる。第38図９～11は樹種から農具の可能性があるが、９は柄孔とすると周囲の隆起がみられないことから、鼠返しの可能性が考えられる。

第38図２は一木鋤柄の把手部分、３は基部を有頭状に作り出し先端を斜めに切り落としていることから、鎌の柄かと考えられる。この他、第38図４～８は農具の柄と考えられる。

第84図10は身の断面形が菱形に近く、馬鍬の歯の可能性も考えられるが、樹種が針葉樹で疑問が残る。第73図５は横槌とすると柄部が短い。大きさからみて竪杵の搗部と考えられる。仕上げの削り痕が顕著に残っており、また、搗部先端の摩滅がほとんどないことから、未成品の可能性がある。第55図８・第56図５は基部が棒状なのに対して、先端部は幅広でやや薄身となる。渡辺誠氏分類のＥタイプ（渡辺1985）に類似しており、横槌と想定することができよう。

田下駄未成品（第80図６）は大形の下駄状のもので、緊縛用の孔が穿たれていないことから、未成品

とした。非常に軟らかい樹種で、肉眼観察の結果ツガかと考えられることから、下駄には向かないと考えられる。低いながらも歯を持つ点は、多くのこれまで知られている田下駄とは趣を異にするが、秋田県男鹿市小谷地遺跡に平安時代の例がある（潮田　1973)。また、第83図１は円形枠付田下駄の足板の可能性もある。

②工具

鉄斧柄（第39図１・２）は膝柄で握部に木芯がくるように削り出されている。材種は１がコナラ属コナラ亜属クヌギ節、２がアサダで堅く耐久性に富むものが用いられている。３はツバキかと考えられる用材や太さから工具柄の可能性が考えられるが、直線状に伸びることから他の柄かもしれない。

③紡織具

紡いだ糸を巻き取ったり、巻いた糸を保持しておく枠（第38図12）が出土している。「支え木さしこみ式」の腕木部分と考えられる。樹種は同定の結果スギである。

④漁具

第40図１～３は網枠、４～６は形状・木取り・樹種から網枠の破片と考えられるものである。二股に枝分かれする小枝を利用したたも網の枠である。１は柄の長さが58cm、推定の全長が１mを超える大形品である。柄部上半は扁平な楕円形に、下半は丸棒状に削り出す。柄上端付近に溝が掘り込まれているのは、この部分で幹にひび割れが入り、その補修用になされたものと考えられる。非常に精巧に作られており、枠木スクリーントーン部分には僅かに網の圧痕が看取される。樹種はモミ属である。２・３は同一個体で、２の樹種はやはりモミ属である。

⑤容器

容器には刳物の槽および曲物がある。

槽は長方形を呈するもの（第41図１・４、第83図２)、楕円形を呈するもの（第41図３、第76図３)、把手のつくもの（第41図２)、脚のつくもの（第41図５・第74図３）がある。短辺の１辺に把手のつく例は東大阪市鬼虎川遺跡等に類例がある（東大阪市文化財協会　1988)。樹種は第41図２がカエデ属、第41図３がスギ、第76図３がサワラ、第87図２がスギである。

曲物はＳＢ10およびＳＫ27からの出土がある。第42図１は側板下部中央に抉き込みされ、角棒が貫通する、曲物柄杓と考えられるが、大形で柄杓以外のものかもしれない。出土時には柄が抉き込み部に納まっていた（図版９）が、底板は欠いていた。柄は大部分が断面台形状を呈するが図示下側の側板外の部分は逆三角形を呈している。大形であること、柄が底部付近に付くことはこれまで知られている曲物柄杓と様相を異にしている。第42図２・第87図３は蓋、第42図３は周縁部が平坦なままの底板で、底部と側板の結合形態は六大Ａ遺跡分類のＧ類に相当する。スクリーントーン部分は結合のための樺皮が遺存している。ＳＫ27例は井戸枠への転用で、側板のみ出土した。側板の綴合せは不明である。第43図１・第74図４は曲物底板である。第43図３は片面に２箇所幅広のケビキがあることから折敷側板かと考えられる。

第43図２は箱部材、第52図１は容器蓋と考えられる。第48図13～15は板材の一方の端付近に方形の枘

穴が穿たれている。第49図１は溝結合用の断面方形の溝が穿たれている。第74図２は両側に出枘があり、軸断面は角を削り落とした台形状を呈する。桶等の把手と考えられる。第49図３～７は板材ないし角棒の一端が出枘状を呈している。これらは、容器類の把手や枠の部材と考えられる。なお第49図５は墨入れ線をとどめている。

⑥服飾具

第44図１はいわゆるきぬがさ状木製品で軸上端から４本の腕木がやや上方に伸び、中ほどからほぼ水平となる。腕木はほぼ等間隔で長さ約10cm、太さが均一になるよう丁寧に削り出され、腕木の基部に段が設けられている。先端に抉りはない。軸上端は丁寧に面取りがなされ、また、下端が出枘状に削られている以外、軸部への加飾はない。浅岡俊夫（1990）の分類による、軸受孔のないＩ類にあたる。

第48図２～４・第49図２は先端を尖らせた細長い棒状の具である留針と考えられるが、いずれも先端部を欠く。『木器集成図録　近畿古代篇』（奈良国立文化財研究所　1985）分類のＡ型式にあたり、第48図３・４・第49図２は整った鋲頭を作る。第48図２は鋲頭や軸の整形も粗く軸が太いことから未成品と考えられるが、長野市石川条里遺跡例から栓の可能性もある（長野県埋蔵文化財センター　1997）。

下駄はＳＸ04・ＳＤ20から各１点出土し、いずれも一木刳り貫き式である。第80図５は左右不明でスギ材使用、第84図３は連歯下駄で、『木器集成図録　近畿古代篇』のＢＩｃ式にあたる。足の擦れ痕や緒孔前壷の位置から左足用で、６～７世紀代に位置づくと考えられる。

櫛（第85図10）は横櫛で、他にＳＤ10からの出土がある。

⑦武具

木製短甲と考えられるものがある（図版34）が、きわめて細片化している。このため後胴あるいは前胴左右のいずれか不明で、全体像は把握できず、また図化等は困難であった。材にある程度の厚みがあり、一面には黒漆が塗布されていること、肉眼で広葉樹とみられたことから、木製短甲と考えた。しかし、樹種同定の結果ではスギ材であるとされ、短甲には一般に丈夫な材が用いられる。他に黒色に彩色される例として盾（金子　1991）や容器等もあり、木製短甲以外のものの可能性もある。

⑧楽器

第68図２～４は琴柱、５・６はその未成品と考えられるものである。２・３は下面に刳込みがされ、底辺の一端をやや長く伸ばす『木器集成図録　近畿古代篇』Ｂ型式である。肉眼での観察結果ではスギ材かと考えられる。琴板は出土していないが、あるいは槽のうち長方形を呈するものが共鳴槽である可能性がある。

⑨祭祀具

第43図５は非常に精巧に作られており、表裏面は平滑に仕上げられている。短辺の１つには波状の抉り込みが施されている。その対辺上半には出枘を持ち、この部分を基部と仮称する。別の部材との接合のための枘と考えられる。上側の長辺は中央から基部にかけて緩やかな曲線を描いている。以上、平面の形態は鳥の翼に似ており、鳥形の部材と考えられる。第43図６は５と異なり軟質の材が用いられており、階段状の抉り込みも雑である。鳥形の翼部分の未成品と考えたが、粗雑な作りから残材等の可能性

もある。第70図１は断面三角形で両端を削って鰹節形にする。直線状の側縁中央部の片側には削りが施されており、あるいは鳥形胴部の未成品かもしれない。

第44図２は刀子形で、刀身・口金部・柄の間にそれぞれ段をつけている。柄は端部を欠損するが、欠損部はそう大きくない。『木器集成図録　近畿古代篇』分類で、Ｂ型式にあたる。

第45図１は船形祭祀具で、２つの枘を持つが下方の枘で欠損している。枘の位置がずれていることから、建築部材を転用したものと考えられる。

第45図３は槍を形どった武器形と考えられ、芯去材を用いている。先端は三角形に、そして身は丸棒状に丁寧に削られている。基部に精巧に作られた出枘をもち、棒軸等の先端に装着されたと考えられる。

第45図４は弓形祭祀具である。弭部分を欠損する。鳥打とよばれる上下それぞれ１／３のところに節（鳥肩節・乙腰節）があること、また、この部分の腹側に弾力調整や乾燥割れを防ぐための縦溝（棒樋）があること（後藤　1937）から、弓と考えた。しかし、芯持材を使用しており、通例樋が柾目材の木理に沿って刻まれるのとは異なる。樹種同定の結果ツルウメモドキであることが判明し、一般的に弓に用いられる材と異なり、強度等の観点から弓の材としては適当でないと報告されている。漁具等の可能性も考えられるが、ＳＢ10からは武器形の祭祀具が出土していることや上述の形態から、弓形祭祀具としておきたい。

木鏃（鏃形祭祀具、第43図４）は栓状鏃で鏃と矢柄を一木で作り出している。身の先端から矢柄まで稜をもたず滑らかに推移する六大Ａ遺跡分類のａ類であり、形態からは栓と明確に区別できない。栓とした第48図１も木鏃の可能性がある。

第45図２は祭祀具。第47図７・第50図１・６および第53図８～14は細長い薄い板状具で、一端ないし両端を尖らせており、斎串と考えられる。『木器集成図録　近畿古代篇』分類で、第53図11はＡⅠ型式、第47図７はＢⅠ型式、第53図８はＣⅠ型式、第50図１はＤⅠ型式、第50図６・第53図９・同10・同13・同14は上部を欠くもののＢⅠ型式と考えられる。

第64図２は大きさから建築部材としたが、抉り込みが左右交互になっている部分がある。抉り込みも形態や規模に規則性がないが、あるいは馬形であろうか。

⑩食事具

ＳＢ10からはいくつかヒョウタンが出土した。このうち、杓子（図版34）は非常に脆弱で内部の土を取り除くことができなかったため実測図はしなかったが、基部に紐掛け用の溝がある。

⑪雑具

第46図１は指物の一部で、断面方形の溝内部に目釘の跡がある。溝結合タイプの案かと考えられるが、転用されている。

⑫建築部材

ＳＢ10・ＳＤ13・ＳＤ14を中心に出土している。

第64図１は半截材を用いた縦材で、出枘をもつ。第80図４・第85図11は縦材かと考えられる。第72図７は杭に転用される。

第61図５・同６および第75図16は横架材、台輪（第81図11）は厚みの割に幅広である。

第60図１は蟻継、第63図３は破風材かと考えられる。第63図４は１側縁に凸部を持つ凸断面材で、脇に小型方形の抉りをもつ。この抉りは「この部分に縄紐を通して横の材と緊縛していくための仕事、いわゆる『ダボ』」（三重県埋蔵文化財センター　同前）で、壁材と考えられる。

垂木は杭等に転用されて全体形がわかるものはほとんどない。第67図４は頭部を有頭状に作り出しその内側に長方形の_穴が穿たれる。

第68図１はヒノキの樹皮で側面から木製の箆が差し込まれている。樹皮の上下が切られていることから、「樹皮の上下を切り回してから側面を縦方向に切り下げその切り口を手掛かりとして樹皮を横方向に幅広く剥ぐ」「横剥ぎ型剥離法」（名久井　1999）によるものと考えられる。屋根材の一部と考えられる。

梯子（第82図10）は板材を利用したもので、足掛部の形態は六大Ａ遺跡分類ａ類にあたる。

⑬接合補助材

ＳＢ10から樹皮巻が11点出土している(図版34)。大部分が山桜皮と考えられる。

栓（あるいは楔）は丸ないし角棒の一端を薄く尖らせて差し込んだり打ち込んだりするもの。もう一端は頭部を有頭状に削り出しているもの（第48図２～４）もあるが、大部分は丸く削る程度である。先尖棒の中にも栓ないし楔らしいものがある。

⑭不明木製品

先尖棒は一端または両端を削り出して尖らせたものである。杭とするには丁寧に削り出されるものや小型のものが多く、六大Ａ遺跡では「漁撈具のヤス、木釘や栓、楔的な用途として利用された可能性」が指摘されている。第55図５・第57図１・同２等はヤスとして使用されたものかもしれない。

有頭棒は棒状具の一端または両端に頭部を作り出したものである。第46図２は両端に有頭部を作り出しており、軸部の断面形状が第74図２と似ており、桶等の把手の可能性もある。縄紐で結合する例かもしれない。第46図４は丁寧に面取りされた角棒の一端に片薬研状に３方向から削りが施されている。第46図５は半截材を用いており、一端が箆状に削ぎ落とされる。

棒状具は端部を尖らせたり頭部を作り出したりしていないもので、丁寧に丸棒状ないし角棒状に削り出しているものである。

第51図12～16は箸状の細棒である。飲食具の箸の他、藁葺き屋根のとめ串等の用途が考えられている。第52図７は二枚枘状に突起が作り出される。第84図４は一端には孔が穿たれ、もう一端は柄状に太く削り出される、芯去材を用いた部材で、あるいは馬鍬引棒であろうか。第87図６は小孔が直線上に間隔をおいて並んでいる。炭化した部分は確認できなかったが、火鑽板の可能性が考えられる。

⑮杭

縦材（第72図７）や屋根材の垂木を転用したもの、割材を用いたもの、木の枝を斜めに切り落とした程度のもの等がある。

第Ⅵ章　自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

第１節　古環境と土地利用について

はじめに

辻前遺跡（長野県飯田市川路所在）は、木曽山脈と赤石山脈に挟まれた伊那盆地の南部、下伊那地域に位置する。下伊那地方でも、天竜川の東側にあたる竜東地域には竜東段丘と呼ばれる代表的な段丘地形が分布し、また天竜川の西側にあたる竜西地域は木曽山脈の山麓部に形成された新旧の数多い扇状地群が占め、それらの扇状地を開析した段丘が複雑に分布するとされる（松島　1988)。本遺跡は、天竜川西側の段丘上に位置し、縄文時代以降の遺物、古墳時代の竪穴住居址・竪穴・掘立柱建物址・溝址、中世の水田址、近世の土葬墓などが検出されている。中でも古墳時代の集落が中心となり、竪穴・土坑・溝址や多数の木製品などが検出されている。また、これらの集落は増水などによって廃絶したと考えられている。

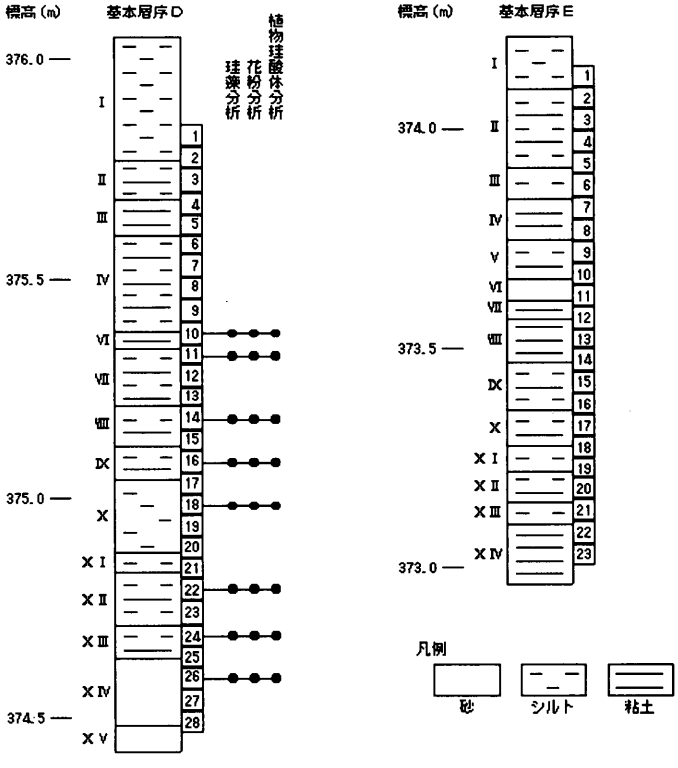
今回は、古墳時代前後の古環境に関する情報を得る目的で、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析・樹種同定・種実遺体同定を、当時の生活状況に関する情報を得る目的で微細遺物分析を、遺物の素材等について検討するために灰像分析や赤外分光分析をそれぞれ実施する。なお、この他に放射性炭素年代測定と昆虫遺体同定を実施しているが、これらについては、第２節及び第３節で報告する。

(1)試料

土壌試料は、基本層序Ｄと基本層序Ｅで層位試料として基本層序を、また古墳時代の遺構覆土等を取した。

基本層序ＤはⅠ層～ⅩⅤ層に分層され、Ⅰ層下部から連続試料として合計28点を採取した。基本層序Ｅでは、Ⅰ層～ⅩⅣ層に分層され、Ⅱ層から５cm連続で合計23点を採取した。この内、基本層序Ｄから採取した試料番号10・11・14・16・18・22・24・26の８点について、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を実施する（挿図88)。

樹種同定は、出土した木製品、柱根、自然木等40点について実施する。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表示する。種実遺体同定は、発掘調査時に古墳



挿図88　基本層序Ｄ・Ｅの模式柱状図および分析層位

時代の竪穴や貯蔵穴などから採取された325点について実施する。これらはいずれも水洗が終わった状態で送付されており、１点につき１個～数百個の種実が入っている。また、平面的に採取されたＳＢ10覆土９点（試料番号１～９）の内の試料番号４、貯蔵穴であるＢＴ７Ｐ１の最下層、貯蔵穴ないし井戸と推定されているＳＫ27の底上層、遺構覆土計３点について微細遺物同定を実施する。

この他、ＳＫ18の土坑下部から出土した繊維状物質の素材を検討するために灰像分析を、ＳＢ10出土の須恵器内部付着物の素材を明らかにするために赤外分光分析をそれぞれ実施する。

(2)分析方法

1）珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、原口ほか（1998)、Krammer,K.（1992)、Krammer,K. & Lange-Bertalot,H.（1986. 1988. 1991a.b）などを参照する。

同定結果は、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出率２％以上の主要な種類について主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か異地性の化石か判断する目安として完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたっては、淡水生種については安藤（1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991)、汚濁耐性については、Asai,K. & Watanabe,T.（1995）の環境指標種を参考とする。

2）花粉分析

試料を湿重で約10ｇ秤量し、水酸化カリウム処理、篩別、重液分離（臭化亜鉛，比重2.3)、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝９：１）の順に物理・化学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数を行う。

結果は同定・計数結果の一覧表および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の各種類の出現率は木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出する。なお、図表中で複数の種類をハイフォン（-）で結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

3）植物珪酸体分析および灰像分析

今回は、植物珪酸体分析および灰像分析とも同様な方法で方法で処理を行った。以下に具体的な処理方法を示す。

試料を湿重約５ｇ秤量し、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz,１分間)、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈して、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プ

第４表　珪藻分析結果（１）

種　　類	生態性			環境指標種								
	塩　分	pH	流　水		10	11	14	16	18	22	24	26
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1	-	-
Nitzschia frustulum var. inconspicua Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	2	1
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	1
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		4	3	-	-	4	-	-	2
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	-	1	1	-	-	-
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	1
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	4	-	1	3	1	-	-
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	4	9	2	38	41	14
Aulacoseira granulata (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	-	-	-	-	-	-	1	-
Aulacoseira spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	2	1	-	1	-
Caloneis largerstedtii (Lagerst.)Cholnoky	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	5	1	1	1	1	-
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	-	1	-	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	3	-	-	-	-
Caloneis silicula var. intermedia Mayer	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	1	-	-	-
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	-	-	-	-
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	-	-	-	-	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	-	1	-	-	-	-	-	-
Cymbella gracilis (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	1	-	-	-	1	-	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	2	1	-	-	-
Cymbella perpusilla A.Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	4	3	1	2	5	1	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	4	2	-	1	1	-	-	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	2	-	-	-	-	-	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	3	1	-	1	1	-	-	-
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-	-	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	1	1	-	-	-
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	1	-	1	-	-
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	2	-	1	-	-	-
Fragilaria construens (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	1	-	2	-	-	-
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	-	-	1	-	-	-
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	1	2	-	-	-
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	17	13	2	6	21	10	4	6
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	1	-	-	-	-	-	1
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	3	1	40	31	7	21	26	32
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	122	138	19	44	75	14	3	11
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	-	14	5	3	16	12	8
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	1	4	7	1	3	4	1
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	2	6	2	5	9	2	1	1
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	1	1	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	7	2	60	40	23	59	52	63
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	-	-	-	4	3
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	3	2	2	5	7
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	-	-	3	1	-	3	3	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	-	2	2	1
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	1	2	1	-	-	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	-	-	1	-	-	-
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	-	-	-	-	-	2	15	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	9	4	-	5	3	3
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	2	2	-	-	4	-	-	-
Pinnularia acuminata W.Smith	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	1
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	-	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	2	1
Pinnularia borealis var. scalaris (Ehr.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	2	2
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	-	-	2	-	-	-	-
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	4	-	-	2	-	-	1
Pinnularia inconstans Mayer	Ogh-hob	ac-il	ind		1	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	1
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	1	-	-	1
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	1	-	-
Pinnularia pisciculus Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	2	-	4	5	2	8	3	12
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	2	3	-	-	1	-	-	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	-	-	-	1	-	-	-	2
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	1	-	-	-

第4表　珪藻分析結果（2）

種　　類	生態性 塩分	pH	流水	環境指標種	10	11	14	16	18	22	24	26
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		3	2	-	-	-	-	-	-
Sellaphora americana (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	1	-
Sellaphora laevissima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		1	1	-	-	2	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	-	1	-	2	1	-	-	-
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis agrestris var. inflata H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	1	1	-	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	2	-	29	13	7	11	13	26
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	3	2	-	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron fo. hattorii Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	2	1	-	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	1	-	-	-
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	-	1	-	-	-	-
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	2	-	2	2	1	-	-	-
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	1
Tabellaria flocculosa (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	1	-	-	-	-	-	-
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種合計					4	3	0	0	4	1	2	4
淡水生種合計					198	200	205	204	203	203	200	200
珪藻化石総数					202	203	205	204	207	204	202	204

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性
Ogh-Meh　：淡水－汽水生種
Ogh-ind　：貧塩不定性種
Ogh-hob　：貧塩嫌塩性種
Ogh-unk　：貧塩不明種
unk　：流水不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
al-bi　：真アルカリ性種
al-il　：好アルカリ性種
ind　：pH不定性種
ac-il　：好酸性種
unk　：pH不明種

C.R.：流水に対する適応性
l-bi　：真止水性種
l-ph　：好止水性種
ind　：流水不定性種
r-ph　：好流水性種
r-bi　：真流水性種

環境指標種群
K:中～下流性河川指標種，M:湖沼浮遊性種，O:沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）
S:好汚濁性種，U:広域適応性種，T:好清水性種（以上はAsai，K. & Watanabe，T.，1986）
R:陸生珪藻（RA:A群，RB:B群，RI群、伊藤・堀内，1991）

リュウラックスで封入し、プレパラートを作製する。これを400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出される種類とその個数の一覧表と植物珪酸体群集の層位分布図で表示する。各種類の出現率は、短細胞・機動細胞珪酸体とも珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

4）樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

5）種実遺体同定

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特長から種類を同定する。同定された種実遺体は、種類ごとに瓶にいれ、ホウ酸・ホウ砂水溶液中に保存する。

6）微細遺物分析

試料約300ｇを秤量後、数％の水酸化ナトリウム水溶液を入れて放置し、試料を泥化させる。0.5㎜の篩を通して水洗し、残渣を集める。残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、種実遺体等を抽出・同定する。同定された種実遺体は、種類ごとに瓶にいれ、ホウ酸・ホウ砂水溶液中に保存する。

7）赤外分光分析

赤外線吸収スペクトル法では、あらかじめ試料物質が予想できるときには、既知の吸収スペクトルと

比較して未知物質の同定および確認ができ、物質の多重結合や官能基の構造がわかる（山田　1986)。

分析を行うにあたり、黒色付着物を110℃で２時間乾燥させた後、メノウ乳鉢で微粉砕（200メッシュ以下）し、分析試料とした。この調製した微粉砕試料を、以下の条件で測定した（山田　1986)。

装置：島津製作所製ＦＴＩＲ－8100Ａ

測光値（Measuring mode）：%T

分解能（Resolution）：4.0cm^{-1}

積算回数（No.of Scan）：40回

ゲイン（Gain）：自動

ミラー速度（Detector）：2.8mm/sec

アポダイズ関数（Apodization）：Happ-genzel

測定範囲：4600～400cm^{-1}

測定方法：ＫＢｒミクロ錠剤法

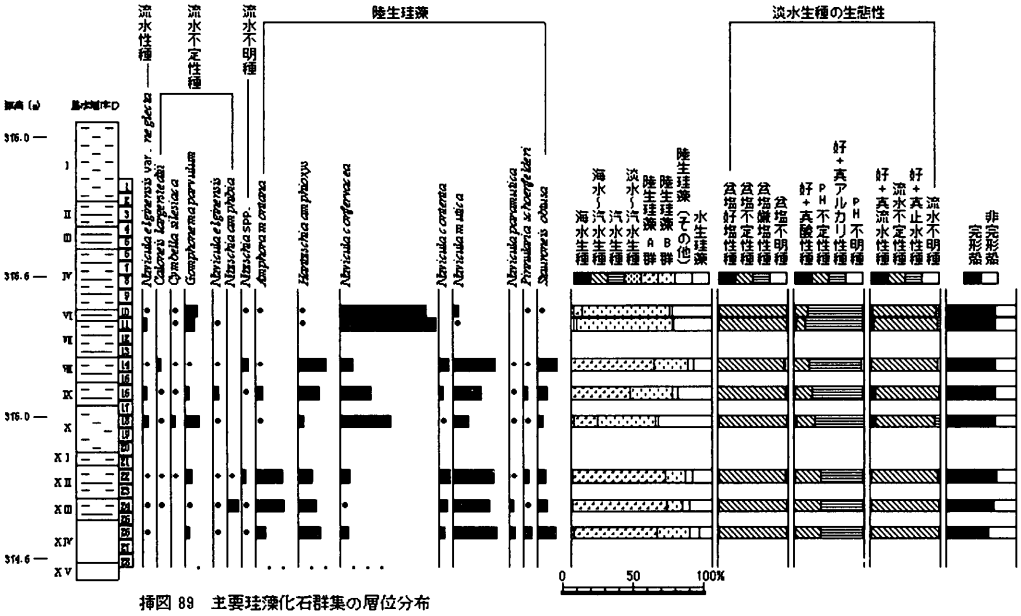
(3)結果

1）珪藻分析

結果を第４表・挿図89に示す。珪藻化石はすべての試料で200個体以上産出する。産出分類群数は21属83種、完形殻の産出率は約60～80%である。珪藻化石群集の特徴は、試料番号26・24・22、試料番号18、試料番号16・14、試料番号11・10で異なる。以下、下位から珪藻化石群集の特徴を述べる。

試料番号26・24・22は、全体の約80～90%を陸生珪藻が占める。中でも、陸生珪藻Ａ群（伊藤・堀内1991）の*Navicula mutica* が約25～30%産出する。その他に、陸生珪藻Ａ群の*Amphora montana* が約10～20%、陸生珪藻Ａ群の*Hantzschia amphioxys* が約10%産出する。陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻であり、中でも、乾燥に耐性のある種がＡ群とされる。

試料番号18は、全体の約60%を陸生珪藻が占める。陸生珪藻Ｂ群・好汚濁性種（Asai, K. &



挿図 89　主要珪藻化石群集の層位分布

淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。なお、●は２%未満について検出した種類を示す。

Watanabe, T. 1995）の*Navicula confervacea* が多産する。その他に、陸生珪藻A群の*Navicula mutica*、流水不定性種の*Gomphonema parvulum* が産出する。陸生珪藻B群とは、陸生珪藻A群に随伴し、湿った環境にも水中にも生育する種とされ、また好汚濁性種とは有機的に汚濁した水域に生育する種とされる。

試料番号16・14は、全体の約75～85％を陸生珪藻が占める。中でも陸生珪藻A群の*Navicula mutica* が約20～30％産出する。その他に、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys* が約20％、陸生珪藻B群・好汚濁性種の*Navicula confervacea* が約10～20％産出する。

試料番号11・10は、全体の約70％を陸生珪藻が占める。中でも陸生珪藻B群・好汚濁性種の*Navicula confervacea* が約60～65％産出する。その他に、流水不定性種の*Gomphonema parvulum* が産出する。

2）花粉分析

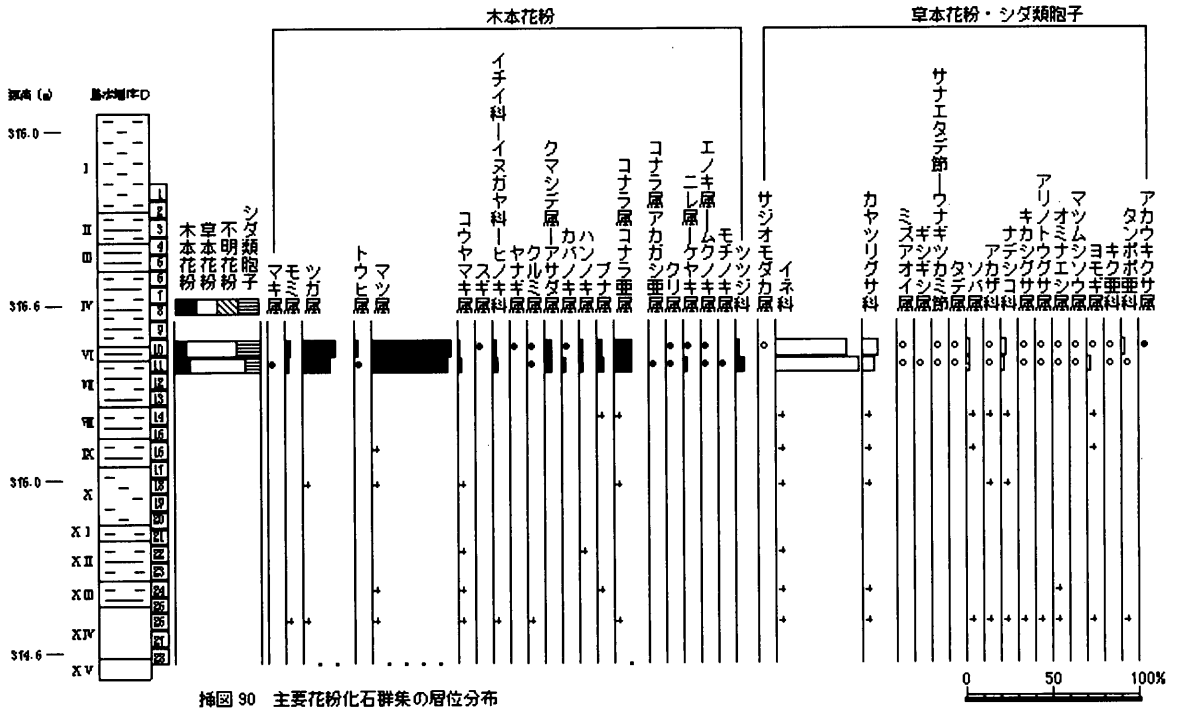
結果を第5表・挿図90に示す。試料番号14～26では、花粉化石がほとんど検出されない。僅かに検出される花粉化石も保存状態が極めて悪く、外膜が溶けて薄くなっており、壊れている。試料番号10・11では、比較的良好に花粉化石が検出される。

第5表　花粉分析結果

種　類　　試料番号	10	11	14	16	18	22	24	26
木本花粉								
マキ属	-	1	-	-	-	-	-	-
モミ属	6	4	-	-	-	-	-	1
ツガ属	40	41	-	-	2	-	-	1
トウヒ属	4	2	-	-	-	-	-	-
マツ属複維管束亜属	92	101	-	2	10	-	-	6
マツ属（不明）	6	11	-	-	-	-	1	4
コウヤマキ属	3	6	-	-	3	5	1	5
スギ属	2	-	-	-	-	-	-	-
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	5	8	-	-	-	-	-	1
ヤナギ属	1	-	-	-	-	-	-	-
クルミ属	1	1	-	-	-	-	-	1
クマシデ属－アサダ属	8	11	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	1	4	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	4	5	-	-	-	1	-	-
ブナ属	7	9	1	-	-	-	1	-
コナラ属コナラ亜属	22	25	2	-	2	-	-	4
コナラ属アカガシ亜属	-	2	-	-	-	-	-	-
クリ属	2	1	-	-	-	-	-	-
ニレ属－ケヤキ属	1	5	-	-	-	-	-	-
エノキ属－ムクノキ属	1	2	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	4	12	-	-	-	-	-	-
エゴノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-
草本花粉								
サジオモダカ属	1	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	582	630	14	7	11	5	4	40
カヤツリグサ科	126	81	3	2	7	-	1	9
ミズアオイ属	2	1	-	-	-	-	-	-
クワ科	2	-	-	-	-	-	-	-
ギシギシ属	-	2	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	1	4	-	-	-	-	-	-
タデ属	1	1	-	-	-	-	-	-
ソバ属	28	17	1	1	-	-	-	2
アカザ科	3	6	1	-	1	-	-	7
ナデシコ科	31	23	1	-	2	-	-	2
キンポウゲ科	1	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	1	-	-	-	-	-	-	-
バラ科	1	-	-	-	-	-	-	-
キカシグサ属	5	11	-	-	-	-	-	4
アリノトウグサ属	1	2	-	-	-	-	-	1
オミナエシ属	4	1	-	-	-	-	1	1
マツムシソウ属	6	4	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	10	27	1	6	-	-	-	3
キク亜科	2	7	-	-	-	-	-	-
タンポポ亜科	17	11	-	-	-	-	-	2
不明花粉	7	13	1	-	-	-	1	1
シダ類胞子								
アカウキクサ属	1	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類胞子	388	231	96	27	68	26	6	71
合　計								
木本花粉	211	252	3	2	17	6	3	23
草本花粉	825	828	21	16	21	5	6	71
不明花粉	7	13	1	0	0	0	1	1
シダ類胞子	389	231	96	27	68	26	6	71
総計（不明を除く）	1425	1311	120	45	106	37	15	165

木本花粉では、マツ属が最も高率に出現し、次いでツガ属・コナラ属コナラ亜属が検出される。この他、クマシデ属－アサダ属・ブナ属・ツツジ科などが検出される。ただし、木本花粉が総花粉・胞子数に対して占める割合は、極めて低い。

草本花粉では、イネ科が最も高率に出現し、サジオモダカ属・カヤツリグサ科・ミズアオイ属・ソバ属・ナデシコ科・ヨモギ属・タンポポ亜科・アカウキクサ属などが検出される。



挿図 90　主要花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１%未満、＋は木本花粉 100 個体未満の試料について検出した種類を示す。

3）植物珪酸体分析

結果を第６表・挿図91に示す。植物珪酸体は、各試料とも比較的良好に検出される。群集組成は層位的な変化が認められる。すなわち、上位に向かってイネ属が増加および多産する。

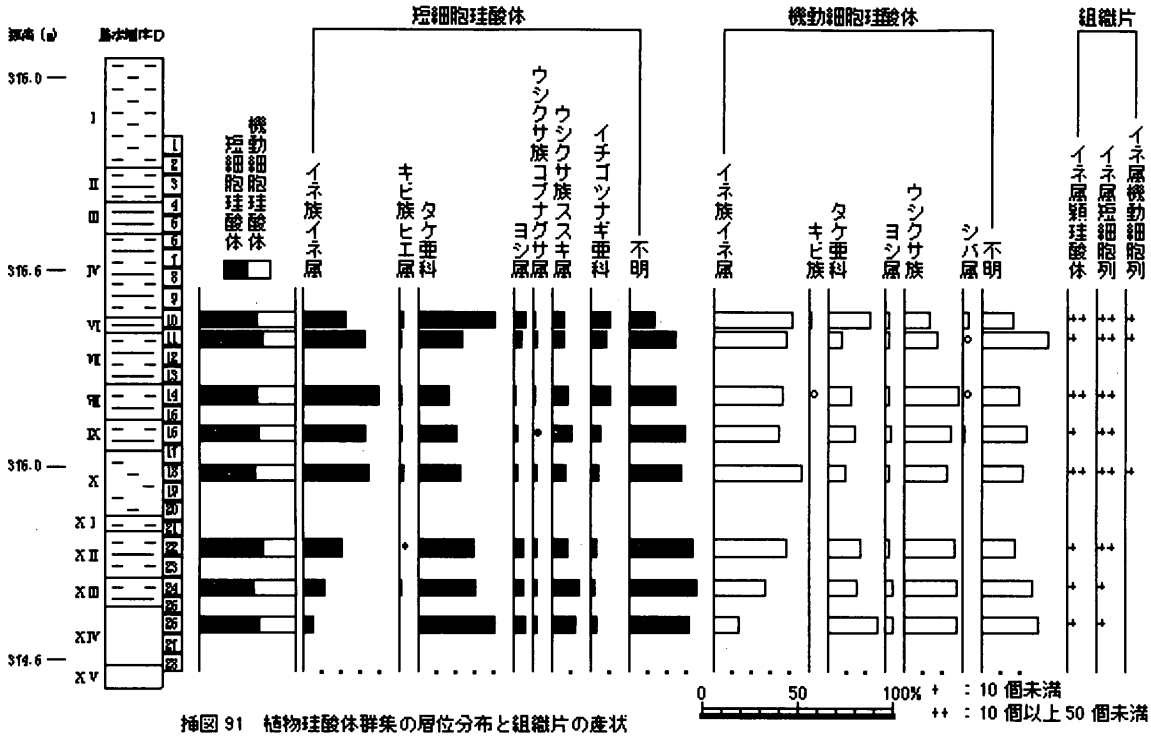
これに対して、タケ亜科とススキ属を含むウシクサ族が減少する。また、イチゴツナギ亜科も上位に向かい僅かに増加する傾向を示し、ヒエ属、ヨシ属、シバ属が検出される。なお、各試料とも、イネ属珪酸体列や稲籾に形成される穎珪酸体が検出され、特に試料番号22より上位で多産する。

4）樹種同定

結果を第７表に示す。試料番号122-Bは、散孔材の道管配列を有する広葉樹材であるが、保存状態が悪いため、種類の同定には至らなかった。その他の試料は、針葉樹４種類

第６表　植物珪酸体分析結果

種　類 ＼ 試料番号	10	11	14	18	22	24	26
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ族イネ属	55	74	93	76	43	25	14
キビ族ヒエ属	4	2	3	4	1	2	-
タケ亜科	102	53	38	49	63	68	102
ヨシ属	14	10	2	5	11	11	15
ウシクサ族コブナグサ属	3	4	2	5	4	4	6
ウシクサ族ススキ属	15	13	19	15	17	32	32
イチゴツナギ亜科	25	18	24	10	6	4	8
不明キビ型	24	40	38	35	37	35	29
不明ヒゲシバ型	6	12	15	17	25	25	31
不明ダンチク型	4	3	5	10	10	20	20
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ族イネ属	70	45	60	75	43	48	21
キビ族	2	-	1	-	-	-	-
タケ亜科	37	9	20	14	20	26	43
ヨシ属	4	2	4	3	2	7	7
ウシクサ族	23	21	46	35	30	48	44
シバ属	6	1	1	-	-	-	-
不明	27	41	32	34	19	47	48
合　計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	252	229	239	226	217	226	257
イネ科葉身機動細胞珪酸体	169	119	164	161	114	176	163
総　計	421	348	403	387	331	402	420
組　織　片							
イネ属穎珪酸体	23	10	28	23	8	10	2
イネ属短細胞列	18	13	26	19	20	8	4
イネ属機動細胞列	2	1	-	1	-	-	-



挿図 91　植物珪酸体群集の層位分布と組織片の産状
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１%未満の種類の試料で検出された種類を示す。また、組織片の産状を検出個数により +、++ の記号で示す。

（モミ属・スギ・サワラ・イチイ）と広葉樹６種類（カバノキ属・アサダ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・カエデ属・ツルウメモドキ属）に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・モミ属（*Abies*）　　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。傷害樹脂道が認められる試料がある。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で１～４個。放射組織は単列、１～20細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don）　　スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

・サワラ（*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.)Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

・イチイ（*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.）　　イチイ科イチイ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔組織壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型で、１分野に１～２個。放射組織は単列、１～５細胞高。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。

・カバノキ属（*Betula*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に２～４個が複合、横断面では楕円形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有

第７表　樹種同定結果

番　号	遺　構　名	器　　種	木　取　り	樹　　種
1				スギ
2	SB10	横鍬泥除け具	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
13				スギ
18	SB10	曲柄装着ナスビ型又鍬	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
19				スギ
21	SD20	部材	板材（板目）	スギ
25	SX04	下駄	板材（柾目）	スギ
27	SB10	横鍬未成品	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
28	SB10	横鍬泥除け未成品	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
32 -1				サワラ
34 -1	SB10	横鍬泥除け未成品	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
34 -3B				スギ
35	SB13	槽	板材（板目）	サワラ
45				スギ
46	SB10	網枠	丸太材芯持ち	モミ属
58	SB10	曲柄装着又鍬	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
59	SB13	曲柄装着又鍬	板材（柾目）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
63	SB13	網枠	丸太材芯持ち	モミ属
66				コナラ属コナラ亜属クヌギ節
72	SB13	槽	板材（斜目）	スギ
74	SB10	杵	板材（柾目）	スギ
75				イチイ
82				クリ
90	SB10	袋状鉄斧の柄	丸太材芯持ち	アサダ
91	SB10	袋状鉄斧の柄	丸太材芯持ち	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
96		木製短甲		スギ
98 -1	ZZZ	槽	板材（板目）	スギ
104 -1	SB15	網枠	丸太材芯持ち	モミ属
104 -2B	SB15BV7b区	栓	板材（斜目）	モミ属
120 -A				カバノキ属
122 A	SB15	弓		ツルウメモドキ
122 -B				広葉樹（散孔材）
125				スギ
126 -4	SB10	槽	板材（斜目）	カエデ属
132				スギ
133				クリ
136 -7				スギ
	BX16P2	遺存柱材		スギ
	BX17P2	遺存柱材		スギ
	立木3	立木		コナラ属コナラ亜属クヌギ節

し、段（bar）数は20～30、壁孔は密に対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、１～４細胞幅、１～30細胞高であまり目立たない。柔組織はターミナル状及び散在状～短接線状。年輪界はやや不明瞭。

・アサダ（*Ostrya japonica* Sarg.）　　カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に２～４個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～３細胞幅、１～30細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Cerris*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１～４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状

に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・カエデ属（*Acer*）　カエデ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。細胞壁の厚さが異なる2種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・ツルウメモドキ（*Celastrus orbiculatus* Thunb.）　ニシキギ科

環孔材で、年輪はじめに大型の道管が1列の孔圏部をつくる。孔圏外小道管は急激に管径を減じ散在する。道管は単穿孔を有する。放射組織はほぼ同性で、単列のものと、10細胞幅，100細胞高以上のものがある。

5）種実遺体同定

結果を第8表に示す。検出された種類数は多いが、有用植物や木本の種実が多く検出される傾向にある。以下に検出された種類の形態的特長を記す。なお、結果表は、グリッド毎にまとめて表記した。

・カヤ（*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.）　イチイ科カヤ属

種子が検出された。大きさは2.5cm程度で紡錘形、先端部はやや尖る。種皮は褐色で堅く、表面には筋状の模様がある。

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　マツ科マツ属

球果が検出された。卵型で大きさは5cm程度。柄はほとんどない。保存の良いものは、種鱗は長楕円状の矩形を呈し、先端部は肥厚する。先端部の肥厚は、不規則な4～5角形である。このような形状から、保存の良い個体はいずれもアカマツ（*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.）であると考えられる。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim) Kitamura）　クルミ科

核が検出された。褐灰色。大きさは2.5cm程度。側面の両側に縫合線が発達する。広卵形で、基部は丸くなっているが先端部は尖る。表面は荒いしわ状となり、縦方向に溝が走っている。内部は子葉が入る2つの大きなくぼみがある。

・イヌシデ（*Carpinus Tschonoskii* Maxim.）　カバノキ科クマシデ属

果実が検出された。黒褐色で、大きさは4mm程度。側面観は亜三角型、上面観は凸レンズ型。表面には縦方向に数本の筋が存在する。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zicc.）　ブナ科クリ属

果実が検出された。大きさは2cm程度で半球形。種皮は薄くて堅く、表面には光沢がある。座についていた部分はざらつく。

・アケビ属（*Akebia*）　アケビ科

種子が検出された。大きさは7mm程度。黒色で、側面観は楕円形。表面は薄くて平滑、光沢がある。側面に縦長で大きな「へそ」があり、白色で突出する。

・サクラ属（*Prunus*）　バラ科

核（内果皮）が検出された。黒褐色。大きさは8mm程度。核の形は楕円形で、偏平である。下端には、丸く大きな臍点がありへこんでおり、上端は丸い。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は平滑である。

・ウメ（*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zicc.）　バラ科サクラ属

核が検出された。褐色、核の形は楕円形で偏平である。大きさは1.5cm程度。丸く大きな臍点がありへこむ。側面の一方には縫合線が発達する。表面は不規則にくぼみが配列する。

・モモ（*Prunus parsica* Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。褐色～黒褐色で大きさは3cm程度。核の形は楕円形でやや偏平である。基部は丸く大きな臍点がありへこんでおり、先端部はやや尖る。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・スモモ（*Prunus salicina* Lindl.）　バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。黒褐色。大きさは1.5cm程度。核の形は楕円形で、偏平である。下端には、丸く大きな臍点があり凹んでおり、上端は丸い。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は浅いくぼみが不規則にみられる。

・サンショウ（*Zanthoxylum piperitum* DC.）　ミカン科サンショウ属

果実が検出された。黒褐色、楕円形で大きさは4mm程度。表面には浅い不規則な網目模様がみられる。

・カラスザンショウ属（*Fagala*）　ミカン科

果実が検出された。黒褐色。大きさは3mm程度。楕円形。表面には粗い亀甲状の網目模様がみられる。

・ウルシ属（*Rhus*）　ウルシ科

種子が検出された。偏平で大きさは4mm程度。表面は褐色でざらつく。種皮は厚くてやや堅い。

・カエデ属（*Acer*）　カエデ科

果実が検出された。褐色で大きさは1cm程度。肉厚でやや堅く、表面はざらつく。分離面は平らで菱形である。翼は残っていない。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume.）　トチノキ科トチノキ属

種子が検出された。大きさは3cm程度。種皮は薄く堅い。表面には黒く艶のある部分と、黒褐色でざらつく部分とがある。

・ブドウ属（*Vitis*）　ブドウ科

種子が検出された。黒色。大きさは4mm程度。心臓形。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形に深くくぼんだ穴が存在する。背面には中央に「さじ」状の「へそ」があり、「へそ」回りはくぼんでいる。

・ミズキ（*Cornus controversa* Hemsley）　ミズキ科ミズキ属

核が検出された。褐色で大きさは5mm程度。縦方向にややつぶれた球形。基部に大きな臍がある。縦方向に走る深い溝がみられる。

・カキ（*Diospyros kaki* Thunb.）　カキノキ科カキノキ属

種子が検出された。種子は黒色で大きさは1cm程度。半月形で偏平。一端にへそがある。種皮は薄く、やや堅い。

・イネ科（Gramineae）

果実が検出された。大きさは2mm程度。側面観は細長い紡錘形で表面はざらつく。薄くて弾力がある。

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさ4mm程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が欠けたように見える。

第８表　種実遺体同定結果（１）

遺構名	グリッド名・層名		カヤ	アカマツ（球果）	マツ属複維管束亜属（球果）	オニグルミ（完形）	オニグルミ（破片）	イヌシデ	クリ（完形）	クリ（破片）	アケビ属	サクラ属	ウメ（完形）	ウメ（破片）	スモモ（完形）	スモモ（破片）	モモ（完形）	モモ（破片）	サンショウ	カラスザンショウ属	ウルシ属	カエデ属	トチノキ（完形）	トチノキ（破片）	ブドウ属	ミズキ	カキ	イネ科
AD18P7	AD18		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BR08GP1	BR08		-	-	-	-	-	-	6	多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BR08P1	BR08		-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BT07P1	BT07		-	-	-	-	1	-	-	多	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BT07P1	BT07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BU17P3	BU17		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV08GP1	BV08		-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11	底の土	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11	No.1下	-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11		-	-	-	-	-	-	2	多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11	No.19下	-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BW04P2	BW04		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BW12P1	BW12		-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BP05	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ04	b区	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ05	a区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	2	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ05	b区	-	-	-	-	8	-	-	+	-	-	-	-	1	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ05	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR03	b区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR03	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	a区	-	-	-	-	8	-	-	+	-	-	1	-	9	2	21	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	b区	-	-	-	-	6	1	-	+	-	-	-	-	23	7	12	40	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-
SB10	BR04	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	d区	-	-	-	-	2	-	-	+	-	-	-	-	20	1	24	85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR05	a区	-	-	-	-	3	-	-	+	-	-	-	-	8	2	16	28	1	-	-	-	-	+	1	1	-	-
SB10	BR05	b区	-	-	-	-	1	-	-	+	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR05	c区	-	-	-	-	5	-	-	+	-	-	1	-	15	4	32	55	1	-	-	-	1	+	-	-	-	-
SB10	BR05	d区	-	-	-	-	1	-	-	+	-	-	-	-	1	6	7	19	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR06	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	2	1	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS03	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	b区	-	-	-	-	1	-	-	+	-	-	-	-	4	1	16	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	c区	-	-	-	-	4	-	-	+	-	-	-	-	-	1	11	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	d区	-	-	-	-	5	-	1	+	-	-	-	-	7	1	15	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS05	a区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	5	-	9	13	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
SB10	BS05	b区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	1	-	-	-	-	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS05	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	3	1	3	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS05	d区	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
SB10	BS06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT04	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	1	-	-	-	10	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	2層炭化種子		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	2層		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	4層		-	-	-	-	21	-	-	+	-	-	-	-	8	9	55	多	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-
SB10	5層		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	Ⅳ層		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	No.93		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	No.285		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	No.1021		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10			1	-	-	-	24	-	-	+	-	-	-	-	30	19	97	多	-	-	-	-	1	+	-	-	1	-

第8表　種実遺体同定結果（2）

遺構名	グリッド名・層名		イネ	コムギ	カヤツリグサ科	スゲ属	ホタルイ属	カナムグラ	ギシギシ属	タデ属	サナエタデ近似種	アカザ科―ヒユ科	ナデシコ科	ツリフネソウ	ヒメビシ	セリ科	アサザ	メロン類	ヒョウタン類（種子）	ヒョウタン類（果皮）	オナモミ属	メナモミ属	不明	材	昆虫	土器
AD18P7	AD18		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BR08GP1	BR08		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BR08P1	BR08		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
BT07P1	BT07		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	多	5	-	-	破	破	破	破
BT07P1	BT07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BU17P3	BU17		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV08GP1	BV08		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11	底の土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11	No.1下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BV11P1	BV11	No.19下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BW04P2	BW04		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BW12P1	BW12		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	破	-	-
SB10	BP05	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ04	b区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	23	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ05	a区	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BQ05	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-
SB10	BQ05	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-
SB10	BR03	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	破	-
SB10	BR03	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	2	5	破	-	-	2+破	破	-	-
SB10	BR04	b区	-	-	2	3	-	-	-	1	-	-	1	-	多	-	8	2	6	破	1	-	1+破	破	-	破
SB10	BR04	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	d区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	多	-	5	3	7	-	-	-	-	破	-	破
SB10	BR05	a区	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	多	-	5	2	8	-	-	-	2	破	-	-
SB10	BR05	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	109	-	1	2	6	-	-	-	1	破	-	-
SB10	BR05	c区	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	多	-	4	1	2	破2	-	-	3	破	-	破2
SB10	BR05	d区	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	多	-	1	1	5	-	-	-	1	破	-	-
SB10	BR06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	破	-	-	1	破	-	-
SB10	BR06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	1	破	-	-
SB10	BS03	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	-	-	-	1	-	-	-	2+破	破	-	-
SB10	BS04	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47	-	2	-	2	-	-	-	破	破	破	-
SB10	BS04	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	多	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS05	a区	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	109	1	3	2	37	破	-	-	破	破	-	-
SB10	BS05	b区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	34	-	-	1	14	破	-	-	3	-	-	-
SB10	BS05	c区	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	89	-	4	2	11	-	-	-	破	破	-	-
SB10	BS05	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98	-	2	2	8	-	-	-	破	破	破	-
SB10	BS06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT04	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	c区	-	-	1	-	-	-	-	3	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	破	-	破	-
SB10	BT05	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-	-
SB10	BT06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42	-	-	1	3	破	-	-	-	破	-	-
SB10	2層炭化種子		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	2層		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SB10	4層		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SB10	5層		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
SB10	Ⅳ層		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	No.93		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	No.285		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	No.1021		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10			-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	多	-	-	1	2	-	-	-	破	破	破	-

第８表　種実遺体同定結果（３）

遺構名	グリッド名・層名		カヤ	アカマツ（球果）	マツ属複維管束亜属（球果）	オニグルミ（完形）	オニグルミ（破片）	イヌシデ	クリ（完形）	クリ（破片）	アケビ属	サクラ属	ウメ（完形）	ウメ（破片）	スモモ（完形）	スモモ（破片）	モモ（完形）	モモ（破片）	サンショウ	ウルシ属	カエデ属	トチノキ（完形）	トチノキ（破片）	ブドウ属	ミズキ	カキ	イネ科
SB10P1			-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BP06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BQ06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BR06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BS07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS06	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	b区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	a区	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	c区	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	d区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	2	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06		-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	15	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT07	a区	-	-	-	-	4	-	-	+	-	-	-	-	1	-	6	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT07	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT07	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU05	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	a区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-
SB10	BU06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	6	1	-	-	-	1	1	-	-	-
SB10	No.54		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	b区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10			-	-	-	-	2	-	3	+	-	-	-	-	-	3	10	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06		-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	1	2	8	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT07	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT07		-	-	-	-	-	-	1	多	-	-	-	-	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	a区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	b区	-	-	-	-	2	-	-	+	-	-	-	-	-	1	7	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	d区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	2	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06		-	-	-	-	1	-	-	+	-	-	-	-	1	1	13	33	-	-	-	+	-	-	-	-	-
SB10	BU07	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	b区	-	-	-	-	-	-	8	+	-	-	-	-	-	1	4	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	c区	-	-	-	-	2	-	-	+	-	-	-	-	-	2	3	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	d区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	2	8	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU08	a区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06	b区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV07	a区	-	-	-	-	2	-	-	+	-	-	-	-	-	3	11	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV07	b区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	3	5	12	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV07	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV07	d区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV08	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV08	c区	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	1	5	6	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第８表　種実遺体同定結果（４）

遺構名	グリッド名・層名		イネ	コムギ	カヤツリグサ科	スゲ属	ホタルイ属	カナムグラ	ギシギシ属	タデ属	サナエタデ近似種	アカザ科―ヒユ科	ナデシコ科	ツリフネソウ	ヒメビシ	セリ科	アサザ	メロン類	ヒョウタン類(種子)	ヒョウタン類(果皮)	オナモミ属	メナモミ属	不明	材	昆虫	土器
SB10P1			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BP06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BQ06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東	BR06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
SB10東	BS07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10東			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS06	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-
SB10	BS06	d区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-
SB10	BS07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT05	b区	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	22	-	-	3	9	-	1	-	2	-	-	-
SB10	BT05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	b区	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	c区	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	47	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-
SB10	BT06	d区	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	-	-	3	-	-	-	-	破	-	-
SB10	BT06		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SB10	BT07	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46	-	-	1	1	-	3	-	-	破	-	-
SB10	BT07	b区	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BT07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU05	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	4	-	1	-	1+破	破	-	-
SB10	BU06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	5	3	-	-	-	7	-	-	-
SB10	BU06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	3	6	-	2	-	8	-	-	-
SB10	BU06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-	-
SB10	BU07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	2	2	-	-	-	4	破	-	-
SB10	No.54		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	b区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	18	-	-	3	1	-	-	-	4	-	-	-
SB10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-	-	-	-	-
SB10	BT06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-	-	破	-	-
SB10	BT06		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
SB10	BT07	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3	-	破	-
SB10	BT07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	破	-	-
SB10	BU06	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	b区	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	5	-	-	4	3	-	-	-	破	破	-	-
SB10	BU06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	d区	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	2	-	破	破	-	-
SB10	BU06		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	破	-
SB10	BU07	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-	-
SB10	BU07	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	破	-	-
SB10	BU07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU08	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1		-	-
SB10	BV06	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06	d区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV06		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV07	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	8	18	破	2	-	3	破	-	破
SB10	BV07	b区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-	-	7	11	-	-	-	3	-	-	-
SB10	BV07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
SB10	BV07	d区	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	3	破	-	-
SB10	BV07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-	破	破	-	-
SB10	BV08	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	10	-	-	-	2	-	-	-
SB10	BV08	c区	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-

第8表　種実遺体同定結果（5）

遺構名	グリッド名・層名		カヤ	アカマツ(球果)	マツ属複維管束亜属(球果)	オニグルミ(完形)	オニグルミ(破片)	イヌシデ	クリ(完形)	クリ(破片)	アケビ属	サクラ属	ウメ(完形)	ウメ(破片)	スモモ(完形)	スモモ(破片)	モモ(完形)	モモ(破片)	サンショウ	カラスザンショウ属	ウルシ属	カエデ属	トチノキ(完形)	トチノキ(破片)	ブドウ属	ミズキ	カキ	イネ科
SB10	BV08		-	-	-	-	-	-	1	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BW07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10?			-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	c区	-	-	-	-	1	-	-	+	-	-	-	-	2	-	7	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU04		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU05		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV04		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BW07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BW07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BX07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD01			-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD12	下		-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD13			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD18			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD19			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD20			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD26			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD27			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD30	BS05	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD30下			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD31			-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD33			-	-	-	-	1	-	-	+	-	-	-	-	1	-	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD42			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SI01			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK05			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK11			-	-	-	-	-	-	1	+	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK12			-	-	-	-	-	-	1	多	-	-	-	-	1	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK17			-	-	-	-	1	-	-	多	-	-	-	-	2	2	6	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK18			-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	5	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK20			-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK21			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK22			-	-	-	-	-	-	多	+	-	-	-	-	2	-	2	3	-	-	1	-	-	-	2	-	-	1
SK23			-	-	-	-	-	-	1	多	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
SK27			-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BG48		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BI46		-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BQ.BR14		-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BQ13		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BQ14		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BS15		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ZZZ			-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	12	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カクラン			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重機荒土			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第8表　種実遺体同定結果（6）

遺構名	グリッド名・層名		イネ	コムギ	カヤツリグサ科	スゲ属	ホタルイ属	カナムグラ	ギシギシ属	タデ属	サナエタデ近似種	アカザ科―ヒユ科	ナデシコ科	ツリフネソウ	ヒメビシ	セリ科	アサザ	メロン類	ヒョウタン類（種子）	ヒョウタン類（果皮）	オナモミ属	メナモミ属	不明	材	昆虫	土器
SB10	BV08		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BW07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	破	-	-	-
SB10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
SB10?			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BR04	a区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BS04	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-
SB10	BS04	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	破	-	-
SB10	BS05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU04		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破
SB10	BU05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BU06	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV04		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BV05		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BW07	c区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BW07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB10	BX07		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD01			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SD10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD12	下		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SD13			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SD18			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-
SD19			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD20			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD26			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD27			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD30	BS05	b区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD30下			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD31			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD33			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD42			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SI01			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK05			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SK11			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK12			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SK17			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SK18			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	多	-	-	-	-	-	-	破	破	-	-
SK20			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK21			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-
SK22			-	-	-	-	-	11	1	2	2	-	-	1	-	-	-	6	1	-	1	1	9	破	破	-
SK23			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	1+破	破	-	-
SK27			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SX04			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BG48		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BI46		-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BQ.BR14		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BQ13		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	BQ14		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破	-	-	-
	BS15		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ZZZ			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	破	-	-
カクラン			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重機荒土			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表面には数本の筋がみられる。

・コムギ（*Triticum aestivum* L.）　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており、大きさは4㎜程度。楕円形で全体的に丸みを帯びている。片側には1本の深い溝があり、その反対側胚の痕跡がある。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae）

果実が検出された。褐色、広倒卵形、大きさは2㎜程度。表面は薄くてやや堅く、ざらつく。先端がやや尖る。

・スゲ属（*Carex*）　カヤツリグサ科

果実が検出された。大きさは3㎜程度。褐色、3稜形で、先端部は細くなる。表面は薄くて柔らかく、弾力がある。

・ホタルイ属（*Scirpus*）　カヤツリグサ科

果実が検出された。黒色。堅く光沢がある。大きさは2㎜程度。偏平で背面が高く稜になっている。腹面は平らである。片凸レンズ状の広倒卵形。先端部はとがり、基部はせばまって「へそ」がある。表面には細かい凹凸があり、横軸方向に平行な横しわがあるように見える。数本の針状の花被がみられ、先端には逆刺がある。

・カナムグラ（*Humuus scandens* (Lour.) Merrill）　クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。黒色で凸レンズ状、大きさは3㎜程度。表面は果皮に覆われ「しわ」状になっている。

・タデ属（*Polygonum*）　タデ科

果実が検出された。大きさは2㎜程度。3稜形で表面は薄くて堅く、ざらつく。

・サナエタデ近似種（*Polygonum lapathifolium* L.）　タデ科タデ属

果実が検出された。黒褐色で大きさは2㎜程度。偏平な円形で、両側面は少しくぼむ。果皮は平滑で光沢があり、薄く堅い。

・ギシギシ属（*Rumex*）　タデ科

果実が検出された。花被に包まれた個体は、大きさ4㎜程度。外花被は小さいが、内花被は大きく薄い翼状になる。内花被の中筋はこぶ状にふくれる。

・アカザ科－ヒユ科（Chenopodiaceae - Amaranthaceae）

種子が検出された。黒色。側面観は円形で、上面観は凸レンズ形を呈している。大きさは1㎜程度。側面に「へそ」がある。表面は細胞が亀甲状に配列している構造がみられる。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）

種子が検出された。黒色で、大きさは1㎜程度。表面には荒い突起が密に配列している。

・ツリフネソウ（*Impatiens Textori* Miq.）　ツリフネソウ科ツリフネソウ属

種子が検出された。黒色で、大きさは5㎜程度。楕円形で先端部がやや突出し円形の大きな「へそ」がある。表面は薄くて堅く、不規則で短い線状の隆起がある。

・ヒメビシ（*Trapa incisa* Sieb. et Zuee.）　ヒシ科ヒシ属

果実が検出された。大きさは、棘の端から端までが2㎝程度。逆三角形で、4棘がある。棘の先端には、逆棘がみられる。果皮は比較的薄くて堅く、やや光沢がある。全体的に小さくて、本体と比較して

棘が長く、かつ4棘があることからヒメビシとした。

・セリ科（Umbelliferae）

果実が検出された。半球状で淡褐色。大きさは2㎜程度。球面側では数本の縦方向に大きく裂けた溝があり、内部が露出している。果実が分離した面では、中央に縦軸方向に延びた紡錘形のくぼみがあり、内部が露出している。

・アサザ（*Nymphoides peltata* (Gmel.)O.Kuntze）　リンドウ科アサザ属

種子が検出された。淡褐色で楕円形。扁平で薄い。表面は薄くて柔らかく、ざらつく。全周に翼があり、細い糸状状のものが放射状にのびる。

・メロン類（*Cucumis melo* L.）　ウリ科キュウリ属

種子が検出された。大きさは7㎜程度。側面観は楕円形、上面観はやや偏平な楕円形。表面は比較的平滑。

・ヒョウタン類（*Lagenaria*）　ウリ科ユウガオ属

種子が検出された。大きさは1.5㎝程度。褐色で肉厚。縁は肉厚で盛り上がっている。表面は厚くて柔らかく弾力があり、ざらつく。

・オナモミ属（*Xanthium*）　キク科

果実が検出された。褐色で大きさは8㎜程度。表面は厚くて柔らかく、弾力がある。表面には大きさ1㎜程度のかぎ状の刺がある。

・メナモミ属（*Siegesbeckia*）　キク科

果実が検出された。黒色。大きさは2.5㎜程度。楕円錐形で先端部が曲がる。基部にはおおきな楕円形の「へそ」が存在する。縦軸方向に平行に多数の溝がみられる。

6）微細遺物分析

結果を第9表に示す。なお、表中で不明と表記したものは、同定不可能な植物遺体の小片である。ＳＢ10の試料番号4では、種実遺体15種類、材片、不明、昆虫破片、菌核が検出された。ＢＴ７Ｐ１では、種実遺体3種類、材片、不明、菌核が僅かに検出される程度であり、分析残渣が少ない。ＳＫ27でも分析残渣が極めて少なく、種実遺体4種類、昆虫破片が検出された程度である。なお、これらの遺構で検出される材片は極めて小さく、同定には至らない。以下に、検出された種実遺体の形態的特長を記す。

第9表　微細遺物同定結果

	SB10 4	BT7 P1	SK27
分析重量(g)	312	320	307
種類名			
オモダカ科	-	1	-
イネ	1	-	-
ホタルイ属	-	-	3
スゲ属	13	-	7
タデ属	24	7	2
イボクサ	2	-	-
アカザ科-ヒユ科	18	2	1
ナデシコ科	5	-	-
タガラシ	1	-	-
キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属	32	-	-
カタバミ属	3	-	-
オトギリソウ属	4	-	-
ヒメビシ	破	-	-
シソ属	1	-	-
イヌコウジュ属	9	-	-
ナス科	5	-	-
メナモミ属	7	-	-
不明	23	5	-
材	破	破	-
昆虫	破	-	1
菌核	32	3	-

・オモダカ科（Alismataceae sp.）

種子が検出された。U字形で大きさは2㎜程度。淡褐色でわらかい。表面はざらつく。

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさ4㎜程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が欠けたように

見える。表面には数本の筋がみられる。

・ホタルイ属（*Scirpus*）　カヤツリグサ科

果実が検出された。黒色。堅く光沢がある。大きさは2㎜程度。偏平で背面が高く稜になっている。腹面は平らである。片凸レンズ状の広倒卵形。先端部はとがり、基部はせばまって「へそ」がある。表面には細かい凹凸があり、横軸方向に平行な横しわがあるように見える。数本の針状の花被がみられ、先端には逆刺がある。

・スゲ属（*Carex*）　カヤツリグサ科

果実が検出された。大きさは3㎜程度。褐色、3稜形で、先端部は細くなる。表面は薄くて柔らかく、弾力がある。

・タデ属（*Polygonum*）

果実が検出された。大きさは2㎜程度。3稜形で表面は薄くて堅く、ざらつく。

・イボクサ（*Aneilema Keisak* Hassk.）　ツユクサ科イボクサ属

種子が検出された。灰色、不定形で、大きさは1㎜程度。種皮はやや柔らかい。くぼんだ発芽孔が存在し、その側面には一文字のくぼみがあり、それに直行するしわ模様が存在する。表面には円形の小孔が多数存在する。

・アカザ科－ヒユ科（Chenopodiaceae - Amaranthaceae）

種子が検出された。黒色。側面観は円形で、上面観は凸レンズ形を呈している。大きさは1㎜程度。側面に「へそ」がある。表面は細胞が亀甲状に配列している構造がみられる。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）

種子が検出された。黒色で、大きさは1㎜程度。表面には荒い突起が密に配列している。

・タガラシ（*Ranunculus sceleratus* L.）

種子が検出された。円盤状で大きさは1㎜程度。淡褐色で中央部のみやや色が濃い。表面は柔らかくて弾力がある。

・キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属（*Potentilla-Duchesnea-Fragaria*）バラ科

種子が検出された。褐色。大きさは、2㎜程度。半月形で、一端に「へそ」が存在する。表面全体はすじ状の模様があるが、不鮮明である。

・カタバミ属（*Oxalis*）　カタバミ科

種子の破片が検出された。黒色、楕円形で大きさは約1.5㎜。表面には横軸方向に平行に溝が数本走っている。

・オトギリソウ属（*Hypericum*）　オトギリソウ科

種子が検出された。長楕円形で大きさは1㎜程度。種皮は黒色で薄く、柔らかい。表面は亀甲状の模様がある。

・ヒメビシ（*Trapa incisa* Sieb. et Zuee.）ヒシ科ヒシ属

果実が検出された。大きさは、棘の端から端までが2㎝程度。逆三角形で、4棘がある。棘の先端には、逆棘がみられる。果皮は比較的薄くて堅く、やや光沢がある。全体的に小さくて、本体と比較して棘が長く、かつ4棘があることからヒメビシとした。

・シソ属（*Perilla*）シソ科

果実が検出された。黒褐色。大きさは2㎜程度。いびつな球形で、先端に「へそ」が見られる。表面全体には、荒い亀甲状の網目模様がある。

・イヌコウジュ属（*Mosla*）　シソ科

果実が検出された。褐色。大きさは1.5㎜程度。いびつな球形で、先端に「へそ」が見られる。表面全体には、荒い亀甲状の網目模様がある。

・ナス科（Solanaceae）

種子が検出された。腎臓形で、側面のくびれた部分に「へそ」があり、表面には「へそ」を中心として同心円状に網目模様が発達する。大きさは1㎜程度。褐色。表面は柔らかい。網目模様はやや細かく、畝は波うっている。

・メナモミ属（*Siegesbeckia*）キク科

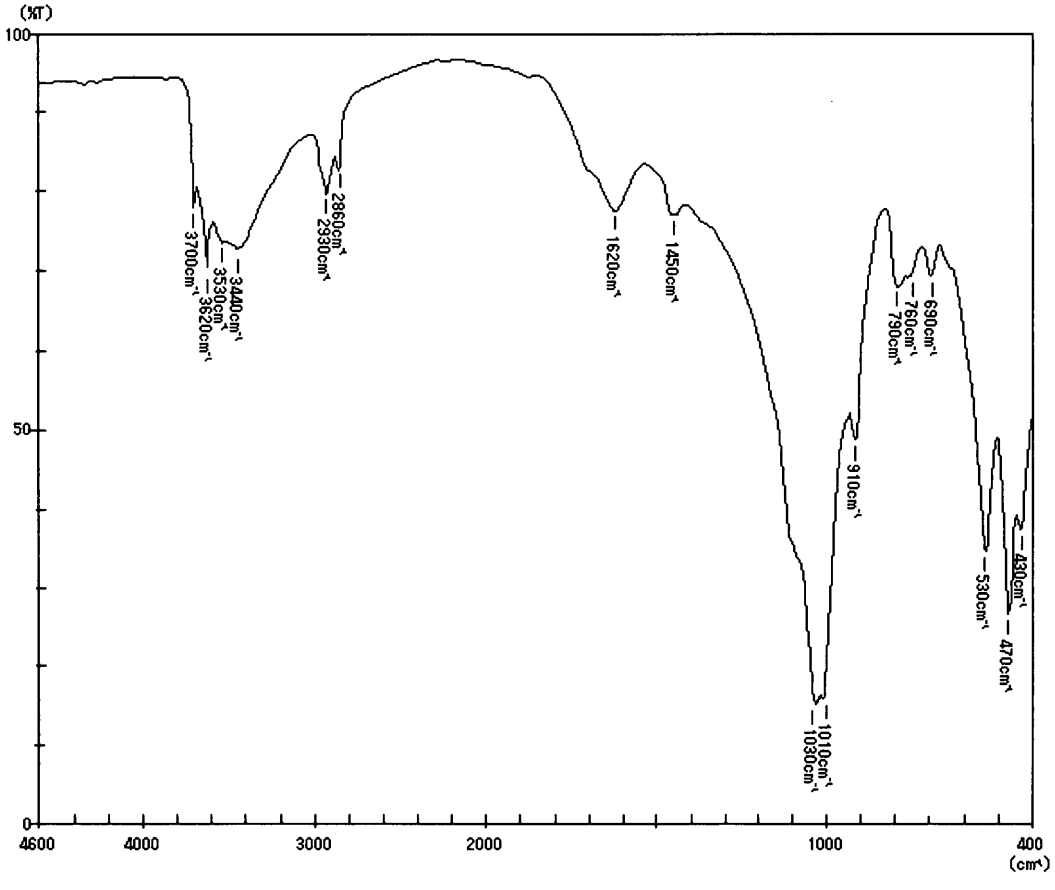
果実が検出された。黒色。大きさは2.5㎜程度。楕円錐形で先端部が曲がる。基部にはおおきな楕円形の「へそ」が存在する。縦軸方向に平行に多数の溝がみられる。

7）灰像分析

繊維中には、特徴的な形態を有する植物珪酸体は全く認められない。そのため、種類を特定するには至らない。

8）赤外分光分析

赤外線吸収スペクトル図を挿図92に示す。主な吸収帯は2930、2860、1620、1030、1010cm^{-1}付近に見られる強い吸収帯のほか、3700、3620、3530、3440、1450、910、790、760、690、530、470、430cm^{-1}の吸収帯である。各吸収帯から推定される官能基は、2930cm^{-1}および2860cm^{-1}付近の吸収帯がメチル基あ



挿図92　須恵器内部付着物のＩＲスペクトル

るいはメチレン基のC-H伸縮振動、1620cm^{-1}付近の吸収帯がC=OあるいはC=C伸縮振動、1030cm^{-1}および1010cm^{-1}付近の吸収帯がSi-O、Al-O伸縮振動によるものと推定される。また、3700、3620、3530、3440cm^{-1}付近の吸収帯がアルコールあるいはフェノールによるO-H伸縮振動および水分子（H-OH）による吸収振動、1450cm^{-1}付近の吸収帯がメチル基、メチレン基の対称変角振動、690～910cm^{-1}付近の吸収帯がC-H面外変角振動と推定される。なお、これら以外の弱い吸収帯は、上記の強い吸収帯に帰属する官能基に由来する吸収によるものと考えられる。

(4)考察

1）堆積環境の変遷

珪藻化石群集は、XⅣ層～XⅡ層（試料番号26・24・22）、X層（試料番号18）、Ⅸ層・Ⅷ層（試料番号16・14）、Ⅶ層・Ⅵ層（試料番号11・10）の4つに区分される。

XⅣ層～XⅡ層では陸生珪藻A群が多産し、流水性種や流水不定性種など水生珪藻を僅かに伴う。堀内（1996）ほかによると、氾濫堆積後の乾いた表層あるいは地表として露出していた時期の堆積物で陸生珪藻が多産し、流水性種などの水生珪藻が稀産する群集組成が得られることが報告されている。また、現生の陸生珪藻の分布調査結果によれば、陸生珪藻の全体に占める割合が70～80%以上であれば、水成堆積でなく、陸上の好気的環境で堆積したことが知られている（伊藤・堀内　1991）。本層準における陸生珪藻の産出率も、80%以上を示す。遺跡の立地条件も含めて考えると、本層準は、基本的に氾濫性堆積物によって構成されており、堆積後かなり乾いた状態であったと考えられる。

X層になると、陸生珪藻A群が著しく減少し、陸生珪藻B群で好汚濁性種が多産する。また、水生珪藻の出現率も増加する。このことから、本層が堆積した頃になると、調査地点の周辺は、表層がしばしば乾くこともある、やや湿潤で有機的に汚濁した水域環境となったと考えられる。

Ⅸ・Ⅷ層になると、再び陸生珪藻A群が増加し、陸生珪藻の出現率も約80%前後となる。また、水生珪藻も同様に検出される。このことから、付近は氾濫の影響を受けて、堆積後に比較的乾いた状態になったと推定される。

Ⅶ・Ⅵ層では、陸生珪藻A群が10%以下とほとんど検出されなくなる。本層準ではX層と同様に、陸生珪藻B群で好汚濁性種が多産し、また水生珪藻の出現率が増加する。このことから、周辺は再び表層がしばしば乾くこともある、やや湿潤で有機的に汚濁した水域環境であったと考えられる。

このように、本遺跡の周辺は、基本的に河川の氾濫の影響を受けて一過性の堆積物が堆積し、比較的乾いた状態であったと考えられる。花粉化石が検出されなかった背景には、このような堆積環境と関連しているとみられる。すなわち、花粉化石は、好気的な環境下であったため、土壌微生物の影響や酸化によって分解・消失したのであろう。ただし、有機汚濁の進んだ湿潤な状態となっていた時期とも考えられる。有機汚濁が進んだ状態の存在は、後述するように周辺で稲作が行われていたことを考えると、施肥の使用など人間の影響に大きく関与していると想像される。

2）周辺の土地利用状況と周辺植生

XⅣ層～Ⅵ層では、イネ属の短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体が検出されており、上位に向かい増加する。現在の水田耕土におけるイネ属珪酸体の出現率としては、近藤（1988）の調査がある。これによると、稲藁堆肥連用（8年間、500kg／10a／年）の水田土壌表層では、イネ属機動細胞珪酸体の出現率

が16%を示すとされている（近藤　1988)。今回の分析調査結果の場合、XⅢ層より上位では、イネ属機動細胞珪酸体の出現率が30%前後、あるいはそれ以上である。また、竪穴覆土からも炭化したイネの種実遺体が検出された。以上のことから、XⅡ層堆積後、周辺では氾濫堆積物を利用した稲作が行われていたと考えられる。

この他に検出されるタケ亜科、ヨシ属、ススキ属・コブナグサ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などの珪酸体は、堆積物とともに周辺から流れ込んできたものも含まれていると考えられ、集水域の周辺にこれらの母植物が生育していたのであろう。この内、タケ亜科は微高地上などの比較的乾いた場所に生育することが多く、またヨシ属は大型の水生植物で湿潤な場所を好んで生育する。このように、イネ科植物も当時の環境に応じて棲み分けていたと考えられる。

また、XⅣ層より上位では、畑作植物とされるソバ属花粉も検出されている。また、竪穴覆土からは、コムギ、シソ属、メロン類、ヒョウタン類など栽培種を含む分類群が検出されており、これらの種類が周辺で栽培されていたと考えられる。すなわち、周辺には、稲作地だけでなく、畑作地などが広がっていたことが示唆される。このように当時、本遺跡付近は、居住域だけでなく、生産域も併せ持つものであったと推定される。

ところで、Ⅵ層・Ⅶ層ではマツ属花粉化石が多産し、これに次いでツガ属・コナラ亜属・ツツジ科などが検出される。後背山地などは、これらの種類から構成される植生が存在していたと考えられる。この内、マツ属は極端な陽樹であり、二次林を構成する代表的な種類である。また、コナラ亜属やツツジ科などは、二次林を構成する種類を含む分類群でもある。下伊那地方で実施された花粉分析でも、ツガ属などの温帯性針葉樹が次第に減少し、マツ属複維管束亜属を中心とした二次林が成立していたことが推定されている（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社　1993. 1995)。したがって、Ⅷ層堆積期以降、周辺植生は人間活動の影響を受けており、マツ属を中心とした植生であったと考えられる。

3）遺構覆土の検討

今回、ＳＢ10覆土、貯蔵穴であるＢＴ７Ｐ１の最下層、貯蔵穴ないし井戸と推定されているＳＫ27の底上層について土壌の洗い出しを行った。この他、発掘調査時にも各遺構から種実遺体等が採取されている。そこで、ここでは遺構覆土から得られたものから、遺構の用途や埋積に関して検討する。

遺構覆土から検出された種実をみると、木本類では有用植物が、草本類では水生植物と栽培植物が多い傾向にある。木本類の種実をみると、山地に安定した森林を構成するような種類はなく、人里近くの林縁部や河畔など明るい林地に生育するものがほとんどである。検出された木本類は、栽培植物を除けば、いずれも遺跡周辺に生育していたものに由来すると思われる。これらのうち、カヤ、オニグルミ、クリ、アケビ属、サクラ属、サンショウ、トチノキ、ブドウ属は可食植物であることから、採取による利用が考えられる。

草本類をみると、スゲ属、カナムグラ、ギシギシ属、タデ属、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、オナモミ属、メナモミ属など、人里近くなど開けた空間に草地を作る種類であることから、遺跡周辺に生育していたものに由来すると考えられる。また、ホタルイ属、ツリフネソウ、ヒメビシ、セリ科、アサザは、水生植物や水生植物の種類を多くふくむ分類群である。このことから、遺構が廃絶し、埋積する時期になると、遺跡周辺は湿地的な堆積環境になっていたことが考えられる。

検出された種類のうち、ウメ、スモモ、モモ、カキ、イネ、コムギ、メロン類、ヒョウタン類は栽培

種であり、当時周辺で栽培・利用されたと考えられる。なお、古墳時代以降になると全国各地で栽培植物の種類数や出土地点が多くなるが、これらはその中でも出土例が多い種類である（南木　1992など）。

ＳＫ27覆土の洗い出しでは、分析残渣がほとんど残らず、種実遺体が４種類（ホタルイ属・スゲ属・タデ属・アカザ科－ヒユ科）、昆虫遺体が僅かに検出された程度である。僅かに検出された種実遺体の種類構成をみると、人里付近に生育する種類や湿地に生育する種類である。これらは、遺構埋積時に取り込まれたものと考えられる。発掘調査時に採取された種実遺体でオニグルミ・モモが出土していることから、埋積時に少なからず人の影響があったと思われるが、基本的に周辺の土壌が流れ込んで埋積したと考えられる。

ＢＴ７Ｐ１覆土の洗い出しでは、種実遺体３種類（オモダカ科・タデ属・アカザ科－ヒユ科）、材片、不明、菌核が僅かに検出される程度である。しかし、発掘調査時に同遺構からは、クリ・ヒョウタン類が多く検出され、他にオニグルミ・モモなど可食植物が出土しており、産状に偏りが見られる。また貯蔵穴とされる土坑でも、クリが多量に検出されている。同定試料はいずれも破片であったが、検出当初はほとんど完形であり、取り上げ時あるいは水洗洗浄中に破損したものとみられる。当時貯蔵あるいは加工処理中のものがそのまま放置され、埋蔵されたものであろう。

ＳＢ10覆土では、種実遺体が多く、この他に材片、昆虫片、菌核が検出された。検出された種実はいずれも草本類であり、スゲ属、ホタルイ属、イボクサ、タガラシ、オトギリソウ属、ヒメビシなど水生植物ならびに水生植物を多くふくむ分類群が多産する。これらの中には、水深が浅く富栄養な沼沢に生育する種類が多い。その他に検出される種類は、いずれも人里など開けた場所に草地を作る種類である。おそらく、検出された種実は、遺構が廃絶されたあと、埋積の過程で流入したものかも知れない。水生植物の検出、人里植物の多産、イネの検出という要素から考えると、水田が想定される。おそらく、流路変化などにより、水田などの堆積物が本遺跡に流入してきた可能性がある。

以上、住居跡や貯蔵穴から出土した種実の傾向からみると、次のことが言える。住居跡から検出された種実の傾向は、ほぼ類似しており、木本類では有用植物が、草本類では人里植物・水生植物が多く、栽培植物も多く検出される。定量的に種実同定を行ったＳＢ10では、全て草本類であることから、覆土中に含まれる割合としては、草本類が非常に多いことになる。有用植物や栽培植物の種実は、遺構が廃絶後に残渣を破棄したものか氾濫堆積物中に含まれていたものと考えられるが、草本類の一部に関しては埋積時に混入したものも含まれている可能性がある。その組成からみると田畑の雑草になるものが多く、特に水田雑草が顕著にみられる。このことから、各遺構の廃絶時以降、周囲が水田として利用された可能性がある。

4）用材

用途が明らかになっている製品では、鍬、網枠、槽、下駄、弓、栓、桙、木製短甲、柱根などがある。このうち、鍬はクヌギ節、網枠はモミ属が利用され、用途によって特定の樹種が選択されていた様子がうかがえる。

鍬については、これまでにも多くの地域で樹種同定が行われており、アカガシ亜属が多く利用されていたことが明らかとなっている（島地・伊東　1988）。長野県内では、石川条里遺跡で樹種同定が行われており、クヌギ節やコナラ節が多い結果が得られている（能城・鈴木　1997）。また、群馬県高崎市および前橋市周辺では、アカガシ亜属に混じってクヌギ節などが多く見られる（鈴木・能城　1982.

1986)。これらの結果と、クヌギ節の木材がアカガシ亜属の木材と材質が似ていること等から、アカガシ亜属の入手が困難な地域では、その代用としてクヌギ節が利用されていたことが推定されている（山田　1986、高橋　1996)。本地域についても、アカガシ亜属の木材が１点も認められていないことから、同様の可能性が指摘できる。

槽や栓については、これまでの調査でもスギが比較的多く利用されており、今回の結果とも一致する。モミ属は、スギの代用として利用されたことが推定される。また、柱根も、２点ともスギであった。スギは、木理が通直で樹幹も真っ直ぐのび、耐水性や強度にも優れている。これらの材質を考慮して、柱材等に利用されたことが推定される。

木製短甲については、調査例が少ないが、熊本県柳町遺跡ではトネリコ属やクスノキ科が確認されており（大迫　1996、パリノ・サーヴェイ株式会社　1996)、一般に丈夫な木材を利用したものと考えられる。しかし、今回確認されたスギは、軽軟な材質を有しているため、これまでの傾向とは異なる。活動性などを重視した用材が行われた可能性もあるが、詳細は不明である。

弓はツルウメモドキであった。弓の材としては、イチイ・イヌガヤ・カヤなどの針葉樹材や、ニシキギ属（マユミ等）などの広葉樹材が多く利用されている（島地・伊東　1988)。いずれも木目が細かく、強度が高い種類が多い。これは、弓の利用時の強度等を考慮した用材と考えられる。今回確認されたツルウメモドキは、材質を考慮すると弓の材としては適当ではない。そのため、本製品については、弓以外の用途も考えられる。

5）繊維状物質の素材

ＳＫ18の土坑下部から出土した繊維状物質では、特定の植物珪酸体を含まない。しかし、観察する限り、草本類の植物体に類似する。したがって、本繊維物質は、イネ科以外の草本類と思われるものの、その種類を同定するに至らない。この植物体の混入した要因について現段階では不明であり、土坑の発掘調査所見も含めて検討する必要がある。

6）須恵器内部付着物の素材

試料の出所が既知の物質について、同一測定条件で赤外線吸収スペクトルを測定した例がいくつかあるが（パリノ・サーヴェイ株式会社　未公表)、遺跡で検出される黒色物質の代表として漆、天然アスファルト、松脂、動植物油、炭化物などが調査例としてあげられる。これらは、いずれも固有の赤外吸収スペクトルの吸収帯があり、漆では3480、2930、1710、1610、1440cm^{-1}、天然アスファルトでは2900、1600、1460、1380cm^{-1}と脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帯に特徴がある。また、松脂は1700cm^{-1}、動植物油は1740cm^{-1}、穀物等の炭化物は1140～1160cm^{-1}に特徴ある吸収帯がある。

今回の黒色付着物に関しては、2930、2860、1620、1450cm^{-1}付近等に有機物に由来する吸収振動が認められ、付着物中に何らかの有機物が存在していることが明らかであるが、付着物全体では珪酸塩に基づく吸収が強く現れており、純度が極めて悪いことから黒色付着物中の有機物の素材を判定するには至らない。なお、付着物中の珪酸塩はＸ線回折分析から、大半が石英（quartz）であることが判明し、付着物中に相当量含まれることが予想された。

第２節　放射性炭素年代測定

はじめに

本節では、遺構などの年代観に関する資料を得るために、古墳時代の遺構や遺物包含層から出土した木材試料について、放射性炭素測定を実施したので、その結果を報告する。

(1)試料

放射性炭素年代測定を実施した試料は、古墳時代の遺物包含層から検出された立木１～３、ＢＸ16Ｐ２およびＢＸ17Ｐ２から出土した柱根とみられる木材、ＳＫ22貯蔵穴から出土したクリの種皮の５点である。試料の一覧は、結果とともに第10表に示す。

(2)分析方法

試料を水でよく洗浄して、表面の異物を取り除く。乾燥、粉砕後、水酸化ナトリウム溶液を加えて煮沸する。煮沸後の水酸化ナトリウム溶液は、傾斜法で除去する。この水酸化ナトリウムの処理は、除去した水酸化ナトリウム溶液の色が薄い褐色になるまで繰返す。次に塩酸を加えて煮沸し、塩酸を水で充分洗い流す。この試料を乾燥後、蒸し焼き（無酸素状態で400℃に加熱）にする。蒸し焼きにした試料は純酸素中で燃焼させて二酸化炭素とし、アンモニア水に捕集した。これに塩化カルシウムを反応させ、純粋な炭酸カルシウムを回収する。ただし、試料が少量（試料表中で試料少量と記載がある試料）の場合は、水酸化ナトリウム溶液による処理を省略する。

前処理で得られた炭酸カルシウムから真空状態で二酸化炭素、アセチレン、ベンゼンの順に合成する。最終的に得られた合成ベンゼン５ml（足りない場合は、市販の特級ベンゼンを足して５mlとした）にシンチレイター（0.075ｇ）加えたものを測定試料とする。

測定は、１回の測定時間50分間を繰り返し行う。得られたベンゼン量が少ない試料があったので、長時間測定（測定時間合計が1500分以上）を行った。また、未知試料の他に、値が知られているスタンダード試料と自然計数を測定するブランク試料を、一緒に測定する。なお、射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用する。

(3)結果および考察

結果を第10表に示す。立木２およびＢＸ16Ｐ２（柱根）では、MODERN が得られた。参考値であるが、

第10表　放射性炭素年代測定結果

試料名	種別	種類	状態	年代値 yr BP	誤差 yr +σ	誤差 yr -σ	Lab-No.
立木１	木材	未同定	少量	1560	130	130	PAL-863
立木２	木材	未同定	極少量	MODERN(490)	(450)	(430)	PAL-864
立木３	木材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	多湿	1680	100	100	PAL-865
BX16P2（柱根）	木材	スギ	多湿	MODERN(560)	(510)	(480)	PAL-866
BX17P2（柱根）	木材	スギ	多湿	1680	80	80	PAL-867
SK22　貯蔵穴	種皮	クリ	多量	1650	70	70	PAL-868

注１）年代値：1,950年を基点とした値。基点との差が誤差2σより小さい場合、
　　基点より小さいとしてMODERNと表示し、年代値を参考として（）内に記した。
注２）誤差：測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
注３）PAL：パリノ・サーヴェイ株式会社で測定。

2試料とも誤差範囲が大きい。これらの試料中には、炭素がほとんど含まれていず、そのために後代の影響が強く現れたと考えられる。これらを除く3試料は、1560〜1680 BPと約1650年前前後に測定値が集中する。したがって、これらの遺物が出土した堆積物の年代は古墳時代頃と考えられ、発掘調査の所見とほぼ調和的である。

第3節　昆虫遺体について

はじめに

古墳時代の古環境に関する情報をさらに得るために、遺構覆土から検出された昆虫遺体の種類を明らかにしたので、結果を報告する。

(1)試料

試料は、古墳時代の住居址（ＳＢ10)、および同時期の貯蔵穴ないし井戸と推定されているＳＫ27の覆土などから検出された、昆虫遺体18試料である。なお、試料の詳細は、結果とともに第12表に示す。

(2)分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察を行い、種類および部位の同定を行う。なお、同定は、元国立科学博物館の藤山家徳先生にお願いし、所見をいただいた。

(3)結果

結果を第11表・第12表に示す。18試料の中で3点は、種類不明であった。また、ＳＢ10のＢＲ4b区で検出されたものは植物遺体であったが、極めて微細なため種類の同定ができなかった。

検出された種類は、ガムシ科のコガムシ？・ガムシ・ガムシ類？、シデムシ科のオオヒラタシデムシ、コガネムシ科のマグソコガネ類？・ゴガネムシ類？、ハムシ科のガガブタネクイハムシ・ネクイハムシ類？・ハムシ類？、ゴミムシ科のヒラタゴミムシ類？・ゴミムシ・ゴモクムシ類？・ゴミムシ類、カメムシ類？であった。

表11　検出分類群の一覧

節足動物門　Arthropoda
　昆虫綱　Insecta
　　有翅昆虫亜綱　Pterygota
　　鞘翅目　Coleoptera
　　ガムシ科　Hydrophilidae
　　コガムシ？　*Hydrochara affinis* (Sharp)？
　　ガムシ　*Hydrophilus acuminatus* Motschulsky
　　ガムシ類？　Hydrophilidae gen. et sp. indet.
　　シデムシ科　Silphidae
　　オオヒラタシデムシ　*Eusilpha japonica* (Motschulsky)
　　コガネムシ科　Scarabaeidae
　　マグソコガネ類？　*Aphodius* sp.？
　　ゴガネムシ類？　Scarabaeidae gen. et sp. indet.
　　ハムシ科　Chrysomelidae
　　ガガブタネクイハムシ　*Donacia lenzi* Schonfeldt
　　ネクイハムシ類？　*Donacia* sp.？
　　ハムシ類？　Chrysomelidae gen. et sp. indet.？
　　ゴミムシ科　Carabidae
　　ヒラタゴミムシ類？ Harpalus sp.？
　　ゴミムシ　Anisodactylus signatus
　　ゴモクムシ類？　Harpalus sp.？
　　ゴミムシ類　Carabidae gen. et sp. indet.
　　異翅目　Heteroptera
　　カメムシ類？　Heteroptera fam. et gen. indet.

(4)考察

今回検出された種類をみると、材の中や樹皮下などに棲息する、あるいは切り出された木材に集まる甲虫類が全く検出されていない。カメムシ類、ゴミムシ類、コガネムシ類などは、人家周辺の畑地、原野、林地などに普通に見られる種類であり、特に特徴がある種類と言い難い。

表12　昆虫遺体同定結果

遺構名	グリット名	区名	層	分　類　群	部　位
SB10	BR4	b区		オオヒラタシデムシ（♀）	前胸背板,左右上翅,肢
SB10	BR4	b区		植物片	
SB10	BR5	a区		ヒラタゴミムシ類？	前胸背
				カメムシ類？	前胸背部？の一部
SB10	BS4	c区		ネクイハムシ類？	左上翅基方半分
				ガムシ類？	上翅の一部
SB10	BS4	d区		不明	上翅・前胸背の破片
SB10	BS5	a区		小型ゴミムシ類	左上翅
				ゴミムシ類	上翅
SB10	BS5	d区		ネクイハムシ類？	左上翅
SB10	BS5	d区		ネクイハムシ類？	左右上翅，後胸腹板
SB10	BS6	a区		ネクイハムシ類？	後胸腹板
SB10				不明	胸部腹板，上翅など
SB10				コガムシ	左上翅
SB10	BT7	a区		ハムシ類？	左上翅基方半分
SB10	BV7	b区		コガネムシ類？	上翅の一部
SB10	BV7	d区		カメムシ類？	前胸背板の一部
SK27				ゴミムシ類（ゴモクムシ類？）	左上翅半分
試料名なし				マグソコガネ類	前胸背
試料名なし				ガムシ	右上翅
試料名なし				不明	上翅の一部

オオヒラタシデムシは、動物の死骸や腐肉に集まる甲虫である。また、マグソコガネ類は牛馬などの獣糞に集まり、人家の汚物にあまり集まらない種類である。これらオオヒラタシデムシとマグソコガネ類の検出個体数が多ければ、そのような特殊な環境も想定できるが、いずれの種類も１個体である。これらの種類は、餌を求めて飛行中に落ちたことも考えられる。

個体数が特に多いわけでないが、複数の個体がみられたのは、ガムシ類とネクイハムシ類？である。発見された大型のガムシ類は池沼に棲息する昆虫類で、水と無関係な層準から産出することがあまり考えられない。さらにネクイハムシ類？は、池沼に生える水辺性の植物を住処とする種類で、ガガブタネクイハムシ（*Donacia lenzi* (Schonfeldt)）の可能性がある。この種は、現在、本州山地において、周辺に林のある池沼や開水面の狭い池に棲息するとされている。

第１節に述べたとおり、本遺構覆土からは、ホタルイ属、ツリフネソウ、ヒメビシ、セリ科、アサザなど水生植物や水生植物の種類を多く含む分類群が検出されている。これら種実遺体の産状と合わせると、本住居跡は、河川の増水あるいは河道の変更などによって廃絶し、しかもその後直ちに水がはけることなく、池沼的な状態が続いていたと考えられる。そのため、本遺跡は、居住域など生活空間として復旧することができなかった可能性がある。

貯蔵穴あるいは井戸が想定されるＳＫ27から検出された１点は、ゴミムシ類であった。この種類は、生息環境が幅広く、どこにでも棲息する分類群である。おそらく遺構が埋積する際に、周辺の土壌とともに流れ込んだと推定される。また、同遺構から検出された種実遺体でも、周辺の土壌とともに埋積したと考えられた。したがって、本遺構の用途や性格について、今回の昆虫遺体や種実遺体の産状からは、直接言及することができなかった。むしろこれらは、古墳時代の集落が水の影響で廃絶する際、あるいはその後水域が滞留していた時点での環境を反映している可能性がある。

第Ⅶ章　総　括

今次調査では遺跡の広範な部分に調査が及んでいるため、居住・貯蔵・生産といった空間利用の姿がわかり、集落景観も復元できるものと期待される。時代毎に概括し、さらに調査の課題等を整理しつつ総括としたい。

1．各期の遺構変遷について

(1)縄文・弥生時代

具体的に該期の遺構は確認されていないものの、後期前葉の土器片が調査区南東側の低地付近から出土している。この時期には全国的に低地に生活・生業活動の場を移す傾向があり、こうした動向を示すものかもしれない。本遺跡周辺に人々が生活の場を設けたのは、おそらく縄文時代後期に遡る可能性が考えられる。

今次調査区内ではＡＢ～ＡＭ・09～17付近やＢＯ～ＢＸ・06～19付近で弥生時代後期の遺物が出土しており、他時期の遺構に壊された該期の遺構があった可能性が高い。これまでに弥生時代中期には下流の殿村遺跡・井戸下遺跡で集落が営まれ、また竜丘地区開善寺境内遺跡や久保田遺跡で後期の集落の一画が調査されており、そうした可能性を強く示唆するものといえる。

(2)古墳時代

具体的に人々の足跡が確認されるのは古墳時代中期からで、調査された竪穴住居址の数は他の時代を圧倒している。相沢川右岸に形成された自然堤防上および低位段丘の縁辺部に住居址は占地しており、竪穴としたものを加えても、こうした傾向は変わらない。該期と考えられる掘立柱建物址は住居址より低地側に立地している。その分布は柱材が遺存していた柱穴群と重なる。柱材遺存の柱穴ＢＸ17Ｐ２の年代測定結果は第Ⅵ章のとおり1,680±80年ＢＰで古墳時代中期といえ、１点のみの測定結果ではあるものの、低湿地際に遺存していた柱材は該期のものが多いと考えられる。ＳＢ44以東の低地にも竪穴住居址が拡がること、また、調査地北西の相沢川上流側未調査部分になお多くの住居があることは確実な状況であり、相当大規模な集落であったことが窺える。湾状に入り込んだ低湿地を取り囲んで居住域が広がっており、この低湿地、すなわちＳＢ10やＳＸ06の南側に生産域が展開していたことが考えられる。

続く古墳時代後期には、竪穴住居址の数は減ずるものの、占地傾向に変化はない。一方掘立柱建物址は前代と数はそう変化していないが、高い部分に分布を移している。調査が居住域の外縁部分にとどまる今次の調査結果では明らかにし得ないものの、あるいは農具が鉄器化して可耕地が拡大するという農業経営形態の変化に連動して、集落がより高所に移動することを反映しているかもしれない。

今次調査結果から具体的に関連を明らかにはできないものの、本遺跡の西側には無袖の横穴式石室をもつ御射山原３号（下辻）古墳があり、他に御射山原１・２号古墳、下辻垣外古墳・辻垣外１・２号古墳といった古墳が知られている。さらに、北東側約300ｍには本遺跡とほぼ同時期の久保田１号古墳があり、地理的関係からこれらの古墳との密接な関係が考えられる。

(3)奈良～平安時代

この時期の遺構は前代から激減する。あるいは掘立柱建物址が集落の主要構成要素である時期があるかもしれないが、集落の規模は極端に縮小する。これは前代に指摘された、耕地の拡大に対応するものと考えられる。

(4)中・近世

今次調査区の北東側では古墳～平安時代の遺構の上部に、洪水に伴う砂礫層が確認されており、古代末ないし中世にはかなり大規模な相沢川の押し出しがあったと考えられる。相沢川右岸縁では2面の水田面（上層－ＳＸ03、下層－ＳＸ01・ＳＸ02）が調査されており、両者の間には間層として洪水起源の砂礫層がある。下位の水田ＳＸ01・ＳＸ02はこの砂礫層上に乗っており、詳細時期は不明であるものの、中世以降に位置づけられる。また、上層の水田面は、近世の土葬墓ＳＫ01に切られることから、近世以前に位置づけられる。古代末以降、相沢川の大きな氾濫を何度か被りながら連綿と水田耕作が行なわれ、生活の拠点はもう少し高台に移していったと考えられる。

近世には、上述の土葬墓ＳＫ01の他、調査区南端部のＳＫ11付近から煙管が出土しており、土葬墓があった可能性が指摘できる。前代から引き続き水田が営まれ、その中に墓所が点在していたと考えられる。

2．木製品について

今次調査では、ＳＢ10を中心に多量の木製品が出土した。特徴的な部分について概観したい。

(1)農具について

出土した農具類は、破損品や未成品が多く、ナスビ形曲柄又鍬以外の製品はほとんどない。製品が鉄刃装着のナスビ形曲柄又鍬に限られる点は、希少・貴重な鉄刃装着農具が集落内に持ち帰られていたことを示し、他の農具類は生産域に保管されていたためと考えられる。

次に製品・未成品の組み合わせについてみると、直柄横鍬・泥除と曲柄又鍬がセットになっており、近畿地方の影響が強いことがわかる。農具類の年代観については、又鍬への鉄刃装着が5世紀中頃以降に各地でみられることから、5世紀後半が当てられ、遺構の年代観と調和的といえる。

当地方の農具についてはこれまで出土例が少なく、樋上昇（1994）が4世紀代の農具について、近畿系のナスビ形曲柄鍬と東海系の非ナスビ形の対立があり、「東海系曲柄鍬は尾張を基点として、のちの東山道ルートを通じて長野・群馬へと進み、北関東に広がる」とし、5世紀になると東海系が近畿系に転換すると述べている。今次調査で出土した農具類はこの後半の文脈を辿るものといえる。

次に、馬を用いた畜耕について考えてみる。馬鍬については、確実とはいえないものの、ＳＤ20から馬鍬の引棒かと考えられる部材が出土している。本遺跡に近接する後期の円墳と考えられる今洞5号古墳からは鉄製の馬鍬歯5本が出土している（下伊那誌編纂会　1955)。馬鍬は古墳時代中期の終わりないし6世紀前後に発掘例がある（日本考古学協会編　1991）といわれ、最近では、国内で最古の例として滋賀県能登川町石田遺跡で4世紀末ないし5世紀初の例（河野　2000）がある。また、農具の鉄器化と馬鍬の導入とはほぼ同時期である可能性も都出比呂志により指摘されており、5世紀中頃には馬鍬が導入されたと考えられる。

飯田下伊那地方では5世紀代に古墳への馬殉葬例が27例確認されており、平常時の畜耕利用も当然考えられるところである。こうした状況からみて、当地域でも5世紀後半か、遅くとも6世紀には馬鍬の使用が始まった可能性がある。

(2)祭祀具について

ＳＢ10を特徴づけるものとして、鳥形・船形祭祀具、木鏃・槍形・弓形といった武器形祭器、それに斎串・臼玉等の祭祀具がある。

鳥形は穀霊を運ぶものとされ、古墳時代以降には死者の霊を黄泉の国に運ぶ役割を担っている（阿部 1994）し、船形祭祀具についても同様なものとされている。弓には狩猟や戦闘といった実用的なものの他に、「農耕共同体の祭りの弓」や古墳に副葬される葬儀に係る弓があり、弓に「よりしろ神」としての機能があったことが指摘されている（戸田　1976)。また、金子裕之（1991）は除魔の弓について触れている。弓形にかぎらず、武器形祭器については、葬送儀礼あるいは水神鎮撫の儀礼用に用いられたとする見方（岩永　1994）や、農耕儀礼に伴う模擬戦を想定するむき(中村　1987)がある。きぬがさ状木製品については、古墳に備えられる蓋形埴輪や、三重県宝塚１号古墳の船形埴輪に立てられる蓋、それに古墳壁画にみられる船の蓋表現等、葬送儀礼に関わるものと考えられる。以上、ＳＢ10出土の祭祀具は主に農耕儀礼ないし葬送儀礼に関わるものということができる。

さらに、ＳＢ10の祭祀具の中には、斎串・臼玉・船形・鳥形がある。これらは、導水型の祭祀に関わると考えられており（長野県埋蔵文化財センター　1999)、須恵器甕もこうした祭祀に使用されたと考えられる。導水型の祭祀が行われた可能性が指摘できる。

ところで、ＳＢ10の存続期間を考慮するとき、律令時代の祭祀まで視野に入れる必要がある。すなわち、「斎串・人形・馬形といった木製祭祀具は大宝律令制定に伴って体系化された国家的祭祀(律令的祭祀)に関わるものであると判断されることが多い」(長野県埋蔵文化財センター　1999) とされているし、威儀具としてのきぬがさは律令で規定されるものである。楽器もまた娯楽ではなく祭祀に関わるといわれ（佐田　1980)、８世紀に出現するＢ型式の琴柱の存在からも律令的祭祀の匂いを嗅ぎ取ることができる。

なお、ＳＢ10からは炭化した木製品類が多く出土している。一般に祭祀において火が重要な役割を演じることが多く、炭化した木製品類についても祭祀の場で使用されたものということができよう。

以上のとおり、ＳＢ10の周辺では具体的に特定はできないものの、幾たびもさまざまな形の祭祀が執り行われていたことが考えられる。

(3) 集落内における木材利用の姿

農具類の用材はいずれもクヌギ類であり、農具の器種偏在傾向や出土量を考慮しても、東日本の農具に一般的な用材選択といえる。ただ、先に指摘したような近畿系の農具の組合せがみられることから、群馬県新保遺跡のようにクヌギ類の他カシ製の農具が一定割合で含まれる（山田　1993）ことが予想されたが、案に相違している。一方、農具は未成品や製品の破損品ばかりで非加工材はみられない。このことから集落外で一次的な加工が行われていたこと、あるいは他地域産の製品・未成品が流通していたことが考えられる。

今次調査では主に一部の製品類について樹種同定を行い、他は予算上の制約から肉眼による鑑定を実施した程度であり、本遺跡における木材利用まで考えることは妥当ではない。ただ、鑑定結果では、本遺跡出土木製品の多くはスギ・サワラ・ヒノキ・ツガ・モミ等の針葉樹が主体となっている。肉眼鑑定には限界があるが、針葉樹・広葉樹の別はまず動かないところであろう。また、遺存した柱材についてはスギという分析結果が得られており、山田昌久が指摘するように、スギ・ヒノキを利用した長物大型材→大径材の刳物容器使用→端材の祭祀具使用という消費形（山田　同前）を想定できる地域といえる。なお、スギ製の武器形・鳥形等を組み合わせることには、軽さにメリットが求められた可能性（山田 2002）が指摘されている。その意味あいで、木製短甲？とした遺物もあるいは評価することが可能かもしれない。

3．ＳＢ10の性格について

ＳＢ10は辻前遺跡の集落が継続していた期間中機能しており、その意味では本遺跡の中心的な遺構という言い方ができるかもしれない。

ＳＢ10は付属施設や埋没状況、出土遺物、それに自然科学的分析結果から、小規模な溜め池であったと考えられる。生産域の最上部に位置するという点からみて灌漑のための施設であり、乾田経営と農具の鉄器化に対応して造られた施設ということができる。こうした農業用水確保という本来的な機能の他に、幾つかの性格が考えられる。

まず、木製品等の貯蔵の機能である。農具の未成品が存在しなおかつ農具製作時の削り屑がみられないこと、また、転用加工された建築部材が多いことは、本址が貯蔵的な機能を有していたことを示す。木製品の貯蔵として、弥生時代前期には１辺３ｍ前後の貯蔵穴に貯えられていたものが、中期以降井戸が埋まった段階の水溜り状の部分や環濠等が利用されるようになるという（橿原考古学研究所附属博物館　1987)。同様に、湛水状態にあったＳＢ10の場合も副次的に貯蔵に利用されたと考えられる。

２つめは廃棄の場としての機能である。ＳＢ10では農具類にナスビ形曲柄又鍬を除き破損品が多くかつ柄が少ないこと、容器類等に破損品が多数あること、建築部材等に炭化した材が多く見出せること、加工時の削り屑が多く出土しているといった特徴が挙げられる。また、木製品のうち圧倒的に多いのは、板材・残材等である。破損品・炭化した材や残材・削り屑が多いことは廃棄の場であることを端的に示している。

３つめは祭祀の場としての機能である。ＳＢ10は湧水点付近に立地することから、当初は主に自噴水を利用していた可能性があるが、ほぼ中央に位置するＳＤ30とは埋土の状況より同時期と考えられることから、ある時期からはＳＤ30から導水していたと考えられる。なお、ＳＸ01付近で出土した須恵器甕は礫間に破片が挟まった状態で出土しており、湧水祭祀に関わるものとも考えられる。

４つめは養魚施設としての機能である。根木修他（1992）は最初期の水田において水田遡上魚の営みが起こりえた可能性が高いことを指摘しており、動物性タンパクの確保という観点から溜め池が有効利用されていたことは想像に難くない。微細遺物の分析結果では裏づけられなかったものの、網枠の出土から魚類を飼育していた可能性が考えられる。網枠のサイズからみて、フナ等の他、コイのような大型魚が飼育されていたであろう。

ＳＢ10と同様、溜め池の機能が想定されるものとしてＳＸ06他があり、量的に少ないもののＳＸ06からも木製品が出土している。ＳＢ10が長方形を呈するのに対して、ＳＸ06他は不整円形を呈するまた、ＳＢ10が主に湧水によっていたのに対し、ＳＸ06は上流側にＳＤ12他の溝址があり、導水されていたと考えられるという相違点がある。しかし、面積でみると大きな差はないし、ともに居住域に隣接した生産域最上部に位置することから、同等の機能を有していたと考えられる。ＳＸ06は洪水起源の砂で埋まった後、水田として利用されていく。ＳＸ06の年代観ははっきりしないが、上部のＳＸ04出土の下駄（第80図５）は第84図３と同様『木器集成図録　近畿古代篇』のＢＩｃ式にあたると考えられ、とすれば６～７世紀代に位置づけられる。また、ＳＢ10と近接していることから、ＳＢ10と近接した時期が考えられる。同時期に生産域最上部に溜め池状の施設が点々と配置されたか、あるいはＳＸ06が洪水により廃絶して水田化されたことにより新たにＳＢ10が開削された可能性等が考えられる。本項冒頭に指摘した灌漑用の溜め池という機能からみて、おそらく前者の如き光景が広がっていたと考えるのが妥当といえる。

4．官衙・寺院関連資料について

ＳＢ03カマド脇・ＳＢ45・ＳＫ25・ＳＤ12・ＳＤ13から丸瓦が出土しており、また柱穴内部からの銅鋺出土がある。古瓦の存在から瓦葺建物の存在は確実で、官衙的な建物や寺院址の存在が考えられる。古瓦の出土をもって寺院址と即断するわけにはいかないが、柱穴内部に炭を充填した後埋納されたと考えられる銅鋺の出土状況や、銅鋺がもつ仏具としての性格から、寺院址の存在を推定できる。ただし、県内では寺院址と考えられる遺跡からの出土例はこれまでのところないとされている（原　1996)。

銅鋺は県下の事例では、古墳時代～奈良時代前半、平安時代の２時期のまとまりがあり、前者は古墳、後者は集落からの出土が多いとされる（原　同前)。本遺跡例は口唇部の肥厚が明瞭ではなく、断面三角形や折り返される県内の古墳時代～奈良時代前半例とは異なり、やや平安時代的である。しかし、全体のプロポーションは県内例をはじめ群馬・埼玉県の６世紀後半～７世紀代の例と類似しているし、外面に２本単位で沈線が施され、内面に沈線がみられない点も同様である。本遺跡の銅鋺は古墳時から奈良時代に位置づけることが妥当と考える。

銅鋺は長野県内では20の遺跡・古墳からの出土例があり(原他　1997)、市内では座光寺恒川遺跡群田中・倉垣外地籍の遺構外から１点出土、下伊那地方では松川町屋敷添古墳・高森町武陵地１号古墳から出土している。恒川遺跡群は古代伊那郡衙に比定され、国内最古の貨幣である富本銭や和同開珎銀銭が出土しているし、武陵地１号古墳でも富本銭が出土しており、この点からも銅鋺の出土は注目されるところである。

本遺跡の場合、前述のとおり西側には後期の円墳が築造されていて、古墳との関連も想定される。しかし、同時に、ＳＢ10出土の祭祀具の項でみたとおり律令的な祭祀との関わりも考えられ、銅鋺出土地点周辺にはＳＴ01・ＳＴ03のように棟方向を揃える掘立柱建物址をはじめ建物址・柵列が集中しており、官衙的な建物ないし寺院址の存在する可能性が高いと考えられる。さらに建物址群が調査区外北西側に延びることは確実で、今後周辺地域の解明に期待するところである。

5．貯蔵穴について

貯蔵穴は直径１ｍ前後の円形の穴で、底部にクリの皮がまとまって見つかっている。調査時には堅皮が潰れていないものが少なからずあり、取り上げの際に壊したものが多いことから、廃棄されたものではなく、貯蔵時のまま残された可能性が高いと考えられる。ＢＵ07Ｐ1で観察された上部に10～30cmの平板な礫が据えられた状況も、これを裏付けるといえる。

今次調査された収納方法には２通りがある。まず、クリを貯蔵穴内に納めた後、上部を板材等で覆う方法がある。ＳＫ12・ＳＫ17・ＳＫ22・ＳＫ23ではクリ堅皮の上部からは板材等が出土しており、この方法が一般的であったと考えられる。板材以外の植物質遺存体は確認されていないことから、他に被覆材はなかったと考えられる。第２の方法は、ＢＵ07Ｐ1で観察された上部に10～30cmの平板な礫が据えられ、重石がされるものである。時代を異にするが、岡山県南方前池遺跡ではドングリ・クリ・トチの上部に木や木の皮が被せられていたし、山口県岩田遺跡では上部を被覆する木の皮と木の皮の間に礫が据えられており、いずれもその上は粘土で覆われていた。南方前池遺跡は第１の方法、岩田遺跡は第１と第２の折衷方法と考えることができる。

これら貯蔵穴の位置についてみると、ＳＢ10と重複ないし近接しており、地下水位の高い部分に掘り込まれたということができる。この地下水位の高い部分に掘り込まれたものとして、廃棄土坑としたＳＫ18がある。ＳＫ18はクリ等が出土せず、残材や繊維状物質が見つかったことから廃棄土坑としたが、形態は貯蔵穴と類似しており、ＳＫ18も貯蔵穴であった可能性がある。とすれば、上述の第１の方法で

クリ等が貯蔵され、中身が取り出された後、上を覆っていた材や繊維状物質が坑内に投棄されたものであろう。

貯蔵穴の年代については、放射性炭素による年代測定で、集落の始期にあたる古墳時代中期という測定結果が得られている。貯蔵穴にはＳＢ10を切っているものがあり、ＳＢ10が古墳時代中期以降に位置づくものであるので、あるいは古墳時代後期以降のものもあるかもしれない。

貯蔵穴については、これまで主に縄文時代のものが知られ（渡辺　1975)、古墳時代以降のものは報告例が少なかった。山梨県下ではいずれも貯蔵穴と断定するまでには至らないが、平安時代コナラ属の種実が出土した土坑例がある。韮崎市宮ノ前遺跡（韮崎市遺跡調査会　1992）では10世紀代と考えられる第36号土坑では覆土上層から炭化したドングリ状の種実が多量に出土した。また、東八代郡一宮町西田町遺跡（西田町遺跡発掘調査団　1997）では、11世紀以降と考えられる62号土坑からコナラ属の炭化子葉破片が出土している。

一般的にクリは乾燥貯蔵されたり囲炉裏の上部に保存されたり、勝栗に加工されて保存される。しかし、縄文時代には秋田県から岡山県にかけての遺跡でクリが貯蔵されている（長瀬　1983)。

民俗例には土中に貯蔵する例がある。上伊那地方では、軒下の雨だれ落ちの所や縁側の下の乾いた土の中等に埋めて蓄え、これをツチツクリ（土栗）ないしイケツクリ（埋栗）と呼んだという（田中1980)。また、小布施では砂（松川の川砂が良いという）の中に埋めておき、半年ほど保存するという。

秋田県仙北郡中川村他では「拾った時水に入れた桶の中などに数日入れおき、取り出して乾かし、乾いた上に砂または杉の葉を刻んだ中に貯え」これを「砂栗」と呼んでいた。群馬県利根郡白沢村・片品村では、生のまま土中に埋め貯蔵した。岐阜県武儀郡下牧村や洲原村では生のまま土か砂の中に埋めて貯えた。滋賀県坂田郡神照村・大原村では砂中に埋めて保存。奈良県磯城郡初瀬村では穴へ入れた。岡山県川上郡平川村では「とめ栗」・「いけ栗」といって、土中に生のまま埋めておいて、冬になって掘り出した食べた。岡山県小田郡宇戸村でも土の中に埋めて貯蔵したという（成城大学民俗学研究所編1990)。また、民族文化映像研究所自主製作の記録映画『越後奥三面－山に生かされた日々－』には、新潟県岩船郡朝日村で箱にクリと砂を交互に入れ雨垂れの掛かるところに保存する様子が撮影されている。さらに、現在でも、塩水で虫を殺しておき、砂や湿ったおがくずに栗を入れて保存し、正月頃に生栗として使うということが行われている。

以上のように本州各地にクリを砂ないし土中に埋めて貯蔵する方法が点々と分布している。こうしたクリの貯蔵方法が連綿と行なわれてきたと考えられる。

クリの土中保存は、「粘土で密閉した貯蔵穴あるいは湿原は嫌気状態となるため、微生物の活動をおさえ、防腐の役割りも果す」(辻　1983）とされる。さらに、「土中に埋めておくと、栗の甘味が増すことが知られており、一種の加工法だった可能性もある」(永山　1998）という積極的な評価もある。

弥生時代の貯蔵穴について寺沢薫（1986）は「コメへの依存と期待が高まる地域こそ不時の事態への対応として積極的に貯蔵がされたのではないだろうか」と述べており、古墳時代以降もこうした安全装置として引き続き貯蔵穴が使われ続けた地域があったと考えられる。まさしく当地区はそうした地域の１つであったといえるだろう。

6．おわりに

以上のとおり、本遺跡では古墳時代中期、おそらく５世紀後半には集落としての姿を整え、近畿地方

の影響を受けた農具セットを使用して、灌漑施設を備えた乾田経営が行われたと考えられる。そしてそれほど時を経ずして馬鍬が導入されたことは疑いない。

久米川流域から天竜川両岸低地の遺跡を概観すると、古墳時代中期以前から集落が継続する遺跡と、弥生時代から古墳時代中期までの間に大きな断絶がある遺跡とがある。前者は井戸下遺跡・殿村遺跡・細新遺跡を、後者は本遺跡の他、留々女遺跡・久保田遺跡・開善寺境内遺跡を挙げることができる。こうした5世紀後半以降の集落が急増するという状況は飯田下伊那地域に共通するところであり、西山克己（2001）は「下伊那地域では、五世紀後半になり、大和朝廷が東国を視野に入れるための中継拠点として、また騎馬を中心とする馬の飼育や管理に適した場所として、重要拠点としての認識がされ」たことを指摘している。

こうした本遺跡の状況や、飯田下伊那地方の集落の動向は、同時期の近江における「渡来人が関わったであろう新技術の導入や大規模開発の進展と、耕作具の形態やセット関係の変化とがほぼ同時に生じ」、「この時期に人口の増加・治水整備・耕地の拡大・耕作具のセット関係の再構成・鉄製刃先を備えた耕作具の出現・農作業における畜力の導入などが一気に進展した」（滋賀県教育委員会他　1998）という状況と類似している。

なお、地区内の殿村遺跡からは平成12年度に行われた調査で船形埴輪・家形埴輪等が出土し話題となったが、これら埴輪の存在から窺われる古墳における祭式には近畿地方の影響が考えられるところである。馬飼育に関わる5世紀代の飯田下伊那地区の動向解明に全国的に注視される中、伊那谷最南端の前方後円墳が構築された当地区も重要な役割を果たした地域のひとつとして関心が集まるものといえる。

以上、やや予察的に述べたが、川路地区のそれぞれの集落の比較検討やこうした集落の動向解明、さらには、治水対策事業に係る各遺跡の報告が揃うこれからの課題といえる。

最後に、調査全体について記録に留めておかなければならないことがある。相沢川右岸縁では平成10年度に中世の水田址等が調査され、一部深さ2m程度重機で掘削したところ、その下位は砂の層が連続する状況が確認されたことから、水田面以下の調査は不要と判断した。しかし、11年度になって南側から調査を進めた結果、この水田面より1.5～2m下位に平安時代以前の遺構・遺物が確認された。調査期間・費用および調査体制の関係で、平成10年度調査の相沢川右岸縁部分での下層調査は断念せざるを得なかった。さらに県道大畑時又線以東についてもＪＲ飯田線や既存事業所等の関係で調査できなかったが、ＳＢやＳＴの検出状況からさらに東側まで竪穴住居や掘立柱建物が相沢川の自然堤防上に分布していたことは確実である。同様に、相沢川左岸の久保田遺跡についても、深さ約2mまで重機により試掘調査を行ない厚い砂層が確認されたが、法面が崩落するなど安全確保が困難な状況から、それ以下については確認できなかった。しかし、自然堤防が相沢川の両岸に発達することから、更に深い位置に遺構等が存する可能性が高いと考えられる。

引用参考文献

全体

飯田市教育委員会　1998a　『飯田の遺跡』
川路村誌編纂委員会　1988　『川路村誌』

第Ⅲ章関係

飯田市教育委員会　1998b　『美女遺跡』

第Ⅴ章関係

浅岡俊夫　1990　「きぬがさの検討－出土木製笠骨をとおして－」『今里幾次先生古稀記念　播磨考古学論集』
潮田鉄雄　1973　『はきもの』ものと人間の文化史 8　法政大学出版局
金子裕之　1991　「2　武器・武具・農耕具」『古墳時代の研究 3　生活と祭祀』雄山閣
神谷正弘　1990　「日本出土の木製短甲」『考古学論集」』
後藤守一　1937　「日本上古時代の弓」『民族学研究』3－2
佐田　茂　1980　「古代琴雑考」『考古学雑誌』66－1
長野県埋蔵文化財センター　1997　『石川条里遺跡』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15
長野県埋蔵文化財センター　1999　『榎田遺跡』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12
長野県埋蔵文化財センター　2000　『川田条里遺跡　第 2 分冊（遺物編）』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書10
名久井文明　1999　『樹皮の文化史』　吉川弘文館
奈良国立文化財研究所　1985　『木器集成図録　近畿古代篇』奈良国立文化財研究所史料第27冊
奈良国立文化財研究所　1993　『木器集成図録　近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊
日本考古学協会編　1978　『登呂』東京堂出版
浜松市教育委員会　2002　『伊場遺跡遺物編 8（木製品「・金属器・骨角器）』
東大阪市文化財協会　1988　『鬼虎川遺跡調査概要。 遺物編　木製品』
三重県埋蔵文化財センター　1992　『城之越遺跡』
三重県埋蔵文化財センター　2000　『六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編）』
水野正好　1980　「琴の誕生とその展開」『考古学雑誌』66－1
渡辺　誠　1985　「ヨコヅチの考古民具的研究」『考古学雑誌』70－3

第Ⅵ章関係

安藤一男　1990　「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理42号』
Asai, K. & Watanabe, T.　1995　「Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups
relating to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and　saproxenous taxa」『Diatom10』
原口和夫・三友　清・小林　弘　1998　「埼玉の藻類　珪藻類」『埼玉県植物誌』
伊藤良永・堀内誠示　1991　「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌 6 』
近藤錬三・佐瀬　隆　1986　「植物珪酸体分析，その特性と応用」『第四紀研究25』
近藤錬三　1988　「十二遺跡土壌の植物珪酸体分析」「『鋳師屋遺跡群　十二遺跡－長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書－』
Krammer, K.　1992　「PINNULARIA，eine Monographie der europaischen Taxa」『BIBLIOTHE

CA DIATOMOLOGICA, BAND 26』
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1986 「Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae」『Band 2/1 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa』
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1988 [Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae」『Band 2/2 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa』
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991a 「Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae」『Band 2/3 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa』
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991b 「Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema」『Band 2/4 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa』
松島信幸 1988 「伊那盆地」『日本の地質 4 中部地方Ⅰ』
南木睦彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究 4 生産と流通Ⅰ』
能城修一・鈴木三男 1997「石川条里遺跡出土木製品の樹種」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15 －長野市その 3 － 石川条里遺跡第 3 分冊』
大迫靖雄 1996 「柳町遺跡から出土した 1 号木製短甲の樹種について」『柳町遺跡の木製短甲 －熊本県玉名市河崎字柳町所在の柳町遺跡より出土の 1 号・ 2 号木製短甲紹介』
パリノ・サーヴェイ株式会社 1993 「飯田市田圃遺跡自然科学分析報告」『田圃遺跡』
パリノ・サーヴェイ株式会社 1995 「安宅遺跡周辺の古環境変遷」『安宅遺跡』
パリノ・サーヴェイ株式会社 1996 「柳町遺跡出土の 2 号木製短甲の樹種同定」『柳町遺跡の木製短甲－熊本県玉名市河崎字柳町所在の柳町遺跡より出土の 1 号・ 2 号木製短甲紹介』
島地 謙・伊東隆夫編 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』
鈴木三男・能城修一 1982 「日高遺跡出土木材の樹種」『新保遺跡 －関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第 5 集』
鈴木三男・能城修一 1986 「新保遺跡出土加工材の樹種」『新保遺跡Ⅰ 弥生・古墳時代大溝編 －関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集＜本文編＞』
高橋 敦 1996 「群馬県から出土した鍬・鋤の用材」『群馬考古学手帳 6 号』
山田富貴子 1986 「赤外線吸収スペクトル法」『機器分析のてびき第 1 集』
山田昌久 1986 「くわとすきの来た道」『新保遺跡Ⅰ 弥生・古墳時代大溝編 －関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集＜本文編＞』

第Ⅶ章関係

(財)愛知県埋蔵文化財センター 1990 『岡島遺跡』
浅岡俊夫 1997 「多枝付木製品考－蓋骨の再検討」『立命館大学考古学論集Ⅰ』
阿刀弘史 1998 「滋賀県出土の木製品－農具 1 ・泥除け－」『滋賀考古』20
阿部敬生 1994 「鳥形木製品についての一考察」『文化財学論集』
岩永省三 1994 「戦いのための道具」『季刊考古学』47 雄山閣
上田宏範 1984 「日本古代の武器」『日本古代文化の探求 戦』社会思想社
大谷 徹 1991 「北武蔵出土の銅鋺」『埼玉考古学論集』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団
橿原考古学研究所附属博物館 1987 『シンポジウム 弥生人の四季』六興出版
金子裕之 1991 「 2 武器・武具・農耕具」『古墳時代の研究』 3 雄山閣
黒崎 直 1976 「古墳時代の農耕具」『奈良国立文化財研究所研究論集Ⅰ』
河野通明 2000 「農具から聞いた古代の人たちの話」『ものがたり 日本列島に生きた人たち 8 民

具と民俗　上』岩波書店
佐田　茂　1980　「古代琴雑考」『考古学雑誌』66－1
滋賀県教育委員会・㈶滋賀県文化財保護協会　1998　『赤野井湾遺跡　第4分冊』
㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所　1994　『古代における農具の変遷』
下伊那誌編纂会　1955　『下伊那史　第二巻』
成城大学民俗学研究所編　1990　『日本の食文化－昭和初期・全国食事習俗の研究－』
田中　磐　1980　『しなの食物誌』　信濃毎日新聞社
辻　秀子　1983　「可食植物の概観」『縄文文化の研究2　生業』雄山閣
寺沢　薫　1986　「稲作技術と弥生の農業」『日本の古代4　縄文・弥生の生活』中央公論社
戸田　智　1976　「古墳時代の鉄鏃および弓の機能的分析」『古代学研究』79
長瀬福男　1983　「貯蔵穴」『季刊考古学　創刊号』雄山閣
長野県埋蔵文化財センター　1999　『更埴条里遺跡・屋代遺跡群』
中村友博　1987　「武器形祭器」『弥生時代の研究』8　雄山閣
永山久夫　1998　『日本古代食事典』　東洋書林
西田町遺跡発掘調査団　1997　『西田町遺跡調査報告書』
西山克己　2001　「下伊那地域の古墳群形成の推移と在地豪族達の盛衰」『伊那』49－6
日本考古学協会編　1991　『シンポジウム　日本における稲作農耕の起源と展開』学生社
韮崎市遺跡調査会　1992　『宮ノ前遺跡』
根木　修・湯浅卓雄・土肥直樹　1992　「水稲農耕の伝来と共に開始された淡水漁撈」『考古学研究』39－1
林　謙三　1964　「四　和琴の生成」『正倉院楽器の研究』
原　明芳　1996　「銅鋺考」『長野県の考古学』㈶長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ
原　明芳・島田哲男・直井雅尚　1997　「長野県の状況」『第6回東日本埋蔵文化財研究会　遺物からみた律令国家と蝦夷』
樋上　昇　1989　「木製農耕具の地域色とその変遷－勝川遺跡出土資料を中心として－」『㈶愛知県埋蔵文化財センター年報　昭和63年度』
樋上　昇　1993　「木製農耕具研究の一視点－ナスビ形農耕具の出現から消滅まで－」『考古学フォーラム』3
樋上　昇　1994　「耕作のための道具－ナスビ形農耕具を中心に－」『季刊考古学』47
樋上　昇　2000　「東海系曲柄鍬再論」『考古学フォーラム』12
松木武彦　1984　「原始・古代における弓の発達－とくに弭の形態を中心に－」『待兼山論叢』18
山田康弘　1994　「祭りの道具」『季刊考古学』47
山田昌久・鈴木三男・能城修一　1990　「考古学における木製遺物の樹種選択研究の現状」『木と民具』日本民具学会編　雄山閣
山田昌久　1993　「3　木器」『第四紀試料分析法　2　研究対象別分析法』東京大学出版会
山田昌久　2002　「組合せ式針葉樹製鋤の再検討」『考古学ジャーナル』486　ニューサイエンス社
渡辺　誠　1975　『縄文時代の植物食』雄山閣

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
基本層序		Ⅰ	耕土					
(A)		Ⅱ	2.5Y5/4	黄褐	S	良	なし	
		Ⅲ	7.5Y3/2	オリーブ黒	SiC	不良	ややあり	
		Ⅳ	5Y3/2	オリーブ黒	S	やや良	なし	
		Ⅴ	7.5Y2/2	オリーブ黒	SC	不良	なし	
		Ⅵ	5Y4/1	灰	SC	良	なし	
		Ⅶ	5Y4/2	灰オリーブ	SC	良	なし	
		Ⅷ	7.5Y2/1	黒	SCL	良	なし	
		Ⅸ	2.5Y2/1	黒	LS	良	なし	径10～30mmの礫含む
		Ⅹ	10YR2/2	黒褐	LS	良	なし	径10～30mmの礫含む
			2.5Y2/1	黒				
		ⅩⅠa	10YR2/1	黒	LS	良	なし	径10～30mmの礫含む
		ⅩⅠb	7.5Y3/1	オリーブ黒	LS	良	なし	径10～30mmの礫含む。ST01柱穴埋土中に見られる
		ⅩⅡ	N2/0	黒	LS	良	なし	径10～30mmの礫含む。ST01柱穴埋土中に見られる
		ⅩⅢ	2.5GY5/1	オリーブ灰	LS	良	なし	径10～30mmの礫含む。遺構検出面
		ⅩⅥ	10Y5/2	オリーブ灰	SC	良	ややあり	
		ⅩⅤ	2.5Y3/2	黒褐	SC	良	ややあり	
基本層序		Ⅰ	7.5YR5/3	にぶい褐	HC	不良	あり	水田床土と考えられる
(B)		Ⅱ	7.5YR4/2	灰褐	SL	良	なし	10～20mm褐色ブロック、1～3mmの白色砂粒子含む
		Ⅲ	10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	10～20mm褐色ブロック含む
		Ⅳ	10YR3/1	黒褐	SC	やや良	なし	砂粒子多く含む。砂質土壌
		Ⅴ	10YR4/1	褐灰	HC	やや良	あり	10～20mm褐色ブロック含む
		Ⅵ	7.5YR3/1	黒褐	HC	やや良	あり	10～20mm褐色ブロック含む
		Ⅶ	2.5Y5/1	黄灰	LiC	不良	あり	1～2mm砂粒子含む
基本層序		Ⅰa	10YR2/2	黒褐	LiC	良	なし	小柱穴埋土
(C)			2.5Y2/1	黒				
		Ⅰb	10YR2/1	黒	SiC	良	なし	
		Ⅱ	7.5YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	小柱穴埋土
		Ⅲ	5YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	小柱穴埋土
		Ⅳ	10YR3/3	暗褐	LiC	良	なし	
		Ⅴ	10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
		Ⅵ	2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
		Ⅶ	5Y4/1	灰	LiC	良	なし	
		Ⅷ	5Y2/2	オリーブ黒	SiC	良	なし	
		Ⅸ	10YR2/1	黒	SiC	良	あり	
		Ⅹ	2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
		ⅩⅠ	2.5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	
		ⅩⅡ	5Y3/2	オリーブ黒	SiC	良	ややあり	炭を含む
		ⅩⅢ	10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
		ⅩⅣ	2.5Y3/2	黒褐	LiC	良	なし	
		ⅩⅤ	5Y3/1	オリーブ黒	SiC	良	なし	
		ⅩⅥ	10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	礫混
		ⅩⅦ	10YR3/4	暗褐	LiC	良	なし	
		ⅩⅧ	-	-	-	-	-	SD50埋土
		ⅩⅨ	-	-	-	-	-	SD51埋土
		ⅩⅩa	2.5Y4/2	暗灰黄	SL	良	なし	
		ⅩⅩb	2.5Y2/1	黒	LiC	良	なし	耕土
		ⅩⅩc	5Y2/2	オリーブ黒	SiC	良	ややあり	
基本層序		Ⅰ	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	SiC	良	なし	
(D)		Ⅱ	5Y3/2	オリーブ黒	SiC	良	なし	
		Ⅲ	5Y5/3	灰オリーブ	HC	良	あり	洪水起源。上層水田址(SX03)を覆った土と類似。基本層序(E)のⅡ～Ⅶ層とは時代が異なる
		Ⅳ	5Y4/2	灰オリーブ	SiC	良	ややあり	〃
		Ⅴ	5Y4/4	暗オリーブ	SL	不良	なし	〃
		Ⅵ	5Y5/3	灰オリーブ	HC	良	あり	〃

第13表　土層注記表(1)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
		Ⅶ	5Y3/2	オリーブ黒	SiC	良	ややあり	
		Ⅷ	2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	あり	
		Ⅸ	10YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	
		Ⅹ	5Y3/1	オリーブ黒	SL	良	ややあり	
		ⅩⅠ	10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
		ⅩⅡ	10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
		ⅩⅢ	10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
		ⅩⅥ	10YR3/1	黒褐	S	良	なし	径10～30mmの礫15%混
		ⅩⅤ	5Y2/1	黒	S	良	なし	
基本層序		Ⅰ	2.5Y4/3	オリーブ褐	L	不良	なし	耕土
(E)		Ⅱ	2.5Y4/6	オリーブ褐	SiC	不良	なし	洪水起源。基本層序(D)Ⅲ～Ⅵ層よりレベル低く下層水田址(SX01. SX02)が乗っていた高さに近いと考えられ、基本層序(D)のⅢ～Ⅵ層とは時代が異なる
		Ⅲ	2.5Y5/3	黄褐	LiC	不良	なし	〃
		Ⅳ	10YR5/8	黄褐	HC	不良	あり	〃
		Ⅴ	2.5Y5/3	オリーブ褐	SiC	不良	ややあり	〃
		Ⅵ	10YR4/4	褐	S	不良	なし	〃
		Ⅶ	2.5Y4/6	オリーブ褐	HC	やや良	あり	
		Ⅷ	2.5Y4/2	暗灰黄	HC	やや良	あり	
		Ⅸ	2.5Y2/1	黒	SiC	良	あり	
		Ⅹ	2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	あり	
		ⅩⅠ	10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
		ⅩⅡ	5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	
		ⅩⅢ	10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	
		ⅩⅥ	N1.5/0	黒	HC	良	あり	
SB01		1	10YR5/1	褐灰	LiC		あり	砂礫が多量に入る
SB01		2	10YR4/1	褐灰	LiC		あり	
SB01		3	10YR4/3	にぶい黄褐				10YR6/4ブロック多い。住居址の掘り方
SB01		4	10YR6/3	にぶい黄褐			あり	カマドの一部？
SB01		5	10YR3/1	黒褐				住居址の掘り方
SB01カマド		1	2.5Y3/1	黒褐	CL	良	なし	
SB01カマド		2	7.5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	炭少量含む
SB01カマド		3	10YR4/4	褐	CL	良	なし	上部貼り床
SB01カマド		4	10YR2/3	黒褐	SiC	良	なし	焼土、炭含む
SB01カマド		5	10YR4/4	褐	CL	良	なし	下部貼り床。5層上面に炭、焼土が広がる
SB02			10YR3/1	黒褐	CL	良	なし	
SB03			10YR3/3	暗褐	CL	良	なし	
SB03カマド		1	2.5Y4/4	オリーブ褐	SiC	良	なし	カマド構築材(粘土)
SB03カマド		2	10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	SB03貼り床
SB04		1	2.5Y3/2	黒褐	CL	良	なし	
SB04カマド		1	2.5Y4/1	黄灰	CL	不良	ややあり	炭少量混
SB04カマド		2	10YR4/4	褐	CL	良	なし	
SB04カマド		3	2.5Y3/2	黒褐	HC	良	なし	炭、焼土混
SB04カマド		4	10YR3/2	黒褐	SiC	不良	あり	炭多く含む
SB04カマド		5	2.5Y4/3	オリーブ褐	SiC	良	ややあり	
SB05		1	10YR3/2	黒褐	LS	良	なし	
SB05		2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	LS	良	なし	
SB05		3	2.5Y5/2	暗灰黄	LS	良	なし	
SB05		4	2.5Y4/6	オリーブ褐	LS	良	なし	
SB05		5	N2/0	黒	LS	良	なし	基本層序(A)ⅩⅡ層起源
SB05		6	10YR4/6	褐	LS	良	なし	貼床と思われる
SB05P6			2.5Y4/2	暗灰黄	S	良	なし	
SB05カマド		1	10YR2/2	黒褐	SiC	やや良	なし	
SB05カマド		2	5Y4/2	灰オリーブ	SiC	良	なし	右袖粘土
SB05カマド		3	10YR5/4	にぶい黄褐	CL	良	なし	煙道上部
SB05カマド		4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	SiC	良	なし	灰混

第14表　土層注記表(2)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＢ０５カマド		5	2.5Y3/2	黒褐	ＳｉＣ	やや良	なし	焼土・炭多量、灰混
ＳＢ０６			10YR3/1	黒褐	SL	良	なし	
ＳＢ０７			2.5Y7/2	灰褐			あり	
ＳＢ１０B-B´		1	5Y3/1	オリーブ黒	ＳｉCL	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		2	2.5Y2/1	黒	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		3	5Y5/1	灰	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		4	7.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		5	5Y2/2	オリーブ黒	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		6	2.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		7	2.5Y4/1	黄灰	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		8	5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		9	5Y4/1	灰	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		10	5Y2/1	黒	ＳｉＣ	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		11	5Y3/1	オリーブ黒	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		12	2.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		13	2.5Y3/2	黒褐	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		14	5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		15	5Y3/1	オリーブ黒	S	良	なし	
ＳＢ１０B-B´		16	5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０B-B´		17	7.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０C-C´		1	7.5Y2/1	黒	HC	良	あり	
ＳＢ１０C-C´		2	2.5Y5/1	黄灰	S	やや良	なし	
ＳＢ１０C-C´		3	2.5Y2/1	黒	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ１０C-C´		4	2.5GY2/1	黒	SL	良	ややあり	SB10　Ｄ断面の３～５層に相当
ＳＢ１０C-C´		5	N1.5/0	黒	S	良	なし	
ＳＢ１０C-C´		6	5Y4/1	灰	S	良	なし	
ＳＢ１０C-C´		7	2.5Y4/1	黄灰	S	良	なし	
ＳＢ１０C-C´		8	2.5Y2/1	黒	S	良	なし	
ＳＢ１０C-C´		9	2.5Y4/1	黄灰	砂礫層	良	なし	
ＳＢ１０C-C´		10	N1.5/0	黒	SC	不良	あり	
ＳＢ１０C-C´		11	7.5YR1.7/1	黒	S	やや良	なし	
ＳＢ１０C-C´		12	7.5YR2/1	黒	HC	やや良	あり	
ＳＢ１０C-C´		13	2.5Y2/1	黒	S	良	なし	
ＳＢ１０C-C´		14	7.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
ＳＢ１０C-C´		15	7.5Y3/1	オリーブ黒	HC	不良	あり	別遺構
ＳＢ１０C-C´		16	7.5Y2/1	黒	S	良	なし	やや砂粒混入。別遺構
ＳＢ１０D-D´		1	2.5Y2/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ１０D-D´		2	5Y3/2	オリーブ黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ１０D-D´		3	5Y2/1	黒	HC	良	ややあり	Ｃ断面の4層に相当
ＳＢ１０D-D´		4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	S	良	なし	Ｃ断面の4層に相当
ＳＢ１０D-D´		5	2.5Y2/1	黒	HC	良	あり	Ｃ断面の4層に相当
ＳＢ１０D-D´		6	5Y2/1	黒	HC	良	あり	
ＳＢ１０D-D´		7	5Y3/1	オリーブ黒	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ１０D-D´		8	2.5Y2/1	黒	HC	良	あり	
ＳＢ１０D-D´		9	7.5Y2/1	黒	HC	良	あり	
ＳＢ１０D-D´		10	5Y2/1	黒	ＬｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ１０D-D´		11	2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
ＳＢ１０D-D´		12	5Y2/1	黒	HC	良	ややあり	2.5Y4/1黄灰Ｓを15％含む
ＳＢ１０D-D´		13	5Y2/2	オリーブ黒	ＳｉＣ	やや良	ややあり	
ＳＢ１０D-D´		14	5Y3/1	オリーブ黒	ＬｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ１０D-D´		15	2.5Y2/1	黒	HC	良	あり	緑色岩片を１％含む
ＳＢ１０E-E´		1	5GY6/1	オリーブ灰	ＳｉＣ	良	あり	現代の水田の土と考えられる
ＳＢ１０E-E´		2	2.5GY5/1	オリーブ灰	ＳｉＣ	良	あり	１層にかなり近い土性を持つ
ＳＢ１０E-E´		3	N3/0	暗灰	ＳｉCL	不良	なし	径５～10㎜の小礫多量に入る。拳大の礫もみられる

第15表　土層注記表 (3)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＢ１０E-E´		4	N2/0	黒	ＳＬ	やや良	あり	土器、木器、木片が多量に入る。部分的に木片が集中する箇所もみられる。細かく薄い砂の層がみられ、1回の堆積でできた層とは考えられない
ＳＢ１０E-E´		5	N3/0	暗灰	ＬＳ	なし	なし	4層に比し砂の粒径が大きく、また多い。木の混入は少ない
ＳＢ１０E-E´		6	5YR1.7/1	黒	ＳｉＣ	良	あり	木製品、土器多量に混入。薄い木片はない
ＳＢ１６		1	7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	10mm～20mmの褐色ブロック含む
ＳＢ１６		2	7.5YR3/1	黒褐	ＨＣ	良	ややあり	7.5YR4/3褐色土混じる。貼り床
ＳＢ１６		3	7.5YR2/1	黒	ＨＣ	やや良	あり	
ＳＢ１６		4	7.5YR2/1	黒	ＨＣ	やや良	あり	砂礫混じる
ＳＢ１７		1	10YR3/2	黒褐	ＣＬ	良	なし	
ＳＢ１７		2	5Y3/1	オリーブ黒	ＳＣ	不良	ややあり	
ＳＢ１７カマド		1	10YR4/1	褐灰	ＳｉＣ	良	なし	
ＳＢ１７カマド		2	10YR3/4	暗褐	ＳＬ	良	なし	
ＳＢ１７カマド		3	5Y3/2	オリーブ黒	ＳｉＣ	良	なし	
ＳＢ１７Ｐ１	AC01P1		7.5Y3/3	暗褐	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ１８		1	10YR1.7/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ１８		2	5YR3/2	暗赤褐	ＳＬ	良	ややあり	
ＳＢ１８		3	7.5YR3/1	黒褐	ＬｉＣ	良	あり	
ＳＢ１８		4	7.5YR3/1 (70%) 2.5Y4/2 (30%)	黒褐 暗灰黄	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ１８		5	2.5Y3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	あり	
ＳＢ１８		6	7.5Y2/2	オリーブ黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ１８焼土		1	7.5Y3/2	オリーブ黒	ＨＣ	良	ややあり	
ＳＢ１８焼土		2	10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	あり	焼土、炭多量に含む
ＳＢ１８焼土		3	10YR2/1	黒	ＳｉＣ	良	なし	炭、焼土少量混
ＳＢ１８焼土		4	7.5Y2/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ２０		1	5Y3/2	オリーブ黒	ＳｉＣ	良	ややあり	礫混
ＳＢ２０		2	2.5GY2/1	黒	ＳｉＣ	良	ややあり	礫混
ＳＢ２１		1	10YR1.7/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	礫混
ＳＢ２１		2	10YR3/1	黒褐	ＬｉＣ	良	なし	礫混
ＳＢ２１		3	7.5Y2/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	礫混
ＳＢ２１		4	5Y3/2	オリーブ黒	Ｓ	良	なし	礫混
ＳＢ２２		1	7.5YR2/2	黒褐	ＳｉＣ	良	なし	SB22床
ＳＢ２３		1	7.5YR3/1	黒褐	ＨＣ	良	あり	炭化物多く含む。SB23覆土
ＳＢ２３		2	7.5YR4/1	褐灰	ＳＬ	不良	ややあり	SB23床面
ＳＢ２３カマド		1	7.5YR3/2	黒褐	ＳｉＣ	良	なし	焼土多量
ＳＢ２３カマド		2	7.5Y3/2	オリーブ黒	ＨＣ	良	あり	袖構築材の粘土。炭を多く含む
ＳＢ２３Ｐ１			7.5YR3/1	黒褐	ＨＣ	不良	あり	
ＳＢ２３Ｐ３			7.5YR3/1	黒褐	ＳＬ	良	ややあり	
ＳＢ２３Ｐ４			10YR3/1	黒褐	ＨＣ	不良	あり	
ＳＢ２３Ｐ５			7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	あり	
ＳＢ２３Ｐ６			10YR3/1	黒褐	ＳＬ	不良	ややあり	
ＳＢ２３Ｐ７			7.5YR3/1	黒褐	ＳＬ	不良	ややあり	
ＳＢ２４		1	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	ＨＣ	良	あり	カマド体部の崩落か？カマド構築の粘土
ＳＢ２４		2	10YR4/3	にぶい黄褐	ＨＣ	良	あり	焼土
ＳＢ２４		3	炭		炭			
ＳＢ２４		4	10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	あり	焼土、炭混
ＳＢ２４		5	2.5Y3/1	黒褐	ＨＣ	良	あり	焼土多く含む
ＳＢ２４		6	10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ２４		7	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	ＨＣ	良	あり	カマド構築の粘土
ＳＢ２４		8	10YR1.7/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ２４Ｐ１			10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	なし	

第16表　土層注記表 (4)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ＳＢ２４Ｐ３			10YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
ＳＢ２４Ｐ４			10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	あり	
ＳＢ２４Ｐ６			10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	ややあり	
ＳＢ２４Ｐ８			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
ＳＢ２４Ｐ９			7.5YR3/1	黒褐	HC	不良	ややあり	
ＳＢ２４Ｐ１０			10YR3/2	黒褐	ＳｉＣ	不良	ややあり	
ＳＢ２４Ｐ１１			7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	ややあり	
ＳＢ２５		1	2.5Y3/1	黒褐	SL	良	なし	礫混
ＳＢ２５		2	7.5Y2/1	黒	SL	良	なし	礫混
ＳＢ２５カマド		1	2.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	炭多く含む
ＳＢ２５カマド		2	5Y4/2	灰オリーブ	ＳｉＣ	良	なし	焼土を多量に含む。火床ではなく、カマド体部の崩落した粘土。焼骨片あり
ＳＢ２５カマド		3	10YR3/2	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	炭・焼土含む
ＳＢ２５カマド		4	7.5Y2/2	オリーブ黒	HC	不良	あり	炭含む
ＳＢ２５カマド		5	2.5Y4/2	暗灰黄	砂礫層	良	なし	袖石据え方
ＳＢ２５Ｐ１			7.5YR3/1	黒褐	L	不良	ややあり	
ＳＢ２５Ｐ３			7.5YR3/2	黒褐	HC	不良	あり	
ＳＢ２５Ｐ４			7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	なし	
ＳＢ２５Ｐ５			7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	不良	ややあり	
ＳＢ２５Ｐ６			7.5YR3/1	黒褐	SL	不良	ややあり	
ＳＢ２６Ｐ１			2.5Y3/1	黒褐	砂礫	良	あり	
ＳＢ２６Ｐ２			N1.5/0	黒	S	良	ややあり	
ＳＢ２６Ｐ３			7.5Y2/1	黒	ＳｉＣ	良	あり	
ＳＢ２７Ｐ１			10YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
ＳＢ２７Ｐ２			7.5YR3/1	黒褐	HC	不良	ややあり	
ＳＢ２８			10YR1.7/1	黒	ＬｉＣ	良	あり	
ＳＢ２８カマド		1	7.5YR4/1	褐灰	ＳｉＣ	良	ややあり	焼土多く含む
ＳＢ２８カマド		2	7.5YR4/2	灰褐	HC	良	あり	カマド構築の粘土
ＳＢ２８Ｐ１			10YR3/1	黒褐	ＬｉＣ	良	あり	
ＳＢ２８Ｐ２			10YR3/1	黒褐	ＬｉＣ	不良	あり	炭混
ＳＢ２９			10YR2/2	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ２９カマド		1	10YR3/3	暗褐	ＳｉＣ	良	なし	
ＳＢ２９カマド		2	10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	なし	灰・炭を含む
ＳＢ２９カマド		3	5Y4/2	灰オリーブ	HC	良	あり	焼土・炭・灰混
ＳＢ２９カマド		4	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	HC	良	あり	炭を含む。カマド体部崩落か？
ＳＢ２９カマド		5	5Y4/2	灰オリーブ	HC	良	あり	袖構築材の粘土
ＳＢ２９カマド		6	10YR2/1	黒	ＬｉＣ	良	なし	炭を含む
ＳＢ３０			10YR1.7/1	黒	ＳｉＣ	良	なし	炭混
ＳＢ３０Ｐ１			-	黒褐	-	-	-	
ＳＢ３０Ｐ２			-	黒褐	-	-	-	
ＳＢ３０Ｐ３			7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ３０Ｐ４			-	黒褐	-	-	-	
ＳＢ３０Ｐ５			-	黒褐	-	-	-	
ＳＢ３０Ｐ６			-	黒褐	-	-	-	
ＳＢ３０Ｐ７			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
ＳＢ３０Ｐ８			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	あり	
ＳＢ３１			5Y2/2	オリーブ黒	ＬｉＣ	良	なし	
ＳＢ３１Ｐ１			-	黒褐	-	-	-	
ＳＢ３１Ｐ２			-	黒	-	-	-	
ＳＢ３２			7.5YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ３２カマド		1	焼土・灰層					
ＳＢ３２カマド		2	10YR3/1	黒褐	ＳｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ３２カマド		3	10YR2/2	黒褐	ＬｉＣ	良	ややあり	
ＳＢ３２カマド		4	5Y2/2	オリーブ黒	SL	良	なし	
ＳＢ３２Ｐ２			7.5YR3/1	黒褐	ＬｉＣ	不良	あり	
ＳＢ３２Ｐ３			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
ＳＢ３２Ｐ４			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	

第17表　土層注記表 (5)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
SB32P6			7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
SB32P7	AF21P1	1	2.5YR4/2	灰赤	HC	良	あり	木・焼土多く含む
SB32P7	AF21P1	2	10YR3/1	黒褐	HC	不良	あり	炭化物少量含む
SB32P8			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
SB33		1	10YR2/2	黒褐	LiC	良	あり	別遺構埋土
SB33		2	2.5Y4/2	暗灰黄	LiC	良	あり	別遺構埋土
SB33		3	2.5Y3/1	黒褐	HC	良	ややあり	別遺構埋土
SB33		4	10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	炭を含む
SB33		5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	SiC	良	ややあり	貼り床
SB33P1			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
SB33P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
SB33P3			7.5YR4/2	灰褐	SiC	良	なし	
SB33P4			7.5YR4/2	灰褐	SiC	良	ややあり	
SB33P5			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
SB33P6			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
SB33P8			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
SB33P10			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
SB33P12			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	ややあり	
SB33P13			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SB33P15			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SB33P16			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
SB36			10YR3/2	黒褐	SL	良	なし	
SB37			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
SB38			N1.5/0	黒	SiC	良	ややあり	
SB39			5Y3/1	オリーブ黒	SiC	良	ややあり	遺物のほとんどは柱穴に伴うか？
SB43	SD63		5Y2/1	黒	SiC	良	あり	
ST01P6			10Y3/1	オリーブ黒	S	不良	なし	
ST02P1	BQ41P1		2.5GY2/1	黒	CL	やや良	ややあり	
ST02P2	BR40P1		7.5Y2/2	オリーブ黒	CL	やや良	ややあり	
ST02P3	BS41P1		5Y2/1	黒	CL	良	なし	
ST02P4	BS42P2		2.5GY2/1	黒	CL	良	なし	
ST02P5	BS43P2		10YR3/1	黒褐	CL	良	なし	
ST02P6	BR43P1		N2/0	黒	CL	良	なし	
ST03P3	BU42P2		5Y4/1	灰	CL	良	なし	
ST03P4	BV42P5		10YR2/2	黒褐	CL	良	なし	
ST03P5	BV43P2		-	黒褐	-	-	-	
ST03P6	BU44P2		5GY2/1	オリーブ黒	CL	良	なし	
ST03P7	BT44P1		10G2/1	緑黒	CL	良	なし	
ST03P8	BT43P1		2.5GY4/1	暗オリーブ灰	SC	不良	なし	
ST03P9	BS43P5		10YR3/1	黒褐	CL	良	なし	木片、炭少量
ST03P10	BS42P1		5B4/1	青灰	SC	不良	なし	
ST04P2	BV41P2		5Y3/2	オリーブ黒	CL	良	なし	
ST04P3	BV41P4		10YR2/3	黒褐	CL	良	なし	
ST04P4	BV41P1		10YR4/4	褐	CL	良	なし	
ST04P5	BV42P4		2.5Y3/2	黒褐	CL	良	なし	
ST04P6	BV43P5		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
ST04P7	BU42P2		5Y4/1	灰	CL	良	なし	
ST04P10	BU41P1		10YR2/2	黒褐	CL	良	なし	炭あり
ST05P1	BX44P2		10YR3/1	黒褐	CL	良	なし	
ST05P2	BX44P1		10YR3/1	黒褐	SC	良	なし	
ST05P3	BW44P2		5Y4/2	灰オリーブ	CL	良	ややあり	杭片
ST05P4	BW43P1		10YR2/3	黒褐	CL	良	ややあり	
ST05P5	BV43P1		10YR3/2	黒褐	CL	良	あり	
ST05P6	BW42P7		2.5Y3/3	暗オリーブ褐	CL	良	なし	
ST05P7	BW42P6		10YR3/1	黒褐	CL	良	なし	
ST05P8	BX42P1		10YR3/3	暗褐	CL	良	ややあり	
ST05P9	BX43P2		10YR4/3	にぶい黄褐	CL	やや良	なし	
ST06P1	BW38P1		2.5GY3/1	暗オリーブ灰	CL	良	ややあり	

第18表　土層注記表 (6)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ST06P2	BX39P2		10YR3/4	暗褐	CL	良	なし	
ST06P3	BX39P1		5Y4/4	暗オリーブ	CL	良	なし	
ST06P4	BY40P1		5Y3/1	オリーブ黒	CL	良	なし	
ST07P1			10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
ST07P2	BW41P1		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
ST07P3	BX41P3		10YR3/1	黒褐	CL	やや良	なし	
ST07P4	BX42P2		2.5Y3/3	暗オリーブ褐	CL	良	なし	
ST07P5	BW42P2		2.5Y3/2	黒褐	CL	良	ややあり	
ST07P6	BV42P1	1	10YR3/3	暗褐	CL	良	なし	
ST07P6	BV42P1	2	10YR2/2	黒褐	SC	良	ややあり	
ST08P1				黒褐				
ST08P2	BQ01P1			黒褐				
ST08P3				黒褐				
ST08P4				黒褐				
ST08P5	BP01P1			黒褐				
ST08P6				黒褐				
ST09P1	AG05P6		10YR2/2	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST09P2	AF05P3		-	暗褐				
ST09P3	AE04P1		7.5YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	
ST09P4	AF03P5		10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST09P5	AF03P7		10YR2/2	黒褐	LiC	良	なし	
ST09P6	AG04P1		7.5YR4/3	褐	HC	良	ややあり	炭混
ST09P7	AH04P2		10YR2/2	黒褐	LiC	良	なし	炭混
ST09P8	AH04P3		7.5YR3/2	黒褐	LiC	良	なし	
ST10P1	AF03P3		7.5YR4/3	褐	HC	良	ややあり	
ST10P2	AE03P2		7.5YR4/2	灰褐	LiC	良	ややあり	炭多量に含む
ST10P3	AE02P2	1	7.5Y3/3	暗褐	SiCL	良	なし	
ST10P3	AE02P2	2	7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST10P4	AF02P1		7.5YR3/2	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST10P5	AF02P2		7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST11P1	AH04P4		10YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	柱材遺存
ST11P3	AG06P3		7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST11P5	AF04P5		10YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST12P1	AK07P1		7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
ST12P2	AJ07P2		7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
ST12P3	AJ08P1		-	黒				
ST12P5	AH08P1	1	7.5YR3/2	黒褐	LiC	良	ややあり	炭混
ST12P5	AH08P1	2	2.5Y5/4	黄褐	SiC	良	なし	
ST12P5	AH08P1	3	10YR1.7/1	黒	SiC	良	なし	
ST12P5	AH08P1	4	10YR4/1	褐灰	S	良	なし	
ST12P5	AH08P1	5	10YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	
ST12P5	AH08P1	6	10YR3/4	暗褐	LiC	良	なし	
ST12P5	AH08P1	7	2.5Y4/2	暗灰黄	SL	良	ややあり	
ST12P5	AH08P1	8	5B 1.7/1	青黒	SiC	良	あり	
ST12P6	AG07P2		7.5Y3/3	暗褐	HC	良	ややあり	
ST12P7	AG07P1		7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST12P8	AG06P1		-	黒褐				
ST12P10	AH04P6		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST12P11	AI07P3		7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	なし	
ST12P12	AI07P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST12P13	AH06P2		7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	なし	
ST13P1	AK07P3		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST13P2	AJ07P1		-	黒褐				
ST13P3	AI06P4		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST13P5	AH05P1		5Y3/1	オリーブ黒	LiC	良	ややあり	
ST13P6	AH04P1		10YR2/2	黒褐	LiC	良	あり	
ST14P1	AH08P2		7.5YR3/1	黒褐	SiL	良	なし	
ST14P4	AE08P2		10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	

第19表　土層注記表 (7)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ST14P5	AD08P1		10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST14P7	AE06P3		-	黒褐				
ST15P1	AG10P1		N1.5/0	黒	SiC	良	ややあり	
ST15P2	AF09P3		10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST15P3	AE09P1		7.5YR2/1	黒	SiC	良	なし	
ST15P4	AF08P1		10YR2/3	黒褐	SiC	良	あり	
ST15P5	AF08P2		N1.5/0	黒	SiC	良	なし	
ST15P6	AG08P1		5Y2/1	黒	SiC	良	なし	
ST15P7	AH09P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST16P2	AH12P2		2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	あり	
ST16P4	AH11P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST16P5	AI11P3		10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
ST16P6	AI12P1		7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
ST17P1	AK14P1		2.5Y3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST17P2	AK14P3		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST17P4	AJ13P4		7.5YR3/3	暗褐	SiC	良	なし	
ST17P5	AI13P2		10YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
ST17P6	AH12P1		10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
ST17P7	AI11P4		10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	炭を多く含む
ST17P8	AI11P1		10YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
ST17P9	AI10P2		7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
ST17P10	AJ11P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST17P11	AK11P2		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST17P13	AL12P1		5Y3/1	オリーブ黒	S	不良	ややあり	
ST17P14	AL13P2		2.5Y2/1	黒	SiC	不良	あり	
ST17P15	AL14P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST18P1	SB23P8		7.5YR3/1	黒褐	SiC	不良	ややあり	
ST18P3	AI18P1		10YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
ST18P4	AH17P1		-	暗褐				
ST18P5	AI17P1		10YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST18P6	AI16P2		7.5Y2/1	黒	LiC	良	あり	礫混
ST18P7	AJ16P1		7.5YR3/1	黒褐	HC	不良	あり	
ST18P8	AK16P3		7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
ST18P9	AK17P1		7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST19P1	AG17P2		10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
ST19P2	AF16P1		10YR1.7/1	黒	SL	良	なし	
ST19P3	AF16P2		10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	
ST19P4	AF15P1		-	黒褐				
ST19P6	AG15P2		2.5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	炭含む
ST20P1	AD16P2		10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
ST20P2	AC15P4		10YR2/1	黒	SiC	良	あり	
ST20P3	AC15P3		10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	木片出土
ST20P4	AB14P2		10YR2/1	黒	SiC	良	あり	柱痕
ST20P5	AB14P5		-	黒褐				
ST20P6	AB12P1		-	灰褐混暗褐				
ST20P7	AC12P1		10YR3/2	黒褐	LiC	良	なし	
ST20P8	AD12P2		10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST20P9	AE13P5		10YR1.7/1	黒	LiC	良	なし	木、炭混
ST20P10	AF14P7		-	黒褐				
ST20P11	AE15P5		-	黒褐				
ST20P12	AE15P4		10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	
ST21P1	SB33P7		10YR2/2	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST21P2	AA16P4		10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
ST21P3	AA16P3		7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
ST21P4	AA16P5		7.5Y2/1	黒	SiC	不良	あり	
ST21P5	AA15P3		N1.5/0	黒	SL	不良	あり	
ST21P7	AB15P2		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST21P8	SB33P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	

第20表　土層注記表 (8)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ST22P1	AC19P3		2.5Y2/1	黒	LiC	良	あり	
ST22P2	AB19P1		2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
ST22P3	AA19P3		10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	柱材遺存
ST22P4	AA19P4		-	黒褐				
ST22P5	AA18P1	1	5Y4/2	灰オリーブ	HC	良	あり	柱材遺存
ST22P5	AA18P1	2	10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
ST22P6	AA17P1		7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
ST22P7	AB17P5		10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
ST22P8	AA17P6		10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST22P9	AC17P3		10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
ST22P10	AC18P4		10YR2/2	黒褐	LiC	良	あり	炭混
ST23P1	AB18P6		10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
ST23P3	AB18P5		10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
ST23P5	BY18P3		2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
ST23P6	AA17P5		10YR2/1	黒	SiC	良	ややあり	
ST23P7	AB17P7		10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	
ST24P1	SB32P5		5Y3/2	オリーブ黒	SiC	良	あり	
ST24P2	SB32P1		7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
ST24P3	AC20P3	1	10YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	
ST24P3	AC20P3	2	5Y2/1	黒	LiC	良	あり	
ST24P4	AC20P4		10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
ST24P5	AB19P1		2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
ST24P6	AB18P1		7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
ST24P7	AC18P3		10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST24P8	AC17P2	1	10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	柱材遺存
ST24P8	AC17P2	2	10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
ST24P8	AC17P2	3	N1.5/0	黒	SiC	良	あり	
ST24P9	AD17P2		10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
ST24P10	AE18P6		10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
ST24P12	AF19P2		10YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	
ST24P13	AF19P3		10YR1.7/1	黒	LiC	良	あり	木片(柱材？)
ST25P1	AC20P6		N1.5/0	黒	LiC	良	あり	木片(礎板)
ST25P2	AB20P1	1	10YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	木片
ST25P2	AB20P1	2	2.5Y4/3	オリーブ褐	LiC	良	ややあり	
ST25P4	AB19P1		2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
ST25P5	AC20P5		10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST25P6	AC20P2	1	7.5Y2/2	オリーブ黒	HC	良	あり	
ST25P6	AC20P2	2	10YR3/3	暗褐	SL	良	なし	
ST26P1	BX18P2		7.5Y3/3	暗褐	HC	良	ややあり	20～30mmの褐色ブロック含む
ST26P2	BW18P1		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
ST26P3	BW17P1		7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	20～30mmの褐色ブロック含む
ST26P4	BW16P2		7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
ST26P5	BX16P2		7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
ST26P6	BX16P1		7.5YR3/1	黒褐	SiCL	良	ややあり	
ST26P7	BY17P1		-	黒褐				
ST27P1	BV18P1		7.5YR3/2	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存。30～40mmの褐色ブロック含む
ST27P2	BU19P1		-	-	-	-	-	柱材遺存
ST27P3	BT18P5		7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
ST27P4	BS18P2		7.5YR4/1	褐灰	SiC	良	あり	
ST27P5	BT17P2		7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
ST27P6	BU17P3	1	7.5YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
ST27P6	BU17P3	2	7.5YR2/1	黒	HC	やや良	あり	
ST27P7	BV17P1		5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
ST28P1	BS19P1		10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存
ST28P2	BS20P3		10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
ST28P3	BS20P2		10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
ST28P4	BR21P5		5Y3/1	オリーブ黒	HC	良	あり	柱材遺存
ST28P5	BR21P2		10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	

第21表　土層注記表 (9)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
ST28P6	BQ21P1		2.5Y2/1	黒	LiC	良	あり	柱材遺存
ST28P7	BQ20P1		10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	礫20cm大が中央に浮いて入る
ST28P8	BP20P1		10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	礫
ST28P9	BQ19P1		10YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
ST29P1	BR23P1		10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
ST29P2	BS22P2		10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	炭混、焼土混
ST29P3	BS21P1		10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
ST29P4	BT22P2		2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	あり	炭混。
ST29P5	BT22P4		5Y2/2	オリーブ黒	HC	良	あり	礫混。BT22P3を切る。
ST29P6	BU23P1		5Y2/1	黒	HC	良	あり	
SA05P4	BV41P2		5Y3/2	オリーブ黒	CL	良	なし	
SA05P5	BV41P6		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
SA05P7	BU42P1		10YR2/2	黒褐	CL	良	なし	BU42P3に切られる
SK01			2.5Y4/6	オリーブ褐	S	不良	なし	近世土葬墓
SK02			-	-	-	-	-	近世土葬墓
SK03			5Y2/1	黒	CL	良	なし	径20～30cm大の礫含む
SK04			-	-	-	-	-	SB03貼床下で検出
SK05			10GY2/1	緑黒	SiC	不良	なし	
SK06			2.5Y3/1	黒褐	CL	良	なし	
SK13		1	2.5Y5/1	黄灰	砂質層		なし	遺物極少量。撹乱
SK13		2	5Y4/1	灰	砂質層		なし	1層より粘性あり
SK13		3	10Y5/1	灰		不良	あり	
SK14		1	7.5Y4/1	灰	SiC	良	なし	径10～30cm大の礫の集積あり
SK14		2	2.5Y3/1	黒褐	LiC	やや良	ややあり	
SK15			10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
SK16			7.5YR4/2	黒褐	HC	良	ややあり	
SK17	BV10P1	1	10YR2/1	黒	SiCL	良	なし	
SK17		2	10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
SK17		3	7.5YR2/1	黒	SL	良	ややあり	
SK17		4	2.5Y2/1	黒	SiC	良	あり	
SK17		5	2.5Y3/1	黒褐	S	良	なし	
SK17		6	7.5Y3/1	オリーブ黒	SiC	良	あり	
SK18	BX09P1	1	10YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
SK18	BX09P1	2	2.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
SK18	BX09P1	3	10Y3/1	オリーブ黒	CL	良	なし	50%ずつ混じる
			7.5Y2/1	黒	SiC		ややあり	
SK18	BX09P1	4	5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	上部　残材(細かい)。下部　藁状
SK19			7.5Y2/1	黒	HC	良	ややあり	
SK20	BX14P1	1	10YR4/2	灰黄褐	S	良	なし	
SK20		2	10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
SK20		3	7.5Y3/1	オリーブ黒	S	良	なし	
SK22		1	2.5Y2/1	黒	S	良	なし	
SK22		2	5Y2/1	黒	SC	不良	あり	2層の層界から2層にかけて炭化したクリの堅皮出土
SK23			2.5Y2/1	黒	SiC	良	あり	貯蔵穴。クリ
SK24			7.5YR4/2	灰褐	SL	良	なし	
SK25		1	7.5YR2/1	黒	SiC	良	なし	木製品。井戸(枠に曲げ物転用)
SK25		2	2.5Y3/1	黒褐	SiCL	良	なし	
SK25		3	7.5Y2/1	黒	HC	良	あり	
SK25		4	10YR3/1	黒褐	S	良	なし	

第22表　土層注記表(10)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
SK26			7.5YR3/2	黒褐	SiCL	良	ややあり	
SK27		1	5Y3/1	オリーブ黒	S	良	なし	井戸
SK27		2	5Y3/2	オリーブ黒	S	不良	なし	
SK27		3	N1.5/0	黒	HC	良	あり	
SK27		4	2.5Y2/1	黒	SiC	良	なし	
SK28			2.5Y4/2	暗灰黄	LiC	良	ややあり	
SD01			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	砂礫	不良	なし	
SD02			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	砂礫	不良	なし	
SD03			-	-	砂利	-	-	
SD04			-	-	砂利	-	-	
SD05			-	-	砂利	-	-	
SD06			-	-	砂利	-	-	
SD07			-	-	砂利	-	-	
SD09			-	黒褐				
SD10			5G2/1	緑黒	CL	良	なし	
SD11		1	2.5Y2/1	黒	SiC	不良	なし	板材等含む
SD11		2	5Y3/1	オリーブ黒	HC	不良	あり	
SD11		3	5Y2/1	黒	LiC	不良	ややあり	
SD11		4	5GY4/1	暗オリーブ灰	SC	不良	なし	
SD12			10YR3/1	黒褐	SiC	不良	ややあり	杵等出土。一部漆黒土中の遺物混
SD13			10Y2/1	黒	HC	不良	あり	板材等
SD14			5Y2/1	黒	HC	不良	あり	板材等。間に砂層が入る
SD15			7.5Y2/1	黒	HC	不良	あり	板材等
SD16			5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
SD18			5Y2/1	黒	HC	不良	あり	板材等。間に砂層が入る
SD19			N1.5/0	黒	SiC	不良	ややあり	板材等
SD26			7.5Y2/1	黒	やや砂質			小石・白色粒子を多く含む
SD27		1	7.5Y4/1	灰	SiC	良	なし	
SD27		2	2.5Y3/1	黒褐	LiC	やや良	ややあり	
SD28			7.5YR3/1	黒褐	SiCL	良	なし	
SD29			5YR4/1	褐灰	SiC	良	ややあり	
SD30			2.5Y3/1	黒褐	S	良	なし	
SD31			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD32		1	7.5YR4/3	褐	SiC	良	なし	酸化した鉄分多量に含む
SD32		2	7.5YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	10～20mmの黄褐粒含む
SD32		3	7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
SD32		4	7.5YR4/2	灰褐	LiC	良	あり	砂粒多量に含む
SD32		5	5YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	
SD33			10YR2/1	黒	SiC	良	なし	
SD35			7.5YR3/2	黒褐	SiCL	良	ややあり	
SD36			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
SD37			10YR4/2	灰黄褐	SL	良	なし	礫混
SD38			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	SiC	良	なし	
SD39			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	なし	
SD41			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD42			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD43			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	なし	
SD44			10YR2/1	黒	SiC	良	ややあり	
SD45			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
SD46			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
SD47			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
SD48	AE15P3		10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD50		1	10YR3/4	暗褐	LiC	良	なし	
SD50		2	7.5YR3/2	黒褐	SL	良	なし	
SD50		3	10YR2/2	黒褐	HC	良	あり	
SD50		4	10YR3/4	暗褐	S	良	なし	間に黒褐色のＨＣの薄層が入り互層になっている

第23表　土層注記表 (11)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
SD50		5	2.5Y4/3	オリーブ褐	S	良	なし	
SD50		6	10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
SD51		1	5Y5/2	灰オリーブ	SL	良	なし	
SD51		2	10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD51		3	10YR4/1	褐灰	SiC	良	あり	
SD51		4	10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
SD52			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD53			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
SD54			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
SD55			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
SD57			7.5Y2/1	黒	LiC	良	ややあり	
SD58			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
SD59			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
SD60			10YR2/1	黒	SiC	良	あり	
SD61			10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
SD65		1	2.5Y3/1	黒褐	SiC	不良	ややあり	
SI04		1	10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	炭多量。礫混
SI04		2	2.5Y2/1	黒	S	良	なし	
SI05			10YR3/1	黒褐	LiC	不良	あり	
SI07			5Y3/2	オリーブ黒	LiC	良	あり	
SX04			10Y3/1	オリーブ黒	HC	不良	ややあり	
SX06		上層	2.5Y3/1	黒褐	S	良	なし	
SX06		下層	2.5Y5/1	黄灰	S	良	なし	洪水砂が被る
AA03P1			7.5YR5/4	にぶい褐	CL	良	あり	
AA07P1			5YR4/1	褐灰	SiC	良	ややあり	
AA12P1			-	黒褐	-	-	-	
AA13P1			10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	木片
AA15P1			-	灰褐				柱材遺存
AA15P2			N1.5/0	黒	HC	不良	あり	柱材遺存
AA16P1			-	灰褐	-	-	-	柱材遺存
AA16P2			-	灰褐	-	-	-	
AA17P2			7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
AA17P3			-	黒褐	-	-	-	
AA17P4			-	黒褐	-	-	-	
AA17P7			10YR1.7/1	黒	SL	良	ややあり	柱材遺存
AA18P2			-	黒褐	-	-	-	
AA18P3			10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	柱材遺存
AA18P4			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
AA19P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AA47P2			5YR4/1	褐灰	SiC	良	なし	
AA47P3			-	黒褐	-	-	-	
AA48P1			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	ややあり	SD36を切る。3～5mmの褐ブロック含む
AA48P2			7.5YR4/4	褐	SiC	良	ややあり	AA48P1に切られる
AA48P3			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	なし	
AA48P4		1	7.5YR4/4	褐	SiC	良	なし	柱材遺存
AA48P4		2	7.5YR4/1	褐灰	SiC	良	ややあり	2～3mm褐ブロック含む
AA48P4		3	5G4/1	暗緑灰	SiCL	良	ややあり	
AA48P5			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	ややあり	
AA49P1			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AB00P2			5Y3/2	オリーブ黒	SiC	不良	あり	
AB04P1			7.5YR4/2	灰褐	CL	良	ややあり	
AB04P2			7.5YR4/2	灰褐	CL	良	ややあり	
AB04P3			7.5YR4/3	褐	CL	良	ややあり	
AB04P4			7.5YR4/3	褐	CL	良	ややあり	
AB09P1			-	黒褐	-	-	-	
AB09P2			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AB09P3			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	

第24表　土層注記表 (12)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
AB12P2			10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
AB13P1			N1.5/0	黒	SiC	良	あり	木片、柱材遺存
AB14P1			-	明灰褐	-	-	-	
AB14P3			10YR4/1	褐灰	HC	良	あり	
AB14P6			-	明灰褐	-	-	-	
AB16P1			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存
AB17P1			-	灰褐	-	-	-	
AB17P2			-	灰褐	-	-	-	
AB17P3			10YR1.7/1	黒	SL	良	ややあり	
AB17P4			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AB17P6			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
AB18P2			10YR3/1	黒褐	SL	良	なし	
AB18P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AB18P4			-	黒褐	-	-	-	
AB19P2		1	5Y4/2	灰オリーブ	HC	良	あり	柱材遺存
AB19P2		2	10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	
AB19P3			10YR4/1	褐灰	HC	良	あり	
AB19P4			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	あり	
AB20P2			5Y2/2	オリーブ黒	HC	良	あり	
AB20P3			10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	炭
AB48P1			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	なし	
AB49P4			5Y3/1	オリーブ黒	LiC	やや良	あり	炭混
AC00P1			7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AC05P1			7.5YR4/2	灰褐	CL	良	ややあり	
AC09P1			-	黒褐	-	-	-	
AC10P1			7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
AC11P1			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AC11P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AC11P3			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AC11P4			10YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AC12P2			10YR1.7/1	黒	LiC	良	なし	
AC13P2			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
AC13P2			5Y2/1	黒	LiC	良	ややあり	
AC14P1			-	明灰褐	-	-	-	
AC14P2			10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	炭を含む。柱材遺存
AC14P3			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AC15P1			-	明灰褐	-	-	-	
AC15P2			-	明灰褐	-	-	-	
AC17P1			-	明灰褐	-	-	-	
AC18P1			7.5YR3/2	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存
AC18P2		1	2.5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	柱材遺存
AC18P2		2	5Y3/2	オリーブ黒	LiC	良	ややあり	
AC18P5			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
AC18P6			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AC18P7			10YR3/1	黒褐	SL	良	なし	
AC18P8			5Y2/2	オリーブ黒	LiC	良	あり	
AC18P9		上	10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AC18P9		下	7.5YR3/2 (60%)	オリーブ黒	SiC	良	あり	ブロック状に入る。木片
			2.5Y2/1 (40%)	黒				
AC19P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AC19P2			-	黒褐	-	-	-	
AC19P5			10YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AC19P6			2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
AC19P7			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AC19P8			-	黒褐	-	-	-	
AC20P1			7.5Y3/2	オリーブ黒	HC	良	あり	

第25表　土層注記表 (13)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
AC21P1			10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	
AC49P1			2.5Y4/1	黄灰	HC	不良	あり	SD40が切ると思われる。炭多い
AD02P1			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	ややあり	
AD09P1			10YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AD10P1			10YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
AD10P2			-	黒褐	-	-	-	
AD10P3			-	黒褐	-	-	-	
AD11P1			10YR2/2	黒褐	LiC	良	なし	
AD11P2			10YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	中央部7.5YR4/2灰褐SiC
AD12P1		1	10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	木・炭を含む。柱材遺存
AD12P1		2	5Y3/2	オリーブ黒	SiC	良	なし	炭混。柱材遺存
AD13P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AD13P2			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
AD14P1			7.5Y2/1	黒	LiC	良	なし	
AD14P2			10YR1.7/1	黒	SiC	良	なし	木片。柱材遺存
AD14P3			-	黒褐	-	-	-	
AD14P4			-	黒褐	-	-	-	
AD15P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AD15P2			5Y3/1	オリーブ黒	SiC	良	ややあり	柱材遺存
AD15P4			10YR2/2	黒褐	SL	良	ややあり	
AD16P1			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AD16P3			10YR2/1	黒	SiC	良	ややあり	
AD16P4			-	黒褐	-	-	-	
AD17P1			-	灰褐	-	-	-	
AD17P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
AD17P4			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
AD17P5			5Y3/1	オリーブ黒	HC	不良	あり	
AD17P6			-	黒	-	-	-	炭混
AD18P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AD18P2			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AD18P3			10YR3/1	黒褐	LiC	良	あり	
AD18P4			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AD18P5			10YR2/1	黒	SiC	良	あり	炭
AD18P7			10YR2/1	黒	LiC	良	あり	柱材遺存
AD18P8			10YR2/1	黒	SiC	良	あり	
AD19P1			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	あり	
AD19P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AD19P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
AE02P1			7.5YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
AE02P4			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AE02P5			7.5YR2/1	黒	SiC	良	ややあり	AE02P4を切る。褐色ブロック多く含む
AE03P1			7.5YR4/2	灰褐	SiCL	良	ややあり	炭多量に含む。SD35に切られる
AE03P3			7.5YR4/2	灰褐	CL	良	ややあり	
AE04P2			10YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	AE04P3を切る
AE04P3			10YR2/3	黒褐	SiC	良	あり	
AE04P4			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AE06P1			7.5YR2/3	暗褐	SiC	良	なし	
AE06P2			7.5YR2/3	暗褐	SiC	良	なし	
AE08P1			10YR2/1	黒	SL	良	なし	柱材遺存
AE11P1			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
AE13P2			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AE13P3			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AE13P4			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AE14P1			10YR1.7/1	黒	SiC	良	なし	
AE14P2			-	黒褐	-	-	-	
AE15P1			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	柱材遺存
AE15P2			10YR2/2	黒褐	LiC	良	ややあり	

第26表　土層注記表 (14)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
AE15P3			10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	
AE16P1			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AE17P1			10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	
AE18P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AE18P3			10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
AE18P4			2.5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	
AE18P5			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	LiC	良	なし	
AE19P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AE19P2			10YR3/1	黒褐	SL	良	なし	
AE19P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AE19P4			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AE19P5			5Y3/1	オリーブ黒	LiC	良	あり	
AE19P6			5Y2/2	オリーブ黒	SL	良	なし	
AE19P7			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AF02P3			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AF03P1			7.5Y3/3	暗褐	HC	良	ややあり	
AF03P2			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	なし	
AF03P4			7.5Y3/3	暗褐	SL	良	なし	
AF04P1			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AF04P2			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
AF04P3			7.5YR3/4	暗褐	SiC	良	ややあり	
AF04P4			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
AF05P1			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
AF05P2			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
AF06P1			7.5YR4/2	灰褐	LiC	良	ややあり	
AF06P2			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	柱材遺存
AF07P1			7.5YR3/2	黒褐	LiC	良	ややあり	
AF08P3			10YR4/1	褐灰	HC	良	ややあり	
AF08P4			-	褐灰	-	-	-	
AF08P5			10YR4/1	褐灰	HC	良	ややあり	
AF09P1			7.5YR2/1	黒	SiC	良	なし	
AF10P1			10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AF11P1			-	灰	-	-	-	
AF11P2			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AF12P1			-	灰	-	-	-	
AF12P2			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
AF12P3			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AF12P4			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AF13P1			10YR1.7/1	黒	SiC	良	なし	
AF13P2			10YR2/3	黒褐	SiC	良	なし	炭含む
AF14P1			2.5Y4/4	オリーブ褐	砂礫	不良	なし	近世墓？
AF14P2			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	炭多く含む
AF14P3			10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	炭
AF14P4			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
AF14P5			10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
AF15P2			10YR2/2	黒褐	LiC	良	なし	
AF15P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
AF15P4			10YR2/1	黒	SiC	良	ややあり	
AF16P3			10YR3/1	黒褐	SL	良	ややあり	
AF17P1			10YR2/1	黒	SiC	良	あり	
AF17P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AF17P3			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AF18P1			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AF18P2			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	あり	
AF18P3			7.5YR4/2	灰褐	HC	良	あり	
AF18P4			-	黒褐	-	-	-	
AF18P5			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AF19P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	

第27表　土層注記表 (15)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
AF20P1			-	青灰	-	-	-	
AF20P2			-	黒褐	-	-	-	
AF20P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	柱痕
AF21P3		1	7.5YR4/1	褐灰	HC	良	あり	柱痕。焼土多く含む
AF21P3		2	7.5YR3/1	黒褐	HC	不良	あり	炭化物少量含む
AF21P4			-	黒褐	-	-	-	
AF21P5			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	あり	
AF21P6			7.5YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
AF27P1			-	黒	-	-	-	
AG04P1			10YR3/1	黒褐	LC	良	なし	
AG04P2			10YR3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG04P3			-	暗褐	-	-	-	
AG04P4			-	暗褐	-	-	-	
AG05P1			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG05P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG05P3			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG05P4			7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG05P5								
AG05P7			10YR2/2	黒褐	LiC	良	なし	
AG05P8								
AG06P2			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
AG06P4			10YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	
AG08P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AG08P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	20～30mmの褐色ブロックを多量に含む
AG09P2			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
AG10P2			-	黒褐	-	-	-	
AG10P3			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG12P1			-	灰	-	-	-	
AG12P2			-	灰	-	-	-	
AG14P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AG14P2			10YR1.7/1	黒	LiC	良	なし	
AG14P3			5Y2/2	オリーブ黒	SiC	良	なし	炭含む
AG14P4			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
AG14P5			10YR3/1	黒褐	LiC	良	なし	
AG15P1			10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	
AG15P3			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG15P4			10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	
AG16P1			10YR2/1	黒	SL	良	あり	
AG16P2			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
AG16P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
AG16P4			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
AG16P5			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG17P1			10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
AG18P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG18P2			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AG18P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AG18P4			10YR3/1	黒褐	HC	不良	ややあり	
AG20P1			7.5Y2/1	黒	LiC	良	あり	
AG21P1			2.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AG21P2			10YR3/1	黒褐	SL	良	なし	
AH04P5			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AH04P7			-	黒褐	-	-	-	
AH06P3			7.5YR3/2	黒褐	SiCL	良	なし	
AH07P1			-	黒褐	-	-	-	
AH07P2			-	黒褐	-	-	-	
AH10P1			-	暗褐	-	-	-	
AH14P1			7.5YR3/2	黒褐	HC	不良	ややあり	
AH15P1			10YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	

第28表　土層注記表 (16)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
AH15P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AH15P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AH16P1			10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AH16P2			10YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
AH16P3			10YR2/1	黒	LiC	良	あり	
AH24P1			-	褐	砂	-	-	
AH24P2			-	青灰	-	-	-	
AH25P1			-	褐	砂	-	-	
AH25P2			-	褐	砂	-	-	
AH26P1			-	黒	-	-	-	
AH27P1			-	黒	-	-	-	
AI05P1			5Y3/1	オリーブ黒	LiC	良	あり	
AI06P1			7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
AI06P2			10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AI06P3			7.5YR3/1	黒褐	SiCL	良	ややあり	
AI07P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AI07P4			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AI08P1			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AI08P2			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AI10P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AI12P2			10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AI13P1			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存
AI15P1			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AI15P3			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AI17P2			7.5YR4/2	灰褐	SL	良	なし	
AI19P1			2.5Y2/1	黒	LiC	良	あり	
AJ05P1			7.5Y2/2	オリーブ黒	LiC	良	あり	
AJ07P3			7.5Y3/1	オリーブ黒	HC	良	ややあり	
AJ09P1			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AJ09P2			7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AJ09P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AJ09P4			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AJ09P5			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AJ11P2			10YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	
AJ12P1			-	黒褐	-	-	-	
AJ12P4			-	黒褐	-	-	-	
AJ13P1			10YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AJ13P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
AJ14P1			10YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
AJ15P1			10YR3/1	黒褐	SL	不良	ややあり	
AJ16P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AJ16P3			10YR3/1	黒褐	HC	不良	あり	
AJ17P1			-	黒褐	-	-	-	
AJ20P1			10YR3/1	黒褐	SiC	不良	ややあり	
AJ22P1			2.5Y2/1	黒	S	良	なし	
AJ22P2			-	青灰	-	-	-	
AK07P2			7.5YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	
AK08P1			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AK08P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AK09P1			-	褐	-	-	-	
AK09P2			-	黒褐	-	-	-	
AK09P3			-	黒褐	-	-	-	
AK09P4			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AK09P5			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AK09P6			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AK10P1			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AK10P3			-	黒褐	-	-	-	
AK11P1			10YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	

第29表　土層注記表 (17)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
AK13P1			10YR3/2	黒褐	SiC	良	なし	
AK13P2			-	黒褐	-	-	-	
AK14P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AK16P1			5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
AK16P2			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
AK19P1			10YR1.7/1	黒	LiC	やや良	あり	礫混。SB23カマドの下
AL10P2			7.5YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	
AL11P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
AL13P1			7.5YR3/3	暗褐	SL	良	なし	
AL16P1			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AL17P1			7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AL17P2			5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
AM12P1			5Y2/1	黒	LiC	不良	ややあり	
AN11P1			-	暗褐	-	-	-	
AN15P1			7.5YR2/2	黒褐	SiC	良	なし	
BJ47P1								柱材遺存
BL04P1			-	黒				
BO40P1			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	CL	良	なし	
BP20P2			10YR2/1	黒	HC	良	あり	
BP22P1			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BQ03P1			7.5Y3/1	オリーブ黒	SiC	不良	なし	
BQ14P1			-	黒				埋没樹。木の周囲が黒化
BQ16P1			-	黄灰砂				
BQ20P2			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BQ20P3			10YR2/1	黒	HC	良	あり	
BQ21P2			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	木片
BQ22P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
BQ22P2			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BQ22P3			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
BQ40P1			2.5Y4/2	暗灰黄	CL	不良	なし	
BQ41P2			2.5Y3/2	黒褐	CL	良	なし	
BQ42P1			2.5Y3/1	黒褐	CL	良	ややあり	
BQ42P2			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	CL	良	なし	
BR03P1			5BG2/1	青黒	CL	良	なし	
BR08P1			2.5Y3/1	黒褐	HC	不良	あり	
BR19P1			10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	BR19P2を切る。柱材遺存
BR19P2			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BR19P3			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	底面より浮いて礫あり。炭
BR19P4			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BR21P1			10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	柱材遺存
BR21P3			7.5YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
BR21P4			10YR2/1	黒	HC	良	あり	炭
BR35P1			-	黒褐	-	-	-	
BR35P2			2.5Y3/2	黒褐	CL	良	なし	
BR36P2			7.5Y3/1	オリーブ黒	S	良	なし	
BR41P1			N3/0	暗灰				
BS18P1			7.5YR4/1	褐灰	SiC	良	あり	
BS18P3			-	黄褐	-	-	-	
BS20P1			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	礫
BS20P4			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BS21P2			10YR2/2	黒褐	SiC	良	ややあり	
BS21P3			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BS21P4			10YR2/1	黒	HC	良	あり	
BS22P1			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
BS22P3			10YR2/2	黒褐	SiC	良	あり	炭混、焼土混
BS22P4			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
BS22P5			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BS22P6			5Y2/1	黒	HC	良	あり	

第30表　土層注記表 (18)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
BS38P1			5Y2/1	黒	CL	やや良	なし	
BS38P2			10YR2/1	黒	CL	やや良	なし	
BS40P1		1	N2/0	黒	LS	良	なし	基本層序(A)XⅡ層
BS40P1		2	10Y5/2	オリーブ灰	SC	良	ややあり	基本層序(A)XⅣ層起源。埋戻し
BS40P2			5Y3/2	オリーブ黒	CL	良	なし	
BS43P1			7.5Y3/2	オリーブ黒	CL	良	なし	
BS43P3			10YR3/1	黒褐	CL	良	なし	
BS43P4			2.5Y3/1	黒褐	CL	良	なし	
BT00P1			2.5Y3/1	黒褐	CL	良	なし	
BT00P2			N1.5/0	黒	CL	良	なし	
BT00P3			N1.5/0	黒	CL	良	ややあり	
BT06P1			5Y2/1	黒	SiC	良	なし	
BT07P1			2.5Y2/1	黒	SC	良	あり	炭含む。貯蔵穴
BT17P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	50～60mmの灰褐ブロックを含む
BT18P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BT18P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BT18P3			7.5YR3/1	黒褐	HC	やや良	あり	
BT18P4			7.5YR2/1	黒	HC	やや良	あり	
BT18P6			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BT19P1			10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	
BT20P1			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
BT20P2			2.5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	
BT20P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	炭混
BT20P4			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
BT20P5			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BT21P1			10YR1.7/1	黒	LiC	良	ややあり	
BT21P2			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存
BT21P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	柱材遺存
BT21P4			5Y2/2	オリーブ黒	SiC	良	あり	礫混
BT21P5			2.5Y3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BT22P1			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BT22P3			5Y2/1	黒	HC	良	あり	
BT22P5			10YR2/1	黒	LiC	良	ややあり	
BT22P6			10YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
BT22P7			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	
BT22P8			10YR1.7/1	黒	HC	良	あり	炭混
BT41P1			5Y3/2	オリーブ黒	CL	良	なし	
BT49P1			10YR2/1	黒	CL	良	なし	
BT49P2			10YR2/1	黒	CL	良	なし	
BU07P1			5Y2/1	黒	S	良	なし	貯蔵穴(クリ出土)
BU10P1			7.5YR4/1	褐灰	SiC	良	あり	
BU12P1			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	貯蔵穴
BU17P2			5YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	
BU17P4		上	5Y2/1	黒	SiC	良	ややあり	
BU17P4		下	7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	70～80mm大の灰褐色ブロック含む
BU18P1		1	7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	柱材遺存。10～20mmの褐灰ブロック含む
BU18P1		2	7.5YR3/1	黒褐	HC	やや良	あり	
BU20P1			10YR1.7/1	黒	SiC	良	あり	
BU20P2			-	黒褐	-	-	-	
BU20P3			5Y2/1	黒	SiC	良	あり	
BU20P4			10YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BU20P5			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BU20P6			10YR2/1	黒	HC	良	あり	柱材遺存。炭混
BU20P7			10YR2/1	黒	HC	良	あり	炭
BU21P1			5Y2/1	黒	SiC	良	あり	
BU21P2			10YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	
BU21P3			10YR1.7/1	黒	SiC	良	ややあり	炭混

第31表　土層注記表 (19)

遺構名	旧遺構名層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
BU22P1		2.5Y2/1	黒	LiC	良	あり	
BU22P2		5Y2/2	オリーブ黒	LiC	不良	あり	
BU22P3		5Y2/1	黒	LiC	良	ややあり	
BU22P4		5Y2/1	黒	HC	良	あり	
BU44P1		10Y4/1	灰	CL	良	なし	
BV04P1		2.5Y3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
BV05P1		2.5Y3/1	黒褐	LiC	やや良	ややあり	
BV06P1	1	10YR3/1	黒褐	HC	不良	あり	
BV06P2	上	10YR1.7/1	黒	S	良	なし	
BV06P2	下	7.5Y2/1	黒	SiC	不良	ややあり	
BV09P1		10YR2/1	黒	HC	不良	あり	
BV11P1	上	7.5YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり	砂多い
BV11P1	下	7.5YR2/1	黒	HC	不良	あり	木片あり。粘土質
BV16P1	1	7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	柱痕。炭化物多量に含む
BV16P1	2	7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
BV17P2	1	7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	柱材遺存
BV17P2	2	7.5YR2/2	黒褐	HC	良	あり	20mmの褐灰ブロック含む
BV17P3		7.5Y3/3	暗褐	SiC	良	ややあり	
BV18P3	上	7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	ややあり	40～50mmの褐色ブロック含む
BV18P3	下	7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	炭化物多く含む
BV19P1		-	-	-	-	-	柱材遺存
BV22P1		5Y2/1	黒	SL	不良	あり	
BV22P2		10YR1.7/1	黒	HC	不良	あり	
BV22P3		5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
BV23P1		5Y2/1	黒	HC	不良	あり	
BV40P1		10YR2/3	黒褐	CL	不良	ややあり	
BV41P3		10YR3/3	暗褐	CL	良	なし	
BV41P5		10YR4/3	にぶい黄褐	CL	良	なし	
BV42P2		-	黒褐	-	-	-	
BV42P3		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
BW04P1		2.5Y3/1	黒褐	LiC	良	なし	
BW04P2		2.5Y3/1	黒褐	LiC	良	なし	
BW05P1		-	黒				
BW05P2		-	黒				
BW11P1		-	黒				
BW12P1	上	2.5Y3/1	黒褐	HC	やや良	あり	砂多量に含む
BW12P1	下	7.5YR2/1	黒	HC	不良	あり	粘土質
BW16P1		5YR3/1	黒褐	HC	良	なし	
BW16P3		7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	
BW16P4		7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BW16P5		-	-	-	-	-	柱材遺存
BW19P1		7.5YR3/2	黒褐	HC	良	ややあり	
BW19P2		7.5YR3/2	黒褐	SiC	良	ややあり	20～30mm褐色ブロック、4～5mm灰褐ブロック含む
BW39P1		5GY2/1	オリーブ黒	CL	良	なし	
BW39P2		10YR3/4	暗褐	CL	良	なし	
BW42P1		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
BW42P3		2.5Y3/2	黒褐	CL	良	ややあり	
BW42P4		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
BW43P2		10YR2/2	黒褐	CL	良	なし	
BW43P3		10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
BW44P1		2.5Y4/2	暗灰黄	S	良	なし	
BW44P3		2.5Y3/3	暗オリーブ褐	CL	良	なし	
BW45P1		2.5GY3/1	暗オリーブ灰	CL	良	ややあり	
BX12P1		-	黒	-	-	-	
BX16P3		7.5YR3/1	黒褐	HC	良	ややあり	
BX16P4		-	黒褐				柱材遺存

第32表　土層注記表 (20)

遺構名	旧遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
BX17P1		1	7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	あり	柱材遺存。径1～2mmの礫多く含む
BX17P1		2	7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
BX17P2		1	7.5YR3/1	黒褐	SiC			柱材遺存
BX17P2		2	7.5YR2/1	黒	HC	良	あり	
BX18P1		1	7.5YR3/1	黒褐	SiC	良	なし	柱材遺存。褐色ブロック多量に含む
BX18P1		2	7.5YR4/2	灰褐	LiC	良	なし	にぶい褐色ブロック多量に含む
BX18P1		3	7.5YR2/1	黒	HC	やや良	あり	
BX19P2			7.5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BX40P1			10Y4/1	灰	CL	やや良	なし	
BX40P2			10Y3/1	オリーブ黒	CL	良	なし	
BX40P3			10YR3/1	黒褐	CL	不良	なし	
BX40P4			2.5Y3/2	黒褐	CL	良	なし	
BX40P5			10YR3/2	黒褐	CL	良	ややあり	
BX40P6			5Y4/2	灰オリーブ	SC	良	ややあり	
BX41P1			10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
BX41P2			10YR3/2	黒褐	CL	良	なし	
BX41P4			5Y3/2	オリーブ黒	CL	ー	ややあり	
BX41P5			2.5Y3/3	暗オリーブ褐	CL	やや良	ややあり	
BX43P1			10YR3/1	黒褐	CL	良	ややあり	
BX43P3			7.5YR3/2	黒褐	CL	不良	なし	
BX45P2			10YR3/1	黒褐	CL	良	ややあり	
BX45P3			2.5Y3/1	黒褐	CL	良	ややあり	
BX46P1			10YR2/3	黒褐	CL	良	なし	
BX46P2			2.5Y3/1	黒褐	CL	良	なし	
BX46P3			2.5Y3/2	黒褐	CL	良	なし	
BY07P1			5YR4/1	褐灰	SiC	良	ややあり	
BY11P1			-	黒				
BY11P2			-	黒				
BY11P3			-	黒褐	-	-	-	木片
BY16P1			-	黒褐				
BY18P1			2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	
BY18P2			2.5Y3/1	黒褐	HC	良	あり	木・柱材遺存
BY18P4			7.5YR3/2	黒褐	HC	良	あり	
BY18P5			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
BY18P6			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
BY18P7			7.5YR2/2	黒褐	HC	良	ややあり	
BY19P1			5YR3/1	黒褐	HC	良	あり	
BY19P2			10YR3/1	黒褐	LiC	良	ややあり	
BY47P1			7.5Y1.7/1	黒	SiCL	良	なし	
BY48P1			7.5YR3/2	黒褐	SiCL	良	なし	
BY49P1			7.5Y3/3	暗褐	HC	良	ややあり	

第33表　土層注記表 (21)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
ST01P1			54×46×14		楕円		土ー坏D(内黒) 甕、須ー〔坏蓋H〕	
ST01P2			58×56×24		不整円形		土ー坏D 坏D(内黒) 甕	
ST01P3			60×56×36		不整円形		土ー坏D(内黒) 鉢(内黒) 高坏 甕F	
ST01P4			56×52×43		円形		土ー坏D 高坏(内黒) 鉢C(内黒) 甕F 台付甕	台付甕は4C代
ST01P5			62×56×52		楕円		土ー坏D(内黒) 甕F	
ST01P6			60×56×42		円形		土ー坏D(内黒) 甕F 甕G	
ST01P7			62×62×27		円形		土ー坏D(内黒) 甕F、須ー〔坏蓋〕	
ST01P8			60×48×28		楕円?		土ー坏D 高坏 甕、須ー坏H	
ST02P1	BQ41P1		66×56×46		楕円		土ー鉢 小型甕C	
ST02P2	BR40P1		60×50×39		楕円		土ー坏D 高坏(内黒) 小型甕C 甕F	
ST02P3	BS41P1		68×(50)×52		楕円?		土ー坏D 坏D(内黒) 高坏 甕F、弥ー壺	土ー坏Dは4C末?～5C前
ST02P4	BS42P2		56×48×18		楕円		土ー坏D 高坏 甕F	
ST02P5	BS43P2		66×62×16		不整円形		土ー甕F	
ST02P6	BR43P1		54×50×64(75)		不整円形		土ー坏D 甕	
ST03P1	SB04P3		54×40×23(26)		不整楕円			
ST03P2	SB04P2		76×(58)×21(29)		楕円?			
ST03P3	BU42P2		44×38×52		楕円		土ー甕	ST04P7と重複
ST03P4	BV42P5		56×(40)×42(52)		楕円?		土ー坏 高坏 高坏(内黒) 甕、須ー甕	土ー高坏(内黒)は5C後半～6C初
ST03P5	BV43P2		32×30×13		円形		土ー小型甕	
ST03P6	BU44P2		60×52×21(29)		楕円		土ー甕	
ST03P7	BT44P1		68×68×21(31)		円形		土ー高坏 甕 小型壺	
ST03P8	BT43P1		64×54×15(29)		楕円			
ST03P9	BS43P5		60×50×20		楕円		土ー坏 〔鉢(内黒)〕 甕	
ST03P10	BS42P1		50×43×14		不整楕円		土ー甕	
ST04P1	BU40P1		80×70×44		不整楕円		土ー坏D(内黒) 甕A 甕F	
ST04P2	BV41P2		86×(70)×35		不整楕円		土ー坏D 坏D(内黒) 高坏 甕、須ー坏蓋H	SA05P4と重複
ST04P3	BV41P4		-×50×53		楕円?		土ー甕	
ST04P4	BV41P1		70×68×30(48)		円形		土ー坏D(内黒) 甕	
ST04P5	BV42P4		60×55×46		円形		土ー坏D 甕	
ST04P6	BV43P5		65×55×33		楕円?		土ー甕 小型甕	
ST04P7	BU42P2		98×85×33(52)		楕円?		土ー甕	ST03P3と重複
ST04P8	SB04P2		64×(52)×21		楕円?		土ー坏D(内黒) 高坏 甕	
ST04P9	SB04P6		65×60×33		不整円形		土ー甕F	
ST04P10	BU41P1		80×62×41		不整楕円		土ー坏D 甕	
ST05P1	BX44P2		66×(66)×44		円形?		土ー甕F 甕G	
ST05P2	BX44P1		-		―		土ー甕	
ST05P3	BW44P2		64×62×30		不整形			
ST05P4	BW43P1		74×72×54		不整円形		土ー坏 坏D(内黒) 甕	
ST05P5	BV43P1		80×80×45(52)		不整円形		土ー坏 坏D(内黒) 高坏 甕F	
ST05P6	BW42P7		76×(60)×25(49)		楕円?		土ー坏D(内黒) 甕F	
ST05P7	BW42P6		50×-×43		―		土ー坏D(内黒) 甕	
ST05P8	BX42P1		68×64×19		円形		土ー甕	
ST05P9	BX43P2		68×(68)×42(45)		円形		土ー甕	
ST06P1	BW38P1		80×78×19		円形			
ST06P2	BX39P2		76×70×43		楕円		土ー坏D(内黒) 甕F	
ST06P3	BX39P1		80×74×19		楕円		土ー甕	
ST06P4	BY40P1		38×38×34		不整円形		土ー高坏 甕	
ST07P1			56×44×46		楕円			
ST07P2	BW41P1		60×60×38		円形?		土ー甕	
ST07P3	BX41P3		62×50×30		楕円		土ー甕	
ST07P4	BX42P2		72×62×48(58)		楕円		土ー坏 高坏 甕F 甕G	
ST07P5	BW42P2		66×56×55		楕円		土ー坏D(内黒) 甕	

第34表 遺構属性表(1)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm) 主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
ST07P6	BV42P1		76×64×50	楕円		土－小型甕	
ST08P1			30×28×15	円形			
ST08P2	BQ01P1		38×38×16(23)	円形		土－小型甕	
ST08P3			34×34×13	円形			
ST08P4			32×32×22(30)	円形			
ST08P5	BP01P1		44×40×24	不整円形		土－甕	
ST08P6			26×26×16	円形			
ST09P1	AG05P6		60×(48)×11(20)	楕円？		土－甕	
ST09P2	AF05P3		48×36×25	不整楕円		土－坏 甕	
ST09P3	AE04P1		70×64×27	不整楕円		土－甕	
ST09P4	AF03P5		60×46×24	楕円		土－甕F	
ST09P5	AF03P7		62×50×20(30)	楕円			
ST09P6	AG04P1		52×42×41	楕円		土－甕	
ST09P7	AH04P2		56×48×36	不整楕円		土－高坏	
ST09P8	AH04P3		-×48×32	―		土－甕、黒B－坏D	
ST10P1	AF03P3		60×-×11(21)	不整楕円			
ST10P2	AE03P2		(80)×70×45	不整楕円		土－坏D(内黒) 高坏 高坏(内黒) 甕A 甕F 小型甕、須－坏 坏蓋H 高坏	須-高坏は6C
ST10P3	AE02P2		60×60×40(48)	不整円形		土－坏D(内黒) 甕F	土－坏D(内黒)は7C前半
ST10P4	AF02P1		34×30×17	円形		土－甕	
ST10P5	AF02P2		46×46×43(46)	不整円形		土－坏D 甕	
ST10P6			110×58×22	不整楕円			
ST11P1	AH04P4		(60)×52×31	不整楕円		土－坏 高坏 甕F 甕G、黒B－坏D	土－坏Dは7C前半
ST11P2			60×50×7(13)	楕円			
ST11P3	AG06P3		40×(40)×10	円形？		土－坏D(内黒)	
ST11P4			53×40×16	不整形			
ST11P5	AF04P5		78×58×11	不整楕円		土－甕、須－甕	
ST12P1	AK07P1		70×-×35	―		土－坏D(内黒) 甕F	
ST12P2	AJ07P2		70×70×24	不整円形		土－甕F	
ST12P3	AJ08P1		68×54×31	不整楕円		土－甕F 台付甕	
ST12P4			(76)×(64)×7	楕円？			
ST12P5	AH08P1		100×84×34	不整楕円		土－高坏 甕、須－坏H 坏蓋H 高坏、縄文－〔後期〕、弥－壷	土－高坏は5C後半～6C初、須－坏蓋H・坏Hは6C前半、高坏は5C後半～6C初
ST12P6	AG07P2		100×70×31	楕円		土－坏D(内黒) 高坏 甕、須－坏蓋	
ST12P7	AG07P1		80×80×28	円形		土－坏D 坏D(内黒) 高坏 高坏(内黒) 甕	土－高坏(内黒)は6C前葉～中葉
ST12P8	AG06P1		(76)×56×21(29)	楕円		土－坏 坏D(内黒) 甕	
ST12P9	AG05P9		94×60×67	楕円		土－坏D 坏D(内黒) 高坏(内黒) 甕F	
ST12P10	AH04P6		100×84×29	不整形		土－甕F	
ST12P11	AI07P3		50×50×14	円形？		土－甕	
ST12P12	AI07P1		66×62×11(19)	円形		土－坏 甕	
ST12P13	AH06P2		56×56×15	円形			
ST13P1	AK07P3		80×(58)×24	楕円		土－甕	
ST13P2	AJ07P1		52×48×24	円形		土－甕、弥生	
ST13P3	AI06P4		44×42×20	円形		土－甕	
ST13P4	AH06P1		50×40×24	楕円		須－甕	
ST13P5	AH05P1		68×50×46	楕円		弥－甕	
ST13P6	AH04P1		84×72×39	楕円			
ST14P1	AH08P2		(40)×34×15	楕円？		土－坏 高坏	

第35表 遺構属性表(2)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
ST14P2	AG09P3		42×40×21		楕円		土－甕、弥－壷	
ST14P3	AF09P2		36×30×13		楕円		弥－甕	
ST14P4	AE08P2		35×34×13		円形			
ST14P5	AD08P1		45×38×15		楕円		土－甕	
ST14P6	AE07P1		28×26×21		円形			
ST14P7	AE06P3		45×43×28		円形		須－甕	
ST15P1	AG10P1		66×50×42		円形		土－坏D　甕、弥－甕	
ST15P2	AF09P3		70×64×43		不整楕円		土－坏D　甕	
ST15P3	AE09P1		54×-×28		―		土－甕、須－高坏	須－高坏は5C後半～6C初
ST15P4	AF08P1		48×42×17		楕円		土－坏D(内黒)　小型甕D	
ST15P5	AF08P2		92×68×19(52)		不整楕円		土－坏D　高坏　甕	
ST15P6	AG08P1		78×58×47		楕円			
ST15P7	AH09P1		80×64×57(64)		不整楕円		土－坏D　高坏　甕F	土－坏Dは5C後半～6C前半
ST16P1	AI13P3		(42)×40×26		円形		弥－壷	
ST16P2	AH12P2		(50)×44×39		楕円		土－高坏　甕	
ST16P3	AH12P3		56×48×19		楕円		土－甕B　甕	
ST16P4	AH11P1		42×42×24		円形			
ST16P5	AI11P3		43×42×24		円形		土－甕	
ST16P6	AI12P1		62×50×43		楕円		土－坏D　甕F	
ST17P1	AK14P1		80×62×30		楕円		土－甕A　甕F、須－坏H	須－坏Hは6C後半？
ST17P2	AK14P3		76×44×48		楕円		土－甕	
ST17P3	AJ14P3		66×(50)×24		楕円？		土－甕F、須－甕	
ST17P4	AJ13P4		(116)×80×40		楕円？		土－坏D　坏D(内黒)　甕B　甕F　甕G　甕、須－不明、縄、弥－甕	
ST17P5	AI13P2		68×58×33		不整楕円？		土－〔高坏(内黒)〕甕F	
ST17P6	AH12P1		80×72×48		不整楕円		土－坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　鉢(内黒)　小型甕　甑、須－坏B　甕	須－坏Bは8C代
ST17P7	AI11P4		72×66×30		楕円		土－坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕B　甕F、須－甕〔長頸壷〕	土－高坏(内黒)は6C後半～7C初
ST17P8	AI11P1		84×58×17		楕円		土－坏B(内黒)　坏　坏D(内黒)　高坏　甕B　甕、須－甕	
ST17P9	AI10P2		78×72×37		楕円		土－坏D　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕F　小型甕	土－高坏(内黒)は6C前葉～中葉？
ST17P10	AJ11P1		64×60×17		円形		土－坏D　坏D(内黒)　高坏　甕F、須－坏蓋B　鍋	土－坏D(内黒)は7C前半
ST17P11	AK11P2		(74)×72×39		不整円形		土－坏D　坏D(内黒)　甕F	
ST17P12	AK12P1		58×52×36		不整楕円			
ST17P13	AL12P1		80×68×31		不整楕円		土－坏D？　甕F	
ST17P14	AL13P2		68×(66)×44		不整円形		土－坏D　鉢(内黒)　甕F、須－甕	
ST17P15	AL14P1		(60)×50×49		楕円？		土－坏D　甕、須－甕	
ST18P1	SB23P8		(58)×38×15		楕円？		土－坏D　坏D(内黒)　高坏　鉢　甕　小型甕A	SB23P8を兼ねる
ST18P2	SB23P2		40×28×34		楕円			
ST18P3	AI18P1		42×34×20		不整楕円		土－〔坏D(内黒)〕甕、須－坏蓋A	須－坏蓋Aは7C後半
ST18P4	AH17P1		70×44×27		楕円			
ST18P5	AI17P1		90×70×28		不整楕円		土－甕	
ST18P6	AI16P2		96×80×47		不整楕円		土－坏　甕	
ST18P7	AJ16P1		100×68×39		楕円		土－坏D　坏D(内黒)　高坏　鉢C(内黒)　甕、弥－甕	

第36表　遺構属性表(3)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
ST18P8	AK16P3		172×(124)×22		不整楕円		土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕A　甕F、須ー坏B	土ー坏D(内黒)は6C後半～7C初、須ー坏Bは8C代？
ST18P9	AK17P1		70×58×32		楕円		土ー甕F	
ST19P1	AG17P2		54×52×30		円形		土ー坏D　甕、縄ー後期中葉	
ST19P2	AF16P1		(64)×58×37		楕円？		土ー高坏　甕　台付甕	
ST19P3	AF16P2		48×44×28		不整円形		土ー坏　甕	
ST19P4	AF15P1		40×28×22		楕円		土ー坏　甕	
ST19P5	AG14P6		50×47×34		不整円形			
ST19P6	AG15P2		(60)×60×37		円形		土ー甕G　甕F、弥ー甕	
ST19P7			(70)×54×49		楕円？			
ST20P1	AD16P2		40×40×31		不整円形		土ー坏D　高坏　甕　甕G、縄ー中期、弥ー壷片	土ー高坏は5C後半～6C初？
ST20P2	AC15P4		34×30×24		楕円			
ST20P3	AC15P3		58×50×31(39)		不整楕円		土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　〔鉢〕甕	
ST20P4	AB14P2		60×44×35		楕円		土ー甕	
ST20P5	AB14P5		43×30×30		楕円			
ST20P6	AB12P1		40×38×15(46)		円形		土ー甕	
ST20P7	AC12P1		56×52×7(40)		円形		土ー〔坏D〕	
ST20P8	AD12P2		44×38×41		楕円		土ー甕F	
ST20P9	AE13P5		38×36×40		円形			
ST20P10	AF14P7		40×32×45		楕円			
ST20P11	AE15P5		52×48×42		円形			
ST20P12	AE15P4		43×38×35		円形		土ー甕、弥ー壷片	
ST21P1	SB33P7		72×64×35		不整楕円		土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕B　甕F　甕G、須ー提瓶	土ー坏Dは5C後半～6C初、須ー提瓶は6C
ST21P2	AA16P4		(60)×52×24		楕円？		土ー坏D　高坏　甕F　甕　台付甕、須ー甕	
ST21P3	AA16P3		64×50×24		楕円		土ー坏　坏D(内黒)　高坏(内黒)　甕F　台付甕、須ー壷蓋	台付甕は4C
ST21P4	AA16P5		56×50×17(27)		楕円		土ー坏D(内黒)　甕F	
ST21P5	AA15P3		50×50×5(13)		円形		土ー坏D(内黒)　甕F	土ー坏D(内黒)は7C前
ST21P6	AA15P4		50×44×27		楕円			
ST21P7	AB15P2		74×64×34		楕円		土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕A　甕F	土ー坏Dは5C後半～6C初
ST21P8	SB33P11		63×56×26		不整円形		土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
ST22P1	AC19P3		66×62×35(47)		円形		土ー坏D　坏D(内黒)　鉢C　甕B　甕F　小型甕、須ー甕A　壷蓋	
ST22P2	AB19P1		(100)×95×32		不整楕円		土ー坏F(内黒)　坏D　坏D(内黒)　甕F、須ー〔鼎〕	
ST22P3	AA19P3		68×50×31		不整楕円		土ー坏D(内黒)　高坏　甕B　甕F、黒Bー坏D	
ST22P4	AA19P4		34×30×13(19)		円形			
ST22P5	AA18P1		68×48×60		不整楕円		土ー〔坏D〕〔坏D(内黒)〕高坏　甕B　甕F、須ー甕	
ST22P6	AA17P1		(56)×46×19		不整楕円		土ー坏D　坏D(内黒)　甕B　甕F	
ST22P7	AB17P5		46×38×20		楕円		土ー甕	
ST22P8	AA17P6		40×34×11		楕円		土ー坏D(内黒)　鉢C(内黒)　甕F	
ST22P9	AC17P3		64×58×27(40)		楕円		土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　鉢C(内黒)　甕F、須ー〔高坏〕	土ー坏Dは6C前葉～中葉、高坏は5C後半～6C初、須ー高坏は5C後半

第37表　遺構属性表(4)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
ST22P10	AC18P4		64×54×24		不整楕円		土ー坏D(内黒) 甕A 甕B 甕F 小型甕	
ST22P11	AC19P4		(60)×48×9		楕円？		土ー坏D(内黒) 甕	
ST23P1	AB18P6		60×35×17(34)		不整楕円		土ー高坏 甕	
ST23P2			35×34×20		不整円形			
ST23P3	AB18P5		48×40×24		楕円		土ー坏 鉢C 甕	
ST23P4	AA19P1		72×70×32		円形		土ー甕F	
ST23P5	BY18P3		38×38×46		円形			
ST23P6	AA17P5		48×-×7		ー		土ー坏D(内黒)〔甕B〕甕F	
ST23P7	AB17P7		75×65×13(27)(33)		楕円		土ー高坏 甕F	
ST23P8			30×25×33		楕円			
ST24P1	SB32P5		(105)×75×31		楕円？		土ー坏D 高坏 甕A 甕F	
ST24P2	SB32P1		70×65×44		楕円		土ー高坏 甕B 甕F	
ST24P3	AC20P3		65×57×25		楕円		土ー甕〔甕B〕	
ST24P3	AC20P3		××					
ST24P4	AC20P4		72×-×18(28)		ー		土ー坏 高坏 甕F 甕	
ST24P5	AB19P1		(100)×90×32		楕円		土ー坏D 坏D(内黒) 坏F(内黒) 甕F、須ー〔鼎〕	土ー坏F(内黒)は6C後半～7C初
ST24P6	AB18P1		66×62×36		円形		土ー坏F(内黒) 坏(内黒) 鉢C(内黒) 甕	
ST24P7	AC18P3		69×67×41		不整円形		土ー〔坏〕高坏 鉢C(内黒) 甕A 小型甕A	
ST24P8	AC17P2		57×51×51(67)		楕円		土ー坏〔鉢C〕甕	
ST24P9	AD17P2		65×65×45(51)		円形		土ー坏D 高坏 甕F、須ー蓋、弥ー甕	
ST24P10	AE18P6		60×52×50		楕円		土ー坏D 甕	
ST24P11	AE18P1		64×62×46(55)		円形		土ー坏 坏D(内黒) 高坏 高坏(内黒) 甕F 甕G、縄文後期	土ー高坏は5C後半
ST24P12	AF19P2		80×60×54		楕円		土ー坏D(内黒) 坏F(内黒) 坏(内黒) 高坏 甕F 台付甕	土ー坏F(内黒)・坏D(内黒)は6C後半～7C初
ST24P13	AF19P3		82×54×54		楕円		土ー甕A 甕F	
ST25P1	AC20P6		60×46×23		楕円		土ー甕B 甕F	
ST25P2	AB20P1		62×48×30		楕円		土ー甕F	
ST25P3	AA20P1		57×55×19(26)		円形		土ー坏 高坏 甕	土ー高坏は5C代後半
ST25P4	AB19P1		(100)×90×32		楕円		土ー坏D 坏D(内黒) 坏F(内黒) 甕F、須ー〔鼎〕	
ST25P5	AC20P5		65×48×16		楕円？		土ー坏 坏D(内黒) 甕	
ST25P6	AC20P2		58×54×39		円形		土ー坏 甕A 甕F 台付甕、弥ー甕	
ST26P1	BX18P2		94×51×22		楕円		土ー坏(内黒) 甕F	
ST26P2	BW18P1		84×60×20(23)		不整楕円		土ー高坏 甕F	
ST26P3	BW17P1		73×60×15(32)		楕円		土ー坏D(内黒) 甕F	
ST26P4	BW16P2		60×54×17		不整楕円		土ー高坏〔鉢(内黒)〕甕B 甕F 台付甕	
ST26P5	BX16P2		70×52×17		楕円		土ー高坏 甕F 台付甕、須ー鼎	須ー鼎は5C末
ST26P6	BX16P1		62×58×18(21)		円形		土ー坏 坏(内黒) 甕F	
ST26P7	BY17P1		32×24×34		楕円		土ー坏D(内黒) 高坏(内黒) 甕F、須ー甕	土ー甕Fは奈良
ST27P1	BV18P1		94×50×46		楕円			
ST27P2	BU19P1		100×82×32		不整楕円		土ー坏 坏D(内黒) 鉢C(内黒) 甕B 甕F 甕、須ー坏蓋H 甕、縄ー〔中期〕	
ST27P3	BT18P5		60×54×2(39)		不整楕円		土ー高坏 甕	
ST27P4	BS18P2		62×48×18		円形		土ー坏 高坏 甕	

第38表　遺構属性表(5)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
ST27P5	BT17P2		70×66×31		円形		土－甕	
ST27P6	BU17P3		96×82×28		楕円		土－坏D(内黒) 甕F 甕、須－坏蓋H	
ST27P7	BV17P1		66×56×36		楕円		土－〔坏F〕 高坏(内黒) 甕F	
ST28P1	BS19P1		82×67×37		不整楕円		土－坏D 甕F 甕G	
ST28P2	BS20P3		92×62×37		不整楕円		土－坏D 坏D(内黒) 高坏(内黒) 〔鉢B(内黒)〕 甕F 〔小壷〕、黒B－不明、須－坏蓋H 碌	須－碌は5C後半
ST28P3	BS20P2		60×(50)×34		楕円？		土－坏D(内黒) 高坏 高坏(内黒) 鉢C(内黒) 甕B 甕F	土－高坏(内黒)は5C代
ST28P4	BR21P5		70×59×42		楕円		土－坏 坏D(内黒) 高坏 甕F 鉢(内黒)、須－坏蓋H	須－坏蓋Hは5C代
ST28P5	BR21P2		60×58×34(36)		円形		土－坏D(内黒) 椀C 高坏(内黒)甕F 台付甕	
ST28P6	BQ21P1		62×55×25(39)		楕円		土－甕G	
ST28P7	BQ20P1		70×62×43		不整楕円		土－〔椀C〕 高坏 甕 台付甕	土－高坏は中期
ST28P8	BP20P1		74×55×19		楕円		土－甕	
ST28P9	BQ19P1		60×58×30		円形		土－高坏 坏D(内黒) 高坏 高坏(内黒) 甕F	
ST29P1	BR23P1		50×50×38		円形		土－坏D 高坏 甕	
ST29P2	BS22P2		(50)×(40)×25		楕円		土－坏 鉢(内黒) 甕 〔小型甕A〕	鉄滓
ST29P3	BS21P1		80×64×26		楕円？		土－坏D 坏D(内黒) 甕	
ST29P4	BT22P2		70×64×36(46)		楕円？		土－坏D 甕、叩土－坏A	
ST29P5	BT22P4		75×70×43		円形			
ST29P6	BU23P1		60×60×22		円形		土－坏D 坏D(内黒) 高坏(内黒) 甕 不明、須－坏A	
SK01		AS27	74×74×14	N0° W	円形	僅少	陶－中碗(染付／灰釉／内面五弁花／瀬戸美濃系／近世)	銅銭 14枚以上
SK02		AO28	67×47×32	N55° E	楕円	僅少	磁－小碗(端反形／染付／透明釉／山水文か／肥前系) 小碗(半球形／染付／透明釉／草花文か)	
SK03		BW46	132×102×18	N20° E	不整形	僅少	土－甕	
SK04		BV39	179×-×12	N40° E	不整形	僅少	土－坏D1 高坏A2	
SK05		BR02	149×(90)×10	N50° E	楕円	僅少	土－〔坏D〕〔小型甕〕	
SK06		BM41	90×87×18	N35° E	円形	僅少	土－坏 高坏A 小型甕、須－甕	
SK07		BT00	194×88×20	N50° E	楕円	僅少	土－甕？ 小型甕 小型甕B、須－甕	
SK08		B048	-×-×16	―	―	僅少	土－坏D 〔小型甕〕、須－甕	
SK09		BN49	115×-×41	N53° W	楕円	僅少	須－甕、木－不明	
SK10		BM44	106×77×18	N10° E	楕円	僅少	土－坏D 坏D(内黒) 高坏A 甕F1 壷、磁－中碗(半球形／染付／透明釉／草花文／瀬戸系)、〔埴輪〕	〔埴輪〕はSX06に同一個体あり
SK11		BG48	105×92×45	N47° E	円形	僅少	土－坏D1(内黒) 坏D2 坏D2(内黒)坏D(内黒) 高坏A(内黒) 甕F1 小型甕壷、須－坏A 坏B 坏蓋B 甕〔長頸壷〕、陶－小皿(呉須絵／灰釉／瀬戸美濃系) 不明(鉄釉)〔皿(長石釉)〕	
SK12		BJ45	107×70×34	N55° W	楕円	僅少	土－甕F、木－栓 部材 建築部材 不明	
SK13		BS04	164×125×33	N70° E	楕円	僅少	土－坏D(内黒) 高坏 甕 小型甕A 小型甕B、須－坏蓋H	
SK14		BY09	205×152×25	N78° E	不整形	僅少	土－坏D(内黒) 高坏？ 甕、須－坏A 坏H 蓋、砥石	平安
SK15		BX13	129×92×13	N85° E	楕円	僅少	土－坏D 坏D(内黒) 高坏 甕F 甕 小型甕、須－坏蓋 甕	
SK16		BV17	-×77×19	N15° E	楕円			

第39表 遺構属性表(6)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
SK17		BV10	92×90×38	N73° W	円形	僅少	土ー坏D1(内黒) 坏D 高坏A 鉢C(内黒) 台付鉢 甕F 小型甕 甑、須ー〔坏〕	
SK18	BX09P1	BX09	110×107×89	N20° E	円形	僅少	土ー坏D1 坏D(内黒) 甕 小型甕F 小型甕 甑A 甑、木ー〔栓〕 部材 〔建築部材〕 不明	
SK19		BQ16	127×127×14	N20° E	円形	僅少	土ー〔坏〕	
SK20	BX14P1	BX14	-×-×35	―	不整形	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 〔甕〕	
SK21		BV16	210×117×51	N30° E	不整形	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A 高坏A(内黒) 鉢D 甕F 小型甕F 小型甕、須ー坏蓋H 短頸壷	
SK22		BU07	119×91×23	N80° E	楕円	僅少	土ー坏 高坏A 甕F 〔甑〕、須ー坏B	
SK23		BT09	81×59×11	N85° W	楕円	僅少	土ー〔甕〕	
SK24		BY48	(142)×-×16	―	―	僅少	土ー高坏 甕 小型甕、須ー坏B	
SK25		AD02	146×142×51	N46° W	円形	僅少	土ー坏D1 高坏 鉢C(内黒) 甕B 台付甕 小型甕、須ー坏A 坏蓋 高坏 甕 短頸壷、陶ー甕(常滑／中世)〔小皿(灰釉／近世)〕	平安
SK26		BY47	-×-×21	―	―	僅少	土ー坏D 甕B 甕F 小型甕、須ー甕	
SK27		AE05	149×148×46	N33° W	不整形	僅少	土ー坏D1(内黒) 坏F1 坏D 小型甕 壷、須ー〔坏B〕 盤 甕 提瓶、木ー不明、陶ー極小皿(釉不明／近世) 不明(透明釉／近世)	
SK28		BS21	143×124×15	N70° W	不整形	僅少	土ー坏D(内黒) 甕F 小型甕F 甑F、須ー坏B	
SD01		BX41	(377)×34×7	N60° W	直線状	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 甕F 甕 小型甕A、須ー甕	
SD02		BW41	344×20×7	N57° W	直線状	僅少	土ー坏 鉢D 甕	
SD03		AO28	(549)×95×13	N20° E	やや蛇行			
SD04		AP28	(886)×49×31	上流 N45° E 下流 N20° E	湾曲			
SD05		AO26	(122)×27×17	N73° E	直線状			
SD06		AQ26	(463)×64×27	N60° W	やや蛇行			
SD07		AQ26	(572)×63×12	上流 N58° W 下流 N45° E	屈折			
SD08		BU37	(229)×82×8	N25° E	直線状			
SD09		BR48	(326)×24×20	N83° W	直線状	僅少	土ー坏D1 坏(内黒) 甕	
SD10		BM42	(399)×252×26	N10° E	―	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A 甕B 甕 小型甕F、須ー坏B 坏蓋H 盤 甕A	
SD11		BJ01	(215)×173×62	N32° E	―	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A2 高坏A 高坏(内黒) 甕F 小型甕A、須ー坏A 盤 甕、木ー部材、磁ー小碗(半筒形／瀬戸)	
SD12		BL45	(1004)×285×28	N7° E	やや蛇行	やや多い	土ー坏D1 坏D1(内黒) 坏D2 坏D2(内黒) 坏D 坏D(内黒)' 高坏A2(内黒) 高坏A3 高坏A(内黒) 甕A 甕B 甕F2 甕F 小型甕A 小型甕 壷A 壷 甑A1、須ー坏A 坏B 坏H 鉢D 甕 蓋I 長頸壷 〔壷蓋〕 瑕A〔提瓶〕、灰ー椀、木ー槽脚部 曲物底板 竪杵 栓 部材 建築部材 不明、〔土師系〕、陶ー中碗(鉄釉／瀬戸美濃系)、丸瓦	丸瓦はSD19と接合

第40表 遺構属性表(7)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
SD13		BH45	(826)×337×26	N75° E	直線状	やや多い	土ー坏D2 坏D 坏D(内黒) 高坏A3 高坏A 高坏A(内黒) 鉢D 甕B 甕F 2 甕F 壷A 小型甕A 小型甕F 甑A 1、須ー坏A 坏B 坏H 坏蓋B 坏蓋H 椀蓋 鉢D 甕A 甕 長頸壷 蓋、灰ー椀、木ー横鍬泥除未成品 曲物底板 槽有頭状 〔栓〕 部材 建築部材(横架材他) 杭 不明、陶ー小碗(灰釉／近世)、丸瓦	
SD14		BK01	(810)×176×19	N30° E	やや蛇行	僅少	土ー坏D1 坏D1(内黒) 坏D2 坏D 高坏A2 高坏A(内黒) 小型甕 壷D、口土ー椀、須ー坏蓋B 甕 不明、木ー部材 建築部材(台輪他) 不明	
SD15		BL49	(700)×150×25	N17° E	やや蛇行	僅少	土ー坏D(内黒) 坏D 高坏A 高坏A(内黒) 甕A 甕B 甕F 小型甕A、須ー坏A 坏H 甕、木ー部材 不明	
SD16		BK01	(285)×105×20	N10° W	やや蛇行	僅少	土ー坏A(内黒) 坏F1(内黒) 高坏A 高坏A(内黒) 甕A 甕 小型甕A 小型甕、木ー梯子 部材	
SD17								欠番
SD18		BN47	-×-×-	―	―	僅少	坏D1 坏D2 坏D2(内黒) 坏D 坏D(内黒) 高坏A 甕A 甕F 甕 小型甕A 小型甕F、須ー坏D 坏H 甕、木ー部材(容器か他) 杭 不明	
SD19		BM44	-×10×-	N15° E	―	僅少	土ー坏D2 坏D 坏D(内黒) 高坏A2(内黒) 高坏A(内黒) 甕A 甕B 甕F 小型甕A 壷、須ー甕 〔甑A〕 短頸壷D 不明、木ー部材 不明、〔平瓦〕 丸瓦	丸瓦はSD12と接合
SD20		BM45	(736)×510×39	N10° E	蛇行	僅少	土ー坏D1(内黒) 坏D2 坏D2(内黒) 坏D 坏D(内黒) 高坏A 高坏A(内黒) 鉢D 甕A 甕F 小型甕、須ー甕 壷蓋 碌A、木ー下駄 栓 部材 不明	
SD21		BO49	(733)×(95)×9	N7° E	―	僅少	土ー坏 甕	
SD22		BS01	(243)×124×13	N20° E	直線状			
SD23		BR02	(297)×120×18	N10° E	やや蛇行	僅少	土ー坏 甕	
SD24		BH46	(302)×96×4	N50° W	直線状	僅少	土ー坏D2 坏D(内黒) 坏F1 坏D 甕F 小型甕A、須ー坏B、木ー部材 杭(建築部材転用)	
SD25		BG48	(473)×114×45	N55° W	直線状			
SD26		BT04	(512)×161×18	N35° E	直線状	僅少	土ー坏D(内黒) 高坏A3 甕 小形甕 甑 壷、須ー坏A 甕 坏蓋、灰ー碗	
SD27		BX08	(592)×166×21	N23° E	やや蛇行	僅少	土ー坏D1 坏D 坏D(内黒) 高坏A 甕F 小型甕 壷、須ー坏B 甕 碌A	
SD28		BY14	136×38×6	N37° E	直線状	僅少	土ー坏 甕	
SD29		BY06	229×49×15	N40° E	直線状	僅少	土ー坏 高坏A2 小型甕	
SD30		BT14	(1485)×304×31	N40° W	やや蛇行	少ない	土ー坏D1 坏D1(内黒) 坏D 坏D(内黒) 高坏A3 高坏A(内黒) 高坏 甕A 甕F 小型甕 甑 壷、口土ー坏G1(内黒)、須ー坏A 坏蓋B 甕 長頸壷、灰ー碗、木ー〔農具〕 部材 杭 不明、土師質ー小皿、陶ー〔中瓶(鉄絵／花卉文／透明釉／瀬戸美濃系か／近世)〕	
SD31		BQ15	1070×54×27	上流 N30° E 下流 N55° W	屈折	僅少	土ー坏D1 坏D2 高坏 鉢D 甕 小型甕 壷A	
SD32		BQ18	(161)×96×57	N50° E	湾曲			

第41表　遺構属性表(8)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
SD33		BQ06	(770)×286×13	N25° E	蛇行	僅少	土ー坏D1(内黒) 坏D 坏D(内黒) 坏F(内黒) 高坏A 甕A 甕F 小型甕、木ー部材	
SD34		AA48	(180)×35×8	N47° E	直線状	僅少	土ー甕	
SD35		AE03	(342)×59×25	上流 N9° W 下流 N38° W	湾曲	僅少	土ー坏D1(内黒) 鉢D 甕A 甕F 小型甕 甑A1 甑、須ー甕 坏蓋A 〔長頸壷〕	
SD36		AA48	(222)×89×30	上流 N20° W 下流 N34° E	湾曲	僅少	土ー坏D(内黒) 高坏A2 甕F 小型甕 甑、灰ー〔長頸壷〕	
SD37		AG04	(307)×32×10	N30° E	直線状	僅少	土ー甕A 〔甕〕、須ー器台	
SD38		AG04	(293)×29×8	N30° E	直線状			
SD39		AC09	(422)×57×8	N45° E	蛇行	僅少	土ー高坏A 甕F 〔小型甕〕	
SD40		AG49	(445)×247×32	N60° W	やや蛇行	僅少	土ー坏D1(内黒) 坏D2 坏D 坏D(内黒) 高坏A 高坏B 甕F 小型甕A 小型甕F、須ー坏A 坏B 甕 長頸壷 短頸壷 〔鼎A〕	
SD41		AF11	117×23×6	N30° E	直線状	僅少	土ー坏D(内黒) 〔甕〕	
SD42		AJ15	(850)×35×24	N20° E	直線状	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏 甕B 甕 小型甕A 小型甕B、須ー甕 〔壷〕、灰ー〔椀〕、陶ー不明	
SD43		AE12	-X-X8	―	―	僅少	土ー坏 高坏A 鉢C(内黒) 甕 小型甕	
SD44		AF15	(97)×35×9	N35° E	直線状	僅少	土ー高坏A(内黒) 〔甕〕 小型甕	
SD45		AE15	615×52×12	N63° E	直線状	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A(内黒) 甕F 小型甕 壷、須ー坏蓋 〔鉢〕、弥ー後期前半甕	
SD46						僅少	土ー甕	
SD47		AF15	410×53×12	N70° E	蛇行	僅少	土ー坏D1(内黒) 高坏 甕F 小型甕、須ー坏B	
SD48	AE15P3	AE15	354×68×11	N70° E	直線状	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 甕F 台付甕 小型甕、須ー坏 坏蓋H 甕 〔蓋〕	
SD49		AD16	(705)×41×9	N45° E	やや蛇行	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A 甕A 小型甕A 小型甕F	
SD50		AC14	760×118×35	N40° E	直線状	僅少	土ー坏D1 坏D1(内黒) 坏D2 坏D 坏D(内黒) 高坏A 高坏A(内黒) 甕A 甕F 小型甕A 甑、須ー甕A、木ー部材	
SD51		AC14	-X-X22	N26° E	―	僅少	土ー坏D2 坏D 坏D(内黒) 高坏 甕F 小型甕A 小型甕F	
SD52		AC16	265×54×19	N70° E	直線状	僅少	土ー坏D(内黒) 〔坏F4〕 高坏A 高坏A(内黒) 甕 小型甕、ロクロ土ー坏A、須ー長頸壷	
SD53		AE17	210×53×16	N70° E	直線状	僅少	土ー坏D1 坏D 高坏A(内黒) 甕F 小型甕A 小型甕F、須ー坏	
SD54		AD17	400×67×18	N70° E	直線状	僅少	土ー坏D1(内黒) 坏D 坏D(内黒) 高坏A2 高坏A(内黒) 甕 甕B 小型甕A、須ー坏蓋B 甕	
SD55		AD16	(500)×69×12	N67° E	やや蛇行	僅少	土ー坏D1 坏D(内黒) 高坏A2(内黒) 高坏A 甕A 鉢C(内黒) 鉢D(内黒) 甕F 小型甕、須ー坏蓋B 坏蓋H 〔鉢〕	
SD56		AD16	392×71×14	N68° E	やや蛇行	僅少	土ー高坏A 高坏A2(内黒) 甕	
SD57		AE18	(308)×82×12	N40° E	直線状	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A 高坏A(内黒) 甕 小型甕F 小型甕、須ー器台	

第42表 遺構属性表(9)

遺構名	旧遺構名	検出位置	法量(cm)	主軸	形状	出土量	出土遺物	備考
SD58		AA18	410×100×8	N50° E	直線状	僅少	土ー坏D2 坏D 高坏A 高坏A(内黒) 小型甕A、須ー甕	
SD59		AB13	-×-×18	ー	ー	僅少	土ー坏D1 坏D(内黒) 高坏A	
SD60		AB16	422×27×15	N40° W	直線状	僅少	坏D1 坏D(内黒) 小型甕	
SD61		AD19	(342)×89×12	上流 N23° E 下流 N53° E	屈折	僅少	土ー坏D 高坏A 甕F 小型甕、須ー甕	
SD62		AE17	535×40×12	N68° E	やや蛇行	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 甕	
SD63						僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A 高坏A(内黒) 甕F 小型甕A、須ー〔蓋〕	
SD64		AG26	(153)×59×14	N15° E	直線状	僅少	土ー坏D1 高坏 甕B 甕 小型甕、須ー不明、灰ー椀	
SD65		BH47	-×-×26	N15° E	ー			
SI01		BT06	302×270×26			僅少	土ー坏 坏D(内黒) 高坏 鉢C 甕F 甕 甑、須ー甕 長頸壷、木ー櫛 建築部材	
SI02		BV04	95×62					
SI03		AC49	220×94			僅少	土ー坏D(内黒) 甕B 〔甕〕 小型甕、須ー坏A 〔壷〕	
SI04		AN13	76×29			僅少	土ー坏 甕A 甕F 小型甕	
SI05		AJ20	139×118×34		楕円	僅少	土ー坏 甕F、須ー坏A 鉢 〔長頸壷〕、中世ー内耳	
SI06		AJ17	116×45×48					
SI07		AB15	96×80×26		楕円	僅少	土ー坏D 坏D(内黒) 高坏A7 鉢D(内黒) 甕A 小型甕 台付甕	
SX01		AP29	(689)×(213)×9			僅少	陶ー極小皿(鉄釉／瀬戸美濃系／近世)	
SX02		AP27	(430)×(318)×15					
SX03		AS27	527×465×-			僅少	陶ー擂鉢(鉄釉／瀬戸美濃系／近世)	
SX04		BK47	(809)×804×32			やや少ない	土ー坏D1 坏D2 坏D 坏D(内黒) 高坏A 鉢D 甕A 甕B 甕F 甑A1 甑F 小型甕A 小型甕 壷、口土ー坏蓋A、須ー坏A 坏B 坏蓋 椀蓋 盤 高坏 〔鉢〕 甕E 甕 〔長頸壷〕 提瓶、灰ー椀 鉢E、木ー下駄、陶ー擂鉢(鉄釉／近世)、磁ー碗(青磁)、縄ー中期深鉢、瓦	須ー甕はSD11～15と接合あり
SX05		BK45	92×(79)×8					
SX06		BK47	975×720			やや少ない	土ー坏D1 坏D2 坏D2(内黒) 坏F1(内黒) 坏F2 坏D 高坏A3 高坏A(内黒) 鉢D 甕A 甕B 甕F1 甕F2 小型甕 甑A1 壷 壷A、須ー坏A 坏B 甕 壷 碌A、灰ー椀、木ー田下駄未成品部材、縄ー前期、陶ー中碗(端反形／鉄釉か／瀬戸美濃系／近世)、〔埴輪〕	〔埴輪〕はSK10に同一個体あり
SX07		BH48	NO.1 87×66×4 NO.2 64×39×6					

第43表 遺構属性表(10)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AA03P1	−×40×9	−		
AA07P1	82×77×13(35)	不整円形		
AA12P1	34×28×16	楕円	土−甕、須−〔坏蓋〕	
AA13P1	52×46×−	円形		
AA15P1	36×28×47	楕円		
AA15P2	40×28×14	楕円		
AA16P1	32×30×38	円形	土−坏　坏D(内黒)　甕、須−〔坏A〕	
AA16P2	41×36×29	円形	土−坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕	
AA17P2	40×30×20	不整形	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕、須−坏蓋H	
AA17P3	48×34×38	楕円	土−坏　甕	
AA17P4	33×28×11	円形		
AA17P7	50×42×40	円形	土−坏D　坏D(内黒)　高坏(内黒)　鉢C　甕A　甕F	
AA18P2	26×24×?	円形	土−坏　高坏(内黒)　甕	
AA18P3	36×26×21	不整形		
AA18P4	42×42×34	円形	土−坏　甕	
AA19P2	46×−×21	不整形？	土−坏　甕B　甕F	
AA47P1	−×46×14	−		
AA47P2	−×56×14	−	土−坏D(内黒)　甕	
AA47P3	52×−×25	円形？	土−甕	
AA48P1	78×76×26	不整円形	土−甕G　甕	
AA48P2	−×52×18	円形？	土−甕F	
AA48P3	−×66×23	楕円	土−坏　坏D(内黒)　甕	
AA48P4	48×40×32	楕円	土−坏A　甕、須−甕　〔坏蓋〕	
AA48P5	−×−×24	円形？		
AA49P1	62×60×8	円形	土−甕、須−坏蓋　甕A	
AB00P1	26×24×12	円形	土−坏D(内黒)　不明、須−不明	
AB00P2	68×52×40	楕円	土−坏　甕	
AB04P1	(54)×38×14	楕円		
AB04P2	78×−×7	不整円形		
AB04P3	−×62×5	不整楕円？		
AB04P4	72×68×9	円形		
AB09P1	30×18×20	楕円	土−坏	
AB09P2	−×12×19	−		
AB09P3	30×26×30	楕円	土−坏	
AB12P2	−×56×32	−	土−高坏　甕	
AB13P1	49×46×29	楕円	土−甕	
AB14P1	36×28×20	楕円	土−坏　坏D(内黒)　高坏	
AB14P3	(60)×(56)×10	円形		
AB14P6	50×26×9	楕円	土−高坏　甕	
AB15P1	32×22×13	楕円	土−坏　坏D(内黒)　甕、須−不明	
AB16P1	30×30×32	円形	土−甕、須−坏蓋B	
AB17P1	30×24×37	楕円	土−甕　甑	
AB17P2	32×30×18	円形	土−坏　甕	
AB17P3	60×50×30	不整楕円	土−坏　坏D(内黒)　甕	
AB17P4	(56)×55×37(50)	円形？	土−坏　坏D(内黒)　高坏　鉢(内黒)　甕F　甕G、須−長頸壷A	
AB17P6	70×60×11	楕円？	土−高坏	
AB18P2	60×(56)×10	円形？	土−高坏　甕、須−甕	
AB18P3	54×44×17(42)	不整楕円	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕	
AB18P4	36×28×13	楕円	土−坏　甕F	
AB19P2	−×58×38	−	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕A　甕B　甕F、須−不明	
AB19P3	56×46×13	円形	土−坏　高坏　甕、縄−中期	
AB19P4	50×46×25	円形？	土−坏　甕	
AB20P2	−×58×17	楕円？	土−坏D　坏D(内黒)　高坏　甕	
AB20P3	64×−×25	円形？	土−坏　坏D(内黒)　甕F	
AB48P1	60×−×28	楕円	土−甕F	
AB49P1	28×26×14	円形	土−坏　甕、須−坏B	
AB49P4	(72)×62×28(38)	円形	土−坏D(内黒)　甕、須−鉢D　〔鼎〕	

第44表　遺構属性表(11)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AC00P1	42×38×14	円形		
AC00P2	(56)×(48)×9	円形	土ー坏　甕F	
AC00P3	(54)×52×12	円形	土ー高坏　甕	
AC01P1	36×36×11(18)	円形		
AC05P1	76×56×11	不整楕円		
AC09P1	30×20×7	楕円	土ー〔坏〕　甕B	
AC10P1	38×30×13(28)	円形		
AC11P1	ー×60×14	ー	土ー甕	
AC11P2	42×ー×11	ー	土ー甕	
AC11P3	ー×62×9	ー	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　鉢C　甕F	
AC11P4	70×ー×15	ー		
AC12P2	58×36×7	楕円		
AC13P2	52×33×4(14)	不整楕円		
AC13P1	25×24×11	円形	土ー坏　甕、黒Bー坏D	
AC13P2	50×50×12(40)	円形	土ー坏　坏D(内黒)　鉢C　甕F	
AC14P1	22×20×24	円形	土ー甕	
AC14P2	34×32×14	円形	土ー甕	
AC14P3	46×40×10	円形	土ー甕　坏D(内黒)	
AC15P1	24×24×24	円形	土ー坏D(内黒)　高坏　甕	
AC15P2	28×26×9	円形	土ー坏　坏D(内黒)　甕F	
AC17P1	42×36×24	円形	土ー坏　高坏　甕B　甕F	
AC17P4	(56)×36×9	楕円	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　甕、須ー坏A　甕	
AC18P1	52×48×24	円形	土ー甕	
AC18P2	68×50×26	不整形	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　甕、灰ー皿	
AC18P5	40×36×14	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
AC18P6	46×46×18	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕、須ー〔甕〕	
AC18P7	60×54×10	円形		
AC18P8	58×48×20	楕円	土ー坏　甕A　甕F	
AC18P9	70×60×7(20)	不整形	土ー高坏　甕	
AC19P1	56×48×13	楕円	土ー坏D(内黒)　甕	
AC19P2	42×30×9	楕円	土ー坏　甕	
AC19P5	52×ー×24	円形？	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕G　甕	
AC19P6	ー×ー×28	ー	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　甕、須ー〔甕〕	
AC19P7	40×34×16	楕円	土ー甕B　甑、須ー〔甕〕、弥ー壷	
AC19P8	50×20×7	不整形	土ー坏　高坏　甕	
AC20P1	66×54×10(28)	不整形	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕F、須ー坏蓋	
AC21P1	44×ー×19	ー	土ー坏　甕A　甕F	
AC49P1	54×50×31(38)	円形		
AD01P1	60×42×21	楕円		
AD02P1	94×72×33	不整楕円	土ー高坏　甕	
AD08P2	39×34×14	円形	土ー甕B　甕	
AD08P3	28×23×8(28)	円形	土ー坏D(内黒)	
AD09P1	68×50×9(18)	不整楕円		
AD10P1	52×38×26	楕円		
AD10P2	28×28×11	円形	土ー甕B、須ー短頸壷A	
AD10P3	26×26×7	円形	土ー甕	
AD11P1	36×32×19	円形		
AD11P2	ー×ー×10	ー	土ー坏D　坏D(内黒)	
AD12P1	50×40×33	楕円		
AD13P1	100×52×8	楕円	土ー坏D　甕、須ー〔短頸壷B〕	
AD13P2	44×42×16	円形		
AD14P1	98×66×23(33)	不整形	土ー坏　坏D(内黒)　甕B　甕	
AD14P2	32×26×12(17・28)	楕円	土ー〔鉢(内黒)〕　甕F	
AD14P3	72×24×14	楕円	土ー甕	
AD14P4	36×32×24	円形	土ー甕	
AD14P5	28×20×32	楕円	土ー甕A	
AD15P1	74×ー×30	ー	土ー坏　高坏(内黒)　甕F　台付甕	
AD15P2	49×41×14	円形	土ー坏　甕	

第45表　遺構属性表 (12)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AD15P3	30×20×35	楕円	土ー高坏　甕	
AD15P4	86×70×3	楕円？	土ー甕	
AD16P1	94×56×25	楕円	土ー坏D　坏D(内黒)　甕B　甕F	
AD16P3	74×64×28	不整形	土ー坏D1(内黒)　高坏A　高坏A(内黒)　甕A　甕F、須ー甕	
AD16P4	28×26×16	円形	土ー甕	
AD17P1	64×54×9(12)	不整円形	土ー坏	
AD17P3	84×70×19	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕B　甕F　台付甕	
AD17P4	52×ー×6(12)	不整形？	土ー高坏　甕　台付甕	
AD17P5	50×46×53	円形	土ー坏	
AD17P6	36×36×26(42)	円形	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕F	
AD18P1	52×50×13	円形	土ー甕B	
AD18P2	40×36×15	円形	土ー甕　台付甕	
AD18P3	50×42×22	楕円	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕F	
AD18P4	44×38×11	円形	土ー坏D(内黒)	
AD18P5	60×ー×27	円形？	土ー坏　高坏　甕　小型甕	
AD18P6	42×30×18	不整楕円	土ー坏D(内黒)　甕　台付甕	
AD18P7	48×44×30	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
AD18P8	40×ー×14	円形？		
AD19P1	46×36×20	楕円	土ー坏　甕	
AD19P2	60×50×22(45)	楕円		
AD19P3	48×42×29	円形	土ー坏　鉢C	
AE01P1	ー×72×13	不整形	土ー坏D(内黒)　甕B　甕F、須ー甕	
AE01P2	52×44×12(38)	円形	土ー坏　甕	
AE02P1	62×52×4	楕円		
AE02P4	70×52×49	楕円	土ー坏　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕F	
AE02P5	80×72×31(45)	不整円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
AE03P1	68×ー×29	ー	土ー坏D　坏D1(内黒)　坏D(内黒)　甕F　小型甕	
AE03P3	90×ー×14	円形？	土ー甕F	
AE04P2	34×30×19	円形		
AE04P3	40×36×30	円形	土ー甕B　甕	
AE04P4	57×50×33	円形	土ー坏　甕	
AE06P1	46×38×10	円形		
AE06P2	56×42×10	楕円		
AE08P1	40×24×24	楕円	土ー甕、須ー〔坏〕	
AE09P4	22×ー×15	ー		
AE11P1	46×30×15	楕円	土ー坏D(内黒)　甕	
AE12P3	72×36×7	楕円		
AE13P1	32×28×8(27)	楕円	土ー坏D　甕F	
AE13P2	ー×45×14	ー	土ー坏　坏D(内黒)　甕F	
AE13P3	80×74×15	不整円形	土ー坏　坏D(内黒)　甕F	
AE13P4	50×48×15	円形		
AE14P1	58×36×10	楕円		
AE14P2	30×30×5(9)	円形		
AE15P1	60×60×22	不整形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕　小型甕、須ー坏蓋H	
AE15P2	110×90×11(25)	楕円	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕A　甕B　甕F　小型甕(内黒)	
AE15P3	64×ー×ー	円形	土ー坏D(内黒)　甕	
AE16P1	64×50×7	楕円	土ー坏D(内黒)　甕	
AE17P1	56×56×12(16)	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕　高坏	
AE18P2	60×56×24	楕円		
AE18P3	46×40×27	円形	土ー坏D　甕	
AE18P4	62×56×25	円形	土ー坏D　高坏　甕	
AE18P5	40×36×14	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕　小型甕、弥ー壷	
AE18P7	34×30×28	楕円	土ー坏　甕	
AE19P1	72×58×10(23)	円形		
AE19P2	60×48×40	不整円形？	土ー高坏　甕	
AE19P3	62×ー×26	不整楕円	土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
AE19P4	60×50×36	楕円？		

第46表　遺構属性表 (13)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AE19P5	48×46×22(25)	円形		
AE19P6	42×36×22	円形		
AE19P7	−×46×17	楕円？	土−高坏　甕F、縄−前期後葉	
AF02P3	(84)×56×14	楕円	土−坏D　坏D(内黒)	
AF03P1	57×−×17(23)	不整形	土−甕	
AF03P2	36×34×9	円形		
AF03P4	80×68×38	円形		
AF03P6	42×−×17	不整円形？	土−坏　甕	
AF04P1	68×44×19	不整形	土−甕	
AF04P2	38×34×12	不整形		
AF04P3	−×58×35	不整形		
AF04P4	83×−×22	不整形	土−坏D	
AF05P1	42×32×11	楕円		
AF05P2	−×28×6	不整形		
AF06P1	40×38×13	円形		
AF06P2	46×36×30	円形	土−甕F	
AF06P3	−×80×9	−	土−坏	
AF06P4	92×−×13	不整形	土−坏	
AF07P1	78×56×30(40)	不整形	土−甕	
AF08P3	46×40×35	円形	土−甕	
AF08P4	19×18×9	円形		
AF08P5	32×26×25	円形		
AF09P1	−×−×66	−	土−甕F	
AF09P4	22×−×15	−		
AF10P1	54×44×10(22)	円形	土−坏　坏D(内黒)　鉢(内黒)　甕　台付甕	
AF11P1	30×28×19	円形	土−坏D(内黒)　甕、須−坏B　高坏　碌	
AF11P2	66×56×8(20)	円形	土−坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕　小型甕、須−坏蓋H　碌	
AF12P1	32×32×23	円形	土−坏　高坏　高坏(内黒)　甕、須−坏A　壷蓋、鞴羽口(平安)	
AF12P2	58×−×18(19)	不明	土−坏D(内黒)　甕　甑	
AF12P3	56×−×28	円形？	土−坏D　坏D(内黒)　高坏　高坏(鞴転用)　鉢C　甕、須−壷	高坏脚で鞴羽口に転用されたものあり
AF12P4	38×32×6	円形	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕	
AF13P1	32×31×23	円形		
AF13P2	104×100×10	円形		
AF14P1	(90)×(84)×7	楕円？	土−甕	
AF14P2	76×70×13(19・34)	円形	土−坏　高坏　甕	
AF14P3	54×50×32	円形	土−坏　高坏　甕、縄−不明	
AF14P4	−×−×11	−	土−高坏　甕	
AF14P5	68×64×18	−	土−坏　坏D(内黒)　甕　小型甕B、須−甕〔坏蓋〕	
AF14P6	24×22×28	円形	土−坏　甕	
AF15P2	102×58×7	不整楕円	土−坏、須−坏蓋H	
AF15P3	90×54×12	不整形	土−坏　甕	
AF15P4	86×48×48	楕円	土−坏　甕F	
AF16P3	90×62×36	楕円	土−坏　高坏　甕F	
AF17P1	56×41×20	楕円	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕	
AF17P2	54×48×17	円形	土−坏　坏(内黒)　甕B	
AF17P3	52×40×15	楕円	土−〔鉢B(内黒)〕　甕	
AF17P2	60×18×12	不整形		
AF18P1	58×50×21	楕円	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕F　小型甕　甕F	
AF18P2	66×−×22	楕円？		
AF18P3	49×26×22	楕円	土−坏D　坏D(内黒)　甕、須−坏蓋	
AF18P4	56×−×12	−	土−坏　甕F	
AF18P5	42×40×16	円形	土−坏D　坏D(内黒)　高坏(内黒)　甕F、須−甕A	
AF19P1	48×46×25	円形	土−不明、弥−甕	
AF20P1	28×26×20	円形	土−坏　甕	

第47表　遺構属性表 (14)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AF20P2	−×28×18	楕円？	土−坏D(内黒)　甕、須−坏A	平安
AF20P3	(60)×−×19	−		
AF20P4	60×58×20	円形	土−坏D(内黒)　甕	
AF21P2	50×48×19	円形		
AF21P3	90×72×42	楕円	土−坏　甕F、その他−不明	
AF21P3	××			
AF21P4	−×36×15	不整円形	土−甕F	
AF21P5	−×50×27	楕円	土−高坏　甕	
AF21P6	56×50×37	円形	土−甕F	
AF27P1	47×43×35	円形	土−坏D　坏D(内黒)　甕A　台付甕、須−甕	
AG04P1	44×42×9(25)	円形		
AG04P2	−×56×12(27)	−		
AG04P3	28×26×12(17)	円形	土−高坏　甕	
AG04P4	46×26×9(10)	不整形	土−甕	
AG05P1	−×−×10	−		
AG05P2	−×−×10	−	土−坏　鉢C　甕	
AG05P3	−×62×14	−	土−甕	
AG05P4	−×−×14	−	土−甕	
AG05P5	41×36×23	円形	土−甕	
AG05P7	88×70×8	楕円	土−不明	
AG05P8	−×50×19	−	土−甕	
AG06P2	62×−×28	−	土−坏　坏D(内黒)　甕A　台付甕、須−甕	
AG06P4	56×−×34	円形？	土−坏D　甕	
AG08P2	40×(24)×22(35)	円形？		
AG08P3	63×−×37	不整形		
AG08P4	30×28×20	円形	弥−壷	
AG09P1	110×−×7	不整形	土−坏D(内黒)　甕F	
AG09P2	90×50×11	不整形	土−甕、須−高坏	
AG10P2	40×28×8	楕円	土−坏	
AG10P3	−×24×18	不整形	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕	
AG12P1	18×18×25	円形	土−坏　坏D(内黒)　甕	
AG12P2	22×20×25	円形	土−坏D(内黒)　甕　台付甕	
AG13P1	88×−×13	楕円		
AG14P1	−×−×15	−	土−坏D(内黒)　高坏　甕	
AG14P2	−×88×8(19)	−	土−甕A　甕F	
AG14P3	−×60×8	−		
AG14P4	−×−×19	−	土−坏　小型甕	
AG14P5	−×−×7	−	土−坏　高坏(内黒)　甕F	
AG15P1	−×40×34	楕円？	土−坏　甕	
AG15P3	46×−×34	円形？	土−坏　坏D(内黒)〔小壷〕	
AG15P4	118×68×12	−	土−坏　坏D(内黒)　高坏　甕F	
AG16P1	64×54×46	楕円	土−甕F	
AG16P2	48×36×11	楕円	土−甕	
AG16P3	38×36×24	円形	土−甕	
AG16P4	68×54×25	楕円	土−坏　坏D(内黒)　甕F、須−甕	
AG16P5	40×36×31	楕円		
AG17P1	59×58×24	不整円形	土−甕	
AG18P1	58×58×31	円形	土−坏D　甕	
AG18P2	72×59×24	不整楕円	土−高坏　甕	
AG18P3	102×90×19	円形	土−坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕、須−甕	
AG18P4	−×54×9	楕円？	土−坏D(内黒)　甕	
AG20P1	86×74×20	不整円形	土−坏　甕F　台付甕	
AG21P1	130×32×21(37)	不整形	土−坏D　甕	
AG21P2	62×44×22	楕円		
AH04P5	−×40×30	−		
AH04P7	43×24×14	不整形		
AH07P1	56×43×33	楕円		
AH07P2	34×24×28	楕円		

第48表　遺構属性表 (15)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AH08P3	38×−×26	−	土−高坏	
AH09P2	86×−×24(35)	−	土−甕F	
AH09P3	50×−×37	−		
AH10P1	64×−×9	楕円	土−坏	
AH14P1	58×46×33	楕円	土−甕	
AH14P2	52×−×27	楕円	土−高坏　甕	
AH15P1	85×48×24	楕円		
AH15P2	68×−×40	−	土−高坏　甕　台付甕	
AH15P3	30×30×21	円形	土−坏　坏D(内黒)　小型甕	
AH16P1	98×46×8(12)	不整楕円	土−坏D　甕F	
AH16P2	54×46×19(28)	円形	土−高坏　甕　小型甕	
AH16P3	80×62×25	楕円	土−坏　坏D(内黒)　甕	
AH24P1	86×62×21	楕円	土−坏D　高坏　甕F	土−高坏は5C後〜6C初
AH24P2	64×40×24	楕円	土−坏D　坏D(内黒)　高坏　甕F　小型甕、須−〔壷〕	
AH25P1	76×61×10	不整楕円	土−坏D　坏D(内黒)　高坏(内黒)　甕A　甕F	
AH25P2	72×−×13	−	土−甕F　甑	
AH25P3	68×63×24	円形	土−高坏(内黒)　甕F	
AH25P4	62×50×19	楕円	土−高坏　甕	
AH26P1	30×28×49	円形	土−甕F、須−坏B	須−坏Bは奈良
AH27P1	79×63×41	不整形	土−坏　高坏(内黒)　甕B　甕F　小型甕、須−坏A、弥−甕	須−坏Aは平安
AI05P1	60×50×17(35)	不整円形	土−高坏　甕G　甕、須−甕	
AI06P1	48×37×23	楕円	その他−焼けた礫	
AI06P2	42×24×15	楕円	土−坏D	
AI06P3	64×35×12	不整楕円	土−甕、須−甕、灰−不明	
AI07P2	34×32×15	円形	土−甕	
AI07P4	47×36×26	楕円	土−坏	
AI08P1	46×−×12	−	土−坏D　坏　高坏　甕F	
AI08P2	86×60×19	楕円？	土−坏D　高坏　〔鉢(内黒)〕　甕	
AI10P1	98×72×20	楕円	土−坏D　高坏　甕　小型甕	
AI11P2	28×19×28	楕円	土−坏、須−甕	
AI12P2	52×46×18(27)	円形	土−坏　甕	
AI13P1	76×54×23(26)	楕円	土−坏　高坏　高坏(内黒)　甕F　甑、須−甕	
AI13P4	70×56×30	楕円	土−高坏　甕B　甕、須−坏蓋B	
AI15P1	30×26×21	円形	土−甕	
AI15P2	68×56×12(22)	円形		
AI15P3	48×42×6	円形	土−甕	
AI16P1	36×32×23	円形	土−高坏	
AI17P2	50×38×13	円形	土−坏	
AI19P1	52×46×14	不整円形	土−甕	
AJ05P1	56×42×35	楕円		
AJ07P3	50×40×36	楕円		
AJ08P2	22×20×29	円形	弥−後期甕	
AJ08P3	(−)×64×11(29)	不整形	土−坏　坏D(内黒)　甕　小型甕、弥−壷	
AJ08P3	25×25×17			
AJ08P5	36×30×27(68)	楕円		
AJ09P1	46×−×16	円形？	土−坏D　高坏(内黒)　甕F	
AJ09P2	82×58×41	楕円	土−坏　甕	
AJ09P3	74×54×11	楕円		
AJ09P4	62×50×21	楕円		
AJ09P5	78×66×19	不整円形	土−坏　坏D(内黒)　甕　小型甕	
AJ09P5	70×−×16	円形？	鉄	
AJ11P2	66×46×26	楕円	土−坏　坏D(内黒)　高坏　鉢(内黒)　甕F	
AJ11P3	30×26×24	円形	土−甕	
AJ11P4	48×46×33	円形		
AJ11P5	××			
AJ12P1	22×20×27	円形		
AJ12P3	70×46×25	楕円	土−坏D1(内黒)　坏D　高坏A　甕F	

第49表　遺構属性表 (16)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
AJ12P4	40×24×38	円形	土－甕	
AJ13P1	68×46×44	不整楕円	土－甕	
AJ13P2	124×－×46	不整形	土－坏D　甕、弥－甕	
AJ13P3	110×72×14	楕円	土－坏　甕F、弥－甕　壷	
AJ14P1	54×44×34	円形		
AJ14P2	－×－×30	楕円	土－甕　小型甕	
AJ15P1	62×58×25	円形		
AJ16P2	42×40×16	円形		
AJ16P3	64×56×25	不整円形	土－坏D　甕	
AJ17P1	54×44×14	楕円	土－坏　甕	
AJ20P1	54×52×27	円形	土－甕F	
AJ22P1	90×67×27	楕円	土－坏　甕F	
AJ22P2	26×22×12	円形	土－甕　小型甕	
AK07P2	42×(20)×15	円形	土－甕	
AK08P1	52×50×20	円形	土－甕	
AK08P2	46×38×24	楕円	土－甕	
AK08P3	50×32×14	楕円	土－甕B　甕F	
AK09P1	28×24×8	円形	土－甕	
AK09P2	52×36×15	楕円	土－〔坏〕	
AK09P3	48×44×11	円形	弥－甕　壷	
AK09P4	54×54×23	円形		
AK09P5	56×46×13	不整楕円		
AK09P6	(40)×42×12	円形？		
AK09P7	46×32×31	楕円		
AK10P1	－×46×27(44)	不整形	土－甕、須－〔坏〕　坏蓋B	
AK10P2	30×22×25	楕円	土－甕	
AK10P3	24×22×12	円形	土－高坏　甕	
AK10P4	100×94×39	円形	土－坏D(内黒)　甕　小型甕	
AK11P1	46×40×22	円形	土－坏　坏D(内黒)　甕	
AK11P3	47×－×35	－	土－甕　小型甕	
AK13P1	60×46×13	不整円形		
AK13P2	58×40×50	楕円	土－坏　甕、須－　碌	
AK14P2	62×60×51	円形		
AK14P4	－×64×47	不整形	土－高坏　甕	
AK16P1	66×58×21(33)	円形	土－坏　甕、須－不明	
AK16P2	62×48×37	楕円		
AK18P1	40×28×14	楕円	土－坏　高坏	
AK19P1	66×－×13	不整形	土－坏　高坏　甕	
AL10P1	36×28×35	楕円	土－高坏	
AL10P2	102×82×31	楕円	土－坏　高坏　高坏(内黒)　甕A　甕F	
AL10P3	－×－×16			
AL11P1	52×48×25	円形	土－甕	
AL13P1	78×48×32	不整形	弥－甕	
AL13P3	30×22×38	楕円	土－甕	
AL16P1	58×56×27	円形		
AL17P1	58×50×30	円形		
AL17P2	56×48×23	円形		
AM10P1	62×60×27	円形	土－坏　坏D(内黒)　高坏(内黒)　甕、縄－前期後葉	
AM12P1	88×78×42	不整形		
AN11P1	44×－×29	楕円		
AN15P1	52×50×16	円形		
BJ47P1	50×46×－	円形		
BL04P1	46×36×22	楕円	土－小型甕	
BO40P1	48×46×14	円形	土－坏D　甕F　甕G	
BP47P1	－×－×31	－	須－甕	
BP47P2	－×49×14	－	土－甕	
BP48P1	31×28×11	円形	土－坏　鉢(内黒)　甕	
BP49P1	61×46×39	楕円	土－坏　甕、須－甕	

第50表　遺構属性表 (17)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
BP49P2	50×46×23	円形	土ー坏　小型甕	
BP00P1	50×34×22	楕円	土ー甕、須ー坏蓋　甕	
BP20P2	56×54×20	円形	土ー坏D(内黒)	
BP22P1	48×ー×18	円形？		
BQ00P1	80×70×28	円形	土ー甕　その他ー〔壷形埴輪〕	
BQ03P1	80×ー×ー	円形？	土ー坏　甕	
BQ16P1	22×18×18	円形		
BQ20P2	70×62×17(24)	円形	土ー坏D(内黒)　鉢　甕F	
BQ20P3	72×56×31	楕円	土ー坏　坏D(内黒)　甕F　小型甕E　〔小型壷〕　甑A1	
BQ21P2	72×60×21(26)	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
BQ22P1	66×64×32	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕F	
BQ22P2	90×ー×15	楕円？		
BQ22P3	68×40×31(41)	楕円		
BQ40P1	54×52×29	円形	土ー甕	
BQ41P2	55×48×16	円形		
BQ42P1	50×ー×17(29・33)	ー	土ー甕	
BQ42P2	ー×28×27	ー	土ー甕	
BR03P1	98×94×31	円形	土ー坏　甕、陶ー灯明皿(瀬戸美濃／近世)	
BR08P1	78×76×16	円形		
BR19P1	38×(32)×28	不整楕円	土ー甕　甕G　台付甕	
BR19P2	ー×38×20	ー	土ー甕	
BR19P3	52×50×23(32)	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕F　小型甕　甑、須ー坏蓋H	土ー坏D(内黒)は6C前葉～中葉、須ー坏蓋Hは5C代
BR19P4	52×(50)×24	円形	土ー坏　甕F　甕G、須ー坏蓋H	須ー坏蓋Hは5C代
BR21P1	52×50×21	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕G　甕、〔壷形埴輪〕	
BR21P3	64×62×20(29)	円形	土ー坏　坏(内黒)　高坏　甕F　小型甕、須ー高坏、弥、縄	須ー高坏は5C後～6C前
BR21P4	56×54×21	円形	土ー坏　甕　台付甕	
BR35P1	26×22×19	円形	土ー甕	
BR35P2	62×36×21	円形		
BR36P1	76×ー×16(23)	楕円？	土ー甕	
BR36P2	66×50×31(41)	楕円	土ー甕	
BR41P1	70×ー×43	ー	土ー坏　甕F、須ー坏H	須ー坏Hは6C代
BS00P1	110×66×10(25)	不整形		
BS02P1	106×82×13	不整楕円	土ー高坏　甕	
BS18P1	36×30×46	円形？		
BS18P3	48×44×19	円形	土ー甕、須ー甕	
BS20P1	60×56×28	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕F　小型甕	土ー坏Dは5C後半～6C初
BS20P4	ー×ー×21	ー	土ー坏　坏D(内黒)　鉢(内黒)　甕F　小型甕　台付甕	
BS21P2	56×ー×26	ー	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　甕	
BS21P3	56×38×29	楕円	土ー坏　鉢(内黒)　甕、須ー甕	
BS21P4	66×60×17	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕F　甕G、須ー瑕	
BS22P1	72×66×8	円形		
BS22P3	56×ー×26(30)	楕円？	土ー坏　甕G	
BS22P4	50×46×8(14)	円形	土ー坏D　甕	
BS22P5	ー×66×12(20)	楕円？	土ー坏　坏D(内黒)　甕A　甕B　甕	
BS22P6	48×44×20(30)	円形	土ー坏D(内黒)　高坏　甕A　甕F、須ー甕	
BS36P1	57×50×33	円形	土ー坏F2(内黒)　高坏A　高坏　鉢C　〔甕A〕　甕F　甕　小型甕B	
BS36P2	46×40×7	円形	土ー甕	
BS36P3	22×20×22	円形	土ー不明	
BS38P1	50×46×8(25)	円形		
BS38P2	38×38×16	円形		
BS40P1	ー×60×35(40)	ー	土ー坏　坏D(内黒)　甕F	
BS40P2	46×44×15	円形	土ー坏D　〔小型甕〕	

第51表　遺構属性表 (18)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
BS43P1	−×64×8(16)	−	土−坏D(内黒) 高坏 甕	
BS43P3	60×55×15	不明	土−坏D 甕	
BS43P4	−×56×15	−	土−坏 甕	
BS46P1	72×−×18	−	土−甕、須−坏A	
BT00P1	48×36×11	楕円	土−甕	
BT00P2	55×50×51	円形	土−坏D 甕	
BT00P3	54×50×31	円形	土−坏D(内黒) 甕F	
BT01P3	××		土−甕	
BT05P1	130×106×28	不整形		
BT06P1	80×56×6	楕円		
BT07P1	××		土−坏D 坏D(内黒) 甕	
BT17P1	72×52×18	楕円	土−坏D(内黒) 高坏 甕F	
BT18P1	30×24×9	楕円		
BT18P2	50×40×36	楕円	土−坏 甕F 甕G	
BT18P3	36×30×(13)19	円形	土−坏 甕F	
BT18P4	32×32×23	円形		
BT18P6	60×−×43	不整形	土−坏D 高坏 甕	
BT18P7	−×−×24	−	土−甕、須−甕A、縄−〔後期〕	
BT19P1	50×48×30	円形	土−坏D 坏D(内黒) 甕	
BT20P1	62×54×13	円形	土−坏 坏D(内黒) 甕、須−坏蓋H	
BT20P2	40×36×11	円形		
BT20P3	60×56×35	円形	土−坏D(内黒) 高坏 甕、須−甕A 碌	
BT20P4	−×66×13	−	土−坏 甕	
BT20P5	62×56×25	円形		
BT21P1	56×36×19	楕円	土−甕	
BT21P2	88×82×42	不整円形	土−坏D 坏D(内黒) 高坏 甕、須−碌	須−碌は5C
BT21P3	54×42×20	円形	土−坏 甕、弥−甕	
BT21P4	68×50×6	楕円		
BT21P5	62×60×10(28)	円形	土−坏 坏D(内黒) 甕F 甕G 台付甕	
BT22P1	70×60×23	円形	土−坏D 甕	
BT22P3	−×−×8	−	土−坏 高坏 鉢C(内黒) 甕 小型甕	
BT22P5	52×−×13(17)	円形？	土−坏 坏D(内黒) 甕 台付甕	
BT22P6	54×50×5	円形	土−甕	
BT22P7	60×40×12	楕円	土−坏 高坏	
BT22P8	52×−×24	−	土−坏 坏D(内黒) 甕	
BT37P1			土−坏D1	貯蔵穴
BT41P1	××		土−甕	
BT49P1	60×46×30	楕円		
BT49P2	58×55×23	楕円		
BU07P1	××		土−坏D	
BU10P1	48×44×31	円形		
BU17P1	98×66×15(17)	楕円	土−坏D 坏D(内黒) 坏 高坏F 甕F 甕、須−高坏	
BU17P2	48×36×28	楕円	土−坏 坏D(内黒) 高坏 甕 小型甕	
BU17P4	−×−×19	円形？	土−坏D2 坏D(内黒) 甕F 小型甕、弥−壷	
BU17P5	70×50×42	楕円	土−坏D(内黒) 高坏 甕G 甕	
BU17P6	(50)×45×22	円形？	土−坏D 甕F	
BU17P7	30×30×5	不整形	土−甕	
BU17P8	42×−×12	楕円？	土−甕	
BU17P9	60×−×25	−		
BU18P1	74×56×32	不整形	土−坏D 坏D(内黒) 高坏 甕G	
BU20P1	72×−×24	不整形	土−坏D 坏D(内黒) 甕F、須−甕	
BU20P2	28×26×−	円形	土−甕	
BU20P3	54×52×38	円形	土−坏 坏D(内黒) 甕F、須−高坏	
BU20P4	38×38×−	円形	土−坏D	
BU20P5	62×−×26(32)	−	土−坏D 坏D(内黒) 高坏 甕F 甑、須−〔壷〕	
BU20P6	66×56×34	楕円	土−高坏 高坏(内黒) 鉢(内黒) 甕F、須−坏蓋A	須−坏蓋Aは7C後半

第52表　遺構属性表 (19)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
BU20P7	56×54×31	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕F	
BU21P1	60×58×39	円形	土ー坏D　高坏　鉢(内黒)　甕F	
BU21P2	72×ー×47	ー	土ー坏D　甕	
BU21P3	66×54×20	円形	土ー坏D　甕F　甕G、須ー坏蓋H	
BU22P1	52×42×24	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　甕	
BU22P2	52×24×16	楕円		
BU22P3	66×56×26	円形	土ー坏D　甕	
BU22P4	72×48×24	楕円	土ー坏　甕A　甕B　甕F	
BU40P2	18×18×47	円形	土ー甕	
BU42P3	70×50×31	不整形	土ー甕	
BU44P1	42×42×11	円形		
BV04P1	80×80×18(41)	円形？	土ー高坏　甕、須ー甕A	
BV05P1	116×70×33(52)	不整楕円	土ー坏　坏D(内黒)　坏(内黒)　甕　小型甕、須ー〔高坏〕坏蓋H	
BV06P1	85×66×18	楕円	土ー坏D　甕F	
BV06P2	146×(100)×23	楕円？		
BV09P1	64×(56)×14	円形？	土ー甕	
BV11P1	66×54×55	楕円	土ー坏D(内黒)　甕F　甕、須ー甕	
BV16P1	84×54×23	楕円	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏A　高坏　高坏(内黒)　甕B　甕F　甕G　小型甕、須ー坏H　不明、弥ー甕	土ー高坏は須恵模倣坏で5C代
BV17P2	56×46×19	円形	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕B　甕F　甕	
BV17P3	84×56×9	楕円	土ー坏D(内黒)　甕	
BV18P2	32×22×17	楕円	土ー高坏　甕　小型甕	
BV18P3	52×46×40	楕円	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕F　台付甕	
BV18P4	64×56×7(23)	円形	土ー坏D　高坏(内黒)　甕F	土ー高坏(内黒)は5C後半～6C初
BV19P1	(98)×ー×7(25)	楕円？	土ー坏D　坏(内黒)　高坏　甕	
BV22P1	70×42×18	楕円		
BV22P2	ー×40×17	楕円？	土ー坏D　高坏(内黒)　甕	
BV22P3	ー×54×21	楕円？	土ー坏D　坏D(内黒)　甕F	
BV23P1	46×46×14	円形		
BV37P1	ー×ー×10	ー	土ー甕	
BV38P1	60×ー×20	楕円	土ー坏　高坏　甕	
BV40P1	60×52×36(41)	不整形	土ー坏　甕	
BV41P3	58×52×40	円形		
BV41P5	100×ー×43	不整形		
BV42P2	20×20×12	円形	土ー坏	
BV42P3	122×ー×8(25)	ー	土ー坏　甕	
BV43P3	38×28×18	楕円	土ー高坏　甕	
BV43P4	48×ー×2	ー	土ー甕	
BW04P1	88×78×14(47)	楕円	土ー坏　高坏　甕F、須ー高坏	須ー高坏は6C後半
BW04P2	116×66×10	楕円	土ー坏　甕、灰ー碗、縄ー不明	
BW05P1	30×30×20	円形	土ー坏　甕	
BW05P2	46×35×27	楕円	土ー甕	
BW11P1	54×46×10	楕円		
BW12P1	60×54×50	不整円形	土ー坏D　坏D(内黒)　高坏(内黒)　甕、須ー蓋	土ー高坏(内黒)は6C前葉～中葉。土ー坏Dに外面のみ黒色処理の個体あり
BW16P1	48×42×15	不整形		
BW16P3	48×42×13(24)	不整形		
BW16P4	70×52×13(29)	不整形	土ー高坏　坏D　坏D(内黒)　高坏　高坏(内黒)　甕F、須ー〔坏蓋〕	
BW16P5	20×14×28	円形		
BW19P1	210×156×27	不整楕円	土ー坏D1　坏D　坏D(内黒)　高坏A(内黒)　高坏　高坏(内黒)　鉢C　甕A　甕F　小型甕F　小型甕	
BW19P2	122×ー×22	ー		
BW39P1	××		土ー坏D　坏D(内黒)　甕F、須ー〔鍋〕	

第53表　遺構属性表 (20)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
BW39P2	95×−×20	−	土−坏 甕	
BW40P1	60×−×31	−	土−坏D 高坏 甕F	土−坏Dは6C前葉〜中葉
BW42P1	60×−×40	−	土−坏 甕	
BW42P3	60×58×40	不整円形	土−甕	
BW42P4	−×60×32(51)	不整形	土−坏D 甕	
BW42P5	−×−×41	−	土−高坏 鉢C 甕	
BW43P2	68×52×26	楕円		
BW43P3	−×44×6	−		
BW44P1	60×50×−	楕円	土−高坏A 高坏	
BW44P3	52×−×6(15)	−	土−坏	
BW45P1	××		土−坏 甕 小型甕	
BX06P1	20×16×23	楕円		
BX12P1	46×40×20	円形	土−坏 甕	
BX16P3	52×36×9	不整形	土−高坏	
BX16P4	36×18×34	楕円		
BX17P1	69×62×40	円形	土−坏D 坏D(内黒) 甕F 小型甕	
BX17P2	47×40×37	円形	土−甕 甑	
BX18P1	54×46×28	円形	土−坏D 坏D(内黒) 高坏(内黒) 甕G 甕 小型甕、須−甕〔壺〕	
BX19P1	126×100×20(44)	楕円	土−坏D 坏D(内黒) 高坏 甕B 台付甕	土−坏Dは5C後半〜6C初
BX19P2	50×34×13	楕円		
BX40P1	68×−×30	−		
BX40P2	−×−×10(18)	−	土−甕、縄−中期	
BX40P3	52×50×40	円形	土−坏 甕	
BX40P4	54×−×49	円形？	土−坏 甕	
BX40P5	60×42×47	楕円	土−坏 坏D(内黒) 甕	
BX40P6	−×60×10(28)	不整形	土−坏 甕	
BX41P1	35×−×26	−	土−坏D(内黒) 甕	
BX41P2	54×52×37	円形	土−坏D 高坏 甕	
BX41P4	−×60×46(68)	−	土−甕	
BX41P5		不整円形	土−坏D 甕	
BX43P1	40×38×25	円形	土−小型甕	
BX43P3	54×44×31	楕円	土−甕	
BX45P1	34×26×8	楕円		
BX45P2	80×68×55(60)	楕円	土−坏 甕F	
BX45P3	62×60×37	円形	土−坏 甕A 甕F 台付甕	
BX46P1	64×54×12(20)	円形	土−甕 須−坏蓋H	
BX46P2	54×42×34(39)	楕円	土−坏 甕F 坏D(内黒)	
BX46P3	56×−×9	円形	土−坏D(内黒)	
BX46P4	××		土−甕F、須−甕	
BY07P1	75×75×14	円形		
BY11P1	42×40×7	円形	土−坏 甕	
BY11P2	30×28×8	円形	土−高坏A 甕A、弥−後期壺	
BY11P3	42×40×22	円形		
BY16P1	24×22×11(30)	円形	土−坏 甕 小型甕	
BY18P1	50×−×16	不明	土−坏 坏D(内黒) 甕B 甕F 甕G	
BY18P2	56×46×44	楕円	土−坏D 甕、縄−中期	土−坏Dは5C後半〜6C初
BY18P4	42×28×21	円形	土−坏D 高坏 甕F	
BY18P5	52×−×26	不整形	土−坏D 高坏 甕F	
BY18P6	22×12×31	楕円	土−鉢 甕	
BY18P7	64×−×25	−		
BY18P8	−×53×17(34)	不整形	土−甕 台付甕	
BY19P1	49×34×22	楕円	土−小型甕	
BY19P2	44×44×17	円形	土−甕F 台付甕	
BY47P1	48×46×13	円形	土−甕	

第54表　遺構属性表(21)

遺構名	法量(cm)	形状	出土遺物	備　考
BY48P1	60×52×50	楕円	土ー坏　高坏　甕	
BY48P2	40×40×28	円形	土ー甕	
BY48P3	64×60×47	不整円形	土ー甕F　坏D(内黒)　甕F、須ー〔瑕〕	
BY49P1	44×36×34(46)	楕円		
BY49P2	××		土ー坏　坏D(内黒)　坏　甕F、須ー甕　長頸壷B	

第55表　遺構属性表 (22)

図版No.	器種	遺構名	区	層	遺物No.	石材	法量	備考
第20図 1	横刃型石器	SB02		貼床下		緑色岩	71X36X10	
第20図 2	置砥石	SB04			17	不明	162X78X65	
第20図 3	横刃型石器	SB05				硬砂岩	84X63X13	
第20図 4	横刃型石器	SB05		貼床下		硬砂岩	65X39X10	
第20図 5	敲打器	SB05				硬砂岩	130X38X35	
第20図 6	打製石斧	SB32				硬砂岩	119X74X23	
第20図 7	打製石斧	SB32	AE20			緑色岩	109X46X11	
第20図 8	抉入打製石庖丁	SB23	AL16			硬砂岩	87X53X17	
第20図 9	横刃型石器	SB24	AG18			硬砂岩	99X71X15	
第21図 1	小型打製石斧	SB24P2				緑色岩	97X40X11	
第21図 2	小型打製石斧	SB25カマド				硬砂岩	102X43X19	
第21図 3	持砥石？	SB25			16	粘板岩？	76X14X6	
第21図 4	碁石状	SB26	AK21			硬砂岩	24X23X7	
第21図 5	小型打製石斧	SB17	AC0	暗褐色土		緑色岩	93X40X14	
第21図 6	打製石器	SB17	AC49	褐色土		硬砂岩	128X78X28	
第21図 7	小型打製石斧	SB17	AC1	暗褐色土		緑色岩	107X44X12	
第21図 8	打製石斧	SB10	BV7b			硬砂岩	149X70X29	
第21図 9	磨石	SB10			37・38	硬砂岩	138X55X23	接合
第21図 10	磨石	SB10			200	不明	83X59X41	
第22図 1	置砥石	SB10			1023	砂岩	258X124X119	中ないし仕上げ砥
第22図 2	置砥石	SB10			28	砂岩	199X117X65	粗砥
第23図 1	敲打器	SB10			36	硬砂岩	120X58X43	穀摺石？
第23図 2	持砥石	SB19	AB49	褐色土		砂岩	71X51X13	
第23図 3	横刃型石器	SB20	AN12			緑色岩	77X41X7	著しく摩耗
第23図 4	持砥石	SB21	AM15			砂岩	52X46X11	中砥
第23図 5	置砥石	SB30			2	硬砂岩	185X169X68	
第23図 6	横刃型石器	SB33	AC16			硬砂岩	55X39X11	
第23図 7	小型打製石斧	SB38				緑色岩	116X37X11	
第23図 8	小型打製石斧	SB40				硬砂岩	105X44X14	
第23図 9	持砥石	SB40				砂岩	55X44X12	
第24図 1	持砥石	SB42	AG25			砂岩	61X36X12	粗砥
第24図 2	打製石斧	SD02				硬砂岩	186X58X38	
第24図 3	磨製石斧	SD12				不明	144X60X46	
第24図 4	有肩扇状形石器	SD12				硬砂岩	160X97X22	
第24図 5	打製石斧	SD13				緑色岩	157X75X28	
第24図 6	敲打器	SD14				硬砂岩	149X48X26	
第24図 7	横刃型石器	SD16				硬砂岩	129X52X15	
第25図 1	打製石斧	SX04				硬砂岩	170X64X38	
第25図 2	打製石斧	SX06		中層		緑色岩	137X67X28	
第25図 3	小型打製石斧	SX06		中層		緑色岩	123X44X21	
第25図 4	打製石斧	SX06		中層		硬砂岩	219X111X39	
第25図 5	打製石斧	SD18				硬砂岩	156X52X17	
第25図 6	小型打製石斧	SD20				硬砂岩	96X39X17	
第25図 7	小型打製石斧	SD27				緑色岩	124X35X16	
第25図 8	小型打製石斧	SD27				砂岩	128X48X13	
第26図 1	横刃型石器	SD57				硬砂岩	75X54X15	
第26図 2	持砥石	SK14				凝灰岩？	54X45X11	仕上砥

第56表　石器等属性表 (1)

図版No.		器種	遺構名	区	層	遺物No.	石材	法量	備考
第26図	3	碁石状	SK17				緑色岩	26X22X7	
第26図	4	打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	187X71X36	
第26図	5	打製石斧	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	168X78X33	
第26図	6	打製石斧	遺構外	AI12	黒色土		硬砂岩	164X65X26	
第26図	7	打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	114X75X29	
第26図	8	打製石器	遺構外	AD12	礫混褐色土		硬砂岩	106X79X29	
第26図	9	打製石斧	遺構外	AD18			硬砂岩	115X65X34	
第27図	1	打製石斧	遺構外	AD15			硬砂岩	181X73X28	
第27図	2	打製石斧	遺構外				硬砂岩	159X73X27	
第27図	3	打製石斧	遺構外				硬砂岩	161X70X25	
第27図	4	打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	129X77X35	
第27図	5	打製石斧	遺構外	BR16			硬砂岩	124X79X24	
第27図	6	打製石斧	AB20P2				硬砂岩	122X63X24	
第28図	1	打製石斧	遺構外	AF15			硬砂岩	111X64X19	
第28図	2	打製石斧	遺構外	BS15			硬砂岩	124X49X16	
第28図	3	小型打製石斧	遺構外	AF6			硬砂岩	92X61X15	
第28図	4	小型打製石斧	遺構外	AD12			硬砂岩	108X49X28	
第28図	5	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	115X52X17	
第28図	6	打製石斧	遺構外	BU40			硬砂岩	118X51X18	BU40P1から混入出土
第28図	7	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			不明	108X53X23	
第28図	8	打製石斧	遺構外	AF13	礫混褐色土		緑色岩	97X55X15	
第29図	1	小型打製石斧	遺構外	AG11			硬砂岩	107X41X16	
第29図	2	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	96X40X18	
第29図	3	小型打製石斧	遺構外	AC12			硬砂岩	104X44X15	
第29図	4	小型打製石斧	AD16P3				硬砂岩	94X43X15	
第29図	5	小型打製石斧	遺構外	AA48			硬砂岩	103X48X18	AA48P1から混入出土
第29図	6	小型打製石斧	遺構外	AG7			硬砂岩	102X46X14	
第29図	7	小型打製石斧	遺構外	AD14	礫混褐色土		硬砂岩	93X40X16	
第29図	8	小型打製石斧	遺構外	AJ11	礫混暗褐色土		硬砂岩	79X38X14	
第29図	9	小型打製石斧	遺構外	AJ11	表土		緑色岩	88X43X14	
第29図	10	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			緑色岩	105X42X18	
第29図	11	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	98X39X18	
第29図	12	小型打製石斧	遺構外	AE14	礫混褐色土		硬砂岩	79X40X10	
第29図	13	小型打製石斧	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	92X41X20	
第29図	14	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	103X47X18	
第29図	15	小型打製石斧	遺構外	AD13	褐色土2		緑色岩	87X38X11	
第30図	1	小型打製石斧	遺構外	ZZZ			硬砂岩	113X44X19	
第30図	2	小型打製石斧	遺構外	BQ14			硬砂岩	100X40X16	
第30図	3	小型打製石斧	AF2P3				硬砂岩	96X46X19	
第30図	4	小型打製石斧	遺構外	BO12			緑色岩	100X45X17	
第30図	5	小型打製石斧	遺構外	AI16			緑色岩	107X46X14	
第30図	6	小型打製石斧	遺構外	BR0	自然流路		硬砂岩	102X36X16	
第30図	7	小型打製石斧	遺構外	AI11			硬砂岩	96X48X17	
第30図	8	小型打製石斧	遺構外	BP10			緑色岩	90X47X16	
第30図	9	小型打製石斧	遺構外	AH5			硬砂岩	75X39X11	
第30図	10	小型打製石斧	遺構外	AE14			珪質片岩	74X37X11	
第30図	11	打製石器	遺構外	BU17			硬砂岩	67X47X20	

第57表　石器等属性表 (2)

図版No.		器種	遺構名	区	層	遺物No.	石材	法量	備考
第30図	12	小型打製石斧	遺構外	BV12			硬砂岩	77X33X14	
第30図	13	石錘	遺構外	AI8	黒褐色土		硬砂岩	62X38X13	
第30図	14	横刃型石器	遺構外	BQ14			硬砂岩	115X79X17	
第31図	1	横刃型石器	遺構外	BP16			硬砂岩	113X78X18	
第31図	2	抉入打製石庖丁	遺構外	BQ17			硬砂岩	70X49X14	
第31図	4	横刃型石器	遺構外	ZZZ			硬砂岩	93X65X18	
第31図	5	横刃型石器	遺構外	ZZZ			硬砂岩	86X64X18	
第31図	6	横刃型石器	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	94X76X20	
第31図	7	横刃型石器	遺構外	ZZZ			硬砂岩	96X79X25	
第31図	8	横刃型石器	遺構外	AC14	礫混褐色土		硬砂岩	107X94X19	
第31図	9	横刃型石器	遺構外	ZZZ			不明	67X44X12	
第31図	10	横刃型石器	遺構外	AL17	黒褐色土		砂岩	90X49X14	
第31図	11	横刃型石器	遺構外	AC15	褐色土		硬砂岩	80X44X14	
第32図	1	横刃型石器	遺構外	AA47	褐色土		不明	79X44X9	
第32図	2	横刃型石器	遺構外	BT1			緑色岩？	96X32X8	BT1P1から混入出土
第32図	3	横刃型石器	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	81X32X11	
第32図	4	横刃型石器	遺構外	ZZZ	撹乱		緑色岩	88X31X11	
第32図	5	横刃型石器	遺構外	AF13	褐色土		不明	87X28X10	
第32図	6	横刃型石器	遺構外	AI13			硬砂岩	91X43X14	AI13P2から混入出土
第32図	7	横刃型石器	遺構外	AF13	褐色土		硬砂岩	73X41X11	
第32図	8	横刃型石器	遺構外	AE16			硬砂岩	84X42X15	
第32図	9	抉入打製石庖丁	遺構外	BW5			硬砂岩	79X45X10	
第32図	10	横刃型石器	遺構外	AG4			硬砂岩	85X46X13	
第32図	11	横刃型石器	遺構外	AK10			不明	110X42X10	
第32図	12	横刃型石器	遺構外	BU5			硬砂岩	63X45X11	
第32図	13	横刃型石器	遺構外				硬砂岩	73X45X10	
第32図	14	有肩扇状形石器	遺構外	AE14			硬砂岩	106X109X21	
第33図	1	石匙	遺構外	ZZZ	下層黒褐色土		珪岩？	62X50X11	
第33図	2	磨製石庖丁	遺構外	ZZZ			砂岩	92X37X8	火を受ける
第33図	3	石庖丁？	遺構外	AF11			粘板岩	52X36X3	
第33図	4	石棒？	遺構外	AE13	褐色土		不明	36X29X11	
第33図	5	不明	遺構外	ZZZ			軽石	52X47X14	敲打・研磨痕あり。火受ける
第33図	6	擦痕を有する礫	遺構外	AK15	礫混暗褐色土		緑色岩	50X19X6	
第33図	7	持砥石	遺構外	ZZZ			不明	84X60X40	土器器面の研磨用？
第33図	8	持砥石？	遺構外	BU5			不明	39X39X24	仕上砥
第33図	9	持砥石	AF18P1				凝灰岩？	54X25X22	粗砥？
第33図	10	石棒	遺構外	AC18			不明	44X22X22	仕上砥
第33図	11	凹石	遺構外	ZZZ			硬砂岩	120X86X52	AC18P2から混入出土
第33図	12	敲打器	遺構外				硬砂岩	84X79X22	
第33図	13	敲打器	遺構外	BW39			硬砂岩	113X51X26	ST01から混入出土
第33図	14	敲打器	遺構外	BR16			硬砂岩	115X49X38	BW39P1から混入出土
第34図	1	敲打器	遺構外	BV18			硬砂岩	131X58X48	
第34図	2	敲打器	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	193X55X37	
第34図	3	敲打器	遺構外	AM12	礫混暗褐色土		硬砂岩	149X70X37	

第58表　石器等属性表 (3)

図版No.	器種	遺構名	区	層	遺物No.	石材	法量	備考
第34図 4	敲打器	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	95X30X27	
第34図 5	敲打器	遺構外	ZZZ			硬砂岩	120X33X26	
第34図 6	敲打器	遺構外	ZZZ	撹乱		硬砂岩	154X53X41	
第34図 7	敲打器	遺構外	ZZZ			硬砂岩	154X41X18	
第34図 8	敲打器	遺構外	AE9	礫混褐色土		硬砂岩	91X40X32	
第34図 9	敲打器	遺構外	AF13	褐色土		硬砂岩	48X40X29	
第35図 1	土製耳飾	遺構外				粘土	60X59X21	SB38より混入出土
第35図 2	土製耳飾？	遺構外	撹乱			粘土	24X24X31	
第35図 3	土製耳飾	遺構外	AH8			粘土	24X24X18	
第35図 4	土製耳飾	遺構外	BU12	黒色土		粘土	12X12X10	
第35図 5	土製小玉	SB10				粘土	14X11X11	
第35図 6	土製小玉	SB10		4層		粘土	11X10X8	
第35図 7	小玉	遺構外	AB14	褐色土		ガラス	3X3X2	青色
第35図 8	臼玉	SB05			1	滑石	9X8X6	
第35図 9	臼玉	SB24			8	滑石	5X5X3	
第35図 10	臼玉	SB25			13	滑石	9X8X2	
第35図 11	臼玉	SB10P1				滑石	6X6X3	
第35図 12	臼玉	SB10		粘土		滑石	6X6X4	
第35図 13	臼玉	SB10		粘土		滑石	5X5X3	
第35図 14	臼玉	SB10		粘土		滑石	4X4X3	
第35図 15	臼玉	SB10		粘土		滑石	5X5X4	
第35図 16	臼玉	SB10				滑石	5X5X3	
第35図 17	臼玉	SB10	BR5c			滑石	4X4X3	
第35図 18	臼玉	SB10	BR5c			滑石	4X4X2	
第35図 19	臼玉	SB10		粘土		滑石	5X-X2	
第35図 20	臼玉	遺構外	AG11		27	滑石	9X9X6	
第35図 21	臼玉	遺構外	AG11		27	滑石	9X8X4	
第35図 22	臼玉	遺構外	AG11		27	滑石	8X7X4	
第35図 23	臼玉	遺構外	AG11		3	滑石	8X8X8	
第35図 24	臼玉	遺構外	AG11		3	滑石	8X8X5	
第35図 25	臼玉	遺構外	AF11		5	滑石	8X8X3	
第35図 26	臼玉	遺構外	AF11		5	滑石	8X7X3	
第35図 27	臼玉	遺構外	AF11		5	滑石	8X7X4	
第35図 28	臼玉	遺構外	AF11		5	滑石	7X7X3	
第35図 29	臼玉	遺構外	AG11		27	滑石	9X9X5	
第35図 30	臼玉	遺構外	AF11		6	滑石	8X8X3	
第35図 31	臼玉	AE5P2				滑石	6X5X4	
第35図 32	臼玉	遺構外	AF11		5	滑石	7X-X2	
第35図 34	臼玉	遺構外	AF11		5	滑石	6X-X1	
第35図 35	管玉	遺構外	AD10	黒褐色土		緑色岩	37X15X13	
第35図 36	紡錘車	SB24			9	滑石	39X39X17	
第35図 37	臼玉	遺構外	AG11		3	滑石	4X4X2	
第35図 38	石製模造品	SB10	BR4d			滑石	29X17X5	
第35図 38	石製模造品	BR41P1				滑石	17X17X2	
第35図 39	石鏃	遺構外	BW6	灰色土		黒曜石	26X13X4	

第59表　石器等属性表 (4)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第36図 1	曲柄ナスビ形又鍬	59	SB10			SB13-2	板材(柾目)	(カシ)	○	244X130X16	○	
第36図 2	曲柄ナスビ形又鍬	18	SB10				板材(柾目)	(カシ)	○	397X68X16	○	
第36図 3	曲柄ナスビ形又鍬	58	SB10			1033	板材(柾目)	(カシ)	○	240X85X13	○	
第36図 4	直柄横鍬	34-5・11	SB10				板材(柾目)	(カシ)		90X50X18	○	
第36図 5	直柄横鍬	43	SB10					(カシ)		80X35X19	○	
第36図 6	直柄横鍬未成品	26	SB10			9	板材(柾目)	クヌギ(カシ)		295X221X58	○	
第37図 1	直柄横鍬未成品	27	SB10			6	板材(柾目)	(カシ)	○	309X248X64	○	
第37図 2	横鍬泥除	2	SB10			16	板材(柾目)	(カシ)	○	234X175X13	○	
第37図 3	横鍬泥除未成品	34-1	SB10				板材(柾目)	(カシ)	○	139X118X19	○	
第37図 4	横鍬泥除未成品	28	SB10			5	板材(柾目)	(カシ)	○	368X254X36	○	
第38図 1	直柄多又鋤	60	SB10			22	板材(柾目)	(カシ)		214X108X18	○	
第38図 2	一木鋤柄	67	SB10			SB14-1	板材(斜目)	(カシ)		107X73X18	○	
第38図 3	農具柄	77-6-D	SB10				丸太材芯持ち	(広葉樹)		86X36X40	○	鎌？
第38図 4	農具柄	34-6-D	SB10				板材(斜目)	(スギ)		124X21X6	○	
第38図 5	農具柄	93-3-A	SB10				板材(板目)	(カシ)		136X33X26	○	
第38図 6	農具柄	100-1-A	SB10				丸太材芯去り	(カシ)		220X30X25	○	
第38図 7	農具柄？	105-2-C	SB10			1040	丸太材芯持ち	(針葉樹)		235X36X33	○	
第38図 8	農具柄？	94-5-D	SB10				丸太材芯去り	(ナラ？)		52X30X18	○	
第38図 9	農具？	83-2	SB10			372	板材(柾目)			254X111X15		あるいは鼠返し？
第38図 10	農具片？	71-B	SB10			1034	板材(柾目)			125X36X8		
第38図 11	農具片？	97-3-E	SB10				板材(板目)			54X38X13		
第38図 12	柝	74	SB10			24	板材(柾目)	(スギ)	○	323X33X15	○	
第39図 1	工具柄	91	SB10			536	丸太材芯持ち	(カシ)	○	424X22X22	○	袋状鉄斧
第39図 2	工具柄	90	SB10			12	丸太材芯持ち	(広葉樹)	○	281X22X19	○	袋状鉄斧
第39図 3	工具柄？	129-A	SB10			SB13-126	丸太材芯持ち			483X25X21		
第40図 1	網枠	46	SB10			7	丸太材芯持ち		○	柄578X46X29	○	
第40図 6	網枠	104-1	SB10		粘土	SB15-192	丸太材芯持ち	(ネズミサシ)	○	445X15X12	○	
第40図 2	網枠	63	SB10			SB13-7	丸太材芯持ち	(ネズミサシ)	○	柄216X36X24	○	第40図3と同一個体
第40図 3	網枠	78-B	SB10				丸太材芯持ち	(ネズミサシ)		138X12X10	○	第40図2と同一個体
第40図 4	網枠	77-7-E	SB10				丸太材芯持ち	(ウツギ？)		183X14X12	○	
第40図 5	網枠	104-2-B	SB10		粘土	SB15-141	丸太材芯持ち	(ヒノキ)		360X13X9	○	
第41図 1	槽	126-1	SB10			408	板材(板目)	(ヒノキ)		977X97X70	○	
第41図 2	槽	126-4	SB10			26	板材(斜目)	(スギ)	○	827X152X73	○	あるいは琴共鳴槽？
第41図 3	槽	72	SB10			SB13-3	板材(斜目)	(ネズコ？)	○	393X112X33	○	
第41図 4	槽	140-3	SB10			475	板材(板目)			229X72X40	○	
第41図 5	槽	9	SB10				板材(板目)	(サワラ)		301X40X39	○	脚部
第42図 1	曲物	33、85-2	SB10			1021	板材(板目)	(ヒノキ)		666X40X5	○	

第60表　木製品属性表(1)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第42図 2	曲物蓋	62	SB10			20	板材(柾目)	(スギ?)		178X111X7	○	
第42図 3	曲物底板	70	SB10			21	板材(斜目)	(スギ)		119X53X9	○	
第43図 1	曲物底板	127-7-B	SB10			421	板材(斜目)	(スギ)		319X60X13	○	
第43図 2	箱部材	73-1	SB10			352	板材(板目)	(ツガ)		283X128X17	○	
第43図 3	折敷側板?	34-10	SB10				板材(板目)	(スギ)		393X39X12	○	
第43図 4	武器形祭祀具(木鏃)	34-5-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		93X13X10	○	
第43図 5	鳥形	88	SB10			1052	板材(柾目)	(ヒノキ)		123X81X11	○	
第43図 6	鳥形?	89	SB10			97	板材(板目)	(?)		138X66X10	○	
第44図 1	きぬがさ状木製品	75、80-1	SB10	BU6		SB15-9	丸太材芯持ち	(マツ)	○	185X73X—	○	
第44図 2	祭祀具(刀子形)	11-A	SB10				板材(斜目)	(スギ)		163X19X7	○	
第45図 1	舟形祭祀具	13	SB10			10	板材(板目)		○	238X108X40	○	
第45図 2	祭祀具(刀子形)	11-C	SB10				板材(斜目)	(スギ)		306X13X7	○	
第45図 3	武器形祭祀具(槍形)	82	SB10			384	板材(板目)	(クリ)	○	652X44X30	○	
第45図 4	武器形祭祀具(弓形)	122-A	SB10			SB15-179	板材(板目)	(コナラ?)	○		○	
第46図 1	指物(案)	71-C	SB10			1037	板材(斜目)	(?)		159X43X22	○	
第46図 2	有頭状木製品	61	SB10			SB13-4	板材(板目)	(ツガ)		337X43X27	○	
第46図 3	有頭状木製品	115-A	SB10			505	割材	(モミ)		668X61X25	○	
第46図 4	有頭状木製品	4	SB10				角材	(ヒノキ)		374X33X33	○	
第46図 5	有頭状木製品	101-A	SB10			SB13-86	板材(板目)	(ツガ?)		307X35X15	○	
第46図 6	有頭状木製品	93-31	SB10				板材(板目)	(スギ)		43X26X14	○	
第47図 1	有頭状木製品	10	SB10				角材	(マツ)		388X39X35	○	
第47図 2	有頭状木製品	14-A	SB10				丸太材芯去り	(ヒノキ)		186X32X20	○	
第47図 3	有頭状木製品	66	SB10			SB15-9	丸太材芯持ち	(ナラ)	○	179X25X15	○	
第47図 4	有頭状木製品	34-3-C	SB10				板材(板目)	(マツ)		156X32X20	○	
第47図 5	有頭状木製品	100-1-C	SB10			250	丸太材芯去り	(サワラ)		157X30X23	○	
第47図 6	有頭状木製品	81-7	SB10			174	板材(板目)	(スギ)		251X36X15	○	
第47図 7	斎串	3-A	SB10				板材(板目)	(ヒノキ)		128X40X7	○	BI型式
第47図 8	杵状	6	SB10			4	丸太材芯持ち	(コナラ)		264X53X25	○	
第48図 1	栓	3-B	SB10				丸太材芯去り	(ツガ)		183X18X15	○	あるいは木鏃
第48図 2	留針	3-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		171X16X10	○	
第48図 3	留針	83-13	SB10			SB13-52	板材(板目)	(スギ)		139X14X11	○	
第48図 4	留針	77-7G	SB10				板材(斜目)	(サワラ)		47X12X5	○	
第48図 5	栓	78-A	SB10				丸太材芯去り	(モミ)		151X22X14	○	
第48図 6	栓	93-1-D	SB10				丸太材芯去り	(ナラ?)		68X13X7	○	

第61表　木製品属性表(2)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第48図 7	栓	77-5-G	SB10				板材(斜目)	(スギ)		72X12X8	○	
第48図 8	栓	109-D	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		90X23X19	○	
第48図 9	栓	104-2-A	SB10	BV7b			板材(斜目)	(ネズミサシ)	○	92X11X7	○	
第48図 10	栓	94-4-J	SB10				丸太材芯去り	(?)		61X22X13	○	
第48図 11	栓	83-12	SB10				丸太材芯去り			45X15X10		
第48図 12	容器等部材	14-B	SB10				板材(板目)	(サワラ)		120X59X11	○	
第48図 13	容器等部材	69-B	SB10			96	板材(板目)	(ツガ?)		139X30X13	○	
第48図 14	容器等部材	69-A	SB10			187	板材(板目)	(ツガ?)		271X52X9	○	曲物底板転用
第48図 15	容器等部材	83-1	SB10			102	板材(板目)	(サワラ)		285X72X12	○	
第49図 1	容器等部材	113-A	SB10			SB13-73	角材	(ヒノキ)		403X30X20	○	
第49図 2	留針	34-2-B	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		262X11X10	○	
第49図 3	容器等部材	127-2-A	SB10				角材	(サワラ)		405X25X23	○	
第49図 4	容器等部材	127-3-A	SB10				板材(斜目)			353X54X22	○	
第49図 5	容器等部材	127-2-B	SB10				板材(板目)	(スギ)		307X47X24	○	墨入れ線あり
第49図 6	容器等部材	34-2-A	SB10				板材(板目)	(ツガ)		160X78X28	○	
第49図 7	容器等部材	68	SB10			25	板材(板目)	(サワラ)		133X32X22	○	
第50図 1	斎串	73-4	SB10			332	板材(柾目)	(ヒノキ)		425X37X9	○	DI型式
第50図 2	部材?	12	SB10				角材	(ツガ)		299X69X44	○	
第50図 3	不明	94-5-A	SB10				角材	(スギ)		64X51X48	○	
第50図 4	先尖棒	97-3-D	SB10				角材			83X20X15	○	
第50図 5	先尖棒	163-C	SB10			SB15-170	半截材			146X49X24		
第50図 6	斎串	136-2-D	SB10			1028	板材(板目)	(サワラ)		116X43X15	○	BI型式?
第50図 7	先尖棒	105-3-F	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		121X13X14	○	
第50図 8	先尖棒	93-3-B	SB10				板材(板目)	(サワラ)		148X19X10	○	
第50図 9	先尖棒	162-3-A	SB10			1026	丸太材芯去り			133X14X12		
第50図 10	先尖棒	77-5-C	SB10				板材(板目)	(スギ)		90X12X9	○	
第50図 11	先尖棒	100-2-B	SB10			1030	丸太材芯去り	(ツガ)		113X7X5	○	
第50図 12	先尖棒	77-5-B	SB10				板材(斜目)	(スギ)		107X11X7	○	栓?
第50図 13	先尖棒	77-7-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		89X14X12	○	
第51図 1	棒状具	136-2-B	SB10	BQ5b			板材(板目)	(スギ)		237X29X9	○	
第51図 2	棒状具	100-1-D	SB10			259	丸太材芯去り	(サワラ)		135X20X18	○	
第51図 3	棒状具	114-D	SB10	BS4b			板材(板目)	(スギ)		164X15X11	○	
第51図 4	棒状具	136-2-C	SB10	BR5b			板材(板目)	(スギ)		163X23X12	○	
第51図 5	棒状具	105-3-E	SB10			600	丸太材芯持ち	(?)		235X19X17	○	
第51図 6	棒状具	136-3-A	SB10			195	板材(板目)	(スギ)		650X43X20	○	
第51図 7	棒状具	105-3-G	SB10			555	板材(板目)			171X20X7		
第51図 8	棒状具	105-3-I	SB10			600	丸太材芯持ち			237X19X16		

第62表　木製品属性表(3)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第51図 9	棒状具	136-3-C	SB10			243	板材(板目)	(スギ)		102X20X8	○	
第51図 10	棒状具	104-2-D	SB10	BV7b			丸太材芯持ち	(ナラ?)		53X17X9	○	
第51図 11	棒状具	77-7-B	SB10				板材(柾目)	(サワラ)		83X9X6	○	
第51図 12	細棒	77-5-F	SB10				板材(柾目)	(スギ)		146X4X2	○	箸状
第51図 13	細棒	77-5-E	SB10				板材(柾目)	(スギ)		118X4X4	○	箸状
第51図 14	細棒	101-B	SB10				丸太材芯去り	(ヒノキ)		152X5X4	○	箸状
第51図 15	細棒	101-C	SB10				丸太材芯去り	(ヒノキ)		40X4X4	○	箸状
第51図 16	細棒	101-D	SB10				丸太材芯去り	(ヒノキ)		110X5X4	○	箸状
第52図 1	容器蓋?	34-7-A	SB10				板材(板目)	(サワラ)		108X40X14	○	
第52図 2	部材?	14-C	SB10				板材(斜目)	(スギ)		116X32X7	○	
第52図 3	部材?	94-1-C	SB10				板材(柾目)	(ツガ)		89X20X11	○	
第52図 4	部材?	81-11	SB10			110	板材(斜目)	(ヒノキ)		171X20X3	○	
第52図 5	部材?	83-3	SB10			218	板材(柾目)	(スギ)		265X66X14	○	
第52図 6	部材?	129-B	SB10			SB13-109	板材(斜目)	(ヒノキ)		316X25X14	○	
第52図 7	部材?	34-4-A	SB10				板材(柾目)	(サワラ)		203X30X7	○	
第52図 8	部材?	15-A	SB10				板材(板目)	(ヒノキ)		219X17X9	○	
第52図 9	部材?	34-6-E	SB10				板材(斜目)	(スギ)		126X18X10	○	
第52図 10	部材?	109-A	SB10				板材(板目)	(モミ)		97X23X11	○	
第52図 11	部材?	94-5-C	SB10				板材(柾目)	(ヒノキ)		82X30X11	○	
第52図 12	棒状具	97-3-B	SB10				板材(板目)			150X13X7	○	
第52図 13	不明	97-1-B	SB10				板材(板目)	(スギ)		170X47X31	○	残材?
第53図 1	不明	127-6-C	SB10			276	板材(板目)	(スギ)		226X24X12	○	
第53図 2	不明	113-B	SB10				板材(斜目)	(スギ)		153X28X16	○	
第53図 3	不明	34-7-B	SB10				板材(柾目)	(サワラ)		76X14X9	○	
第53図 4	不明	93-2-F	SB10				板材(斜目)	(サワラ)		168X15X5	○	
第53図 5	棒状具	97-4-F	SB10				板材(斜目)			98X10X4	○	
第53図 6	棒状具	97-3-A	SB10				板材(板目)			191X13X7	○	
第53図 7	棒状具	131-3-B	SB10			SB15-112	板材(斜目)	(サワラ)		210X20X12	○	
第53図 8	斎串	48-A	SB10				板材(板目)	(サワラ)		228X29X13	○	CI型式
第53図 9	斎串	34-4-B	SB10				板材(柾目)	(サワラ)		156X30X11	○	BI型式?
第53図 10	斎串	81-10	SB10			99	板材(斜目)	(サワラ)		152X43X11	○	BI型式?
第53図 11	斎串	104-2-C	SB10			167	板材(柾目)	(ヒノキ)		132X25X7	○	AI型式
第53図 12	不明	94-5-B	SB10				板材(柾目)	(スギ)		88X43X13	○	
第53図 13	斎串	94-4-G	SB10				板材(板目)	(サワラ)		112X15X6	○	BI型式?
第53図 14	斎串	97-3-C	SB10				板材(斜目)			62X28X8	○	BI型式?
第53図 15	不明	17-A	SB10				板材(板目)	(スギ)		190X36X21	○	
第54図 1	先尖棒	93-2-C	SB10				板材(斜目)	(スギ)		240X22X16	○	

第63表　木製品属性表(4)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第54図 2	先尖棒	100-1-B	SB10			262	板材(板目)	(ヒノキ)		213X19X7	○	箆状
第54図 3	先尖棒	77-4-A	SB10				板材(板目)	(スギ)		155X24X 9	○	
第54図 4	先尖棒	93-2-E	SB10				板材(板目)	(サワラ)		172X20X16	○	
第54図 5	先尖棒	83-12-B	SB10				板材(斜目)	(スギ)		166X13X8	○	
第54図 6	先尖棒	85-1-B	SB10				板材(斜目)	(スギ)		115X11X5	○	
第54図 7	先尖棒	94-1-E	SB10				板材(柾目)	(ツガ)		144X13X9	○	
第54図 8	先尖棒	34-6-A	SB10				板材(柾目)	(サワラ)		145X19X6	○	
第54図 9	棒状具	131-3-A	SB10			SB15-147	板材(斜目)	(サワラ)		257X21X10	○	
第54図 10	先尖棒	136-5-B	SB10			1004	板材(板目)			184X8X7	○	
第54図 11	棒状具	111	ZZZ				板材(斜目)	(スギ)		233X21X18	○	
第54図 12	棒状具	73-2-B	SB10				板材(板目)	(?)		214X30X20	○	
第54図 13	棒状具	93-2-B	SB10				丸太材芯去り	(サワラ)		177X24X14	○	
第54図 14	棒状具	94-2-E	SB10				板材(斜目)	(ツガ)		189X18X17	○	
第54図 15	棒状具	94-3-E	SB10				板材(斜目)	(ツガ)		180X17X11	○	
第55図 1	先尖棒	81-5	SB10			SB15-136	板材(板目)	(スギ)		288X24X10	○	
第55図 2	先尖棒	136-2-A	SB10			234	角材	(スギ)		298X18X15	○	先端炭化
第55図 3	先尖棒	15-A	SB10				板材(板目)	(ヒノキ)		223X16X8	○	
第55図 4	先尖棒	34-6-B	SB10				板材(柾目)	(サワラ)		207X16X10	○	
第55図 5	先尖棒	71-A	SB10			1031	丸太材芯去り	(スギ)		436X24X13	○	ヤス?
第55図 6	先尖棒	131-2-B	SB10			SB15-90	板材(柾目)	(ヒノキ)		361X38X16	○	
第55図 7	不明	105-1-A	SB10			269	角材	(スギ)		314X46X29	○	
第55図 8	不明	83-9	SB10		2層		板材(柾目)	(スギ)		270X39X24	○	
第55図 9	不明	127-4-D	SB10			467	角材	(サワラ)		213X37X25	○	
第56図 1	棒状具	16-A	SB10				割材?	(スギ)		386X34X27	○	
第56図 2	棒状具	127-7-A	SB10			584	丸太材芯去り	(?)		353X43X31	○	
第56図 3	棒状具	83-8	SB10			203	板材(板目)	(サワラ)		375X42X21	○	
第56図 4	棒状具	131-2-A	SB10			SB15-185	丸太材芯去り	(カシ)		427X29X28	○	
第56図 5	不明	81-8	SB10			1002	板材(柾目)	(サワラ)		184X45X19	○	
第56図 6	不明	97-1-A	SB10				角材	(スギ)		169X51X37	○	
第56図 7	不明	127-4-A	SB10			192	丸太材芯去り	(サワラ)		187X33X20	○	
第56図 8	棒状具	157-1-A	SB10			390	板材(板目)			579X61X35		
第57図 1	先尖棒	126-2	SB10			429	丸太材芯去り	(スギ)		575X28X25	○	ヤス?
第57図 2	先尖棒	34-3-B	SB10				角材	(サワラ?)	○	469X27X19	○	
第57図 3	先尖棒	34-2-A	SB10				板材(板目)	(サワラ?)		598X38X25	○	
第57図 4	先尖棒	81-6	SB10			185	丸太材芯去り	(サワラ)		241X21X15	○	
第57図 5	先尖棒	127-3-B	SB10			210	丸太材芯去り			334X17X19	○	先端炭化
第57図 6	先尖棒	127-4-C	SB10			183	丸太材芯去り	(スギ)		170X21X14	○	

第64表　木製品属性表(5)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第57図 7	先尖棒	94-4-A	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		153X14X10	○	
第57図 8	先尖棒	77-4-B	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		123X22X20	○	
第57図 9	先尖棒	93-3-F	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		93X9X6	○	
第57図 10	棒状具	131-1-C	SB10			SB15-225	丸太材芯去り	(スギ)		142X31X26	○	
第57図 11	棒状具	93-1-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		81X13X11	○	
第57図 12	棒状具	95-B	SB10				角材	(ナラ?)		83X15X11	○	
第57図 13	棒状具	113-D	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		206X20X17	○	
第57図 14	棒状具	94-2-F	SB10				丸太材芯去り	(ツガ)		98X11X10	○	
第57図 15	棒状具	94-4-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		105X12X11	○	
第57図 16	棒状具	115-C	SB10		4層		丸太材芯去り			172X12X8		
第58図 1	棒状具	114-B	SB10	BS4b			丸太材芯去り	(スギ)		172X17X13	○	
第58図 2	棒状具	94-3-D	SB10				丸太材芯去り	(サワラ)		143X27X13	○	
第58図 3	棒状具	113-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		69X12X10	○	
第58図 4	棒状具	159-C	SB10				板材(斜目)			210X35X11		
第58図 5	棒状具	114-C	SB10		4層		丸太材芯去り	(スギ)		187X17X10	○	
第58図 6	棒状具	73-5	SB10				板材(斜目)			327X20X19		
第58図 7	棒状具	94-2-A	SB10				丸太材芯去り	(ナラ)		290X32X24	○	
第58図 8	棒状具	159-A	SB10				丸太材芯去り			325X23X19		
第58図 9	棒状具	93-1-E	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		378X17X12	○	
第58図 10	棒状具	94-1-C	SB10				割材	(?)		474X28X19	○	
第58図 11	棒状具	105-3-J	SB10				丸太材芯去り			123X13X14		
第58図 12	棒状具	94-4-K	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		88X11X9	○	
第58図 13	棒状具	109-E	SB10				丸太材芯去り	(カシ)		125X20X10	○	楔?
第58図 14	棒状具	109-B	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		105X19X11	○	
第58図 15	棒状具	97-3-J	SB10				丸太材芯去り			61X19X15	○	
第59図 1	棒状具	94-3-A	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		188X16X15	○	
第59図 2	棒状具	127-4-B	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		190X19X16	○	
第59図 3	棒状具	94-2-D	SB10				丸太材芯去り	(ツガ)		198X20X14	○	
第59図 4	棒状具	94-1-D	SB10				丸太材芯去り	(ツガ)		220X15X13	○	
第59図 5	棒状具	93-2-D	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		209X10X10	○	
第59図 6	棒状具	100-2-A	SB10	BS4b			丸太材芯去り	(サワラ)		216X11X9	○	
第59図 7	棒状具	93-1-E	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		274X22X13	○	
第59図 8	不明	137-1-A	SB10	BQ5a			板材(板目)	(スギ)		354X19X12	○	
第59図 9	棒状具	94-1-B	SB10				丸太材芯去り	(ツガ)		268X22X16	○	
第59図 10	棒状具	109-C	SB10				丸太材芯去り	(スギ)		96X19X13	○	
第59図 11	棒状具	94-1-F	SB10				丸太材芯持ち	(ツガ)		176X8X9	○	
第59図 12	棒状具	100-2-C	SB10		4層		丸太材芯去り	(サワラ)		98X14X12	○	

第65表　木製品属性表(6)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第59図 13	先尖棒	101-E	SB10	BS6 a			丸太材芯持ち	(?)		57 X 13 X 12	○	
第59図 14	棒状具	97-4-J	SB10				丸太材芯持ち			25 X 17 X 13	○	
第59図 15	棒状具	107	SB10				角材	(スギ)		462 X 29 X 21	○	
第60図 1	建築部材	65-2	SB10			1014	板材(斜目)	(ツガ)		308 X 84 X 38	○	
第60図 2	建築部材	5	SB10				板材(斜目)	(ツガ)		239 X 79 X 34	○	
第60図 3	建築部材	127-1	SB10			546	板材(斜目)	(スギ)		268 X 192 X 27	○	
第61図 1	建築部材	83-4	SB10			179	板材(板目)	(サワラ)		298 X 98 X 33	○	
第61図 2	建築部材	73-2-A	SB10			308	板材(板目)	(?)		263 X 88 X 15	○	
第61図 3	建築部材	83-7	SB10			88	板材(板目)	(サワラ)		127 X 80 X 27	○	
第61図 4	建築部材(横架材)	1	SB10				板材(板目)	(スギかモミ)	○	654 X 121 X 57	○	
第61図 5	建築部材(横架材)	136-6	SB10			119	板材(板目)	(クリ)		930 X 169 X 49	○	
第62図 1	建築部材	125	SB10			349	板材(板目)	(ツガ)	○	542 X 196 X 63	○	
第62図 2	建築部材	127-5	SB10			285	板材(斜目)	(ヒノキ)		409 X 208 X 49	○	釘跡?
第62図 3	建築部材(横架材?)	140-8	SB10			350	角材			974 X 88 X 61	○	
第62図 4	建築部材(横架材)	136-7	SB10			146	板材(板目)	(?)	○	1084 X 122 X 67	○	
第62図 5	建築部材(横架材)	158-4	SB10			309	板材(柾目)			1160 X 140 X 59		
第63図 1	建築部材	140-2	SB10			456	角材			413 X 71 X 57	○	
第63図 2	建築部材	131-4-2	SB10			SB15-56	割材	(クリ)		284 X 93 X 43	○	
第63図 3	建築部材(壁材)	158-2	SB10			303	板材(板目)			1064 X 76 X 24		
第63図 4	建築部材(壁材)	158-3	SB10			300	板材(板目)			1224 X 110 X 26		
第63図 5	建築部材	157-4	SB10			357	板材(板目)			1270 X 87 X 47		
第64図 1	建築部材(縦材)	137-6	SB10			354	割材	(スギ)		792 X 185 X 95	○	
第64図 2	建築部材	140-9	SB10			466	板材(板目)			894 X 98 X 23	○	あるいは馬形?
第64図 3	建築部材	137-2	SB10			523	板材(板目)	(スギ)		648 X 132 X 16	○	
第64図 4	建築部材	137-4	SB10			358	板材(板目)	(スギ)		481 X 92 X 44	○	
第64図 5	建築部材(垂木)	127-11-B	SB10			494	角材	(スギ)		447 X 31 X 30	○	
第64図 6	建築部材	134-2-B	SB10				割材	(サワラ)		567 X 52 X 36	○	
第64図 7	建築部材	140-5-B	SB10			419	板材(斜目)			872 X 65 X 33	○	
第65図 1	建築部材(垂木)	137-3	SB10			424	角材	(スギ)		798 X 51 X 40	○	転用杭
第65図 2	建築部材(垂木)	134-1-A	SB10				角材	(スギ)		827 X 56 X 40	○	
第65図 3	建築部材(垂木?)	140-4-B	SB10			307	板材(板目)			758 X 36 X 25	○	転用杭
第65図 4	建築部材(垂木?)	140-5-A	SB10			434	板材(板目)			960 X 39 X 22	○	転用杭
第65図 5	建築部材(垂木)	137-5	SB10			391	丸太材芯持ち	(ネズミサシ?)		880 X 32 X 28	○	
第65図 6	建築部材(垂木?)	140-4-A	SB10			445	板材(板目)			717 X 39 X 23	○	
第65図 7	建築部材(垂木?)	134-1-B	SB10				角材	(スギ)		687 X 40 X 30	○	
第65図 8	建築部材?	140-1-B	SB10			1035	板材(柾目)			604 X 62 X 31	○	

第66表　木製品属性表 (7)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第65図 9	建築部材(垂木？)	140-1-A	SB10			407	板材(板目)			540×38×16	○	
第66図 1	建築部材(垂木)	164-1	SB10			SB13-95	板材(板目)			1262×54×57		
第66図 2	建築部材(垂木)	163-A	SB10			SB15-75	板材(斜目)			1162×42×28		
第66図 3	建築部材(垂木)	157-3	SB10			389	板材(板目)			1063×54×37		
第66図 4	建築部材	162-2	SB10			165	板材(柾目)			777×70×30		
第66図 5	建築部材(垂木)	157-2-B	SB10			386	板材(板目)			766×50×36		
第66図 6	建築部材	162-1	SB10			194	板材(柾目)			736×61×44		
第66図 7	建築部材(垂木)	162-4-A	SB10				板材(板目)			538×39×16		
第67図 1	建築部材	140-7	SB10			327	板材(斜目)			1086×70×28	○	
第67図 2	建築部材(垂木)	140-6	SB10			310	角材			1044×55×41	○	
第67図 3	建築部材(垂木)	123	SB10			SB15-168	丸太材芯持ち	(ヤブツバキ？)		1378×37×30	○	
第67図 4	建築部材(垂木)	136-5-A	SB10			1004	丸太材芯去り	(スギ)		1137×38×35	○	
第68図 1	屋根材	41	SB10			15	樹皮・板材(斜目)	(ヒノキ)		714×290×15	○	
第68図 2	琴柱	125-B	SB10		2層		板材(板目)			20×26×7	○	
第68図 3	琴柱	100-2-D	SB10				板材(板目)	(スギ)		20×16×11	○	
第68図 4	琴柱	14-D	SB10				板材(板目)	(スギ)		23×32×9	○	
第68図 5	琴柱？	34-5-D	SB10				板材(板目)	(スギ)		36×20×7	○	
第68図 6	琴柱？	93-3-G	SB10				板材(板目)	(スギ)		13×24×4	○	
第69図 1	杭	136-1-A	SB10			97	割材			516×38×23		
第69図 2	杭	127-8-A	SB10			506	板材(柾目)			354×52×30		
第69図 3	杭	127-9-B	SB10			507	丸太材芯去り			313×31×24		
第69図 4	杭	136-3-B	SB10			249	割材			356×46×30		
第69図 5	杭	92-2-B	SB10				板材(斜目)			240×52×22		
第69図 6	杭	127-8-B	SB10			462	板材(板目)			323×60×31		
第69図 7	杭	93-1-A	SB10				板材(柾目)			333×35×13		
第69図 8	杭	73-3	SB10			345	板材(斜目)			412×39×13		
第70図 1	杭？	127-9-A	SB10			502	板材(斜目)	(スギ)		448×60×36	○	あるいは鳥形胴部？
第70図 2	杭	83-5	SB10			397	板材(斜目)			340×43×35		
第70図 3	杭	108-1-A	SB10			SB13-121	板材(板目)			317×32×25		
第70図 4	杭？	87-1-A	SB10				割材	(スギ)		317×37×24	○	先端炭化
第70図 5	杭	110	SB10				半截材			338×40×22		
第70図 6	杭	92-3-A	SB10				丸木			397×33×33		
第70図 7	杭	84-1	SB10			104	丸木			427×33×28		
第71図 1	杭	92-4-A	SB10				板材(板目)			277×32×20		
第71図 2	杭	108-1-B	SB10			SB13-108	板材(板目)			306×31×17		先端炭化
第71図 3	杭	77-1-A	SB10				板材(斜目)			238×36×22		
第71図 4	杭	108-2-C	SB10			SB13-128	板材(板目)			196×23×23		

第67表　木製品属性表(8)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第71図 5	杭？	87-1-B	SB10				割材	(スギ)		266X24X17	○	先端炭化
第71図 6	杭	93-4	SB10				板材(斜目)			265X33X15		
第71図 7	杭	108-2-D	SB10			122	板材(板目)			154X26X19		
第71図 8	杭	108-2-E	SB10			SB13-120	角材			195X22X24		
第71図 9	杭	108-2-F	SB10	BT6c			角材			152X27X20		
第71図 10	杭	87-2-B	SB10				板材(斜目)			146X25X11		
第71図 11	杭	87-2-A	SB10				板材(板目)			118X37X11		
第71図 12	杭	92-5-D	SB10				丸木			86X23X18		先端炭化
第71図 13	杭	164-2-B	SB10			SB13-132	丸木			379X36X33		
第72図 1	建築部材(垂木)	127-10-B	SB10			498	丸太材芯持ち	(ナラ？)		521X39X31	○	
第72図 2	建築部材(垂木)	127-11-A	SB10			488	丸太材芯持ち	(ツガ)		480X46X51	○	転用杭
第72図 3	建築部材(垂木)	76	SB10			1016	丸太材芯持ち	(マツ？)		587X39X40	○	転用杭
第72図 4	建築部材(垂木)	126-3	SB10			27	丸太材芯持ち	(ヒノキ？)		906X42X45	○	転用杭
第72図 5	建築部材(垂木？)	105-2-B	SB10			450	板材(斜目)			465X21X14		転用杭
第72図 6	建築部材(垂木)	127-10-A	SB10			441	角材	(ヒノキ)		575X41X26	○	転用杭？
第72図 7	建築部材(縦材)		SB10			301	角材			1684X99X77		転用杭
第73図 1	棒状具	117	SB21	AN14			丸太材芯去り	(スギ)		158X19X15	○	
第73図 2	不明	130-3-A	SK09				板材(柾目)			52X20X7		
第73図 3	栓	130-2-E	SK12				板材(板目)			103X17X13		
第73図 4	建築部材？	54-B	SK12				角材	(スギ)		160X56X44	○	
第73図 5	棒状具	54-C	SK12				板材(板目)			180X39X13		
第73図 6	不明	54-A	SK12				板材(板目)			123X90X31		残材？
第73図 7	不明	130-2-C	SK12				板材(斜目)	(スギ)		117X19X13	○	
第73図 8	棒状具	130-2-A	SK12				板材(柾目)	(スギ)		136X19X11	○	
第73図 9	不明	130-2-D	SK12				板材(板目)	(サワラ)		110X29X12	○	
第73図 10	不明	130-2-B	SK12				板材(板目)	(サワラ)		103X17X13	○	
第73図 11	建築部材？	112-B	SK18				角材	(スギ)		147X72X49	○	
第73図 12	栓？	103-C	SK18				板材(板目)	(スギ)		162X19X8	○	
第73図 13	棒状具	130-3-B	SK18				丸太材芯去り	(サワラ)		112X31X26	○	
第73図 14	不明	112-D	SK18				板材(板目)	(サワラ)		149X30X18	○	
第73図 15	棒状具	112-A	SK18				板材(板目)	(サワラ)		272X19X16	○	
第73図 16	棒状具	103-D	SK18				丸太材芯去り	(スギ)		314X14X7	○	
第73図 17	細棒	112-C	SK18				板材(柾目)	(スギ)		240X7X5	○	箸状
第74図 1	棒状具	160	SK27			5	丸太材芯去り			188X26X23		
第74図 2	部材	106	SD11				板材(斜目)	(サワラ)		275X41X22	○	
第74図 3	槽	20-A	SD12				板材(斜目)	(スギ)		171X75X29	○	脚部
第74図 4	曲物底板	20-B	SD12				板材(斜目)	(スギ)		124X61X10	○	

第68表　木製品属性表 (9)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第74図 5	竪杵	19	SD12				丸太材芯去り	(カシ)	○	395×89×74	○	搗部
第74図 6	不明	29	SD12				板材(柾目)	(スギ)		128×56×21	○	
第74図 7	栓	128-1-C	SD12				板材(板目)	(スギ)		124×22×12	○	
第74図 8	栓？	128-1-B	SD12				板材(板目)	(スギ)		133×16×9	○	
第74図 9	栓？	128-6-D	SD12				板材(柾目)	(サワラ)		152×15×8	○	
第74図 10	栓？	50-2-A	SD12				板材(斜目)	(スギ)		131×28×7	○	
第75図 1	先尖棒	50-1-B	SD12				丸太材芯去り	(スギ)		220×19×16	○	
第75図 2	先尖棒	50-1-A	SD12				板材(斜目)	(スギ)		248×28×12	○	
第75図 3	先尖棒	50-1-D	SD12				丸太材芯去り	(スギ)		253×26×17	○	
第75図 4	棒状具	50-1-E	SD12				板材(板目)	(スギ)		220×19×8	○	
第75図 5	棒状具	50-1-G	SD12				板材(板目)	(スギ)		162×16×9	○	
第75図 6	棒状具	50-1-H	SD12				板材(板目)	(スギ)		164×18×7	○	
第75図 7	棒状具	50-1-I	SD12				板材(板目)	(スギ)		147×12×8	○	
第75図 8	棒状具	51-A	SD18				板材(柾目)	(スギ)		157×28×14	○	
第75図 9	先尖棒	50-1-F	SD12				丸太材芯去り	(スギ)		181×19×16	○	
第75図 10	棒状具	50-1-C	SD12				丸太材芯去り	(スギ)		206×21×13	○	
第75図 11	先尖棒	50-1-J	SD12				丸太材芯去り	(スギ)		93×14×9	○	
第75図 12	先尖棒	50-2-D	SD12				板材(板目)	(スギ)		82×16×9	○	
第75図 13	棒状具	128-1-A	SD12				丸太材芯去り	(スギ)		147×20×16	○	
第75図 14	不明	128-6-E	SD12				板材(板目)	(スギ)		123×21×7	○	
第75図 15	先尖棒	128-6-B	SD12				角材	(サワラ)		153×19×15	○	
第75図 16	建築部材(横架材)	133	SD12				割材	(クリ)	○	1307×133×64	○	
第76図 1	横鍬泥除未成品	30	SD13				板材(柾目)	(カシ)		318×191×28	○	
第76図 2	槽	35	SD13				板材(板目)	(ヒノキ)	○	784×159×57	○	
第76図 3	曲物底板	37	SD13				板材(斜目)	(スギ)		390×59×11	○	
第76図 4	有頭状木製品	36	SD13				板材(板目)	(ツガ)		522×58×25	○	
第76図 5	栓？	120-B	SD13				丸太材芯去り	(スギ)		180×21×16	○	
第77図 1	棒状具	31	SD13				丸太材芯去り	(ツガ)		376×52×42	○	
第77図 2	建築部材	120-A	SD13				板材(斜目)	(？)	○	398×71×12	○	
第77図 3	建築部材(横架材)	128-3	SD13				板材(斜目)	(クリ)		610×102×54	○	
第77図 4	建築部材(横架材)	135-2	SD13				割材	(スギ)		748×152×59	○	
第77図 5	建築部材	135-1	SD13				割材	(サワラ？)		1096×169×63	○	
第78図 1	建築部材(横架材)	22	SD13				板材(板目)	(サワラ)		869×161×40	○	
第78図 2	建築部材	135-3	SD13				板材(斜目)	(スギ)		671×83×41	○	
第78図 3	建築部材	121	SD13				割材	(クヌギ？)		780×121×52	○	
第78図 4	杭	116-2-A	SD13				板材(板目)			455×38×26		
第78図 5	杭	116-4	SD13				半截材			426×68×27		

第69表　木製品属性表 (10)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第78図 6	杭	116-3	SD13				板材(板目)			595×70×39		
第78図 7	建築部材(垂木)	34-12	SD13				板材(板目)			360×23×13		転用杭
第79図 1	杭	138-5	SD13				板材(斜目)			694×76×43		
第79図 2	杭	138-2-B	SD13				板材(斜目)			733×42×43		
第79図 3	杭?	138-2-A	SD13				板材(板目)			804×60×48		
第79図 4	杭	138-3-B	SD13				丸木			592×50×51		
第79図 5	杭	138-6-A	SD13				板材(板目)			583×57×38		
第79図 6	杭	138-3-A	SD13				板材(板目)			791×40×36		
第79図 7	杭	138-4-B	SD13				板材(板目)			568×34×59		
第79図 8	杭	138-4-A	SD13				板材(板目)			659×57×58		先端炭化
第80図 1	杭	138-1	SD13				丸木			985×45×43		
第80図 2	杭	138-7	SD13				丸木			976×55×45		
第80図 3	杭	138-6-B	SD13				板材(板目)			622×39×33		
第80図 4	建築部材(縦材?)	132	SX04				角材	(サワラ)	○	892×103×80	○	
第80図 5	下駄	25	SX04				板材(斜目)	(?)	○	119×46×50	○	一木刳り貫き式
第80図 6	田下駄未成品	42	SX06				板材(柾目)	(ツガ)		321×109×33	○	
第80図 7	杭	38	SX06				角材	(スギ)		346×29×23	○	
第81図 1	部材	128-5-C	SD14				丸太材芯持ち	(?)		196×32×28	○	
第81図 2	先尖棒	52-C	SD14				丸太材芯去り	(サワラ)		210×31×12	○	
第81図 3	先尖棒	52-B	SD14				丸太材芯去り	(スギ)		248×18×11	○	
第81図 4	先尖棒	52-A	SD14				板材(板目)	(スギ)		283×17×14	○	
第81図 5	先尖棒	52-E	SD14				板材(板目)	(?)		107×17×7	○	
第81図 6	先尖棒	128-5-D	SD14				板材(板目)	(スギ)		226×24×14	○	
第81図 7	先尖棒	52-D	SD14				板材(斜目)	(サワラ)		147×22×9	○	
第81図 8	先尖棒	52-F	SD14				板材(斜目)	(サワラ)		105×17×4	○	
第81図 9	不明	52-G	SD14				板材(柾目)	(サワラ)		72×26×6	○	
第81図 10	杭	128-5-A	SD14				板材(斜目)			329×30×20		
第81図 11	建築部材(台輪)	45	SD14				板材(板目)	(ツガ)	○	502×230×60	○	
第81図 12	建築部材	44	SD14				板材(柾目)			493×134×40		
第82図 1	先尖棒	99-A	SD15				板材(板目)	(スギ)		545×32×15	○	
第82図 2	先尖棒	128-1-D	SD15				丸太材芯去り	(スギ)		250×20×15	○	
第82図 3	棒状具	128-1-E	SD15				丸太材芯去り	(スギ)		149×21×17	○	
第82図 4	棒状具	128-1-F	SD15				板材(斜目)	(スギ)		151×13×9	○	
第82図 5	先尖棒	128-9-A	SD16				板材(柾目)	(ヒノキ)		250×20×11	○	
第82図 6	棒状具	99-B	SD16				板材(柾目)	(スギ)		130×18×12	○	
第82図 7	不明	32-2	SD16				板材(柾目)			211×57×13		
第82図 8	不明	128-9-B	SD16				板材(斜目)	(スギ)		208×36×10	○	

第70表　木製品属性表 (11)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第82図 9	棒状具	128-9-C	SD16				板材(板目)	(スギ)		216X28X18	○	
第82図 10	梯子	32-1	SD16				板材(斜目)	(モミ)	○	768X131X78	○	
第83図 1	部材(容器？)	23	SD18				板材(柾目)	(ツガ)		272X104X23	○	円形枠付田下駄足板？
第83図 2	部材？	128-8-B	SD18				板材(斜目)	(ヒノキ)		184X45X20	○	
第83図 3	不明	128-8-C	SD18				板材(斜目)	(スギ)		182X36X19	○	
第83図 4	棒状具	119-B	SD18				板材(斜目)	(スギ)		182X23X8	○	
第83図 5	棒状具	128-2-A	SD18				丸太材芯去り	(スギ)		195X16X13	○	
第83図 6	棒状具	51-E	SD18				板材(板目)	(スギ)		273X23X12	○	
第83図 7	棒状具	128-8-A	SD18				角材	(ヒノキ)		220X25X23	○	
第83図 8	棒状具	128-8-E	SD18				丸太材芯去り	(スギ)		206X10X10	○	
第83図 9	棒状具	119-A	SD18				板材(斜目)	(スギ)		274X18X13	○	
第83図 10	棒状具	51-C	SD18				板材(斜目)	(スギ)		172X24X8	○	
第83図 11	棒状具	128-2-B	SD18				丸太材芯去り	(スギ)		109X11X11	○	
第83図 12	先尖棒	128-8-F	SD18				板材(斜目)	(スギ)		136X10X6	○	
第83図 13	棒状具	119-E	SD50			1	丸太材芯去り	(スギ)		165X19X14	○	
第83図 14	杭	116-5	SD18				板材(斜目)			472X35X32		
第84図 1	棒状具	55-B	SD19				丸太材芯去り	(スギ)		236X20X19	○	
第84図 2	棒状具	55-A	SD19				板材(板目)	(ヒノキ)		262X31X18	○	
第84図 3	下駄(左足)	24	SD20				板材(柾目)	(サワラ？)		192X95X47	○	一木刳り貫き式
第84図 4	部材	21	SD20				板材(板目)	(スギ？)	○	612X48X19	○	馬鍬引棒？
第84図 5	栓	53-B	SD20				丸太材芯去り	(ツガ)		137X16X8	○	
第84図 6	先尖棒	53-C	SD20				板材(板目)	(ツガ)		130X19X7	○	
第84図 7	先尖棒	53-D	SD20				板材(板目)	(ツガ)		129X14X8	○	
第84図 8	棒状具	53-A	SD20				板材(板目)	(ツガ)		175X21X11	○	
第84図 9	棒状具	119-C	SD18				角材	(スギ)		138X16X9	○	
第84図 10	杭？	128-4-B	SD24				板材(斜目)	(スギ)		286X30X15	○	
第84図 11	杭	128-4-A	SD24				板材(斜目)			523X33X28		
第85図 1	不明	77-2-B	SD30				板材(斜目)	(スギ)		114X41X9	○	
第85図 2	不明	77-2-C	SD30				丸太材芯去り	(スギ)		114X14X10	○	
第85図 3	農具？	77-2-A	SD30				板材(斜目)	(クリ)		115X60X24	○	
第85図 4	棒状具	83-11-C	SD30				板材(柾目)			302X14X11		
第85図 5	先尖棒	83-11-B	SD30				角材	(ツガ)		291X34X26	○	
第85図 6	杭	83-11-A	SD30				丸太材芯去り	(スギ)		422X22X17	○	
第85図 7	不明	103-B	SD33				板材(板目)	(ヒノキ)		166X39X18	○	
第85図 8	棒状具	103-A	SD33				板材(斜目)	(スギ)		293X20X14	○	
第85図 9	先尖棒	119-D	SD50				丸太材芯去り	(スギ)		170X24X18	○	
第85図 10	櫛	57	SI01				板材(板目)	(？)		47X62X－	○	

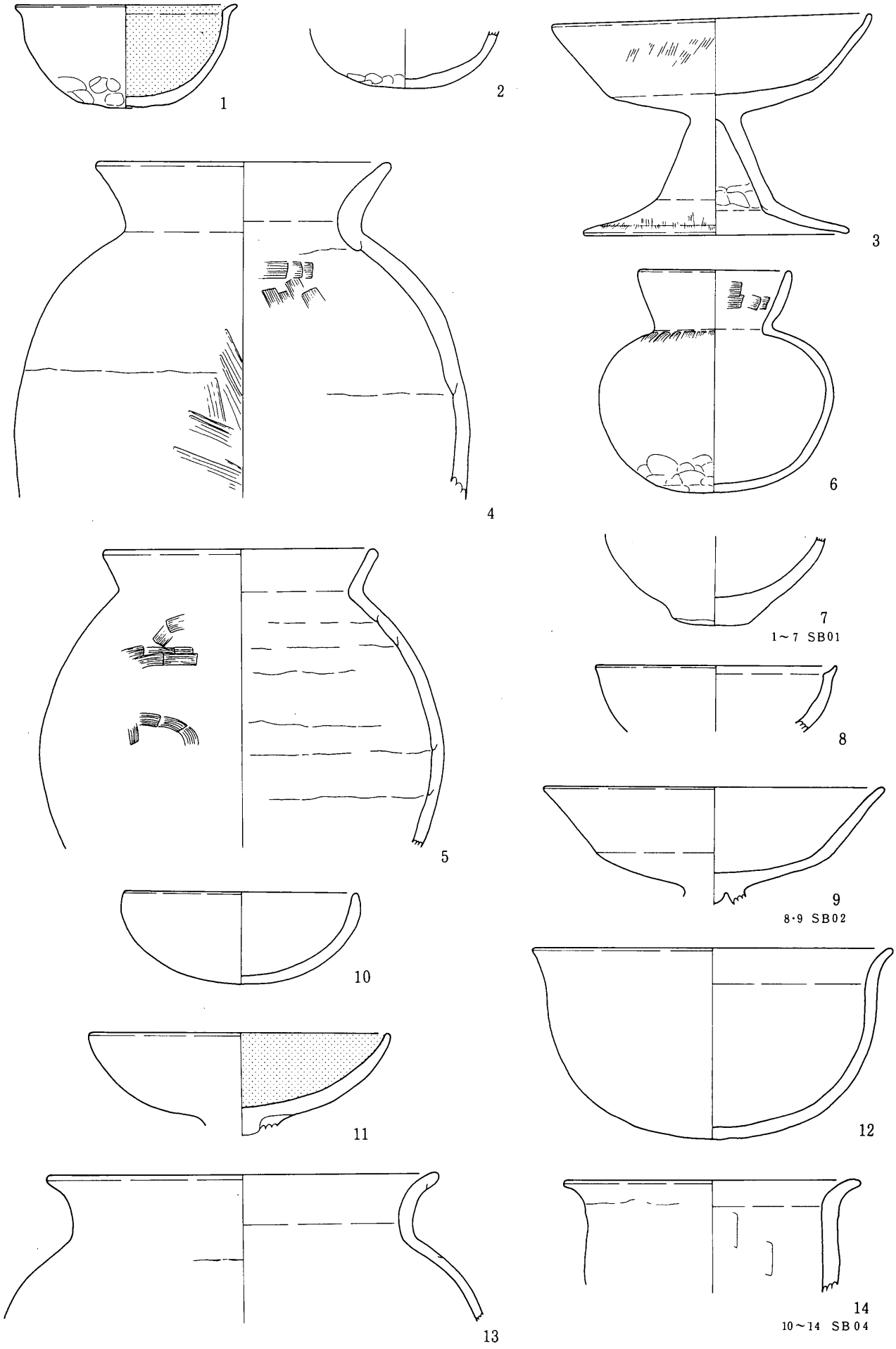
第71表　木製品属性表 (12)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
第86図 11	建築部材(縦材？)	161-3	SI01				板材(斜目)			269X59X45		
第86図 1	建築部材	130-1	SI01				割材	(モミ？)		468X181X50	○	
第86図 2	建築部材(横架材)	139-2	SI01				板材(板目)			878X253X61	○	
第86図 3	建築部材	139-1	SI01				板材(斜目)			918X107X51	○	
第86図 4	建築部材	161-1	SI01				板材(柾目)			888X252X63		
第86図 5	建築部材	161-2	SI01				板材(板目)			840X184X73		
第87図 1	建築部材	47		BV6			板材(斜目)	(ツガ)		540X172X43	○	
第87図 2	槽	98-2	ZZZ				板材(板目)	(スギ)	○	355X146X37	○	
第87図 3	曲物蓋	40	ZZZ				板材(斜目)	(スギ)		120X67X7	○	
第87図 4	棒状具	118-B		BS4 c			丸太材芯去り	(スギ)		148X21X15	○	
第87図 5	先尖棒	118-A		BU5	灰色土		丸太材芯去り	(スギ)		189X13X12	○	
第87図 6	火鑽板？	49					板材(板目)	(スギ)		445X58X13	○	
	ヒョウタン杓子		SB10			12				90X35X30	○	
	ヒョウタン		SB10							40X67X40	○	
	ヒョウタン		SB10			1032				75X15X6	○	他破片多数
	ヒョウタン		SB10			1044				200X95X60	○	
	木製短甲		SB10						○		○	
	樺皮		SB10			23					○	
	樺皮		SB10			SB13-9					○	
	樺皮		SB10	BR4 d							○	
	樺皮		SB10		砂						○	
	樺皮		SB10			19					○	
	樺皮		SB10	BQ5b							○	
	樺皮		SB10	BR4 d							○	
	樺皮		SB10		2層						○	
	樺皮		SB10	BR5 c							○	
	樺皮		SB10	BR5 c							○	
	樺皮		SK18								○	
	柱材遺存		SB32P5			2				125X60X40		
										75X90X30		
	柱材遺存		AA15P1							70X140X155		
	柱材遺存		AA15P2							195X160X70		
	柱材遺存		AA16P1							140X130X100		
	柱材遺存		AA17P7							255X125X80		
	柱材遺存		AA18P1							390X170X135		
	柱材遺存		AA18P3							230X200X130		
	柱材遺存		AA19P3							170X100X120		

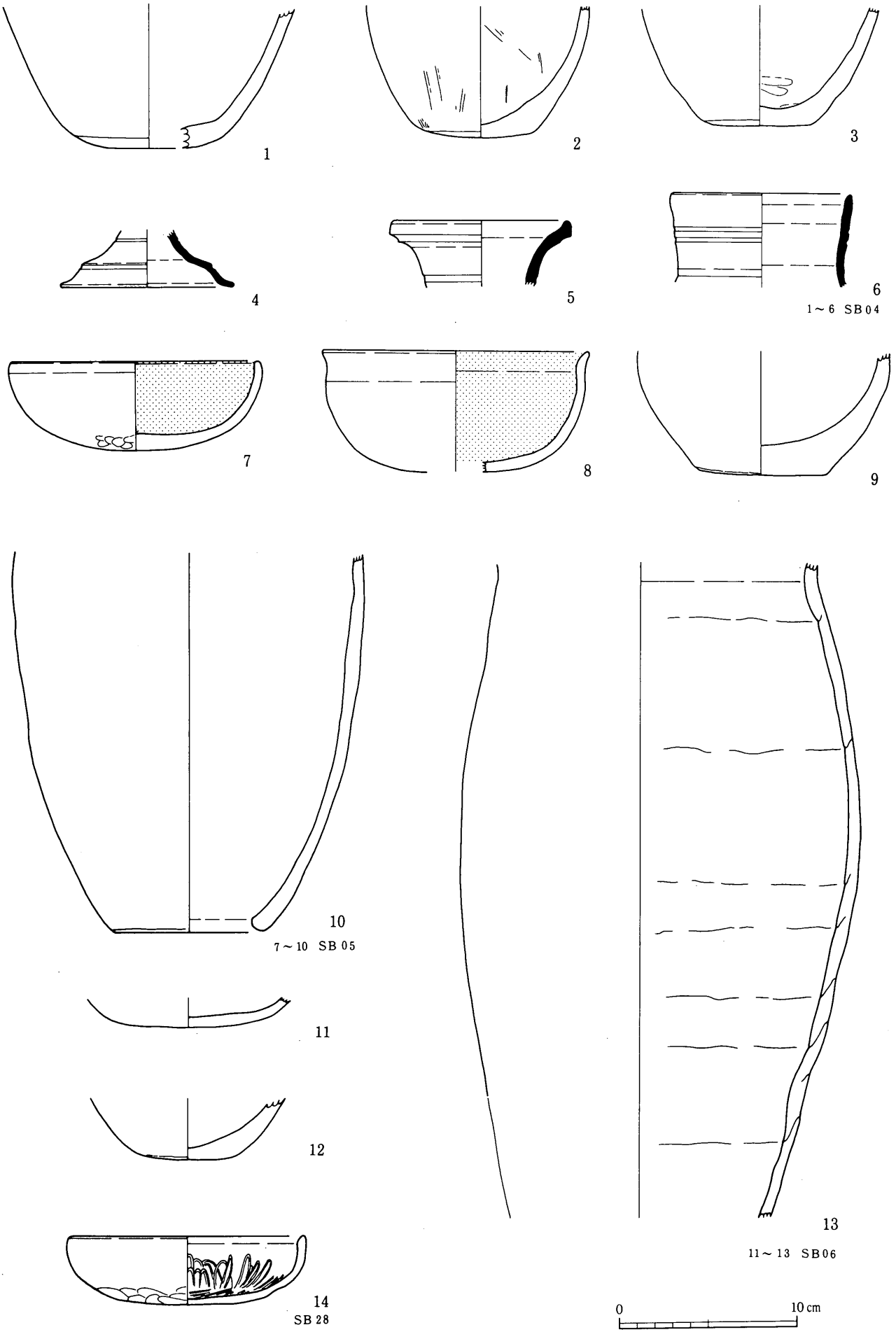
第72表　木製品属性表 (13)

図版No.	器種	実測図No.	遺構名	区	層	取り上げNo.	木取り	樹種	樹種同定	法量(cm)	保存処理	備考
	柱材遺存		AA48P4							75X35X25		
	柱材遺存		AB14P2							140X185X80		
	柱材遺存		AB14P2							140X160X65		
	柱材遺存		AB14P5							135X80X40		
										110X80X25		
	柱材遺存		AB16P1							215X120X200		
	柱材遺存		AB19P2							220X140X120		
	柱材遺存		AC14P2							160X100X50		
										170X175X130		
	柱材遺存		AC17P2							450X165X130		
	柱材遺存		AC18P2							235X100X90		
	柱材遺存		AC18P3							265X170X80		
	柱材遺存		AC20P2							290X170X125		
	柱材遺存		AC20P3							130X75X55		
										125X75X50		
	柱材遺存		AD12P1							320X145X160		
	柱材遺存		AD15P2							155X135X170		
	柱材遺存		AD18P7							230X130X130		
	柱材遺存		AE13P5							計測不能		
	柱材遺存		AE15P1							65X60X50		
										80X50X50		
	柱材遺存		AE15P5			2				210X105X65		
	柱材遺存		AE8P1							380X160X80		
	柱材遺存		AF21P3							130X170X70		
	柱材遺存		AF6P2							280X110X65		
	柱材遺存		AH4P4							135X120X40		
	柱材遺存		AI7P4							85X85X35		
	柱材遺存		BQ21P1							310X180X90		
	柱材遺存		BR19P1							270X160X70		
	柱材遺存		BR21P1							320X130X120		
	柱材遺存		BR21P5							240X150X110		
	柱材遺存		BS19P1							360X140X115		
	柱材遺存		BT21P2							295X70X75		
	柱材遺存		BT21P3							75X25X30		
	柱材遺存		BU20P6							100X85X50		
	柱材遺存		BY18P2							440X55X55		
	柱材遺存									100X50X25		

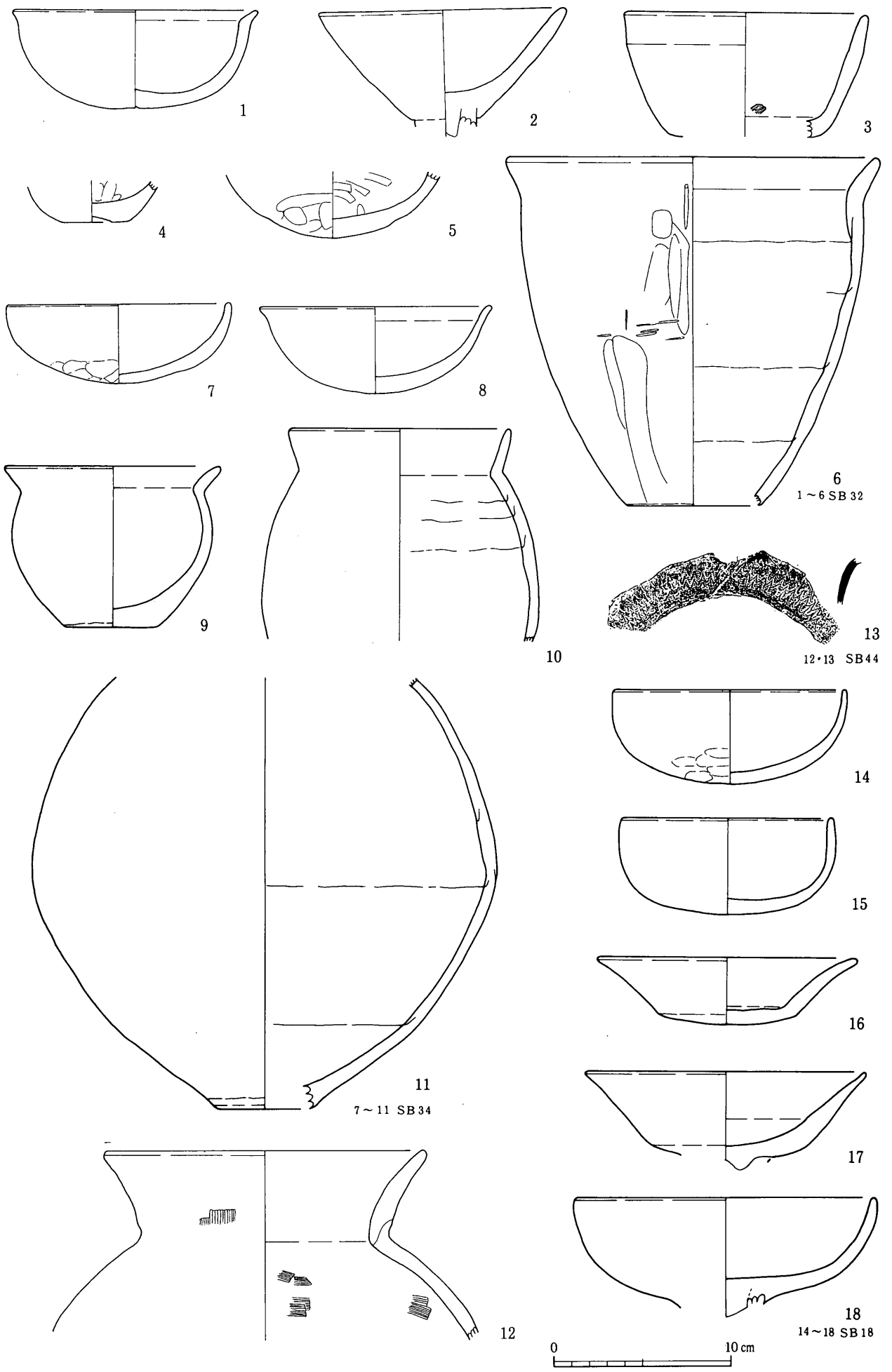
第73表　木製品属性表 (14)



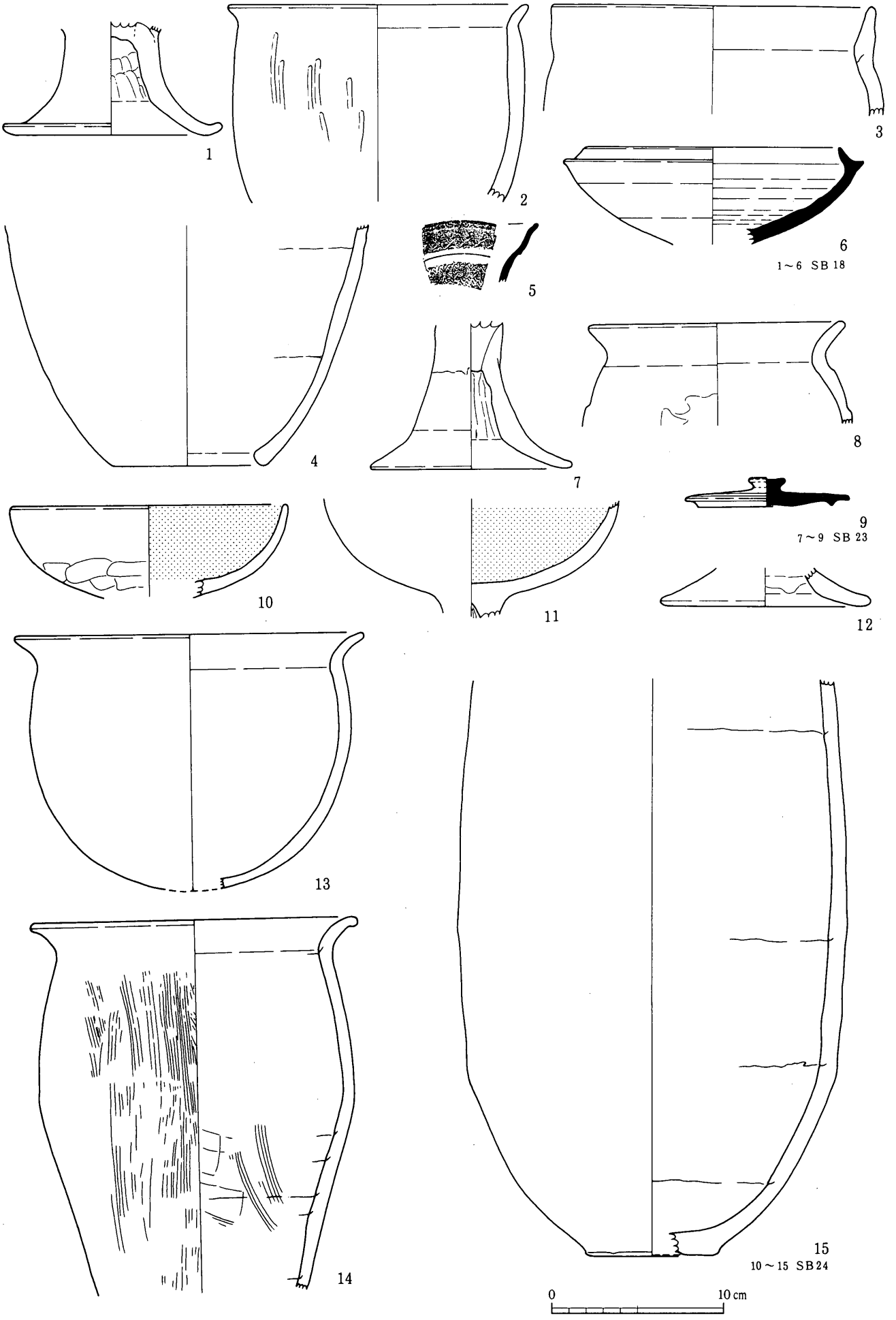
第１図　ＳＢ01、ＳＢ02、ＳＢ04出土土器



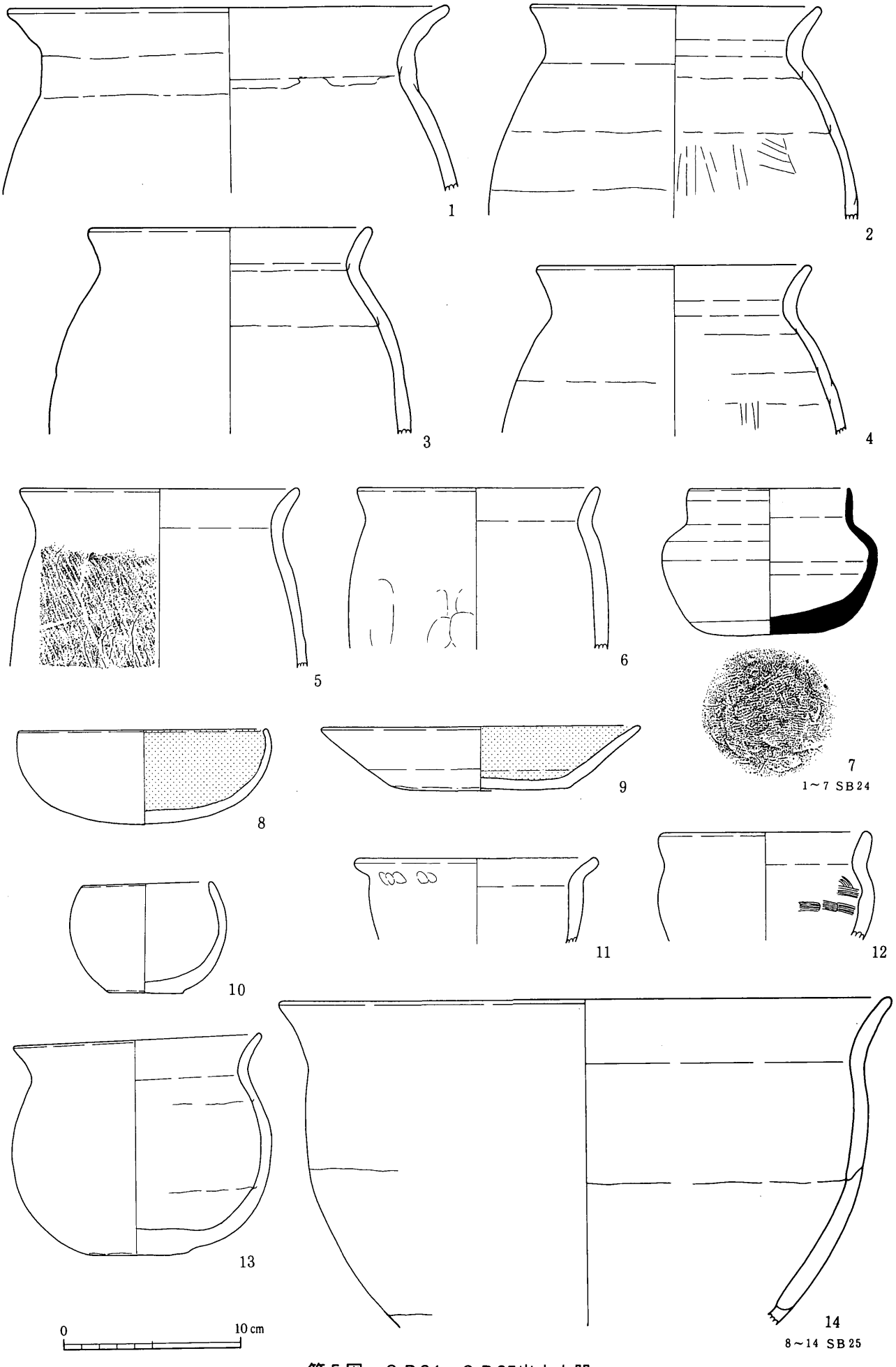
第2図　ＳＢ04～ＳＢ06、ＳＢ28 出土土器



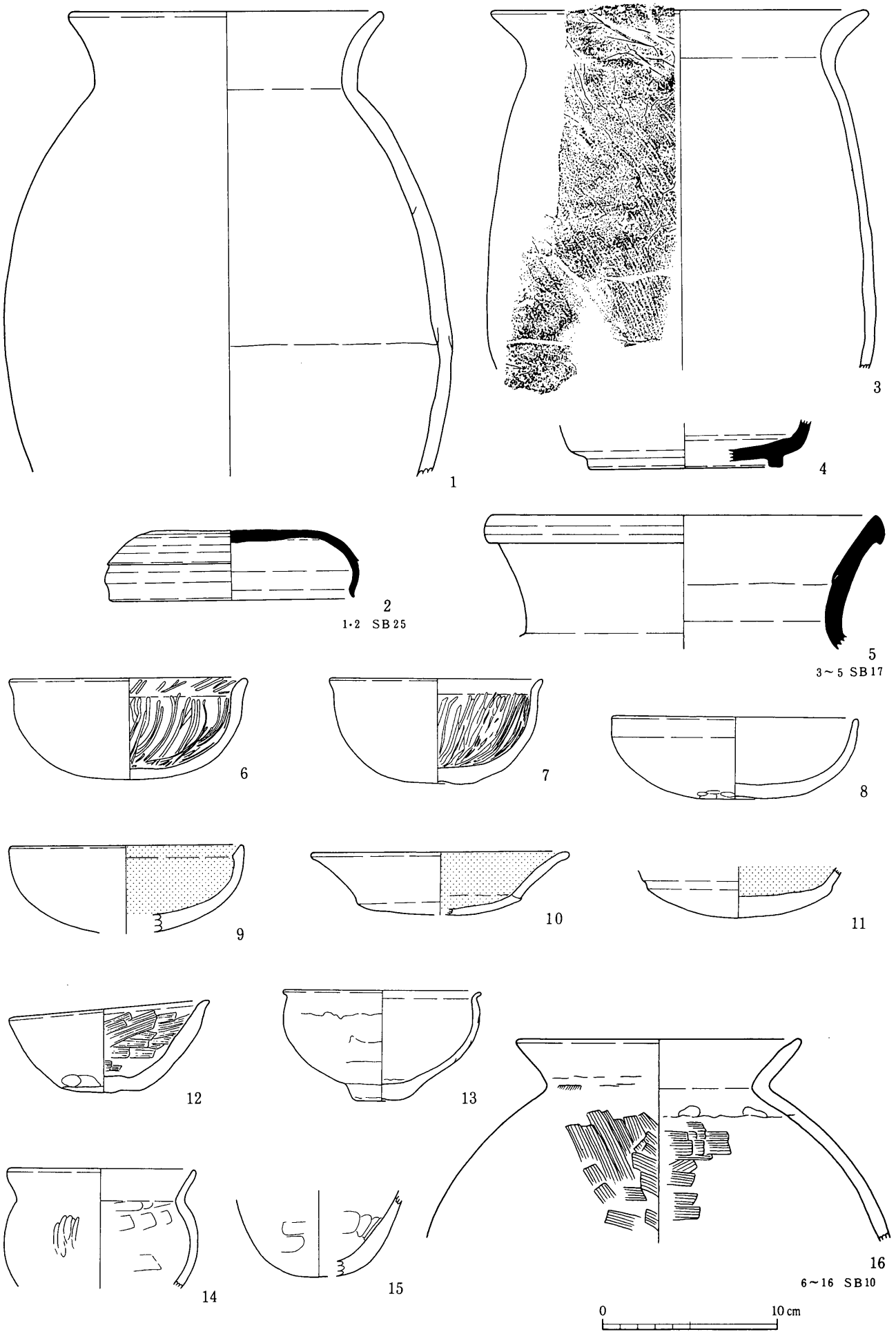
第３図　ＳＢ32、ＳＢ34、ＳＢ44、ＳＢ18出土土器



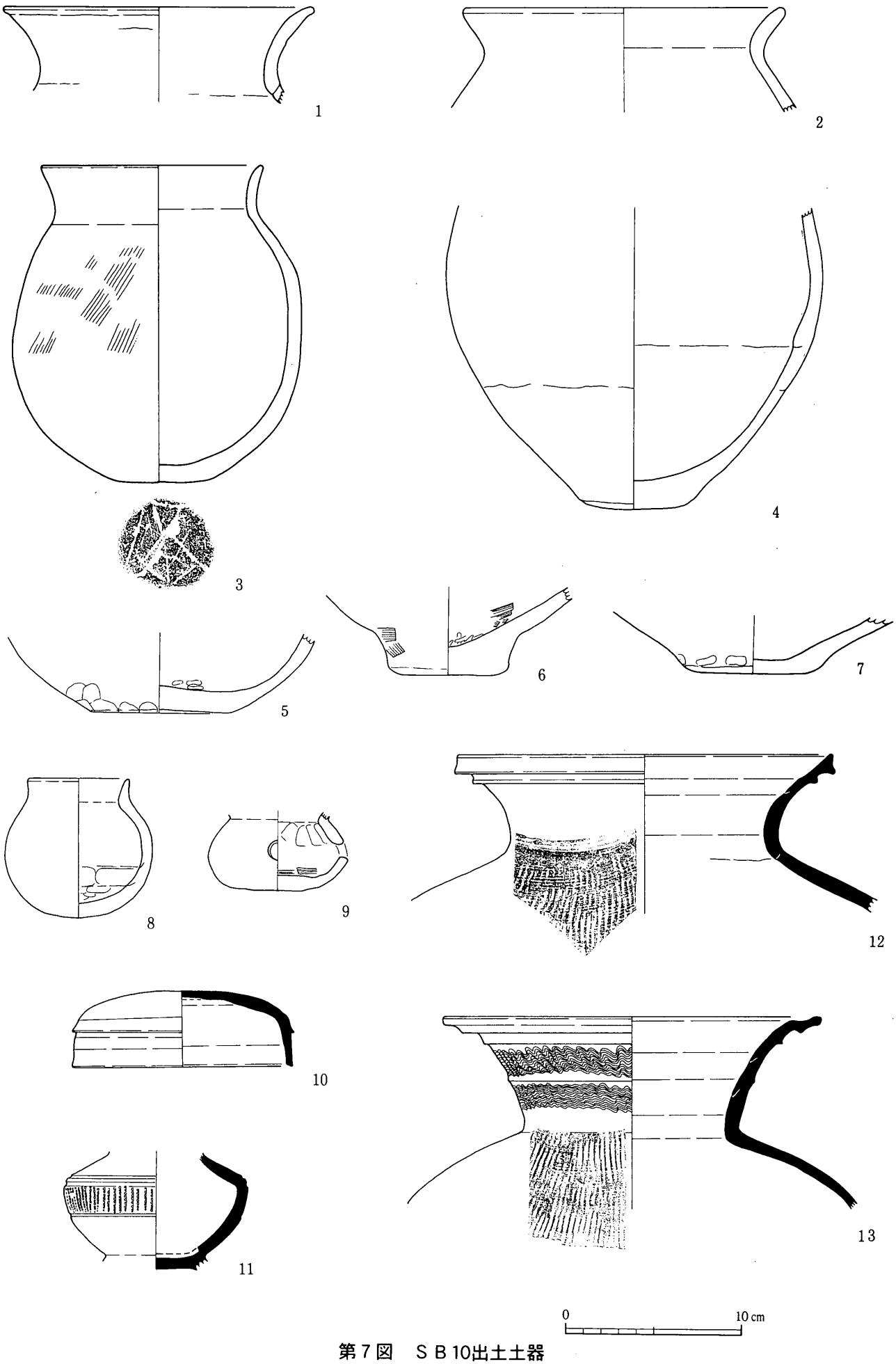
第４図　ＳＢ18、ＳＢ23、ＳＢ24出土土器



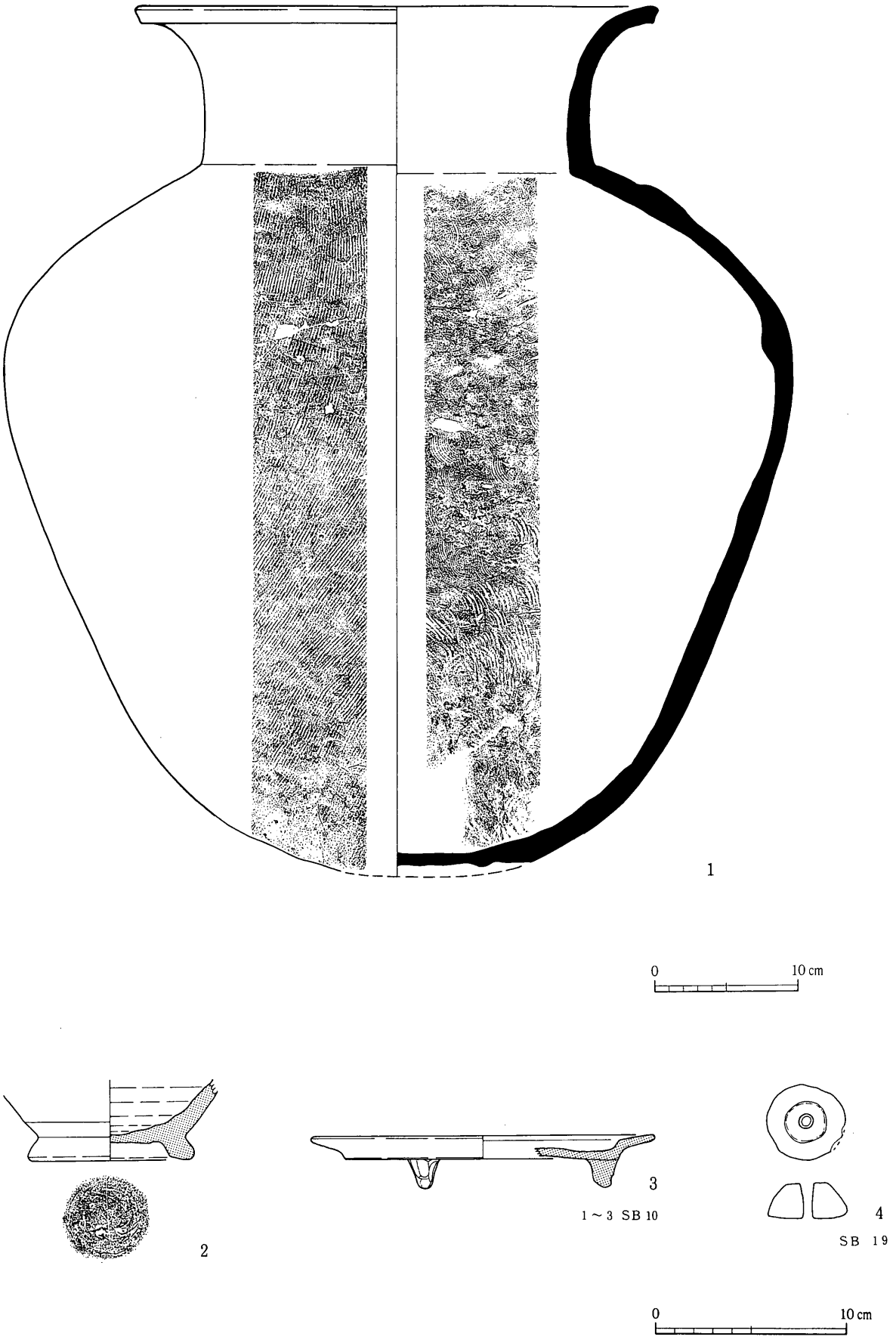
第５図　ＳＢ24、ＳＢ25出土土器



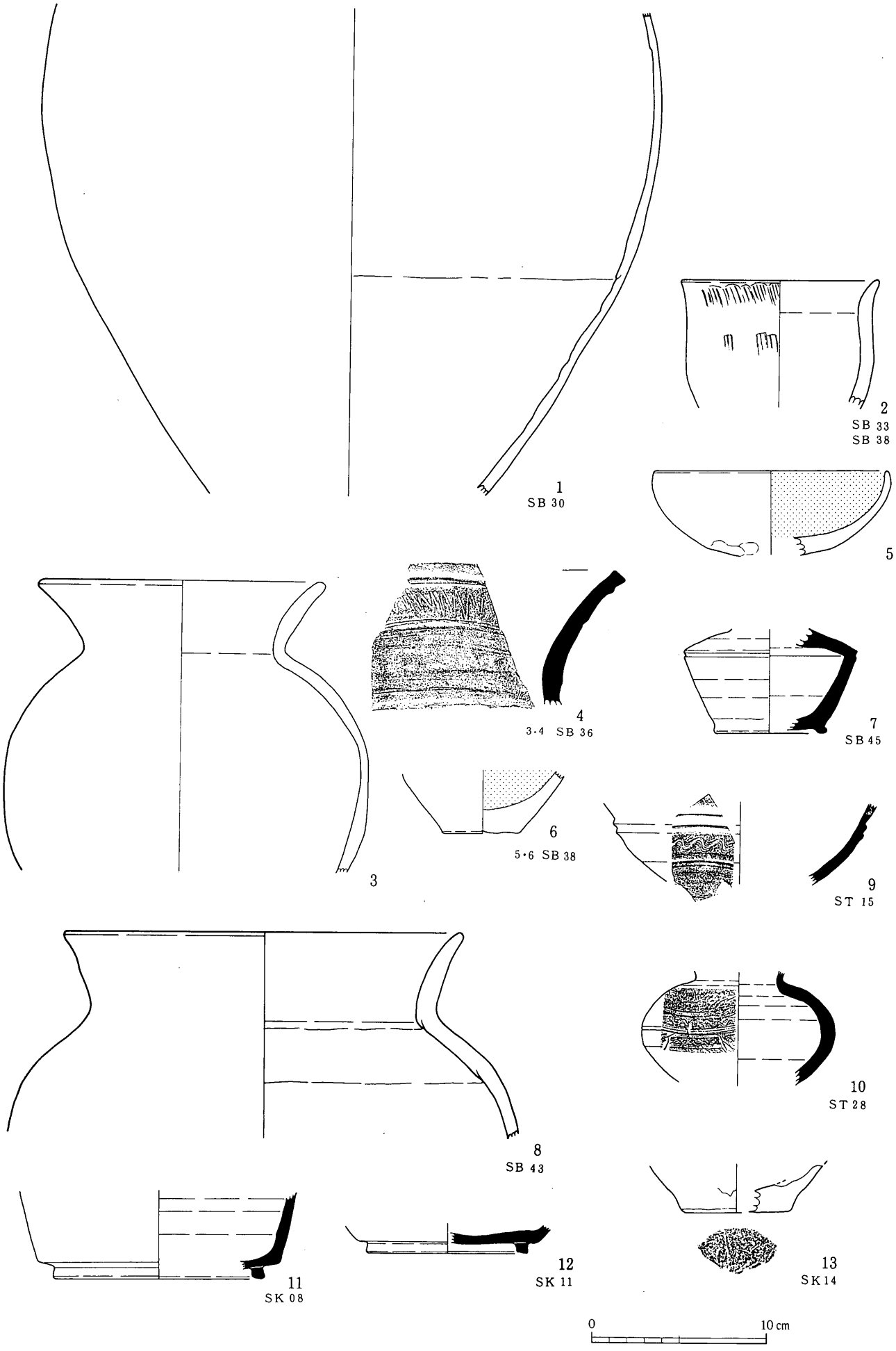
第6図　ＳＢ25、ＳＢ17、ＳＢ10出土土器



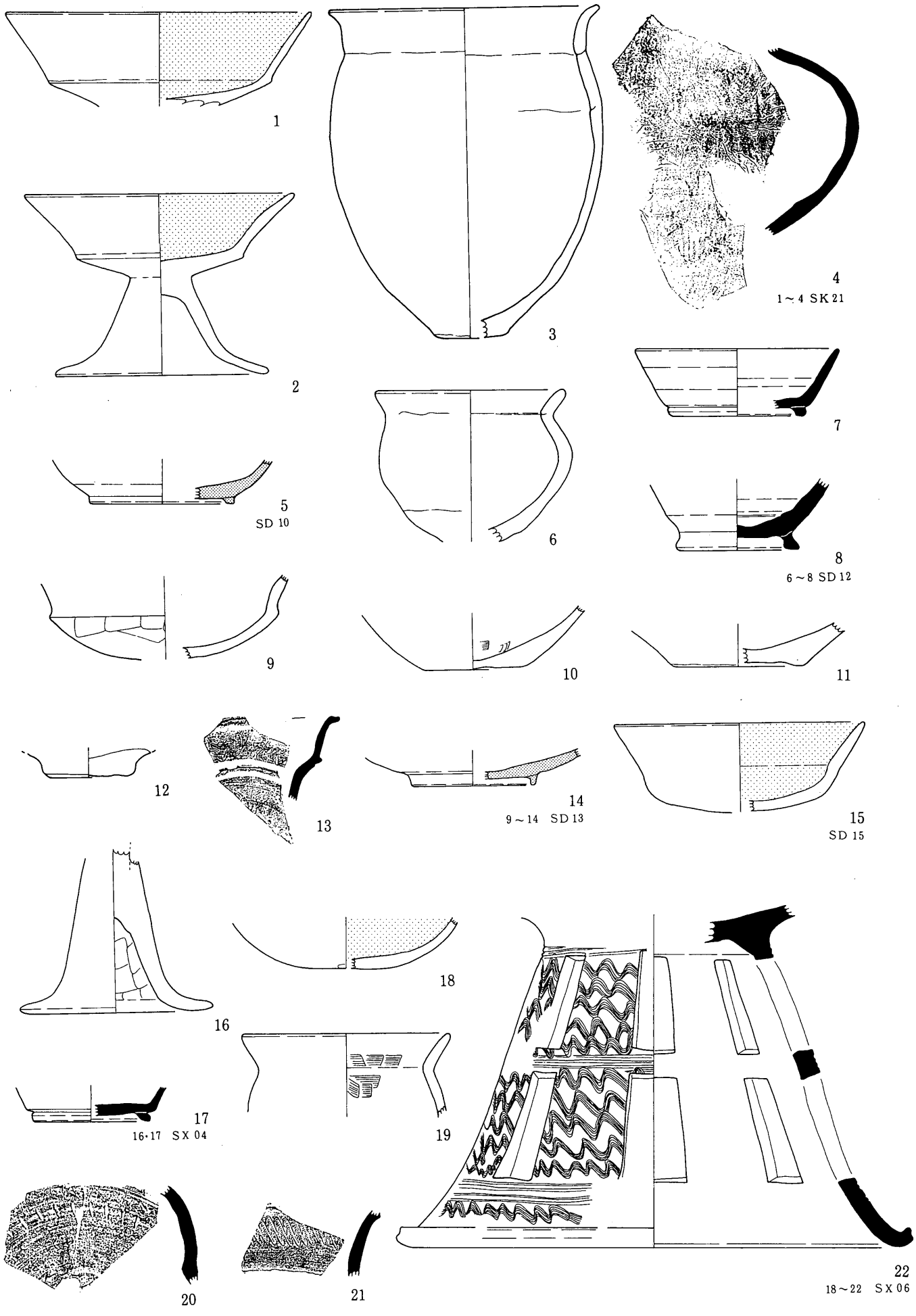
第７図　ＳＢ10出土土器



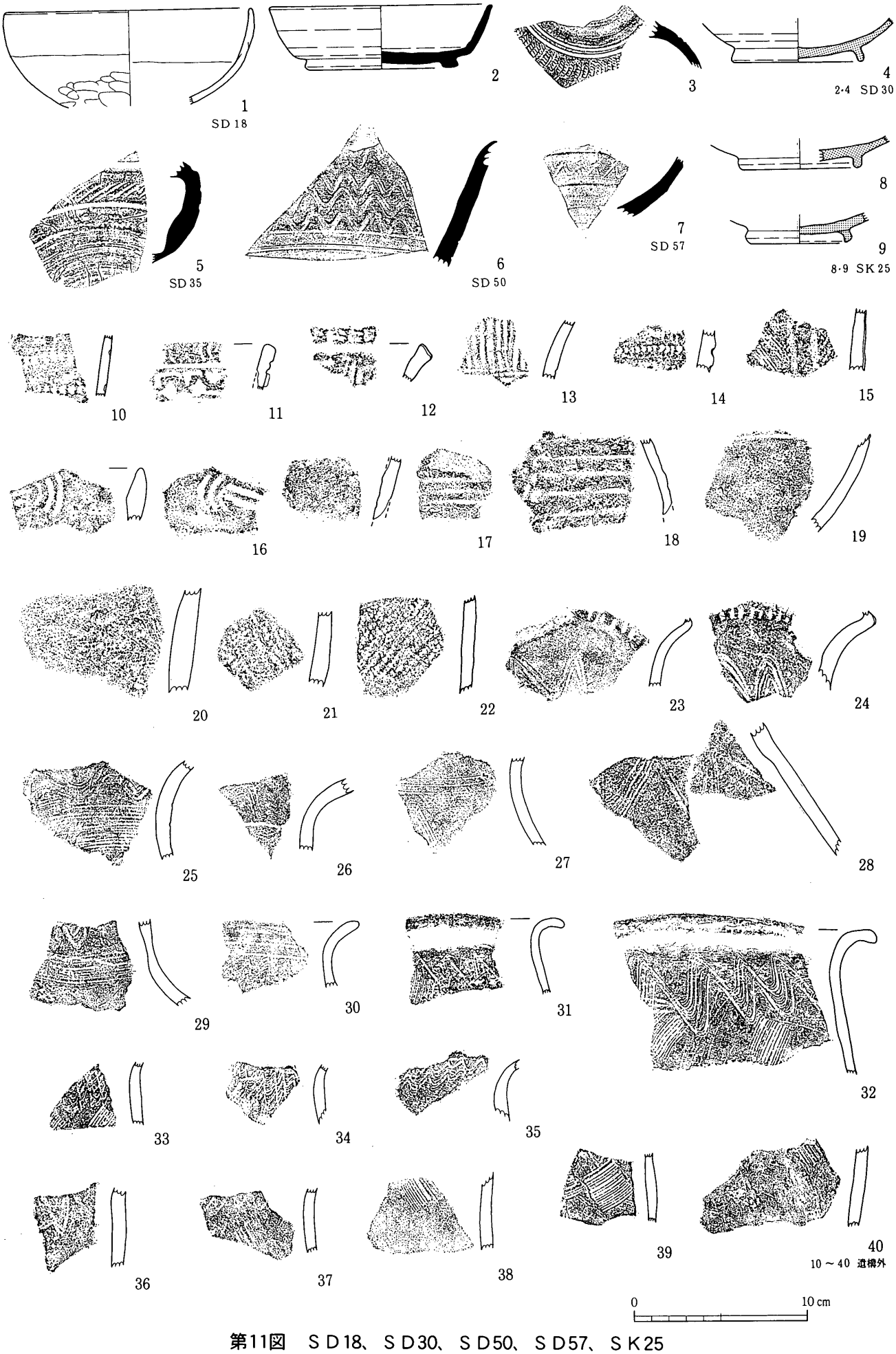
第８図　ＳＢ10、ＳＢ19出土土器



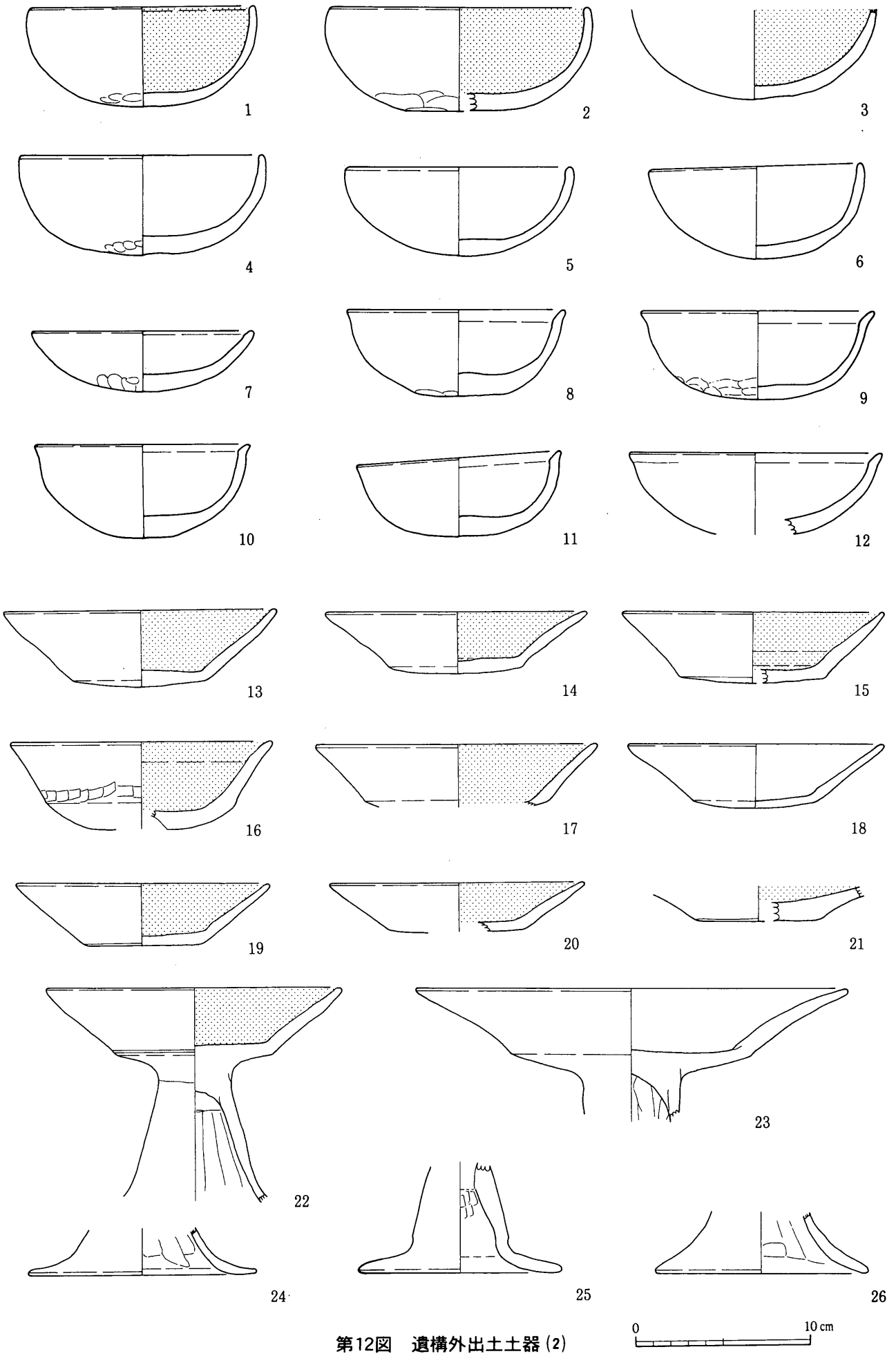
第９図　ＳＢ30、ＳＢ33・38、ＳＢ45、ＳＢ43
ＳＴ15、ＳＴ28、ＳＫ08、ＳＫ11、ＳＫ14出土土器



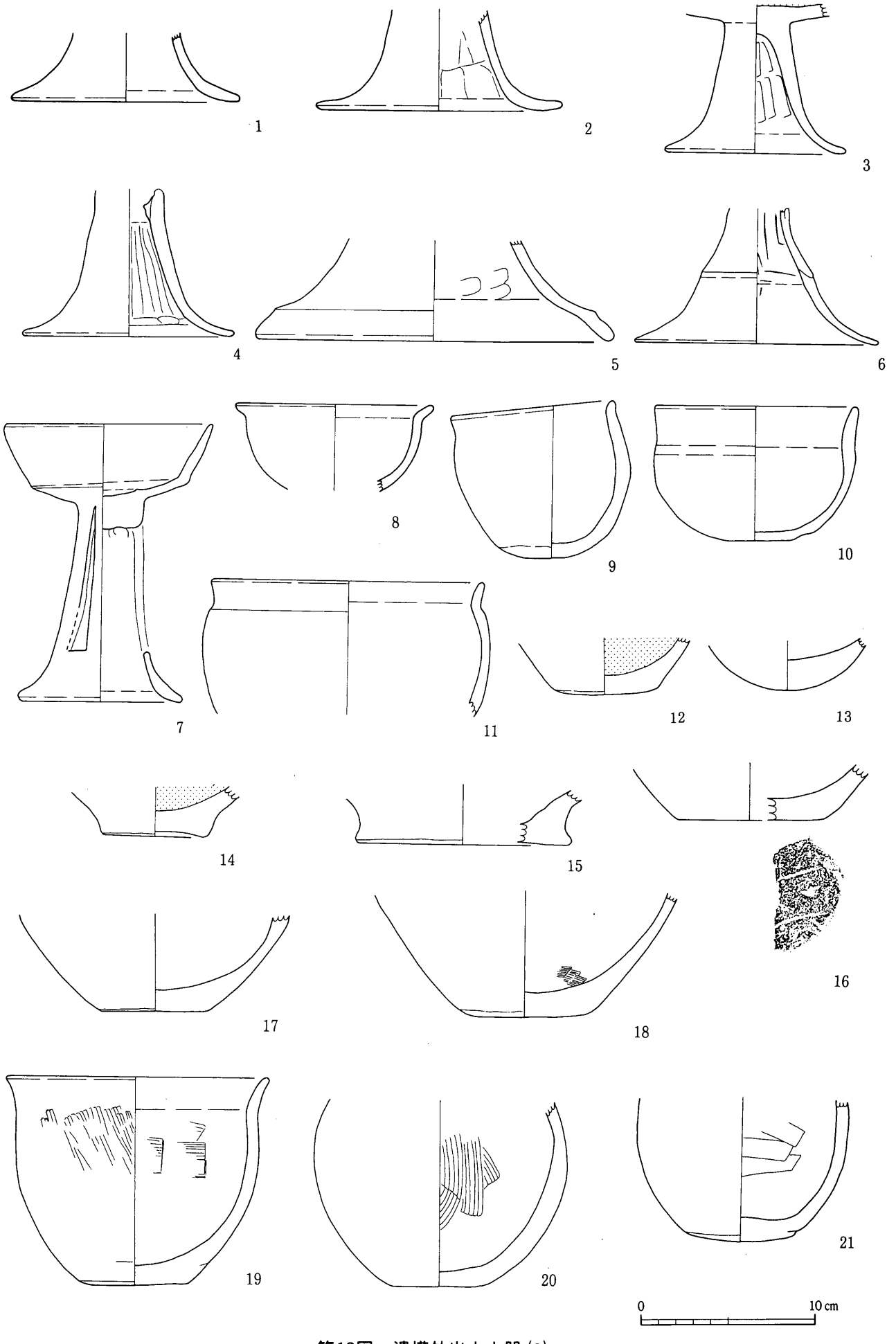
第10図　ＳＫ21、ＳＤ10、ＳＤ12、ＳＤ13
ＳＤ15、ＳＸ04、ＳＸ06出土土器



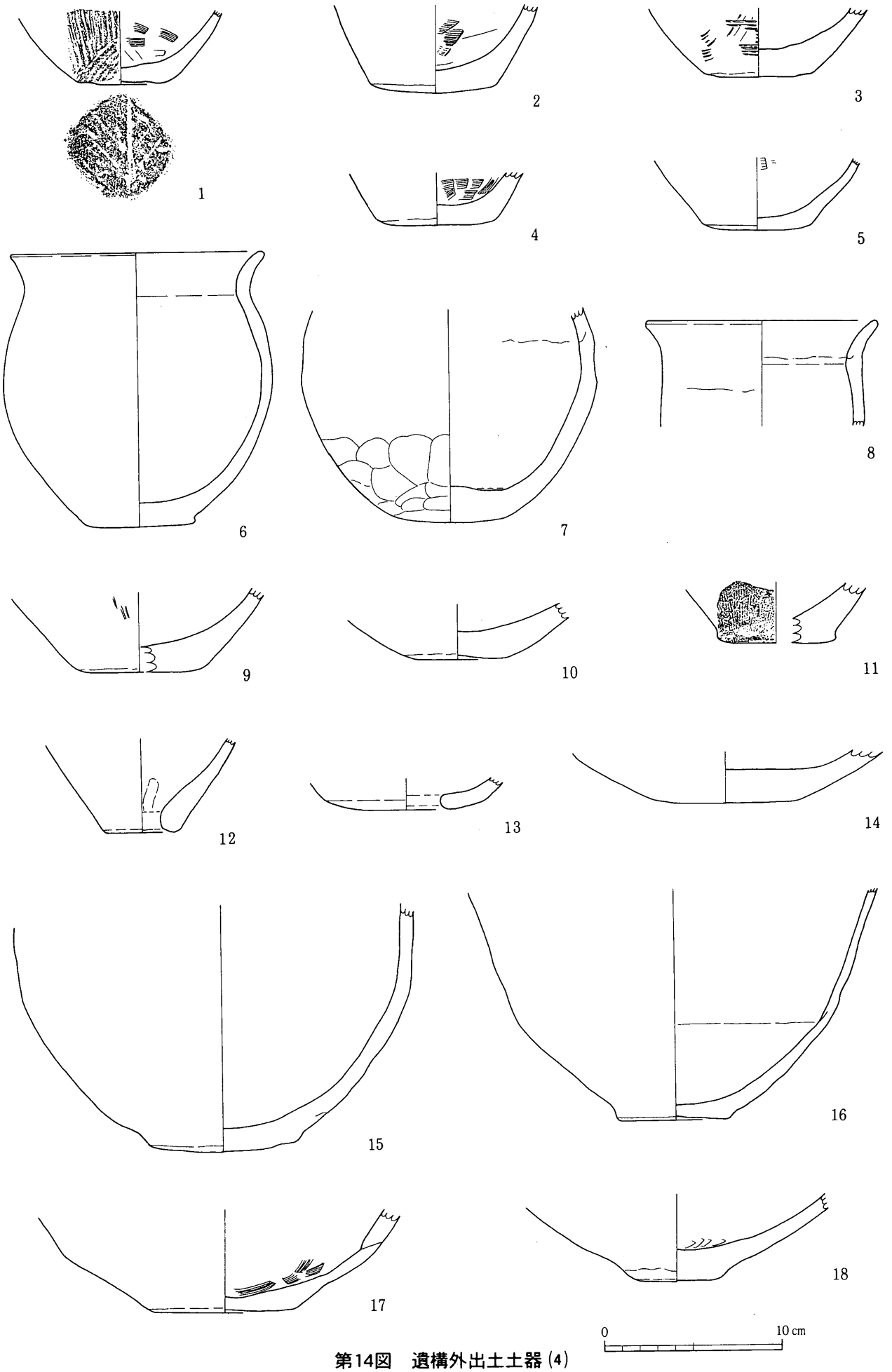
第11図　ＳＤ18、ＳＤ30、ＳＤ50、ＳＤ57、ＳＫ25
遺構外出土土器 (1)



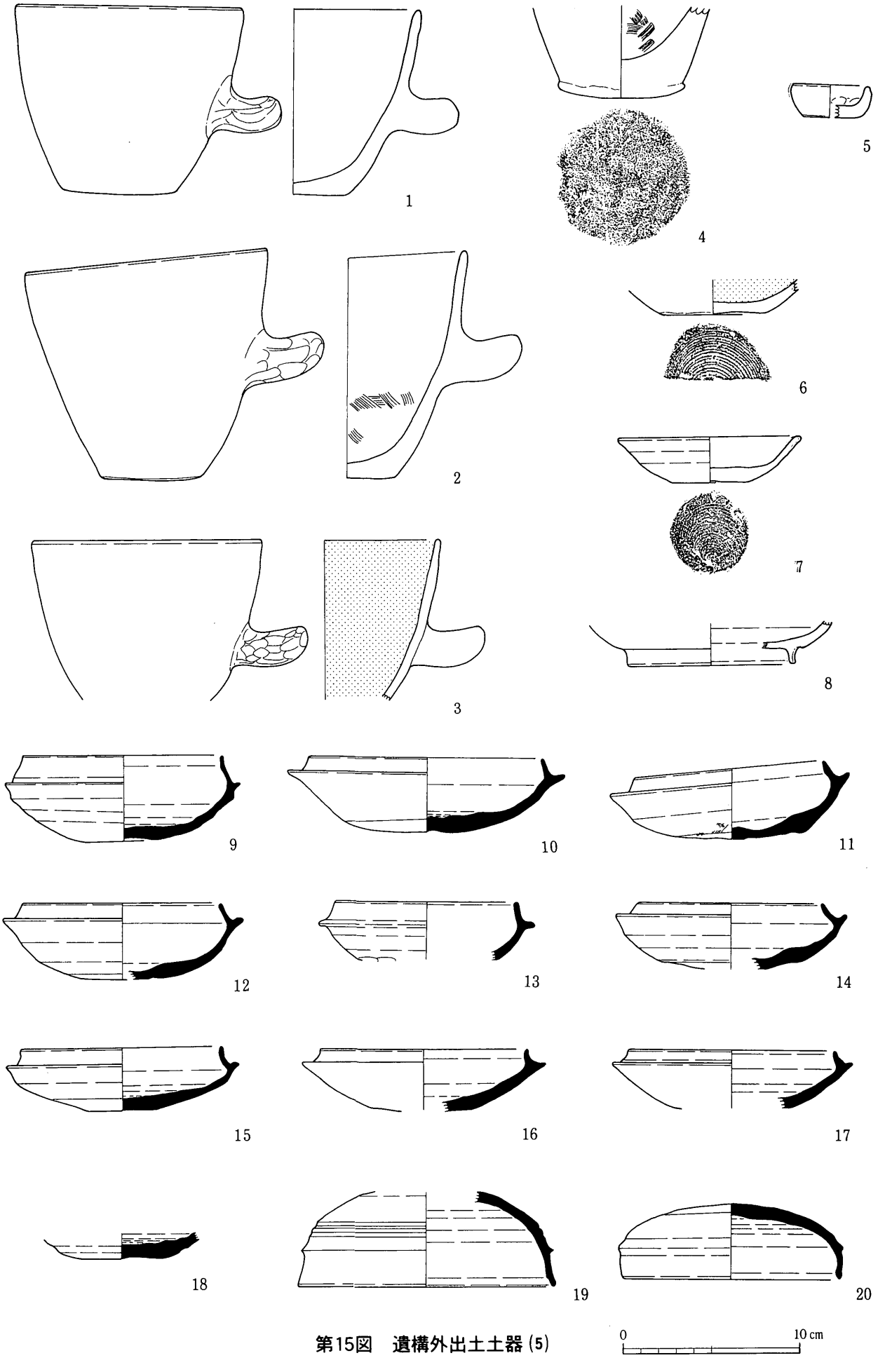
第12図　遺構外出土土器 (2)



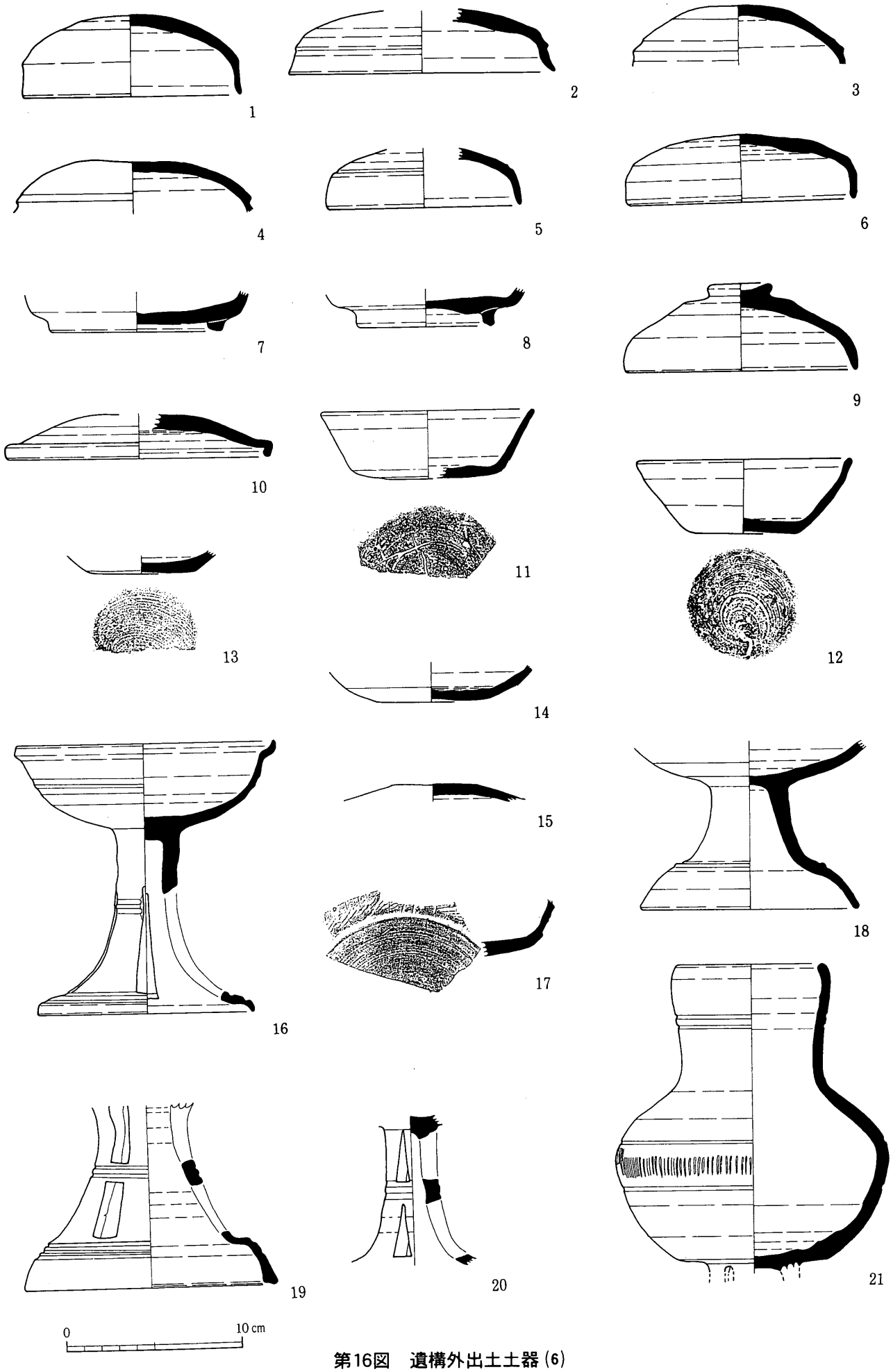
第13図　遺構外出土土器 (3)



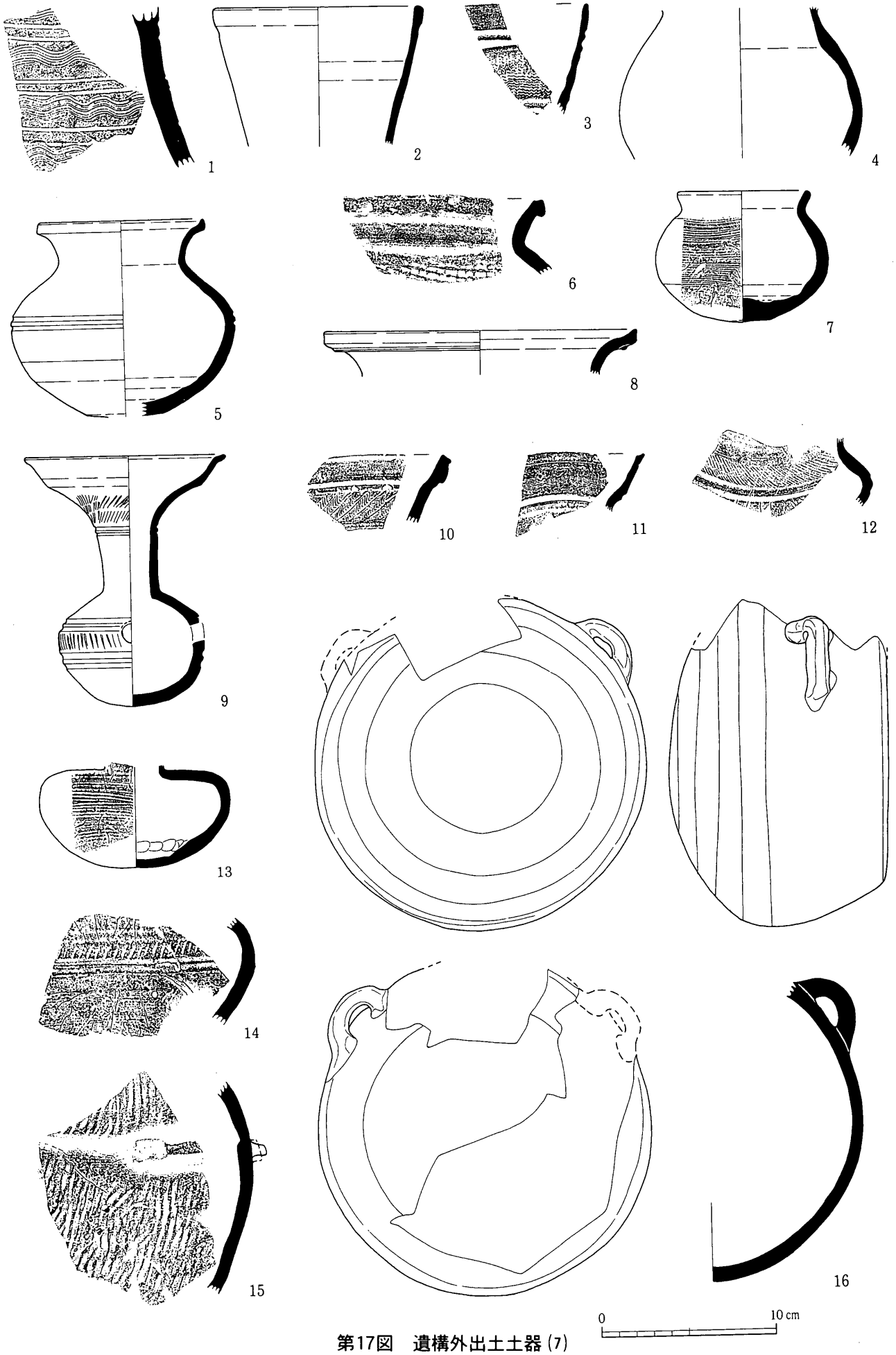
第14図　遺構外出土土器 (4)



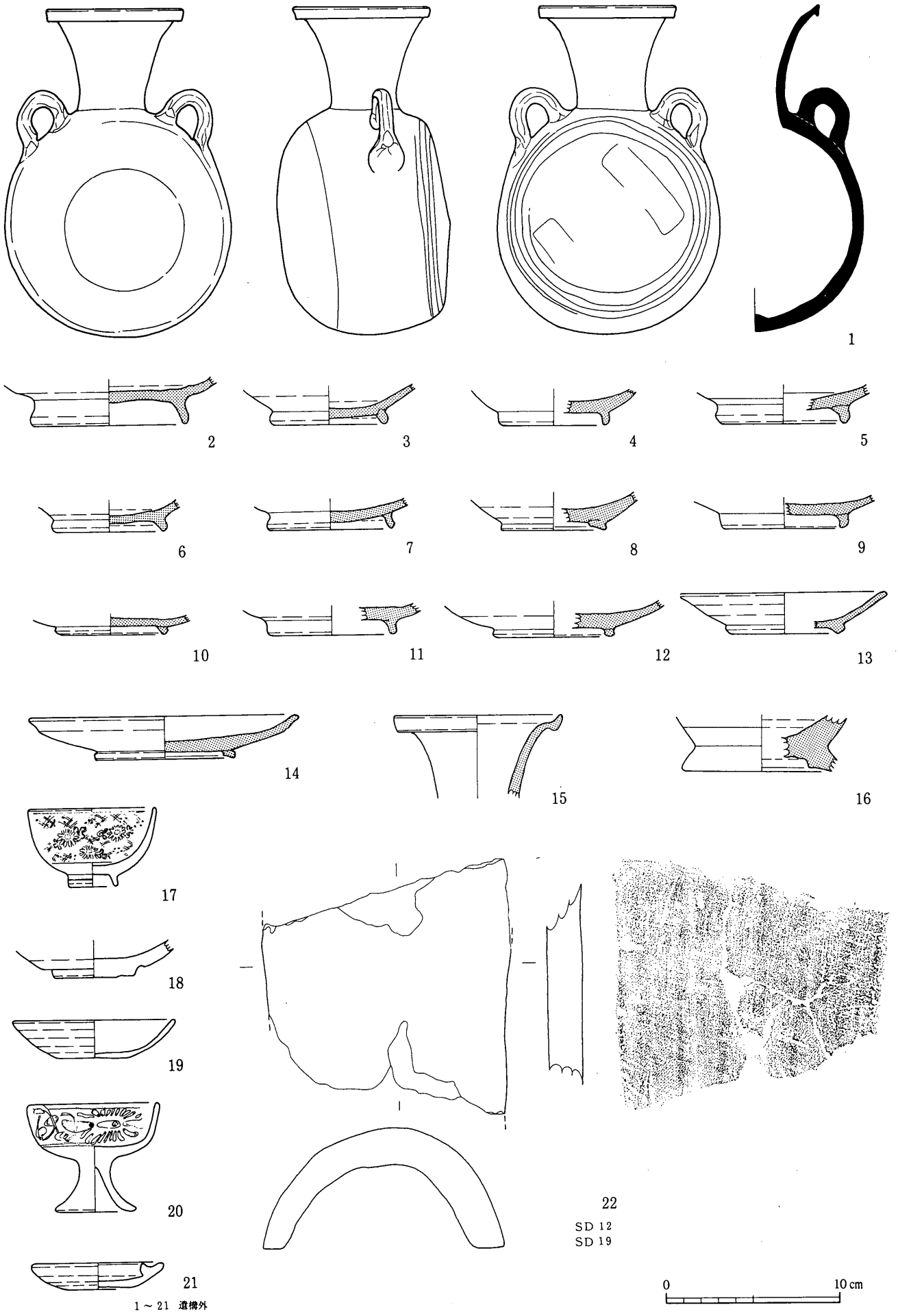
第15図　遺構外出土土器 (5)



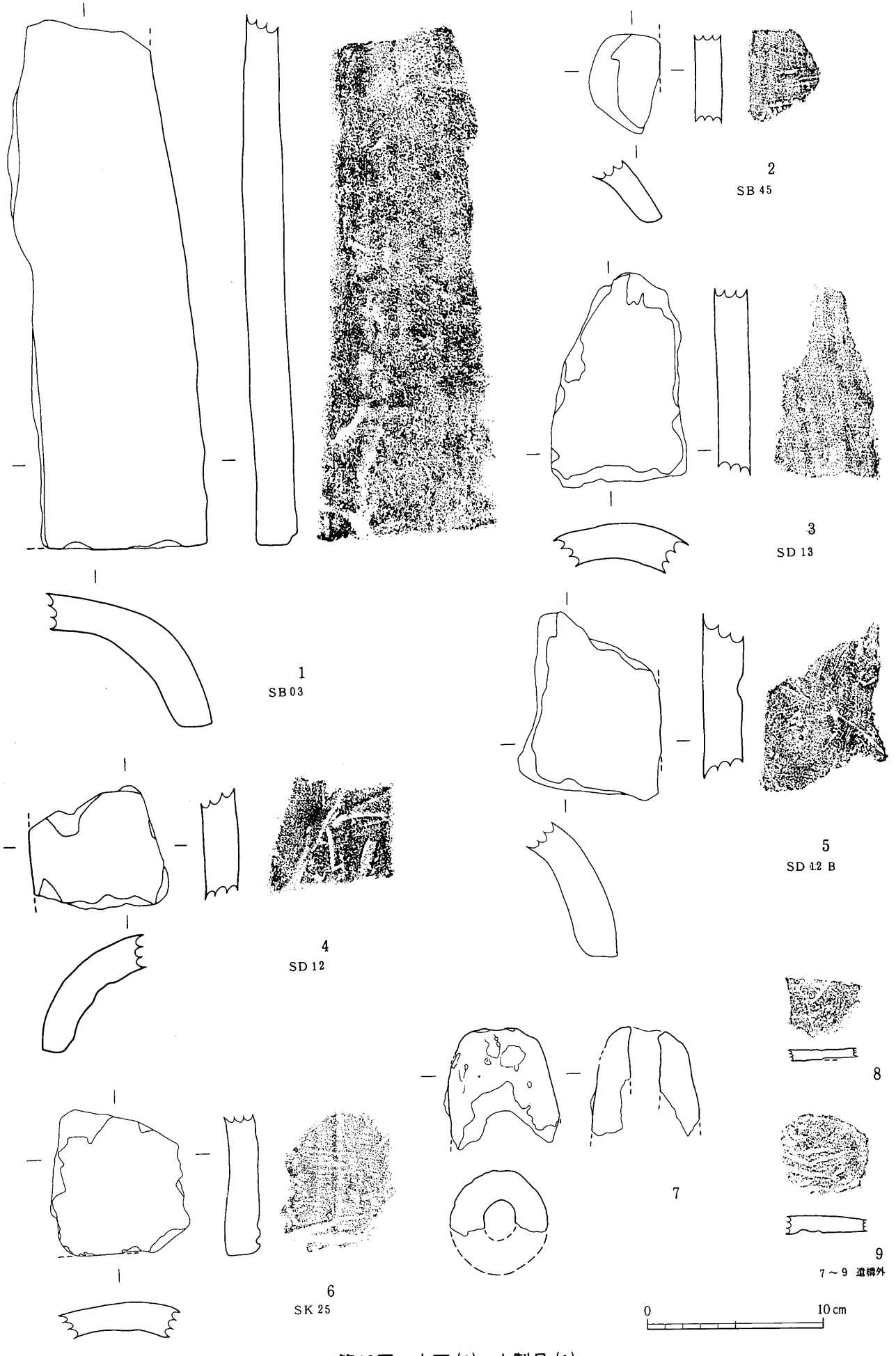
第16図　遺構外出土土器 (6)



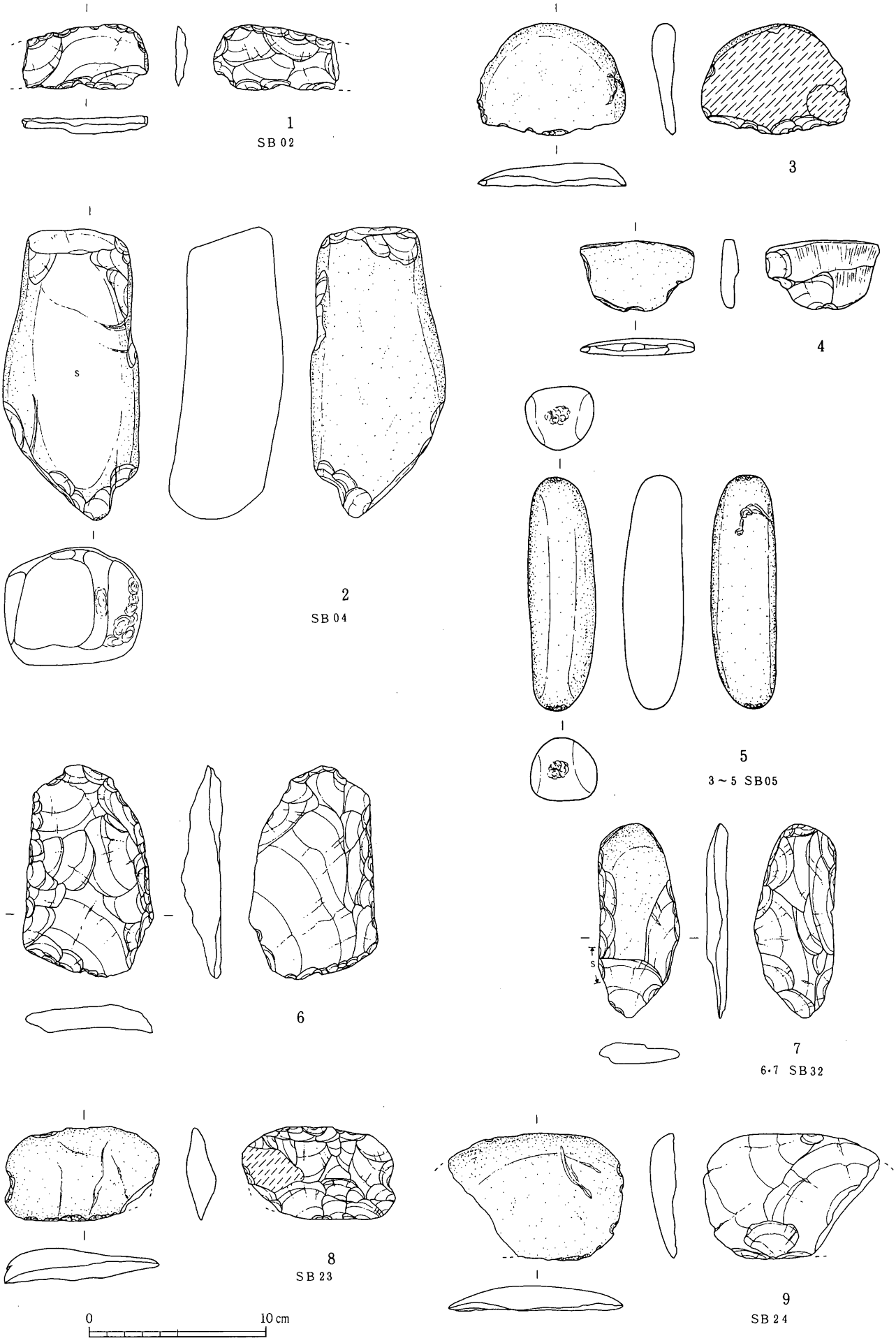
第17図　遺構外出土土器 (7)



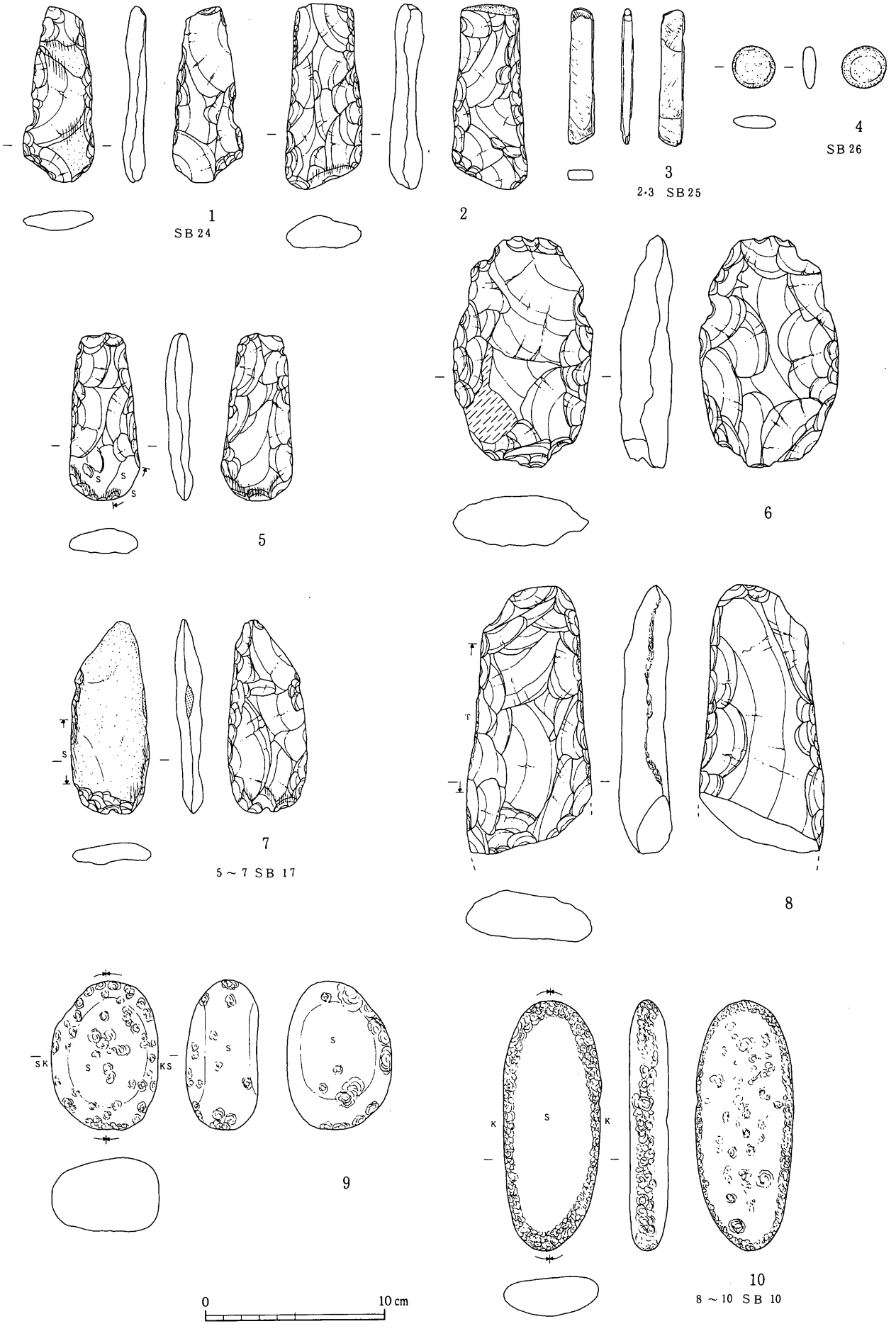
第18図　遺構外出土土器(8)、古瓦(1)



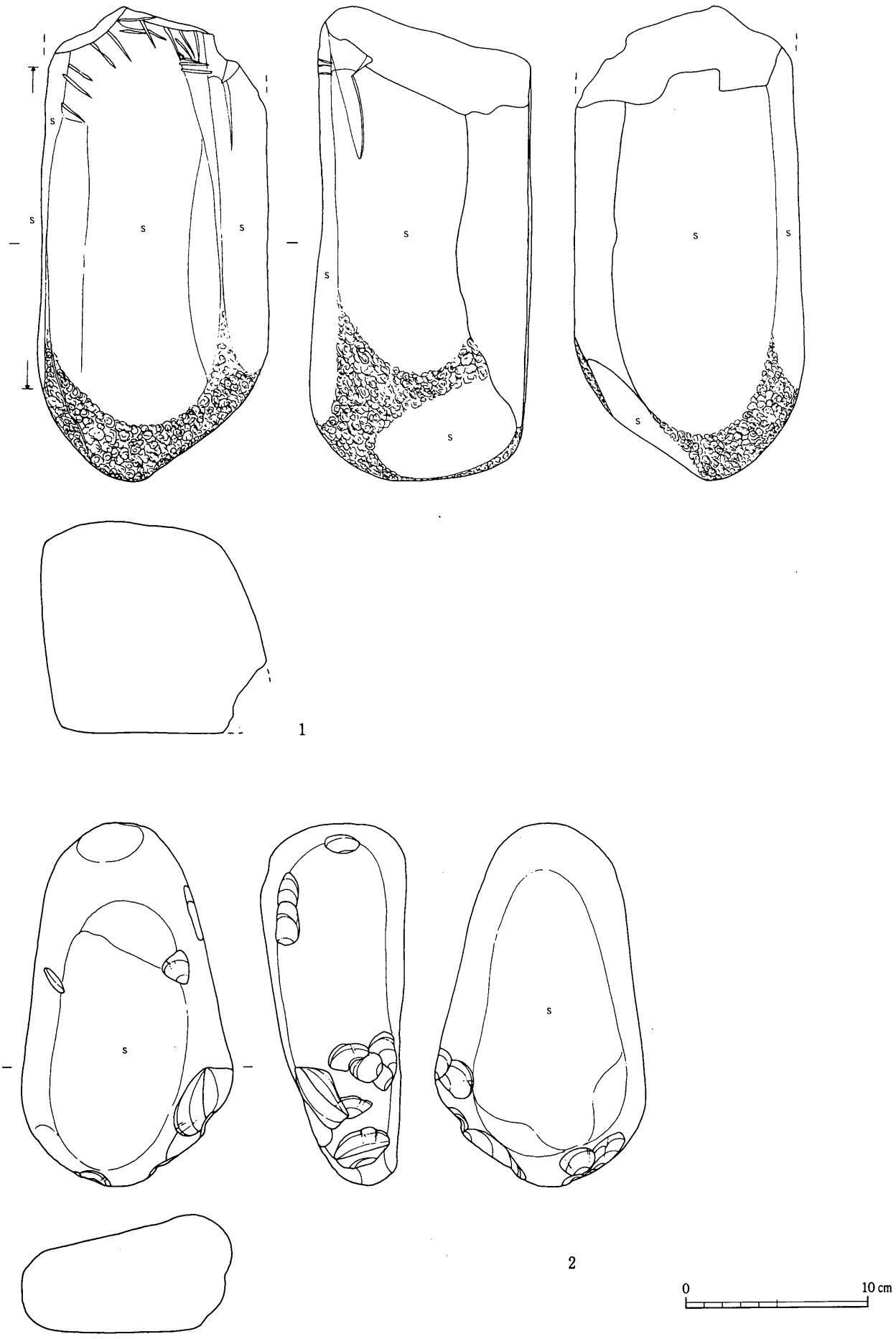
第19図　古瓦(2)、土製品(1)



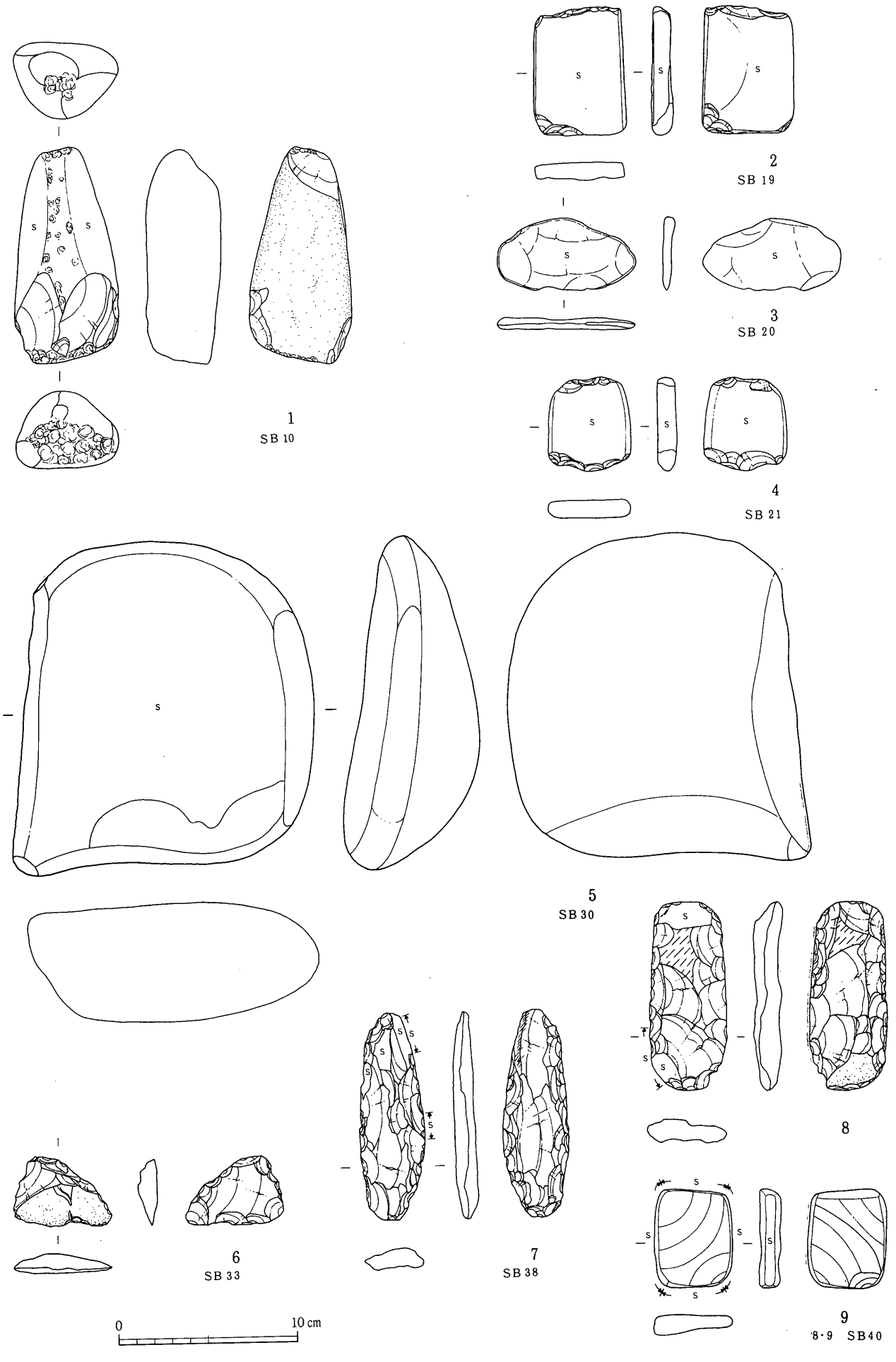
第20図　ＳＢ02、ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ32
ＳＢ23、ＳＢ24出土石器



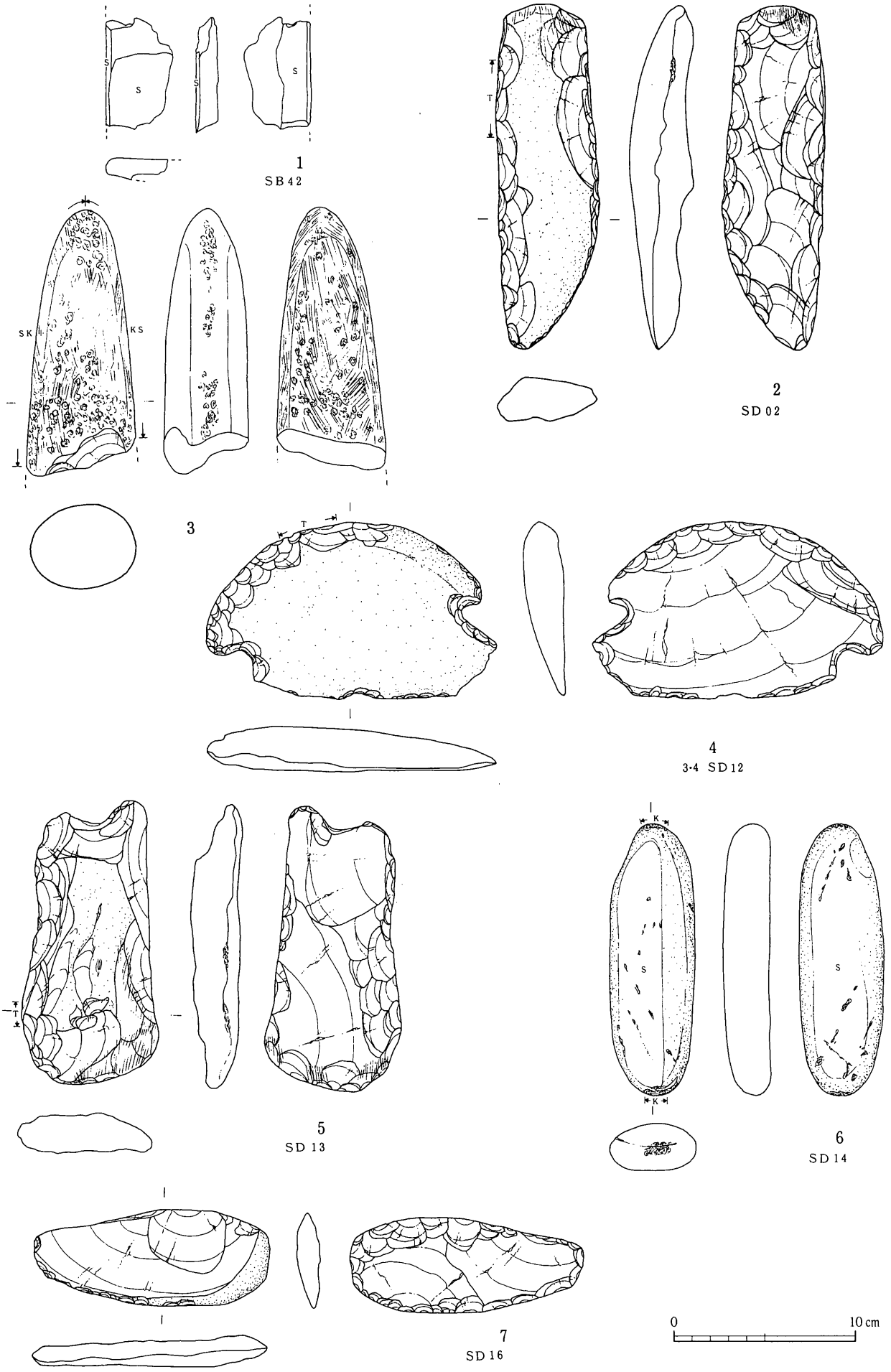
第21図　ＳＢ24、ＳＢ26、ＳＢ17、ＳＢ10出土石器



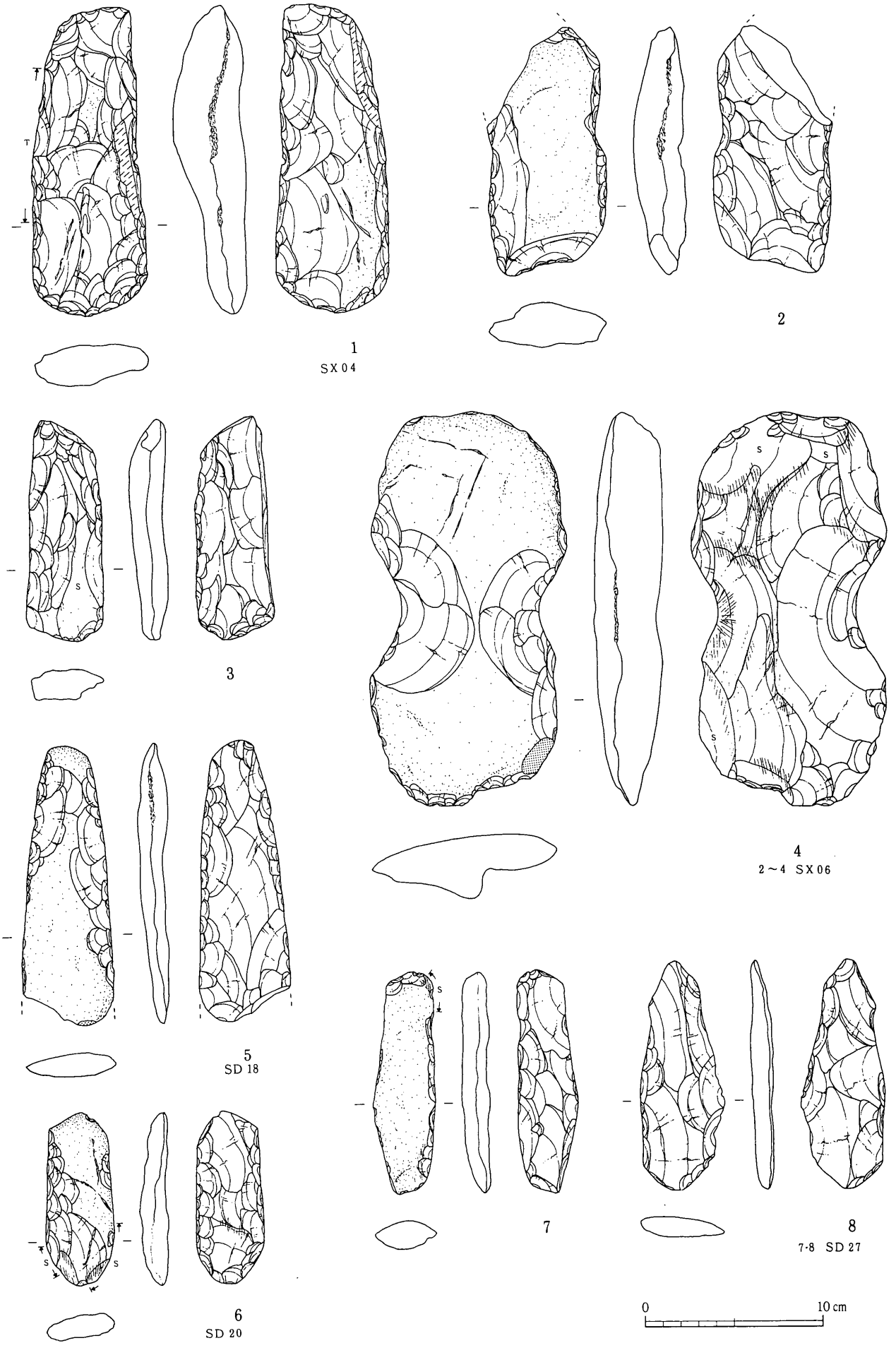
第22図　ＳＢ10出土石器



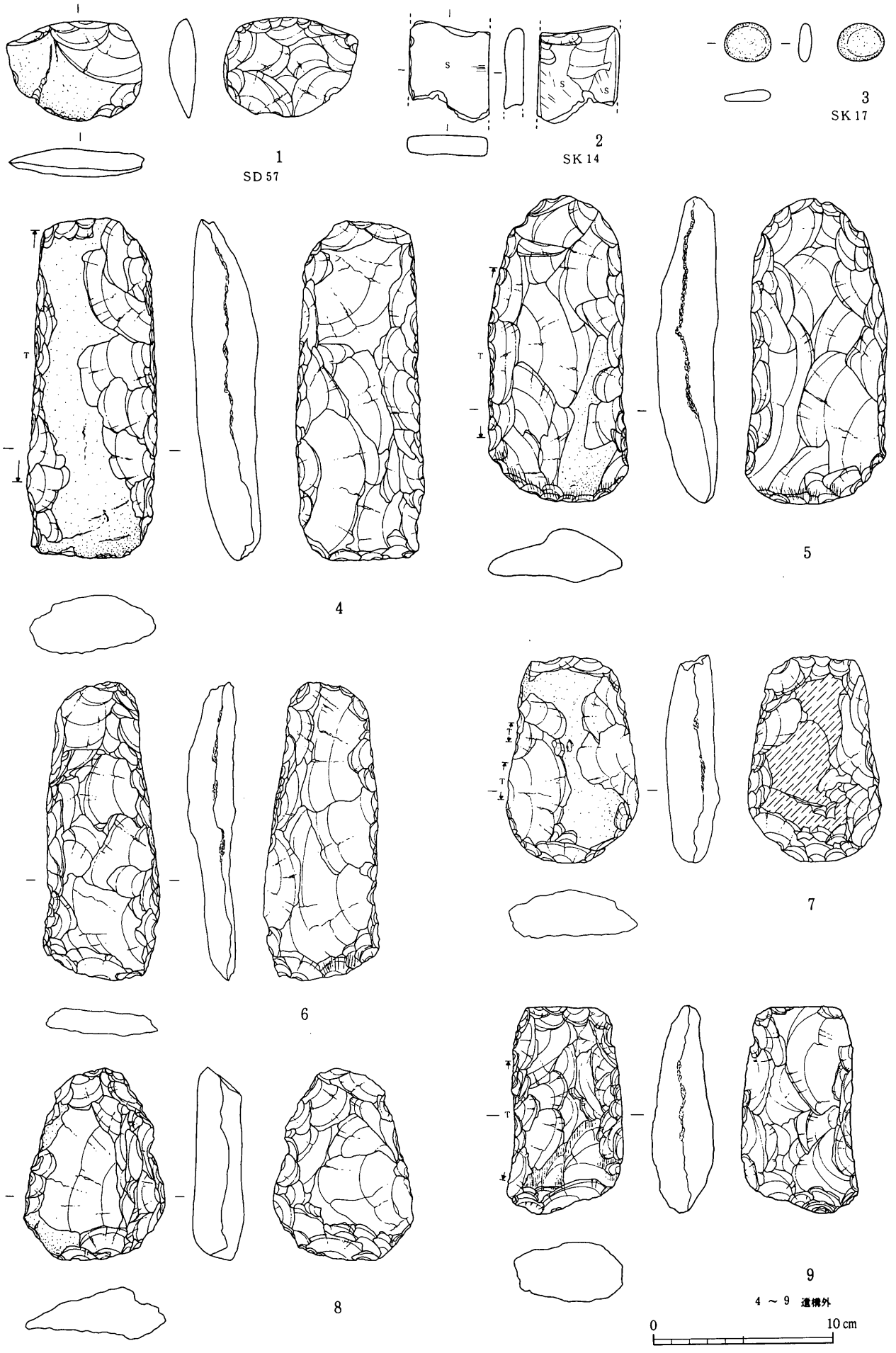
第23図　ＳＢ10、ＳＢ19～ＳＢ21、ＳＢ30
ＳＢ33、ＳＢ38、ＳＢ40出土石器



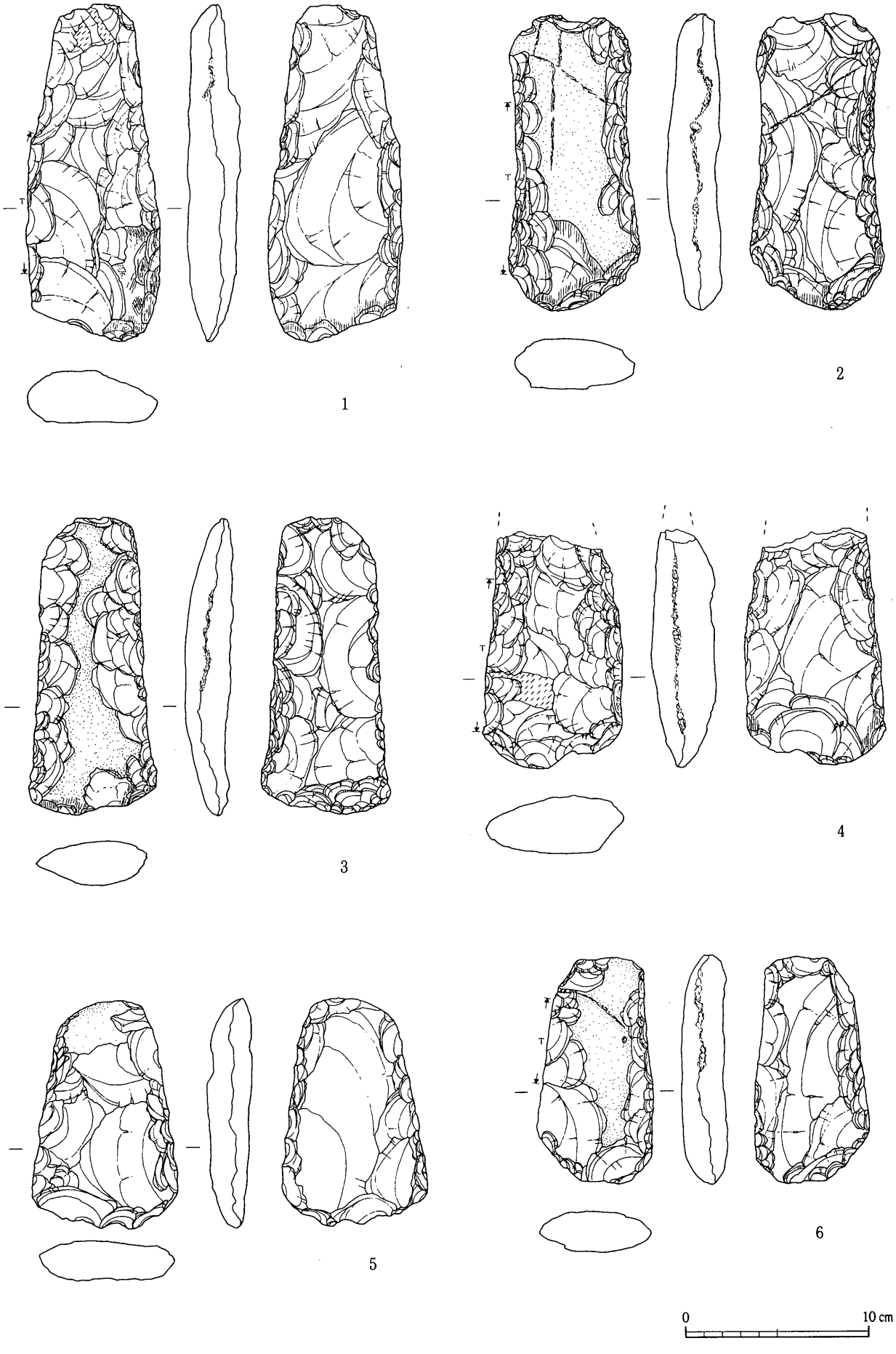
第24図　ＳＢ42、ＳＤ02、ＳＤ12～ＳＤ14、ＳＤ16出土石器



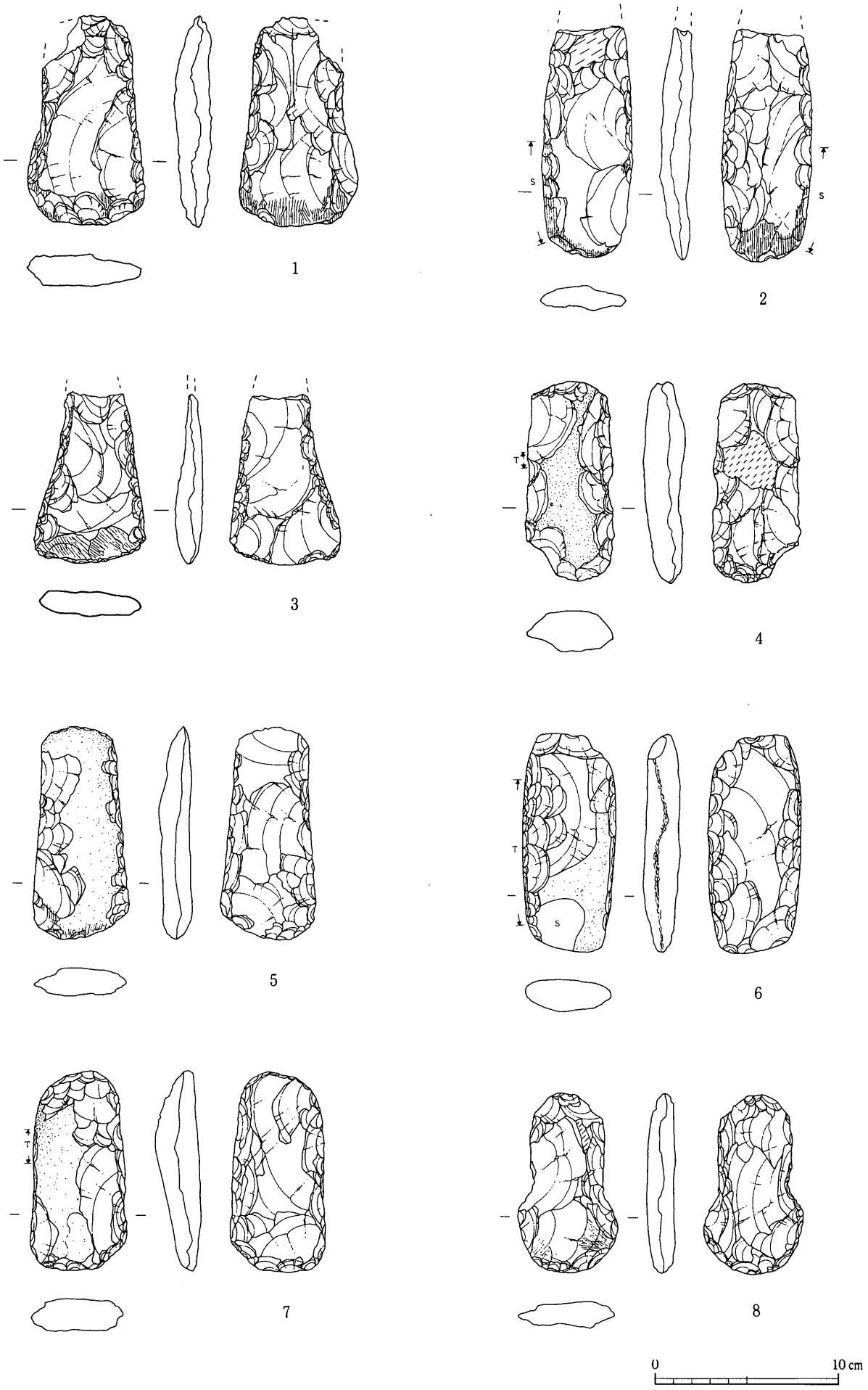
第25図　ＳＸ04、ＳＸ06、ＳＤ18、ＳＤ20、ＳＤ27出土石器



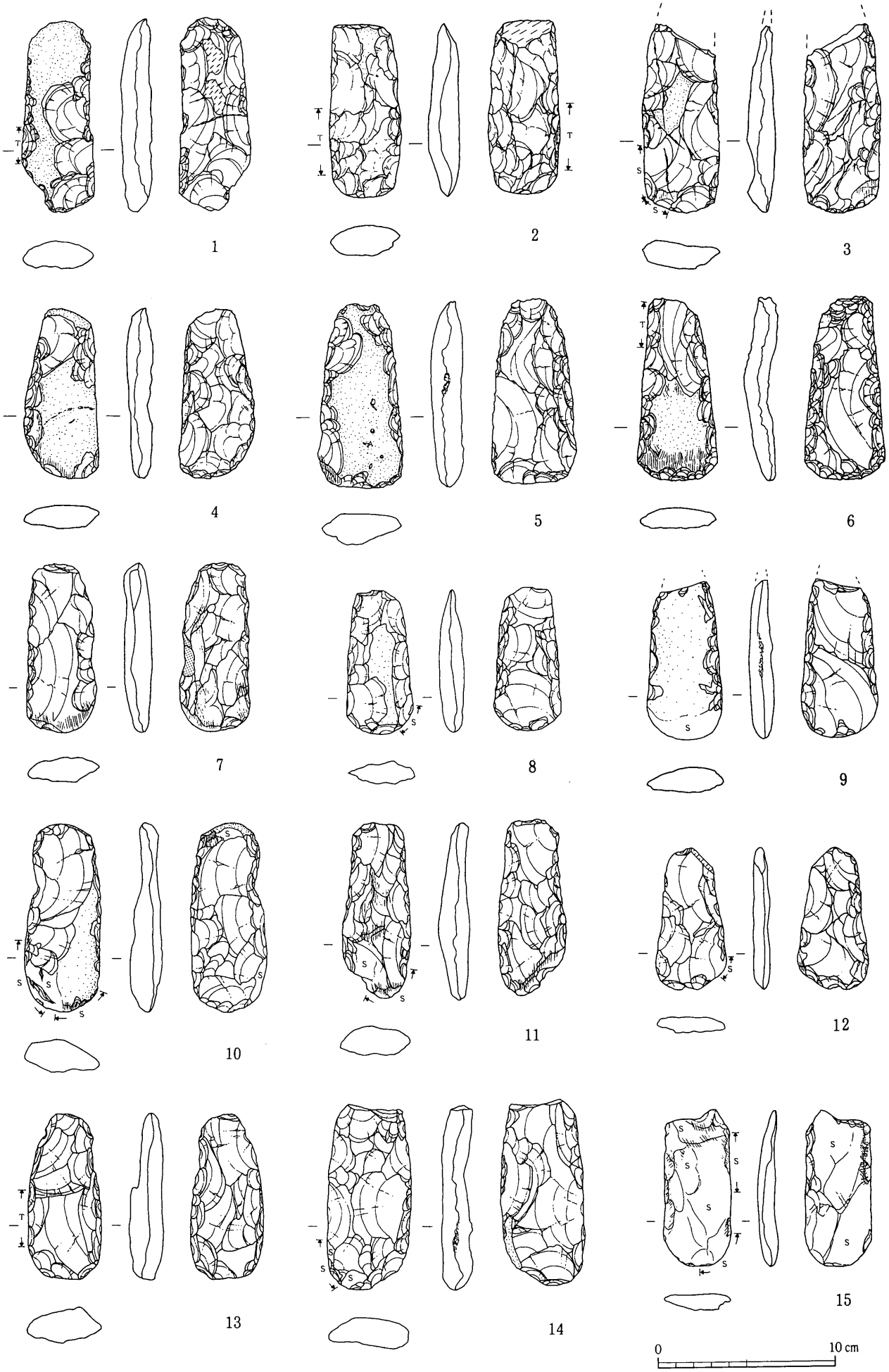
第26図　ＳＤ57、ＳＫ14、ＳＫ17、遺構外出土石器 (1)



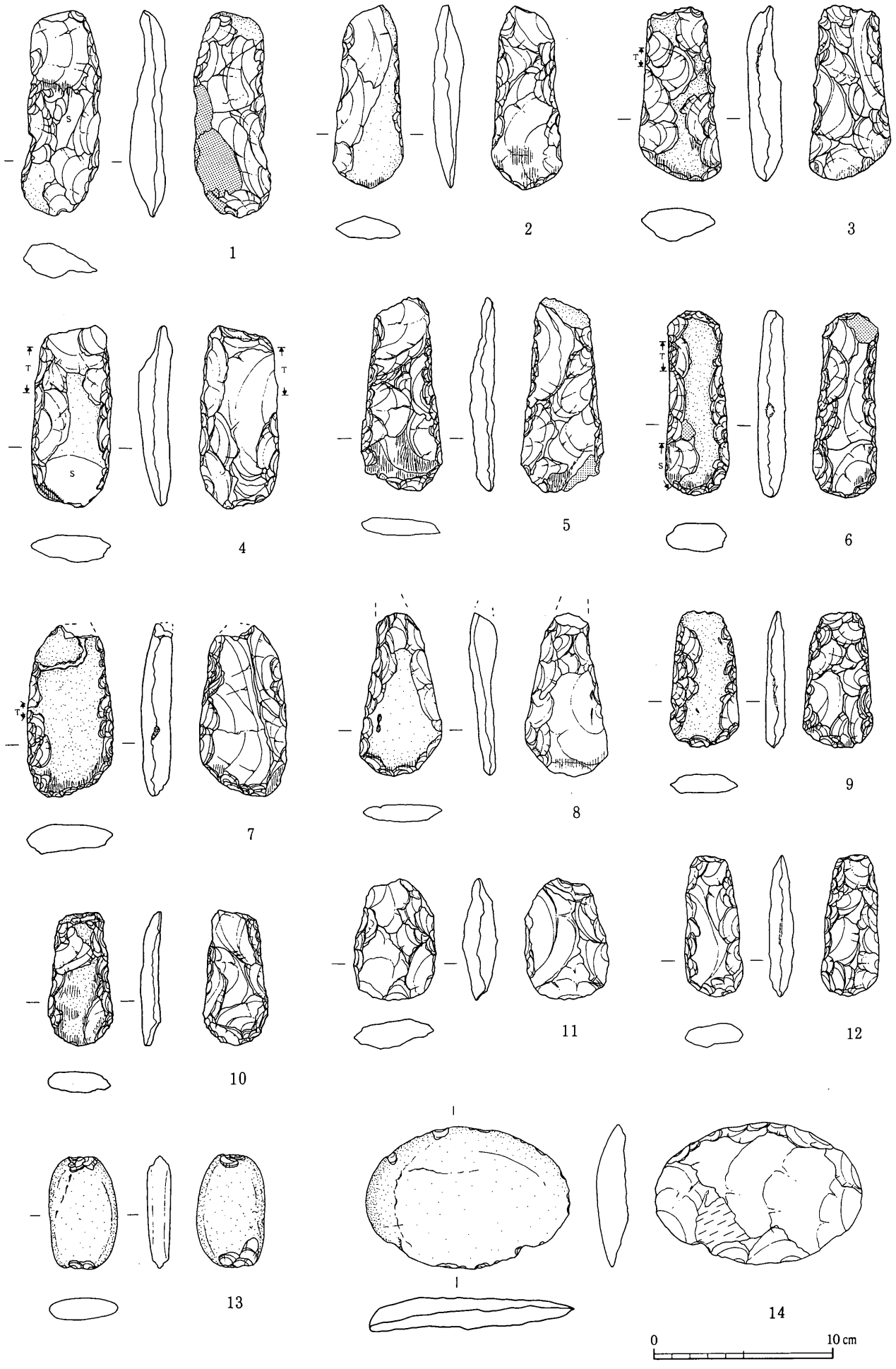
第27図　遺構外出土石器 (2)



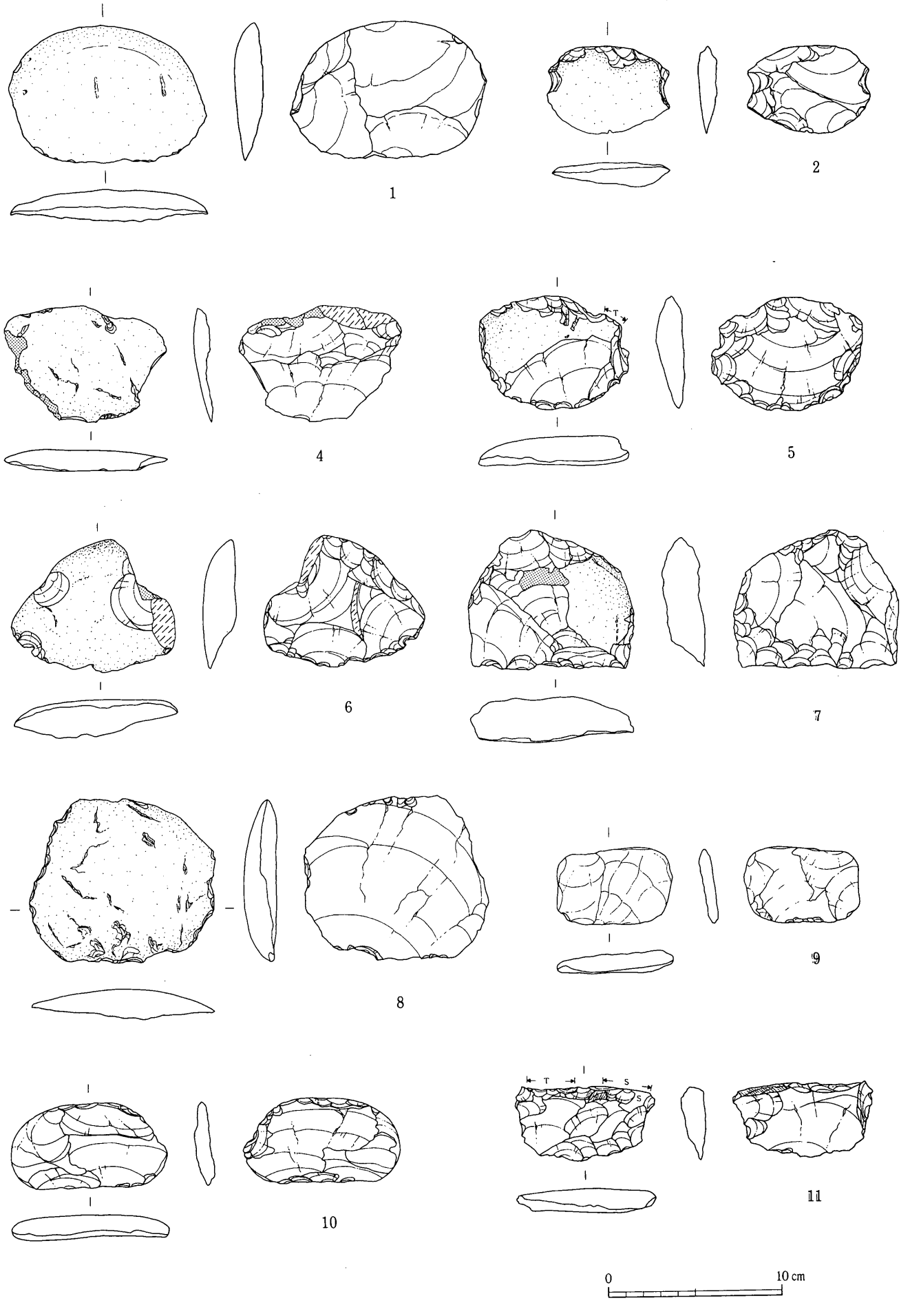
第28図　遺構外出土石器 (3)



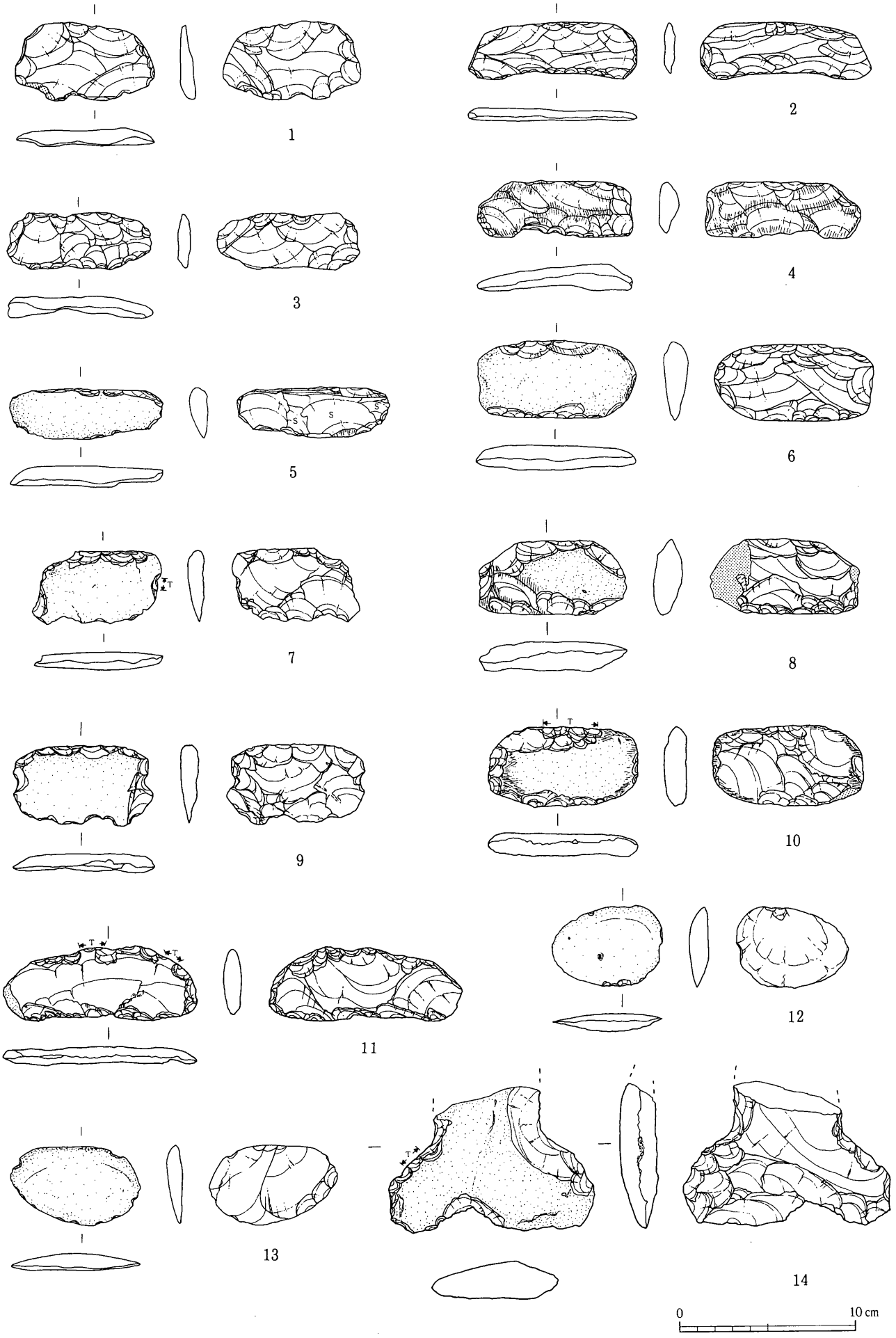
第29図　遺構外出土石器 (4)



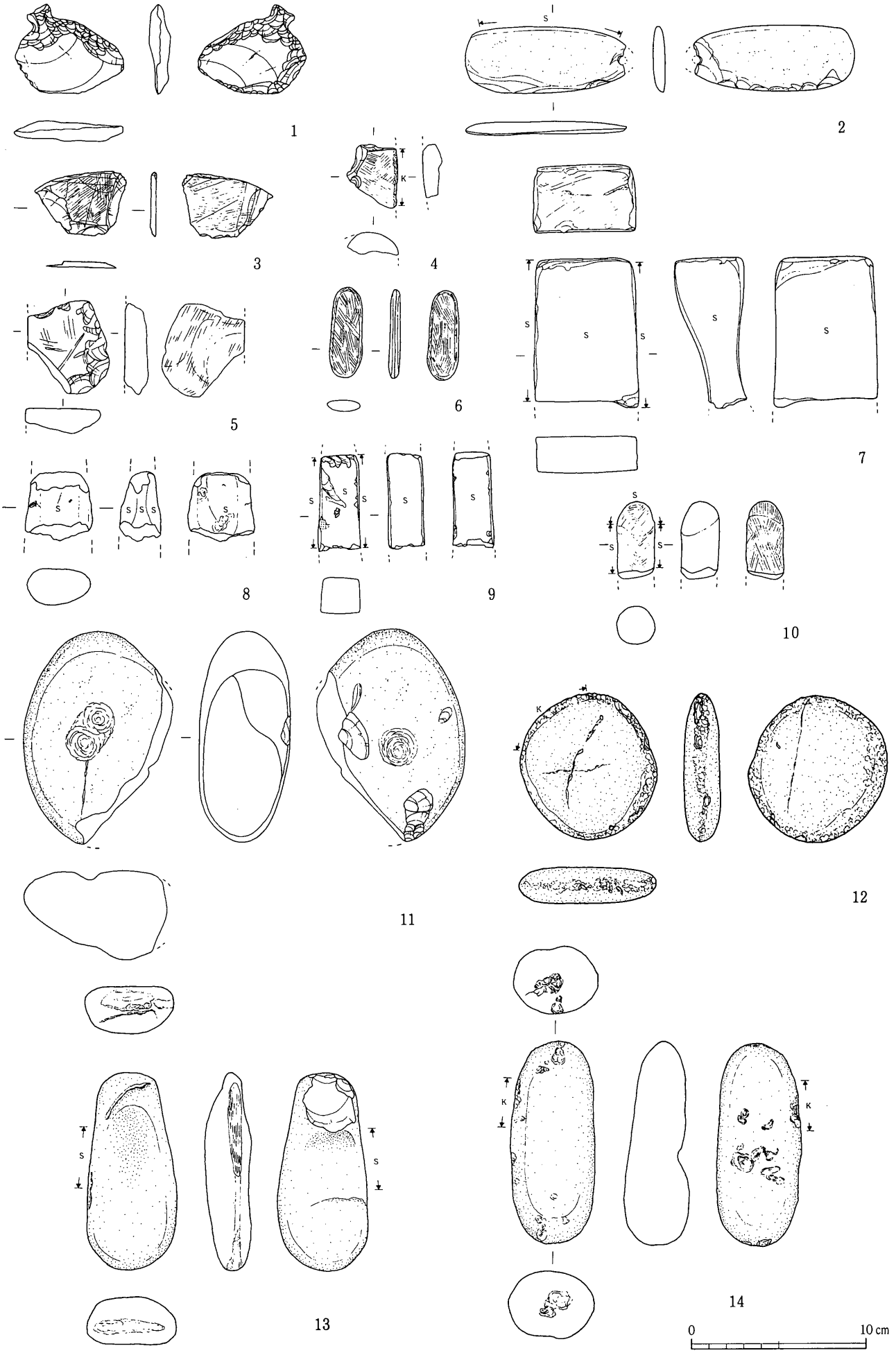
第30図　遺構外出土石器 (5)



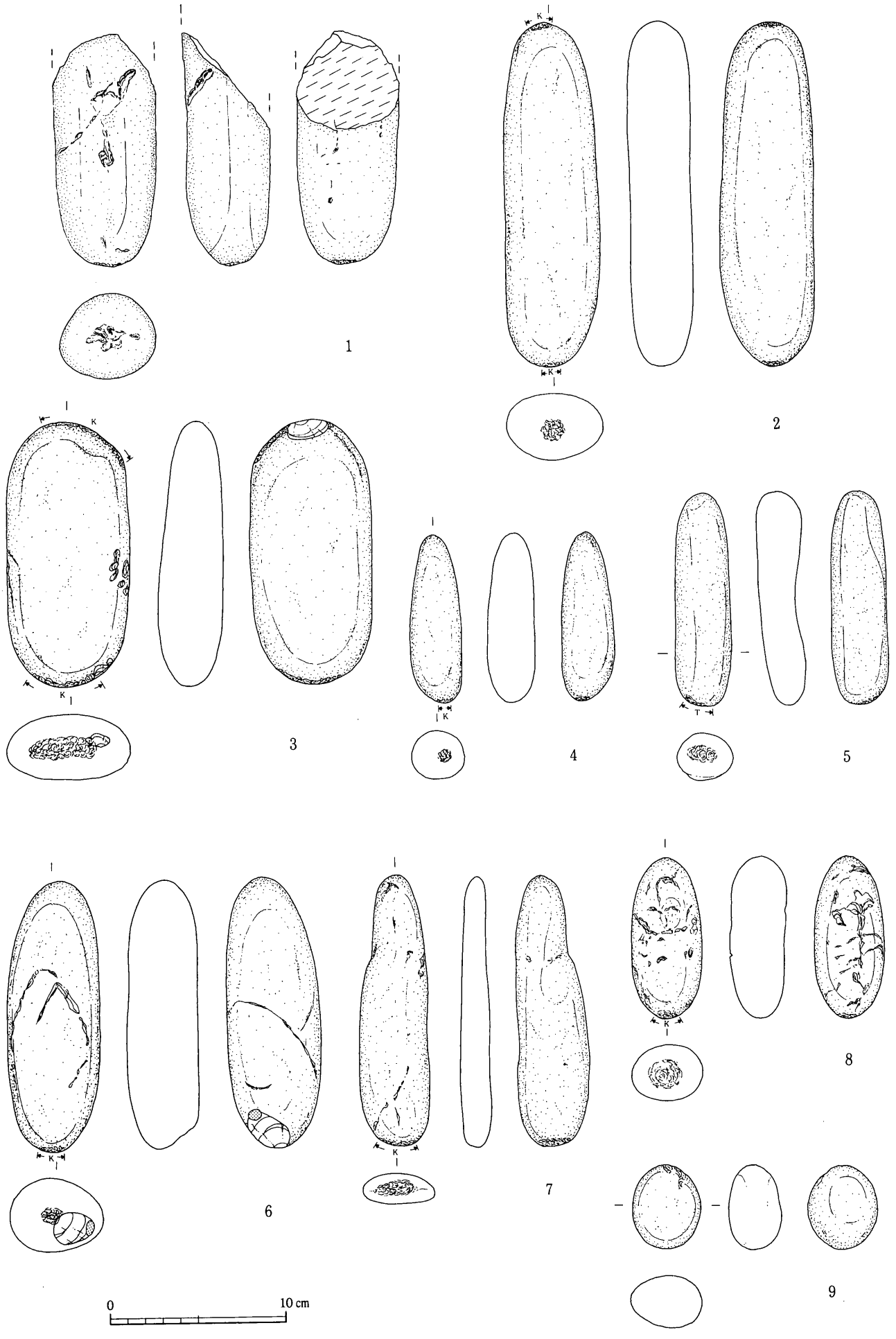
第31図　遺構外出土石器(6)



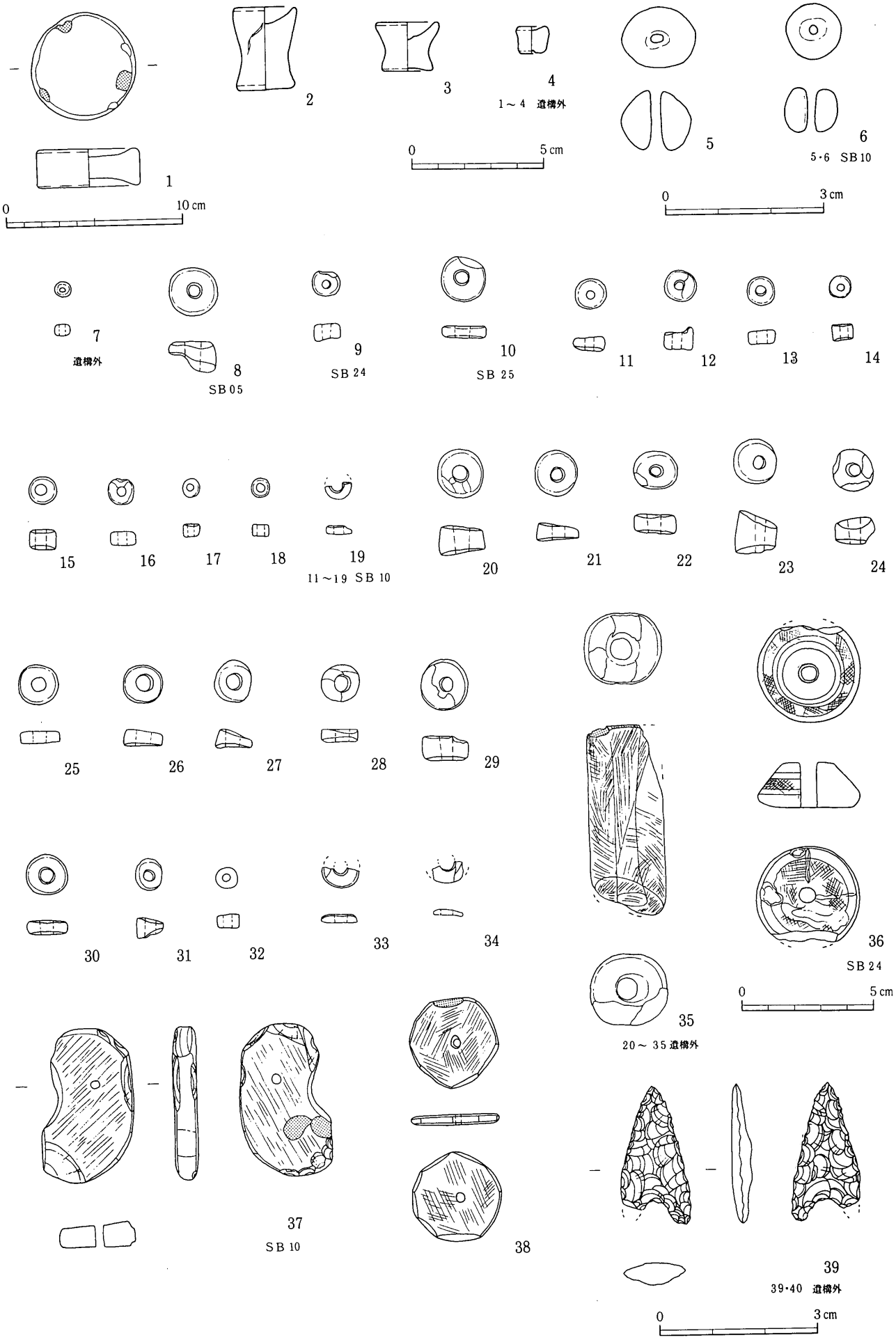
第32図　遺構外出土石器 (7)



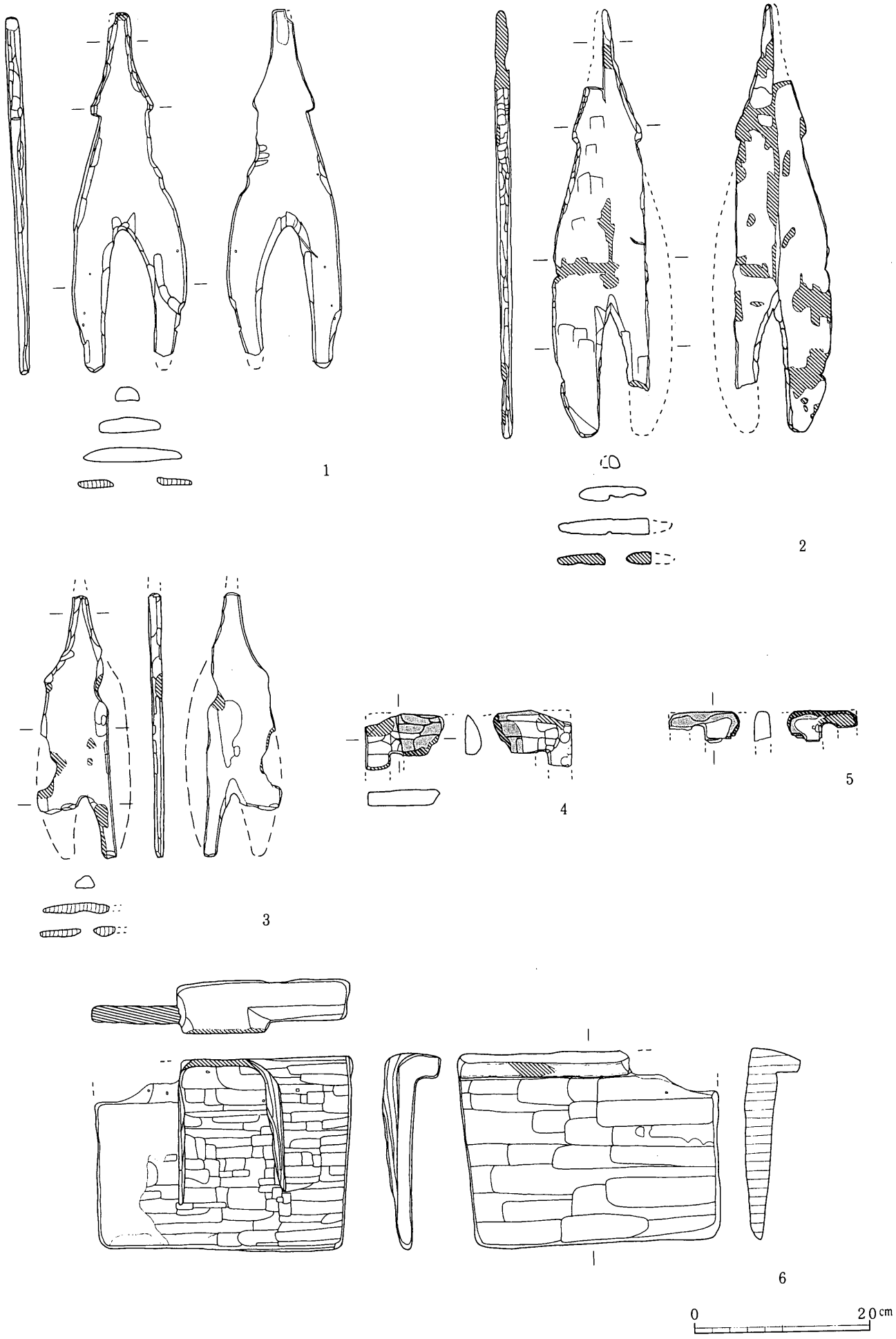
第33図　遺構外出土石器 (8)



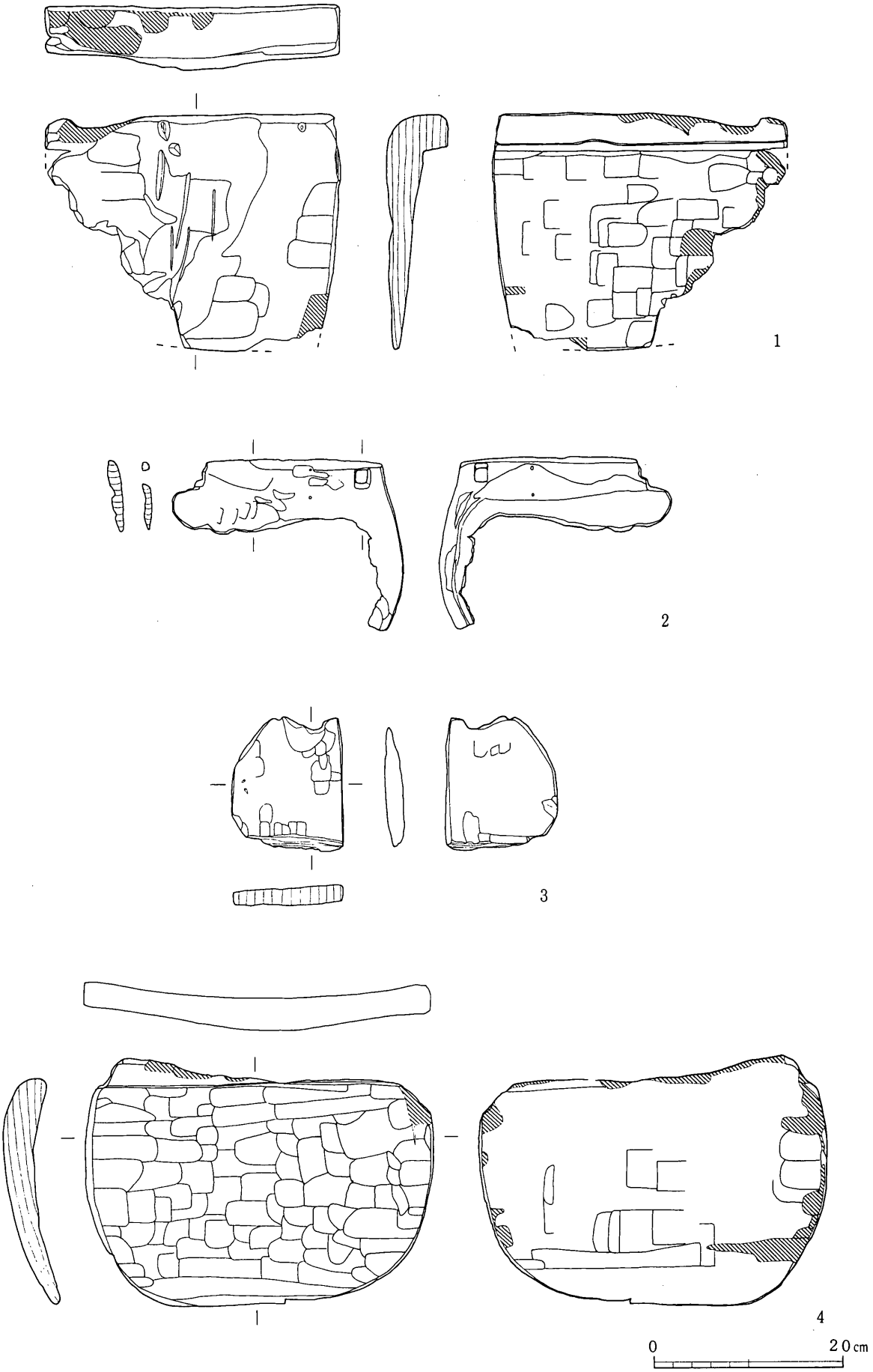
第34図　遺構外出土石器 (9)



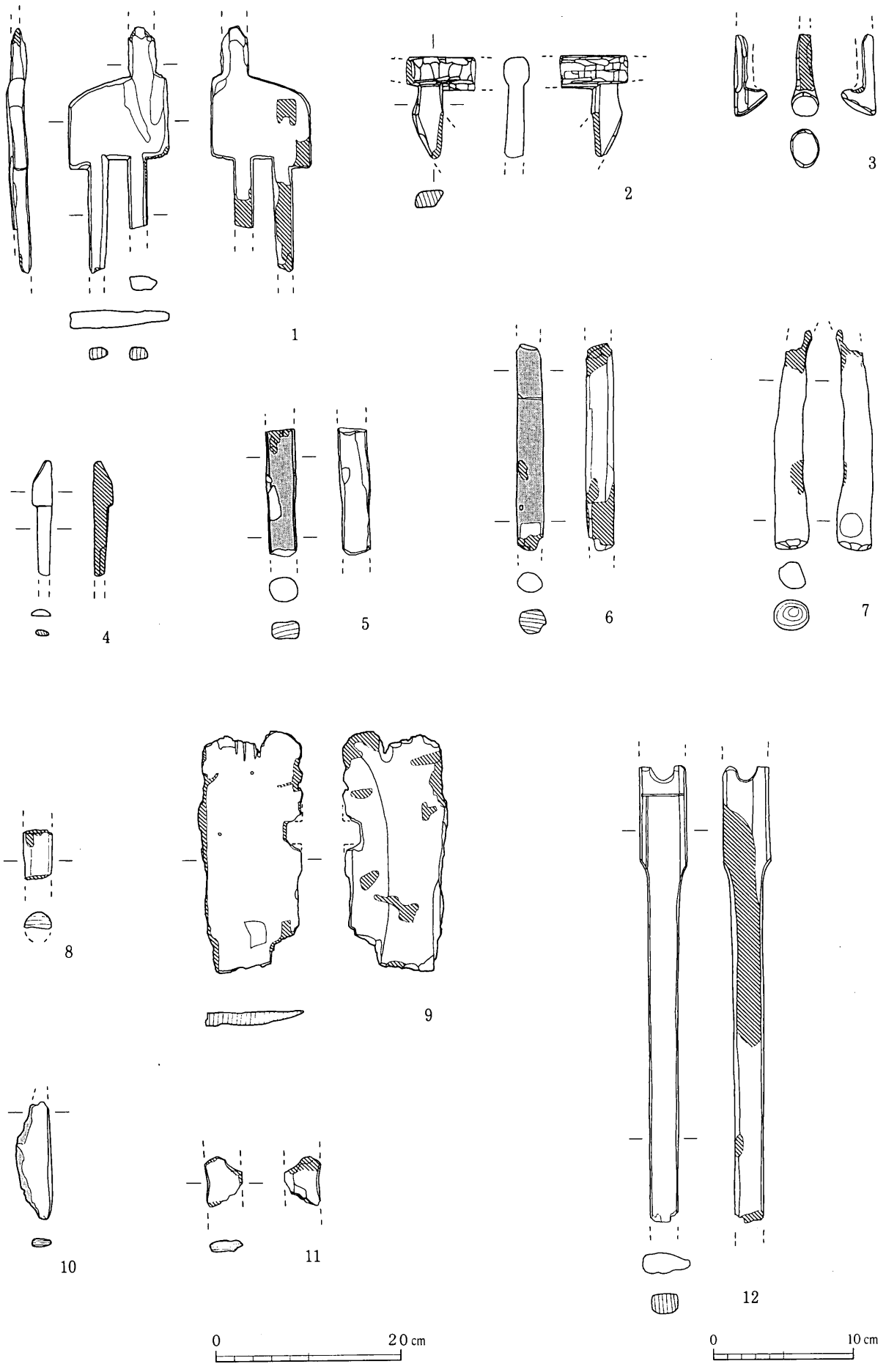
第35図　土製品(2)、ガラス製品、石製品、遺構外出土石器(10)
(1～6土製品、7ガラス製品、8～39石製品)



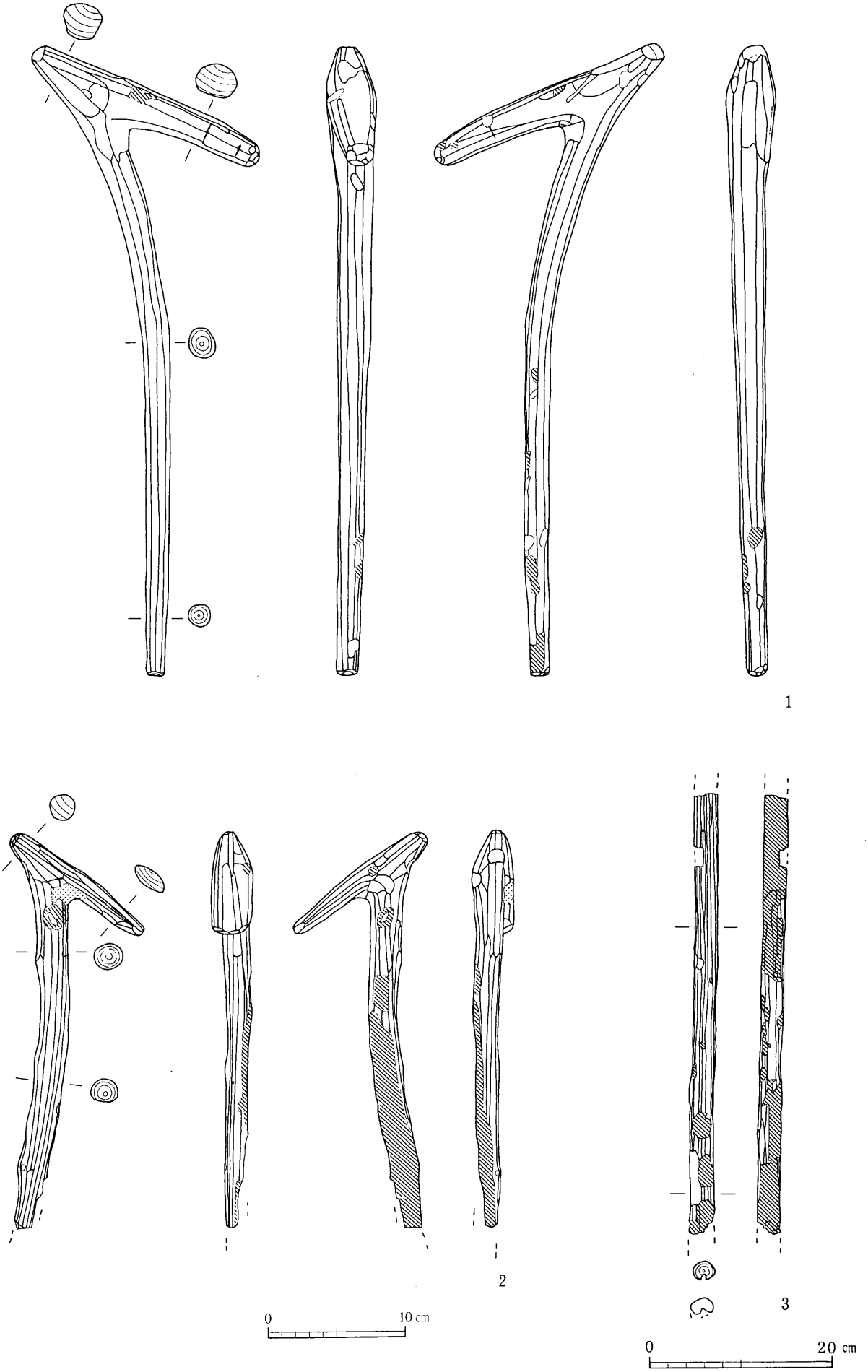
第36図　ＳＢ10出土木製品 (1)



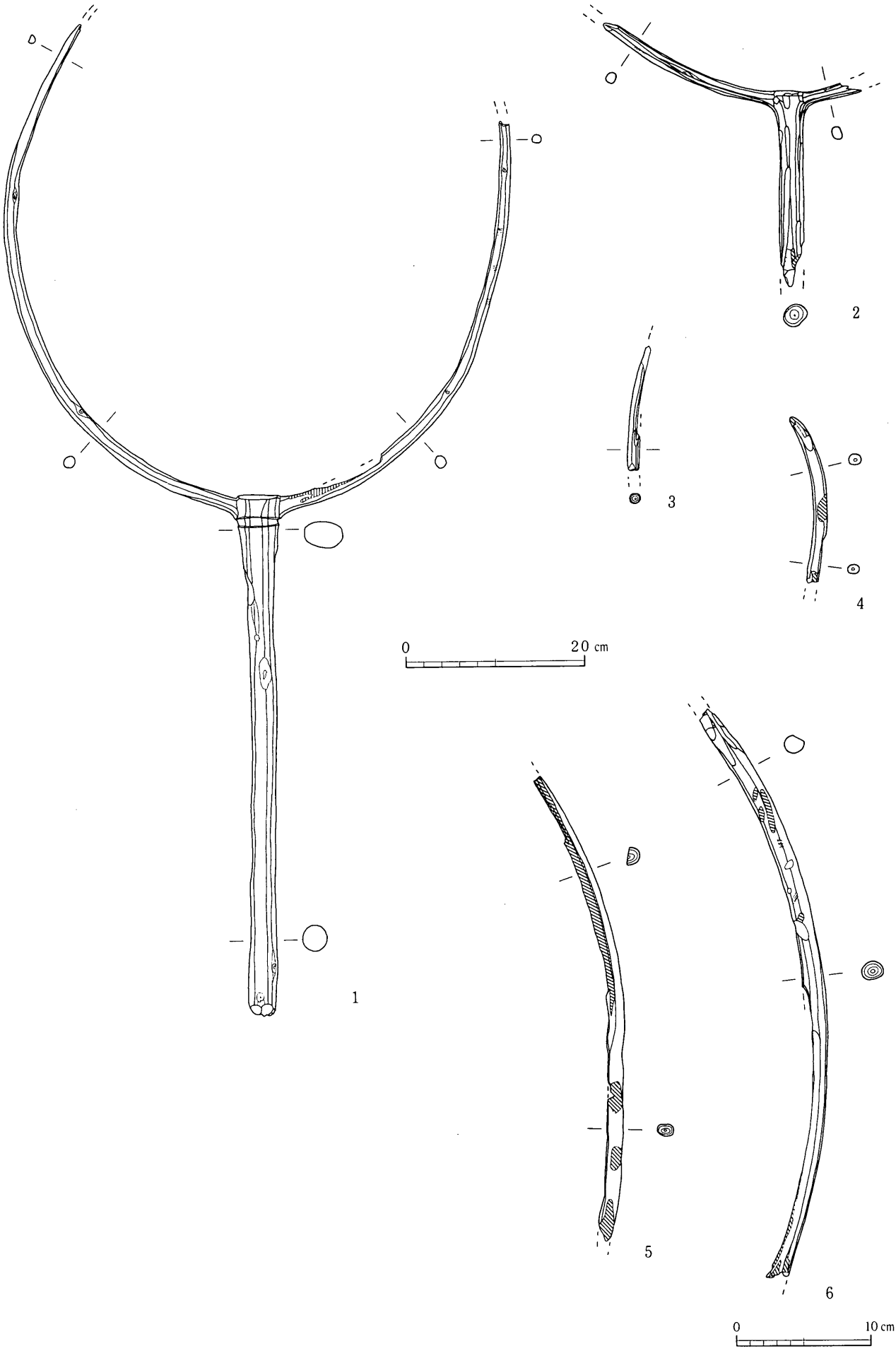
第37図　ＳＢ10出土木製品 (2)



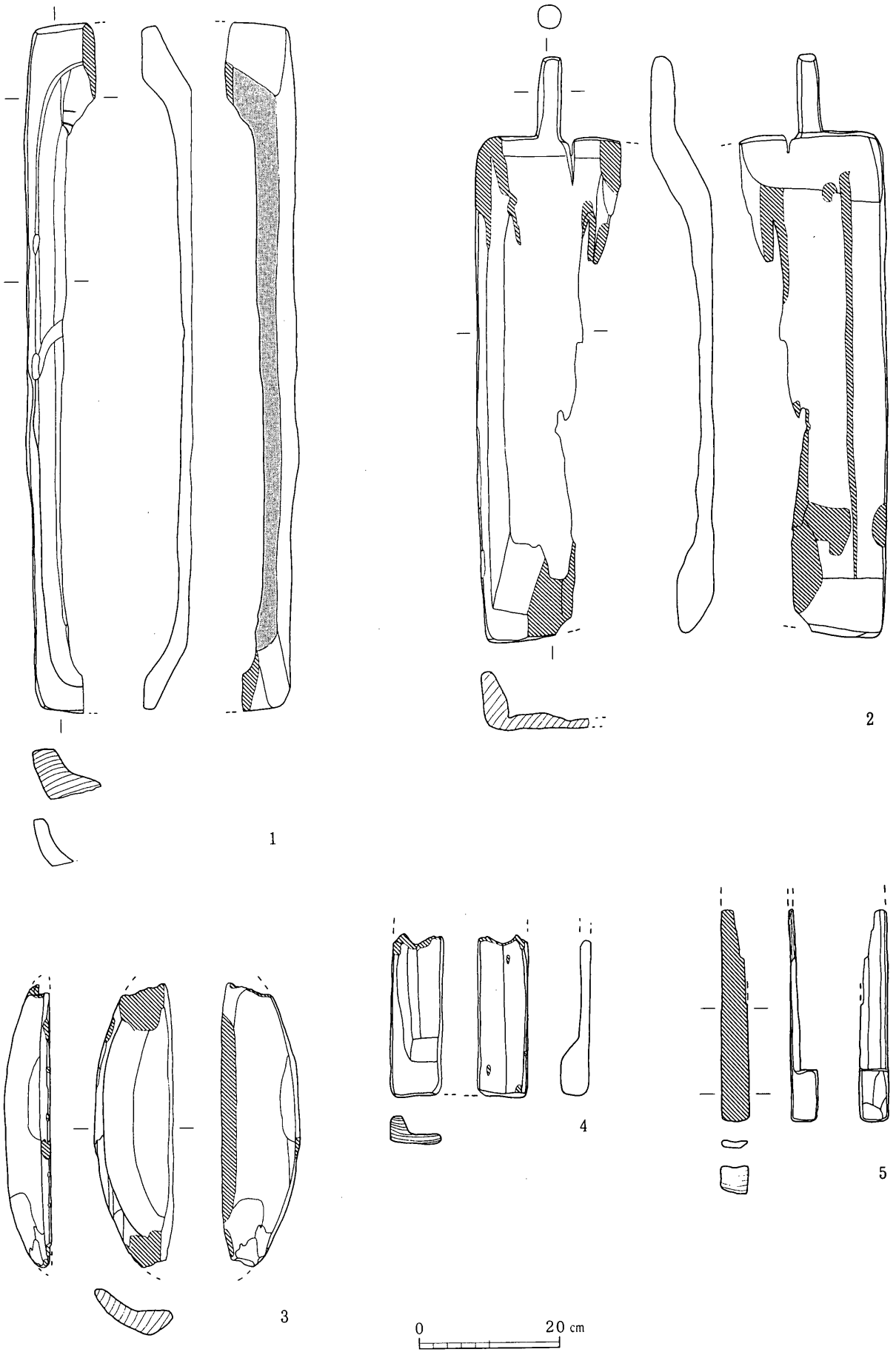
第38図　ＳＢ10出土木製品 (3)



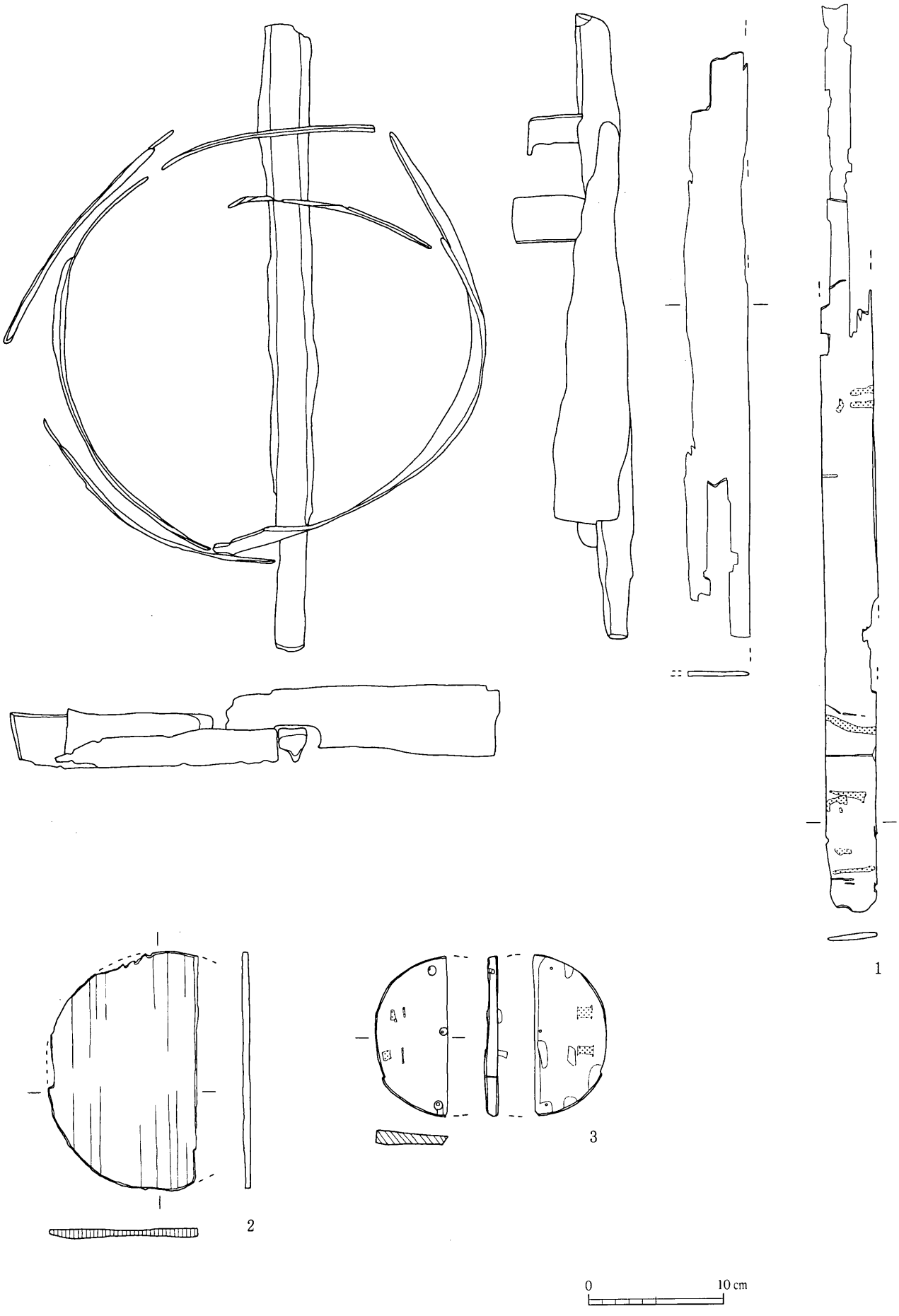
第39図　ＳＢ10出土木製品(4)



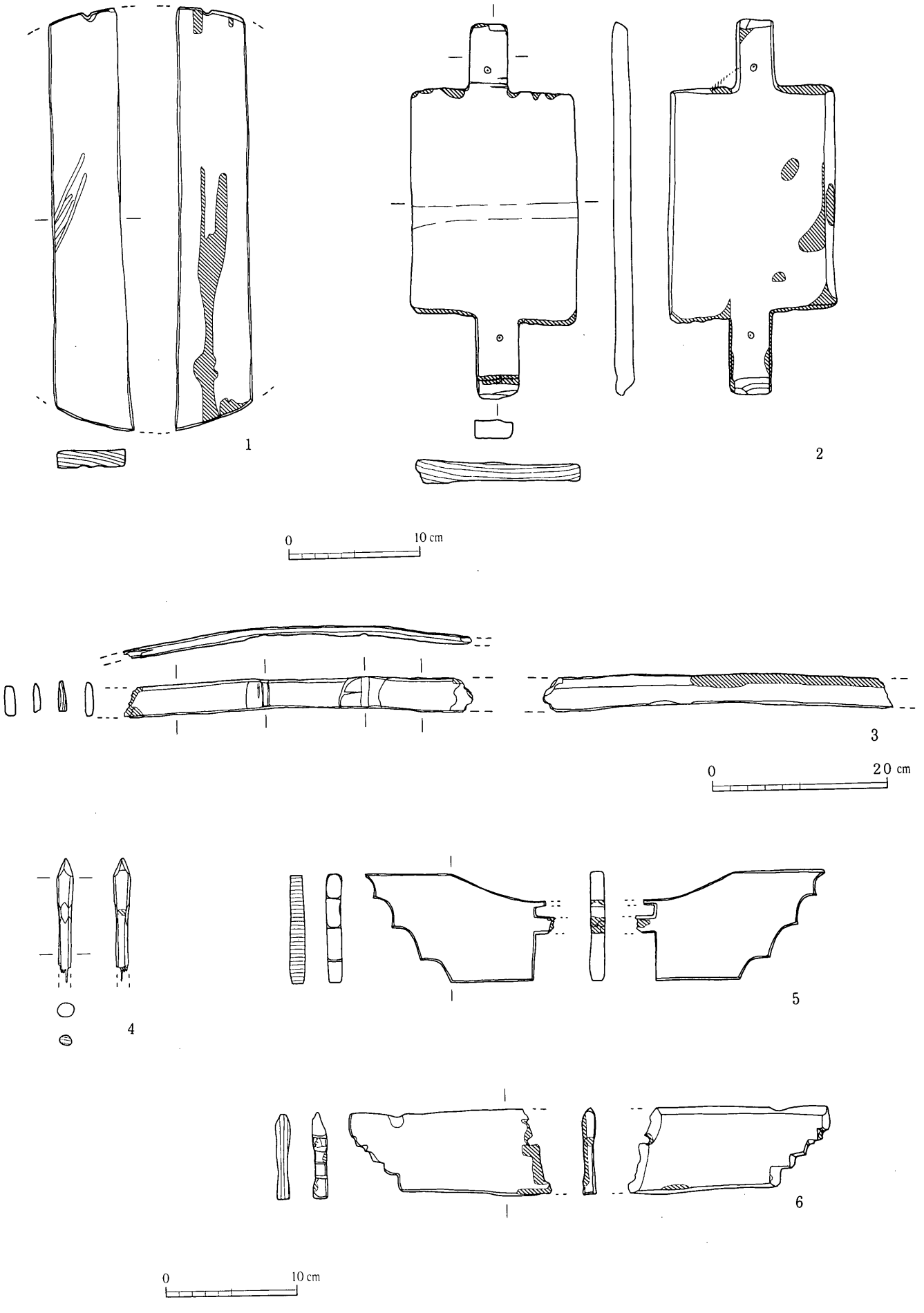
第40図　ＳＢ10出土木製品 (5)



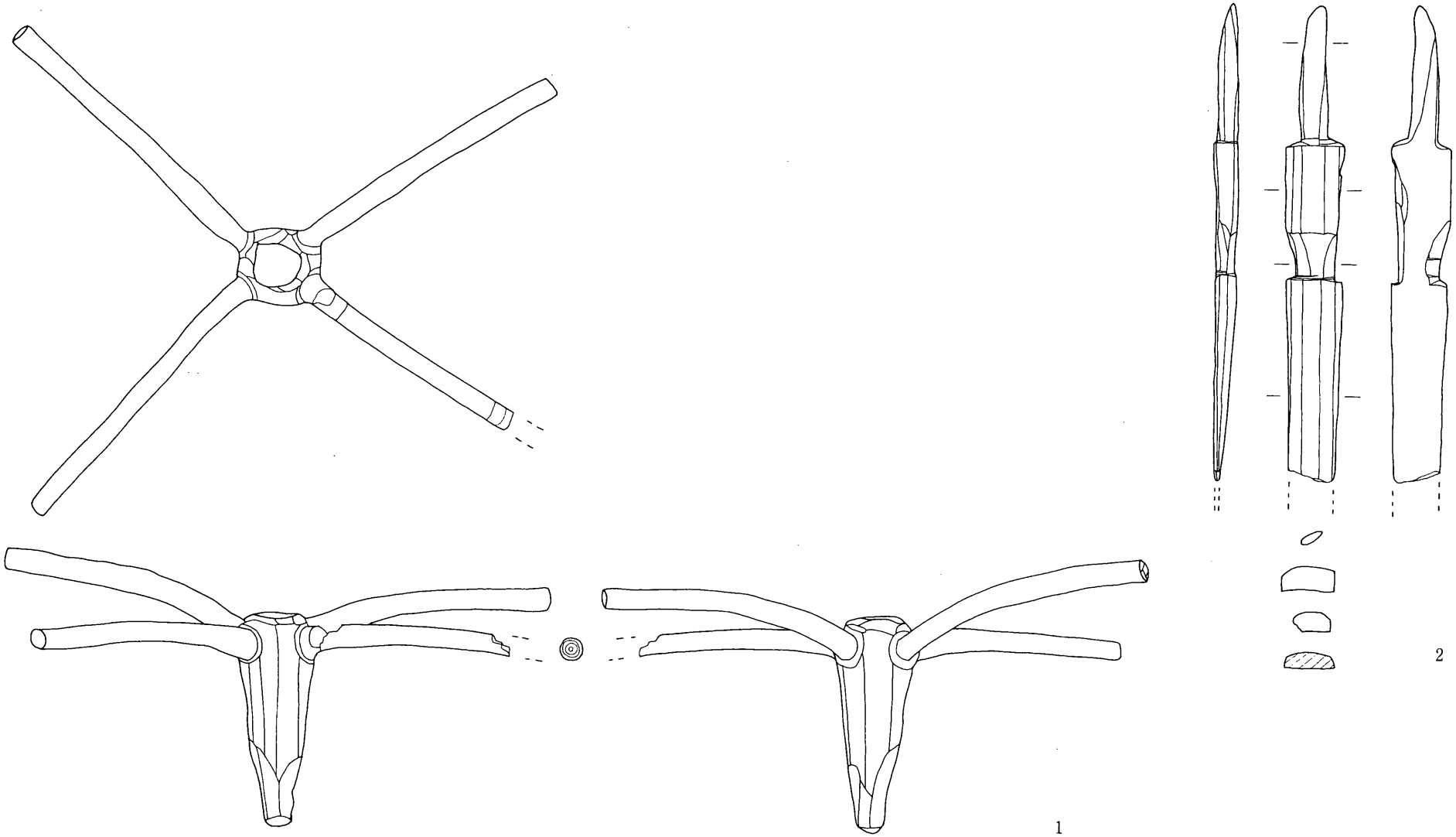
第41図　ＳＢ10出土木製品 (6)



第42図　ＳＢ10出土木製品 (7)

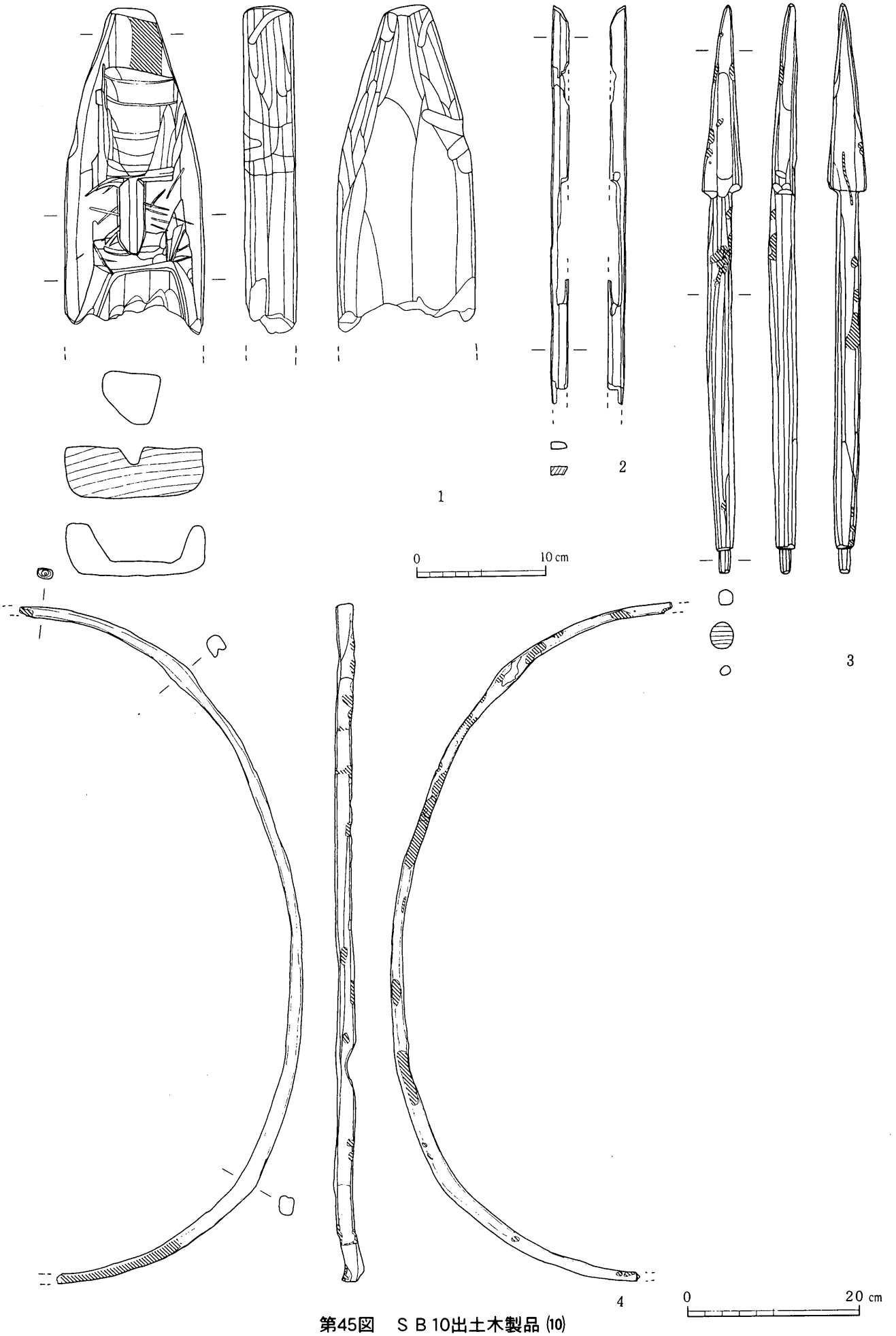


第43図　ＳＢ10出土木製品 (8)

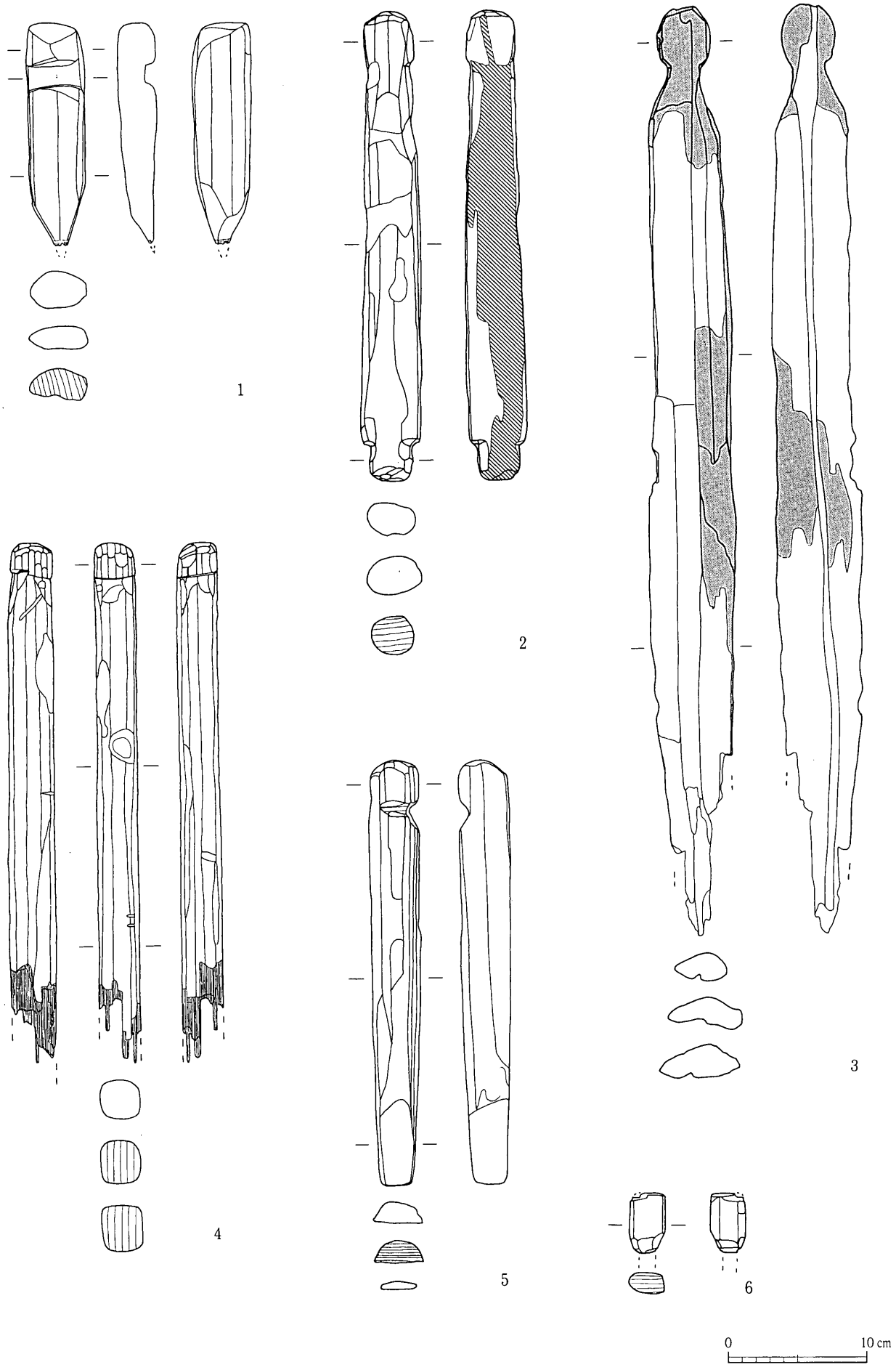


第44図　ＳＢ10出土木製品 (9)

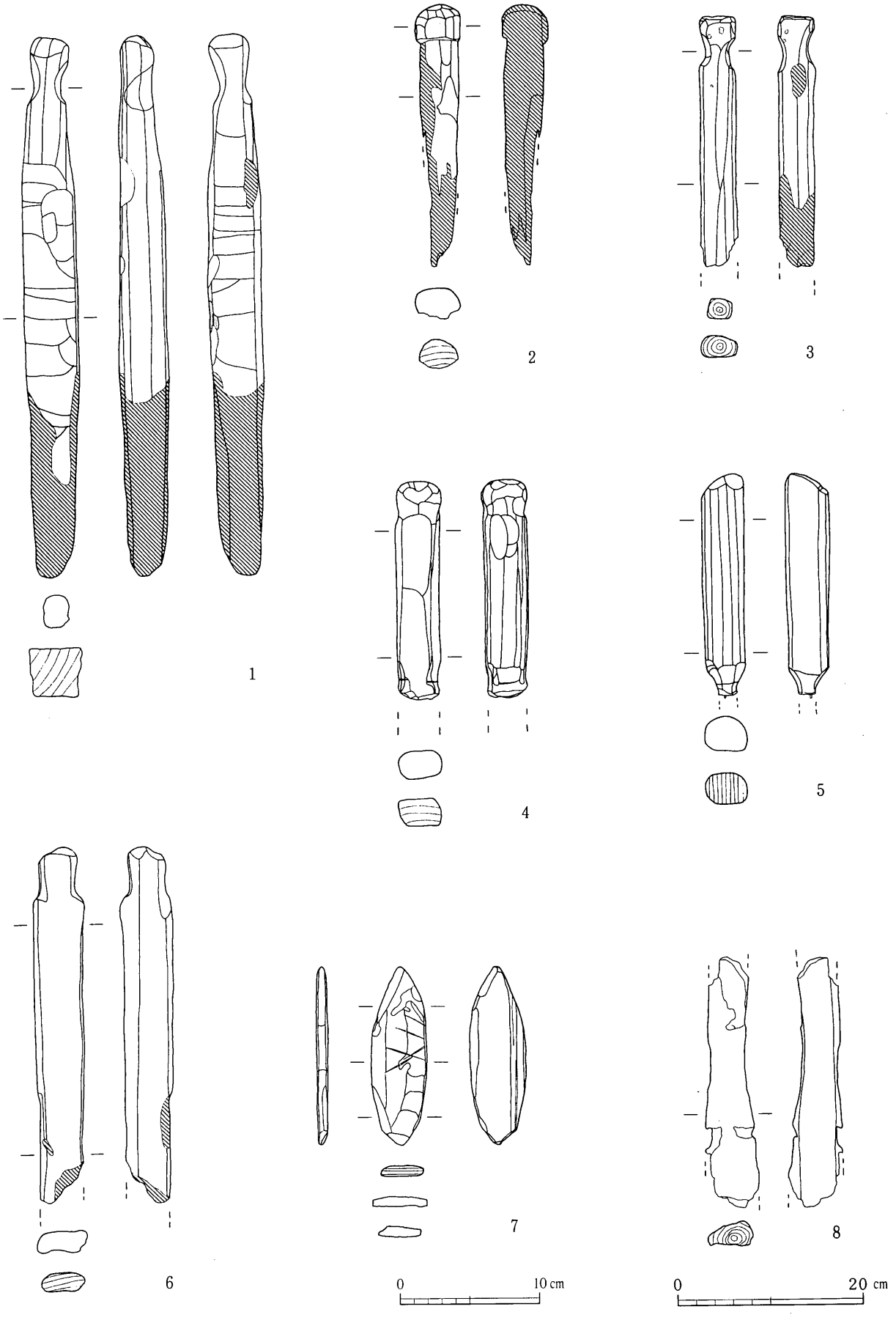
0　5cm



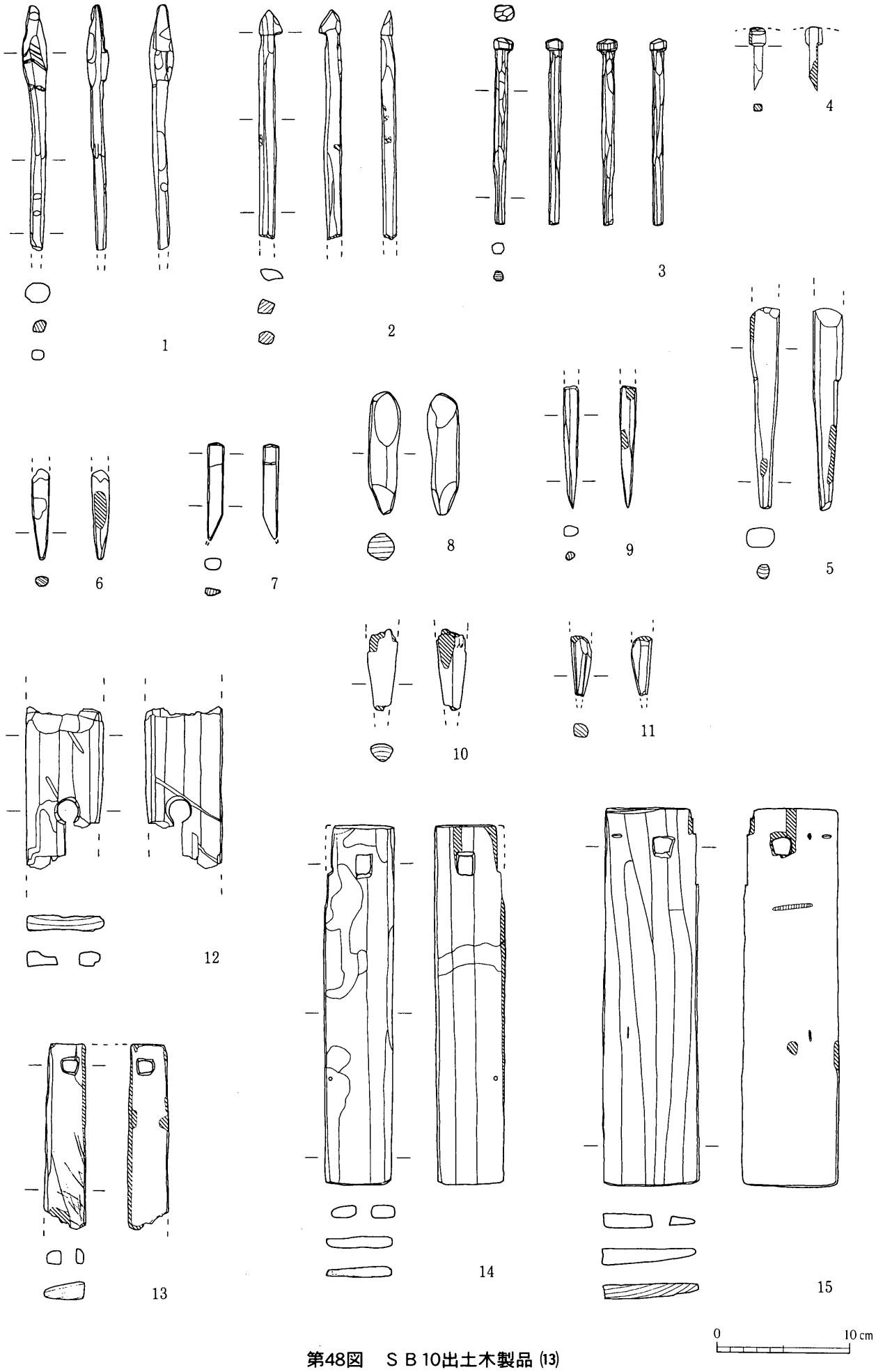
第45図　ＳＢ10出土木製品 (10)



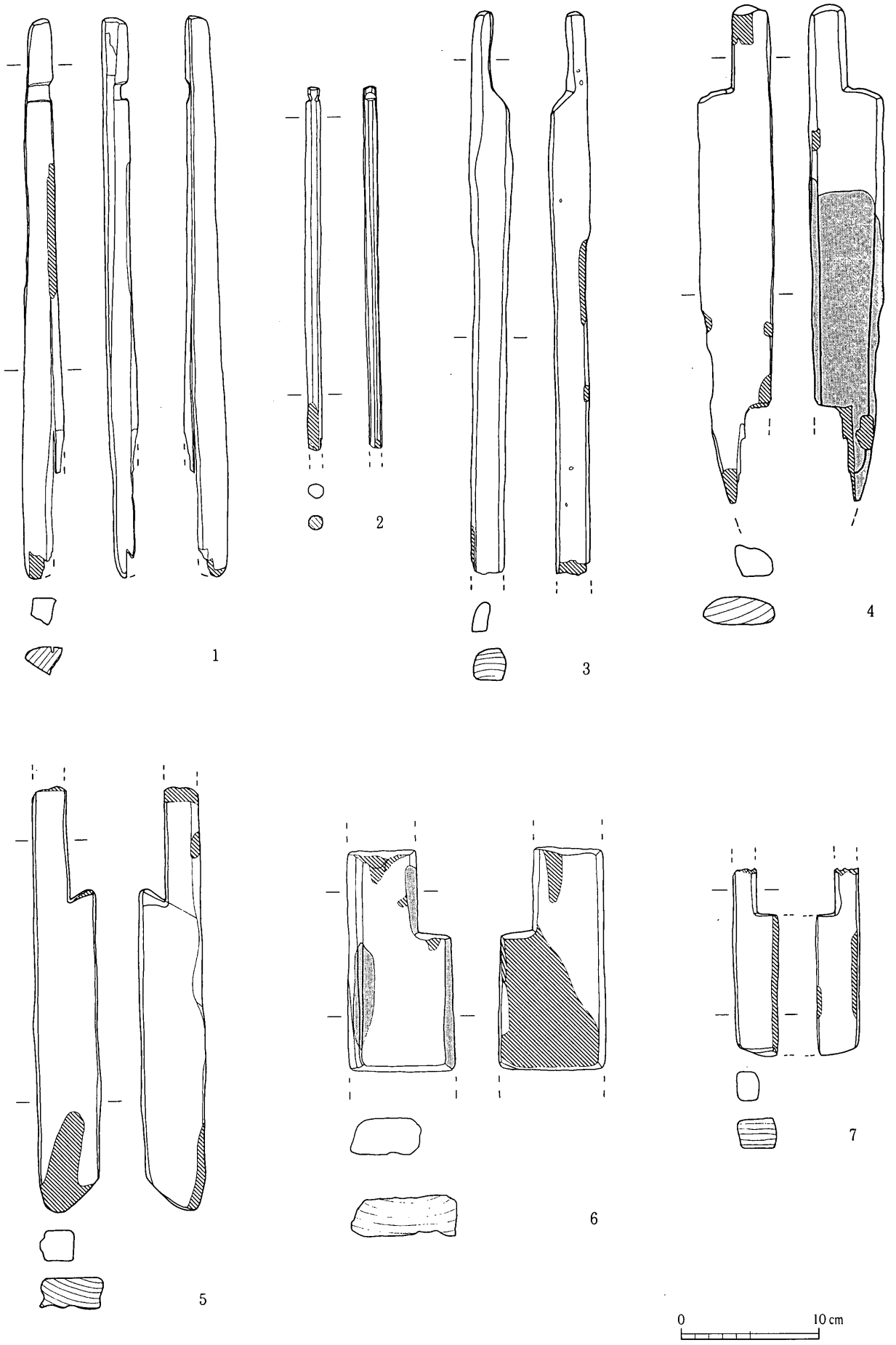
第46図　ＳＢ10出土木製品 (11)



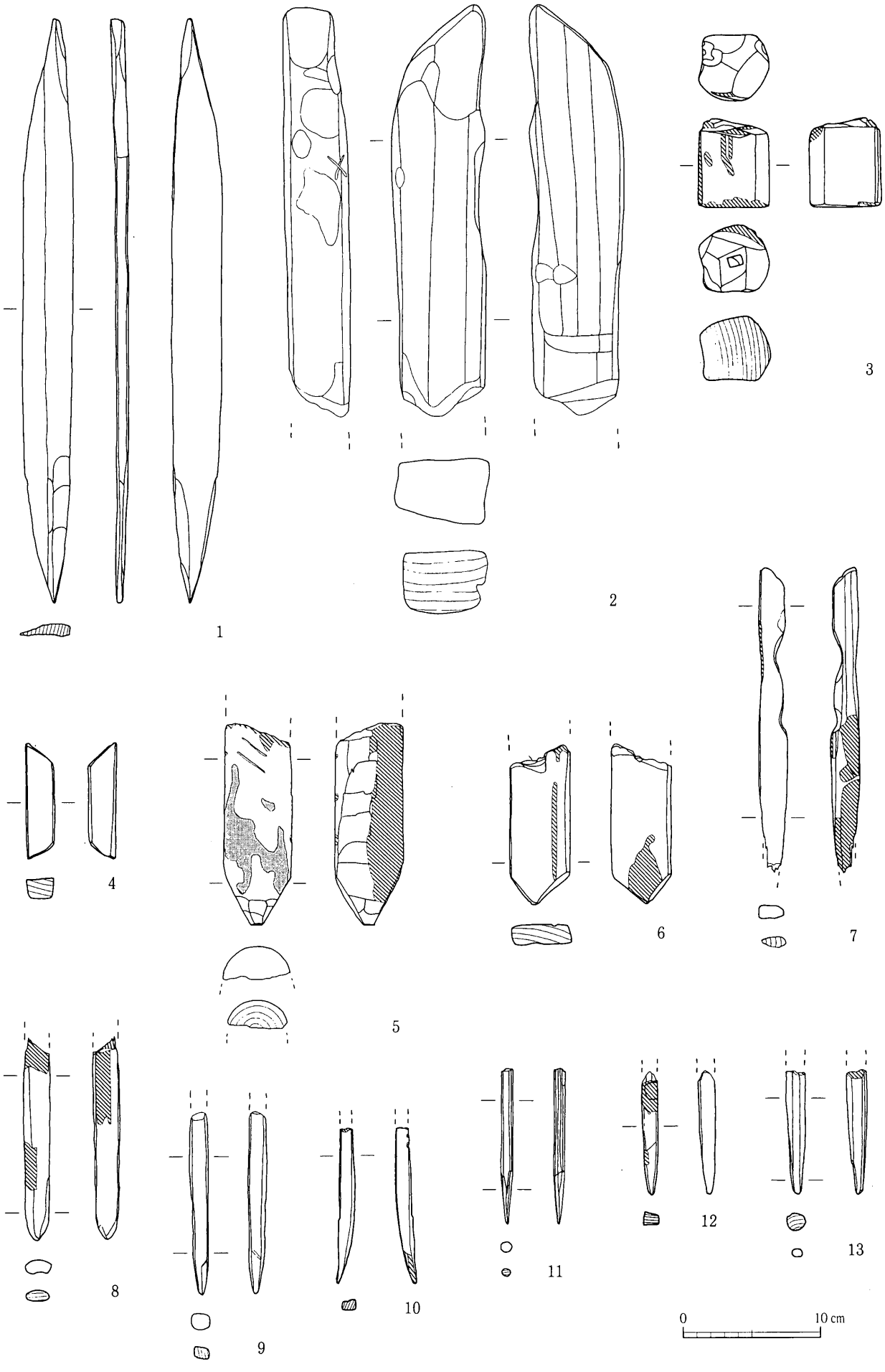
第47図　ＳＢ10出土木製品 (12)



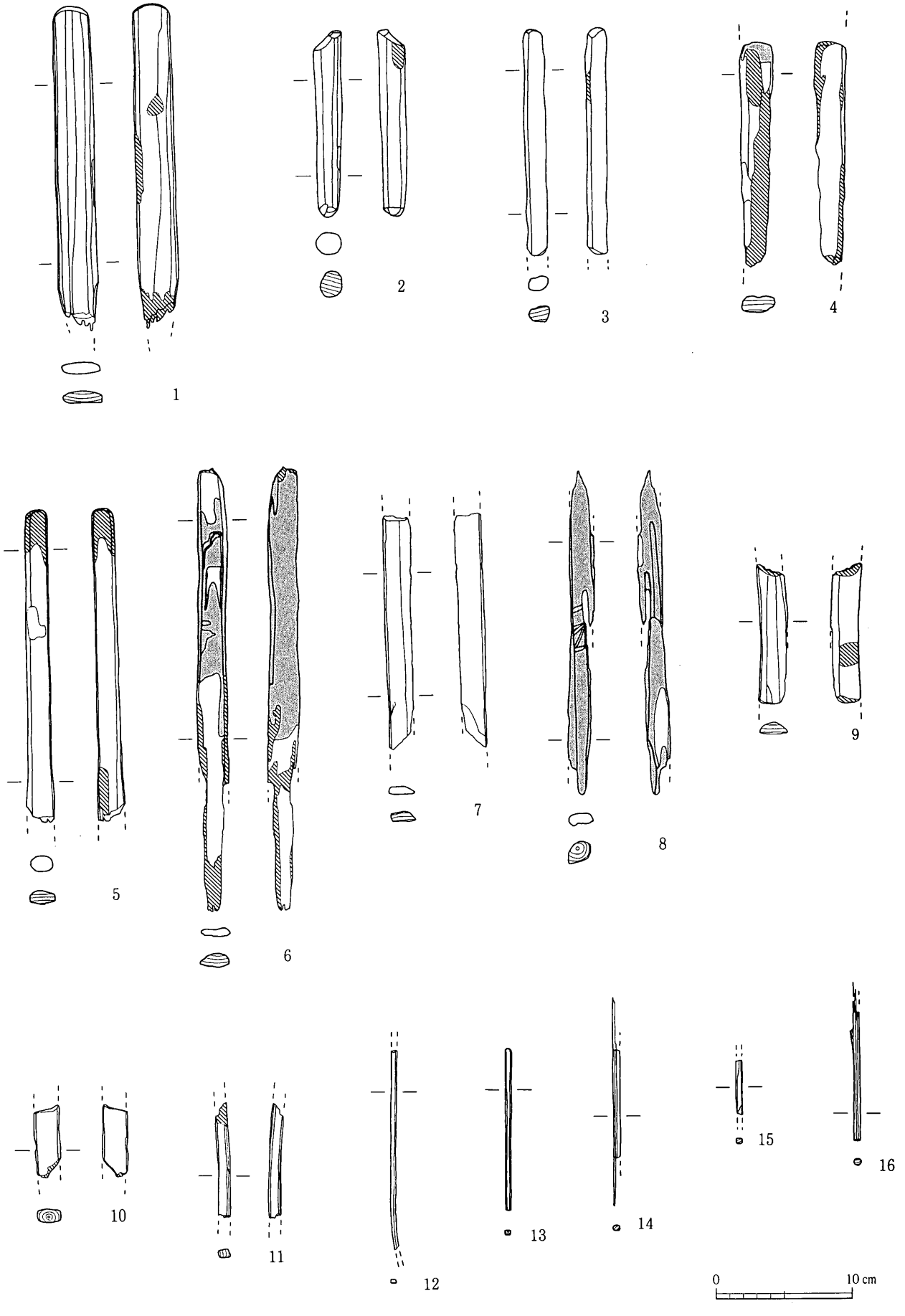
第48図　ＳＢ10出土木製品 (13)



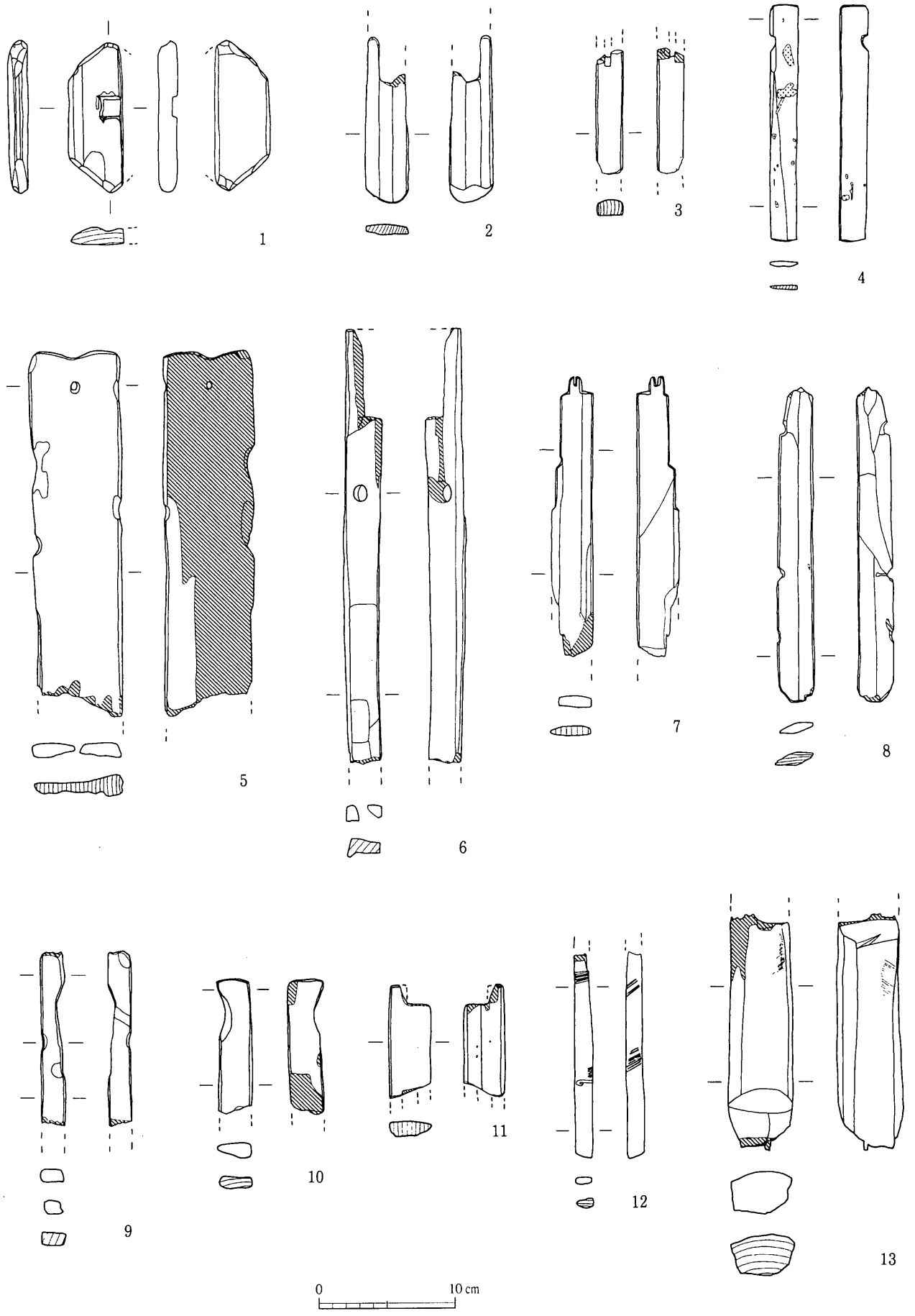
第49図　ＳＢ10出土木製品 (14)



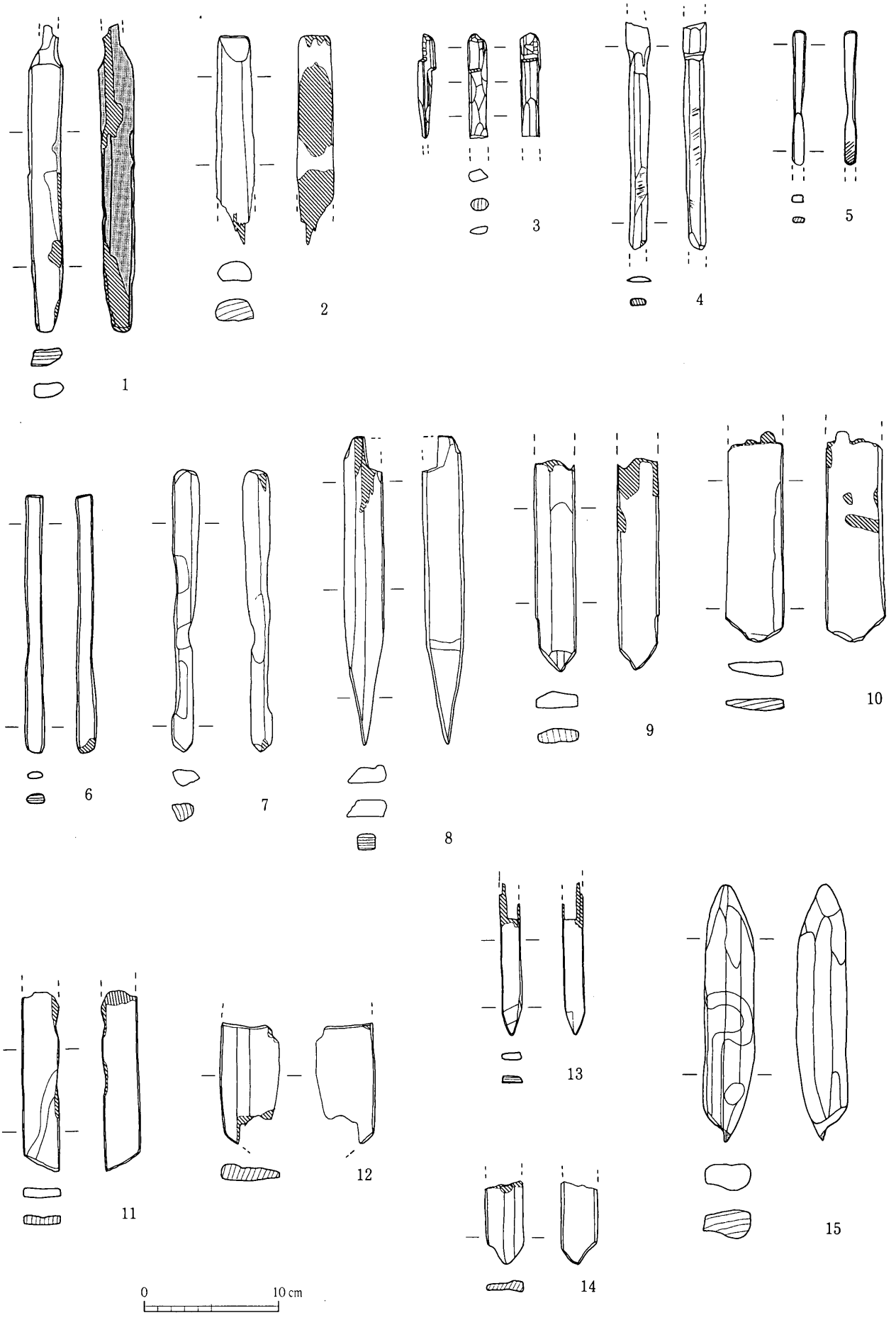
第50図　ＳＢ10出土木製品 (15)



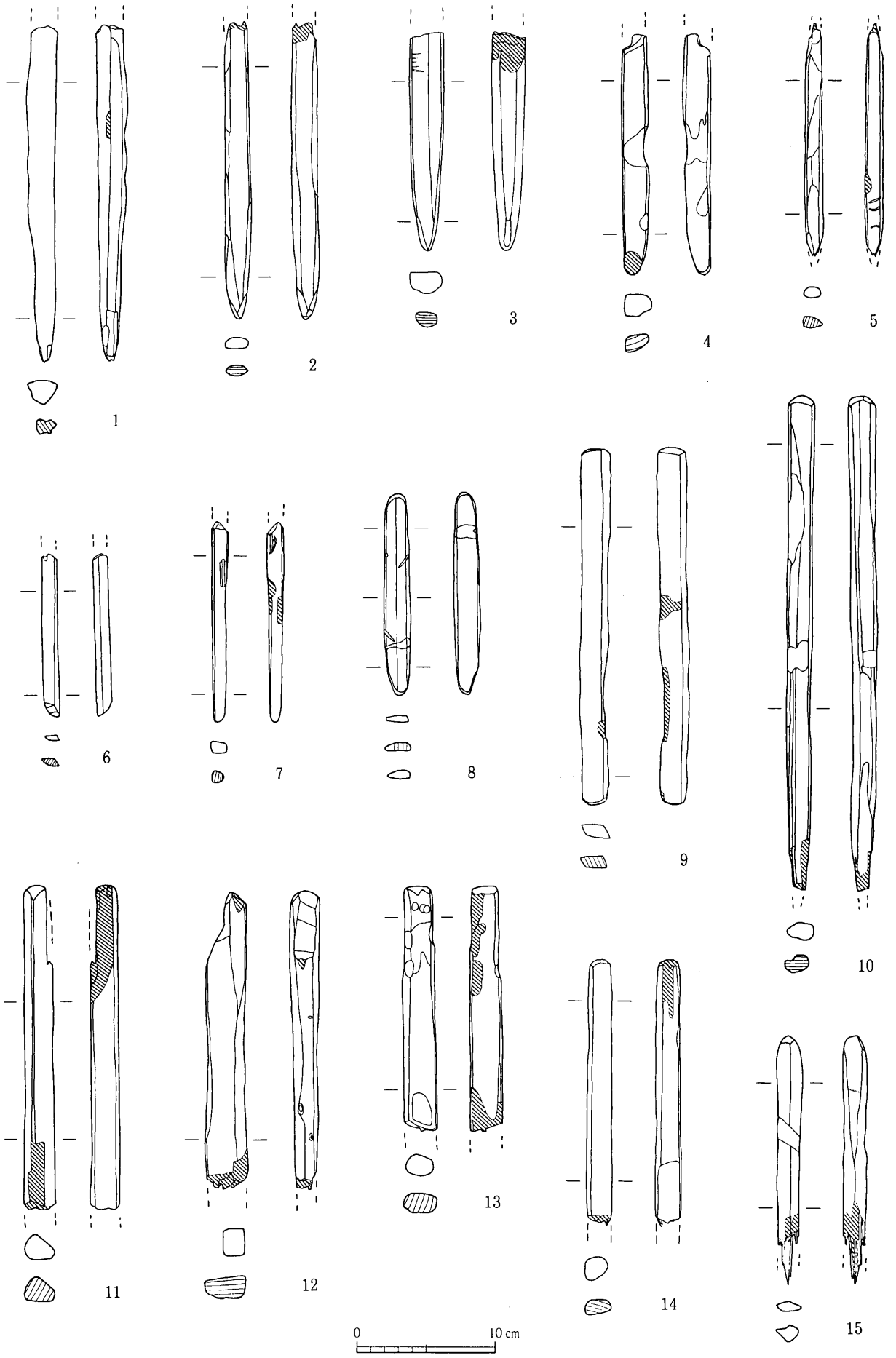
第51図　ＳＢ10出土木製品 (16)



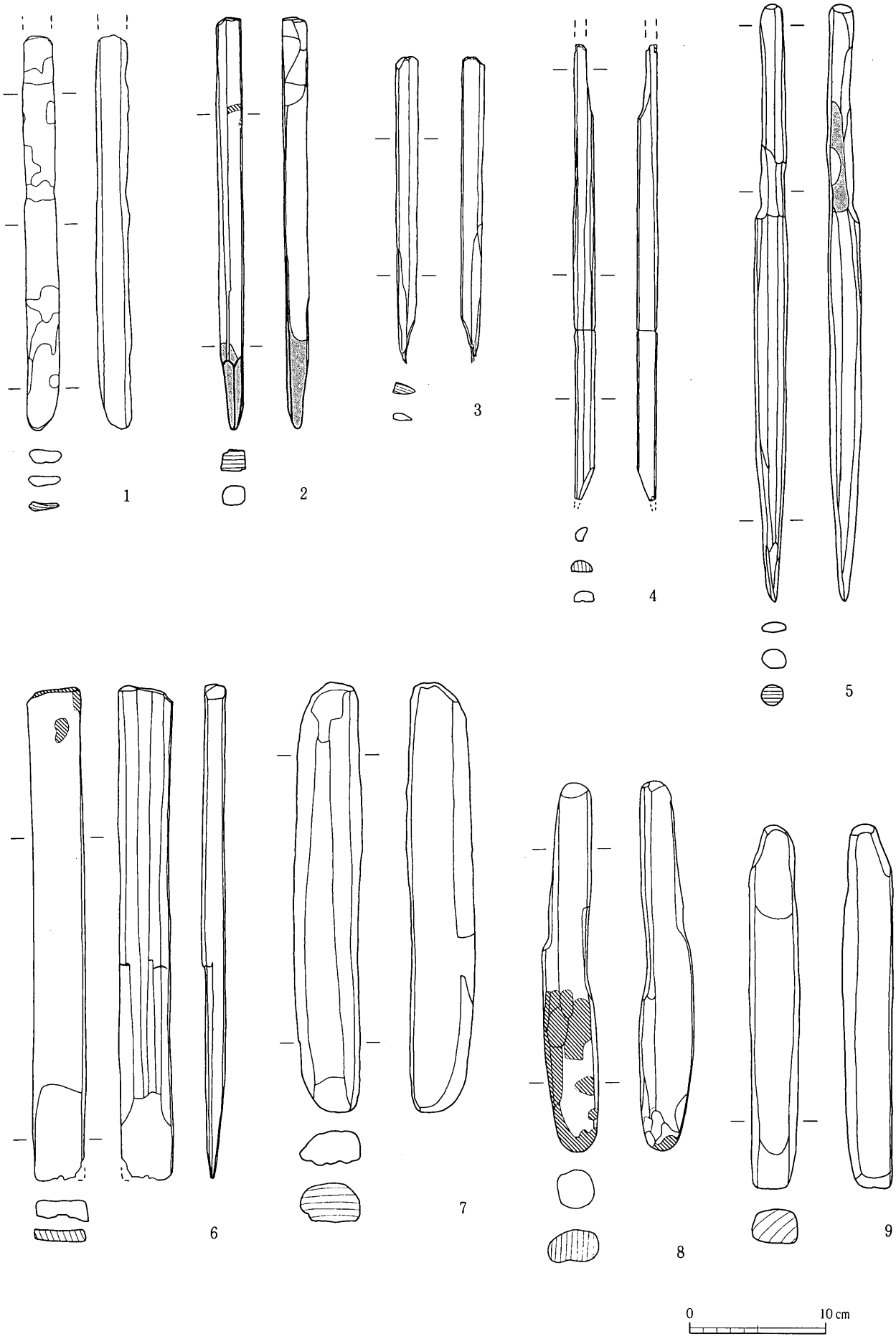
第52図　ＳＢ10出土木製品 (17)



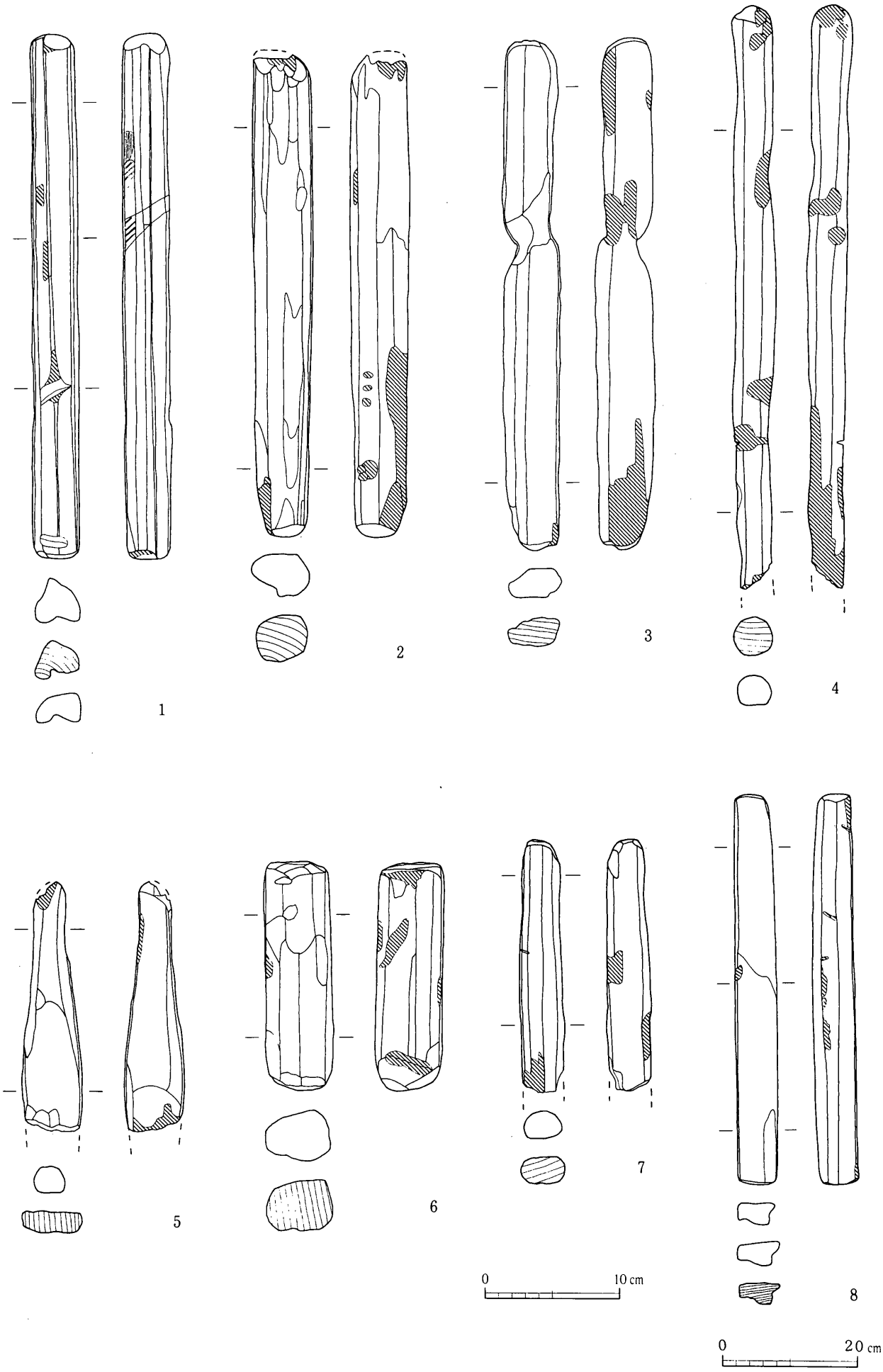
第53図　ＳＢ10出土木製品 (18)



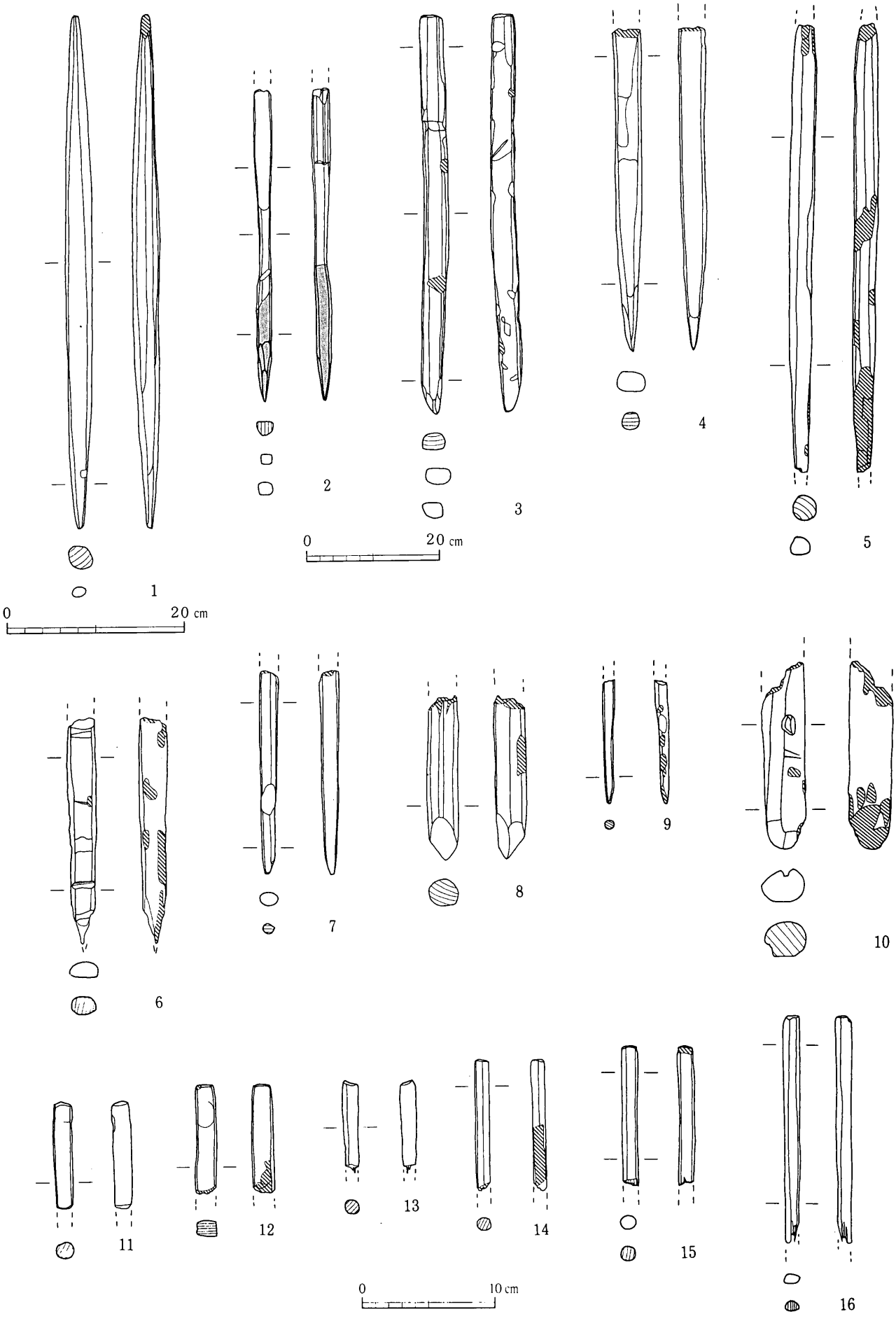
第54図　ＳＢ10出土木製品 (19)



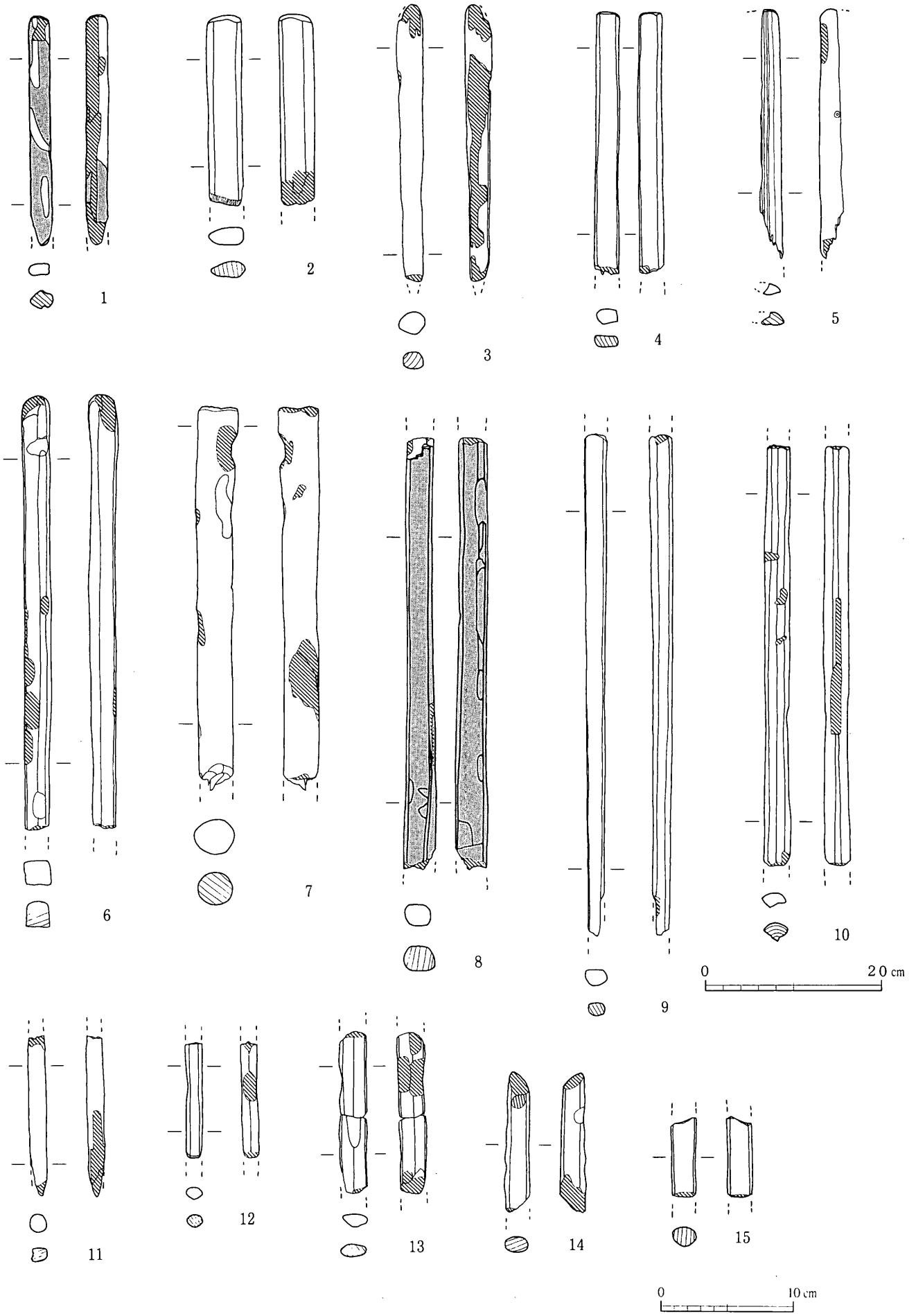
第55図　ＳＢ10出土木製品 (20)



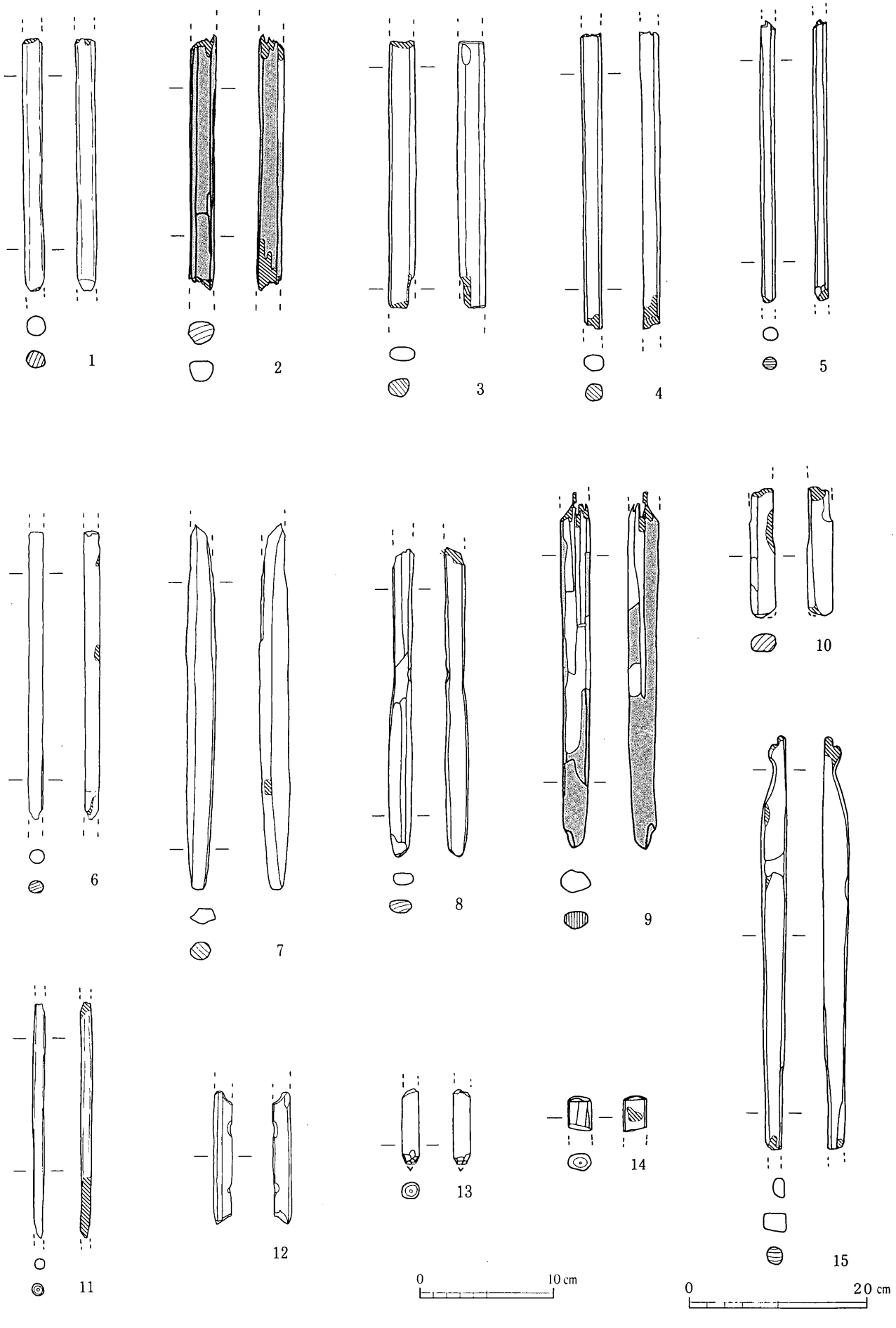
第56図　ＳＢ10出土木製品 (21)



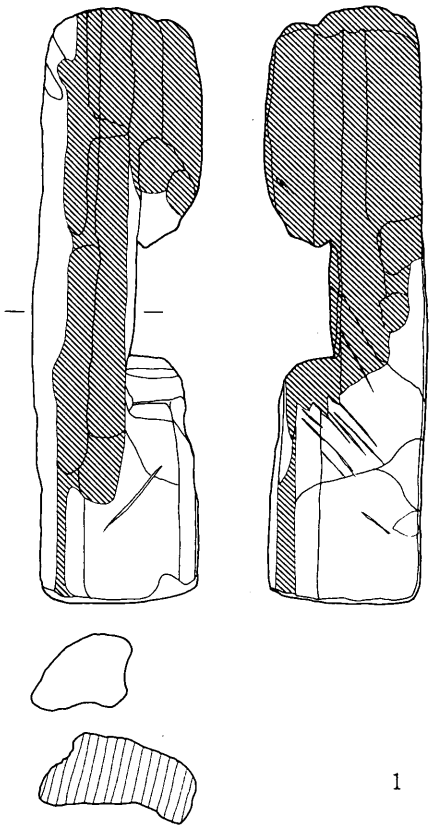
第57図　ＳＢ10出土木製品 (22)

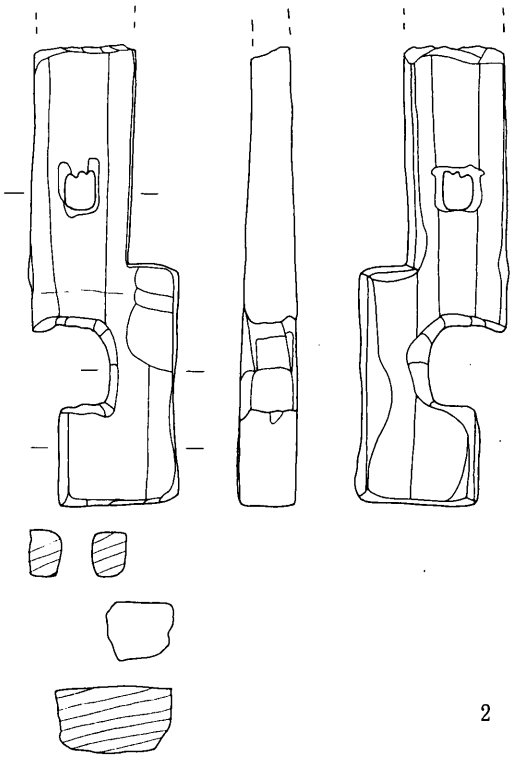


第58図　ＳＢ10出土木製品 (23)



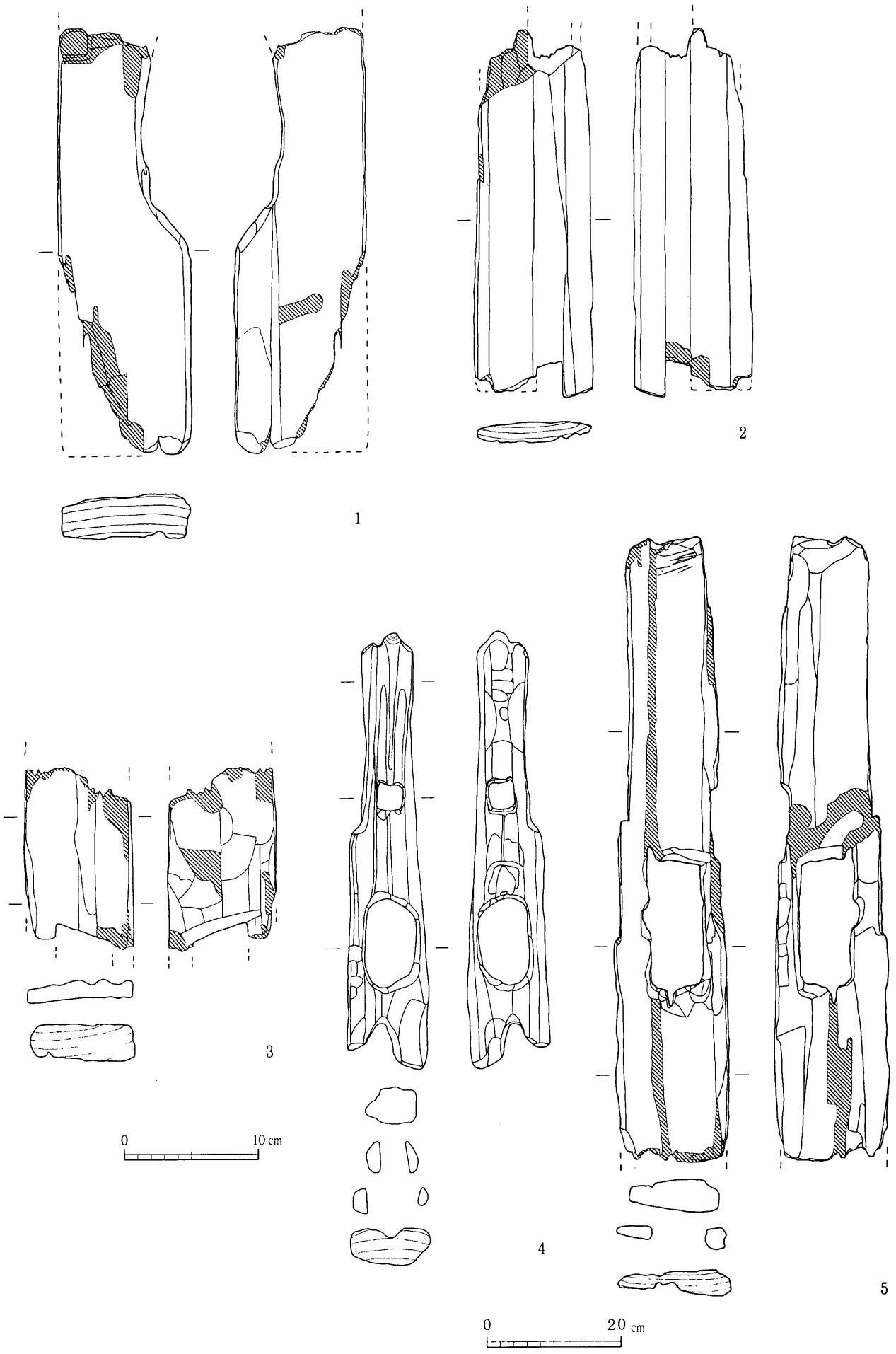
第59図　ＳＢ10出土木製品 (24)



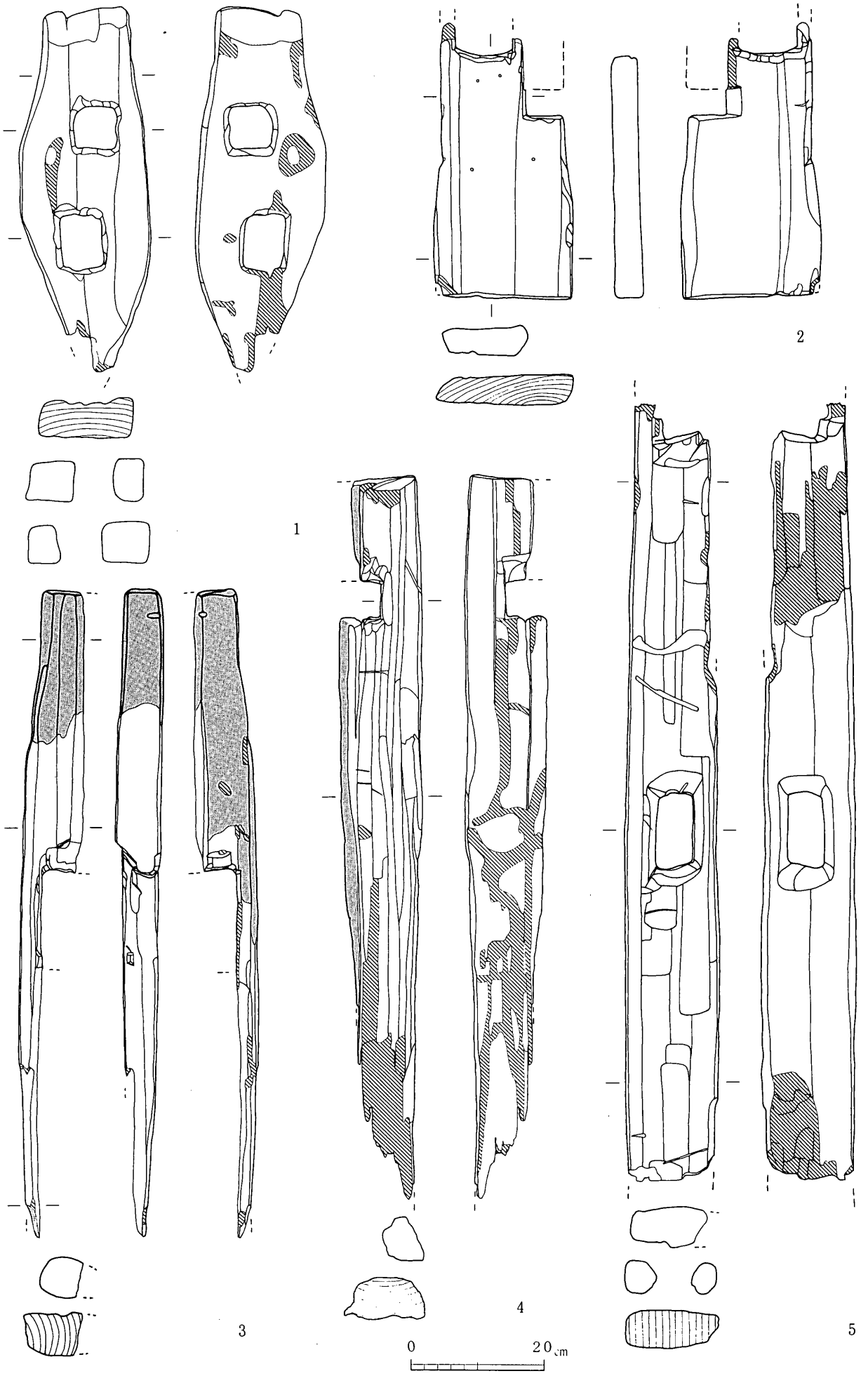


0 10 cm

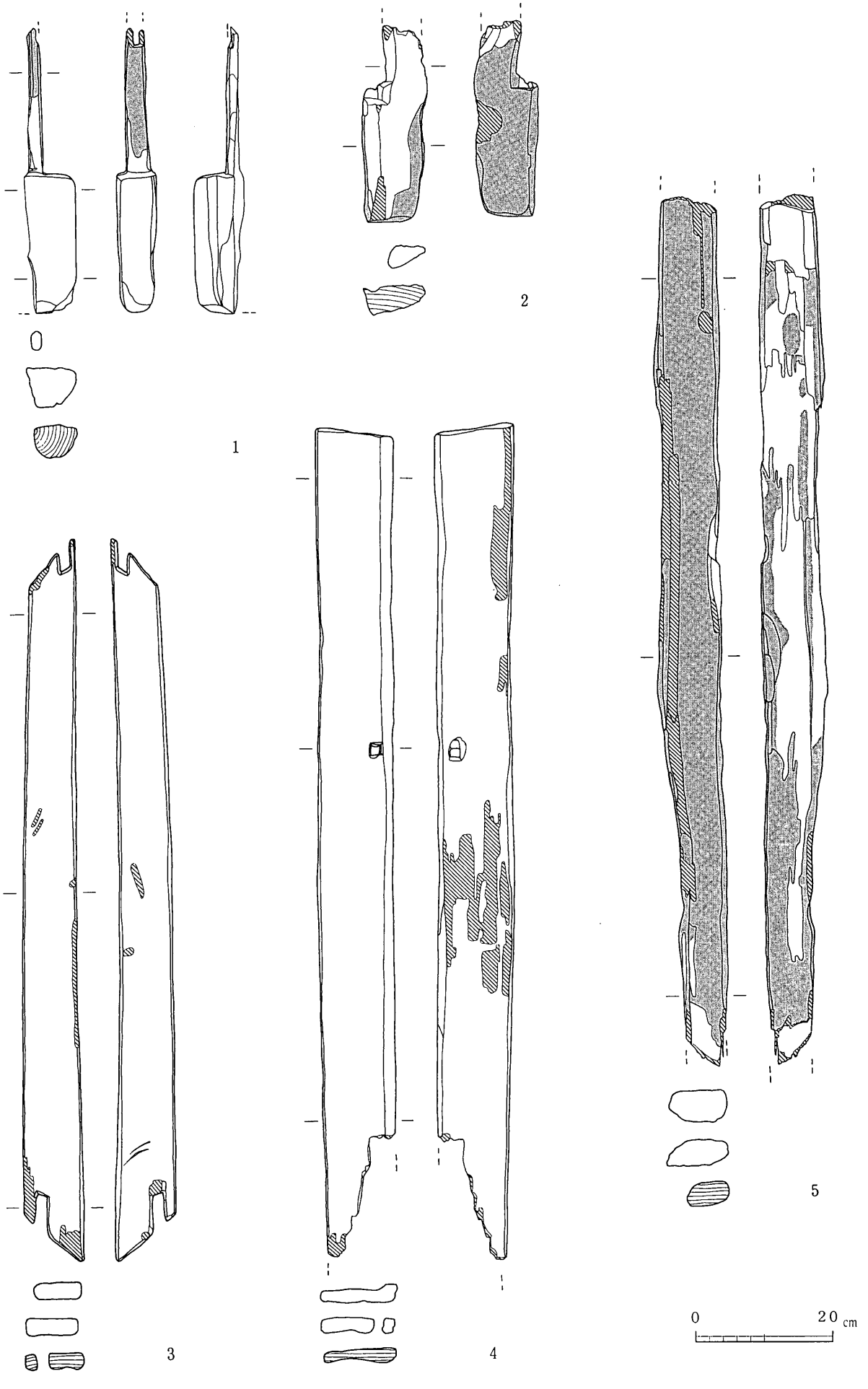
第60図　ＳＢ10出土木製品 (25)



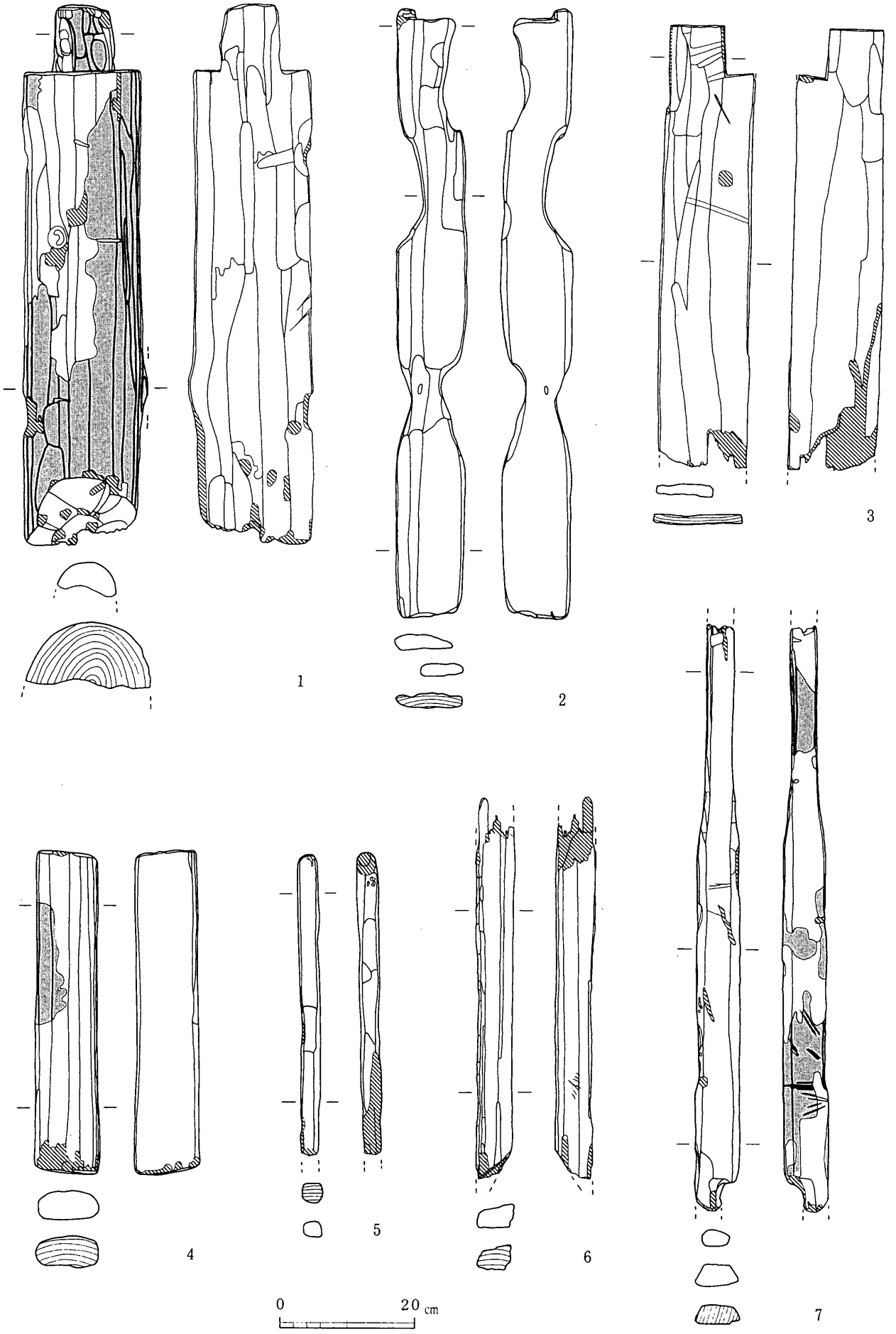
第61図　ＳＢ10出土木製品 (26)



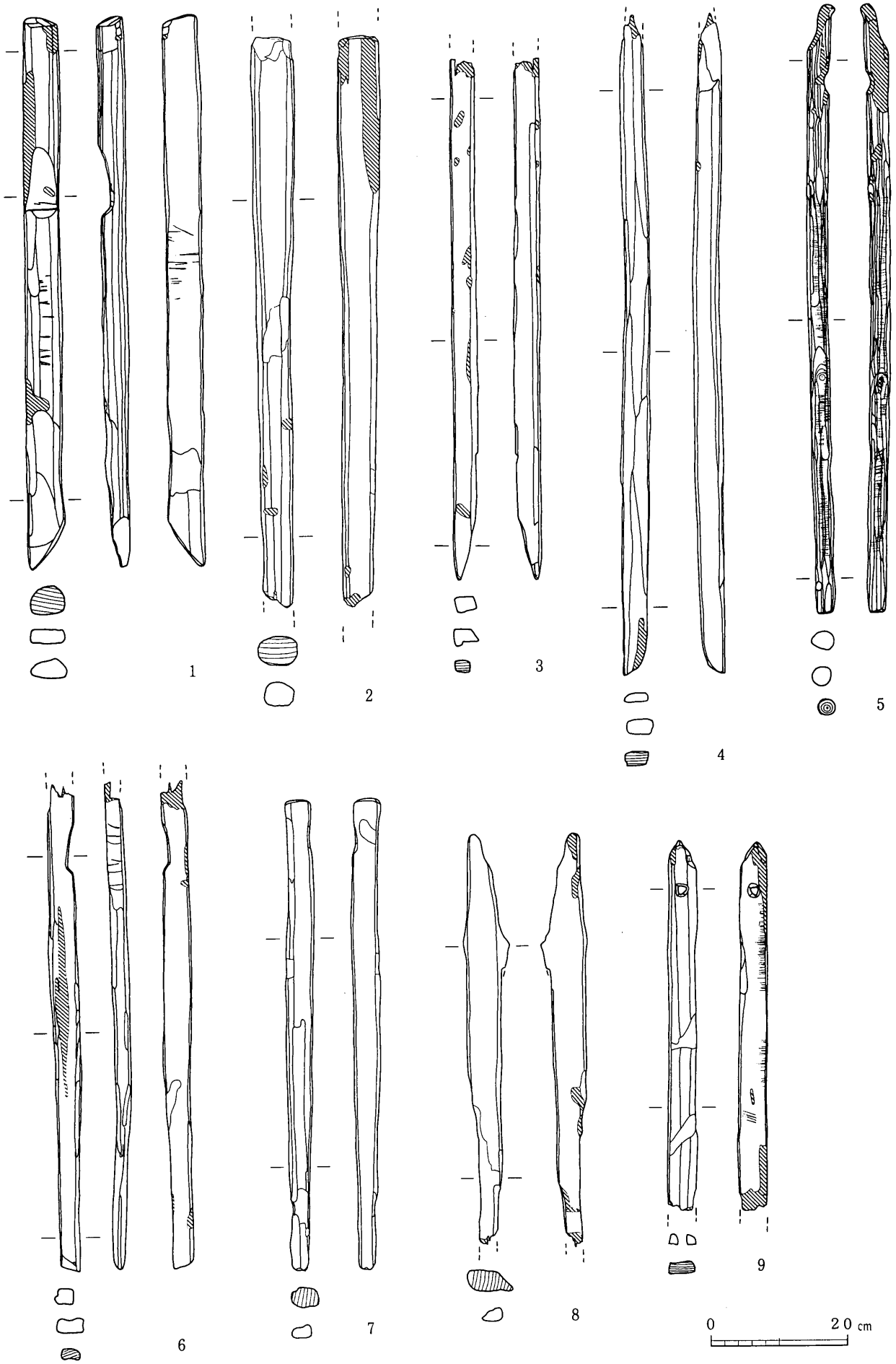
第62図　ＳＢ10出土木製品 (27)



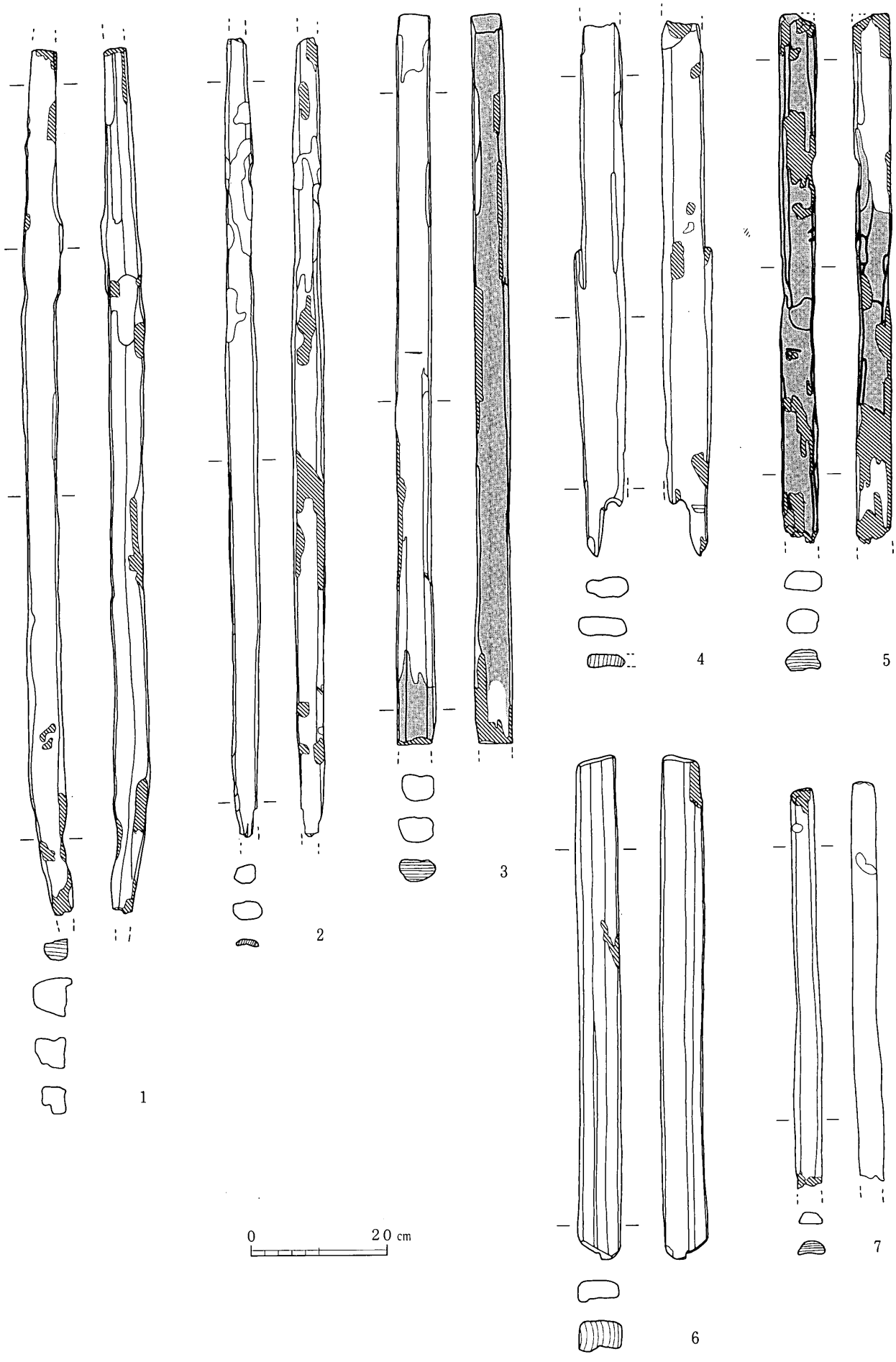
第63図　ＳＢ10出土木製品 (28)



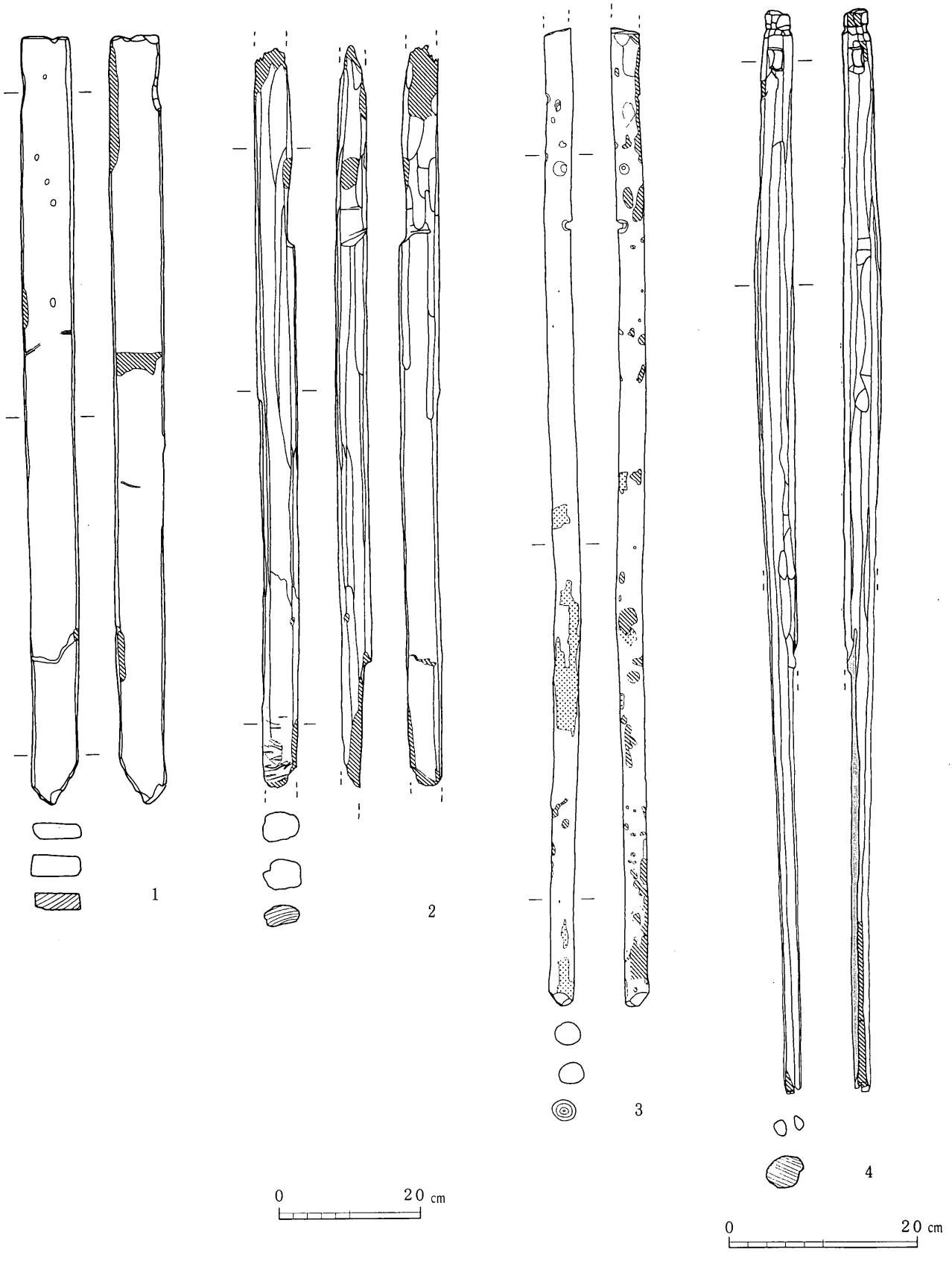
第64図　ＳＢ10出土木製品 (29)



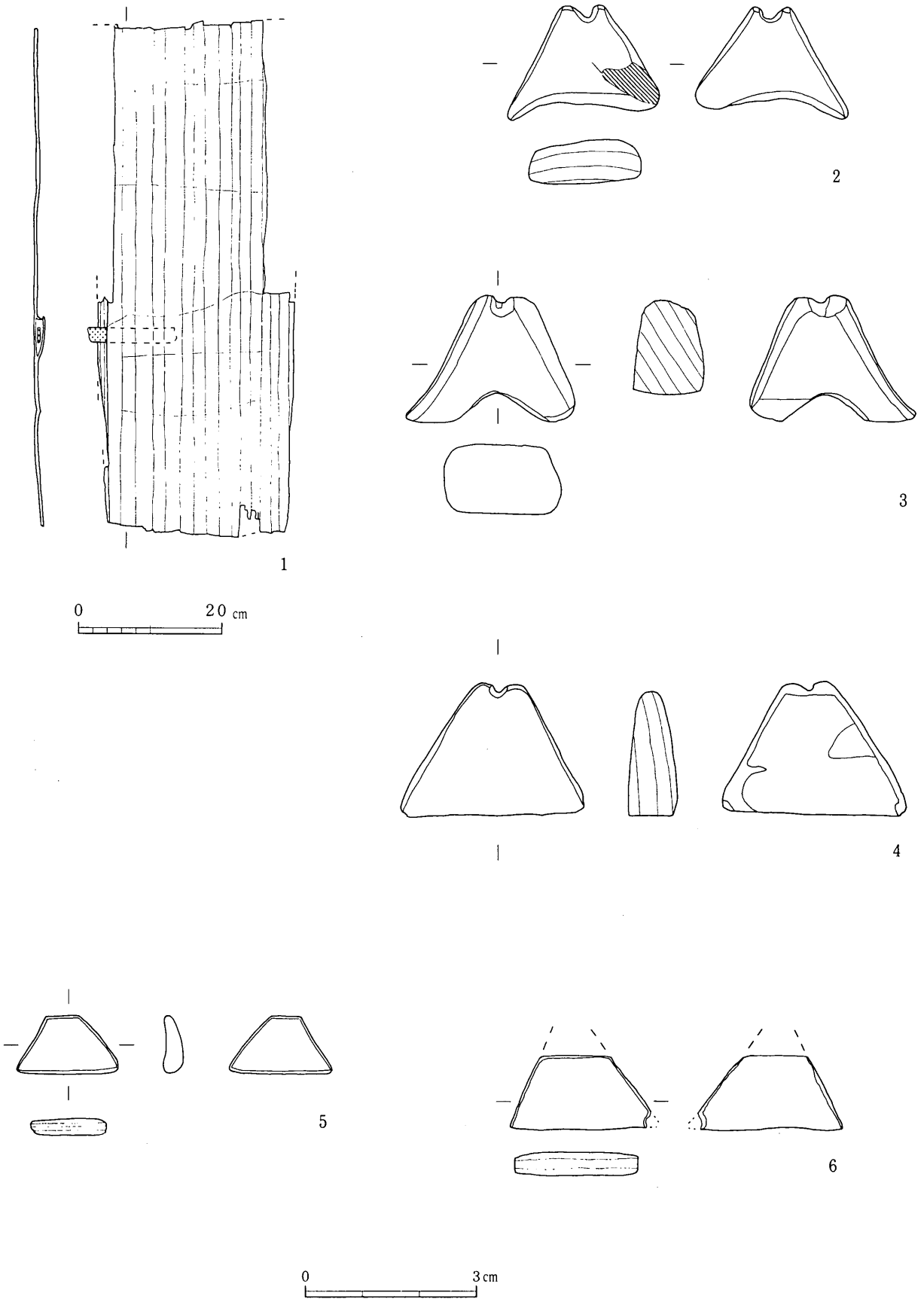
第65図　ＳＢ10出土木製品 (30)



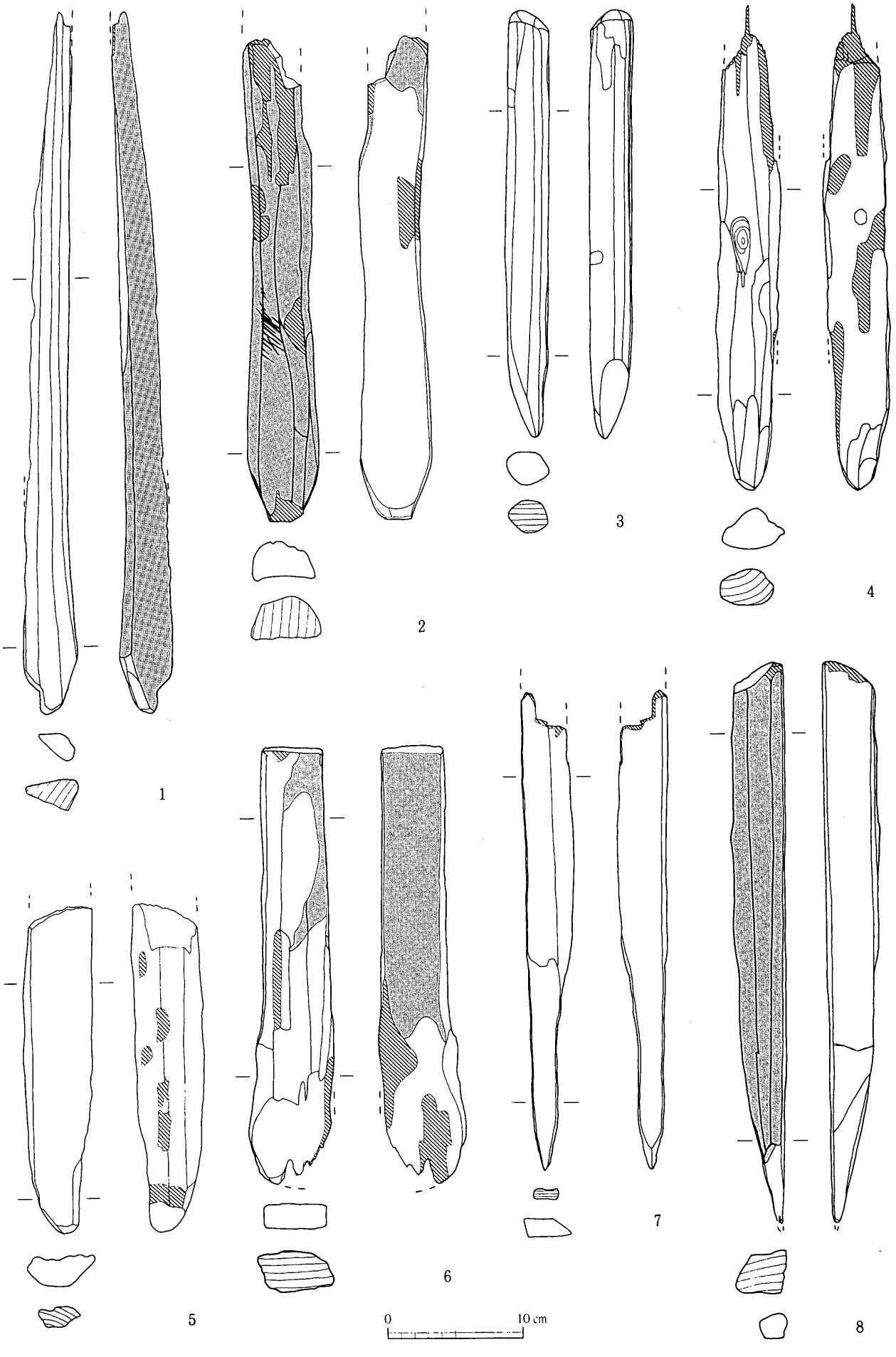
第66図　ＳＢ10出土木製品 (31)



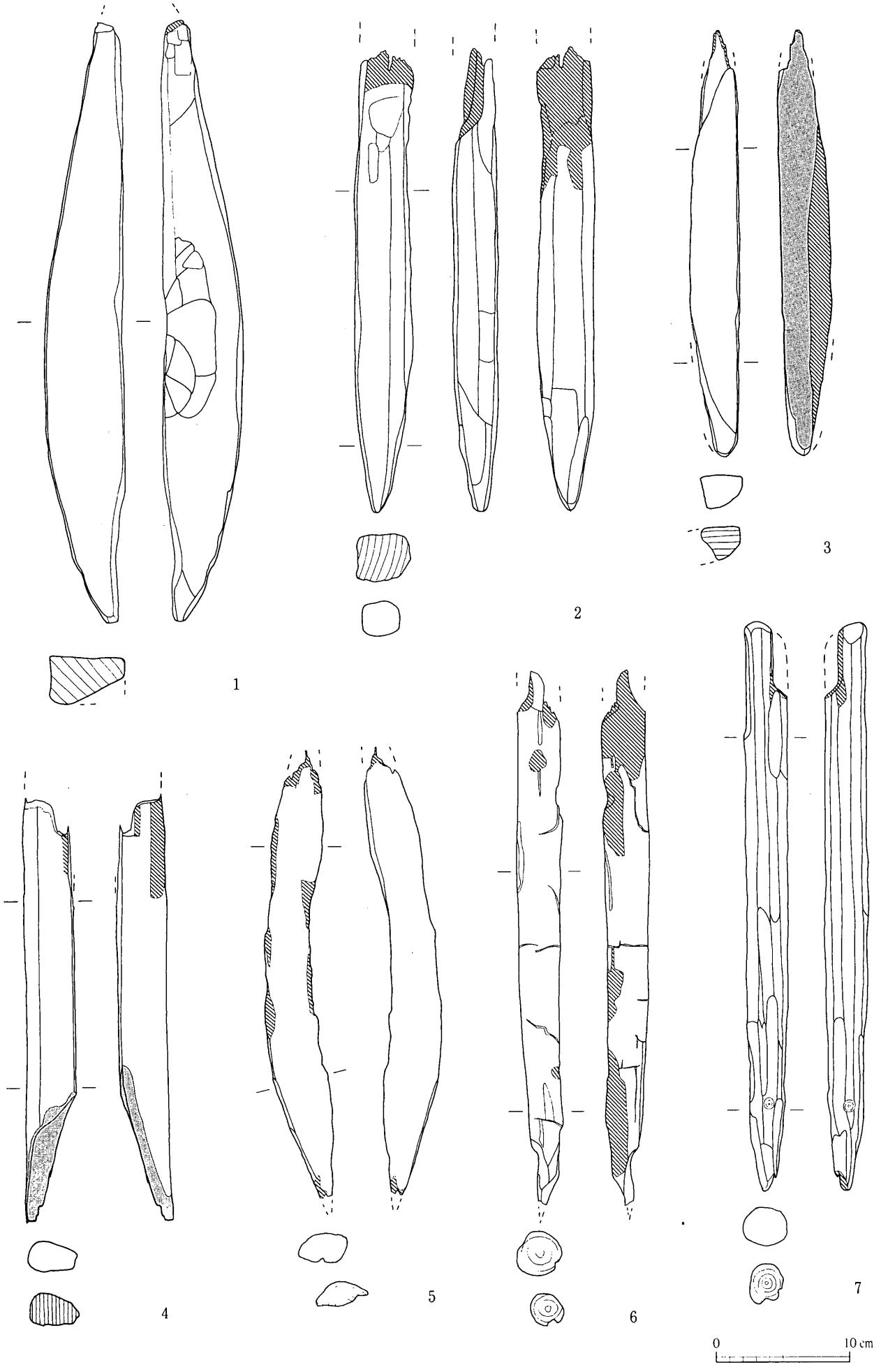
第67図　ＳＢ10出土木製品 (32)



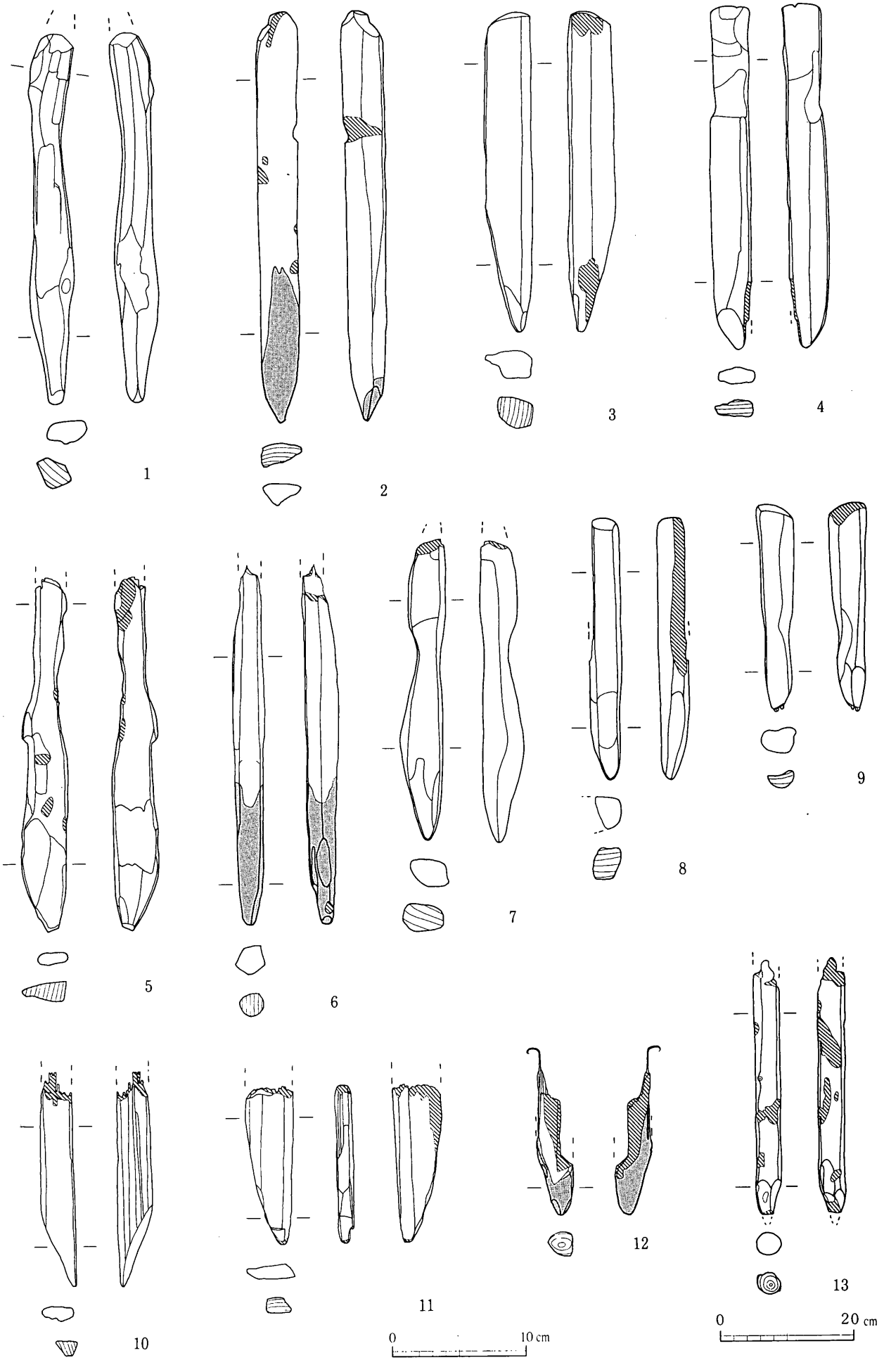
第68図　ＳＢ10出土木製品 (33)



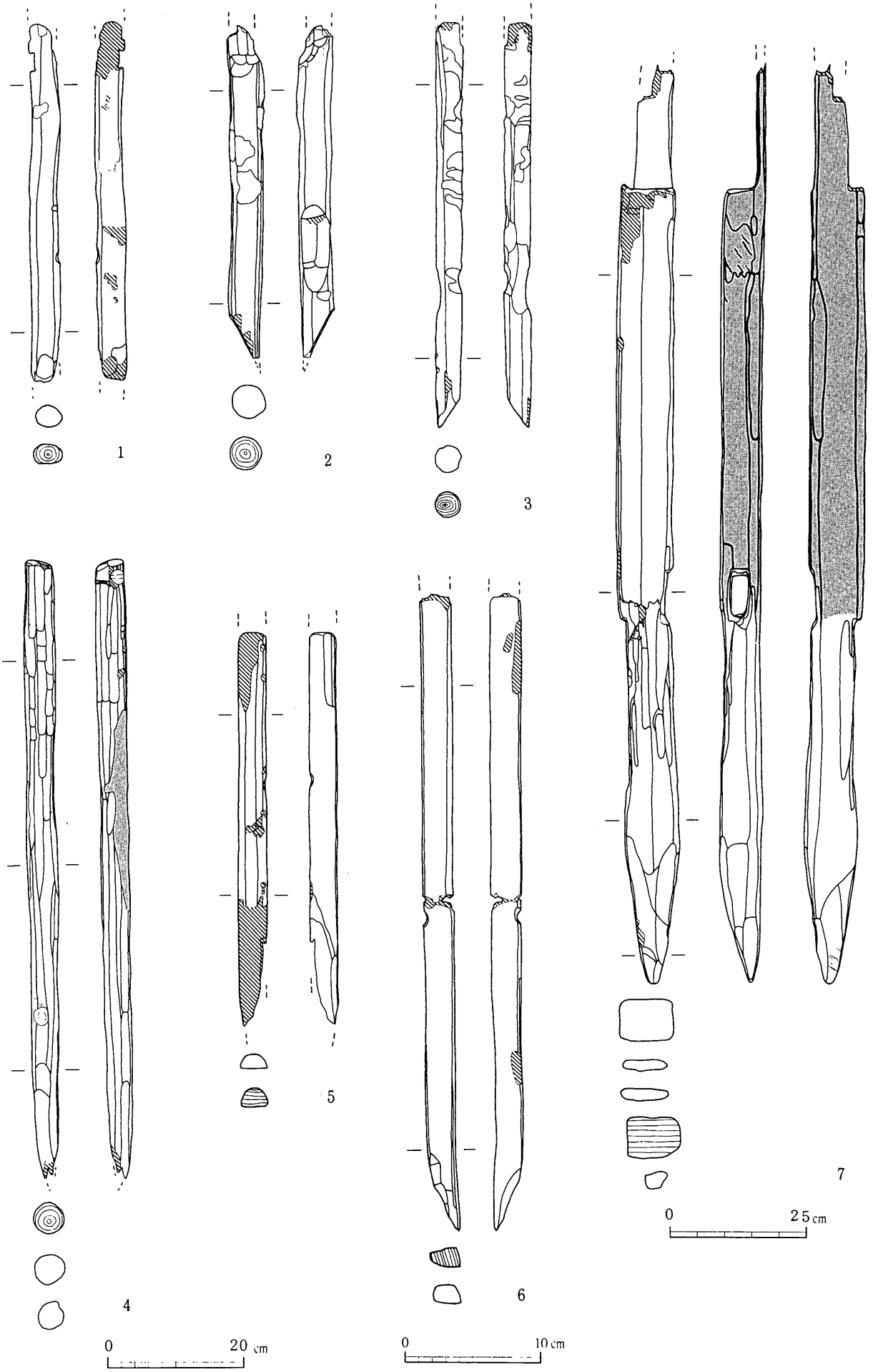
第69図　ＳＢ10出土木製品 (34)



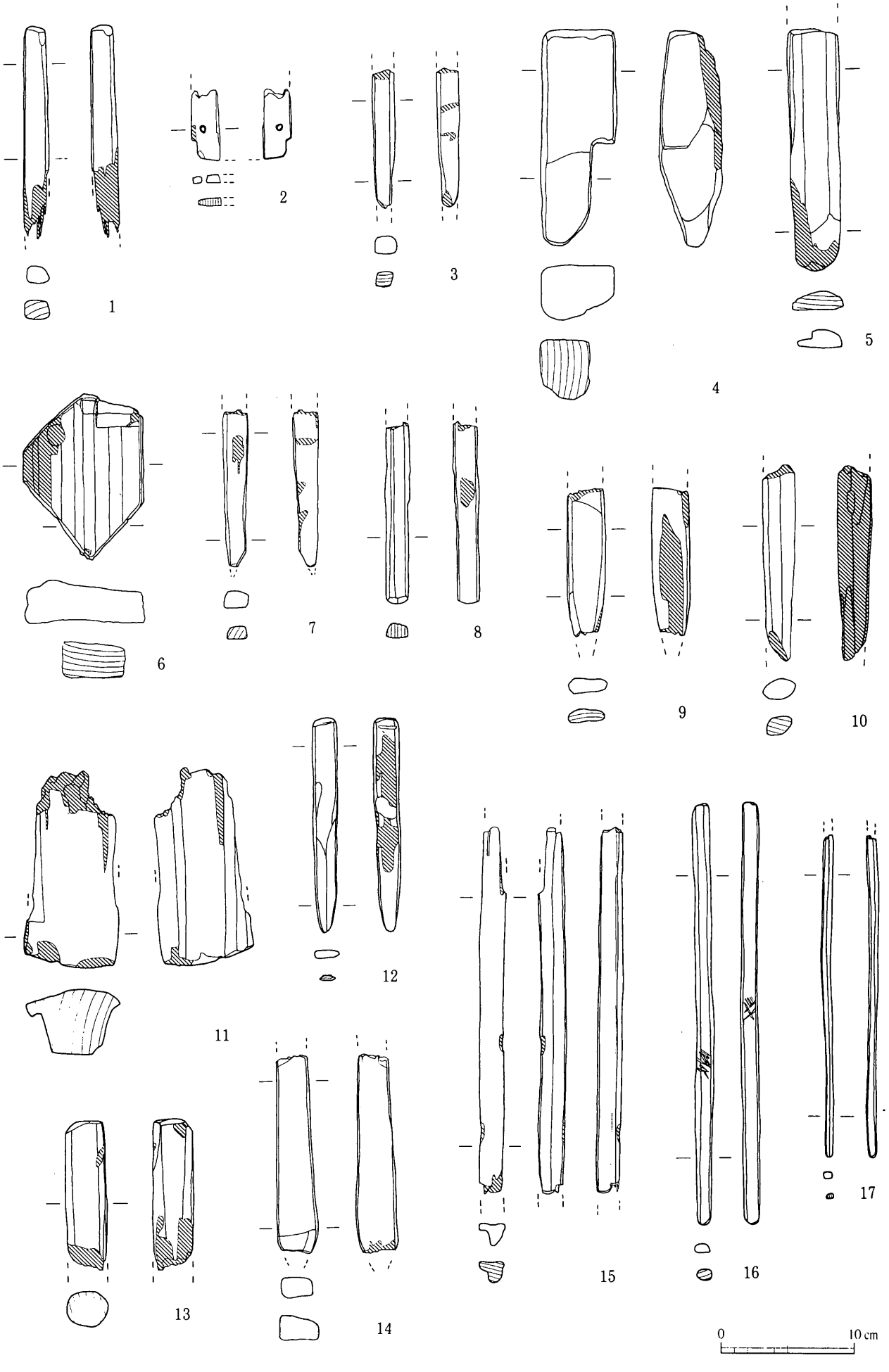
第70図　ＳＢ10出土木製品 (35)



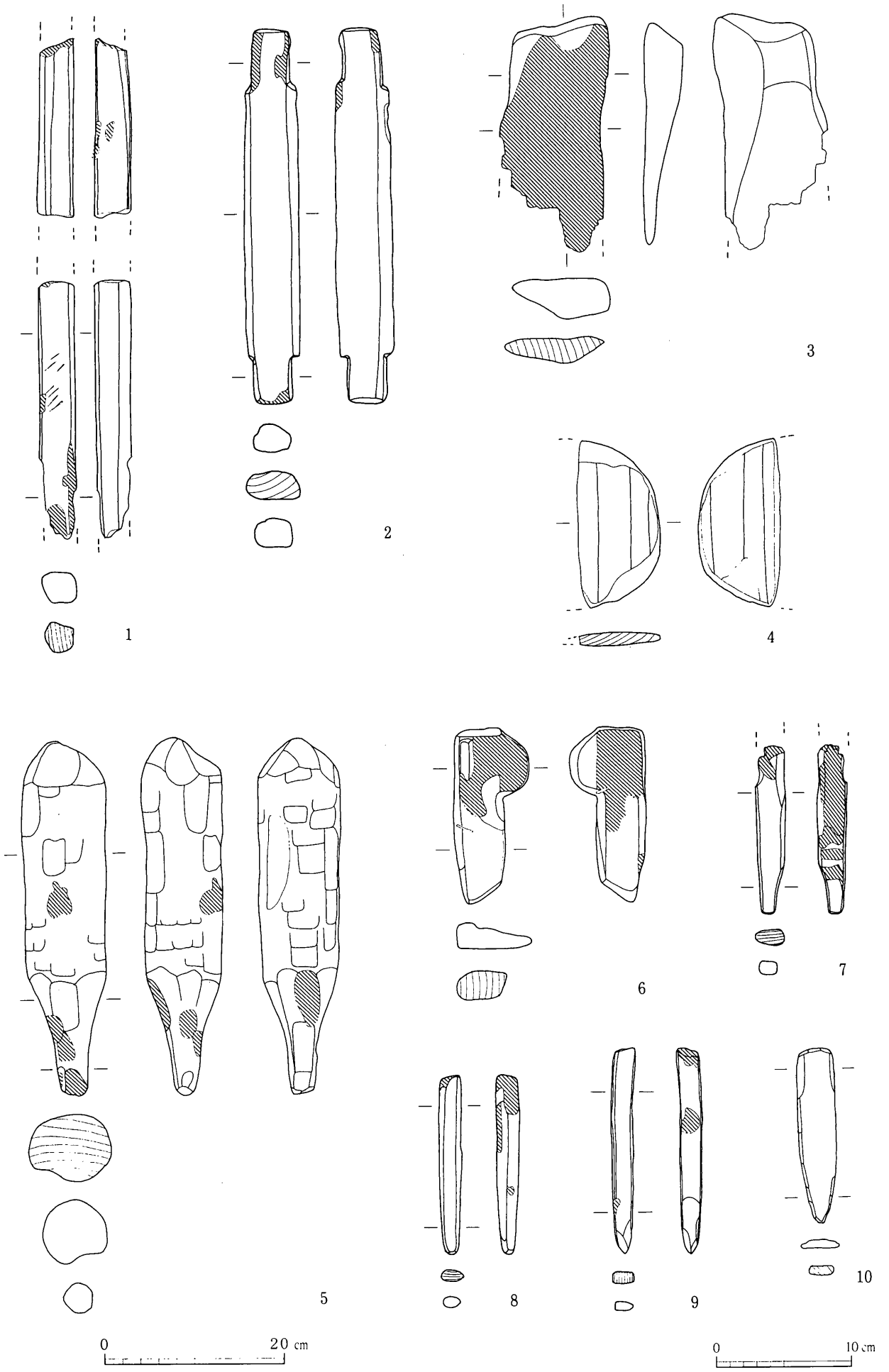
第71図　ＳＢ10出土木製品 (36)



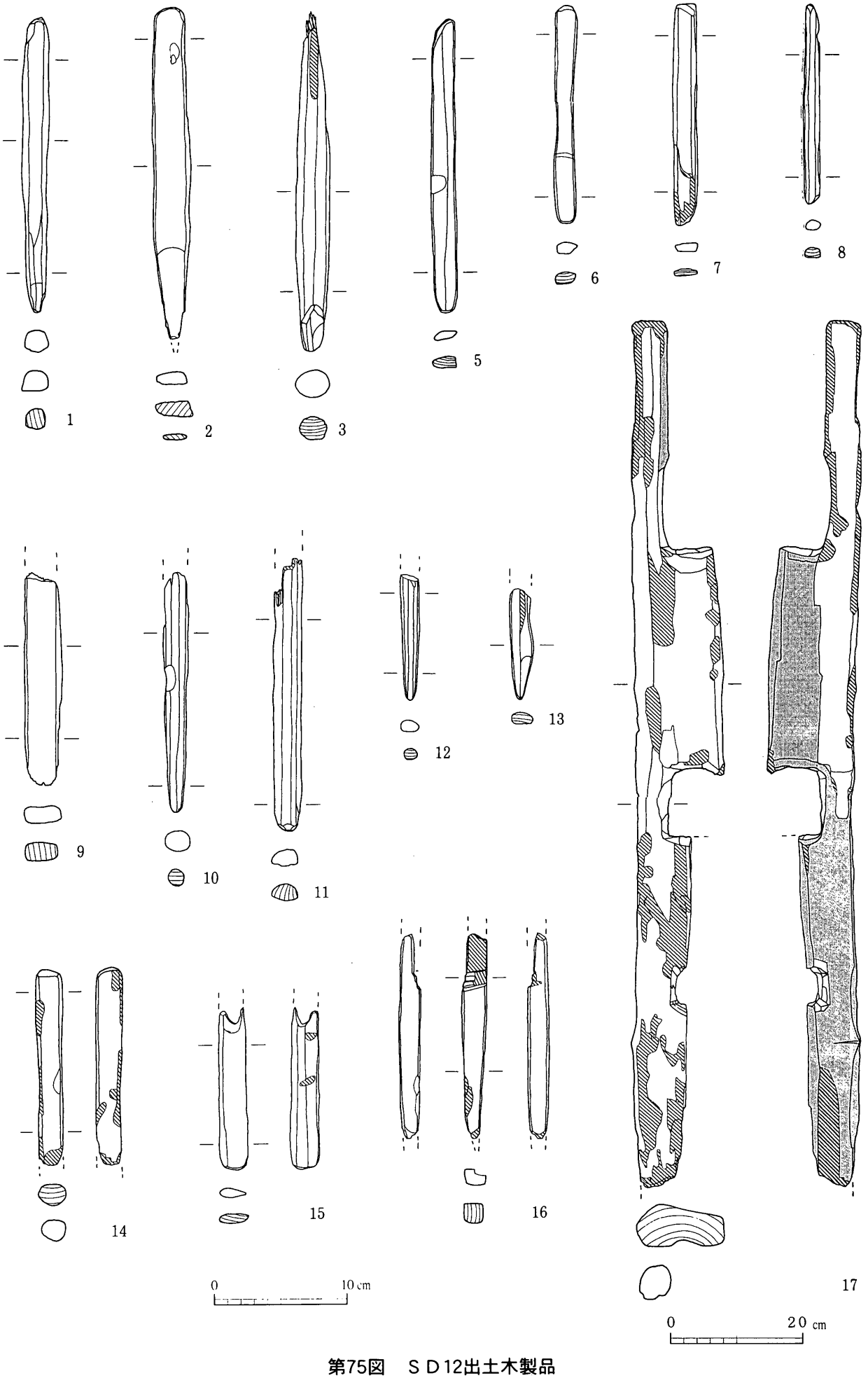
第72図　ＳＢ10出土木製品 (37)



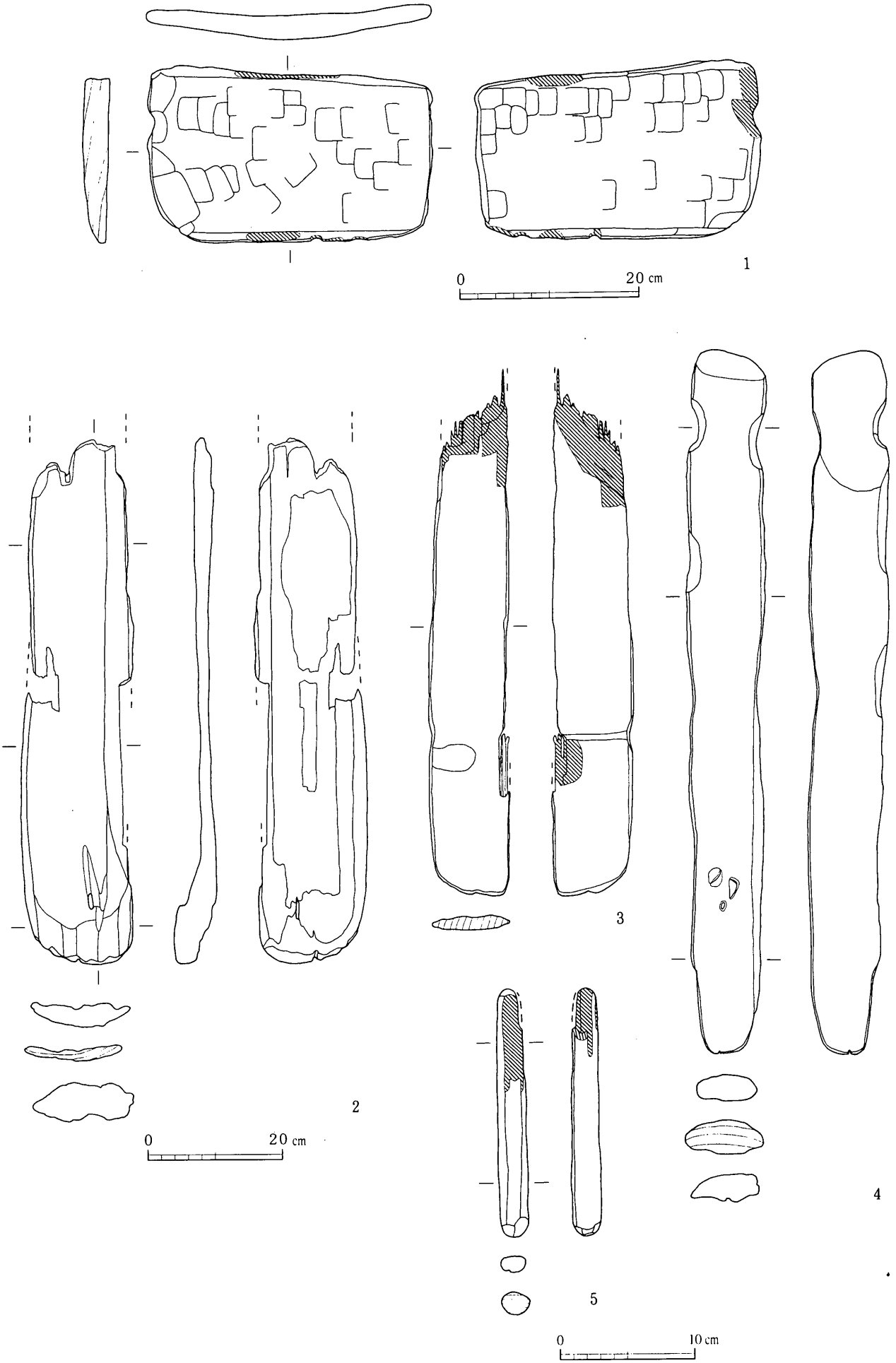
第73図　ＳＢ21、ＳＫ09、ＳＫ12、ＳＫ18出土木製品



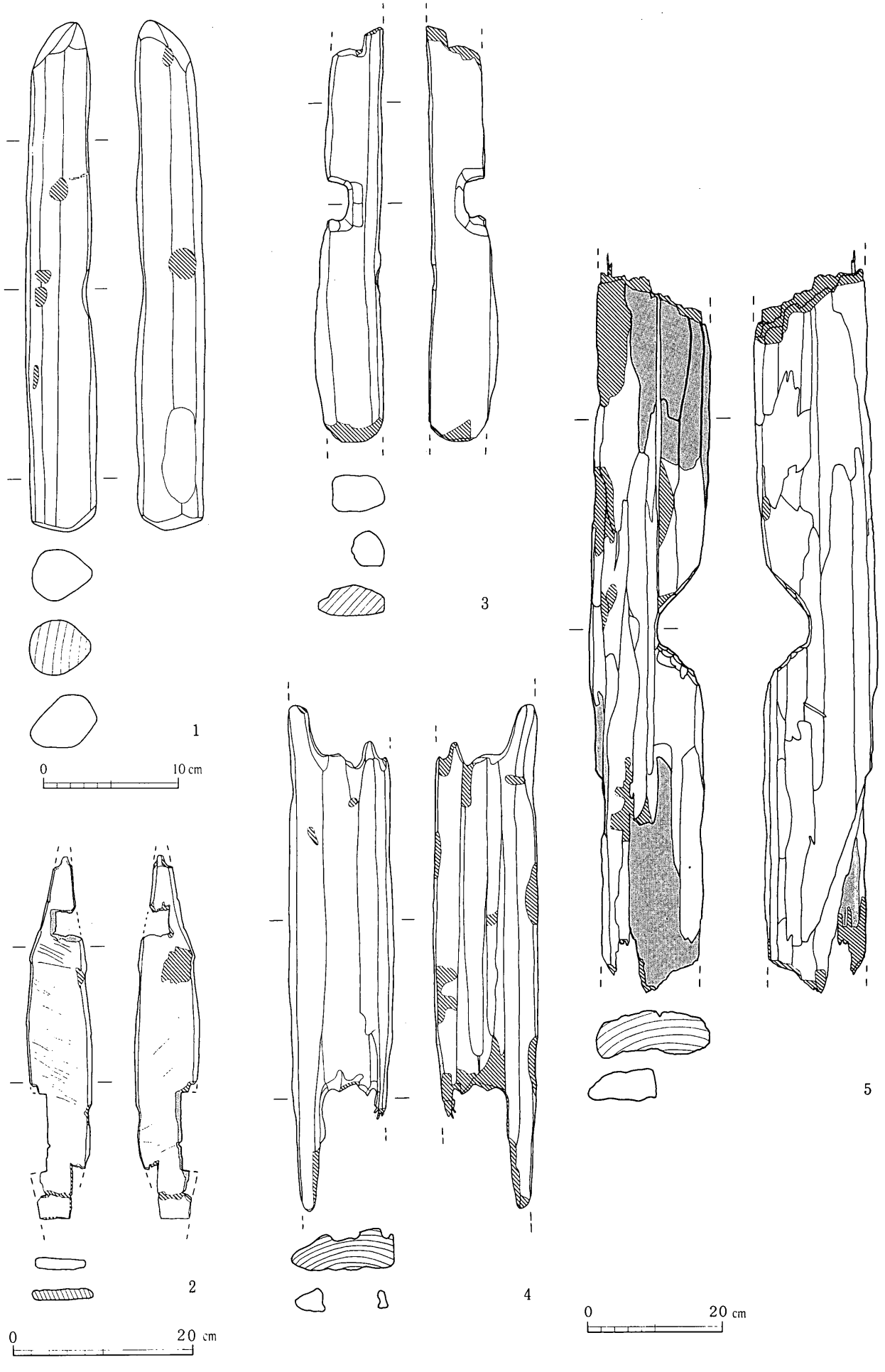
第74図　ＳＢ27、ＳＤ11、ＳＤ12出土木製品



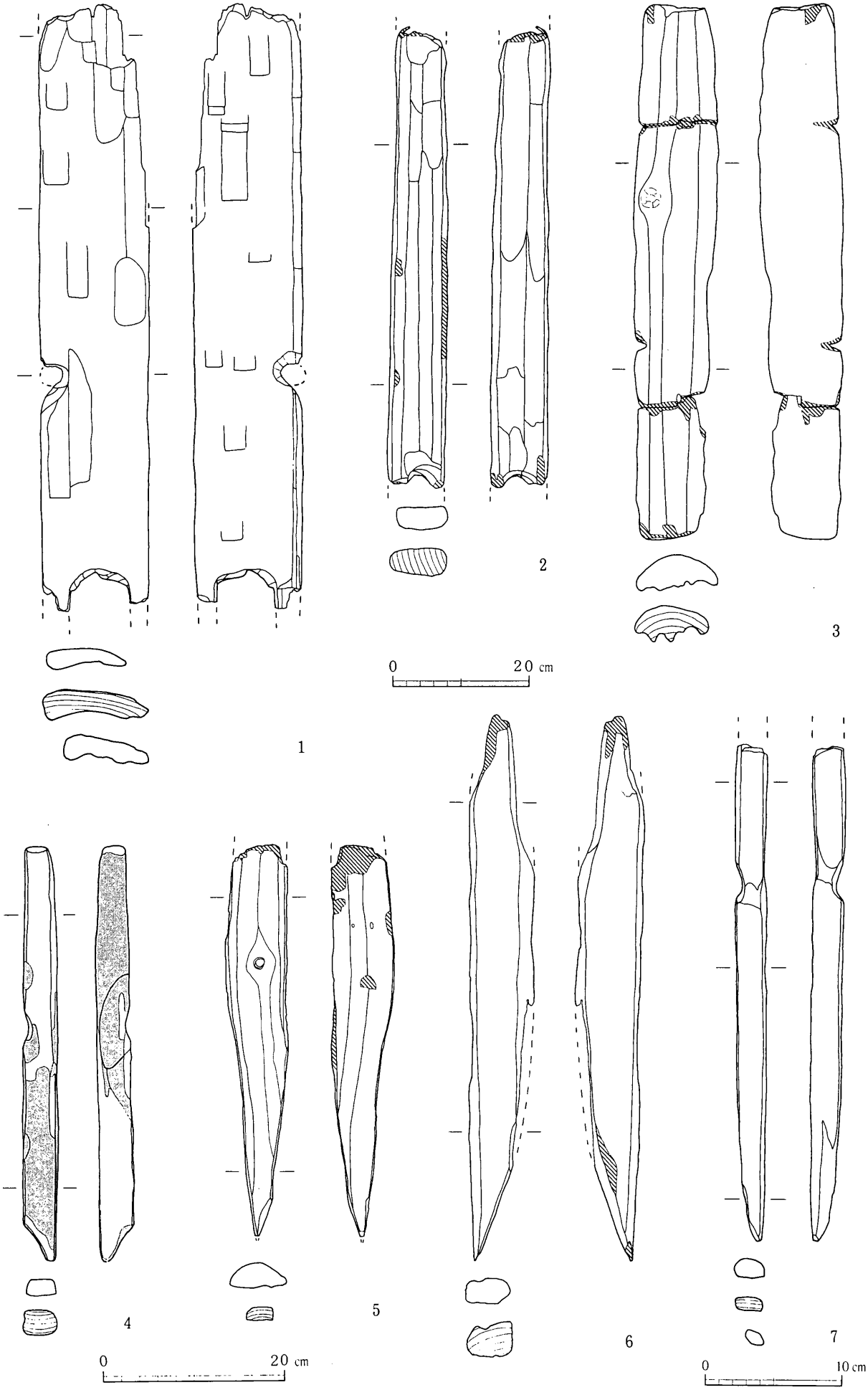
第75図　ＳＤ12出土木製品



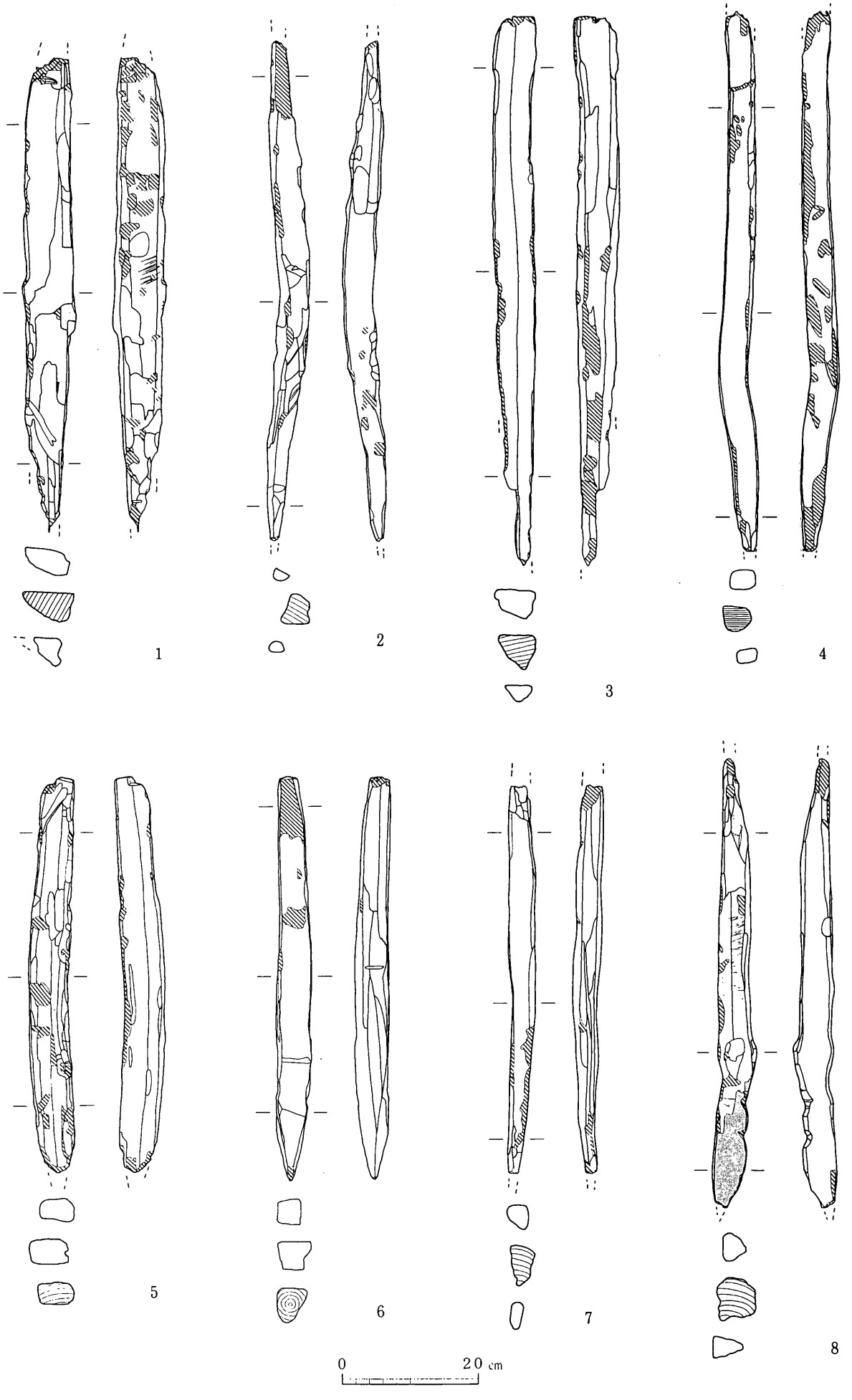
第76図　ＳＤ13出土木製品 (1)



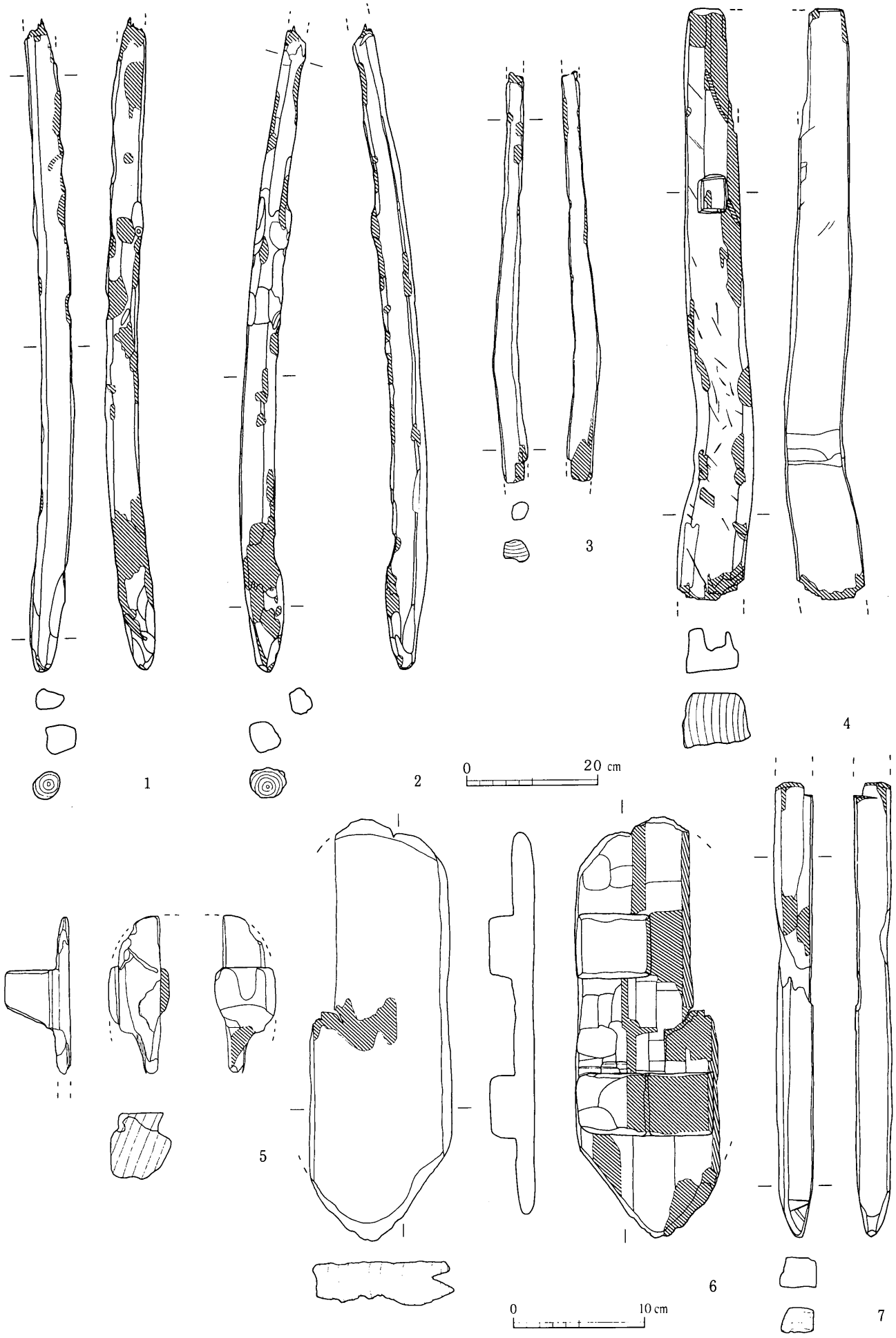
第77図　ＳＤ13出土木製品 (2)



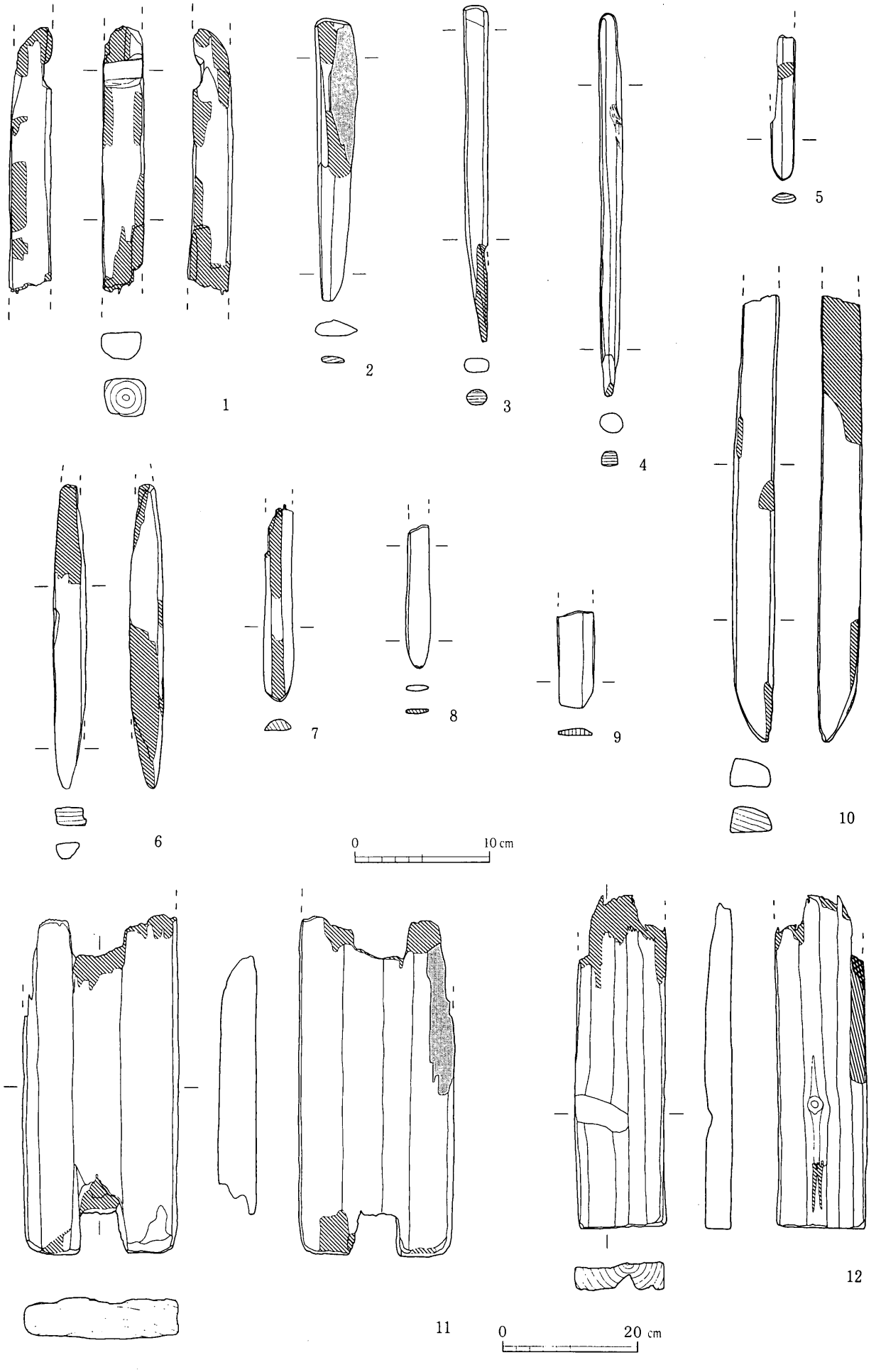
第78図　ＳＤ13出土木製品 (3)



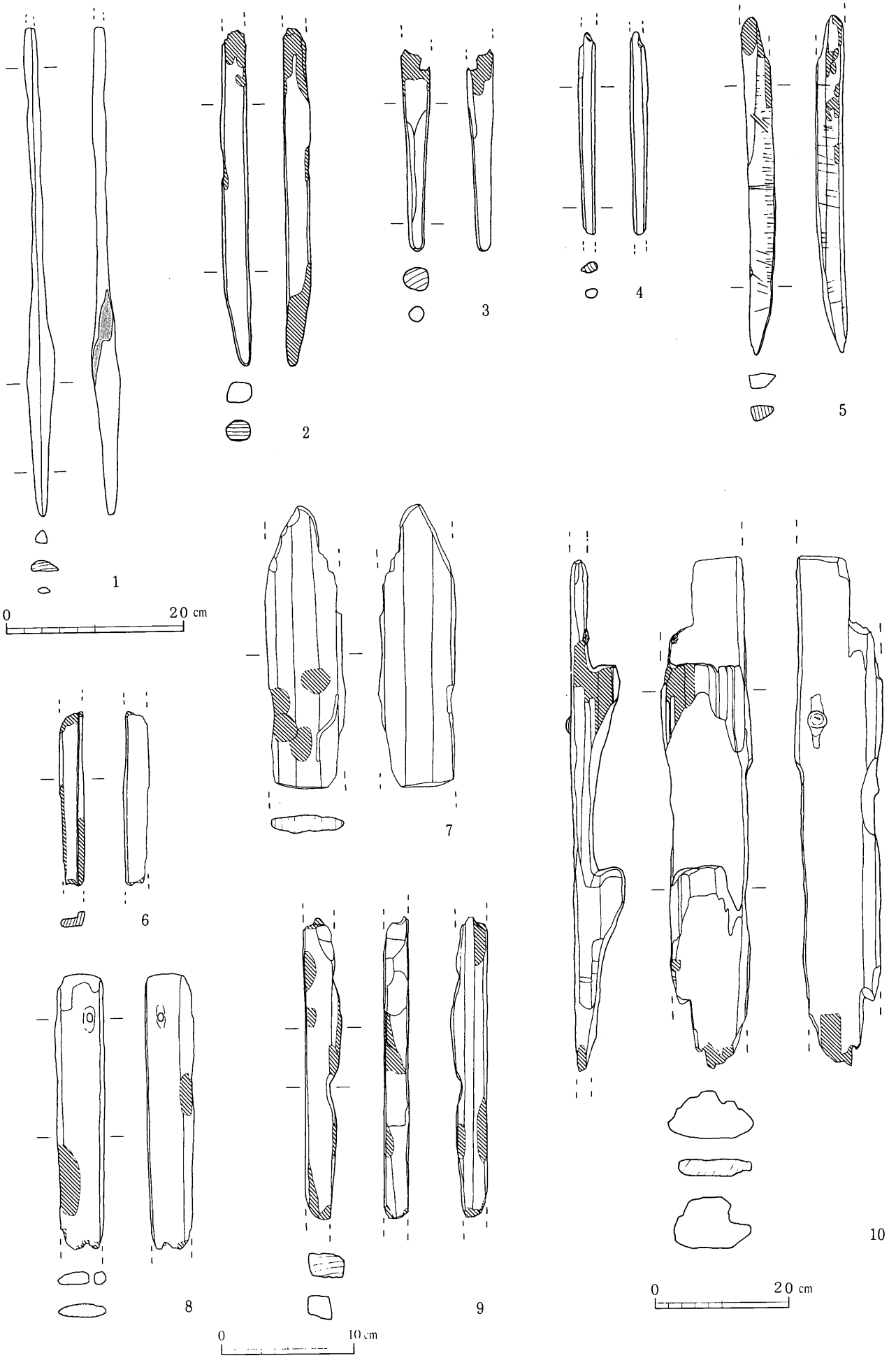
第79図　ＳＤ13出土木製品 (4)



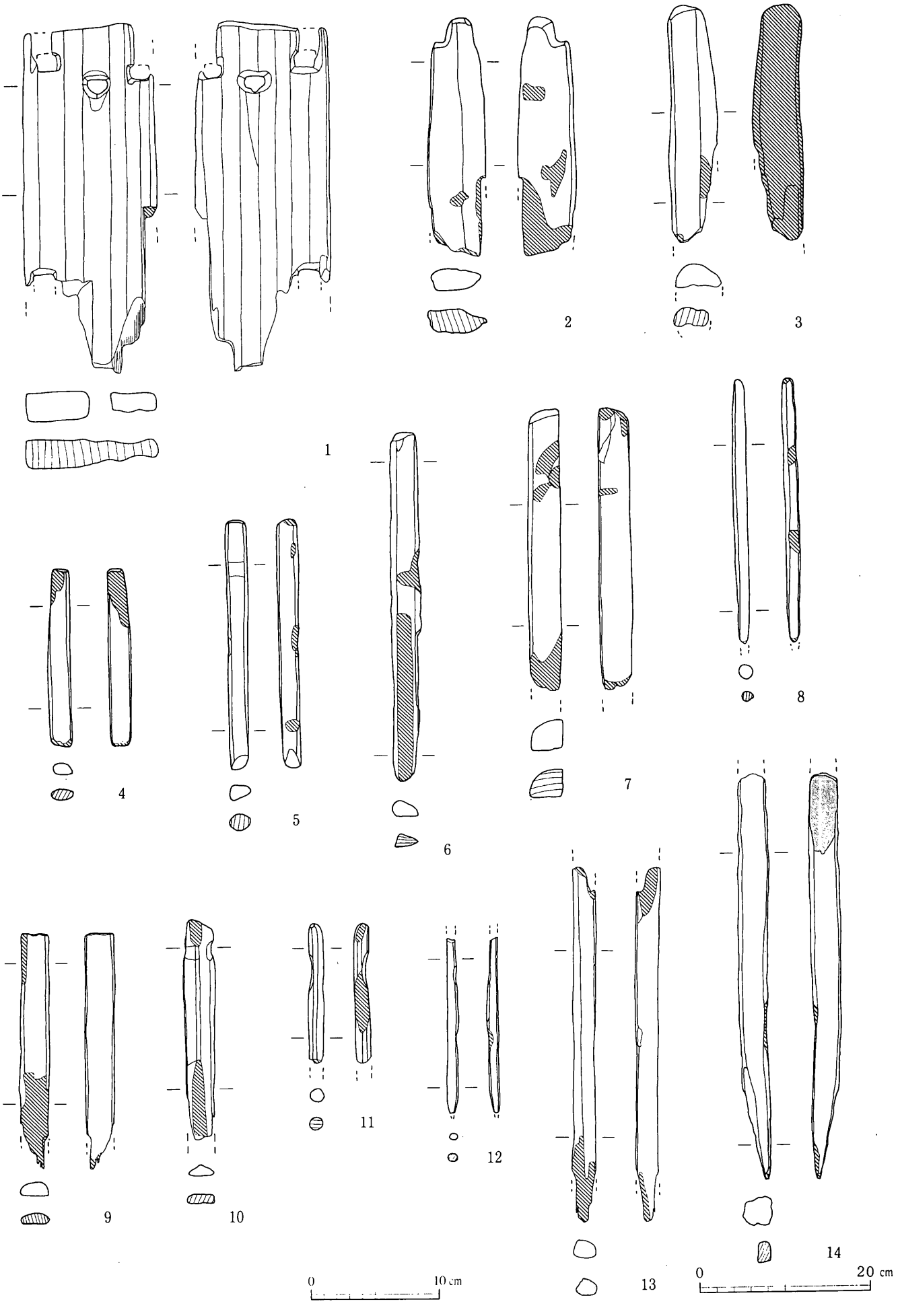
第80図　ＳＤ13、ＳＸ04、ＳＸ06出土木製品



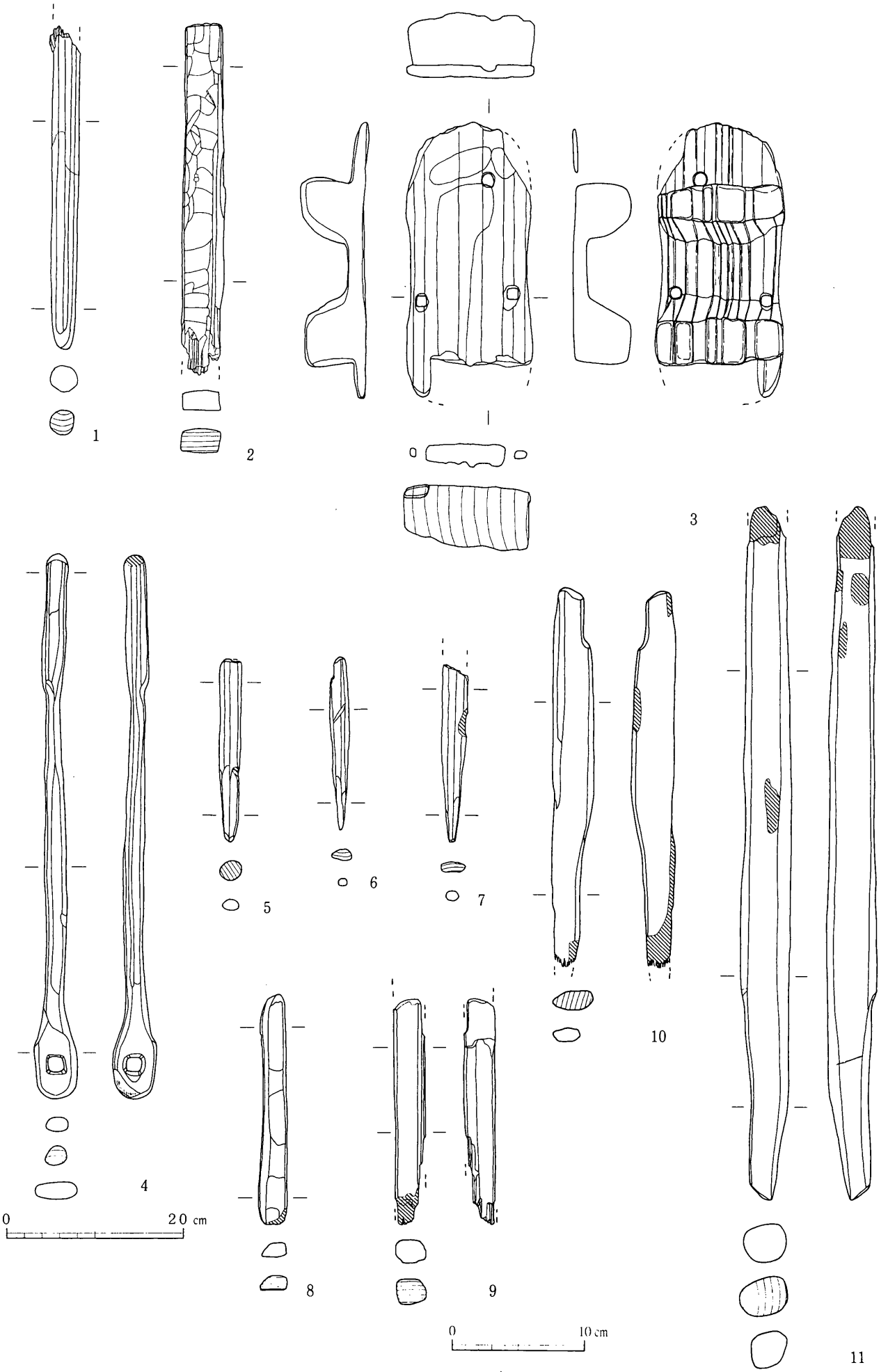
第81図　ＳＤ14出土木製品



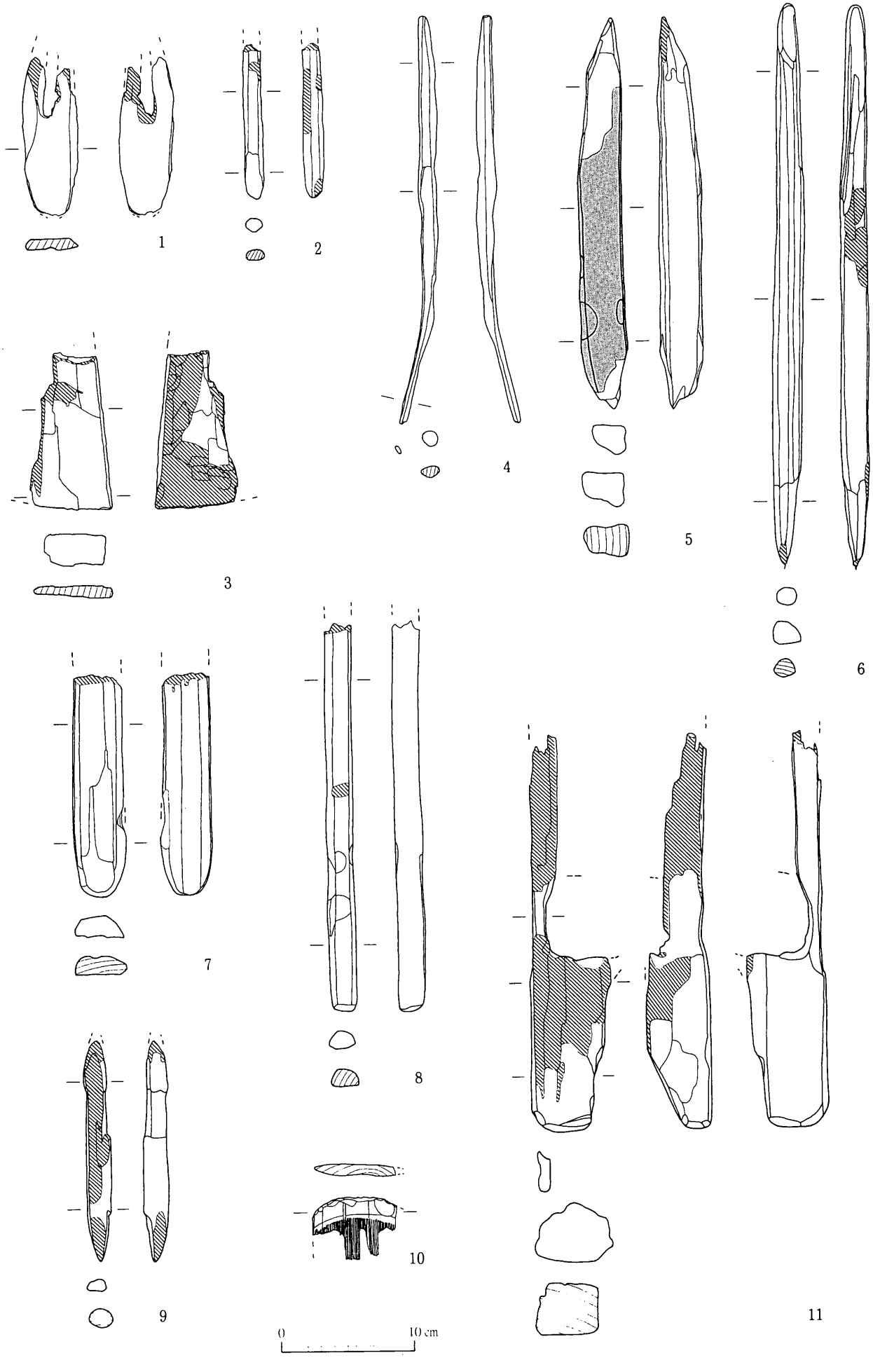
第82図　ＳＤ15、ＳＤ16出土木製品



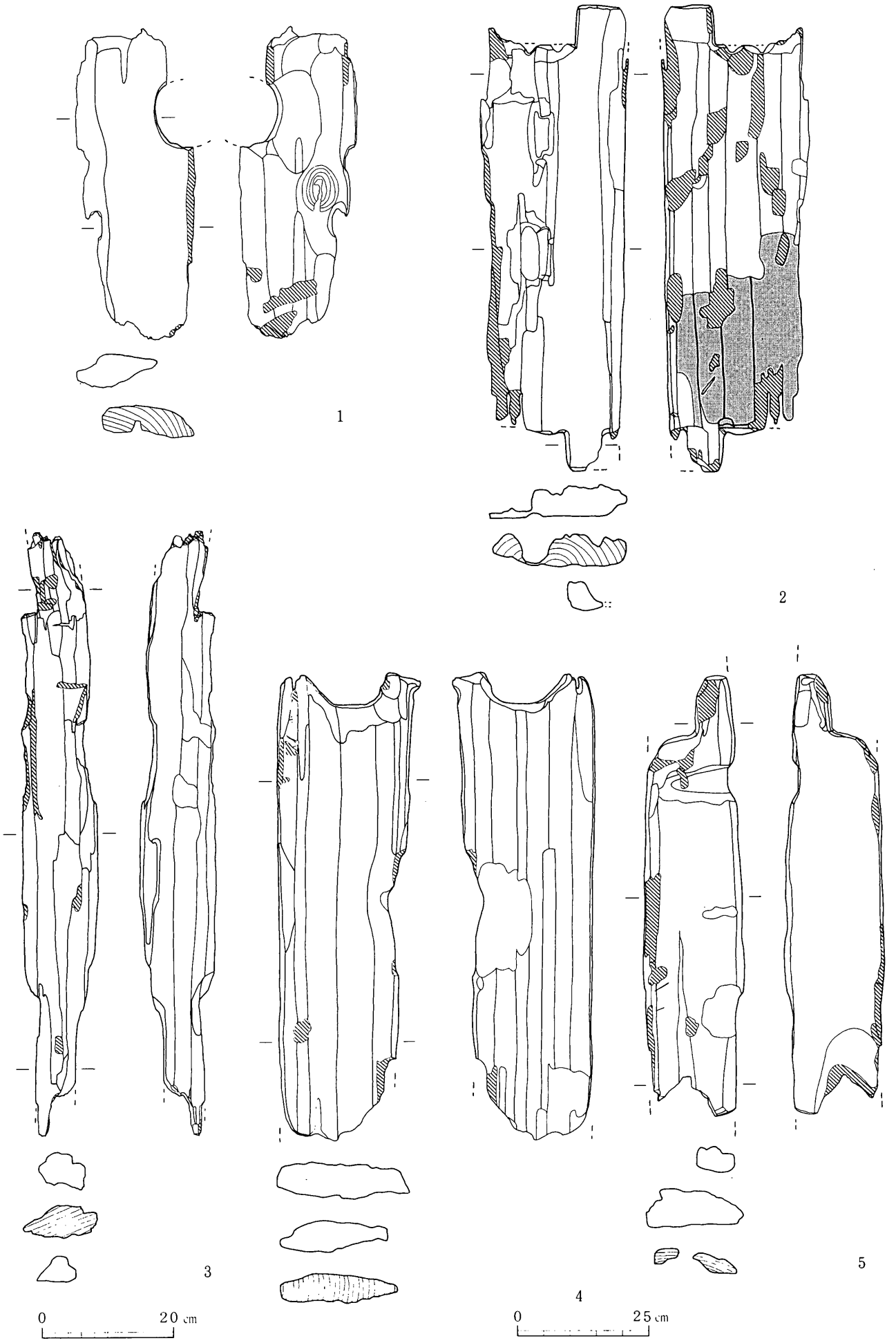
第83図　ＳＤ18出土木製品



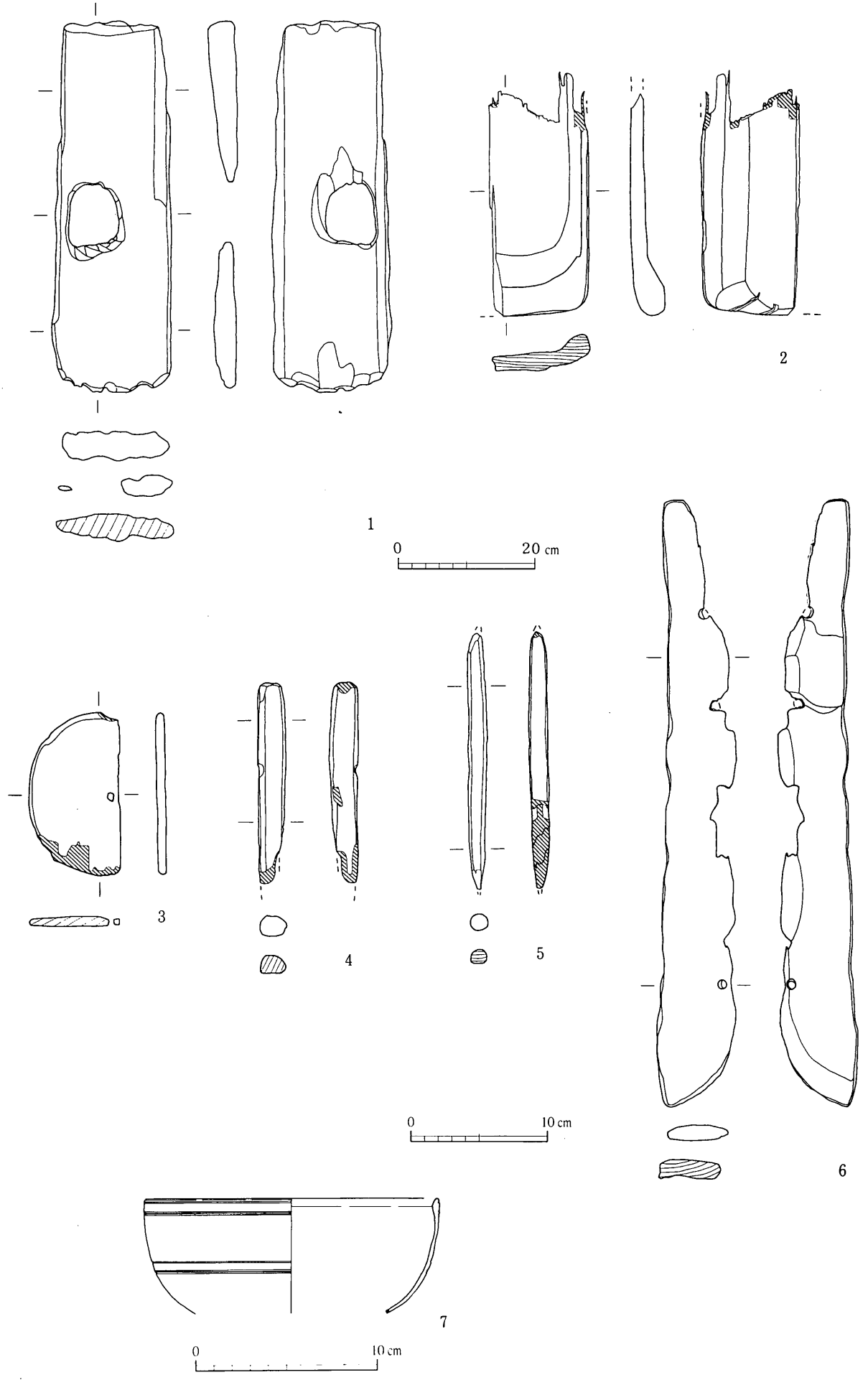
第84図　ＳＤ19、ＳＤ20、ＳＤ24出土木製品



第85図　ＳＤ30、ＳＤ33、ＳＤ50、ＳＩ01出土木製品



第86図　ＳＩ01出土木製品



第87図　周辺柱穴および遺構外出土木製品、銅鋺

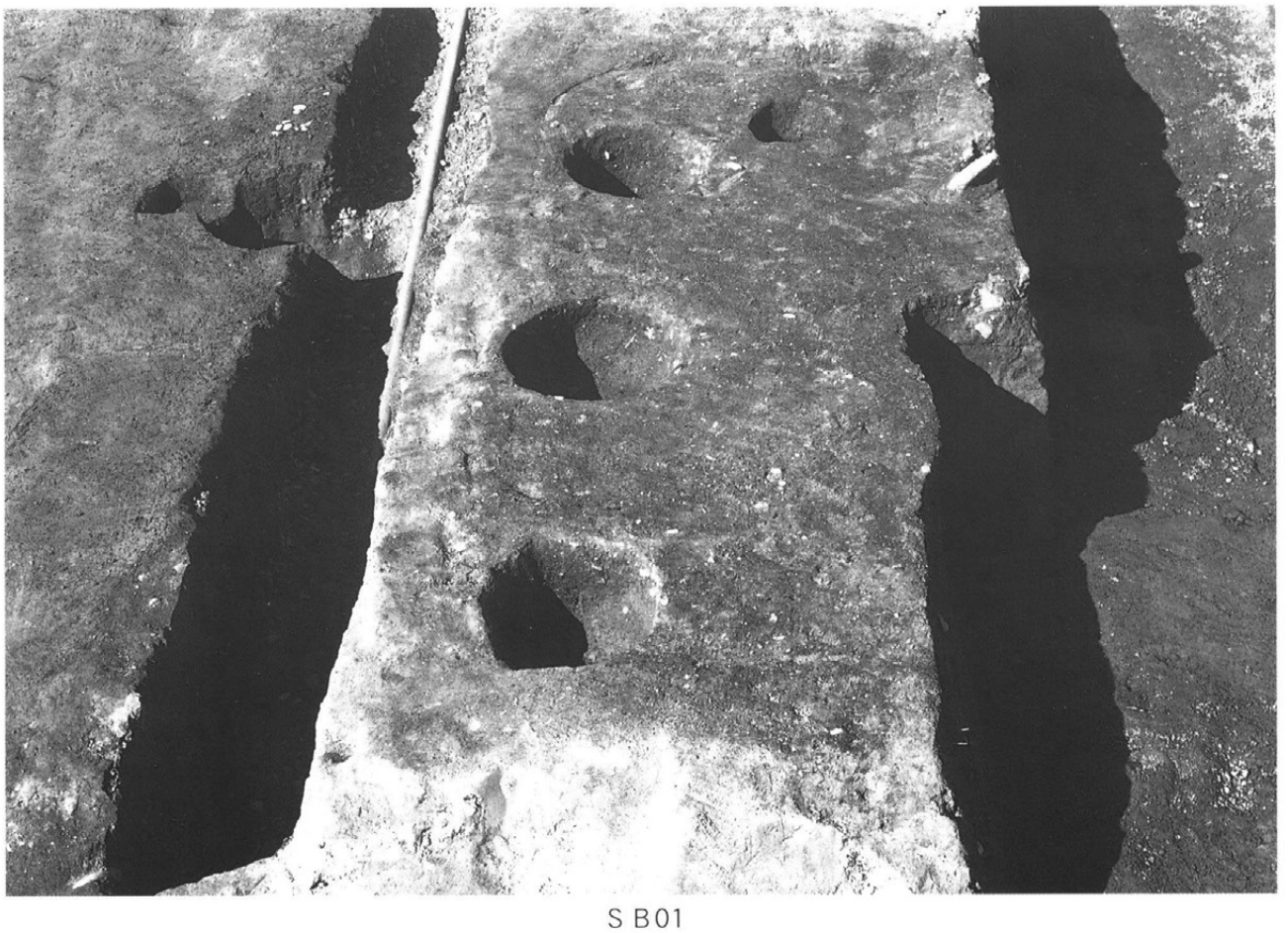
写　真　図　版

図版 1

南西側遺構分布状況

中央部遺構分布状況

北東側遺構分布状況



S B01

図版 3

S B02

S B04

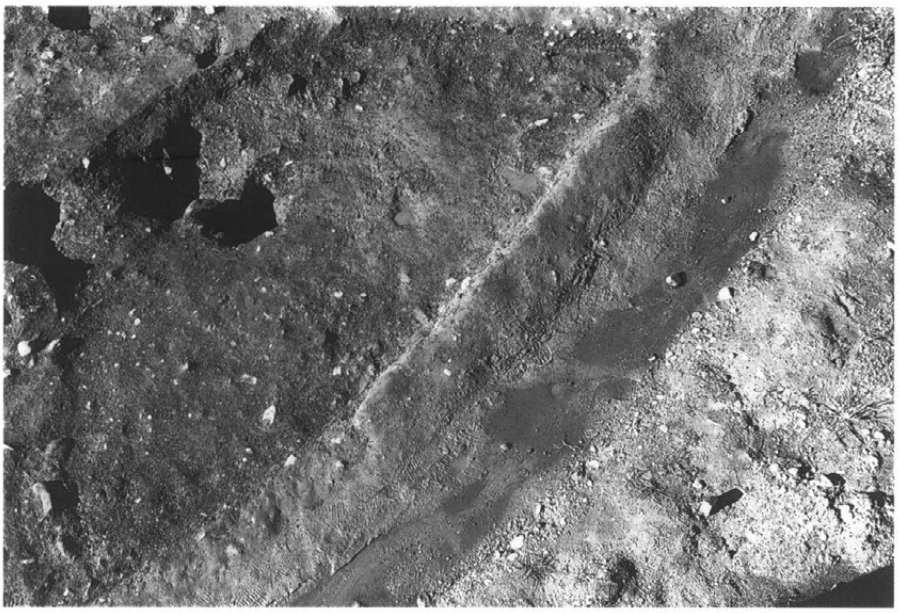
同カマド

ＳＢ05

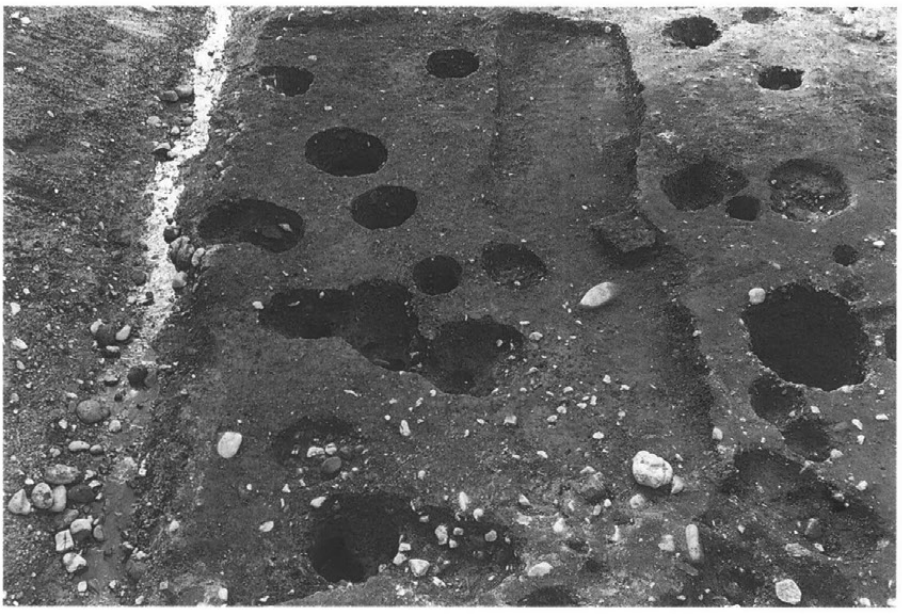
同カマド

ＳＢ06

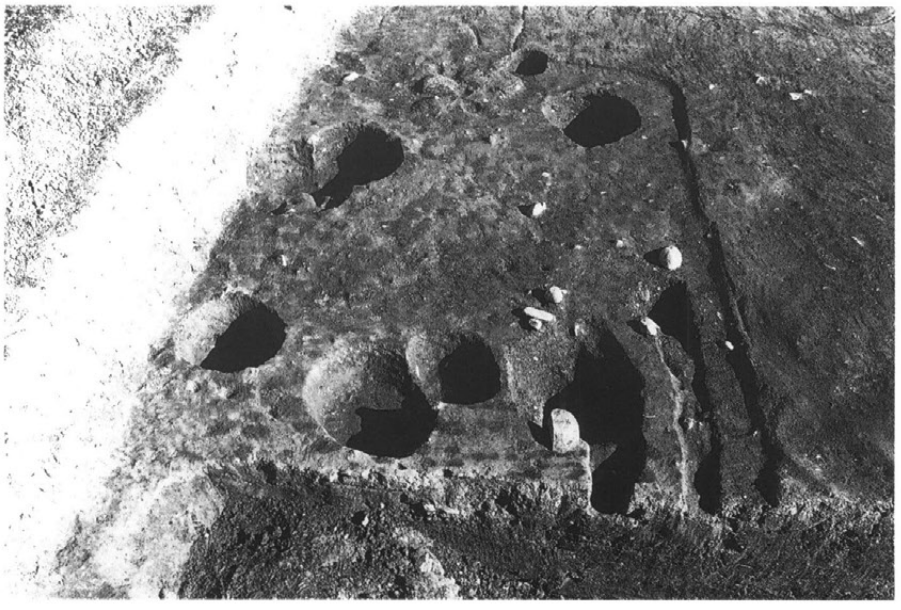
図版 5



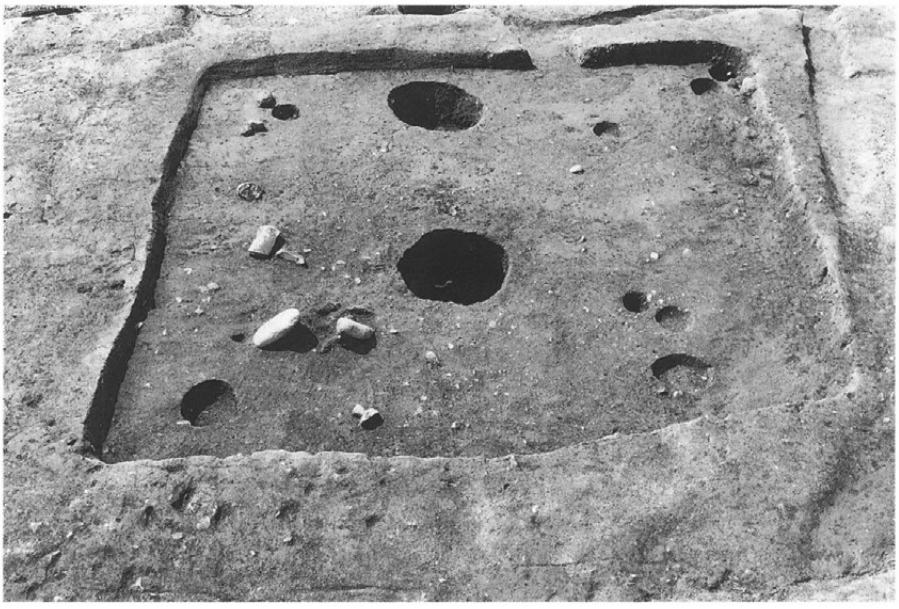
S B 28



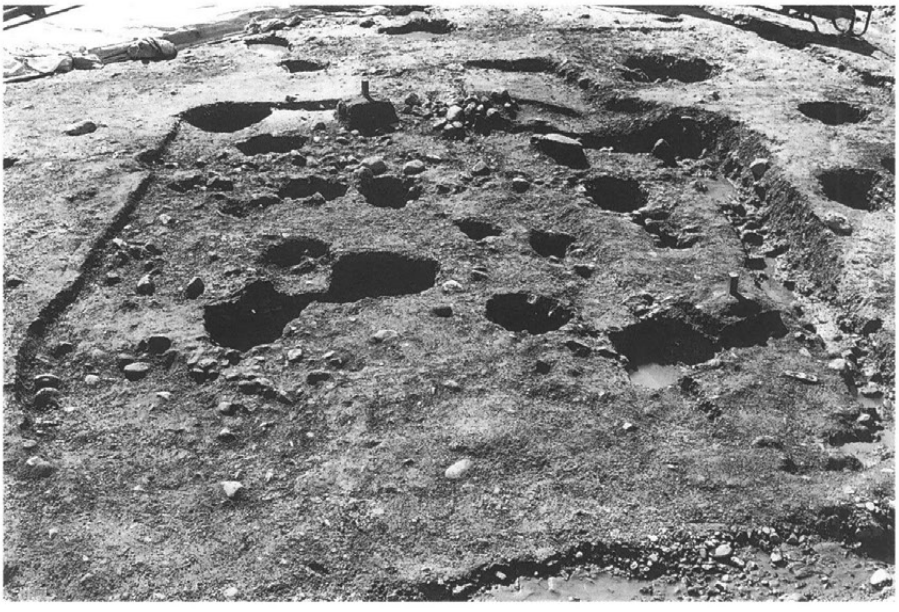
S B 32



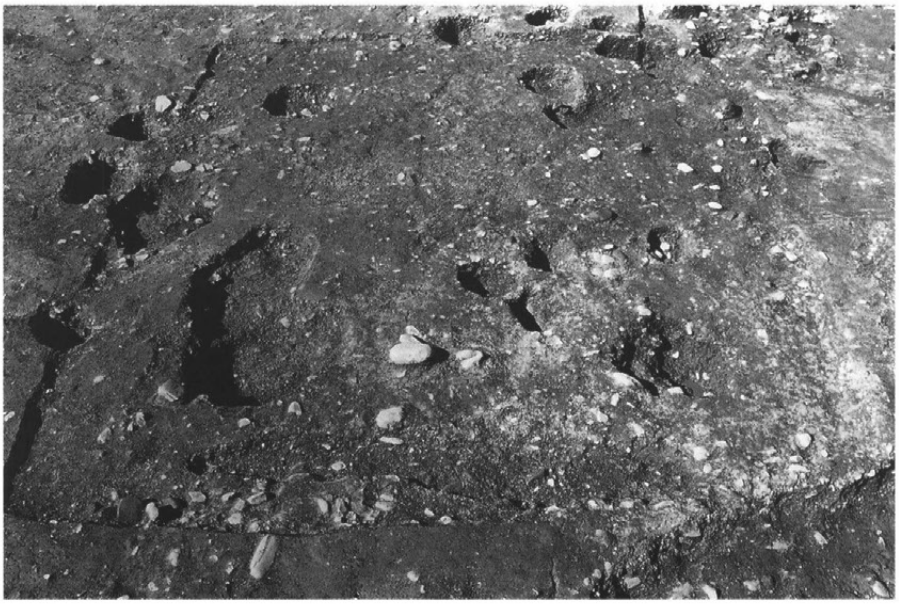
S B 03



S B 18



S B 23



S B 24

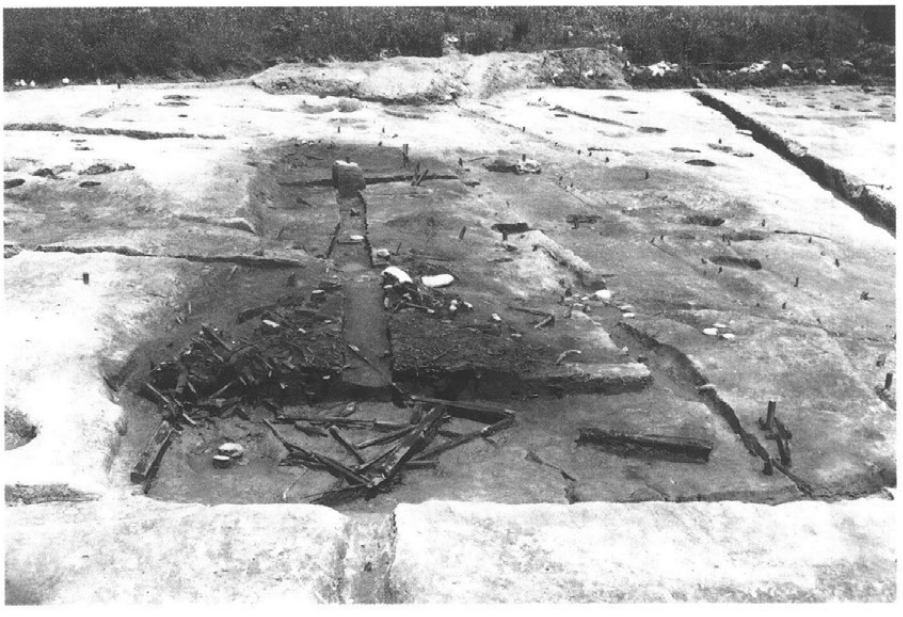
図版 7

S B 25

S B 26

S B 17

ＳＢ10

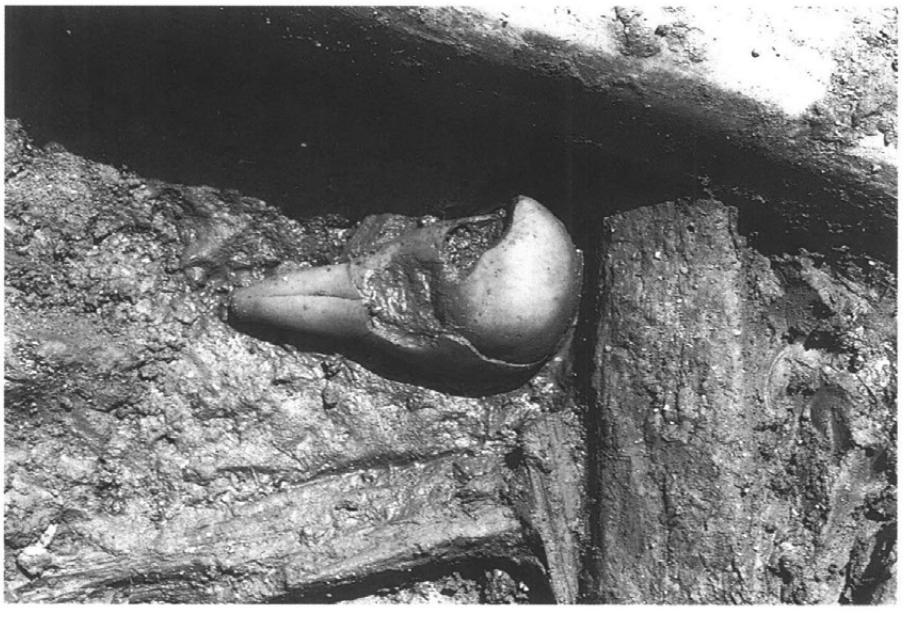


同建築部材等出土状況

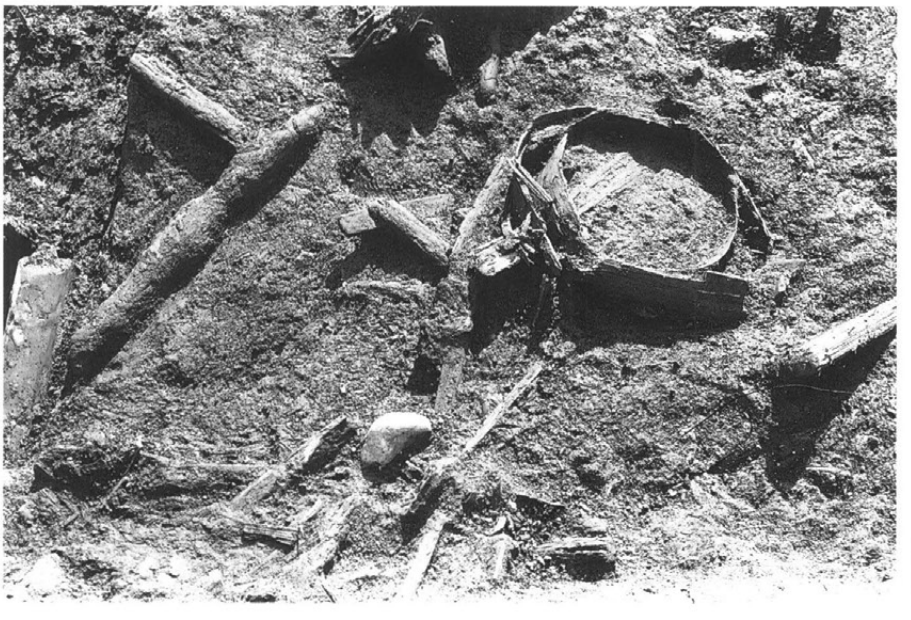
同断面

図版 9

ＳＢ10
ナスビ形又鍬出土状況



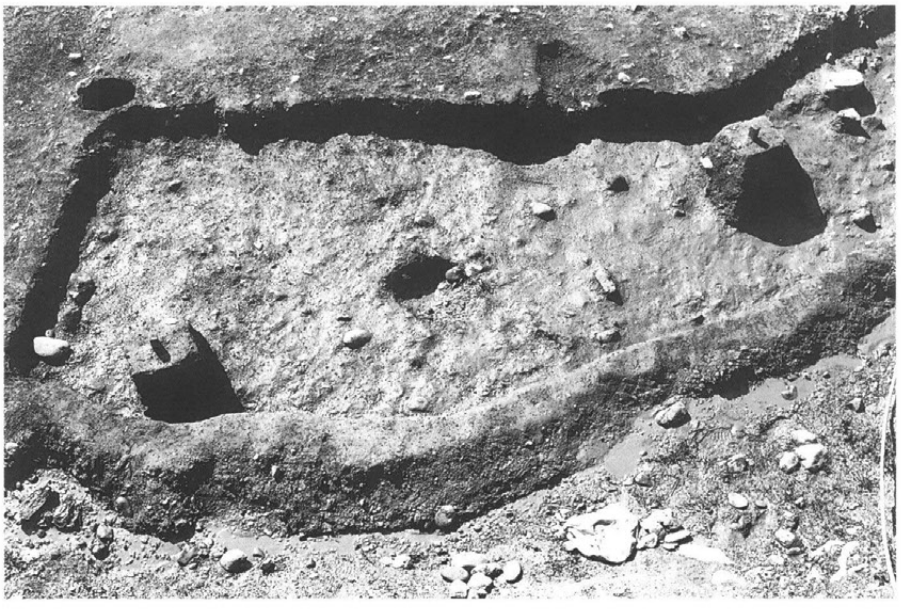
同
ヒョウタン杓子出土状況



同
曲物出土状況

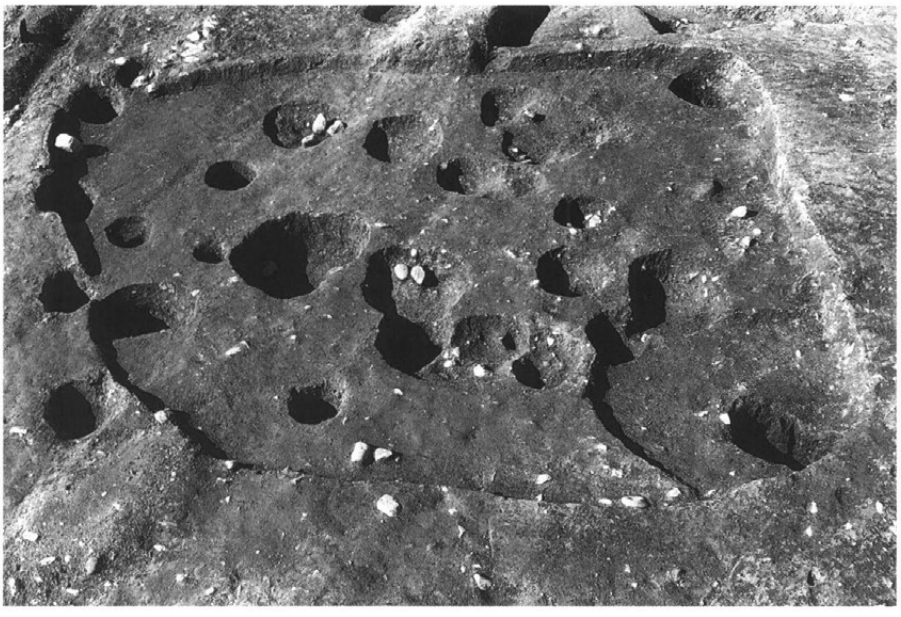
S B 16

S B 20

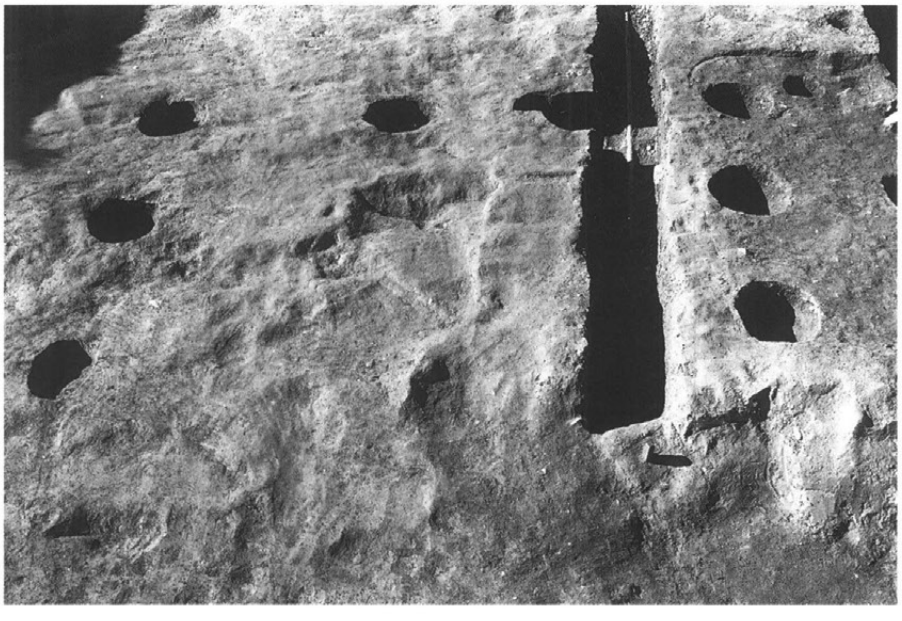


S B 21

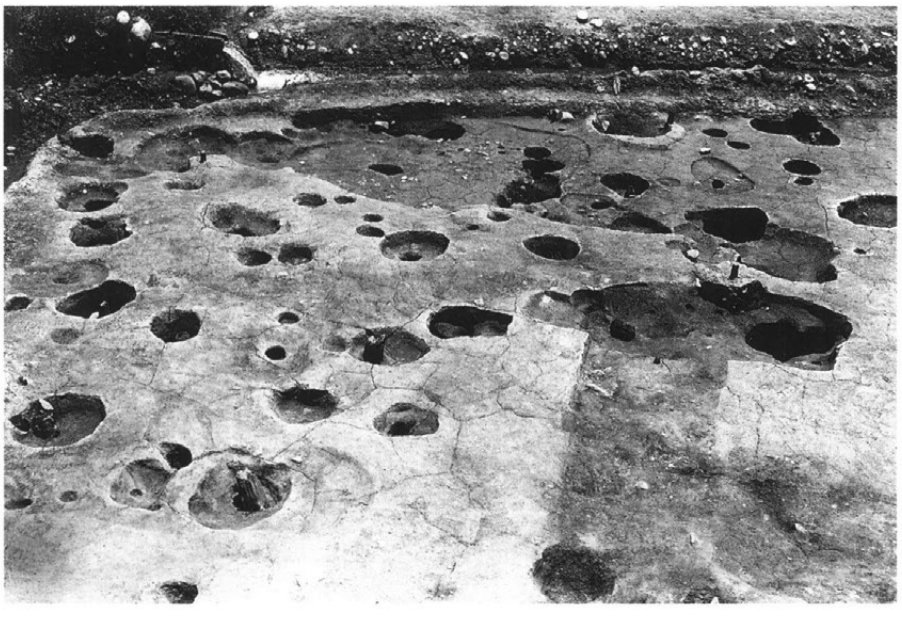
図版11



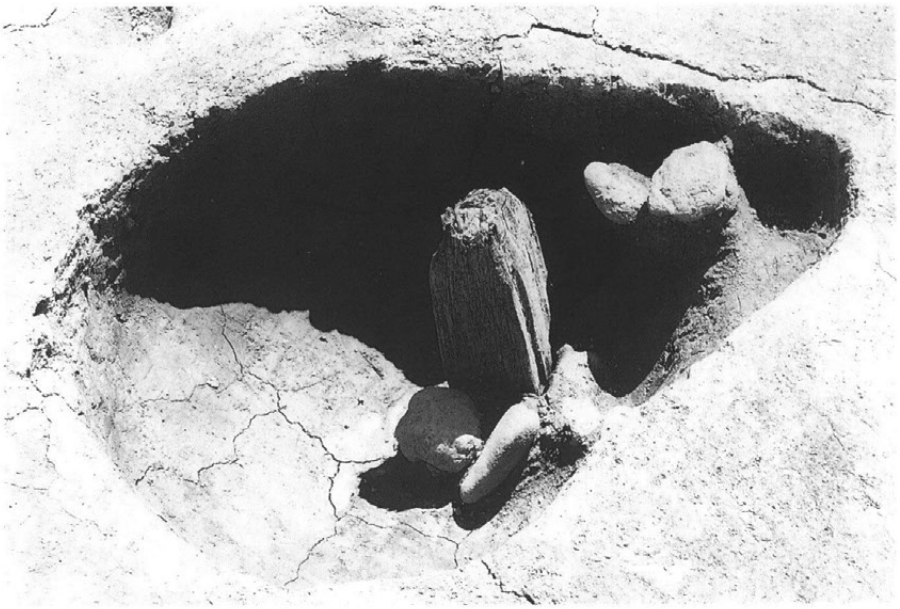
ＳＢ33



ＳＴ01



柱材遺存 柱穴群

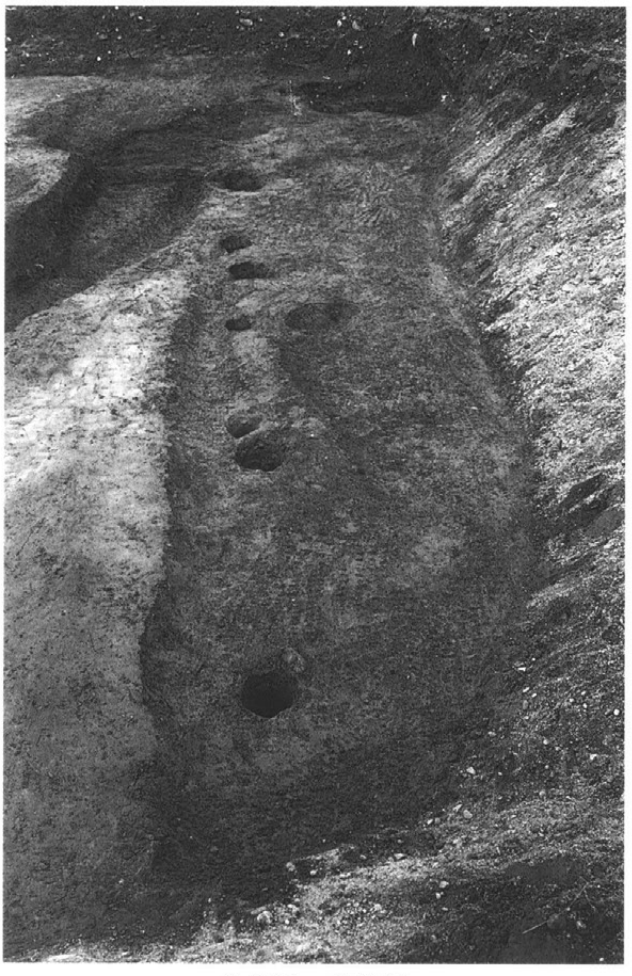


ＢＵ18Ｐ１　柱材遺存状況

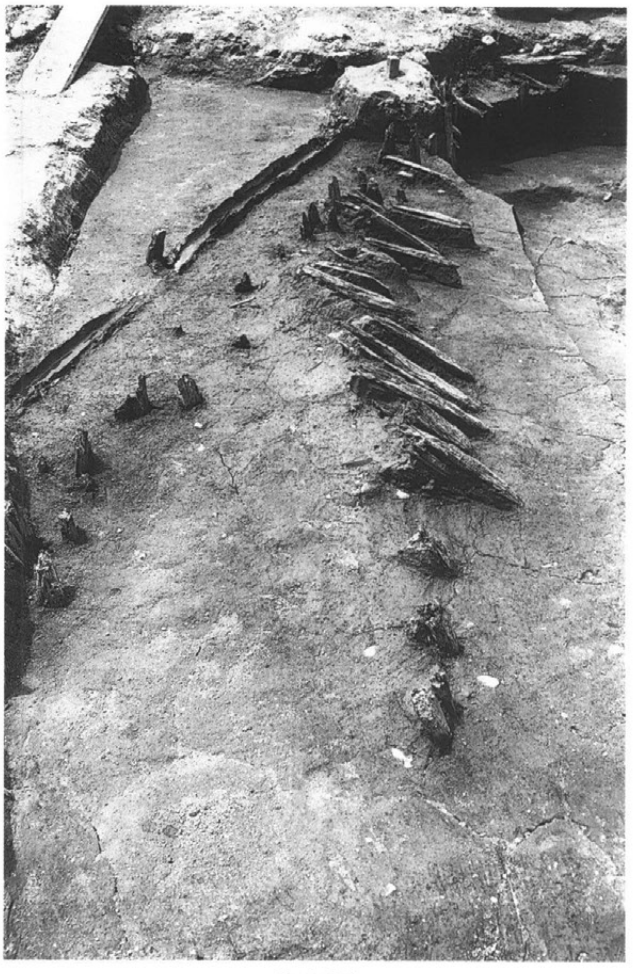
ＢＶ17Ｐ１　柱材遺存状況

ＢＶ18Ｐ１　柱材遺存状況

図版13



S A01・S X01



S A07

S K01

ＳＫ12

ＳＫ18　材検出状況

同　掘り方